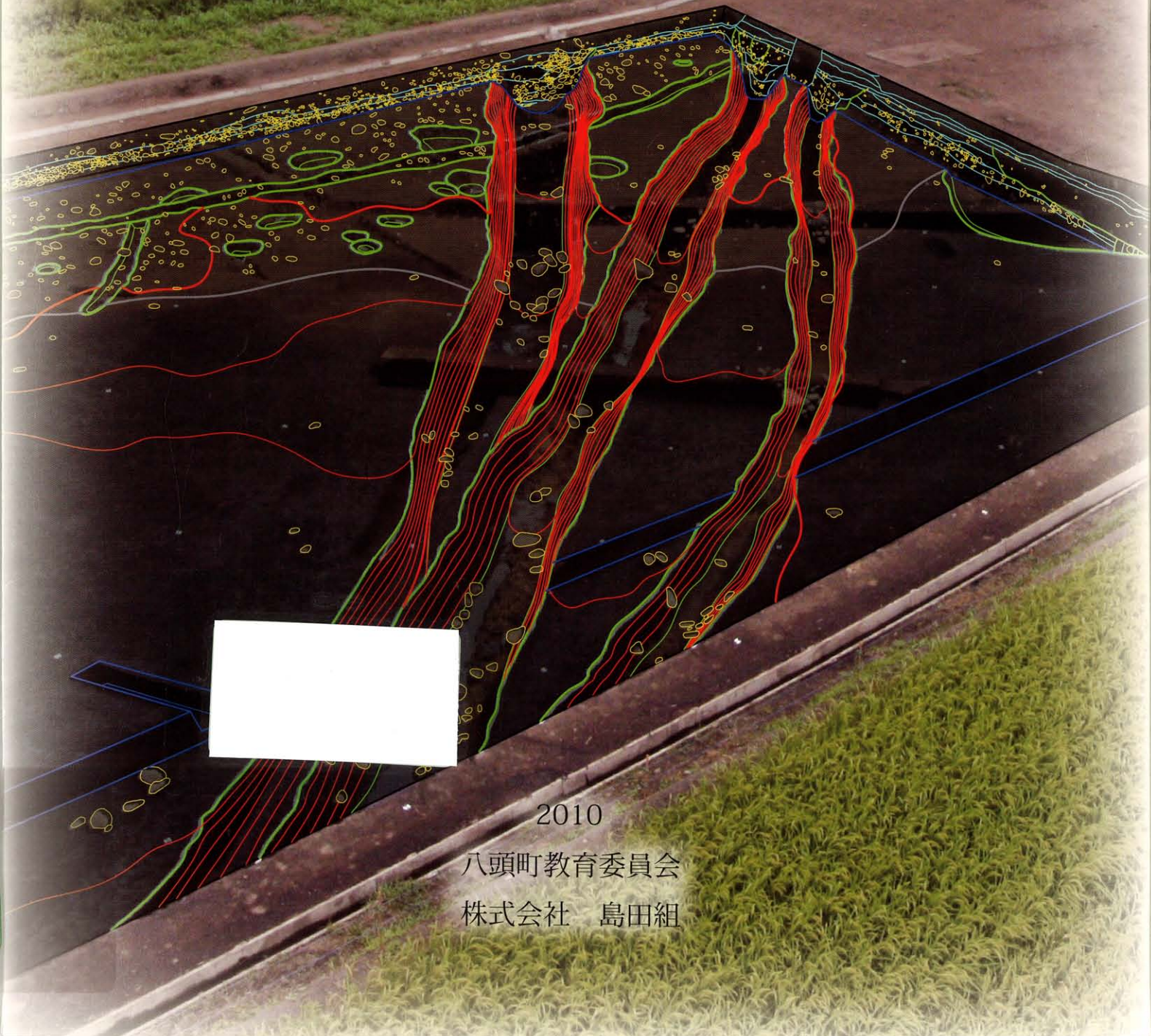


鳥取県八頭郡八頭町

奈免羅・西の前遺跡Ⅱ

—県道河原インター線道路改良工事に伴う発掘調査報告書—



2010

八頭町教育委員会
株式会社 島田組



2区 第2面全景(南東から)



3区 第2面全景(南西から)



2区 第2面全景(上が北)



3区 第2面全景(上が北)



1区 第3面完掘全景(西から)



2区 第1面SK2024蓋坏出土状況(西から)



2区 第1面SK2024出土 蓋坏



3区 第2面木棺墓群完掘(北西から)



3区 第3面西側完掘(西から)



3区 SK3055遺物出土状況(北東から)



3区 SK3055出土 水差形土器

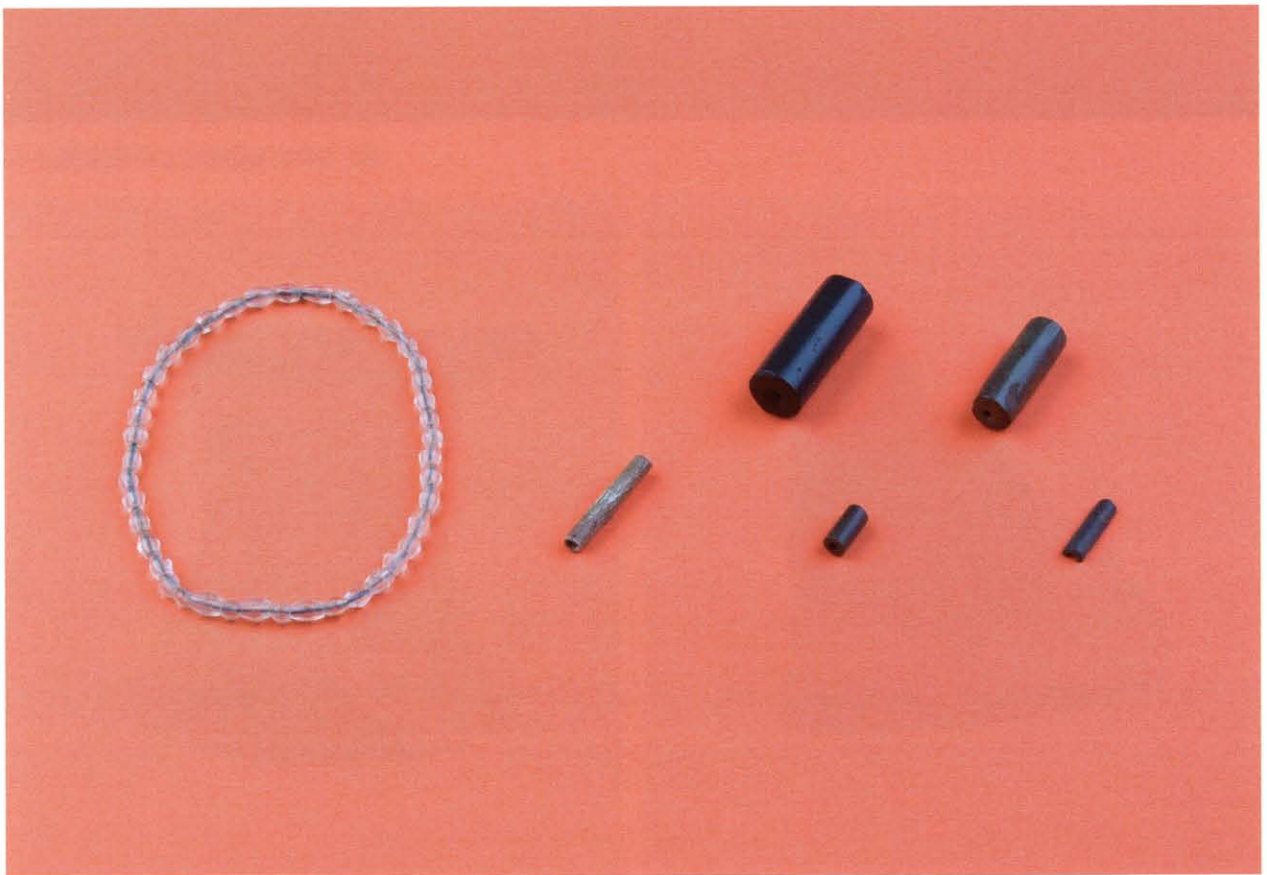


3区 SK3055出土 器台

卷頭図版6



3区 SI3012内SK3027出土 銅釧



奈免羅・西の前遺跡出土 玉類集合



3区出土 弥生時代中期土器



3区出土 石器類



2区 大溝群完掘(左からSD2014・SD2013・SD2014)(南西から)



2区 SD2014出土 弥生時代後期～終末期土器

序 文

八頭町は鳥取県の東南部に位置し、東は若桜町、西と北は鳥取市、南は智頭町と接しています。兵庫県との県境に位置する扇ノ山をはじめとした山々に囲まれており、また、八東川や私都川流域の平野部には水田や果樹園が広がるなど、古くから農林業が盛んな地域です。

当地は、法起寺式の伽藍配置を持つ国指定史跡「土師百井廃寺跡」、八上郡の郡衙跡と推定される「万代寺遺跡」、須恵器の一大生産地である「私都古窯跡群」が存在するなど考古学的に注目される地域でもあり、歴史豊かな風土と自然に恵まれた環境にあります。

この度、発掘調査を実施した「奈免羅・西の前遺跡」は、八東川下流南岸に広がる水田地帯にあり、昭和 50 年代にその存在が確認されていたものですが、鳥取自動車道のバイパス道路（県道河原インター線）の改良工事に伴い、現状での保存が困難となったため関係各機関と協議・調整を図り記録保存をすることとなったものです。

中世以降の開墾や耕作による削平で、遺構面の保存状態は必ずしも良好ではありませんでしたが、弥生時代中期の竪穴住居址、掘立柱建物、多量の土器、石器などの遺物が確認され、数多くの貴重な知見を得ることができました。

本書は、この調査結果を報告書としてまとめたものです。この報告書が郷土の歴史を理解する一助となり、また、文化財保護意識の高揚に役立つことを願うものであります。

文末ではございますが、本町の文化財保護行政におきましては、日頃より町民の皆様はもとより、多くの方々のご協力とご理解のもとに進めておりますことについて御礼申し上げますとともに、調査にあたりご指導・ご協力をいただきました鳥取県八頭総合事務所県土整備局、鳥取県教育委員会文化財課、鳥取県埋蔵文化財センターをはじめとした関係各位、地元関係者の皆様に対して深く感謝の意を表し序文とします。

平成 22 年 3 月

八頭町教育委員会
教育長 西山 淳夫

例 言

1. 本報告書は、平成 21 年度県道河原インター線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した奈免羅・西の前遺跡の発掘調査報告書である。昭和 60 年 (1985 年) に第 1 次調査が実施され、今回は第 2 次調査となるため、書名は「奈免羅・西の前遺跡Ⅱ」とする。
2. 奈免羅・西の前遺跡は、鳥取県八頭郡八頭町船岡・下濃に所在する。
3. 発掘調査の面積は、1 区 425.162㎡、2 区 1445.381㎡、3 区 4861.375㎡、合計 6731.918㎡である。
4. 調査期間は下記の通りである。

試掘調査	平成 20 年 (2008)11 月 19 日	～	平成 21 年 (2009)2 月 26 日
本格調査	平成 21 年 (2009)5 月 25 日	～	同 年 10 月 30 日
整理調査	平成 21 年 (2009)6 月 8 日	～	平成 22 年 (2010)2 月 27 日
報告書作成	平成 21 年 (2009)11 月 2 日	～	平成 22 年 (2010)3 月 31 日
5. 本遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成は、八頭町教育委員会発掘調査監視者の監督のもと、株式会社島田組が実施した。
6. 奈免羅・西の前遺跡Ⅱ出土の銅釧について、島根大学名誉教授の渡辺貞幸氏、熊本大学教授の木下尚子氏に貴重な助言をいただき、木下尚子教授には所見を作成していただいた。記して感謝いたします。
7. 出土遺物の中の弥生土器の搬入系土器について、また、弥生土器の年代観、弥生時代の集落・墓・遺物観察について、財団法人鳥取県教育文化財団調査室長の松井潔氏にご指導とご助言をいただいた。記して感謝いたします。
8. 本文の執筆は、八頭町教育委員会の野田大和、株式会社島田組の井汲隆夫、島田裕弘、浅井達也、結城香が協力しておこなった。文責者は文末に氏名を括弧内に記した。文責者の記していない箇所は、序章・第 1 章第 1 節・第 1 章第 3 節は井汲隆夫が執筆し、第 1 章第 2 節は島田裕弘が執筆した。
9. 本報告書掲載の遺物接合・復元・実測・トレースは、以下の者がおこなった。
島田裕弘、荒川和哉、角上寿行、結城 (以上、株式会社島田組)
鎌谷都々子、倉掛みどり、古泉妙子、笹岡由美、西村美恵子、野島尚子、萩原美香、藤田供子、松本幸子、山寄恵子
10. 本報告書に掲載した遺物写真は、有限会社小谷写真館に依頼し、株式会社島田組調査員の指示のもと同館のスタジオにて撮影した。
11. 自然科学分析については、パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。分析内容は、柱根の樹種同定と年代測定、出土銅釧の蛍光 X 線分析、出土石器の岩石鑑定である。
12. 発掘調査により作成された図面・写真等の記録類、及び出土遺物等は、八頭町教育委員会に保管されている。
13. 奈免羅・西の前遺跡の発掘調査及び報告書作成にあたって、多くの方々からご指導、ご協力をいただいた。感謝いたします。

凡 例

1. 遺跡の略称は「09NN」とする。遺物註記及び記録写真のフィルム註記等にはこの記号を用いた。
2. 遺構記号及び遺構性格の区分は、以下の通りである。
S I : 竪穴住居跡 S B : 掘立柱建物跡
S D : 溝・竪穴住居跡周溝・竪穴住居跡内小溝
S X : 木棺墓 S K : 土坑
P : ピット D D : 土器だまり
他は、耕作跡、石垣跡、耕作溝、耕作溝群(耕で略す)、植物痕、倒木痕、土石流跡、洪水跡、落ち込み、暗渠排水。
3. 発掘調査時においては、検出遺構は区ごとに通し番号管理し(1区:1001、1002、1003…、2区:2001、2002、2003…、3区:3001、3002、3003…)、その後、遺構性格が確定した段階で遺構性格ごとに番号をふり直した。報告書掲載の遺構番号は千の位に各区の数字を入れ、1区は1000番台、2区は2000番台、3区は3000番台で示す。
4. 本調査における測量記録は、世界測地系第V系に準拠し、方位は公共座標北を示し、高さはLで記し海拔標高である。
5. 挿図(図・遺物図)の縮尺は、図版の右下もしくは左下にスケールバーを示し、バーの上にS=で縮尺率を示した。「S=1:50」ならば50分の1の意味である。
6. 土層観察表は、層ごとに色調・土性・混入物・粘性・締り等について特記事項を記した。色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版 標準土色帖』を用いて、JIS notationと日本語の対応土色名を記した。土性については、粒土の細かいものから順に、粘土、粘土質シルト、シルト、砂質シルト、細粒砂、中粒砂、粗粒砂、礫に区分した。単に砂と表現したものは、粗粒砂・中粒砂・粗粒砂を含んでいる。粘土質シルトは、正確には“粘土を比較的多く含むシルト”、砂質シルトは“砂粒を比較的多く含むシルト”を意味する。混入物等に記された%の数値は『新版 標準土色帖』の「図1 面積割合」を参照した。
7. 基本層序の呼び方は、1区は1-1層、1-2層、1-3層…、2区は2-1層、2-2層、2-3層…、3区は3-1層、3-2層、3-3層とそれぞれ頭に区番号とハイフンを付した。ただし、各区の文章中では区番号とハイフンを略すこともある。

8. 本文中の遺構規模について、平面形の長軸と短軸、及び確認面からの深さを(長軸m×短軸m-確認面からの深さm)で表記する。
9. 遺構実測図の縮尺は、土器類(弥生土器・土師器・須恵器)が4分の1、石器・石製品は大きさに応じて3分の1、3分の2、4分の1とし、玉類と銅釦は原寸で掲載した。須恵器は断面を黒塗りし、弥生土器・土師器・玉類・銅釦は白抜きとした。
10. 石器断面の矢印が示すものは、以下のとおりである。
砥 面 : ←————→
研磨範囲 : ←·····→
敲打範囲 : ←————→
11. 報告書掲載遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・遺物写真図版と、収蔵遺物本体の註記番号に共通する。
12. 本報告書の遺構・遺物の時期比定は以下の文献を参照した。

・弥生土器の編年…清水真一 1992「因幡・伯耆」『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』正岡睦夫・松本岩雄 編 木耳社

・千代川水系の弥生土器の編年…谷口恭子他 1991「第4章第2節 遺物について」『岩吉遺跡Ⅲ』鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査団、谷口恭子 2000「因幡における弥生時代後期から庄内式併行期の土器について」『庄内式土器研究XXⅡ』庄内式土器研究会

・弥生時代後期から古墳時代前期の甕の編年…河合章行 2009「第5章第1節 弥生時代後期から古墳時代前期初頭の甕について」『鳥取県鳥取市青谷町 青谷上寺地遺跡10 第9次発掘調査報告書』鳥取県埋蔵文化財センター

本文中で用いる「弥生時代終末期」は清水 1992 のVI期にあたる。「古墳時代前期」は谷口 2000 の因幡VI-3期と因幡VII-1期を合わせた時期である。「弥生時代中期中葉」は清水 1992 のⅢ期、「弥生時代中期後葉」は清水 1992 のIV期に相当する。

目次

序文

巻頭図版

例言・凡例・目次

挿図目次・表目次・遺物図目次・遺物観察表目次・写真目次・巻頭図版目次・写真図版目次・付図目次

序章	1
第1節 地理的・歴史的環境	1
第2節 調査の経緯	4
第3節 調査経過	5
第4節 調査方法	8
第5節 調査体制	11
第1章 奈免羅・西の前遺跡Ⅱの遺構と遺物	13
概要	13
第1節 1区基本層序・遺構と遺物	13
第1項 1区基本層序	13
第2項 1区第1面～第4面の概要	14
第3項 1区遺構と遺物	17
第2節 2区遺構と遺物	24
第1項 2区基本層序	24
第2項 2区の概要	39
第3項 2区遺構と遺物	40
第3節 3区遺構と遺物	111
第1項 3区基本層序	111
第2項 3区の概要	111
第3項 3区第1面遺構と遺物	112
第4項 3区第2面遺構と遺物	124
第5項 3区第3面遺構と遺物	207
第6項 3区第4面遺構と遺物	224
第7項 3区遺構外出土石器	225
第2章 奈免羅・西の前遺跡出土遺物の自然科学分析	243
はじめに	243
第1節 P3662柱根の年代と樹種	243
第2節 銅釧の蛍光X線分析	246
第3章 総括	249
第1節 2区大溝について	249
第2節 奈免羅・西の前遺跡出土弥生土器群の様相	253
第3節 奈免羅・西の前遺跡出土石器の様相	260
第4節 奈免羅・西の前遺跡出土の銅釧	268
写真図版	
報告書抄録	

図 目 次

図 1 周辺遺跡分布図 …………… 2	図 39-2 3区基本層序 Tr.1 セクション図 …… 115
図 2 調査区及びグリッド配置図 …………… 6	図 40 SK3001・SK3002 遺構図 …………… 116
図 3 1区基本層序セクション図 …………… 15・16	図 41 3区基本層序 Tr.5 セクション図・基本層序模式図 …… 117・118
図 4 1区第1面・第2面平面図 …………… 17	図 42 3区第1面・第2面平面図 …… 119・120
図 5 1区第2面石垣平面図・立面図 …………… 17	図 43 3区第3面・第4面平面図 …… 121・122
図 6 1区第3面平面図 …………… 18	図 44 3区第1面耕作溝群平面図 …………… 123
図 7 SD1001 遺構図 …………… 19	図 45 SB3001 遺構図 …………… 125
図 8 SD1002 遺構図 …………… 20	図 46 SB3002 遺構図 …………… 126
図 9 SD1005・SK1009 遺構図 …………… 21	図 47 SB3003 遺構図・微細図 …………… 128
図 10 1区第4面平面図 …………… 22	図 48 SB3004 遺構図 …………… 130
図 11 2区断面模式図 …………… 25	図 49-1 SB3005 遺構図 …………… 131
図 12 2区 Tr.1 セクション図 …………… 27・28	図 49-2 SB3005 遺構図 …………… 132
図 13 2区 Tr.4 セクション図 …………… 29・30	図 50 SB3006 遺構図 …………… 133
図 14 2区 Tr.5・Tr.2・Tr.3 セクション図 …… 31・32	図 51 SB3007 遺構図 …………… 135
図 15 2区第1面平面図 …………… 41・42	図 52 SI3001 遺構図 …………… 138
図 16 2区耕作溝群遺構図 …………… 44	図 53-1 SI3002 遺構図 …………… 140
図 17 SK2027 遺構図 …………… 46	図 53-2 SI3002 遺構図 …………… 141
図 18 SK2024・SK2005 遺構図 …………… 48	図 54-1 SI3003 遺構図 …………… 142
図 19 SK2008・SK2026 遺構図 …………… 49	図 54-2 SI3003 遺構図 …………… 143
図 20 SK2010 遺構図 …………… 52	図 55 SI3004・SI3005 遺構図 1 …… 145・146
図 21 2区第2面平面図 …………… 57・58	図 56-1 SI3004・SI3005 遺構図 2 …… 147・148
図 22 SD2015 遺構図 …………… 59	図 56-2 SI3004・SI3005 遺構図 2 …… 149
図 23 SB2001 遺構図 …………… 62	図 57-1 SI3006 遺構図 …………… 153・154
図 24 SI2001 遺構図 1 …………… 65	図 57-2 SI3006 遺構図 …………… 155
図 25 SI2001 遺構図 2 …………… 67	図 58 SI3006 微細図 …………… 156
図 26 SK2031・SK2041 遺構図 …………… 70	図 59-1 SI3008 遺構図 …………… 158
図 27 SK2040 遺構図 …………… 73	図 59-2 SI3008 遺構図 …………… 159
図 28 土器だまり 2001・2002 微細図 …… 75	図 60 SI3008 微細図 …………… 160
図 29-1 SD2012・SD2013・SD2014 セクション図 …… 80	図 61 SI3007 遺構図 1 …………… 165・166
図 29-2 SD2012・SD2013・SD2014 セクション図 …… 81	図 62 SI3007 遺構図 2 …………… 167・168
図 30 SD2012 遺構図 …………… 82	図 63 SI3009 遺構図 …………… 169
図 31 SD2012 微細図 …………… 83	図 64 SI3009 微細図 …………… 170
図 32 SD2013 遺構図 …………… 87	図 65-1 SI3010 遺構図 …………… 172
図 33 SD2014 遺構図 …………… 91	図 65-2 SI3010 遺構図 …………… 173
図 34 SD2014 微細図 1 …………… 93	図 66-1 SI3011 遺構図 …………… 174
図 35 SD2014 微細図 2 …………… 94	図 66-2 SI3011 遺構図 …………… 175
図 36 SD2014 微細図 3 …………… 95	図 67-1 SI3012 遺構図 …………… 176
図 37 SD2014 微細図 4 …………… 96	図 67-2 SI3012 遺構図 …………… 177
図 38 2区第3面平面図 …………… 107・108	図 68 SX3001・SX3002・SX3003 遺構図 …… 180
図 39-1 3区基本層序 Tr.1 セクション図 …… 113・114	図 69 SX3004 遺構図 …………… 183

図 70	SK3003 遺構図・微細図	184	図 88	SB3013 柱穴の新旧振り替わり	210
図 71	SK3007・SK3008 微細図	186	図 89	SB3013 遺構図 1	211・212
図 72	SK3009・SK3010 遺構図	188	図 90	SB3013 遺構図 2	213・214
図 73	SK3013 遺構図	189	図 91	SB3014 遺構図	217・218
図 74	SK3013 微細図	191	図 92-1	SI3015 遺物図	220
図 75	SK3020 遺構図	192	図 92-2	SB3015 遺構図	221・222
図 76	SK3020 微細図	194	図 93	P3662 遺構図	223
図 77	SK3039 遺構図	195	図 94	3区 Tr.6・Tr.8 セクション図	224
図 78	SK3042・SK3044 遺構図	196	図 95	3区 暗褐色砂層範囲	225
図 79	SK3045 遺構図	197	図 96	3区 明黄褐色砂層・黄灰色砂層範囲	225
図 80	SK3046 遺構図	198	図 97	木材	245
図 81	SK3047 遺構図	199	図 98	有鈎銅釧の元素マッピング図	247
図 82	SK3048 遺構図	200	図 99	ポイント分析スペクトル図	247
図 83	SK3049 遺構図	201	図 100	大溝比較図	250
図 84	SK3053 遺構図	202	図 101	時代別主要土器一覧図	257・258
図 85	SK3055 遺構図	203	図 102	岩石・石器内訳表及び調査地周辺地質図	261
図 86	SK3056 遺構図	205	図 103	有鈎銅釧出土位置図	271
図 87	SB3008 遺構図	208	図 104	貝輪系銅釧の変容	273

表 目 次

表 1	発掘調査工程表	5	表 17	3区 遺構一覧表 8	237
表 2	1区 遺構一覧表	23	表 18	3区 遺構一覧表 9	238
表 3	2区 2-7層(第7層)出土土器分析表	33	表 19	3区 遺構一覧表 10	239
表 4	SK2010 遺物構成表	53	表 20	3区 遺構一覧表 11	240
表 5	SD2015 検出面・底部レベル推移表	61	表 21	3区 遺構一覧表 12	241
表 6	2区 SB2001 ピット残存率分析表	63	表 22	3区 遺構一覧表 13	242
表 7	2区 遺構一覧表 1	109	表 23	放射線炭素年代測定および暦年較正結果	244
表 8	2区 遺構一覧表 2	110	表 24	半定量分析結果	248
表 9	3区 竪穴住居跡一覧表	136	表 25	掲載遺物内訳表	253
表 10	3区 遺構一覧表 1	230	表 26	出土石器類一覧表 1	263
表 11	3区 遺構一覧表 2	231	表 27	出土石器類一覧表 2	264
表 12	3区 遺構一覧表 3	232	表 28	出土石器類一覧表 3	265
表 13	3区 遺構一覧表 4	233	表 29	全国有鈎銅釧一覧表	270
表 14	3区 遺構一覧表 5	234	表 30	九州弥生文化の貝輪分類	272
表 15	3区 遺構一覧表 6	235	表 31	「材質転換」する貝輪の系譜	274
表 16	3区 遺構一覧表 7	236			

遺物図目次

遺物図 1	SD1001 出土遺物	18	遺物図 20	SI3003 出土遺物	143
遺物図 2	1区 抽出遺構外出土遺物	23	遺物図 21	SI3005 出土遺物	150
遺物図 3	2区 第6層・第7層出土遺物	34	遺物図 22	SI3006 出土遺物	157
遺物図 4	2区 第5層・第8層出土遺物	36	遺物図 23	SI3008 出土遺物	161
遺物図 5	SK2027 出土遺物	47	遺物図 24	SI3007 出土遺物	164
遺物図 6	SK2024 出土遺物	48	遺物図 25	SI3009 出土遺物	170
遺物図 7	SK2005・SK2006・SK2026 出土遺物	50	遺物図 26	SI3011 出土遺物	175
遺物図 8	SK2010 出土遺物	54	遺物図 27	SI3012 出土遺物	176
遺物図 9	SD2015 出土遺物	60	遺物図 28	SX3003 出土遺物	181
遺物図 10	SI2001 内土器だまり 2003 出土遺物	68	遺物図 29	SK3003 出土遺物	185
遺物図 11	SK2031 出土遺物	69	遺物図 30	SK3007 出土遺物	185
遺物図 12	SK2040 出土遺物	73	遺物図 31	SK3013 出土遺物	190
遺物図 13	土器だまり 2001 出土遺物	76	遺物図 32	SK3020 出土遺物	193
遺物図 14	土器だまり 2002 出土遺物	77	遺物図 33	SK3047 出土遺物	199
遺物図 15	SD2012 出土遺物	84	遺物図 34	SK3055 出土遺物	204
遺物図 16	SD2013 出土遺物	88	遺物図 35	SK3056 出土遺物	206
遺物図 17-1	SD2014 出土遺物	98	遺物図 36	SI3013 出土遺物	209
遺物図 17-2	SD2014 出土遺物	100	遺物図 37	SI3014 出土遺物	216
遺物図 17-3	SD2014 出土遺物	102	遺物図 38	SI3015 出土遺物	219
遺物図 17-4	SD2014 出土遺物	104	遺物図 39	3区 暗褐色砂層出土遺物	226
遺物図 18	SB3003 内 P3079 出土遺物	129	遺物図 40	3区 暗褐色砂層出土遺物	228
遺物図 19	SI3001 出土遺物	137	遺物図 41	3区 攪乱・旧耕作土出土遺物	229

遺物観察表目次

遺物観察表 1	18	遺物観察表 16	89
遺物観察表 2	23	遺物観察表 17-1	99
遺物観察表 3	35	遺物観察表 17-2	101
遺物観察表 4	36	遺物観察表 17-3	103
遺物観察表 5	47	遺物観察表 17-4	104
遺物観察表 6	48	遺物観察表 18	129
遺物観察表 7	50	遺物観察表 19	137
遺物観察表 8	54	遺物観察表 20	143
遺物観察表 9	60	遺物観察表 21	150
遺物観察表 10	68	遺物観察表 22	157
遺物観察表 11	69	遺物観察表 23	162
遺物観察表 12	73	遺物観察表 24	164
遺物観察表 13	76	遺物観察表 25	170
遺物観察表 14	77	遺物観察表 26	175
遺物観察表 15	85	遺物観察表 27	176

遺物観察表 28	182	遺物観察表 36	209
遺物観察表 29	185	遺物観察表 37	216
遺物観察表 30	185	遺物観察表 38	219
遺物観察表 31	190	遺物観察表 39	227
遺物観察表 32	193	遺物観察表 40	227
遺物観察表 33	199	遺物観察表 41-1	228
遺物観察表 34	204	遺物観察表 41-2	229
遺物観察表 35	206		

写真目次

写真1 八頭町文化財保護審議会委員視察	7	写真10 発掘調査参加者集合	11
写真2 現地説明会	7	写真11 2区大溝冠水	79
写真3 発掘速報展	8	写真12 SD2014 セクションa	97
写真4 3区表土剥ぎ	8	写真13 SD2014 出土礫	97
写真5 1区平面精査	9	写真14 2区Tr.10掘削	106
写真6 2区大溝掘削	9	写真15 2区調査終了	106
写真7 1区平面測量	10	写真16 SI3005 出土土製品	151
写真8 洗浄遺物の乾燥	10	写真17 SI3006内SK3012出土石鏃(181)接合資料	152
写真9 遺物実測	11		

巻頭図版目次

巻頭図版1 2区第2面全景		巻頭図版5 3区SK3055遺物出土状況	
3区第2面全景		3区SK3055出土水差形土器	
巻頭図版2 2区第2面全景		3区SK3055出土器台	
3区第2面全景		巻頭図版6 3区SI3012内SK3027出土銅釧	
巻頭図版3 1区第3面完掘全景		奈免羅・西の前遺跡出土玉類集合	
2区第1面SK2024蓋坏出土状況		写真図版7 3区出土弥生時代中期土器	
2区第1面SK2024出土蓋坏		3区出土石器類	
巻頭図版4 3区第2面木棺墓群完掘		巻頭図版8 2区大溝群完掘	
3区第3面西側完掘		2区SD2014出土弥生時代後期～終末期土器	

写真図版目次

写真図版1 1区第1面・第2面・第3面		写真図版8 2区第1面	
写真図版2 1区第3面		写真図版9 2区第2面	
写真図版3 1区第4面		写真図版10 2区第2面	
写真図版4 2区基本層序		写真図版11 2区第2面	
写真図版5 2区基本層序		写真図版12 2区第2面	
写真図版6 2区第1面		写真図版13 2区第2面	
写真図版7 2区第1面		写真図版14 2区第2面	

写真図版 15	2区 第2面	写真図版 46	1区・2区 出土遺物
写真図版 16	2区 第2面	写真図版 47	2区 出土遺物
写真図版 17	2区 第2面	写真図版 48	2区 出土遺物
写真図版 18	2区 第2面	写真図版 49	2区 出土遺物
写真図版 19	2区 第2面	写真図版 50	2区 出土遺物
写真図版 20	2区 第2面	写真図版 51	2区 出土遺物
写真図版 21	2区 第2面	写真図版 52	2区 出土遺物
写真図版 22	2区 第2面	写真図版 53	2区 出土遺物
写真図版 23	2区 第2面	写真図版 54	2区 出土遺物
写真図版 24	2区 第2面	写真図版 55	2区 出土遺物
写真図版 25	2区 第3面	写真図版 56	2区 出土遺物
写真図版 26	3区 基本層序・第1面	写真図版 57	2区 出土遺物
写真図版 27	3区 第1面 石器類	写真図版 58	2区 出土遺物
写真図版 28	3区 第1面・第2面	写真図版 59	2区 出土遺物
写真図版 29	3区 第2面	写真図版 60	2区 出土遺物
写真図版 30	3区 第2面	写真図版 61	2区 出土遺物
写真図版 31	3区 第2面	写真図版 62	2区 出土遺物
写真図版 32	3区 第2面	写真図版 63	2区 出土遺物
写真図版 33	3区 第2面	写真図版 64	2区 出土遺物
写真図版 34	3区 第2面	写真図版 65	3区 出土遺物
写真図版 35	3区 第2面	写真図版 66	3区 出土遺物
写真図版 36	3区 第2面・第3面	写真図版 67	3区 出土遺物
写真図版 37	3区 第2面	写真図版 68	3区 出土遺物
写真図版 38	3区 第2面	写真図版 69	3区 出土遺物
写真図版 39	3区 第2面	写真図版 70	3区 出土遺物
写真図版 40	3区 第2面	写真図版 71	3区 出土遺物
写真図版 41	3区 第3面	写真図版 72	3区 出土遺物
写真図版 42	3区 第3面	写真図版 73	3区 出土遺物
写真図版 43	3区 第3面	写真図版 74	3区 出土遺物
写真図版 44	3区 第3面	写真図版 75	3区 出土遺物
写真図版 45	3区 第4面	写真図版 76	3区 出土遺物

付 図 目 次

- 付図 1 奈免羅・西の前遺跡Ⅱ 3区 第1面・第2面遺構配置図
 付図 2 奈免羅・西の前遺跡Ⅱ 3区 第3面・第4面遺構配置図

序 章

第 1 節 地理的・歴史的環境

地 理 鳥取県八頭郡八頭町は、県の東部に位置し、平成 17 年(2005)3 月に郡家町、船岡町、八東町が合併して誕生した。八頭町は西条柿、花御所柿、二十世紀梨、りんご、ぶどう等の栽培が盛んな「フルーツ王国」として全国に名を知られ、風雪厳しい山陰地方の中にあつて、比較的気候が穏やかで良水にも恵まれ、古から多くの人々が住まう生活拠点であつた。町内の東から西へと清流を伝える八東川は、鳥取県最大河川の千代川の支流のうち最も大きなもので、鳥取・兵庫県境の戸倉峠西側に源を發し、加地川と春米川を合わせ、若桜町を貫いて八頭町へ至る。八頭町内ではさらに細見川、大江川、私都川等が合流し、隣接する鳥取市で千代川へ流れ込む。

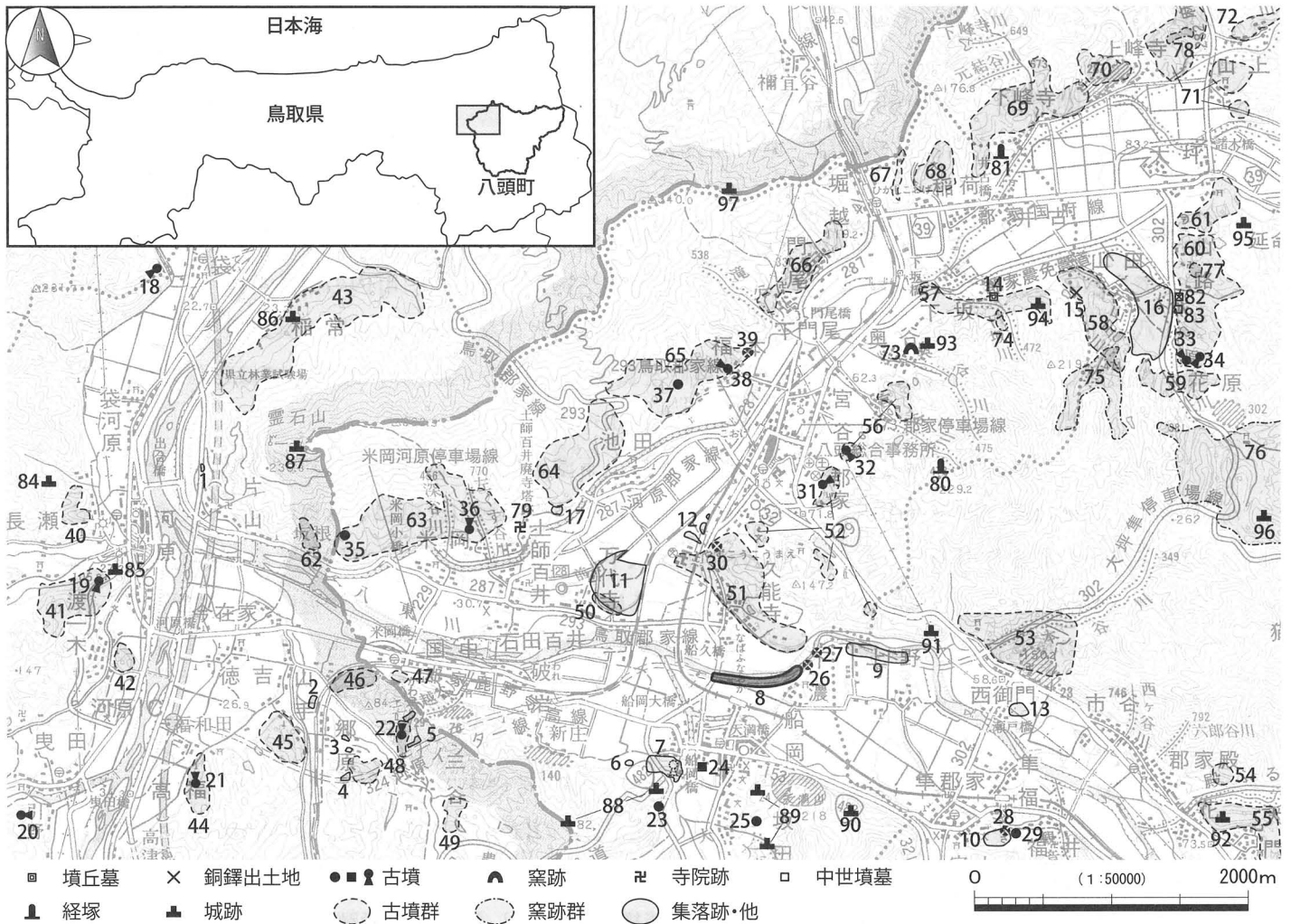
奈免羅・西の前遺跡の所在する八東川南岸の船岡、下濃の地は、穏やかな傾斜の河岸段丘を形成しており、現在は風光明媚な田園地帯が広がっている。多数の小河川を束ねる八東川は大雨のたびに氾濫に見舞われてきた川であるが、当遺跡の弥生時代中期の集落跡はこの八東川のすぐ南岸にあり、当時の河道ラインが現在と異なっていた可能性があるにしても、あまりにも川に近い。今次調査で、弥生時代中期の集落跡と墓域、竪穴住居跡内出土の銅釧、弥生時代終末期から古墳時代初頭の大型の溝群等が検出されたことは、逆に、八頭町の本格的弥生集落の形成は八東川と密接に関わっていたとみるべきかもしれない。

縄文時代 町内には縄文時代の遺跡は概して少ないが、その中で八東川の北岸にある西御門遺跡(13)は、磨消縄文(福田 K II 式平行、津雲 A・平城式並行)のほか縄文時代後期の深鉢を中心に、石匙・石錘・打製石斧が出土しており、貴重な例となっている。また、この西御門遺跡から川沿いの下流域、八東川と私都川に挟まれた丘陵上には後期の磨消縄文が出土した万代寺遺跡(11)があり、さらに鳥取市河原町の前田遺跡(2)からは福田 K II 式と思われる後期の土器が出土している。

弥生時代 町内では弥生時代前期に比定できる遺構・遺物は、現在のところ確認されておらず、中期以降になって出土例が増加する。弥生時代中期の遺跡として、私都川左岸では、スタンプ文の施された弥生土器の出土した山田遺跡(16)、前述の万代寺遺跡からは竪穴住居跡 2 棟と木棺墓群が確認されている。さらに、万代寺遺跡と八東川を隔てた緩傾斜地には竪穴住居跡 1 棟が検出された丸山遺跡(7)があり、奈免羅・西の前遺跡もこれらの遺跡との同時性が想定できる。中期以降の遺跡としては、西ノ岡遺跡(10)、牧野遺跡、万代寺遺跡、奈免羅・西の前遺跡及び同遺跡の東側に土器散布がみられる上野遺跡(9)があり、当該地域の弥生期の集落の範囲はさらに拡大すると思われる。これより上流域では、若桜鉄道丹比駅周辺で後期と思われる土器が採取されている。

千代川流域の弥生時代中期以降の遺跡は顕著で、河口付近には豊富な木製品が出土した港湾都市・青谷上寺地遺跡がある。千代川から八東川流域にかけて出土する弥生時代中期～終末期の土器には類似性が強く、いわゆる山陰系土器の中心地の一つとなっている。奈免羅・西の前遺跡の位置する船岡の地名は江戸時代の船着き場に由来するとされ、これらの地域が船によってつながっていたことも想定できる。

また、八頭町内では銅鐸の出土が 2 例知られており、一つは下坂銅鐸出土地(15)で弥生時代中期の四区画袈裟襷文銅鐸が出土し鳥取県立博物館が所蔵している。もう一つは、破岩から出土したと伝えられるもので、江戸時代に安部恭庵によって書かれた『因幡志』に掲載されている図面から推定す



- | | | | |
|------------------|-------------------|------------|--------------|
| 1 片山遺跡 | 28 西ノ岡古墳 | 55 大門古墳群 | 82 山路1号墓 |
| 2 前田遺跡 | 29 福井1号墳 | 56 宮谷古墳群 | 83 山路2号墓 |
| 3 郷原遺跡 | 30 久能寺25号墳(御建山古墳) | 57 下坂古墳群 | 84 長瀬城跡 |
| 4 郷原地才I下平遺跡 | 31 郡家3号墳(寺山古墳) | 58 山田古墳群 | 85 谷一木丸山城跡 |
| 5 三谷国ヶ谷遺跡 | 32 宮谷1号墳 | 59 花原古墳群 | 86 稻常城跡 |
| 6 新部庄口下分遺跡 | 33 山路1号墳 | 60 山路古墳群 | 87 最勝寺山城跡 |
| 7 丸山遺跡 | 34 山路3号墳 | 61 大坪古墳群 | 88 丸山城跡 |
| 8 奈免羅・西の前遺跡 | 35 米岡2号墳 | 62 片山古墳群 | 89 坂田大谷平所在城跡 |
| 9 上野遺跡 | 36 米岡48号墳 | 63 米岡古墳群 | 90 郡家大平所在城跡 |
| 10 西ノ岡遺跡 | 37 福本42号墳(大塚古墳) | 64 池田古墳群 | 91 シガ城跡 |
| 11 万代寺遺跡 | 38 福本67号墳 | 65 福本古墳群 | 92 後山城跡 |
| 12 久能寺狐塚遺跡 | 39 福本70号墳 | 66 門尾古墳群 | 93 比丘尼城跡 |
| 13 西御門遺跡 | 40 長瀬古墳群 | 67 堀越古墳群 | 94 下坂城跡 |
| 14 下坂1号墓 | 41 谷一木古墳群 | 68 稻荷古墳群 | 95 鷺ヶ城跡 |
| 15 下坂銅鐸出土地 | 42 渡一木古墳群 | 69 下峰寺古墳群 | 96 花原所在城跡 |
| 16 山田遺跡 | 43 稻常古墳群 | 70 上峰寺古墳群 | 97 中山城跡 |
| 17 天寺遺跡 | 44 高福古墳群 | 71 山ノ上古墳群 | |
| 18 布袋1号墳 | 45 山手古墳群 | 72 奥山ノ上古墳群 | |
| 19 谷一木1号墳(天坪山古墳) | 46 加々瀬古墳群 | 73 奥谷窯跡 | |
| 20 八上1号墳(嶽古墳) | 47 宮岡古墳群 | 74 下坂古窯跡群 | |
| 21 高福1号墳 | 48 郷原古墳群 | 75 山田古窯跡群 | |
| 22 郷原7号墳 | 49 三谷古墳群 | 76 花原古窯跡群 | |
| 23 神明古墳 | 50 万代寺古墳群 | 77 山路古窯跡群 | |
| 24 下荒神古墳 | 51 久能寺古墳群 | 78 山ノ上古窯跡群 | |
| 25 大谷平古墳 | 52 郡家古墳群 | 79 土師百井廢寺跡 | |
| 26 奈免羅古墳 | 53 西御門古墳群 | 80 京が塚経塚 | |
| 27 梨ノ木古墳 | 54 殿古墳群 | 81 下峰寺経塚群 | |

図1 周辺遺跡分布図

ると、弥生時代中期後葉頃の高さ 70cm 程度の突線紐式袈裟禪文銅鐸の可能性が高いが、現存していないため詳細は不明である。このほか、弥生時代後期の墳丘墓が、市場、下坂で確認されている。

古墳時代 古墳時代前期に比定される遺跡は町内ではほとんど確認されていないが、重枝で採土時に 4 世紀代の方格規矩鳥紋鏡が出土していることと山田遺跡で比較的古式の土師器の散布がみられる程度である。中期以降では、山ノ上 32 号墳が 5 世紀中葉から後葉の築造で比較的早く、周溝内から供献土器と考えられる初期須恵器の樽型甕が砕けた状態で出土している。三角文と波状沈線を陰刻した精緻なものである。また、奈免羅・西の前遺跡に程近い万代寺遺跡に向かってのびる丘陵上には、埴輪の冨曉が確認された久能寺 25 号墳〈御建山古墳〉が知られ、径約 25m、高さ約 3.3m の規模であったとされるが、現在は消滅しているので内部構造も含めて詳細は不明である。5 世紀末から 6 世紀初頭にかけての築造で、家形・人物・動物などの形象埴輪と、底部調整を施していない円筒埴輪が確認されており、当該地周辺的首長墳と位置づけられる。このほか、大江川右岸の丘陵上にある下荒神古墳 (24) は 29m × 27m の方墳で、鏡、鉄刀等が出土しており、築造時期は不明であるが墳丘の状況などからやや古い印象を受ける。

古墳時代後期には、私都川、八東川流域に多数の群集墳が造営され、古墳の総数は 500 基以上に及ぶ。その分布は、八東川上流域の若桜町との町境に近い日田集落から下流の山裾部に数十基が認められるほかは、概ね私都川流域、特に右岸の霊石山山麓と私都谷入口部分の丘陵上に集中してみられる。ほとんどが後期群集墳を構成する小規模円墳で、横穴式石室を内部構造としている。

八東川南岸で確認されている古墳の数はそれほど多くはなく、小規模な円墳が散見できる程度で詳細が判明しないものが多いが、横穴式石室を内部構造とする古墳であったと推定されている皆原 1 号墳から果樹園の柵設置中に須恵器の高杯・杯・壺・提瓶等が出土している。また、大谷平古墳 (25) は、直径 12.5m の円墳で、河原石を野面積みして構築された片袖式の横穴式石室内部から、直刀、刀子、鉄鏃、須恵器の高杯・杯・壺・提瓶等が出土し、出土品の明らかな数少ない古墳の一つである。このほか、奈免羅・西の前遺跡の包蔵地内で奈免羅古墳 (26) と梨ノ木古墳 (27) が確認されており、横穴式石室の側壁がわずかに残存していた奈免羅古墳からは 7 世紀初頭の須恵器高杯等、梨ノ木古墳からは勾玉や須恵器が出土している。いずれの古墳も消滅して詳細はわからない。

なお、霊石山山麓の古墳群からは、因幡地方を中心に分布する線刻壁画を伴う横穴式石室が集中して見つかっており、人物・綾杉・木葉文が確認されている米岡 2 号墳 (35) や鳥・弓・綾杉文が確認されている福本 4 号墳が有名で当該地域の特徴の一つに挙げられる。このほか、福本 70 号墳 (18) は片袖式の横穴式石室を持つ終末期の八角墳であるが、石室内床面及びその付近から金銅製馬具、金銅製双龍環頭柄頭付鉄刀、青銅製匙、須恵器の坏・高杯・壺等、鐔付鉄剣、玉類、鉄鏃等の副葬品が出土している。これらの壮麗な出土品は当該地付近でも希少であり、中央勢力や大陸との関係を知る上でも極めて重要である。

また、前方後円墳についてみると、郡家 3 号墳〈寺山古墳〉(31) が全長 37.5m、宮谷 1 号墳 (32) が全長 32m とやや大型であるが、そのほかは小規模なものも多く米岡 48 号墳 (36) が全長 28m、福本 67 号墳 (38) が全長 21m、山路 1 号墳 (33) が全長 27m、山路 3 号墳 (34) が全長 20m で、500 基以上の古墳総数に比して非常に少ないことがわかる。ちなみに、八東川と千代川との合流点である鳥取市河原町には大型の前方後円墳があり、全長 60m の中井 1 号墳、全長 50m の八上 1 号墳〈獄古墳〉(20) が確認されている。

白鳳時代～古代 国史跡に指定されている土師百井廢寺跡(79)は、私都川北岸の緩傾斜地に築かれた白鳳時代後期の古代寺院で、発掘調査の結果、法起寺式の伽藍配置であることが確かめられている。塔跡は、心礎を含めた17個の礎石がすべて残存しており、一部、土地を公有化して保存が図られている。これまでの発掘調査で、軒丸瓦や平瓦、瓦製鴟尾等の遺物のほか、「因幡」の「幡」の字をへら書きした文字瓦が見つまっている。土師百井廢寺跡の北東約3kmの奥谷窯跡(73)からは同様の瓦が出土しており、当廢寺の瓦を焼いた窯跡と推定されている。また、土師百井廢寺跡と私都川を隔てた対岸に広がる丘陵地には、八上郡の郡衙跡と想定されている大型掘立柱建物跡が検出された万代寺遺跡がある。同遺跡から出土した須恵器坏蓋・壺・円面硯等と同一形態のものが花原古窯跡群(59)の出土品の中にみられ、消費地と供給地のつながりが判明した貴重な例となった。

このほか、私都谷周辺には下坂古窯跡群(74)・山田古窯跡群(75)・花原古窯跡群(76)・山路古窯跡群(77)・山ノ上古窯跡群(78)など多くの須恵器窯跡が見つかっており、総称して私都古窯跡群と呼ばれている。これら私都古窯跡群の北側に位置する鳥取市国府町は、古代因幡の政治・文化の拠点であった因幡国府が置かれた地であり、当該窯跡群が因幡国ないし八上郡の官窯として築窯され操業されていたとも考えられる。

中世 私都川、八東川の流域に広がる平野部を望む山上には、中世の山城や砦が多く確認されており、谷の分岐点や交通路の結節点には拠点となる城が築かれている。八東川上流の若桜町は、但馬や播磨地方との交通の要衝地であり、標高446mの鶴尾山の山頂に国指定史跡若桜鬼ヶ城跡がある。石垣や竪堀、郭などが残り、城下には城下町の町並みが良く残されている。また、私都谷の市場には私都城が築かれ、竪堀や曲輪、郭などが良好な状態で残存している。毛利氏の居城で、天正年間、羽柴秀吉の中国地方進攻により落城するまで動乱の中心にあったことが記録に残っている。

これら中世山城のほか、中世墳墓として山路1号墓(82)と山路2号墓(83)が知られ、県道拡幅工事に伴って発掘調査を実施した山路1号墓からは、陶製蔵骨器や多数の五輪塔が出土しており、県下における中世墳墓の発掘調査の先駆けとなっている。また、経塚も数例が知られており、下峰寺、宮谷、新興寺、下野地内で確認されている。このうち新興寺経塚からは銅経筒・鏡・白磁合子などが出土しており、出土遺物が一括して県指定保護文化財となっている。(野田)

第2節 調査の経緯

奈免羅・西の前遺跡は、鳥取県八頭郡八頭町船岡・下濃地内に所在する。当該地は、昭和51年(1976)に鳥取県教育委員会(以下、県教委)の分布調査によって土器の散布が確認され、「奈免羅遺跡」として遺跡台帳、遺跡地図に登録・記載されていた。

その後、昭和60年(1985)6月に当該地で河川改修事業に伴う土砂採取がおこなわれた際、横穴式石室の存在が明らかとなり、当時の船岡町教育委員会は、新たに見つかった「奈免羅古墳」と周辺の開発区域について同年10月から緊急発掘調査を実施した。この発掘調査では、5基の溝状遺構と3基の土坑が検出され、弥生時代終末期から古墳時代の土器が多数出土、奈免羅古墳からは横穴式石室の残骸と完存の須恵器高坏等が出土し、当該遺跡を「奈免羅・西の前遺跡」として再登録した。

平成20年(2008)に鳥取県が県道河原インター線道路改良工事を実施することになり、奈免羅・西の前遺跡包蔵地を含む広範な区域が工事予定地に組み込まれた。このため、緊急に工事対象区域内の遺跡の有無を確認する必要性が生じ、同年11月18日から平成21年(2009)2月26日まで試掘調査

が実施された。その結果、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居跡や大型の溝などが検出された。工事主体である鳥取県八頭総合事務所は、平成21年(2009)3月3日、文化財保護法(昭和25年法律第214号)第94条第1項の規定に従い周知の埋蔵文化財包蔵地内での土木工事を実施したい旨、県教委教育長宛に通知した。これに対し、県教委より盛土による道路設置工事に際しては事前の発掘調査が必要との指示を受け、関係諸機関の協議の結果、鳥取県八頭総合事務所からの依頼を受けて八頭町が調査を実施することとなった。調査面積が6000㎡を超える大規模な調査となるため、町直営による発掘調査は困難であるとの判断から、八頭町教育委員会の監理のもと、民間の調査機関である「株式会社島田組」に当該業務を委託して実施することになり、6月16日、県教委教育長宛に文化財保護法第99条第1項の規定に従って発掘調査着手の届出を提出した。

遺跡名称については、昭和60年次の調査で検出された遺構との類似性や出土土器の時期も概ね同じであることから、「奈免羅・西の前遺跡」の名称をそのまま使用し、前回の調査と区別して今回の調査を「2次調査」とした。調査区を1区・2区・3区とし、計6731.918㎡の面積の調査に約6ヶ月を要した。9月26日に現地説明会を開催、11月13日に現場作業を終了し鳥取県八頭総合事務所へと引き渡した。

表1 発掘調査工程表

		年月	2009年5月	2009年6月	2009年7月	2009年8月	2009年9月	2009年10月	2009年11月	2009年12月	2010年1月	2010年2月	2010年3月
準備	準備工事(搬入・事務所設置)												
	測量(基準点・調査区設定)												
	作業員説明会												
	表土削ぎ												
	壁下トレンチ調査												
	1区	プラン検出(攪乱除去 Grid設定 略測)											
	遺構調査(写真撮影・測量)												
	全面精査(写真撮影 高所作業車)												
	調査後平面図測量												
	補足調査(第4面調査)												
	2区	トレンチ調査(壁下トレンチ調査)											
	表土削ぎ												
	プラン検出(攪乱除去 Grid設定 略測)												
	包含層掘削												
	第1面プラン検出(略測)												
第1面全面精査(全景写真(高所作業車))													
第1面遺構調査(写真撮影・測量)													
第1面全面精査(全景写真(高所作業車))													
トレンチ拡張(追加掘削)													
第1~2面間包含層掘削(第2面検出)													
第2面全面精査(検出写真(高所作業車))													
第2面遺構調査(写真撮影・測量)													
第2面全面精査(空撮 R Cヘリ)													
調査後平面図測量													
補足調査(第3面トレンチ調査)													
3区	トレンチ調査(壁下トレンチ調査)												
表土削ぎ													
第1面プラン検出(Grid設定 略測) 遺構調査													
第1~2面間包含層(暗褐色砂)掘削													
第2面プラン検出(略測)													
第2面遺構調査(写真撮影・測量)													
第2面全面精査(空撮 R Cヘリ)													
第2面補足調査													
第2~3面間包含層(黄色砂)掘削													
第3面遺構調査(写真撮影・測量)													
第3面全面精査(空撮 高所作業車)													
調査後平面図測量													
補足調査(第4面トレンチ調査)													
撤収作業													
整理調査	遺物台帳作成												
	遺物洗浄												
	遺物註記												
	遺物復元												
	写真整理												
	遺構図面編集(修正)												
	遺構記録整理												
	遺物実測(観察表作成)												
	遺物図版(トレース)												
	調査区周辺图等補助図面作成												
自然科学分析等													
報告書作成	報告書用遺構図版作成												
	報告書用遺物図版作成												
	報告書文章(表頭)作成												
	報告書写真抽出(図版)作成												
	報告書用遺物写真撮影(図版)作成												
	報告書原稿(教育委員会校正)												
	報告書校正(印刷)												
	納品物作成(納品準備)												
	納品												

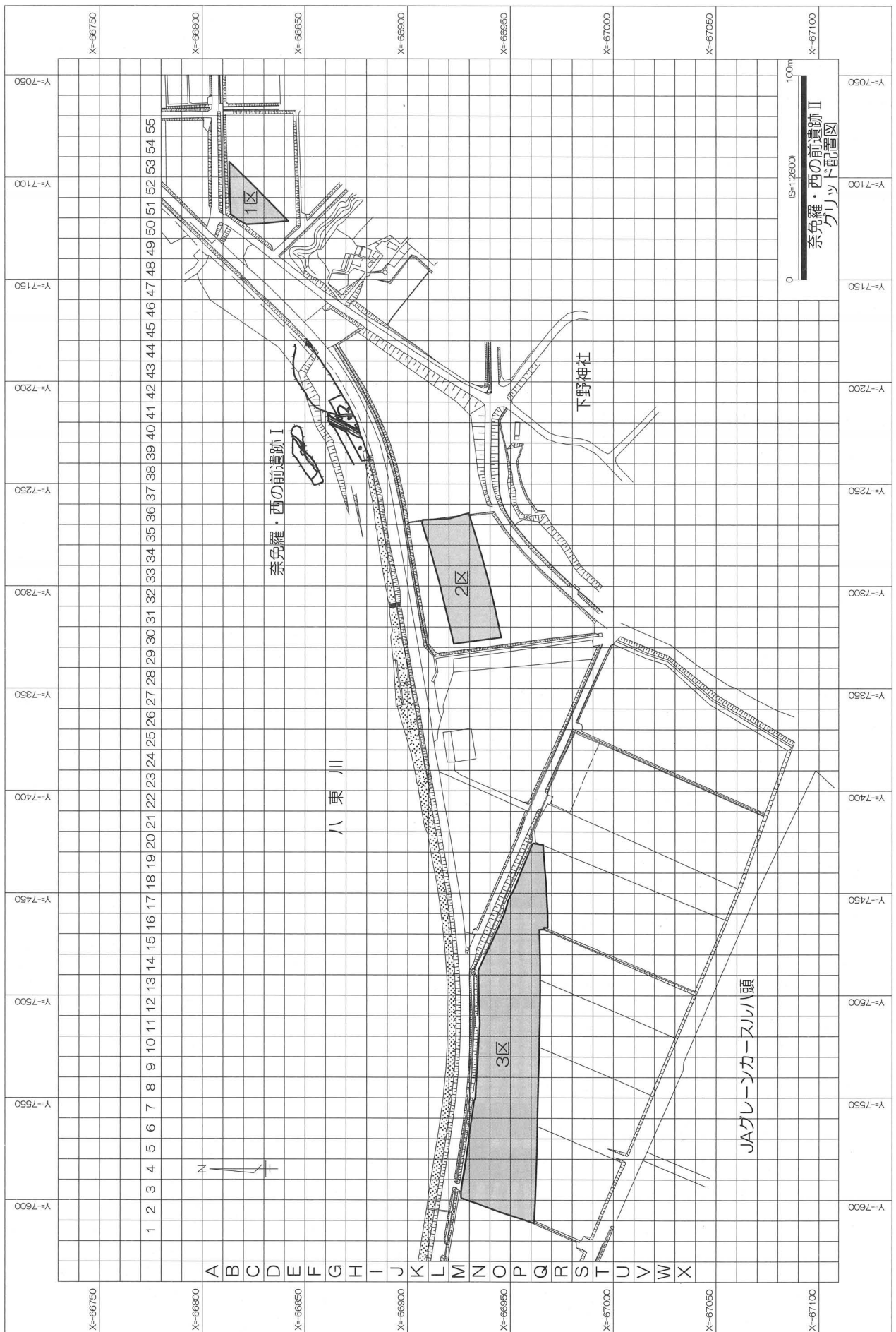


図2 調査区及びグリッド配置図

第3節 調査経過

平成21年5月25日に準備工事に入り、5月27日に1区から重機による表土剥ぎを実施し、5月29日から発掘作業員による人力掘削を開始した。6月12日、発掘作業員の追加募集説明会を実施。6月19日に現場事務所にて八頭町教育委員会発掘調査監理者と株式会社島田組調査担当者一同による第1回行程会議を開き、以後毎週木曜日に現場事務所にて定例会議としておこなうこととした。1区調査は5月27日から7月1日、2区調査は6月1日から10月19日、3区調査は6月8日から10月30日まで実施し、11月2日から13日にかけて現場事務所等の撤収作業をおこなった。調査区全景及び主要遺構の写真記録は、必要に応じてラジコンヘリによる3回の空撮と高所作業車による11回の俯瞰撮影をおこなった。その他、随時、県教委文化財課による調査指導を受けると共に、9月3日には八頭町文化財保護審議会委員の視察(写真1)、9月26日には現地説明会を実施して多くの見学者を得た(写真2)。

遺物接合や実測、報告書作成などの整理作業については、11月初めから船岡地内に整理作業事務所を設け本格的に開始した。途中、今回の調査で出土した全国で30遺跡、80例目となる銅釧片(有鉤銅釧)についてプレス発表をおこない、12月15日～21日にかけて郡家公民館にて発掘速報展を開催した(写真3)。以降、発掘調査報告書『奈免羅・西の前遺跡Ⅱ』を刊行し、平成22年(2010)3月31日までにすべての委託業務を完了した。

なお、各調査区の流れは以下の通りである。

(1)1区調査経過 5月27・28日、重機による表土剥ぎ。5月28日～6月9日、第1面・第2面調査。6月9日、第3面検出。6月20日～23日、第3面遺構調査(プラン検出、プラン写真撮影、遺構半截、セクション写真撮影、セクション測量、土層観察、遺構完掘、遺構完掘写真撮影)。第3面全景写真撮影(高所作業車)。6月23日～7月1日、第4面調査。7月1日、完了確認(発掘調査監理者)。

(2)2区調査経過 6月1日～19日、トレンチ調査。6月4日～12日、重機による表土剥ぎ・プラン精査。6月12日～7月2日、遺物包含層(第5層・第6層)掘削・第1面プラン検出。7月3日、第1面プラン検出状況写真撮影(高所作業車)。7月4日～16日、第1面遺構調査(プラン検出、プラン写真撮影、遺構半截、セクション写真撮影、セクション測量、土層観察、遺構完掘、遺構完掘写真撮影)、7月16日、第1面完掘全景写真撮影・第1面平面図測量。7月23日～8月7日、遺物包含層(第7層)掘削・第2面プラン検出。8月7日、第2面プラン検出状況写真撮影(高所作業車)。8月7日～9月3日、第2面遺構調査(プラン検出、プラン写真撮影、遺構半截、セクション写真撮



写真1 八頭町文化財保護審議会委員視察



写真2 現地説明会

影、セクション測量、土層観察、遺構完掘、遺構完掘写真撮影)。9月1日～4日、第2面平面図測量。9月3日、第2面空撮(ラジコンヘリ、高所作業車)。9月24・25日、現地説明会準備。9月26日、現地説明会開催。9月4日～10月5日、第2面補足調査。10月6日、大溝完掘写真撮影(高所作業車)。10月7日～15日、第3面確認トレンチ調査。10月16日、第3面全景写真撮影及び完了確認(発掘調査監理者)。10月17・19日、大溝埋め戻し。

(3)3区調査経過 6月8日～7月7日、トレンチ調査。6月15日～7月16日、重機による表土剥ぎ・第1面プラン検出。7月16日、西側第1面プラン写真撮影、7月17日～8月6日、遺物包含層(暗褐色砂層)掘削・第2面検出。8月7日、第2面プラン検出状況写真撮影(高所作業車)。8月17日～24日、耕作溝群調査(ベルト半截、セクション写真撮影、セクション測量、土層観察、遺構完掘)・第2面遺構調査。8月28日、耕作溝群完掘写真撮影(高所作業車)。8月31日～9月4日、東側第2面包含層掘削・遺構調査。9月3日、第2面東側全景空撮(ラジコンヘリ、高所作業車)。9月2日～4日、第2面平面図測量、補足調査。9月4日～17日、西側・中央第2面遺構調査(プラン検出、プラン写真撮影、遺構半截、セクション写真撮影、セクション測量、土層観察、遺構完掘、遺構完掘写真撮影)。9月7日～25日、竪穴住居跡調査。9月18日、第2面西側空撮(ラジコンヘリ、高所作業車)。9月24・25日、現地説明会準備。9月26日、現地説明会開催。10月6日、第3面プラン検出写真撮影(高所作業車)。10月7日～20日、第3面遺構調査。10月20日、第3面西側全景写真撮影(高所作業車)。10月20日～30日、第4面確認トレンチ調査。10月30日、完了確認(発掘調査監理者)。

(4)整理事業経過 6月8日～10月30日、遺物洗浄作業。7月8日～11月3日、遺物註記作業。10月2日～翌年3月31日、遺物実測作業・遺物観察表作成・報告書作成作業。

第4節 調査方法

遺跡調査略号 今回の奈免羅・西の前遺跡2次調査の略号は「09NN」とし、遺物採取ラベル・遺物註記の際の略号等にこの記号を用いた。

グリッド設定 調査予定地全域に国家基準座標(世界測地系)による10mグリッドを設定した。北西隅をA1グリッド、東西方向に細長い調査区となるため、Y軸方向を東に1、2、3・・・、X軸方向を南にA、B、C・・・と記号をふった。

試掘トレンチ設定・調査 発掘調査監理者の指示に従い、2区・3区に幅2mの試掘トレンチを計



写真3 発掘速報展



写真4 3区表土剥ぎ

10箇所設定し、遺跡の遺存状態を確認した。その結果、弥生時代から古墳時代の遺物包含層が調査対象区全域にわたって残っていることが確認された。

重機による表土剥ぎ(写真4) 重機(バックホー)を用いて、現代の水田耕作土と圃場整備の際の盛土層と整地層、さらに近世以降の耕作土を除去した。重機のオペレーターは発掘調査に従事した経験があり高度な技術を有する者を選び、必ず調査員、発掘調査監理者の立会いのもとでおこなった。

遺物包含層掘削 表土剥ぎ終了後は人力による遺物包含層掘削をおこない、包含層内の遺物をグリッドごとに採取しつつ遺構確認面まで掘り下げ、プラン検出をおこなった。

プラン検出・遺構マーキング・平面図略測・プラン検出状況写真撮影(写真5) 包含層掘削後、遺構確認面を丁寧に精査し遺構検出作業をおこなった。検出された遺構については石灰によるマーキングをおこない、その平面形状を測量して平面図を作成した。また、遺構のプラン検出状況を写真撮影によって記録した。

遺構ナンバリング 検出された遺構について1から順に通し番号をふった。ただし、1区では1001、1002、1003・・・、2区では2001、2002、2003・・・、3区では3001、3002、3003・・・と4桁目に区番号を入れて、番号の混乱を防ぐよう配慮した。

遺構記号 遺構性格ごとの記号分けは、調査終了後、調査成果に従って新規にふりなおした。遺構性格とその記号は、SI: 竪穴住居跡、SB: 掘立柱建物跡、SD: 溝・竪穴住居跡壁溝・竪穴住居跡内小溝、SX: 木棺墓、SK: 土坑、P: ピット、DD: 土器だまりである。記号化しないものとして、耕作跡、石垣跡、耕作溝、耕作溝群、植物痕、倒木痕、土石流跡、洪水跡、落ち込み、暗渠排水等の呼称を用いた。

遺構調査: 半截、セクション面分層・記録、セクション写真撮影、セクション図作成、完掘、完掘写真撮影、完掘平面図測量、エレベーション測量(写真6) マーキングされた遺構ごとに遺構調査を実施した。調査の手順は、半截、セクション面(土層断面)観察・分層・記録、セクション写真撮影、セクション図作成、完掘、完掘写真撮影、完掘平面図測量とし、掘削調査の途中で出土遺物や特徴的な検出状況のある場合は、その都度精査して記録をおこなった。ピットの半截は原則として長軸に沿っておこなった。溝もしくは溝状遺構についてはベルトを残して掘削した。直径1m以上の土坑については十字半截によって調査した。竪穴住居跡はL型でベルト半截をおこなった。

記録写真撮影 写真撮影は、6×7カメラ MamiyaRZ67 IIを用いてカラーリバーサルフィルムと白黒ネガフィルムによって記録し、控えとして35mmのカメラ NikonFM2を用いてカラーリバーサルフィルムと白黒ネガフィルム、NikonD60 デジタルカメラを用いた。撮影にあたり、35mmカメラ



写真5 1区平面精査



写真6 2区大溝掘削

とデジタルカメラで写し込みに、遺跡名・区番号・対象遺構・撮影方向・日付・調査者名を記入して撮影し、その後、適性露出・半オーバー露出・半アンダー露出の3枚を撮影した。その後、6×7カメラでも適性露出・半オーバー露出・半アンダー露出の3枚ずつ撮影した。作業風景写真撮影は、オリンパスμ TOUGH-8000 デジタルカメラを用いた。

平面図・断面図の図化(写真7) 遺跡及び遺構の平面図は写真測量及び測量士による実測によって記録した。断面図の作成はすべてデジタル測量によって測量士がデータを観測し、編集ソフトを用いて図面編集をおこなった。測量士は、データ観測にあたって必ず調査員の指示に従い、平面図については各遺構の上端・下端・中端・単点を、セクション図・エレベーション図等の遺構断面図については対象となるラインを記録した。また、調査区全体にわたって標高データを取得し、25cmコンタ図を作成した。出土遺物の微細図の作成は、デジタル測量によっておこない、その図を調査員が校正した。図面整理 測量士が、実測・図化・編集した遺構平面図・遺構セクション図・エレベーション図、トレンチセクション図、遺物微細図等を調査員の指示に従って編集・修正し、納品用の縮尺でレイアウト、出力し、納品物を作成した。出力データは指定されたファイル形式にそろえ、メディアに保存して納品物とした。これらの図面のうち報告書に掲載するものについては、所定の縮尺・線号になるように再編集・再配置をおこない出稿した。

写真整理 調査員及び補助調査員が撮影し、アルバムに保存された記録写真は、遺跡名・調査区・撮影対象・撮影方位・撮影日がわかるように1枚ごとに註記をおこなった。このうち、報告書に掲載するものについてはフィルムスキャナーで読み込んでデジタルデータ化したものを出稿図版とした。

遺物整理: 洗浄・乾燥・註記・復元・抽出・実測・トレース・観察表作成・写真撮影・写真整理(写真8・9)

出土遺物については洗浄・乾燥・註記・接合作業をおこなった。洗浄は、原則として土器ブラシとスポンジを併用して水洗にておこない、脆い土器の剥離に注意しておこなった。石器の洗浄には擦痕がつかないように注意した。土器の乾燥は水気を残さないように留意し、自然乾燥と室内でのエアコンによる乾燥を併用した。遺物註記について、今次調査では土器細片が非常に多く、遺構記号と日付のすべてを註記することは困難であると判断し、調査員と発掘調査監理者が協議のうえ、遺跡名・調査区・取り上げ番号のみを註記することとした。取り上げ番号とその内訳を示した遺物台帳は必ず遺物の傍に置き、取り上げ番号と出土地点・採取日の対応関係がわかるように留意した。遺物接合・復元作業は、現場採取時に遺存状態良好と記録していた遺物を優先的におこない、このうちさらに重要と思われるものを選別して抽出個体とした。抽出個体については、実測、遺物観察表作成、トレース、



写真7 1区平面測量



写真8 洗浄遺物の乾燥

遺物写真撮影等、報告書掲載のための作業をおこない、さらに、あらためて報告書掲載の遺構記号を追加で註記した。

土壌サンプル水洗選別 木棺墓の棺内相当部分の埋土、及び竪穴住居跡の中央土坑の埋土は、すべて土嚢袋に入れて採取し、孔径 3mm メッシュの水切りかごを通して水洗選別をおこない、微細な遺物の採取を試みた。

記録整理 すべての検出遺構について、その検出位置、検出状況、遺構規模、遺構埋土、遺構性格、附帯施設、工具痕の有無、所属面、他遺構との切り合い関係、出土遺物等について、調査員と補助調査員が協議し、遺構一覧表（遺構台帳）を作成した。

測量・写真撮影・遺物ドット採取 出土位置が重要と思われる遺物については、光波測距儀を用いて空間座標を記録した。これを遺物のドット採取と呼び、d の文字をつけて記録し、1 区では d1001、d1002・・・、2 区では d2001、d2002・・・、3 区では d3001、d3002・・・とした。

基本層序の記録 基本層序の観察は 1 区 Tr.1 ～ Tr.4、2 区 Tr.1 ～ Tr.15、3 区 Tr.1 ～ Tr.6 でおこなった。調査直前のトレンチ確認では基盤層は一部しか確認できず、遺構調査を終了後、あらためてトレンチとサブトレンチを併用して基盤層相当層まで掘り下げた。奈免羅・西の前遺跡は東から西へ流れる八東川の南岸にあり、八東川の氾濫源の範囲内に位置する。1 区の下層では岩盤層と黄色粘土層を基盤層として確認した。2 区では弥生時代終末期～古墳時代前期前葉の遺物包含層である暗褐色・黒褐色砂質シルト層と、その下位の旧河床堆積層と思われる礫層を確認した。3 区では調査区のほぼ全域に広がる黒色土層（無遺物層）と、その上位の暗褐色砂層・黄色砂層（弥生時代の遺物包含層）、黒色土層の下位の明黄褐色砂層を確認した。

第 5 節 調査体制

奈免羅・西の前遺跡発掘調査の体制は以下の通りである。

奈免羅・西の前遺跡発掘調査体制

調査主体 八頭町教育委員会

調査指導 鳥取県教育委員会文化財課・鳥取県埋蔵文化財センター

発掘調査監理者 八頭町教育委員会生涯学習課社会教育係 野田 大和

同 上 下田 智大

八頭町教育委員会生涯学習課文化財専門員 上田 哲夫

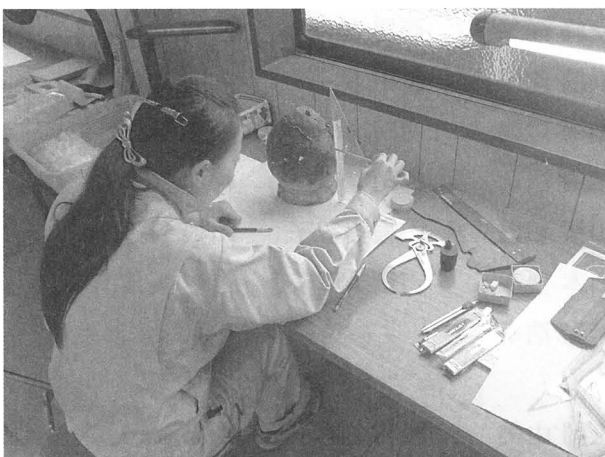


写真 9 遺物実測



写真 10 発掘調査参加者集合

現場管理人	株式会社島田組文化財事業部統括	大塚 賢治			
測量技師	株式会社島田組文化財事業部主任	平井 利尚			
	同 上	松村 直樹			
	同 上	半浦 聖智			
	同 上	川村 浩			
測量補助	株式会社島田組文化財事業部	光松 章			
	同 上	平井 聖子			
主任調査員	株式会社島田組文化財事業部主任	井汲 隆夫			
調査員	株式会社島田組文化財事業部主任	島田 裕弘			
	同 上	伊波 直樹			
	同 上	荒川 和哉			
	同 上	井上 裕香			
	同 上	角上 寿行			
補助調査員	株式会社島田組文化財事業部	浅井 達也			
	同 上	結城 香			
	同 上	毛利 裕起			
	同 上	和田 竜一			
	同 上	安田 睦朗			
職 長	株式会社島田組文化財事業部	中川 健二			
	同 上	大塚 一彦			
発掘作業員					
安住 拓郎	岡田 恭子	伊賀 博史	石上 節夫	猪上 春美	猪上美知子
今井 卓朗	荻原紀美子	奥井 孝	奥田 満男	加藤千代美	川登 勇
川村美智子	鎌谷都々子	岸田 治興	岸本 克徳	木下 秀美	窪田 京子
倉掛みどり	古泉 妙子	小林 孝司	小林 宣子	小山 晴美	笹岡 由美
佐々野敏衣	佐々野弘幸	沢田 純一	清水 洋子	下田茂登子	竹内 英子
竹田千代一	竹田 直道	竹田 勝	田中 愛	田中 公幸	田中 昭二
谷口 隆信	田 渕 修	徳田 光彦	鳥谷 萬代	中島 尚	中原 瑞恵
中根 真	中村 滝美	中村 秀志	南條 洋二	西尾 美保	西村 和美
西村 直美	西村美恵子	八田 星代	浜橋 伸一	藤田 供子	古田 和美
古田 敏明	古田 親憲	古田留美子	堀場 俊朗	前田 君枝	松島 健三
松長 敏彰	松本 容幸	松本 幸子	三田 浩司	邨田 直美	村本 博
森田 輝子	山 寄 恵子	山崎 健治	山根 和巳	山根美智子	山根 善子
山本 幸司	山本 徳男	山本 洋一	山本 優哉	吉田千賀子	吉本 美佳
吉柳 真人	横山 浩一	若林まゆみ	若光 浩幸		
整理作業員					
鎌谷都々子	倉掛みどり	古泉 妙子	笹岡 由美	西村美恵子	野島 尚子
萩原 美香	藤田 供子	松本 幸子	山 寄 恵子		

第1章 奈免羅・西の前遺跡Ⅱの遺構と遺物

概要 奈免羅・西の前遺跡は八東川南岸沿いに広がる複合遺跡である。今回の2次調査の調査地は東西に長く、1区～3区までは約500mである。調査面積は、1区が425.162㎡、2区は1445.381㎡、3区は4861.375㎡で、合計6731.918㎡となり、八頭町で過去最大の発掘調査となった。

今回の調査で、弥生時代から古墳時代にかけて当該地周辺で栄えた大規模な集落遺跡の実態がみえてきた。2区からは弥生時代後期から古墳時代前期にかけての大溝3条、弥生時代終末期の竪穴住居跡1棟・掘立柱建物跡1棟、布掘り建物跡の思われる溝状土坑2基等を検出した。3区からは、弥生時代中期の竪穴住居跡15棟、弥生時代中期から中世までの掘立柱建物跡8棟、弥生時代後期以降と思われる木棺墓4基等、多彩な遺構を検出した。2区の大溝群から出土した弥生時代後期以降の多数の甕・壺・器台・高坏・蓋等の土器群は、地元の土器以外に、北近畿系土器・吉備系土器等の搬入系土器を含み、鳥取県内の他地域ではみられない特異な様相を示す。また、3区出土の弥生時代中期の土器と同時期と思われる石包丁・石槍等の多様な石器群の出土は、弥生時代中期の生活を知る重要な発見となった。さらに、3区の竪穴住居跡から出土した銅釧は、山陰地方で初、全国で80点目の有鉤銅釧であることがわかり、弥生時代の八東川南岸が山陰全域の中でも特別な地位を占めていたことがわかってきた。

以下で、各区ごとに、基本層序及び遺構と遺物の検出状況を報告する。

第1節 1区 基本層序・遺構と遺物

1区は発掘調査対象区のうち最も北東側に位置する。調査区南側に広がる丘陵上には八頭町下濃^{しもの}の集落と耕作地が広がっており、その丘から北の八東川にむけて尾根状に台地が延びており、1区はその尾根の先端近くの傾斜地上にある。

第1項 1区 基本層序(図3)

1区基本層序はTr.1・Tr.2で確認した。基盤層に相当するのが粘板岩質千枚岩の岩盤であり、岩盤周囲には灰黄色もしくは灰黄褐色を呈する砂層・砂質シルト層・シルト層・粘土層が堆積しており、この黄色味を帯びた層に、暗褐色系の埋土の流路跡が切り込んでいるのが確認できる。この黄色味を帯びた砂層を基盤層として、上位に暗褐色砂質シルト層、その上に黒褐色砂質シルト層が堆積し、その上は耕作土と攪乱となる。調査区北西側にのみ、黒褐色砂質シルト層上面に、にぶい黄色粘土粒混じりの黒褐色砂質シルト層が堆積する。

1区の基本層序は断片的で、2区・3区の基本層序を参考にして、これらの土層をまとめ直すところのように整理できる。

1-1層 黒褐色シルト…現表土層、水田耕作土

1-2層 混合土…圃場整備の際の盛土・整地層 本層の下部に【1区第1面】あり

1-3層 灰黄褐色シルト…中世・近世・近代の耕作土 上面が【1区第2面】

1-4層 にぶい黄色粘土粒混じり黒褐色砂質シルト層…弥生～古墳時代の遺物包含層

(2区ではこの時期に2-7層・2-8層が堆積か)

(3区ではこの時期に3-4層・3-5層・3-6層が堆積か)

……1-5層上には元は黒色土層があったと推測。

1-5層 黒褐色砂質シルト層…黒色土層の下位層 上面が【1区第3面】

1-6層 暗褐色砂質シルト層…漸移層 上面が【1区第4面】

1-7層 灰黄褐色～にぶい黄褐色土層(砂・砂質シルト・シルト・粘土質シルト)…基盤層相当層、旧河道埋没土

1-8層 岩盤…粘板岩質千枚岩、八東川南岸の基盤層

第2項 1区第1面～第4面の概要(巻頭図版3、写真図版1)

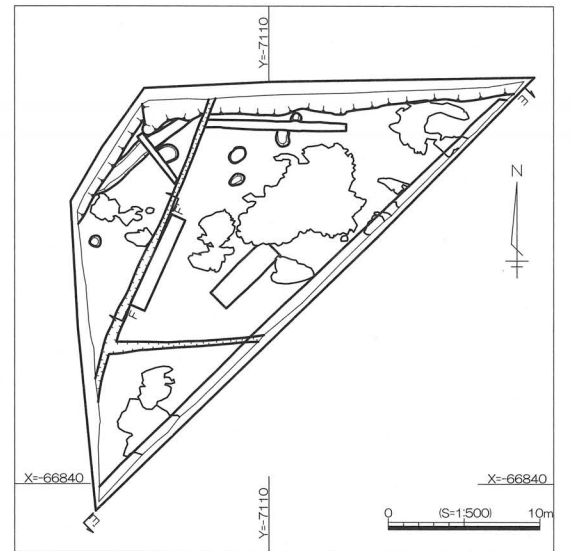
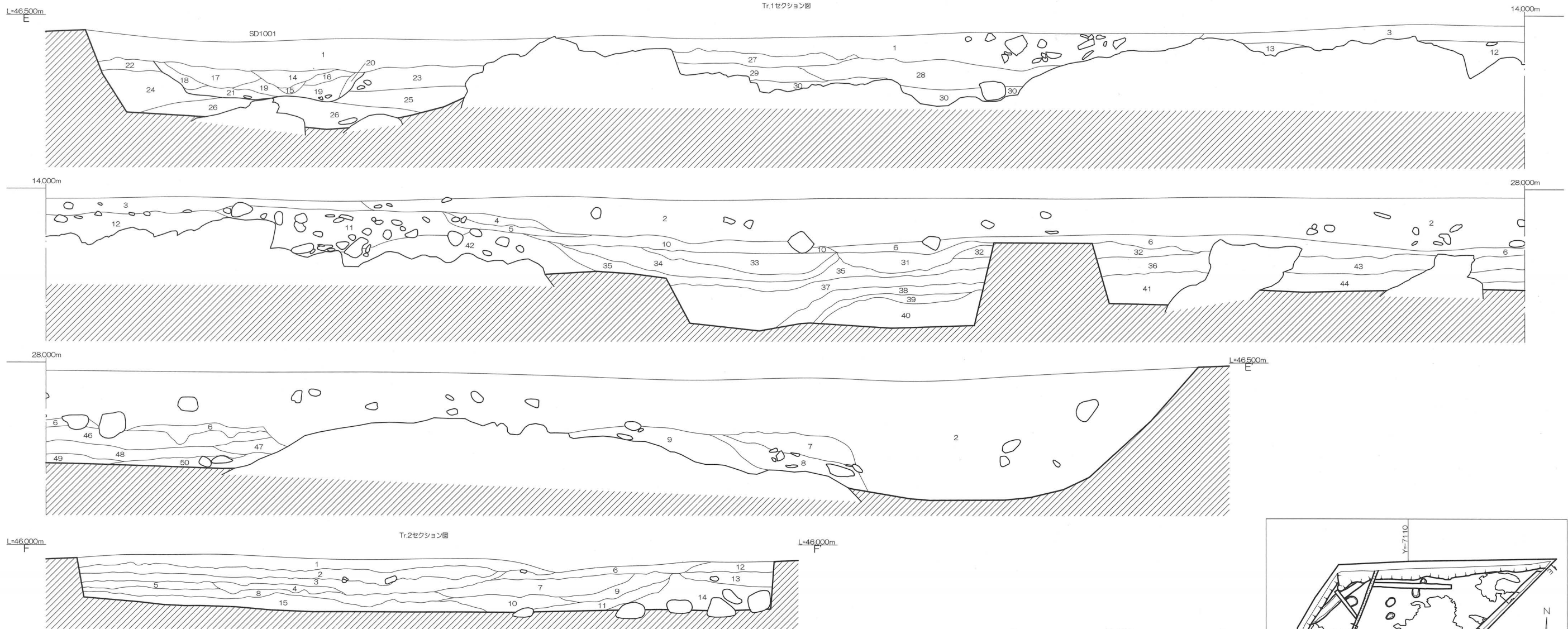
1区では、第1面から第4面の4段階にわたって調査した。以下で各面の概要を述べる。

【第1面】 試掘調査のトレンチ内で、現地表面となる水田耕作土から30cm下で、中世以前の溝跡が検出された。この溝の直上に黒褐色シルト層が堆積しており、この層が遺物包含層の可能性があるため、この層の上面までを表土剥ぎで除去することになった。実際に表土剥ぎを始めたところ、この黒褐色シルト層の直上に暗灰黄色砂の堆積が確認され、これが帯状に伸びていたため道路状遺構として調査した。これが第1面である。調査の結果、近代以降の水田整備の際のものとなり、記録保存して掘削除去した。

【第2面】 第1面の道路状遺構の下に堆積していた黒褐色シルト層は、南東側で石垣へとつながり、その石垣裏込から近世の磁器片・陶器片が出土した。黒褐色シルト層は、近世以降に作られた石垣と一体となった耕作土であり、石垣・耕作土として記録して掘り下げた。耕作土1・耕作土2・黒褐色シルト層の土性と類似しており、同じ第2面として調査した。耕作土中から黒曜石片が2点検出された。2区・3区では出土していないが、1区付近にのみ縄文時代頃の遺構・遺物包含層があったのかもしれない。

【第3面】 第3面は近世以降の耕作土を除去した面である。遺構確認面は、岩盤・灰黄褐色砂・黄褐色砂質シルト・暗褐色砂質シルト・黒褐色砂質シルトと多様であり、本来縦方向に堆積していた層が輪切りになった状態を示す。この第3面に4条の溝が確認され、1区北東端部にやや大型の溝SD1001が検出され、調査区北東から南西にほぼ直線的に延びるSD1002が検出された。このSD1002が、試掘調査で検出された細長い溝である。また、浅い溝SD1003・SD1004が短い範囲で検出された。SK1001・SK1002・SK1003は埋土中に礫を多数含み、埋土もかなり新しく、耕作地の開削時の抜根や整地に伴うものと考えた。P1001・P1002も、第2面の耕作地に伴う遺構の可能性が高い。土石流跡1・同2は、岩盤から地面への変り目に浅く抉りぎみに残った不整形の落ち込みである。埋没状況が人為的とは思えないため、発掘調査監理者と協議の結果、土石流跡とした。

【第4面】 第3面確認面の北西側に、にぶい黄色粘土粒を含む黒褐色砂質シルト層の広がりを確認した。第3面のSD1002は北東から南西へ直線的に延びるが、この溝を境にして北西側で地形が傾斜して下がり、そこに本層が堆積している。この層の堆積状況を調べるためTr.4を設定・調査したところ、直下にSD1005とSK1009が遺存することがわかり、急遽、この層を包含層掘削して第4面検出と遺構調査を実施した。第4面では、SD1005の他、SK1004～SK1009が検出された。このSK群は土坑として区分したが、黒褐色砂質シルトを主体とし、いずれも遺物は未検出で、人為的遺構とみなす積極的な根拠はない。



Tr.1 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	圃場整備の際の盛土・整地層
2	10YR4/2 灰黄褐色	砂・礫 シルト	圃場整備の際の盛土・整地層
3	10YR4/1 褐灰色	砂質 シルト	圃場整備以前の耕作土
4	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	圃場整備以前の耕作土
5	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	角礫・剥離礫を多く含む
6	10YR3/1 黒褐色	シルト	圃場整備以前の耕作土
7	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	小礫微量、粘性あり、締り軟質
8	2.5YR3/1 黒褐色	シルト	岩盤剥離礫多数、粘性弱、締りあり
9	2.5YR3/1 黒褐色	シルト	岩盤剥離礫多数、粘性弱、締りあり
10	2.5Y4/1 黄灰色	砂質シルト	攪乱層、粘性あり、締りあり
11	10YR3/2 黒褐色	シルト ・礫	再堆積層、角礫・剥離礫多数、締りあり
12	10YR3/2 黒褐色	シルト	再堆積層、角礫・剥離礫多数、締りあり
13	10YR3/2 黒褐色	シルト	礫あり、黒色シルトブロック・粒微量、粘性弱、締りあり
14	10YR3/1 黒褐色	シルト	SD1001埋土、粘土質シルト少量、黒褐色シルト少量、粘性やや強い、締り軟質
15	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	SD1001埋土、にぶい黄褐色砂質シルト5%、粘性あり、締りあり

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
16	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	SD1001埋土、黒褐色シルト30%、粘性弱、締り軟質
17	10YR3/1 黒褐色	シルト	SD1001埋土、14層よりやや明度強、粘土質シルト少量、粘性弱
18	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	SD1001埋土、黒褐色シルト少量、暗灰色細粒砂微量、粘性弱
19	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	SD1001埋土、黒褐色シルト少量、粘性弱、締り軟質
20	10YR5/2 暗灰黄色	中粒砂・粗粒砂	SD1001埋土、黒褐色シルト少量、粘性弱、締りやや軟質
21	10YR5/2 暗灰黄色	粗粒砂・中粒砂	SD1001埋土、褐灰色粘土質シルト少量、径10cm以下の小礫少量、粘性やや弱い、締りやや軟質
22	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	漸移層的、直上の黒色土層は残っていない、粘性弱、締りあり
23	2.5Y5/2 暗灰黄色	中粒砂・細粒砂	小礫微量、粘性弱、締りあり
24	2.5Y5/2 暗灰黄色	中粒砂・細粒砂	黒褐色砂質シルト30% (根跡か)、小礫微量、粘性弱、締りあり
25	2.5Y5/3 黄褐色	中粒砂	基盤層相当層、褐灰色、灰色砂粒少量、粘性弱、締りあり
26	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	褐色・灰色砂粒を微量、粘性弱、締り軟質
27	10YR6/1 褐灰色	シルト	小礫微量、粘性あり、締りあり
28	2.5Y6/2 灰黄色	細粒砂	シルト少量、粘性あり、締りあり
29	10YR7/2 にぶい黄褐色	砂質シルト	径2cm前後の礫少量、酸化鉄あり、漸移層的、粘性弱、締り軟質
30	2.5Y6/2 灰黄色	砂質シルト	粘性弱、締りやや硬質

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
31	2.5YR2/1 黒色	砂質シルト	攪乱、径1~5cmの礫少量、粘性弱、締りあり
32	7.5YR6/2 灰褐色	中粒砂・細粒砂	攪乱、褐色・灰色砂粒少量、粘性あり、締りあり
33	7.5YR5/2 灰褐色	細粒砂・中粒砂	自然流路の埋没土、粘性あり、締りあり
34	7.5YR5/3 にぶい褐色	中粒砂・細粒砂	自然流路の埋没土、粘性あり、締りあり
35	10YR7/6 明黄褐色	砂質シルト	自然流路の埋没土、水酸化鉄固着、粘性あり、締りやや硬質
36	10YR7/3 にぶい黄褐色	シルト	径5~10cmの礫少量、黒色シルトブロック・粒微量、粘性弱、締りあり
37	5B/G7/1 明青灰色	粘土質 シルト	基盤層扱い、岩盤上の堆積層、粘性弱、締り硬質
38	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	基盤層扱い、岩盤上の堆積層、粘性弱、締り硬質
39	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	基盤層扱い、岩盤上の堆積層、粘性弱、締り硬質
40	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	基盤層扱い、岩盤上の堆積層、粘性弱、締り硬質
41	5B/G7/1 明青灰色	シルト・細粒砂	基盤層扱い、岩盤上の堆積層、粘性弱、締り硬質
42	2.5Y5/1 黄灰色	シルト	径5~10cmの角礫・岩盤剥離礫少量、粘性やや弱い、締りあり
43	7.5YR6/2 灰褐色	中粒砂	基盤層扱い、岩盤上の堆積層、粘性弱、締り硬質
44	10YR4/3 にぶい黄褐色	中粒砂・細粒砂	基盤層扱い、岩盤上の堆積層、粘性弱、締り硬質
45	10YR7/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	中粒砂・細粒砂少量、粘性弱、締りあり

図3 1区 基本層序セクション図

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
46	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	洪水性堆積層、粘性弱、締りあり
47	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質 シルト	小礫微量、粘性あり、締りやや軟質
48	10YR6/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	細粒砂・中粒砂少量、小礫微量、粘性あり、締りあり
49	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	径1~15cmの礫多量、粘性あり、締りあり
50	5Y6/1等 灰色等	岩盤	基盤となる岩盤、粘板岩質千枚岩、葉理面で剥離あり

Tr.2 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	圃場整備の際の整地層、褐灰色シルト20%、径2~10cmの礫少量、粘性あり、締りやや軟質
2	10YR4/2 灰黄褐色	砂・礫 シルト	旧耕作土、黒褐色シルト20%、円礫少量、粘性あり、締りやや軟質
3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質 シルト	灰黄褐色シルト20%、礫少量、粘性あり、締りやや軟質
4	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	灰黄褐色シルト10%、粘性あり、締り軟質
5	10YR6/2 灰黄褐色	シルト	角礫・剥離礫多量、粘性やや弱い、締りあり
6	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	自然流路埋没土、にぶい黄褐色シルト30%、小礫微量、締りあり
7	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	自然流路の埋没土、灰黄褐色砂質シルト20%、粘性あり、締り軟質

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
8	10YR5/2 灰黄褐色	中粒砂・細粒砂・シルト	自然流路埋没土、灰白色シルト25%、小礫微量、粘性あり、締り軟質
9	10YR6/4 にぶい黄褐色	中粒砂・細粒砂・シルト	自然流路埋没土、小礫微量、褐灰色シルトブロック微量
10	10YR6/4 にぶい黄褐色	中粒砂・細粒砂・シルト	自然流路埋没土、径2cm以下の小礫少量、粘性あり、締りやや軟質
11	10YR6/3 にぶい黄褐色	中粒砂・細粒砂	自然流路埋没土、小礫微量、酸化鉄少量、粘性あり、締り軟質
12	10YR5/2 灰黄褐色	中粒砂・粗粒砂	再堆積層、土石流跡、径2~23cmの角礫少量、直下に岩盤
13	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	再堆積層、径10cm以下の小礫少量、酸化鉄微量、粘性弱、締りあり
14	10YR6/2 灰黄褐色	砂・礫	岩盤上の堆積層、径15~40cm大の円礫多数、褐色酸化鉄沈着、粘性弱
15	N7/0 灰白色	シルト	基盤層、直下に岩盤、鉄斑少量、粘性あり、締りやや硬質

第3項 1区遺構と遺物(図4・5・6・10、表2)

1区で検出された遺構は計22基で、内訳は以下の通りである。

第1面: 道路状遺構1基 第2面: 石垣・耕作土1基、耕作土2基

第3面: 溝及び溝状遺構4基・土坑3基・ピット2基・土石流跡2箇所

第4面: 溝1基・土坑6基

以下で、SD1001・SD1002・SD1005について記載する。(その他の遺構は、表2を参照のこと。)

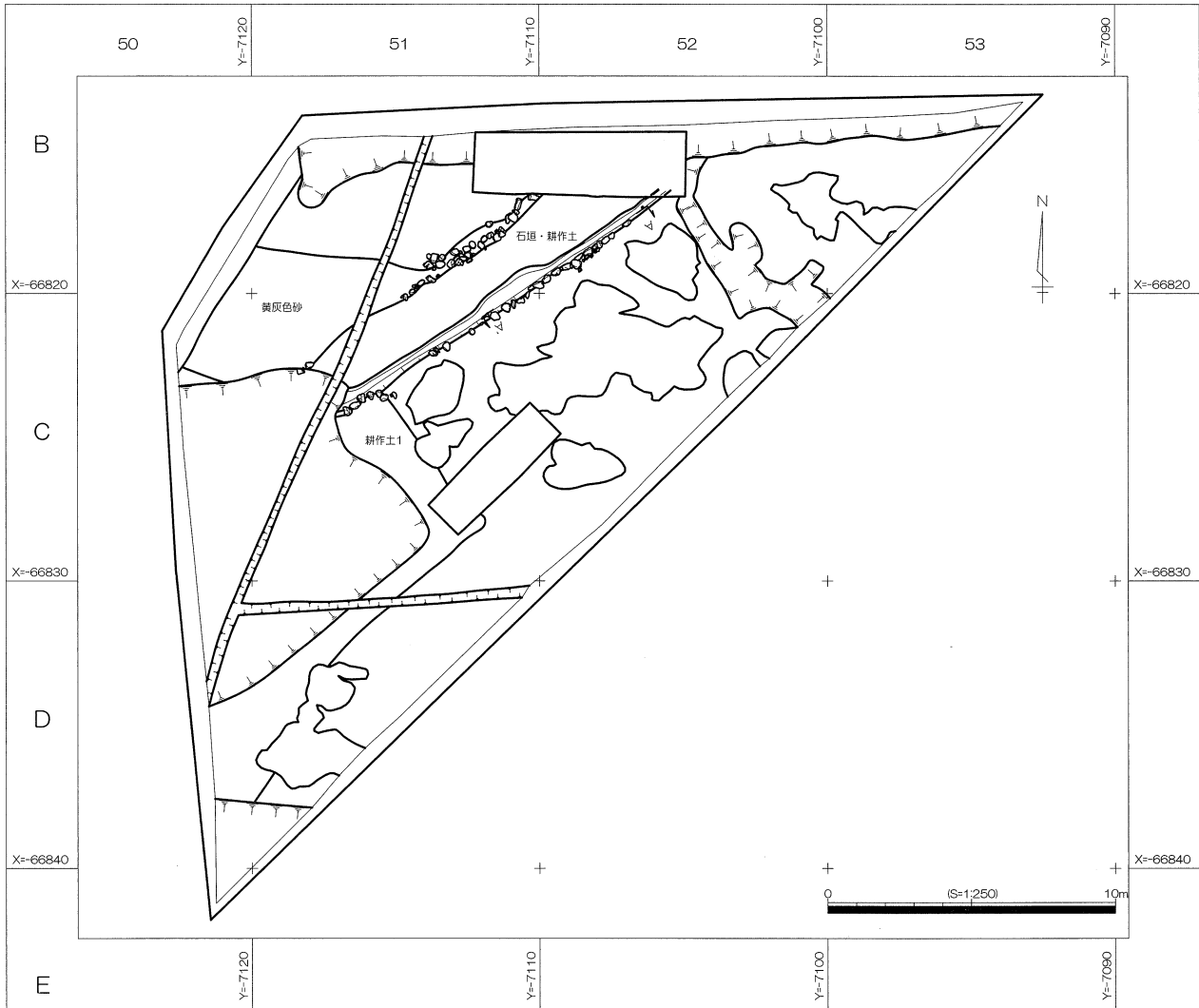


図4 1区 第1面・第2面平面図

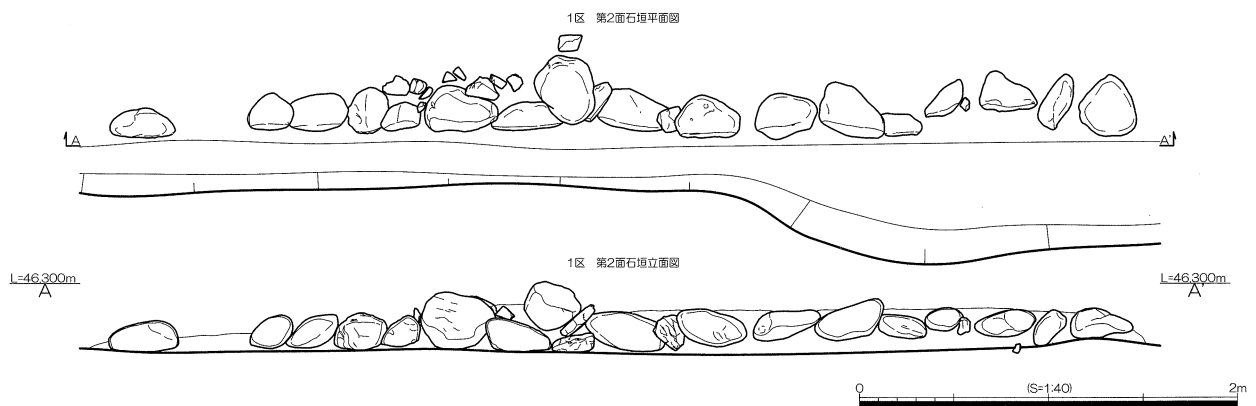


図5 1区 第2面石垣平面図・立面図

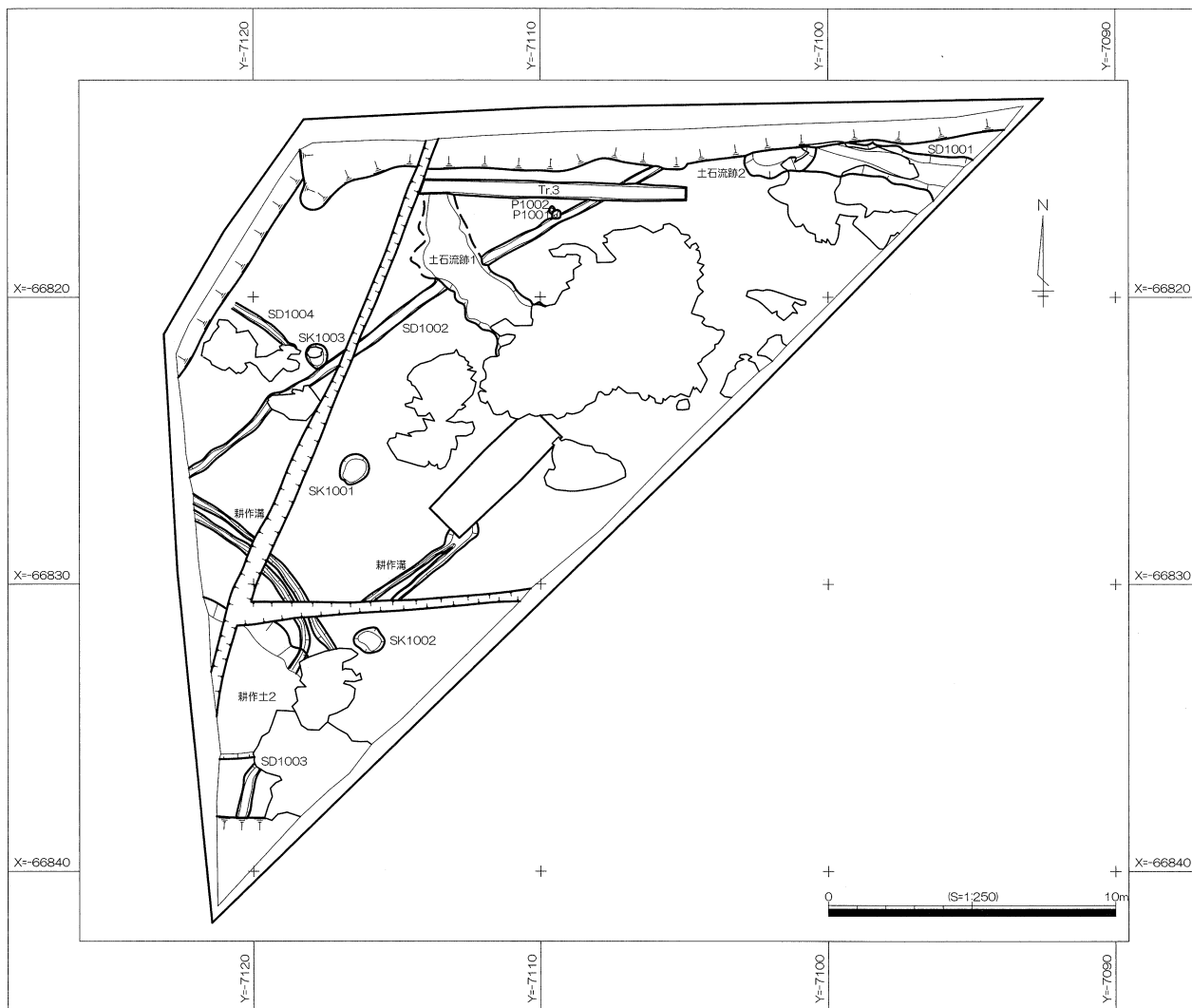


図6 1区 第3面平面図

■ SD1001(図7、遺物図1、遺物観察表1、写真図版2・46)

位置 第1面 B52・B53 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.744mである。

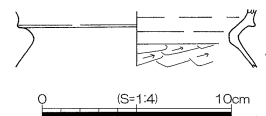
検出状況 調査区北側の攪乱を除去した際の南壁面で検出された。確認面は近世以降の耕作土を除去した段階である。東北東側、北西側は共に調査区外へ延びる。

平面形状・規模 平面形は帯状で、残存長5.973m・幅1.598mを測る。断面形は逆台形に近い形状で、確認面からの底面までの深さは0.252mである。底面レベルは東から西へ下がる。

埋土 南北セクションB-B' 地点では7層に区分される。全体に黒褐色シルト・砂質シルトを主体層が多く、下層に円礫を多く含む層がある。溝内で左右の埋没過程に先後関係があり、溝の内面で流路がふり変わりながら埋没したものと思われる。基盤層の岩盤をかすめ、東北東へと貫通している。

出土遺物 土器細片12点が出土した。このうち1点が1で、古墳時代前期の土師器甕の口縁部である。

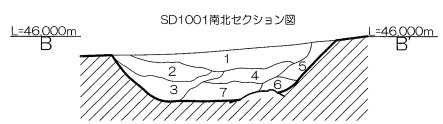
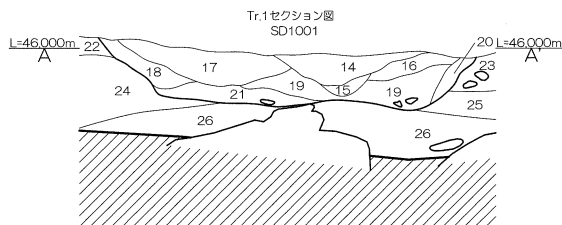
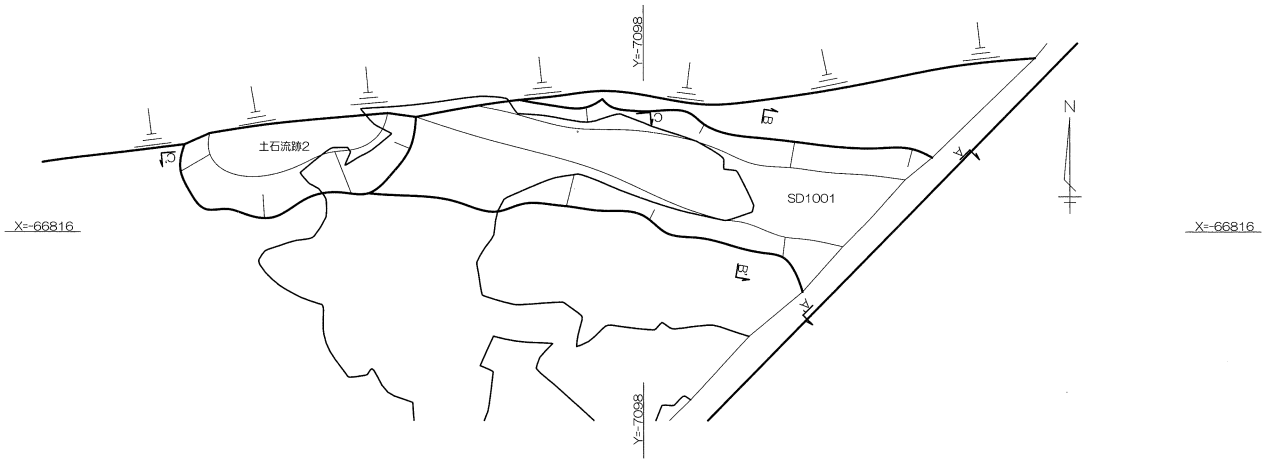
遺構の性格と帰属時期 溝である。帰属時期は出土遺物から古墳時代前期と推測する。



遺物図1 SD1001出土遺物

遺物観察表1

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
1	1	SD1001 (1001)	1	46	土師器 甕	器高:3.0~	外面:口縁部~肩部ナデ 内面:口縁部~頸部ナデ、肩部ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:明黄褐 内面:にぶい橙	F1類~F2類



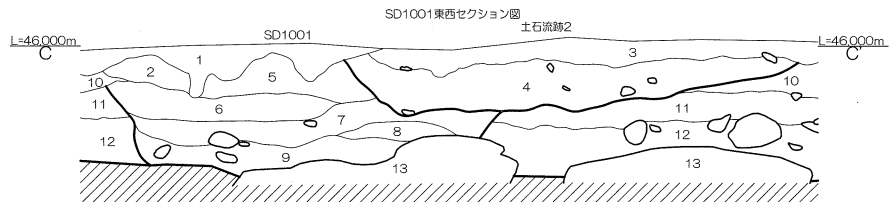
SD1001 A-A' 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
14	10YR3/1 黒褐色	シルト	SD1001埋土、粘土質シルト少量、黒褐色シルト少量、粘性やや強い、縮り軟質
15	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	SD1001埋土、にぶい黄褐色砂質シルト5%、粘性あり、縮りあり
16	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	SD1001埋土、黒褐色シルト30%、粘性弱、縮り軟質
17	10YR3/1 黒褐色	シルト	SD1001埋土、14層よりやや明度強、粘土質シルト少量、粘性弱
18	2.5Y5/3 黄褐色	砂質シルト	SD1001埋土、黒褐色シルト少量、暗灰黄色細粒砂微量、粘性弱
19	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	SD1001埋土、黒褐色シルト少量、粘性弱、縮り軟質
20	10YR5/2 暗灰黄色	中粒砂・粗粒砂	SD1001埋土、黒褐色シルト少量、粘性弱、縮りやや軟質
21	10YR5/2 暗灰黄色	粗粒砂・中粒砂	SD1001埋土、褐灰色粘土質シルト少量、径10cm以下の小礫少量、粘性やや弱い、縮りやや軟質

SD1001 B-B' 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SD1001	1	2.5YR3/1 黒褐色	シルト	径2~5cmの礫少量、粘性あり、縮りあり
SD1001	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	径5mm程度の礫微量、灰色・褐色砂粒少量、黒色シルトブロック微量、粘性あり、縮りやや硬質
SD1001	3	2.5YR2/3 黒褐色	細粒砂・砂質シルト	径2~3cmの円礫少量、基盤層由来の黄色砂少量、粘性弱、縮り弱
SD1001	4	10YR2/3 黒褐色	シルト	礫の混入なし、1・2層より褐色粒多量、粘性あり、縮りあり
SD1001	5	10YR2/1 黒褐色	砂質シルト	基盤層由来の黄色砂・黒色シルトブロック少量、粘性弱、縮り弱
SD1001	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	灰色・褐色砂粒少量、礫の混入なし、粘性あり、縮りあり
SD1001	7	10YR2/1 黒色	シルト・礫	径0.5~5cmの円礫多数、粘性弱、縮り弱

※ A-A'の1層及び22・23・24・25・26層の土層観察は1区基本層序Tr.1に掲載。



SD1001 C-C' 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
攪乱	1	10YR4/4 褐色	砂質シルト	攪乱、暗褐色シルト少量、黄褐色砂少量、粘性あり、縮りやや軟質
攪乱	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒褐色砂質シルト微量、粘性やや強い、縮りあり
攪乱	3	7.5YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、褐灰色シルト10%、粘性やや強い、縮りあり
土石流跡2	4	7.5YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、褐灰色シルト10%、粘性やや強い、縮りあり
SD1001	5	7.5YR3/2 黒褐色	シルト	黒色シルト20%、暗褐色砂質シルト微量、粘性あり、縮りあり
SD1001	6	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒褐色シルト・砂質シルト少量、粘性あり、縮りあり
SD1001	7	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	小礫・砂粒30%、黒褐色シルト微量、粘性弱、縮りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SD1001	8	10YR3/3 暗褐色	砂・礫	黒褐色シルト微量、黄褐色砂微量、粘性弱、縮り硬質
SD1001	9	10YR3/3 暗褐色	砂・礫	砂礫層、黒褐色砂質シルト少量、土師器破片1、粘性弱、縮り硬質
	10	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒褐色シルト20%、粘性やや強い、縮りあり
	11	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂・砂質シルト	漸移層、黒褐色シルト少量、黄褐色砂少量、粘性あり、縮りあり
	12	10YR5/6 黄褐色	中粒砂・粗粒砂	大型礫少量、小礫少量、粘性なし、縮り硬質
	13	2.5GY5/1 オリーブ灰色	岩盤	基盤層、粘板岩質千枚岩

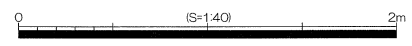
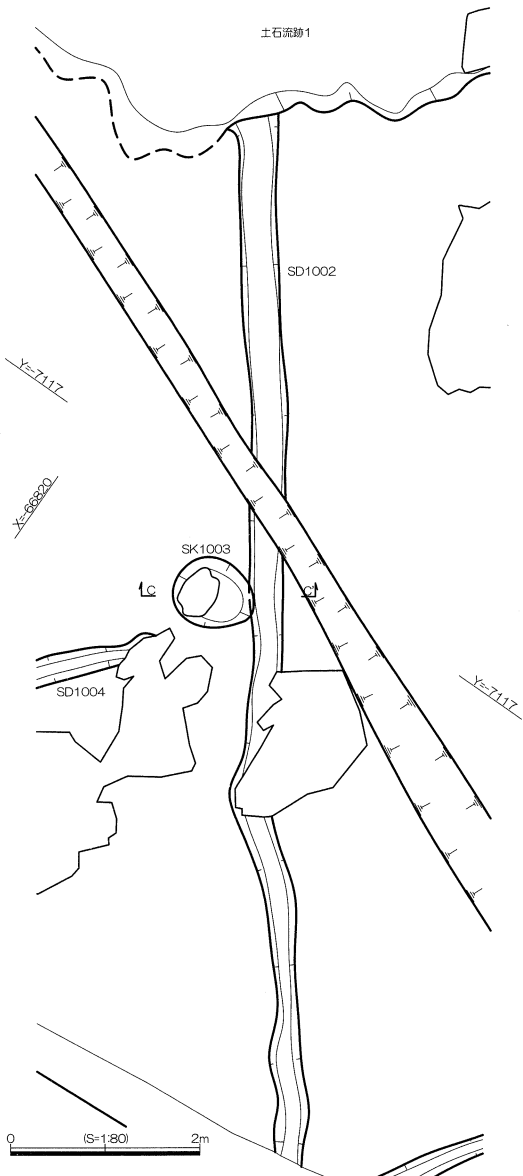
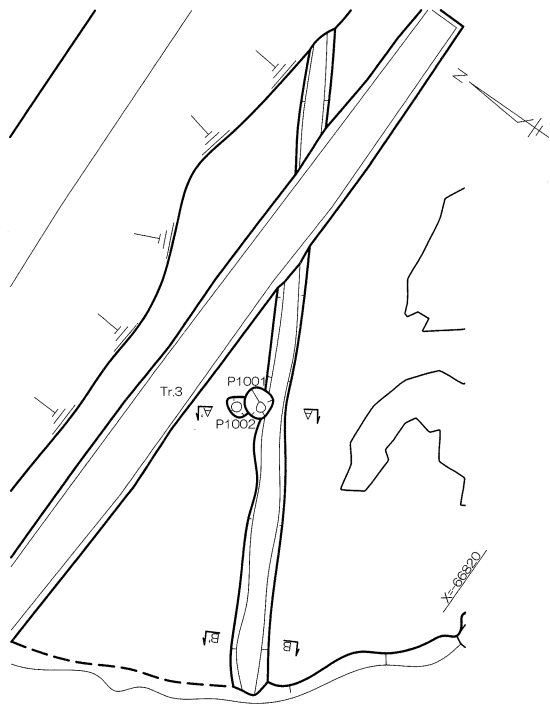


図7 SD1001遺構図



■ SD1002(図8、写真図版2)

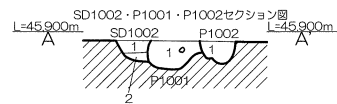
位置 第1面B51・52、C50・51グリッドに位置する。遺構確認面の標高は45.857mである。

検出状況 試掘調査で確認された溝で、近世耕作土直下を検出面とする。溝の延長は両端とも調査区外へ延びる。2区SD2015につながる可能性がある。

平面形状・規模 平面形は細長い带状で、残存長19.702m・幅0.397mを測る。断面形は箱掘りに近い逆台形で、確認面からの底面までの深さは最深で0.166mである。北西の八東川とほぼ平行して掘られている。溝の底面レベルは北東から南西に下がる。

埋土 上層は、黒褐色粘土質シルトを主体とする。下層は暗褐色砂質シルトを主体とする。

出土遺物 土器細片26点が出土した。うち1点が、



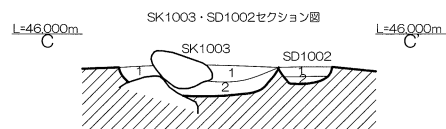
SD1002 A-A 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SD1002	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト20%、暗褐色砂質シルト10%、小礫微量、粘性あり、締りあり
SD1002	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト15%、暗褐色砂質シルト微量、粘性あり、締りやや硬質
P1001	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト25%、暗褐色砂質シルト10%、小礫微量、粘性あり、締り弱
P1002	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂20%、黒色シルト少量、粘性やや弱い、締りあり



SD1002 B-B 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SD1002	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト25%、褐灰色砂質シルト10%、小礫微量、粘性あり、締りあり
SD1002	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト15%、暗褐色砂質シルト5%、粘性あり、締りやや硬質



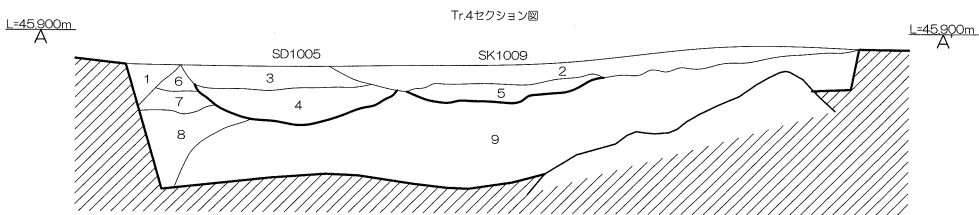
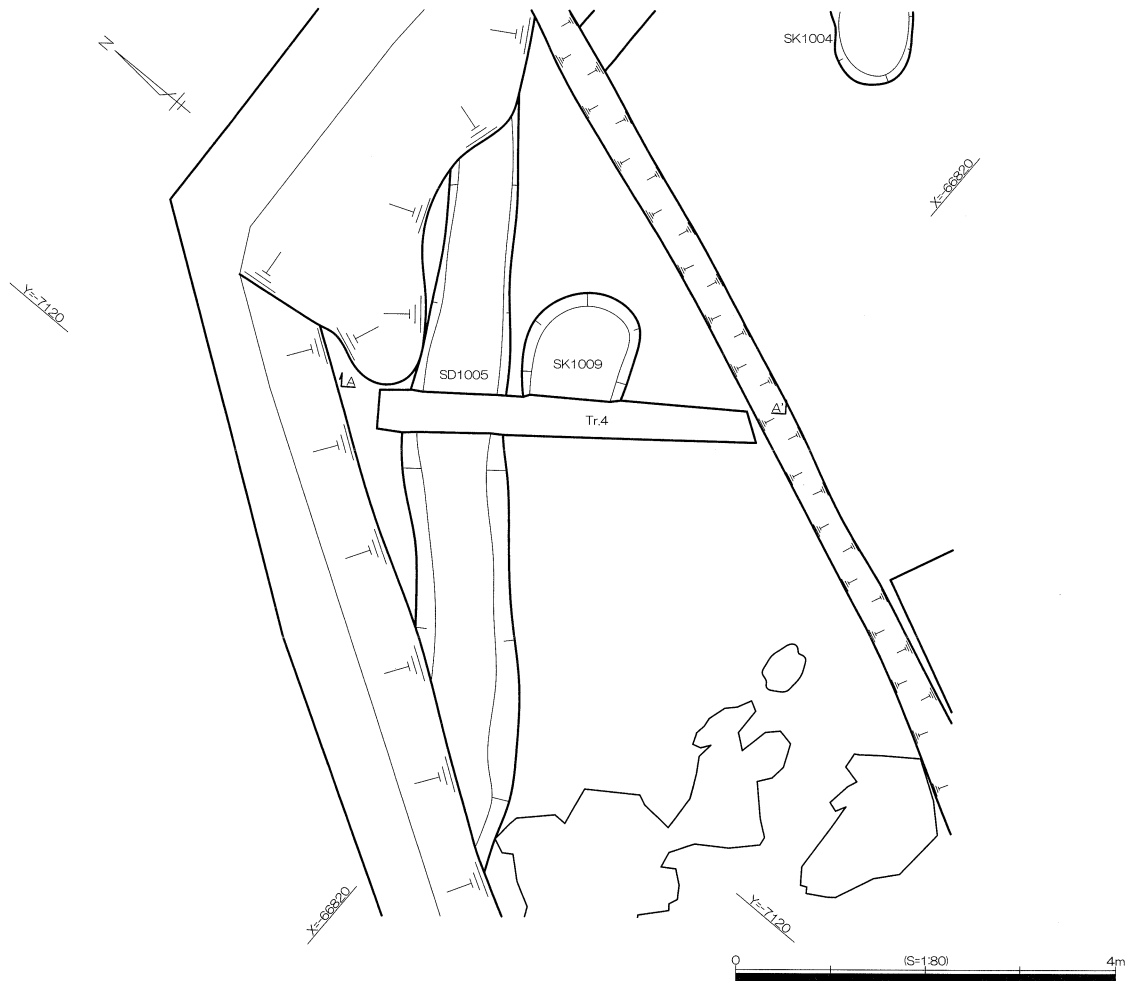
SD1002 C-C 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SD1002	1	10YR2/1 黒色	シルト	土器片微量、黒褐色砂質シルト25%、粘性あり、締りあり
SD1002	2	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂質シルト10%、砂粒・小礫微量、粘性あり、締りあり
SK1003	1	7.5YR3/3 暗褐色	砂質シルト	径37cm大の礫2、小礫少量、黒褐色シルト20%、砂粒あり、粘性あり、締りあり
SK1003	2	7.5YR3/3 暗褐色	砂質シルト	小礫少量、黒褐色シルト10%、粘性あり、締りあり

図8 SD1002遺構図

古墳時代前期の甕の口縁部破片である。

遺構の性格と帰属時期 溝である。帰属時期は出土遺物から古墳時代前期以降と推測する。

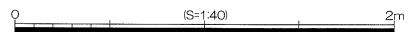


SD1005・SK1009(Tr.4)土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	攪乱埋土、暗渠排水の掘方、小礫 微量、粘性あり、縮りあり
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	洪水性堆積層、中粒砂・細粒砂20%、 にふい黄色粘土質シルト粒2%散在、 粘性やや弱い、縮りあり
SD1005	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	SD1005埋土、弥生土器片ごく微量、 褐色・灰色砂粒微量、粘性あり、縮りあり
SD1005	4	2.5Y4/2 暗灰黄色	シルト	SD1005埋土、弥生土器片ごく微量、 褐色・灰色砂粒微量、粘性あり、縮りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SK1009	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	SK1009埋土、褐色・灰色砂粒少量、 粘性弱、縮りあり
	6	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルトブロック・粒微量、 粘性弱、縮りあり
	7	2.5YR3/2 黒褐色	砂質シルト	漸移層的、径1~3cm大の礫少量、 粘性弱、縮り軟質
	8	10YR4/4 褐色	粗粒砂・ 中粒砂	基盤層、径5~10cm大の礫少量、黒褐 色粘土質シルト少量、粘性弱、縮り軟質
	9	2.5R5/4 黄褐色	粗粒砂・ 中粒砂	基盤層、褐色・灰色砂粒少量、 粘性やや弱い、縮りあり

図9 SD1005・SK1009遺構図



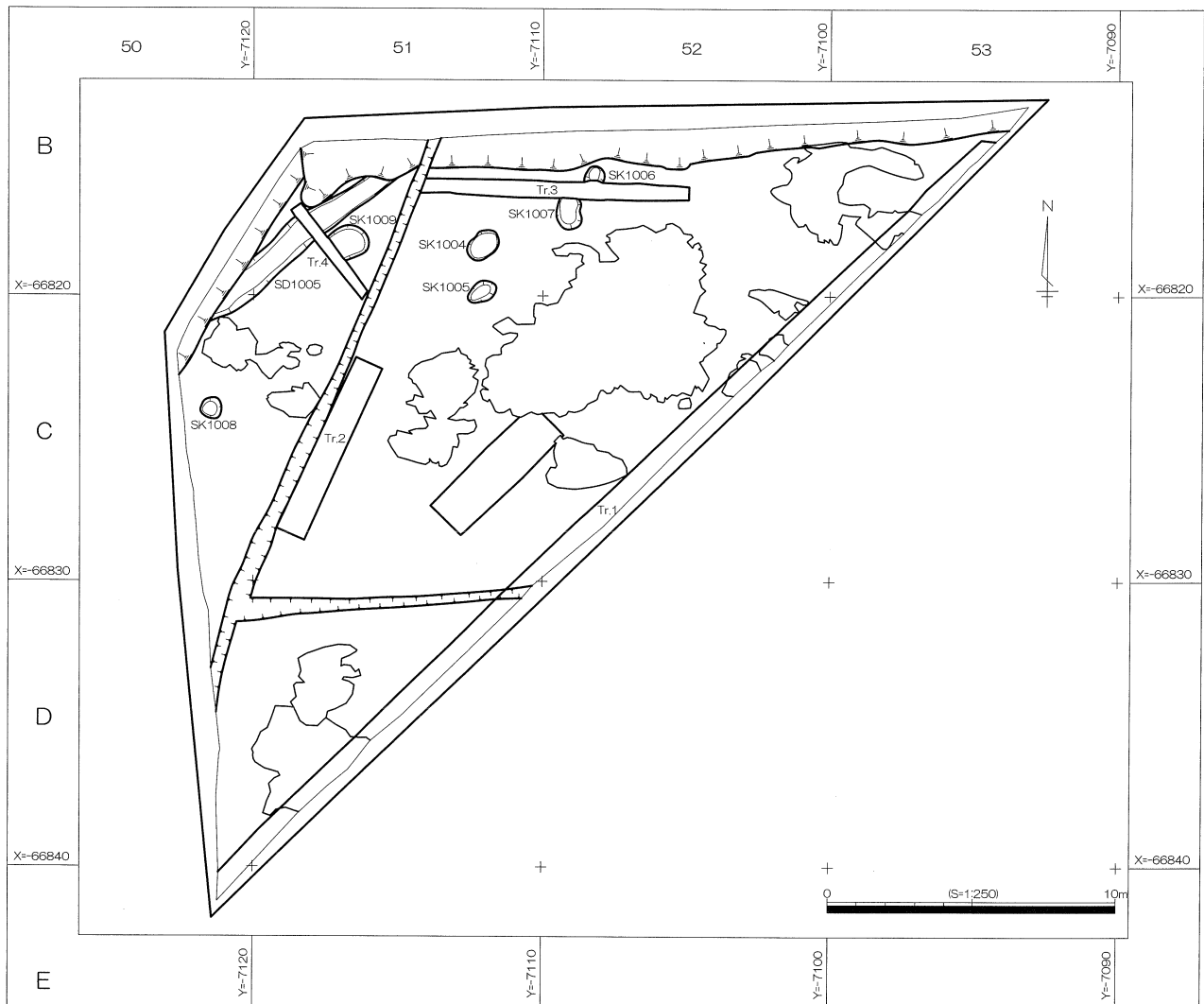


図10 1区 第4面平面図

■ SD1005(図 9、写真図版 3)

位置 第4面 B50・51、C50・51 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 45.599m である。

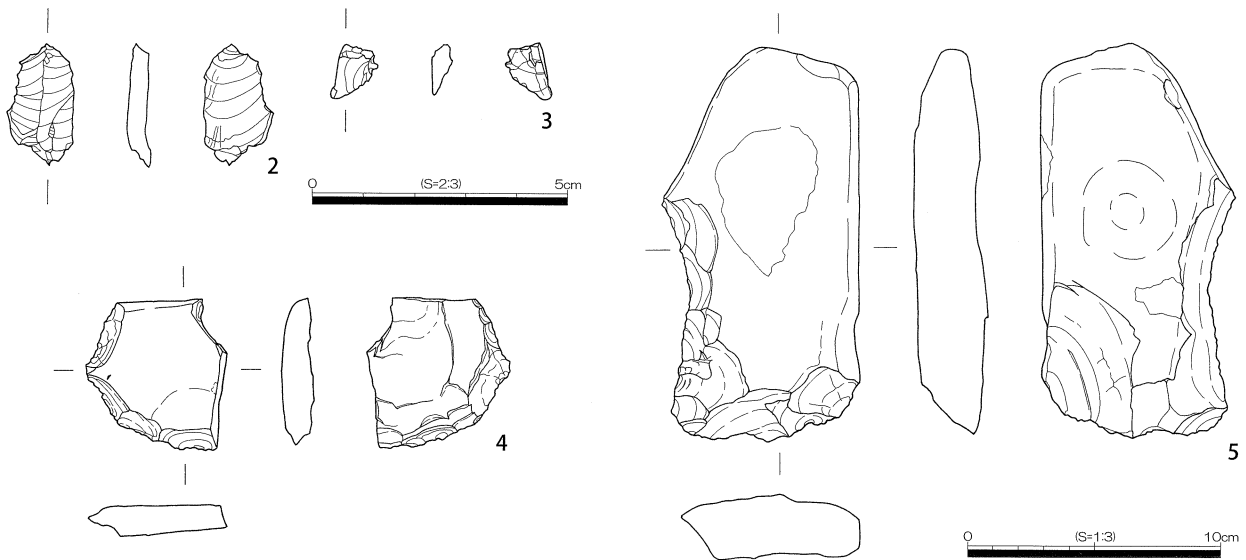
検出状況 1区北西側に Tr.4 を設定し土層堆積状況を確認したところ、溝の断面と思われる落ち込みを確認した。第3面の確認面となっていたにぶい黄褐色粘土粒混じりの黒褐色砂質シルト層は、河川氾濫等による洪水性の堆積層であり、同時に弥生～古墳時代遺物包含層であった。SD1005 はこの層の直下で検出され、また SD1005 の東側には楕円形の落ち込み SK1009 が並存する。

平面形状・規模 平面形は帯状で、残存長 8.100m・幅 1.040m を測る。断面形は逆台形に近い形状で、確認面からの遺構底面までの深さは 0.275m である。調整痕等は確認できない。溝の底面レベルは南から北へ下がる。

埋土 埋土は上層が黒褐色砂質シルトを主体とし、下層は暗灰黄色シルトを主体とする。全体に褐色砂粒・灰色砂粒を含む。

出土遺物 弥生時代の土器片 32 点が出土した。いずれも細片であるが、うち 1 点は弥生時代終末期の甕の口縁部である。

遺構の性格と帰属時期 溝である。出土遺物と検出面から弥生時代終末期以降と推測する。



遺物図2 1区 抽出遺構外出土遺物

遺物観察表 2

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図番号	図版番号	種別	種別	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成色調	備考
2	1	土石流跡 1 (1006)	2	46	石器	剥片	長さ:2.4 幅:1.3 厚さ:0.4 重さ:1.1		黒曜石	黒	
3	1	C51 耕作土	2	46	石器	剥片	長さ:1.1 幅:0.8 厚さ:0.4 重さ:0.2		黒曜石	黒	
4	1	C51 Tr.2	2	46	石器	不明未製品	長さ:5.6~ 幅:6.0 厚さ:1.25 重さ:58.0	打製剥片を素材とし、湾曲する周縁部分に敲打により両刃を作る	頁岩 (新第三紀)	灰	外湾刃半月形石包丁の粗割り段階での破損品か
5	1	B51 第4層 黒褐色土	2	46	石器	石斧	長さ:15.65 幅:7.7 厚さ:2.9 重さ:494.0	打製扁平な礫を素材とする一側縁・刃部を敲打により成形	頁岩 (新第三紀)	灰白	

表 2 1区 遺構一覧表

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	Grid	平面形	断面形	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	埋土	備考
道	1002	道路状遺構	1	B51・52 C51	直線状	逆凹型	17.600	2.680	0.077	暗灰色砂粗粒砂・中粒砂主体	不明鉄製品、現代
P1001	1014	ピット	2	B52	円形	U字形	0.336	0.301	0.159	黒色シルト主体、灰白色粒微量	P1002に切られる、SD1002を切る、遺物なし
P1002	1015	ピット	2	B52	円形	U字形	0.260	0.226	0.109	黒色シルト主体、灰白色粒微量	P1001を切る
石垣・耕作土	1003	石垣・耕作土	2	B51・52 C51・52	石垣:直線状、耕作土:長方形	階段状	13.550	2.180	0.370	黒褐色砂質シルト主体	棚田の石垣と耕作土、肥前系染付磁器片、近世
耕作土 1	1016	耕作土	2	D50・51	隅丸長方形?	盤形	(7.500)	6.300	0.243	黒褐色砂質シルト主体	近世以降
耕作土 2	1017	耕作土	2	D50・51	隅丸長方形?	盤形	(5.860)	3.120	0.088	黒褐色砂質シルト主体	近世以降
SK1001	1007	土坑	3	C51	円筒円形	皿形	1.139	0.909	0.069	黒色砂質シルト主体、径 5 ~ 15cm の礫	礫集中、2 面
SK1002	1008	土坑	3	D51	楕円形	不整 U 字形	1.078	0.880	0.296	黒褐色砂質シルト主体、径 5 ~ 30cm の礫	壁面・底面に凹凸が多い、礫集中、遺物なし
SK1003	1012	土坑	3	C51	円形	不整 U 字形	0.875	0.732	0.196	黒褐色砂質シルト主体	遺物なし
SD1001	1001	溝	3	B52・53	直線状	逆台形	(5.973)	1.598	0.252	上層:黒褐色シルト層主体、下層:黒色シルト主体、礫多数	土石流跡 2 に切られる、両端部は調査区外に延びる、古墳時代土器数片以下 12 点
SD1002	1005	溝	3	B51・52 C50・51	直線状	逆台形	19.702	0.397	0.166	黒色砂質シルト主体	弥生終末期~古墳時代の土器片 26 点
SD1003	1009	溝	2	D50・51	直線状	浅い U 字形	0.194	0.400	0.050	黒褐色砂質シルト主体	遺物なし
SD1004	1010	溝	3	C50・51	直線状	浅い U 字形	2.227	0.313	0.065	黒色砂質シルト主体、径 0.5 ~ 3cm の礫少量	遺物なし
土石流跡 1	1006	土石流跡	3	B51 C51・52	不整溝状	不整 U 字形	5.940	1.660	0.434	黒褐色砂質シルト主体、礫・砂粒あり	水流痕が溝状残る
土石流跡 2	1011	土石流跡	3	B52	不整溝状	不整 U 字形	2.560	0.860	0.210	黒褐色砂質シルト主体、礫微量、砂粒あり	SD3001 を切る
欠番	1013	溝	3	B51・C51	—	—	—	—	—	—	—
SD1005	1024	溝	4	B50・51 C50・51	直線状	逆台形	8.100	1.040	0.275	黒褐色シルト主体、径 5 ~ 30cm 大の礫	弥生時代終末期の礫片以下 32 点
SK1004	1018	土坑	4	B51	楕円形	不整 U 字形	1.240	0.820	0.172	黒褐色砂質シルト主体、黒色シルト 10%、灰白色粒微量	弥生時代以前、倒木痕?
SK1005	1019	土坑	4	B51・C51	楕円形	不整 U 字形	1.080	0.720	0.168	黒褐色砂質シルト主体	弥生時代以前、倒木痕?
SK1006	1020	土坑	4	B52	楕円形	U 字形	0.680	0.520	0.269	黒褐色砂質シルト主体、径 0.5 ~ 3cm の礫少量	弥生時代以前、倒木痕?
SK1007	1021	土坑	4	B52	円形	U 字形	1.100	0.820	0.283	①灰黄褐色砂質シルト主体、径 0.5 ~ 2cm の礫微量、②黒褐色シルト主体、黒色シルトブロック点在	弥生時代以前、倒木痕?
SK1008	1022	土坑	4	C50	円形	皿形	0.780	0.760	0.091	黒褐色砂質シルト主体、黒色シルトブロック少量	弥生時代以前、倒木痕?
SK1009	1023	土坑	4	B51	楕円形	皿形	1.180	1.140	0.201	暗褐色砂質シルト主体、径 0.5 ~ 3cm の礫微量	弥生時代以前

第2節 2区遺構と遺物

2区は発掘調査対象区のほぼ中央、1区と3区の上に位置する。調査地の形状は東西に長い長方形である。調査はトレンチ確認調査を含め3面にわたっておこなった。

第1項 2区基本層序

2区調査に先立ち、八頭町教育委員会発掘調査監理者の指示の下でトレンチ調査をおこなった。試掘調査ではどうしてもスポット確認になってしまう。本調査区周辺では、遺物包含層の厚さに差があることが予想される中、地層の対応関係が不明瞭とのことであった。このため、地層の繋がりや遺物包含層の確認及び調査方針の検討が必要になった。

トレンチ設定 地層の連続性を確認することを主目的とし、調査区外周と中央にロングトレンチを設定した。最初に南部を東西に縦断する60mの長さのTr.1を設定した。本来は調査区南壁沿いに設定する予定であったが、新設されたU字溝の掘方を避けるために、調査区内に3m寄せて設定することにした。これを起点として、Tr.1中央にこれと直交する南北方向のTr.2を、西壁沿いにTr.3を、北壁沿いにTr.4を設定した。表土剥ぎ終了後、東壁沿いにTr.5を設定し、遺物包含層の連続性と遺構・遺物の遺存状態を確認した。

層序設定 地層の断面観察は、土色・土質・締り具合・混入物、及び堆積構造に注意しながら分層した。細分された単位のうち、時代・堆積環境・調査面等の違いなど共通性を示す範囲でグループとした。調査時は現代から順に“第〇層”として第1層～第10層までの層序名を付した。遺物取り上げや写真撮影等、記録に関わる層呼称にはこれを使用した。報告書作成にあたり、調査区名を頭に付し2-1層から2-10層とした。

遺物包含層と調査面 調査区内の広範囲に薄く水平に堆積する褐灰色砂質シルト(2-6層)には、微細な弥生土器・土師器片が一定量含まれていた。このため、最初に調査すべき遺物包含層と認定した。この2-6層掘削及びその除去面における遺構検出・調査までを第1面調査とした。2-6層の下には、同じく遺物が含まれる2-7層がある。北から南にかけて下がる堆積層で、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺物包含層であることを確認した。2-7層掘削及びその除去面における遺構検出・調査までを第2面調査とした。さらに下位の2-8層は基本的に無遺物層であったが、検出漏れ遺構の確認のために別途トレンチ調査を実施した。Tr.10～Tr.15までのトレンチの設定、最終基盤層である2-9層・2-10層までの掘削及び遺構検出・調査までを第3面調査とした。

セクション図 Tr.1～Tr.5のセクション図を図12～14に掲載する。地層名と基本層序の対応は土層観察表を参照。

基本層序(図11～14、表3、遺物図3・4、遺物観察表3・4、巻頭図版6、写真図版4・5・46～48)

攪乱 本体工事(県道河原インター線道路改良工事)に伴う盛土層。調査地内に既に施工されているU字溝・埋設管等の水利施設施工のための整地・攪乱・盛土層等。ブロック土を多量に含む攪乱層で締りが弱いのが特徴。

2-1層(第1層) 黒色極細粒砂を主体とする土壌層、耕作土と考えられる。本体工事前の現地表面に形成されていた現代の水田耕作土である。今回の調査では現代耕作土の除去後に調査地の引き渡しを受けているが、調査区中央部(Tr.2セクション)において一部残存を確認した。本来の表土と考え

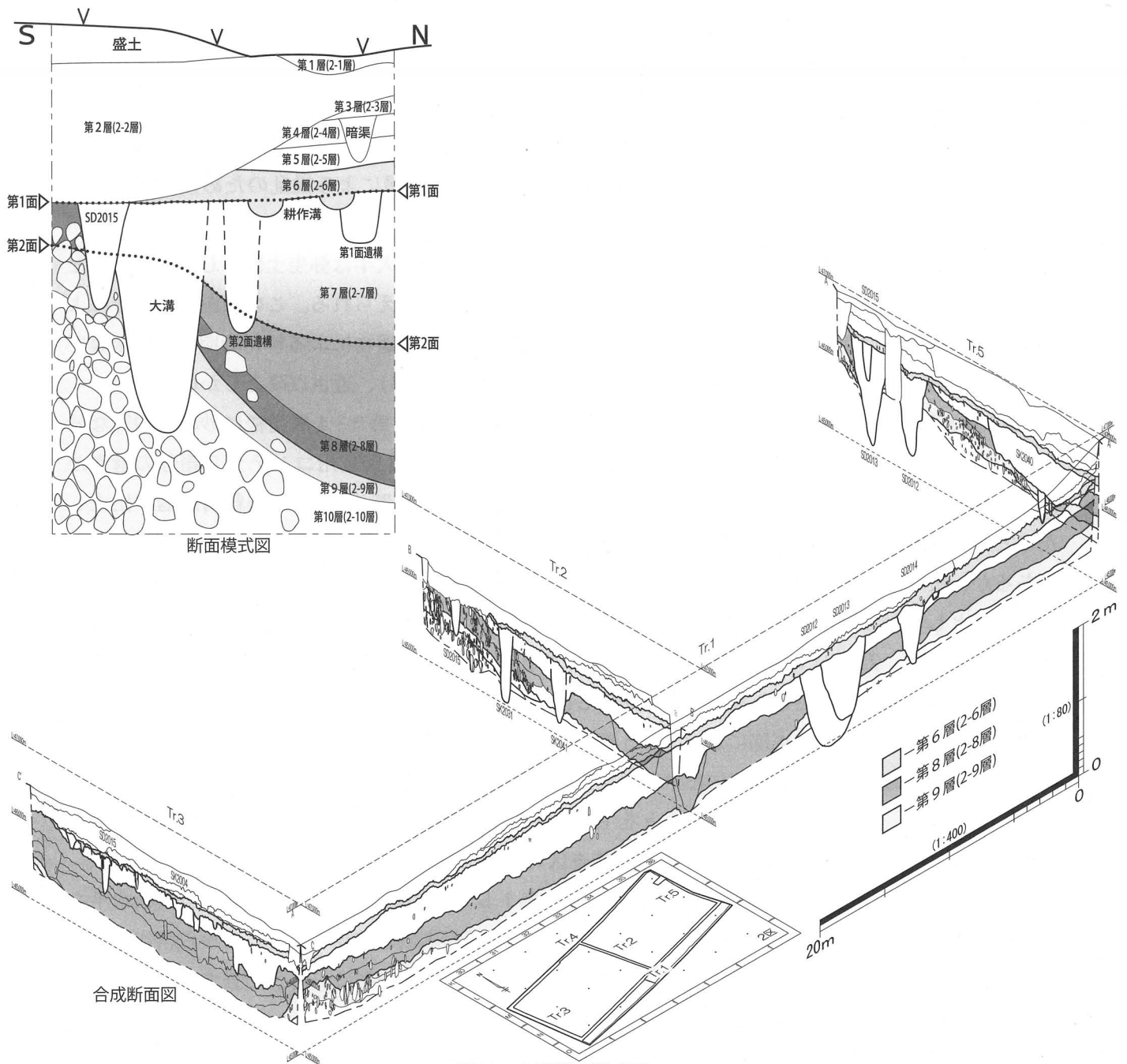


図11 2区断面模式図

られるうえ、2-2層との層序関係が判明したため層序に組み込んだ。

2-2層(第2層) ブロック土と礫を含む、硬く締った灰色砂質シルトを主体とする攪乱層。圃場整備時の攪乱及び整地層である。調査地全域に普遍的に存在する当層は、少なからず下位層を攪乱している。攪乱深度は基盤層(2-10層)が高くなる北に向かって深くなり、部分的に無遺物層である2-9層にまで達する。

2-3層(第3層) 黄灰色細粒砂を主体とする土壌層である。2-2層の攪乱のため残存状況は悪く、2区東端にしか残存しない。特徴として砂粒の均等な分布と、層下面がほぼ水平に揃い下位層とは明瞭に分層されることが挙げられる。この解釈として、砂粒の均等分布は層中がよく攪拌されたことを、明瞭な層界はその攪拌の底を示すものと考えられる。これが水平方向に続くことから、当層の形成要因は一定の攪拌行為の結果と推定される。したがって、当土壌層は耕作土の可能性が高いと考えられ

る。時期を判断しうる遺物は確認できなかったが、2-2層及び後述の2-5層の時期所見から考えて、近・現代の耕作土と推定される。

2-4層(第4層) オリーブ黒色砂質シルトを主体とする土壌層である。2-3層と同様に砂粒の均等な分布と、ほぼ水平に揃う層下面から耕作土と考えられる。上位層による攪乱のため残存状態は悪く、調査区南西部に一部残存するのみである。遺物量は希薄であり、全て表面摩耗の進んだ細片遺物である。これは耕作土内特有の出土状況といえる。これらの土器の大半は弥生土器もしくは土師器と推定され、元は遺物包含層である下位の2-7層に帰属していたと考えられる。この状況は、耕作による巻き上げ遺物が長期にわたる耕作を受けたことを示すに過ぎず、遺物による耕作時期判断は困難である。したがって、当層の耕作時期は下位の2-5層の時期所見を受け、近世以降としかいえない。

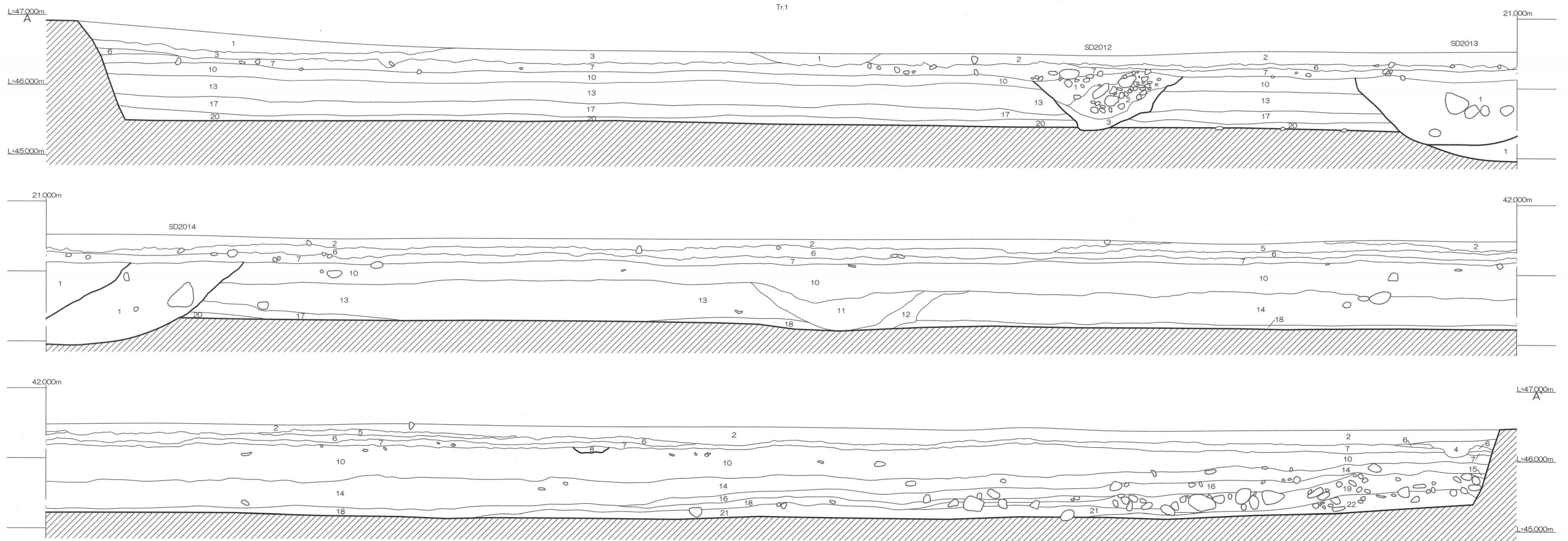
2-5層(第5層) 褐灰色砂質シルトを主体とする土壌層である。第3・4層同様に砂粒の均等な分布と、ほぼ水平に揃う層下面から耕作土と考えられる。層中からは整理用コンテナ2箱分の遺物が出土した。弥生土器・土師器に混じりわずかながら須恵器類(古墳時代後期)・施釉陶磁器が出土したことから、2-5層耕作時期は近世以降と判断される。土器類は上位耕作土と同じく表面摩耗が顕著であるが、破片サイズはやや大きくなる傾向にある。これに対して下位層との比較では、同時期の遺物を主体としながら破片サイズが細くなっている。これは、2-5層耕作行為が下位層を大きく攪乱したことを示す。21・22は碧玉製の管玉である。穿孔部に特徴がみられる。孔は円錐状、片側からの穿孔であり、貫通時に生じた割れ円錐を研磨し面を整える。

調査時は2区中央部から東部にかけて2-5層の掘削調査を実施した。本来は2-6層との遺物の選別のための掘削であったが、東端部において南北方向の耕作溝を1条確認した。

2-6層(第6層) 黒色極細粒砂～シルトを主体とする土壌層である。層相は下位層の土質を少なからず反映しており、古い時期の高まりである調査区北東部では粒度が高く礫が含まれるようになる。薄いながらも2区全域で広く確認される層であり、各トレンチの断面観察からは当層が概ね水平方向に形成されているのが確認できる。ほぼ水平に揃う層下面が広域に確認されることから耕作土の可能性が高いと考えられる。同じ耕作土である直上の2-5層との分層根拠は、暗色の強さと遺物含量の多さである。層中からは整理用コンテナ6箱分の遺物が出土した。包含される遺物は弥生時代後期～古墳時代前期の土器を主体とし、わずかに古墳時代後期に属する須恵器も認められる。また、破片の大きさも2-5層に比較して大きなものが多い。帰属時期を決定できる遺物がなく調査所見からは2-6層耕作時期は古墳時代後期以降近世以前としかいえない。2-6層は、2区で確認しうる最も古い段階の耕作土である。7は碧玉製の管玉である。孔内に段がみられ、両面からの穿孔であることがわかる。単独出土である。

調査時は一定の遺物量が見込まれることから遺物包含層として掘削調査し、この2-6層除去面を第1面として調査を行った。第1面で検出した複数条の小溝は2-6層を埋土とし等間隔に並行することから耕作関連遺構と考えられ、2-6層が耕作土であることの裏付けとなった。

2-7層(2-7層) 灰黄褐色中粒砂～極細粒砂を主体とする堆積層である。締りが弱く粘性に富む。2区北東部を除く全域に堆積しており、北東部から中央部にかけて南西方向に下がり、それに伴って層厚は厚くなる。中央部～南西部が最も深く、南西端にかけては再び上がる。堆積状況を各トレンチの断面から復元すると2区南東から北西方向に延びる溝状の大きな落ち込みが想定され、2-7層はそれを充填する堆積層と理解される。層上部には植生擾乱とみられる不明瞭・不定形な暗色土のブロック



Tr.1 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類等
1	5Y5/2 灰オリーブ色	細粒砂 ～シルト	現代・盛土・攪乱 径10cm以下の礫・ブロック土多量 締り軟質	攪乱
2	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・圃場整備関連層 中粒砂～粗粒砂・ブロック土多量 径5cm以下の礫少量、締り硬質	第2層 (2-2層)
3	2.5Y6/1 黄灰色	細粒砂	圃場整備以前耕作土 中粒砂少量、径5cm以下の円礫微量 締り硬質	第3層 (2-3層)
4	2.5Y5/1 黄灰色	砂質 シルト	現代・暗渠、粗粒砂～極細粒砂少量 径30cm以下の円礫少量	攪乱
5	5Y3/1 オリーブ黒色	砂質 シルト	圃場整備以前耕作土 中粒砂少量、径3cm以下の円礫少量 土器細片微量	第4層 (2-4層)
6	10YR4/1 褐灰色	砂質 シルト	圃場整備以前耕作土 中粒砂少量	第5層 (2-5層)
7	10YR2/1 黒色	極細粒砂 ～シルト	弥生～古墳時代遺物包含層(耕作土) 東に向かって円礫増加、締り軟質	第6層 (2-6層)
8	10YR3/1 黒褐色	極細粒砂 ～シルト	第2面遺構埋土 締り軟質	第2面 遺構埋土
9	10YR3/1 黒褐色	極細粒砂 ～シルト	第2面遺構埋土 径20cm以下の円礫多量、土器片少量	第2面 遺構埋土
10	10YR5/2 灰黄褐色	中粒砂～ 極粗粒砂	弥生～古墳時代遺物包含層 下方に中粒砂・東に向かって円礫増加 締り軟質	第7層 (2-7層)
11	10YR5/2 灰黄褐色	中粒砂～ 極細粒砂	植生痕? 径5cm以下の礫・基盤層砂粒微量 下方に中粒砂増加	植生痕
12	2.5Y4/2 暗灰黄色	中粒砂～ 極細粒砂	植生痕? 径5cm以下の礫・基盤層砂粒微量 下方に中粒砂増加	植生痕
13	2.5Y2/1 黒色	極細粒砂 ～シルト	古土壌表層、粗粒砂～中粒砂少量 西に向かって暗色が弱く、中粒砂が減少	第8層 (2-8層)
14	2.5Y4/1 黄灰色	極細粒砂 ～シルト	古土壌表層 東に向かって中粒砂が減少	第8層 (2-8層)

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類等
15	2.5Y4/1 黄灰色	極細粒砂 ～シルト	径2cm以下の円礫微量	第8層 (2-8層)
16	10YR2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	古土壌表層、中粒砂少量 西に向かって暗色が弱くなる	第8層 (2-8層)
17	2.5Y4/2 暗灰黄色	中粒砂～ 極細粒砂	古土壌 粗粒砂中量	第9層 (2-9層)
18	2.5Y4/2 暗灰黄色	細粒砂～ 極細粒砂	古土壌 粗粒砂～細粒砂中量	第9層 (2-9層)
19	2.5Y4/2 暗灰黄色	粗粒砂～ 極細粒砂	古土壌 極粗粒砂中量、径10cmの礫少量	第9層 (2-9層)
20	2.5Y6/4 にぶい黄色	中粒砂～ 極細粒砂	基盤層 粗粒砂中量、径10cm以下の円礫微量 締り硬質	第10層 (2-10層)
21	2.5Y6/4 にぶい黄色	細粒砂～ 極細粒砂	基盤層、中粒砂中量 締り硬質	第10層 (2-10層)
22	2.5Y6/4 にぶい黄色	極粗粒砂 ～中粒砂	基盤層 径20cm以下の礫多量、締り硬質	第10層 (2-10層)

SD2012・SD2013・SD2014(Tr.1) 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類等
1	2.5Y5/1 黄灰色	中粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂中量、径20cm以下の礫少量 土器片多量	SD2012
2	2.5Y4/1 黄灰色	中粒砂～ 極細粒砂	径30cm以下の礫多量、粗粒砂中量 土器片多量	SD2012
3	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	加工層、第10層ブロック土少量	SD2012
1	2.5Y4/1 黄灰色	中粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂中量、径20cm以下の礫少量 遺構の範囲を捉えたのみで未細分 詳細な断面記録は他セクションを参照	SD2013
1	2.5Y4/1 黄灰色	中粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂・径30cm以下の礫微量 遺構の範囲を捉えたのみで未細分 詳細な断面記録は他セクションを参照	SD2014

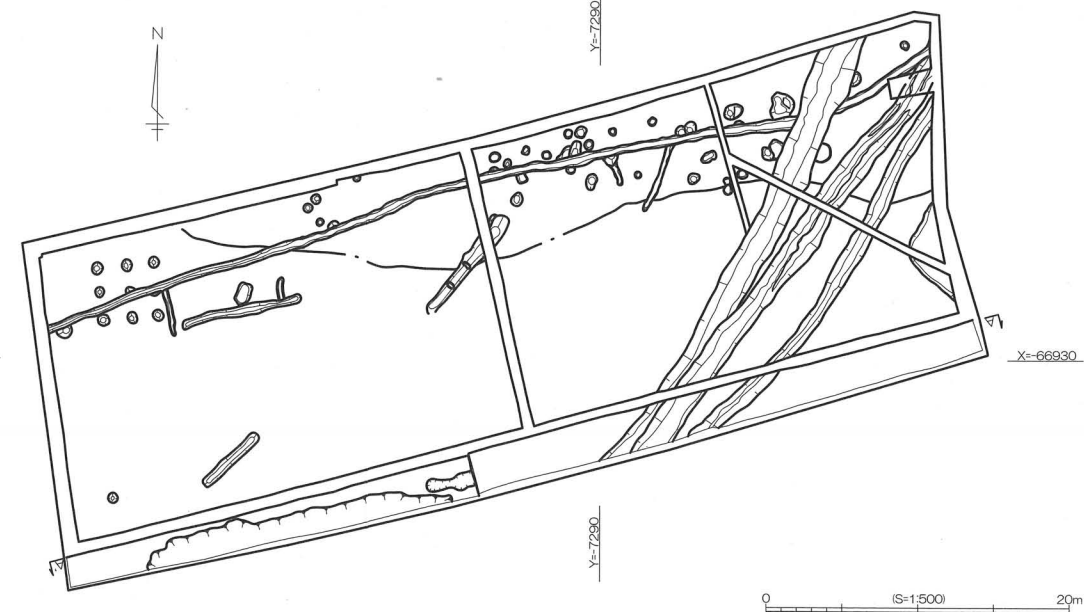
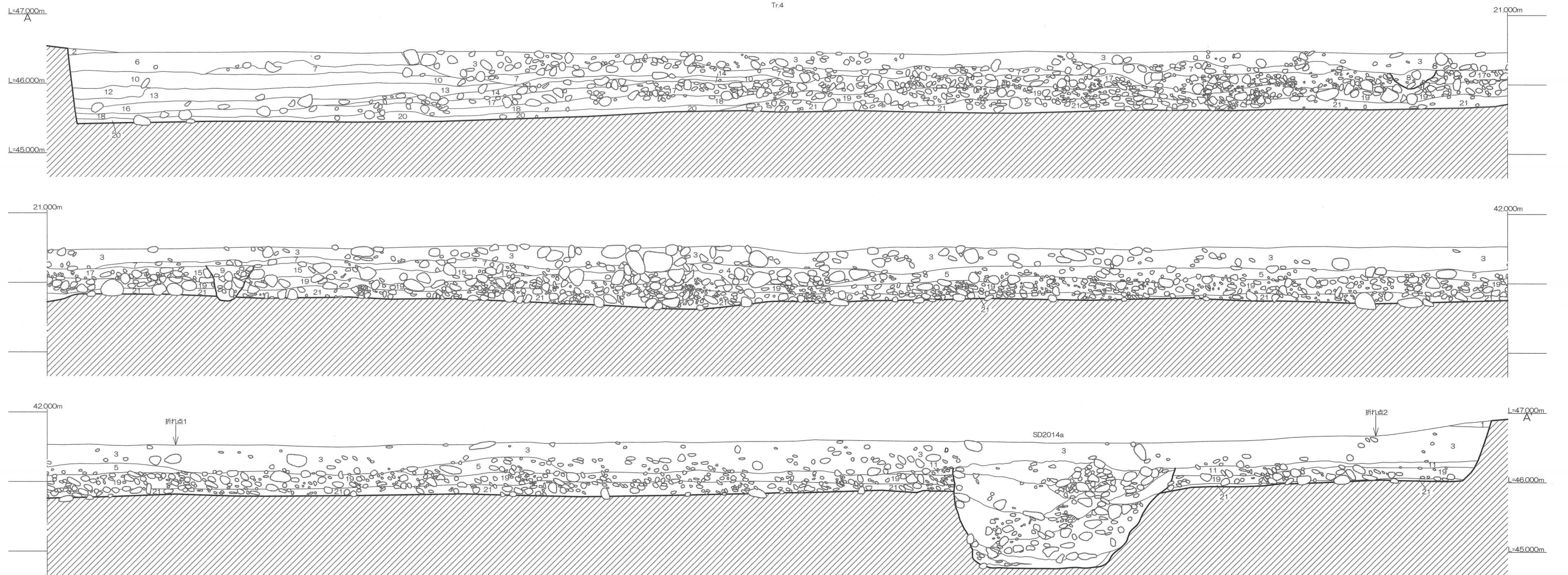


図12 2区 Tr.1セクション図



※SD2014土色は個別セクション図を参照



Tr.4 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類等
1	2.5Y5/1 黄灰色	細粒砂	現代・盛土 径10cm以下の礫少量、縮り軟質	攪乱
2	5Y5/2 灰オリーブ色	細粒砂～ シルト	現代・盛土及び攪乱 径10cm以下の礫・ブロック土多量 縮り軟質	攪乱
3	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・U字溝掘方 径20cm以下の礫・ブロック土少量 縮り軟質	攪乱
4	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・U字溝掘方、径20cm以下の礫多量 ブロック土少量、縮り軟質	攪乱
5	5Y5/1 灰色	中粒砂～ 極細粒砂	現代・U字溝掘方もしくは圃場整備関連層 径20cm以下の礫少量	攪乱or 第2層
6	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・圃場整備関連層 粗粒砂～中粒砂・ブロック土多量 径5cm以下の礫少量、縮り硬質	第2層 (2-2層)
7	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・圃場整備関連層 粗粒砂～中粒砂・ブロック土多量 径30cm以下の礫中量	第2層 (2-2層)
8	10YR3/2 黒褐色	細粒砂	第2面遺構埋土、極細粒砂～中粒砂中量 径2cm以下のブロック土少量 径10cm以下の礫微量	第2面 遺構埋土
9	10YR3/2 黒褐色	細粒砂	第2面遺構埋土 極粗粒砂～中粒砂・径15cm以下の礫中量 径2cm以下のブロック土少量	第2面 遺構埋土
10	2.5Y3/1 黒褐色	中粒砂～ 極細粒砂	古土壌表層、粗粒砂少量 東に向かって径20cm以下の礫増加	第8層 (2-8層)

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類等
11	2.5Y2/1 黒色	極細粒砂 ～シルト	古土壌表層 径20cm以下の円礫微量	第8層 (2-8層)
12	10YR5/1 褐色	細粒砂～ 極細粒砂	2.5Y7/3浅黄色シルトブロック少量	第8層 (2-8層)
13	2.5Y4/1 黄灰色	極細粒砂 ～シルト	粗粒砂～中粒砂少量 径2cm以下の円礫微量	第8層 (2-8層)
14	2.5Y4/1 黄灰色	中粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂少量 東に向かって径20cm以下の礫が増加	第8層 (2-8層)
15	2.5Y4/1 黄灰色	中粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂少量、径20cm以下の円礫少量	第8層 (2-8層)
16	10YR1.7/1 黒色	細粒砂～ シルト	古土壌表層、中粒砂少量 径20cm以下の円礫微量	第8層 (2-8層)
17	2.5Y2/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	古土壌表層、粗粒砂中量 東に向かって径20cm以下の円礫増加	第8層 (2-8層)
18	2.5Y4/2 暗灰黄色	中粒砂～ 極細粒砂	古土壌 粗粒砂中量	第9層 (2-9層)
19	2.5Y4/2 暗灰黄色	粗粒砂～ 細粒砂	古土壌、極粗粒砂中量 東に向かって径20cm以下の円礫増加	第9層 (2-9層)
20	2.5Y6/4 にぶい黄色	中粒砂～ 極細粒砂	基盤層、粗粒砂中量 径20cm以下の円礫微量、縮り硬質	第10層 (2-10層)
21	2.5Y6/4 にぶい黄色	極粗粒砂 ～中粒砂	基盤層 東に向かって30cm以下の円礫増加	第10層 (2-10層)

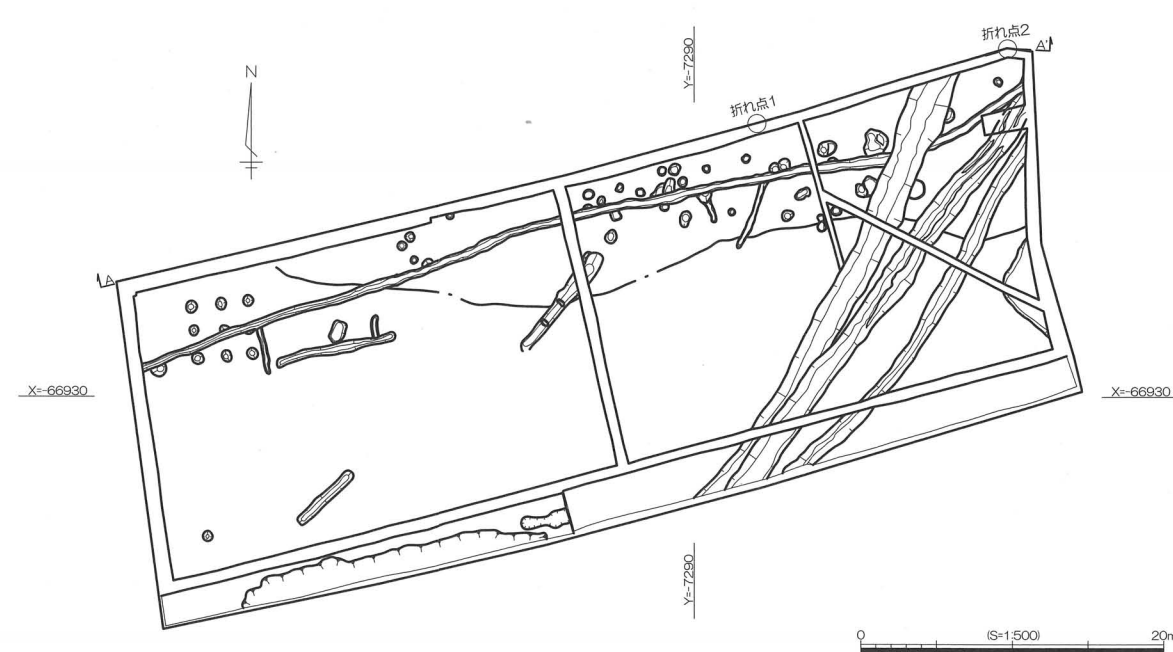
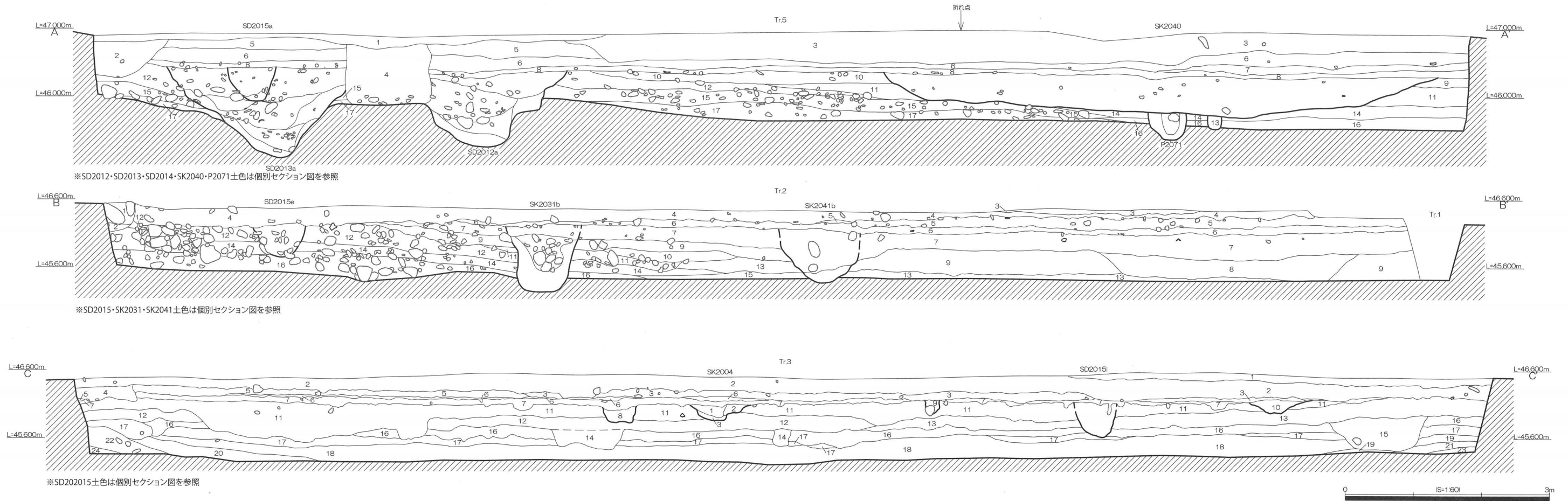


図13 2区 Tr.4セクション図



Tr.5 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類等
1	2.5Y5/1 黄灰色	細粒砂	現代・盛土 径10cm以下の礫少量、締め硬質	攪乱
2	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・U字溝掘方 径20cm以下の礫・ブロック土少量 締め軟質	攪乱
3	2.5Y6/1 黄灰色	細粒砂～ 極細粒砂	現代・攪乱 径5cm以下の礫多量	攪乱
4	2.5Y4/1 黄灰色	礫～ シルト	現代・八頭町教育委員会試掘埋戻土 ブロック土多量	攪乱
5	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・圃場整備関連層、中粒砂～ 粗粒砂・5Y6/1シルトブロック状に多量 径5cm以下の円礫少量、締め硬質	第2層 (2-2層)
6	2.5Y6/1 黄灰色	細粒砂	圃場整備以前耕作土、中粒砂少量 径5cm以下の円礫微量、締め硬質	第3層 (2-3層)
7	10YR4/1 褐灰色	砂質 シルト	圃場整備以前耕作土 中粒砂少量	第5層 (2-5層)
8	10YR2/1 黒色	極細粒砂 ～シルト	弥生～古墳時代遺物包含層(耕作土) 北に向かって円礫増加、締め軟質	第6層 (2-6層)
9	10YR5/2 灰黄褐色	中粒砂～ 極細粒砂	弥生～古墳時代遺物包含層 下方に中粒砂増加	第7層 (2-7層)
10	10YR5/2 灰黄褐色	中粒砂～ 極細粒砂	弥生～古墳時代遺物包含層 粗粒砂中量、下方に中粒砂増加 北に向かって円礫増加	第7層 (2-7層)
11	2.5Y2/1 黒色	極細粒砂 ～シルト	古土壌表層 径20cm以下の円礫微量	第8層 (2-8層)
12	2.5Y2/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	古土壌表層、粗粒砂中量 北に向かって径20cm以下の円礫増加	第8層 (2-8層)
13	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	第3面遺構埋土、中粒砂中量 西に向かって暗色が弱く、中粒砂減少	第3面 遺構埋土 第9層
14	2.5Y4/2 暗黄灰色	極細粒砂	古土壌 粗粒砂中量	第9層 (2-9層)
15	2.5Y4/2 暗黄灰色	粗粒砂～ 細粒砂	古土壌、極粗粒砂中量 北に向かって径20cm以下の円礫増加	第9層 (2-9層)
16	2.5Y6/4 にぶい黄色	中粒砂～ 極細粒砂	基盤層、粗粒砂中量 径10cm以下の円礫微量、締め硬質	第10層 (2-10層)
17	2.5Y6/4 にぶい黄色	極粗粒砂 ～中粒砂	基盤層、北に向かって30cm以下の 円礫増加、締め硬質	第10層 (2-10層)

Tr.2 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類等
1	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・U字溝掘方 径10cm以下の礫・ブロック土多量	攪乱
2	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・U字溝掘方 径20cm以下の礫少量、ブロック土少量 締め軟質	攪乱
3	7.5Y2/1 黒色	極細粒砂	現代・耕作土 粗粒砂中量、径5cm以下の礫微量	第1層 (2-1層)
4	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・圃場整備関連層 細かなブロック土、中粒砂～粗粒砂多量 径5cm以下の円礫少量、締め軟質	第2層 (2-2層)
5	10YR4/1 褐灰色	砂質 シルト	圃場整備以前耕作土 中粒砂少量	第5層 (2-5層)
6	10YR2/1 黒色	極細粒砂 ～シルト	弥生～古墳時代遺物包含層(耕作土) 北に向かって径10cm以下の円礫増加	第6層 (2-6層)
7	10YR5/2 灰黄褐色	中粒砂～ 極細粒砂	弥生～古墳時代遺物包含層 下方に中粒砂増加	第7層 (2-7層)
8	2.5Y3/1 黒褐色	極細粒砂 ～シルト	植生痕? 粗粒砂～中粒砂中量	植生痕
9	2.5Y3/1 黒褐色	極細粒砂 ～シルト	古土壌表層、粗粒砂～中粒砂少量 南に向かって暗色弱く、中粒砂が減少	第8層 (2-8層)
10	2.5Y3/1 黒褐色	中粒砂～ 極細粒砂	古土壌表層 粗粒砂・径15cm以下の礫少量	第8層 (2-8層)
11	2.5Y4/1 黄灰色	中粒砂～ 極細粒砂	古土壌表層 粗粒砂・径15cm以下の礫中量	第8層 (2-8層)
12	2.5Y2/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	古土壌表層、粗粒砂少量 北に向かって径15cm以下の礫増加	第8層 (2-8層)
13	2.5Y4/2 暗黄灰色	細粒砂～ 極細粒砂	古土壌 粗粒砂～細粒砂中量	第9層 (2-9層)
14	2.5Y4/2 暗黄灰色	粗粒砂～ 細粒砂	古土壌、極粗粒砂中量 北に向かって径20cm以下の円礫増加	第9層 (2-9層)
15	2.5Y6/4 にぶい黄色	中粒砂～ 極細粒砂	基盤層、粗粒砂中量 径10cm以下の円礫微量、締め硬質	第10層 (2-10層)
16	2.5Y6/4 にぶい黄色	極粗粒砂 ～中粒砂	基盤層、北に向かって径30cm以下の 円礫増加、締め硬質	第10層 (2-10層)

Tr.3 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類等
1	5Y5/2 灰オリーブ色	細粒砂～ シルト	現代・盛土及び攪乱 径10cm以下の礫・ブロック土多量 締め軟質	攪乱
2	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・圃場整備関連層 中粒砂～粗粒砂・ブロック土多量 径5cm以下の礫少量、締め硬質	第2層 (2-2層)
3	5Y5/1 灰色	砂質 シルト	現代・圃場整備関連層 中粒砂～粗粒砂・ブロック土多量 径5cm以下の礫少量、締め硬質	第2層 (2-2層)
4	2.5Y5/1 黄灰色	砂質 シルト	現代・暗渠、粗粒砂～極細粒砂少量 径30cm以下の円礫少量	攪乱
5	10YR4/1 褐灰色	砂質 シルト	圃場整備以前耕作土 中粒砂少量	第5層 (2-5層)
6	10YR6/2 オリーブ灰色	砂質 シルト	圃場整備以前耕作土 中粒砂微量	第5層 (2-5層)
7	10YR2/1 黒色	極細粒砂 ～シルト	弥生～古墳時代遺物包含層(耕作土) 東に向かって円礫増加、締め軟質	第6層 (2-6層)
8	2.5Y4/1 黄灰色	粗粒砂～ 極細粒砂	第2面遺構埋土 第7層起源の細かなブロック土少量 締め軟質	第2面 遺構埋土
9	10YR4/1 褐灰色	極細粒砂	第2面遺構埋土、ブロック土多量 中粒砂中量、最下部に径15cmの円礫	第2面 遺構埋土
10	10YR4/1 褐灰色	砂質 シルト	第2面遺構埋土 粗粒砂～中粒砂少量	第2面 遺構埋土
11	10YR5/2 灰黄褐色	中粒砂～ 極細粒砂	弥生～古墳時代遺物包含層 締め軟質	第7層 (2-7層)
12	2.5Y4/1 黄灰色	極細粒砂 ～シルト	古土壌表層、北に向かって中粒砂増加 北に向かって暗色が強くなる	第8層 (2-8層)
13	2.5Y3/1 黒褐色	中粒砂～ 極細粒砂	古土壌表層 粗粒砂少量	第8層 (2-8層)
14	2.5Y3/1 黒褐色	極細粒砂 ～シルト	植生痕? 中粒砂少量	植生痕?
15	2.5Y3/1 黒褐色	中粒砂～ 極細粒砂	植生痕? 粗粒砂少量	植生痕?
16	10YR5/1 褐灰色	細粒砂～ 極細粒砂	2.5Y7/3浅黄色シルトブロック少量 締め軟質	第8層 (2-8層)

SK2004(Tr.3) 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類等
1	2.5Y4/1 黄灰色	細粒砂～ 極細粒砂	径2cm以下の礫微量 締め軟質	第8層 (2-8層)
2	2.5Y4/1 黄灰色	細粒砂～ 極細粒砂	細かな第7層ブロック土少量 中粒砂微量、土器細片微量	SK2004 遺構埋土
3	2.5Y4/1 黄灰色	細粒砂～ 極細粒砂	細かな第7層ブロック土多量 中粒砂微量	SK2004 遺構埋土
17	2.5Y4/1 黄灰色	極細粒砂 ～シルト	古土壌表層 中粒砂少量	第8層 (2-8層)
18	2.5Y3/2 黒褐色	極細粒砂 ～シルト	古土壌表層 粗粒砂中量	第8層 (2-8層)
19	10YR1.7/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	古土壌表層 粗粒砂中量	第8層 (2-8層)
20	10YR1.7/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	古土壌表層 粗粒砂中量	第8層 (2-8層)
21	2.5Y4/2 暗黄灰色	中粒砂～ 極細粒砂	古土壌 粗粒砂中量	第9層 (2-9層)
22	2.5Y4/2 暗黄灰色	粗粒砂～ 極細粒砂	古土壌 極粗粒砂中量、径10cmの礫少量	第9層 (2-9層)
23	2.5Y6/4 にぶい黄色	中粒砂～ 極細粒砂	基盤層 粗粒砂中量、締め硬質	第10層 (2-10層)
24	2.5Y6/4 にぶい黄色	極粗粒砂 ～中粒砂	基盤層 径20cm以下の礫多量、締め硬質	第10層 (2-10層)

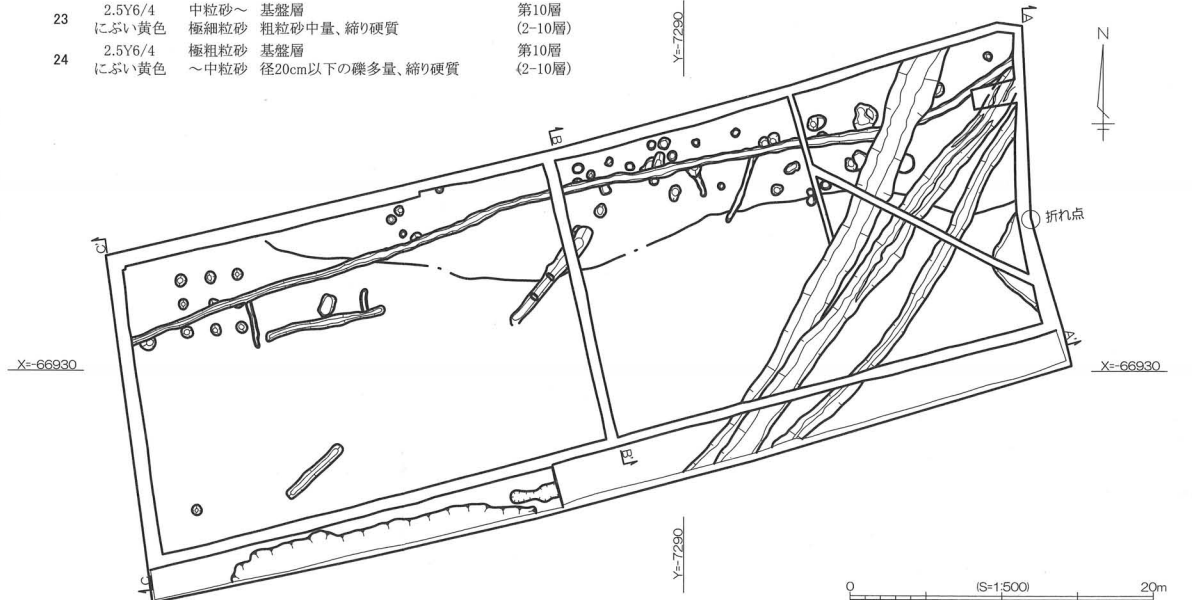


図14 2区 Tr.5・Tr.2・Tr.3セクション図

が見られる。また、これとは別に層下部に向かって部分的に暗色の濃淡がみられ土層詳細観察は困難である。土質的には層下部に向かって粒度がやや高くなる傾向がある。一定の厚さの中に明瞭な分層単位を見出せないことから、連続性の強い自然堆積層と思われる。

層中の遺物量は非常に多い。整理用コンテナ約 13 箱分の遺物が出土した。特筆すべきはその出土状況で、接合関係を持つ破片が狭い範囲に集中したり、完形に対して 50% を超えるような大きな破片単独で出土したりする。そのような遺物の出現頻度は高くはないが、このことは埋土と基盤層が類似するために検出できない遺構が存在する可能性を示している。

16 は土器転用の土製紡錘車である。甕もしくは壺の破片を円形に整え、中央に表裏から穿孔する。17 は緑色岩製の石製模造品、剣を模ったものとみられる。表面を研磨により平滑に仕上げる。上部の 2 か所の孔は穿孔途中、未製品である。10 は注口土器、壺形土器の肩部に長く細い注口が付く。外面と頸部内面を精緻なミガキで仕上げる。11・12 は同位置から出土した蓋と甕である。口径が一致することからセットの可能性はある。15 は高坏、坏部外面上半部に 2 段のスタンプ文で飾られる。上段は S 字状文、下段は三角形をモチーフとする文様である。正三角形と列点を組み合わせた特異な文様である。特に三角スタンプは他に類例がなく、当遺跡（集落）オリジナルの文様の可能性が高い。

調査時は、2-7 層を遺物包含層として包含層掘削し、その除去面を第 2 面として調査を行った。

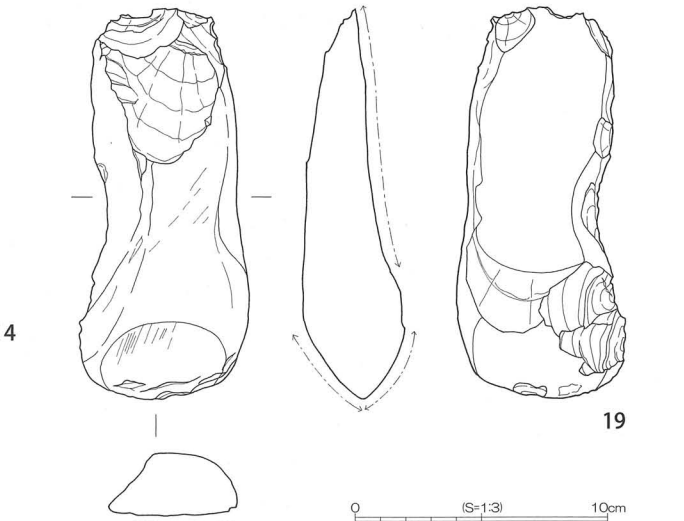
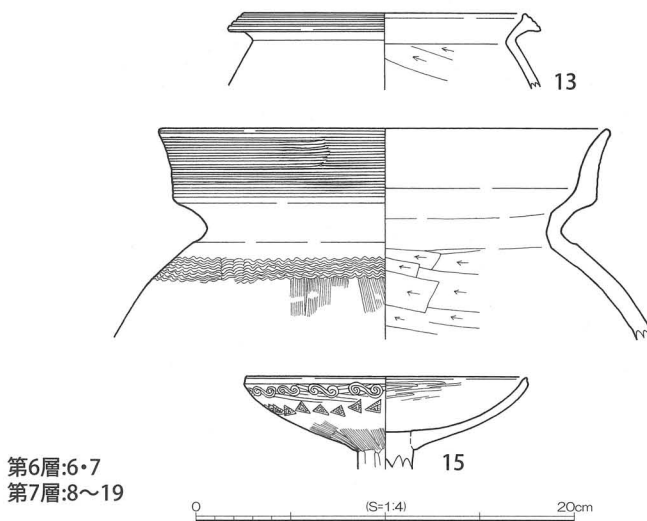
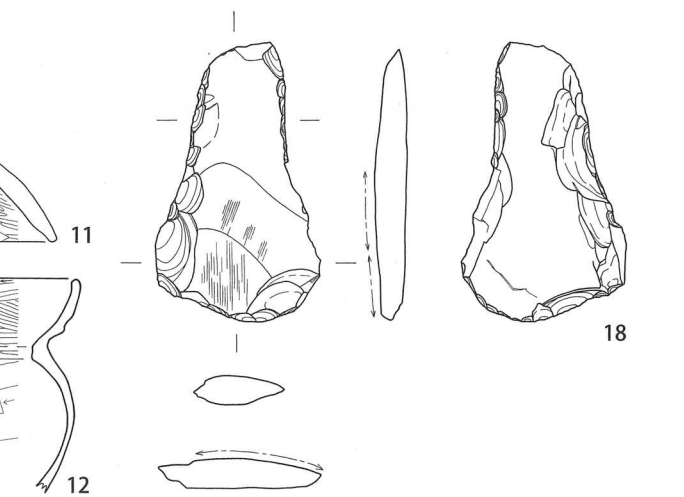
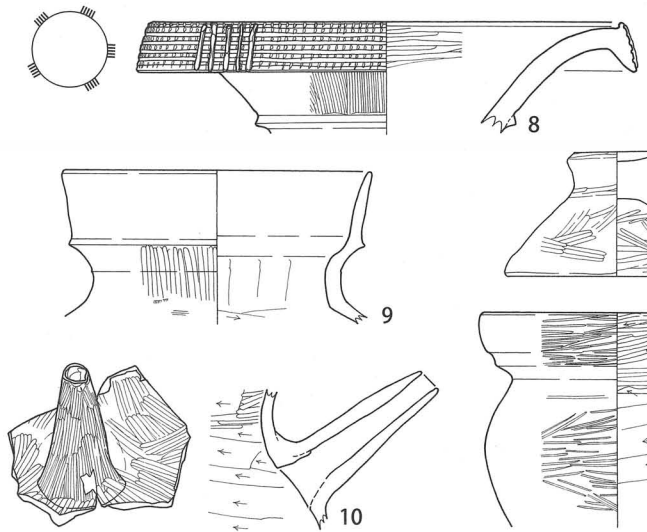
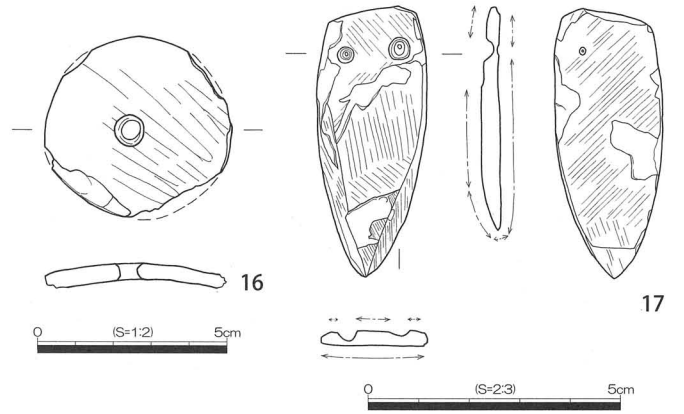
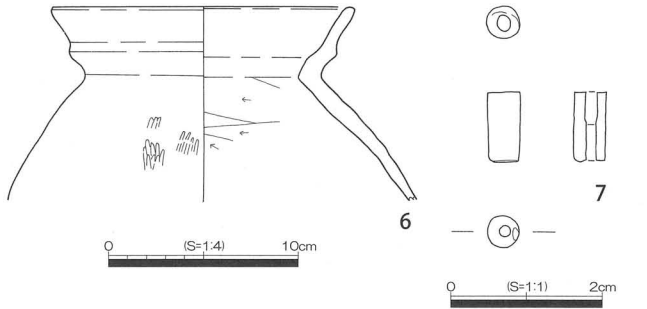
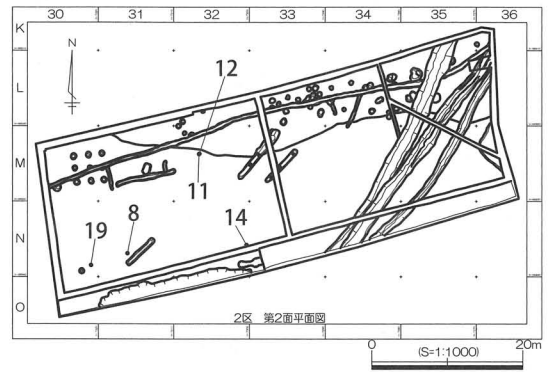
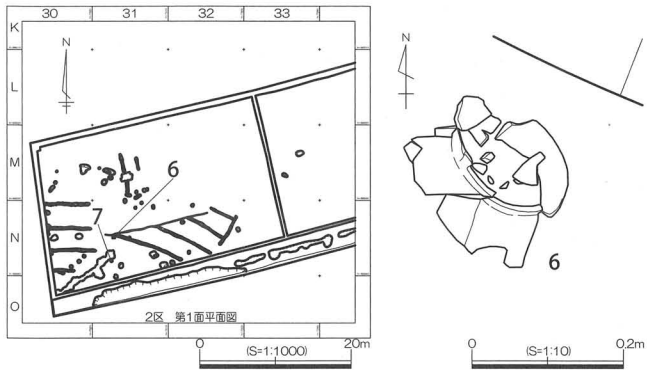
2-7 層の遺物の出土傾向をみるために、甕口縁部と底部について分類・統計処理を行った。甕口縁部はその立ち上がり部の形態変化・施文の消長を、底部は平底から丸底への一連の形態変化を、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての時期的要素と捉えた。統計結果からは、弥生時代後期後葉から終末期が主体を占める中で、弥生時代後期前葉から中葉の要素を持つ破片が一定量含まれる点が注目される。少数ながら古墳時代前期に属するとみられる個体も存在するが、これらは先に述べた検出漏れ遺構に属する可能性が高いと考える。統計結果からは 2-7 層の堆積時期は弥生時代後期前葉から終末期後半までとするのが妥当と思われる。ただし、調査によって確認できる遺構時期は基本的に弥生時代後期後葉以降であり、一部後期中葉にまで遡る可能性のあるものもある。これにより、先の分類による時期区分からは 2-7 層堆積時期と遺構との時期的重複が少なからず発生してしまう。この理由についての明確な方向性は示せない。検出漏れ遺構が相当数存在することを示すものかもしれないし、遺構に含まれる遺物が 2-7 層由来の混入遺物である可能性もある。あるいは、この時期設定や分類基準にそもそも問題があるのかもしれない。いずれにせよ、遺物包含層と見えざる遺構に対する考え方に対する大きな課題であることに変わりはない。

表 3 2 区 2-7 層（第 7 層）出土土器分析表
甕口縁部

口縁形態(類)	時期区分(要素)	破片数	比率
A・B	弥生時代後期 前葉～中葉	58	11.7%
C・D・E	弥生時代後期 後葉～終末期	406	81.7%
F	古墳時代前期～	33	6.6%
合計		497	100.0%

底部

底部形態	時期区分(要素)	底部数	比率
平底	弥生時代後期前葉 ～終末期	31	21.5%
尖底指向	弥生時代終末期 ～古墳時代前期	94	65.3%
丸底指向	古墳時代前期～	19	13.2%
合計		144	100.0%



第6層:6·7
第7層:8~19

遺物図3 2区 第6層・第7層出土遺物

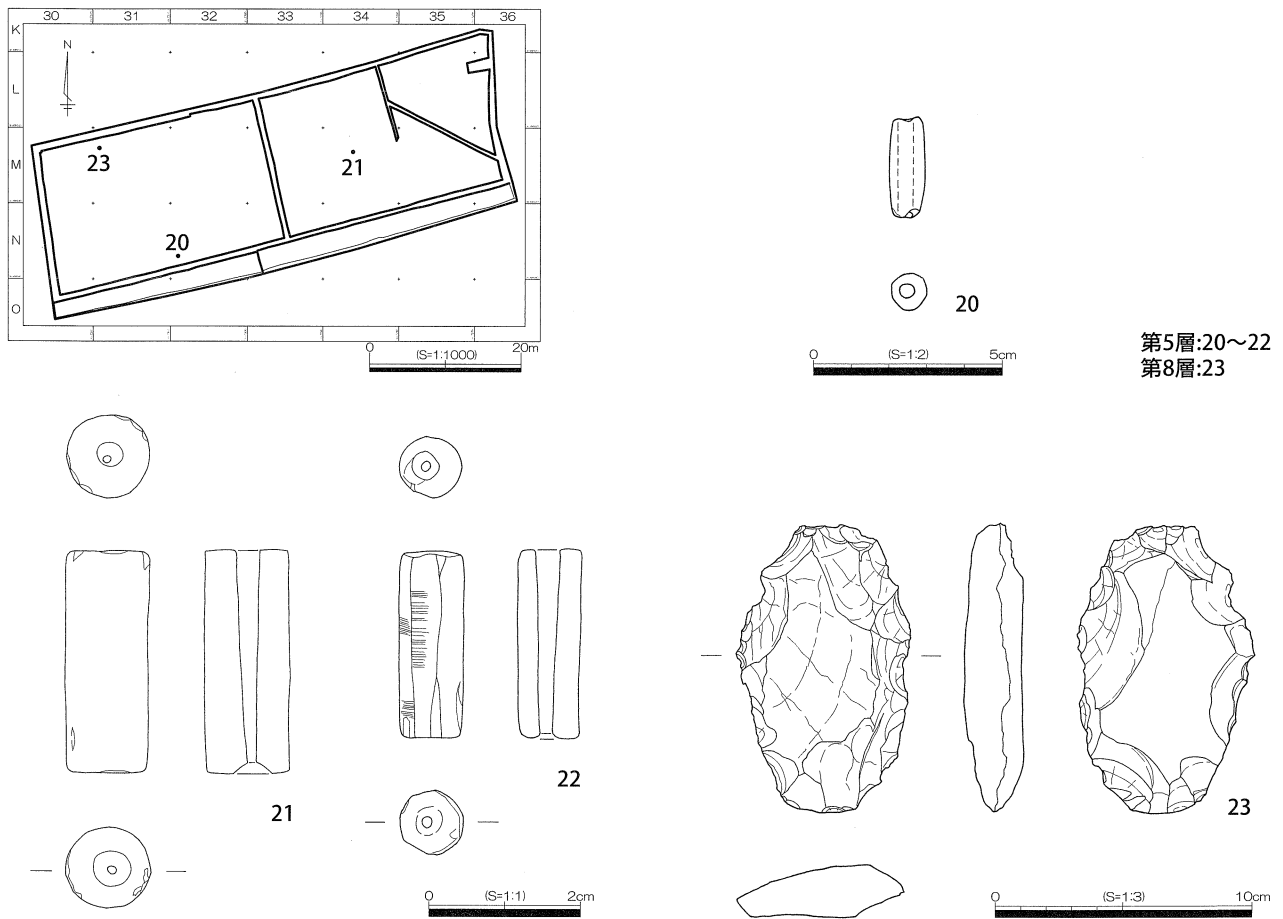
2-8層(第8層) 黒色中粒砂～シルトを主体とする土壌層である。位置によってさまざまな土質がみられるが、2-7層直下の暗色帯を土壌層の複数単位ととらえ2-8層として取り扱った。2-7層の下位に普遍的に存在するため、同様の標高変化が見られる。すなわち、北東部から中央部にかけて南西方向に落ち込み、中央部及び南西部にかけて最も深くなる。その後、南西端にかけては再び上がる。当層はその暗色の強さから旧地表面であった可能性が高く、上面の標高変化は、そのまま当時の旧地形を示していると考えられる。特に、2-8層最下層部にみられるひととき暗色の強い土壌層は、下位の2-10層・2-9層に対応する表層部と捉えられる。土質的には側方へ連続的にして変化する特徴があり、礫の包含状況と充填物の粒度によって2種に大別した。これは標高差による土質の違いと言い換えることができる。高地部での土壌は、暗色が強く礫質過多の傾向にあり層厚は薄い。礫の包含量は落ち込みに合わせて減少し、最終的にほとんどなくなってしまう。礫のない低地部では、極細粒砂～シルトが主体とする土質に変化し、暗色はやや薄くなり、層厚及び粘性が増す。この違いは、高地部が離水していたのに対し、低地部は堆積が進行する環境下にあったことを示すものとする。遺物については、2-8層からは石器(23)が一点出土したのみで土器類は皆無である。よって、その形成時期は弥生時代後期以前としかいえない。

遺物観察表 3

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物番号	図版番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
6	2	N31 第6層	3	46	弥生土器 壺	口径:15.2 器高:10.2～	外面:口縁部～頸部ナデ、体部ナデ・ミガキ 内面:口縁部ナデ、頸部～底部ケズリ	普通 ～2mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:にぶい黄橙	頸部～体部にかけて 歪みが大い
7	2	N31 第6層	3	46	石製品 管玉	長さ:0.9 幅:0.45 厚さ:0.4 重さ:0.2	円筒形 穿孔具は石針、孔の形態は円筒形、孔内に段あり、孔径2～1.5mm	花仙山製碧玉	暗緑	両面1e類
8	2	N31 第7層	3	46	弥生土器 壺	口径:(24.7) 器高:5.8～	外面:口縁部ナデ、頸部ナデ後貼付突帯 内面:口縁部～頸部ミガキ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:にぶい橙	
9	2	M34 第7層	3	46	土師器 壺	口径:(18.0) 器高:8.0～	外面:口縁部ナデ、頸部ナデ後ミガキ 内面:口縁部～頸部ナデ、肩部ケズリ	普通 ～0.5mmの砂粒、 普通	普通 外面:灰白 内面:にぶい黄橙	
10	2	L35 第7層	3	46	弥生土器 壺 (注口土器)	注口径:1.1	外面:頸部～体部・注口ミガキ 内面:頸部ミガキ、体部ケズリ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:橙 内面:橙	
11	2	M32 第7層	3	47	弥生土器 蓋	つまみ径:4.8 器高:6.6 口径:11.6	外面:つまみ部ミガキ、天井部ハケ後ミガキ、口 縁部ナデ 内面:天井部ケズリ後ミガキ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい褐 内面:灰褐	
12	2	N32 第7層	3	47	弥生土器 甕	口径:14.1 器高:11.3～ 最大径:(13.9)	外面:口縁部ナデ後ミガキ、頸部ナデ、体部ナデ 内面:口縁部～頸部ケズリ後ミガキ、体部ケズリ	普通 ～0.5mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	外面煤付着
13	2	L36 第7層	3	47	弥生土器 甕	口径:(14.8) 器高:3.9～	外面:口縁部平行沈線文、頸部ケズリ・ナデ、肩 部ハケ後ナデ後波状文 内面:口縁部ナデ、頸部ケズリ後ナデ、肩部ケズ リ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	A類
14	2	N32 第7層	3	47	弥生土器 甕	口径:(22.5) 器高:11.1～	外面:口縁部平行沈線文、頸部ケズリ・ナデ、肩 部ハケ後ナデ後波状文 内面:口縁部ナデ、頸部ケズリ後ナデ、肩部ケズ リ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:橙	外面煤付着 C1類
15	2	N31 第7層	3	47	弥生土器 高坏	口径:14.8 器高:4.9～	外面:口縁部ナデ、口縁部S字状渦文・三角形 をモチーフとする文様(鋸歯文の一種か) 後ミガキ、坏底部ハケ、脚柱部ミガキ 内面:口縁部ナデ後一部ミガキ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:橙 内面:橙	スタンプ文土器
16	2	M31 第7層	3	47	土製品 紡錘車	径:4.9 厚さ:0.5	外面:ミガキ 内面:ハケ 特記:内外両面から穿孔	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:灰黄橙 内面:にぶい褐	土器転用品
17	2	M33 第7層	3	47	石製模造品 未製品	長さ:5.4 幅:2.15 厚さ:0.4 重さ:7.7	剣形 磨製、研磨痕あり 表面に未貫通の穿孔2箇所、裏面に未貫通穿孔1 箇所あり	緑色岩	オリブ灰	
18	2	M34 第7層	3	48	石器 石斧	長さ:11.1 幅:6.55 厚さ:1.3 重さ:110.4	打製、両側縁・刃部に細かい剥離痕あり 撥形、刃部は弧状、断面は木葉形	頁岩(新第三紀)	灰オリブ	磨製石斧未製品か
19	2	M30 第7層	3	48	石器 不明	長さ:15.5 幅:6.7 厚さ:4.0 重さ:478	一端に強い敲打痕・擦痕あり 側縁・一端に加工に伴う剥離痕あり	頁岩(新第三紀)	灰白	石斧未製品あるいは 叩石か

調査時には2-8層は無遺物層と理解していたが、黒色土埋土の遺構を検出するために2区北東部においては2-8層除去面を第2面として調査を行った。

2-9層(第9層) オリーブ褐色中粒砂～極細粒砂を主体とする堆積層及び土壌層である。2-8層の直下に堆積しており、2-8層最下層とは地質的に一連の土壌単位と解釈される。調査では遺構検出面設定の都合上から2-8層とは区別して取り扱った。基本的に2-8層と同じく、高地部では礫質過多、低地部では細粒砂～極細粒砂が主体となる。この低地部の層中には普遍的に細礫が含まれている。これは八東川の氾濫に起因する堆積があったことを示しており、氾濫堆積物の供給と表層の土壌化を繰り返しながら層のかさ上げが進んだと考えられる。当層からは現時点では遺物は全く出土しておらず、その形成時期は不明である。



第5層:20～22
第8層:23

遺物図4 2区 第5層・第8層出土遺物

遺物観察表 4

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
20	2	N32 第5層	4	48	土製品 土錘	長さ:2.6 幅:0.95	外面:ナデ	密 ～1mmの砂粒、 少ない	普通 外面:明赤褐	
21	2	M34 第5層	4	48	石製品 管玉	長さ:2.95 幅:1.1 厚さ:1.1 重さ:6.6	円筒形 穿孔具は鉄針、穿孔先端部に生じた割れ円錐を研 磨調整、孔は逆円錐形+割れ円錐後研磨、孔径3 ～1mm	花仙山製碧玉	暗緑	片面Ⅱe類+割れ円錐 研磨
22	2	L35 第5層	4	48	石製品 管玉	長さ:2.45 幅:0.85 厚さ:0.8 重さ:2.6	円筒形 穿孔具は鉄針、孔内表面は平滑、孔は逆円錐形+ 割れ円錐後研磨、孔径3～1.5mm	花仙山製碧玉	暗緑	片面Ⅱe類+割れ円錐 研磨
23	2	M31 第8層	4	48	石器 石斧	長さ:11.4 幅:6.9 厚さ:2.4 重さ:211	打製 剥片を素材とし、周縁部分を敲打し整形	砂質頁岩(新第三 紀)	灰	

調査時は 2-9 層以下を完全な無遺物層と判断し、最終基盤層として扱った。

2-10 層 (第 10 層) にぶい黄色粗粒砂を主体とする締りの強い堆積層である。包含される礫が特徴的で、径 20cm を超える大礫の多さが特筆される。層の標高変化は 2-8 層・2-9 層と同様で、高地部である 2 区北縁及び北東部では特に礫が大きく、多くなる (Tr.4・5・2 セクション)。この礫質部の堆積構造は礫の間に砂が充填されるいわゆる礫基質となる。また、礫の覆瓦構造 (扁平な礫の重なり方) からこれらが東から西にかけての流れの中で堆積したものと推定される。この流向は 2 区の北約 50m に位置する現八東川のそれと一致する。これらの状況から 2-10 層の礫群は、八東川の旧河床であったと推定される。これに対して低地部では、礫が希薄となり、細粒砂～極細粒砂を主体とする砂質土が堆積する。

2-10 層からの出土遺物は皆無である。2-9 層と同じく完全な無遺物層であり、調査時は最終基盤層として扱った。

基本層序まとめ - 基本層序から復元される堆積及び土壌形成過程と調査における課題 -

2 区において地質的・調査手法的見地から分類した基本層序について若干の考察を行うとともに、現代に至るまでの土地の形成過程を考えたい。

2 区で確認されたうち最も古い堆積層は 2-10 層である。堆積層所見からは旧八東川の河床とされており、当時に形成された礫質部の高まりが後世まで大きな影響を及ぼしていることが判明した。ただし、周辺の地形形成の鍵となる 2-10 層の形成要因に関しては不明点と課題が多く残る。礫質部が旧八東川の流芯なのか縁辺の河原になるのかどうか、加えて、礫質部と砂質部標高差が大きくなる理由に関しては不明なままである。調査で確認できる範囲では礫質部が砂質部の下に潜り込むように見えることから低地部の底が一時の流芯であったと推定することもでき、砂質部は当時の流路内堆積物と捉えることもできるが、2-10 層の底と礫の分布状況及びその下位層の含めた断面確認をしていないため確証はない。

2-9 層から 2-8 層期にかけては、2-10 層が形成した窪みを充填する局面と捉える事ができる。層中にはラミナなど自然堆積を示す構造は確認できず、土壌化がみられることからこの段階では流芯は移動していたと考えられる。

2-10 層直上の 2-9 層は堆積性土壌層と判断されることから、地表化しつつもある程度堆積が進む環境下にあったと考えられる。堆積要因は八東川の氾濫に求めるのが自然であるから移動した流芯は未だ近くにあったと推定される。次の段階である 2-8 層期になると層の暗色化が顕著になることから、表層部は安定した地盤となり、堆積がほとんどない中で土壌化が進んだ結果と考えられる。ただし、この傾向は標高の高い礫質部でみられる状況であり、低地部ではやや状況が異なる。低地部の 2-8 層の厚さは引き続き堆積が進んだことを示している。最下層の一群は高地部に同様、顕著な暗色化がみられるが、その上位層では極細粒砂を主体とする土質となり暗色も弱くなる。したがって、この段階で環境が変化し低地部は湿地状態となっていた可能性が考えられる。

2-7 層期は、地形的には前段階と同様、2-10 層が形成した窪みを充填する局面と理解されるが、層中に土器が確認されるようになる点においてそれまでとは明確に区別される。遺物所見からその形成時期は弥生時代後期から終末期にかけてと判断される。地質的には下位の 2-8 層よりかなり暗色が弱く、堆積速度が速かったものと考えられる。堆積が進行する段階においては安定した地表面ではなかつ

たと考えられる。ただし、2-7層上部は後世の土地改変によって大きく削剥・攪乱を受けるため、当時2-7層がどの高さまで堆積していたのかは不明である。しかし、少なくとも2-7層上面帰属と思われる遺構が相当数検出されることから、2-7層堆積の最終段階において、表層部はある程度安定した地盤を形成していたことは間違いないだろうし、2-10層が形成した窪みもほとんど埋積していたものと推定される。

以降2-6層から2-1層にかけては、層の形成要因がそれまでの自然主導から人為主導に切り替わることが最大の変化点である。その主たる要因は耕作と考えられ、各断面とも土地改変のために下位層を大きく攪乱した状況が確認できる。2-10層の八東川旧河床に起因する高まりもどこかの段階（調査での確認は圃場整備時）で削平を受け、耕作に適した平坦地に均されてしまったと考えられる。これは、元は存在したであろう遺物・遺構が既に失われ、現地表からの旧地形復元は困難なことを意味し、また、集落構築には本来好条件といえる微高地部分が既に失われてしまっている可能性を示唆するものである。

2-6層は今回の調査で確認されたうち最も古い時期の耕作土である。耕作に直接関係する遺構として2-6層に帰属する耕作溝が検出されている。その時期は包含遺物から古墳時代後期以降と判断されるが特定には至らない。遺物内訳は弥生時代後期から古墳時代前期にかけてのものが圧倒的に多く、元は2-7層あるいは遺構内に帰属していた遺物が耕作や土地改変行為によって巻き上げられた状況が窺える。これは、本来の遺構構築面が失われてしまっていることを意味しており、理論上は今回の調査で検出された遺構は全て2-6層除去面に帰属する可能性が高いことを示している。そして、層位上において連続する2-7層と2-6層を分かつ層界には、少なくとも弥生時代終末期から古墳時代後期までの時間が包括されることを意味する。

2-5層から2-3層までは2-6層に続く耕作土である。2-5層からは近世以降とみられる遺物が出土しており、2-6層と直接的な連続性を持たせることは難しいと考える。2区では中世に帰属する遺物が皆無なことから、2-6層と2-5層の時期的な断絶はその間のどこかの時点で大幅な土地改変が行われたことを示唆している。これに対して、弥生時代後期から古墳時代の遺物は一定量包含しているが、これは2-5層が耕作によって下位の2-6層を攪乱していることを示しており、上位の2-3層にかけて土器の微細化・表面摩耗が顕著になる傾向にある。

2-2層はブロック土を多量に含む攪乱土で、昭和の圃場整備に際して形成された層である。重機によって相当な規模の土地改変が行われたようで、下位層に対する攪乱が著しい。第1面ではキャタピラ痕と思しき走行痕やバケットの爪痕が確認されている。この段階で旧微地形は完全に失われることになる。

2-1層は圃場整備後に形成された現代耕作土である。今回の調査は基本的に旧耕作土を削剥した状態で開始となっているため、Tr.2の一部でわずかに確認したにとどまる。

以上、調査で確認した最古層である2-10層から現代にいたる2-1層までを層位所見に基づいて概観した。最後に層序所見から判明した事実と課題点を列記してまとめとする。

まず、当然のことながら土地の形成には旧八東川が大きく関わっていることが明らかとなった。調査区内が八東川本体となる時期があったこと(2-10層)が判明し、川の流れが逸れてから(第8・9層)は、高地部は地表化して土壌化が進む。これに対して低地部は時間とともに埋積が進行し、その最終段階(2-7層)で当該地にヒトが入ってくるということが確認された。一方、2区の約250m西に位置する3

区では、ヒトの活動は弥生時代中期から確認されている。この時期の違いの意味するところは不明であるが、そもそも2区では弥生時代後期以前の遺物が皆無である。まさにこの時期が流路期であった可能性もあることから、2-10層の堆積時期と2-9層・2-8層の形成時期の究明が課題として残る。

2-6層以降は堆積ではなく削平の局面である。耕作及び土地改変によって、旧地形はおろか場合によっては遺構・遺物等過去の情報が大幅に失われてしまっている可能性があることが判明した。

第2項 2区の概要

2区は今回の発掘調査対象範囲のほぼ中央、1区と3区間に位置する。調査地の形状は東西に長い長方形である。調査面積は1445.381㎡である。調査はトレンチ確認調査を含め3面にわたっておこなった。

面ごとの検出遺構の内訳は以下の通りである。

第1面 耕作溝群(溝11)・土坑27・ピット15

第2面 掘立柱建物跡1・竪穴住居跡1・大溝3・溝6・
土坑13(住居内土坑・溝状土坑含む)・
ピット56(建物構成・住居内ピット含む)・
土器だまり3

第3面(トレンチ調査) ピット14・土坑3

【第1面】 耕作溝群・土坑・ピットで構成される面である。古墳時代後期以降の耕作土である2-6層を除去した段階で検出された。最も新しいのは耕作溝、それに切られる単独遺構は弥生時代終末期から古墳時代後期に属する。遺構数が少なくその残りも悪かったことから、耕作地以前の遺構面の様相を示すほどの成果は得られなかった。

記載遺構は、耕作溝群・SK2027・SK2024・SK2005・SK2008・SK2026・SK2010である。

【第2面】 建物・大溝・溝・土坑・ピットで構成される面である。弥生時代後期から古墳時代前期の遺物包含層である2-7層を除去した段階での検出面である。建物類は掘立柱建物跡と竪穴住居跡が一棟ずつしかなく集落の中心とは言い難い状況である、ただし、ピット、土坑類は当時の高地部とみられる調査区北東側に集中していることから、その延長である調査区の北側と八東川の間には遺構の広がりが見られ、集落が展開する可能性がある。調査区東部で検出された3条の大溝は調査区外に延び八東川に接続するとみられる。弥生時代終末期を中心とする遺物が大量に出土しており、2区を代表する遺構である。溝は切り合いから時期差が想定され、時期幅は遺物所見から弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる。

記載遺構は、SD2015・SB2001・SI2001・SK2031・SK2041・SK2040・土器だまり2001・土器だまり2002・SD2012・SD2013・SD2014である。

【第3面】 第2面調査後の補足確認目的のための調査面である。調査区全域をトレンチによる遺構確認をおこなった。確認面は2-8層除去面である。結果、調査区中央から東部にかけて土坑・ピットが少数検出された。これらは第2面の検出漏れ遺構と位置付けられる。

記載遺構以外については2区各面の平面図と2区遺構一覧表(表7・8)を参照のこと。

第3項 2区 遺構と遺物

第1面(図15、写真図版6)

第1面は2-6層を除去した後の遺構面である。調査区北部は2-8層を、中央部から南部では2-7層を検出基盤層とする。一部、第2面の調査に至る2-7層掘削時に追加検出された遺構もある。これは、所見や時期観に基づく検討の結果、第1面に帰属させたものである。直接の帰属層である2-6層は調査区全域にわたって確認されるが、上位層による攪乱がひどく、層の残りが良いとは言えない。2-6層は弥生時代後期から古墳時代にかけての遺物包含層、その性格は耕作土とされる。第1面の標高値は、北東部46.272m・南東部46.263m・中央北46.143m・中央南46.106m・北西部46.125m・南西部46.122mとなり、北東から南西にかけてわずかに下がる耕作面が想定される。

第1面遺構は調査区西部に集中する。遺構は層位的帰属から大きく2つに分類でき、新旧関係が明確である。

新しい一群は2-6層を主体埋土とする耕作関連遺構である。これに該当する遺構として、調査区西部において集中的に検出された耕作溝がある。重機掘削による表土剥ぎの際に一部掘り過ぎたため、図面上は間が途切れているが、その延長方向から本来は繋がっていたものと考えられる。主軸方向から大きく3つに分類できるが、耕作時期を示すものかどうかの判断はできない。Tr.3断面観察において、純粋に2-6層下面に帰属する(検出面での分層線が入らない)ことを確認した。帰属時期は遺物からは特定できず、層所見と同じ古墳時代後期以降近世以前となる。

古い一群は耕作溝以外の遺構である。先の耕作溝に切られることから、帰属時期は耕作以前となる。遺構の分布や広がりには規則性はみられず、基本的に単独遺構としての評価しかできない。遺構埋土は検出基盤である2-7層よりやや褐色が強いものが多い中で、SK2010に代表されるような、その遺物の存在によって初めて認知されるものもある。特筆すべき遺構としては、その遺物出土状況から古墳時代後期から終末期の墓坑と想定されるSK2027とSK2024がある。調査地周辺には同じく古墳時代後期から終末期にかけての横穴式石室を有する古墳とされる「奈免羅古墳」・「梨ノ木古墳」(どちらも現在は消滅)がある。2区では基本的にこの時期の遺物は皆無といえるほどに少なく、時期対応を証明できる遺構も他に見当たらないが、当該期の周辺域が墓域であった可能性を示唆する成果である。そのほか、時期のわかる遺構では古墳時代前期の廃棄土坑と目されるSK2010がある。同形式別個体の壺が複数個体分出土しており、その特異性が注目される。また、SK2026など出土遺物から弥生時代後期後葉まで遡る可能性がある遺構が複数検出されたが、小破片であれば2-7層の巻き上げ遺物の可能性が高くなるため時期の判定には使用しにくく、2-6層との時期幅を示すことしかできない。ピット類には並びのみられるものはなく、建物は確認されなかった。

第1面の遺構は残存状況の悪いものも多く、積極的に評価できないものが多い。耕作溝以外の第1面遺構45基のうち、深さが10cm以下のものは25基、20cm以下のものを合わせると37基に及ぶ。当時の遺構構築面が2-6層耕作期までに大きく削平された結果と考えられ、既に失われてしまった遺構も数多くあるものと思われる。

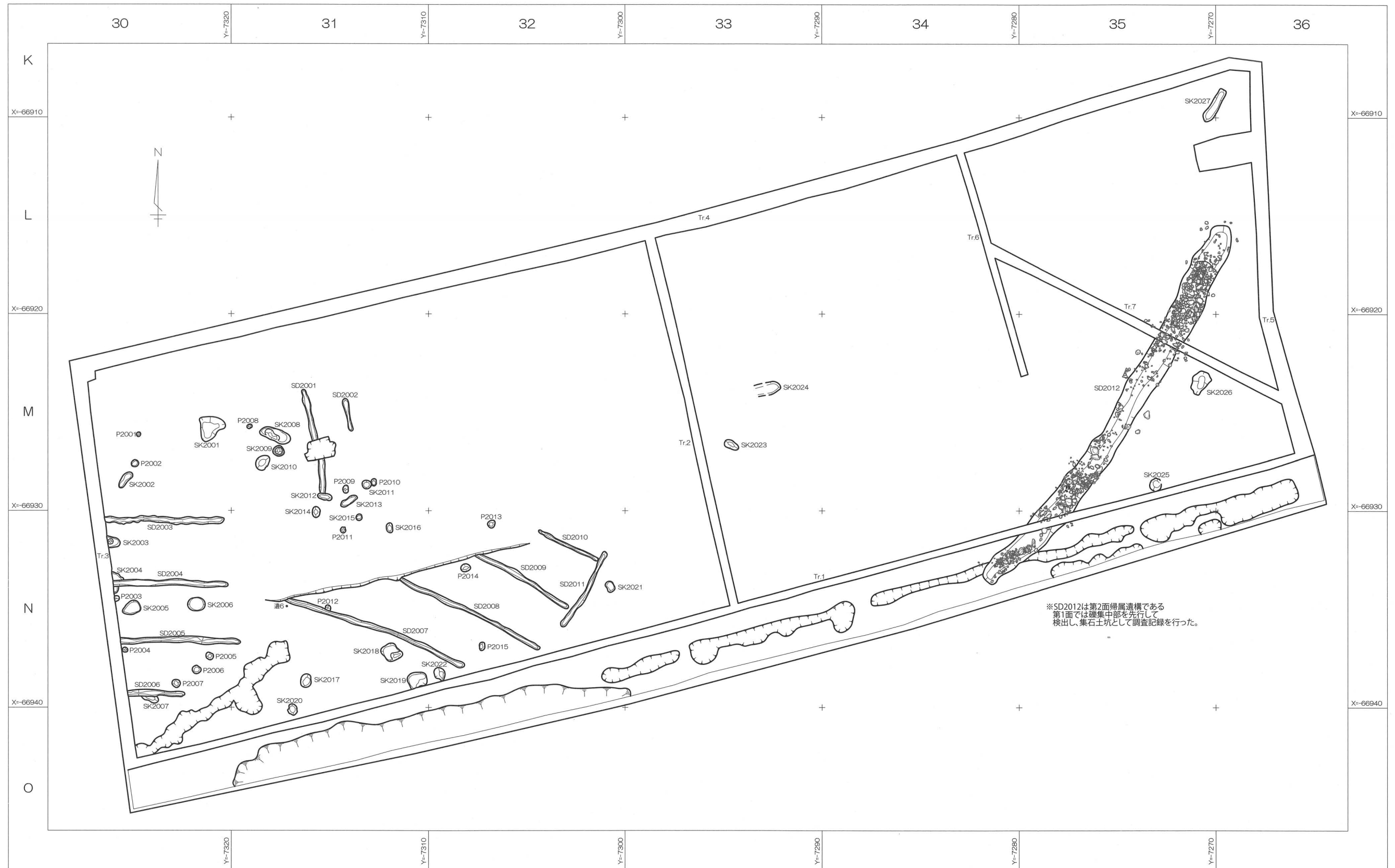


図15 2区 第1面平面図

0 (S=1:250) 10m

■耕作溝群 SD2001～SD2011 (図 16、写真図版 6)

位置 2区第1面西半部、M30～N32グリッドに位置する。遺構確認面の標高は46.059m～46.187mである。

検出状況 第1面調査時、2-6層を除去した段階で複数条の溝が検出された。溝の延長はTr.3上でも確認されており、断面観察からは2-6層が帰属層となること、その他の第1面遺構を切ることを確認した。この埋土所見と一定間隔をあけて並行する状況から耕作関連遺構と想定されたため、その他の第1面遺構とは区別して調査をおこなった。N31グリッドでは、重機による表土剥ぎ段階で深く掘り過ぎてしまい、この範囲の溝は確認不能となってしまった。

平面形状・規模 合計11本の溝が検出された。断面形は11本とも共通しており、浅いU字形を呈する。西側は調査区外へ続く。各溝の規模(検出長×最大幅-確認面からの深さ)と平面形及び主軸方向は以下の通り。

SD2001(5.386m×0.335m-0.049m) 西側にやや湾曲しながら延びる。N-11°-W。

SD2002(1.684m×0.306m-0.130m) 直線状。N-12°-W。

SD2003(6.061m×0.330m-0.111m) 直線状。N-90°-W。

SD2004(5.870m×0.329m-0.081m) 直線状。N-89°-W。

SD2005(6.098m×0.376m-0.108m) 直線状。N-89°-W。

SD2006(2.899m×0.350m-0.056m) 直線状。N-90°-W。

SD2007(9.576m×0.340m-0.080m) 南側にやや湾曲しながら延びる。N-70°-W。

SD2008(7.893m×0.297m-0.102m) 南側にやや湾曲しながら延びる。N-64°-W。

SD2009(5.371m×0.370m-0.097m) 南側にやや湾曲しながら延びる。N-60°-W。

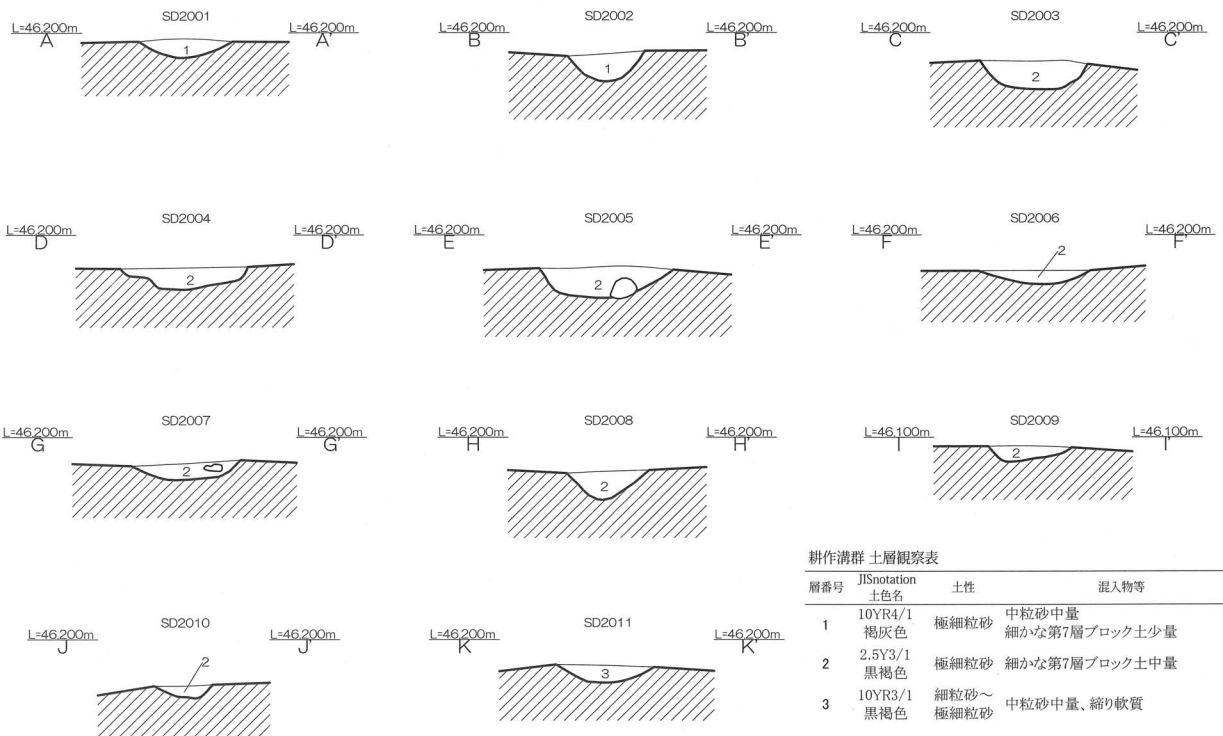
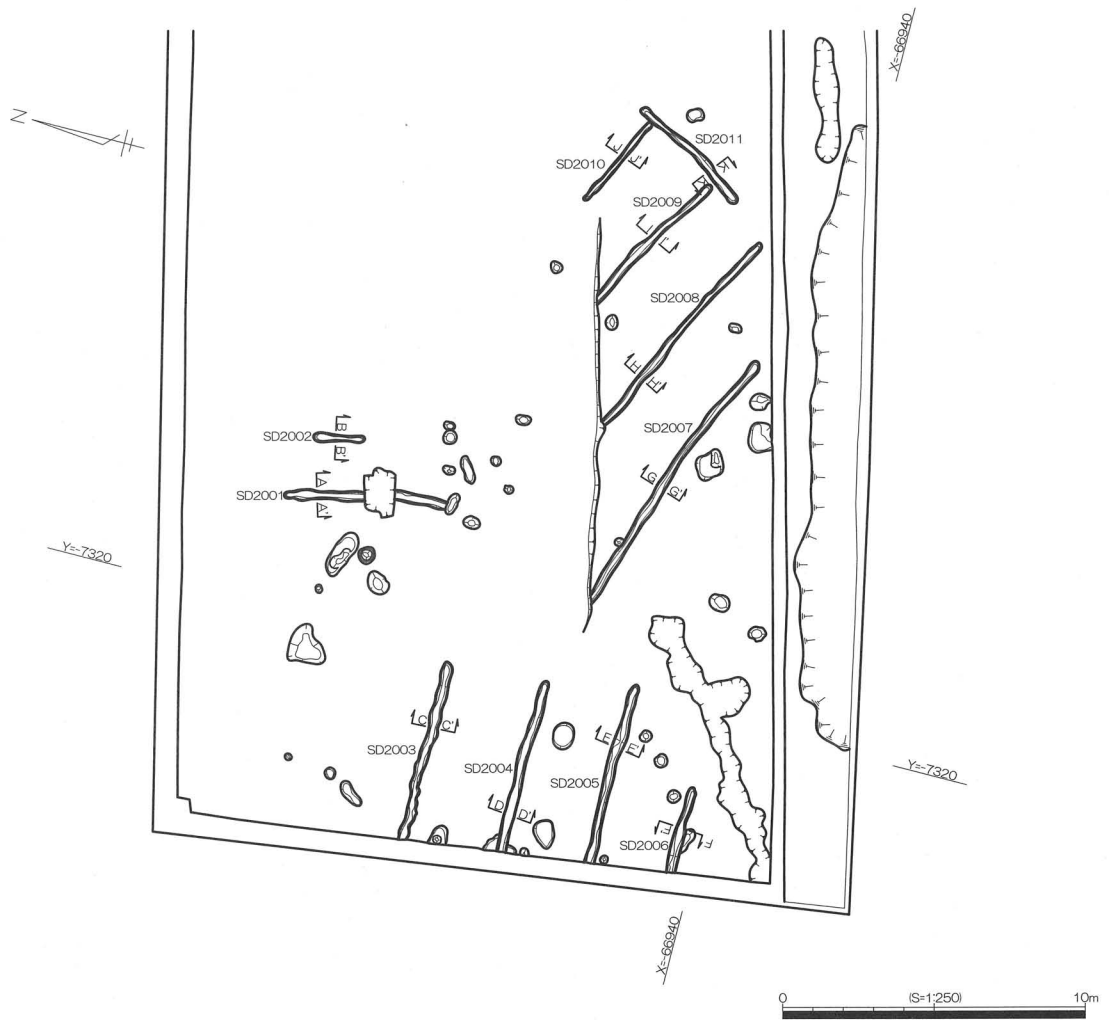
SD2010(3.383m×0.192m-0.066m) 直線状。N-67°-W。

SD2011(4.408m×0.278m-0.084m) 西側にやや湾曲しながら延びる。N-30°-E。

SD2003とSD2008、SD2004とSD2007は溝幅がほぼ同じである。緩やかに湾曲しながら延びる溝をそのまま延長復元すると、そのまま繋がることから元は一連の溝であったと考えられる。溝の断面原因は表土剥ぎ時の掘り過ぎのためである。溝はその主軸方向から、南北方向のSD2001・SD2002、緩やかに湾曲しながら延びるSD2003～SD2010、これに直行するSD2011の大きく3つに分類できる。埋土 埋土は基本的に2-6層と同じである。黒褐色土を主体とする中に、細かなブロック土が含まれる。このブロック土は検出基盤層である2-7層と考えられ、基盤層が巻き上げられた状況と捉える事ができる。溝によっては埋土の色調に若干の差異がみられる。2-7層の包含量の違いによるものと思われる。

遺物検出状況 百点以上の破片が出土しているがその大半は器表の摩耗の進んだ微細破片である。基本的に2-7層から巻き上げられた遺物と考えられる。時期のわかる遺物では、SD2007・SD2011から弥生時代後期の甕口縁部が出土している。しかし、細片かつ器表の摩耗度の高さから耕作時期を示すものではないと考える。

遺構の性格と帰属時期 SD2003～SD2010の間隔は3.5m～4m程度、平面図では等間隔で並行する状況がよくわかる。埋土からは、2-7層起源のブロック土が目される。耕作土である2-6層と併せて考えると、耕作に伴う鋤跡などの遺構性格が想定される。これらの溝は耕作行為が2-7層に及んだ痕跡である。2-6層を埋土とする耕作関連遺構が検出されたことにより、2-6層が耕作土である



耕作溝群 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	10YR4/1 褐灰色	極細粒砂	中粒砂中量 細かな第7層ブロック土少量
2	2.5Y3/1 黒褐色	極細粒砂	細かな第7層ブロック土中量
3	10YR3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	中粒砂中量、締め軟質

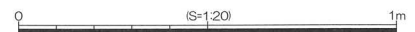


図16 2区 耕作溝群遺構図

ことの補強にもなった。

遺構時期について、時期のわかる出土遺物は2-7層からの巻き上げ遺物と考えられ、遺構の年代を示すものではないと判断した。したがって、遺構の帰属時期は2-6層の時期をあてはめることしかできず、古墳時代後期以降近世以前までの時期幅を持つ。溝は主軸の違いによって時期差がある可能性があるが、直接の切り合いがなく遺物からの検討も不可能なことからそれ以上の評価はできない。(浅井)

■ SK2027(図17、遺物図5、遺物観察表5、写真図版7・49)

位置 2区第1面K35・36グリッドに位置する。帰属遺物確認面の標高は46.300m付近、遺構プランの確認面の標高は46.145mである。

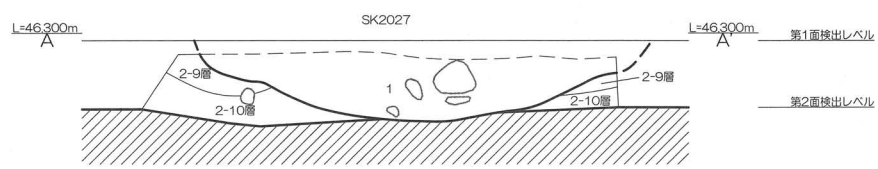
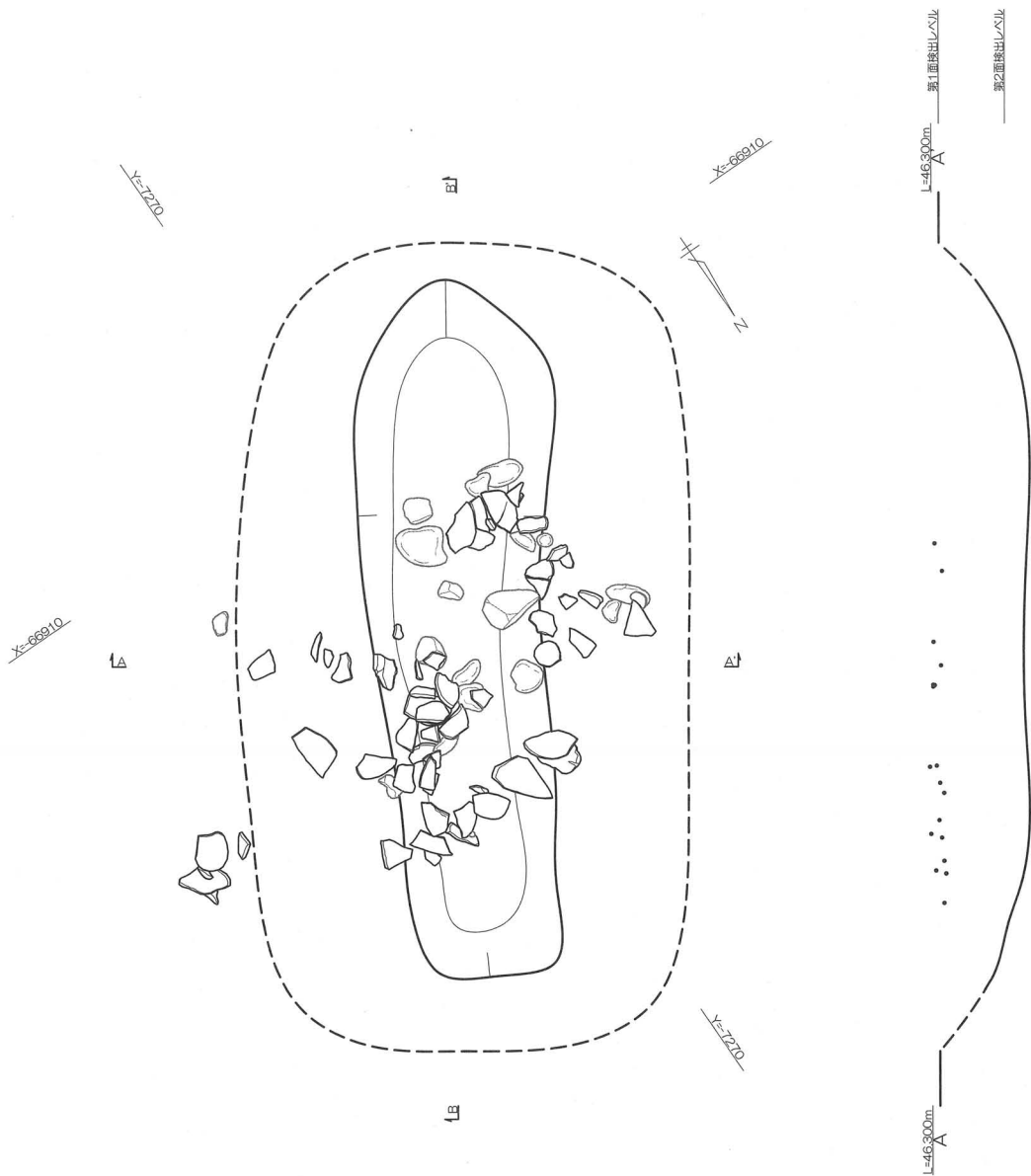
検出状況 第1面調査時に調査区北東端部において、10cm程度の大きさの須恵器片が集中出土した。2-6層掘削中において確認される須恵器の量はわずかなことから、須恵器集中部は遺構となることが想定された。複数回の平面精査による検出を試みたが、この段階で遺構は確認されなかった。周囲の第1面の検出基盤層は暗色の強い2-8層である。遺構埋土が2-8層と類似するために検出困難となっていることを考え、須恵器出土範囲を段状に残し第2面調査に移行した。第2面(第7・8層除去面=2-9層上面)で再度検出をおこなったところ、須恵器出土範囲の中心部に楕円形の遺構プランが確認され、断面にも遺構プランから続く立ち上がりをかろうじて確認できたため、上層出土の須恵器を包含する遺構と判断した。

平面形状・規模 須恵器片の出土範囲は東西1.5m・南北0.9m。破片密度は中心部が最も高く、周縁部にかけて低くなる。遺構本体の平面形は楕円形で、長軸1.873m・短軸0.540mを測る。この数値は第2面検出時のものである。断面の立ち上がりからは、第1面換算で長軸2.1m・短軸1.2m程度の遺構規模が想定される。主軸方向はN-30°-E。断面形は浅いU字形で、確認面から遺構底までの深さ(断面確認値)は0.195mである。

埋土 埋土は単層、黒褐色細粒砂を主体とし、10cm程度の礫が含まれる。周囲の基盤層である2-8層と類似する。

遺物検出状況 上層部の遺物集中域で20点以上の須恵器片が出土、遺構埋土内からは須恵器微細片がわずかに出土した。出土須恵器の9割以上が接合され、須恵器横瓶(24)が1個体復元された。外面両頂部のカキ目と体部中央のタタキ目が明瞭な個体である。歪みが著しく、外面には焼成時の自然釉による他個体の熔着が複数個所で認められる。この中に須恵器蓋坏の口縁部熔着痕がある。直径約9cm、小型の蓋坏である。この蓋坏と横瓶は共に古墳時代終末期、7c初め頃の所産と考えられる。

遺構の性格と帰属時期 遺構性格を考える上において、まず、須恵器横瓶の土坑帰属の厳密性について検討する。須恵器の出土レベルは2-6層と2-7層の層界部に集中しており、平面分布は土坑を中心とした広がりを見せる。土坑の復元範囲外の破片も数点確認できることから、破片レベルでは2-6層に帰属するものもあると思われる。ただし、2-6層は耕作土とされており、層の形成は下位に対する攪乱行為によって成されるはずである。そして、2-6層中においては他に須恵器の集中出土がないことから原位置から大きな移動はないことが想定される。よって、遺構に帰属していた横瓶が2-6層形成時の耕作行為によって破壊・分散した可能性を指摘できる。したがって、この横瓶は土坑に伴う遺物であると考えられ、SK2027の層位上の帰属は2-6層除去面となる。次に遺構性格についてであるが、1. 元は完形の横瓶が埋置されていた可能性が高いこと。2. その他の混ざりこみの遺物が皆



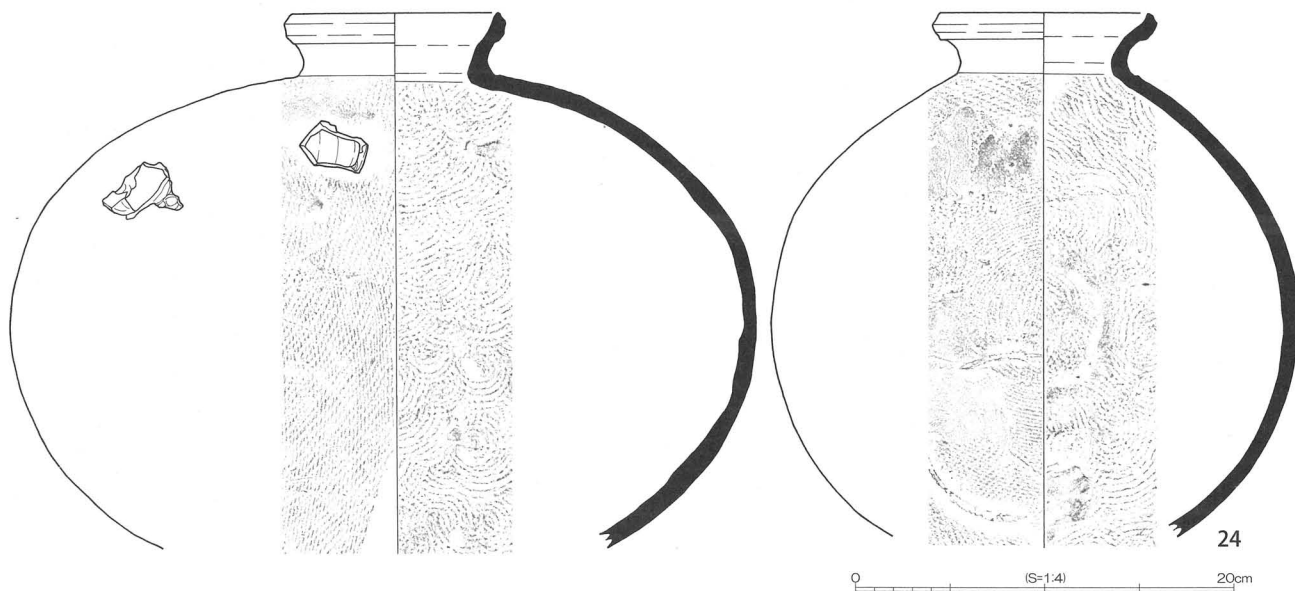
※2-○層は層序名(2区第○層)を示す、詳細は基本層序項に記載

SK2027 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混人物等
1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂	粗粒砂中量、径10cm以下の礫少量 須恵器片少量



図17 SK2027遺構図



遺物図5 SK2027出土遺物

遺物観察表 5

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 調色	備考
24	2	SK2027 (2113)	5	49	須恵器 横瓶	口径:(11.0) 器高:28.3~ 体部長径:39.4 体部短径:27.8	外面:口縁部~頸部ナデ、体部タタキ後カキメ 内面:同心円当て具痕あり	普通 ~1mmの砂粒、 普通	良好 外面:灰 内面:暗灰黄	熔着痕が多い 自然釉が全体に付着

無であること。3. 検出プランが元の遺構形状を反映している可能性が高く、長軸 2m × 短軸 1m 程度の楕円形と想定されることなどから考えると、後の耕作によって上部に破壊・攪乱を受けた墓坑の残骸の可能性が考えられる。遺構の底に対して横瓶の出土位置が高いことは、埋葬と同時ではなく、埋葬の最終段階以降に供献されたことを示す。

遺構の帰属時期は須恵器横瓶とその熔着個体から古墳時代終末期と判断される。

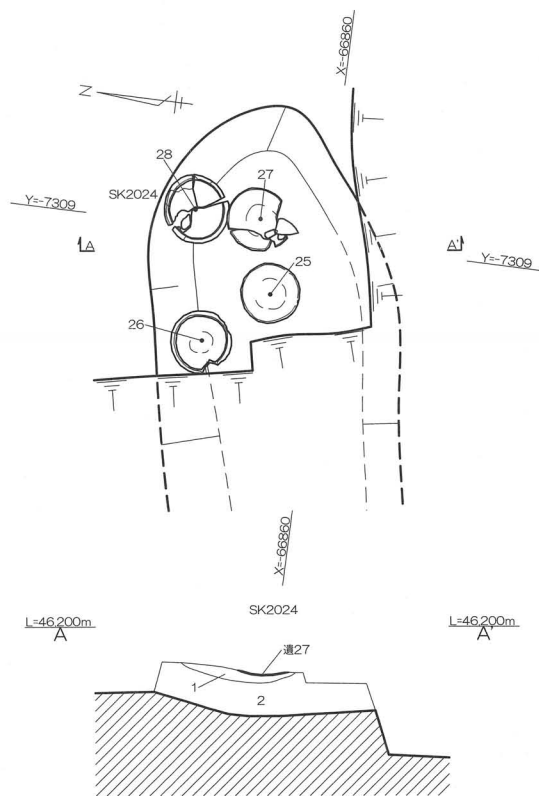
■ SK2024(図 18、遺物図 6、遺物観察表 6、巻頭図版 3、写真図版 7・49)

位置 2区第1面 M33 グリッドに位置する。帰属遺物確認面の標高は 46.100m 付近、遺構プランの確認面は 46.030m である。

検出状況 調査区中央部において、第2面調査時、2-7層掘削中に完形の蓋杯が複数個体出土し、その遺物出土状況から検出漏れ遺構の存在が想定された。この時点で既に遺物が浮いてしまっていたが、周囲の面を揃えて遺構検出を試みた。その結果、遺構残存部断面上で掘り込みが確認され、平面上においても対応する遺構プランが検出された。遺構として確認できたのは東端部の一部のみである、西側は2-7層掘削時に破壊されており規模は不明である。

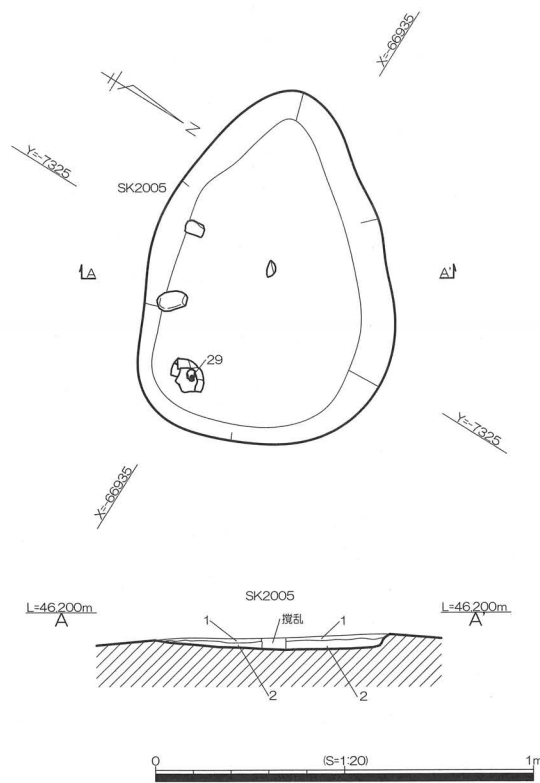
平面形状・規模 確認された形状からは円形もしくは楕円形と推定される、遺構規模は東西 0.637m・南北 0.613m、共に残存長である。断面形は皿型で、土器確認面から遺構底までは 0.14m である。

埋土 埋土は上下2層に分かれるが、共に黒褐色極細粒砂を主体とする土壌層である。下層はやや砂粒が多くなる程度で色調・土質とも類似しており、堆積状況に違いはみられない。遺構確認時の基盤層である2-7層と類似することから、遺構掘削土がそのまま埋め戻されたと考えられる。



SK2024 土層観察表

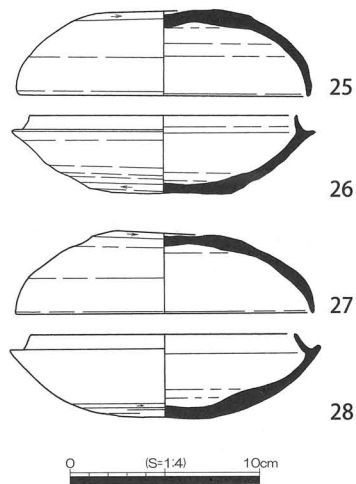
層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y3/1 黒褐色	極細粒砂	粗粒砂～中粒砂少量 完形須恵器蓋杯2セット出土
2	2.5Y4/1 黄灰色	極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径3cm以下の礫微量



SK2005 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	10YR3/1 黒褐色	極細粒砂	中粒砂～細粒砂中量
2	2.5Y4/1 黄灰色	細粒砂～ 極細粒砂	第7層ブロック多量

図18 SK2024・SK2005遺構図



遺物図6 SK2024出土遺物

遺物検出状況 上層から完形の須恵器杯蓋と杯身が2セット、遺構の東端部からまとまって見つかった(25～28)。正位の杯身の脇に裏返った蓋が並ぶ状態で出土した。割れてはいるが元の形状を完全に保っている点から、原位置を保っているとみて間違いない。この蓋杯の色調は4個体とも橙色系である。一見土師器かと思間違ふほどで、軟質な器表は還元焰焼成されたとは思えない。しかし、ロクロを使用したその制作技法はまさに須恵器のそれであるため、須恵器として分類した。法量・形態は4個体とも共通しており古墳時代後期、Ⅱ期後半に比定される。杯身内の充填土を別途洗浄したが、特

遺物観察表 6

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
25	2	SK2024 (2069)	6	49	須恵器 杯蓋	口径:15.0 器高:4.6	外面:天井部上半回転ケズリ、天井部下半～口縁部回転ナデ 内面:回転ナデ	普通 ～4mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:浅黄橙	還元焰焼成されていない
26	2	SK2024 (2069)	6	49	須恵器 杯身	口径:14.0 器高:4.1 最大径:16.0	外面:立ち上がり～体部回転ナデ、底部回転ケズリ 内面:回転ナデ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:黄橙 内面:浅黄橙	還元焰焼成されていない
27	2	SK2024 (2069)	6	49	須恵器 杯蓋	口径:15.6 器高:4.3	外面:天井部上半回転ケズリ、天井部下半～口縁部回転ナデ 内面:回転ナデ	普通 ～5mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:橙 内面:浅黄橙	還元焰焼成されていない
28	2	SK2024 (2069)	6	49	須恵器 杯身	口径:13.6 器高:4.5 最大径:16.4	外面:立ち上がり～体部回転ナデ、底部回転ケズリ 内面:回転ナデ	普通 ～2mmの砂粒、 普通	普通 外面:淡橙 内面:浅黄橙	還元焰焼成されていない

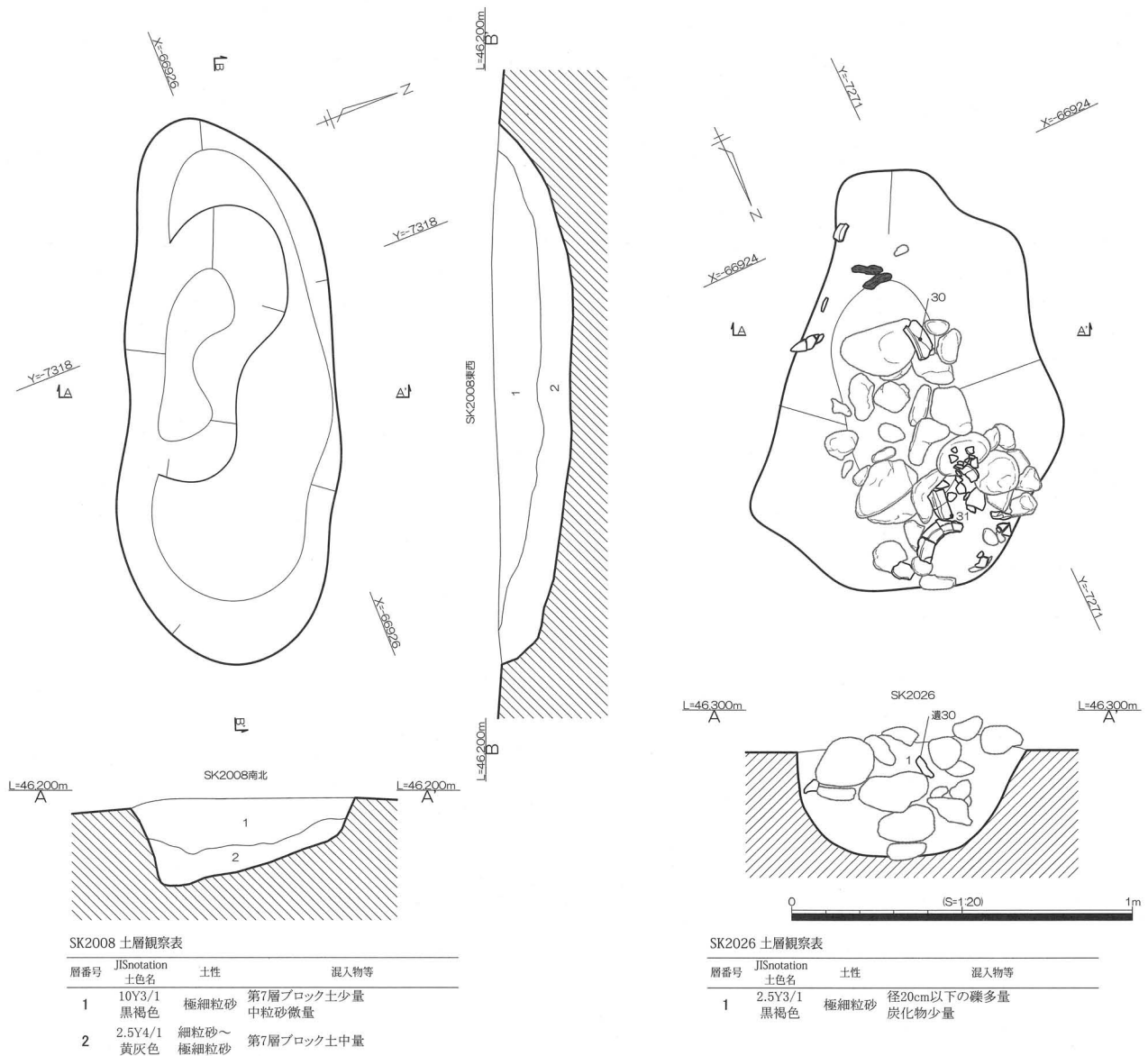


図19 SK2008・SK2026遺構図

に何も見つからなかった。

遺構の性格と帰属時期 土坑である。遺構の確認範囲が限られるため、厳密な性格の言及は難しいが、蓋坏から遺構性格の検討を試みる。最初に、帰属すべき検出面について検討する。遺構検出のきっかけは2-7層掘削中における完形蓋坏のまとまった出土である。2-7層は古墳時代前期までの遺物包含層で、それより新しい出土遺物は皆無である。したがって、追加確認されたこのSK2024は第1面の検出漏れ遺構としても矛盾はない。次に、蓋坏確認時には遺構西側はよって大きく破壊された後であったが、その際には共伴するとみられる遺物はなかったことから、遺構に帰属する遺物は東端で検出された蓋坏4個体のみであった可能性が高い。また、検出された遺構形状からは、既に破壊された西方向に長軸を持つ楕円形の土坑であった可能性が想定される。以上の点から、SK2024は蓋坏4個体を副葬品とする土坑墓であった可能性を想定したい。そして、遺構の層位上の帰属は2-6層除去面となる。

■ SK2005(図 18、遺物図 7、遺物観察表 7、写真図版 7・49)

位置 2区第1面 N30 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 46.114m である。

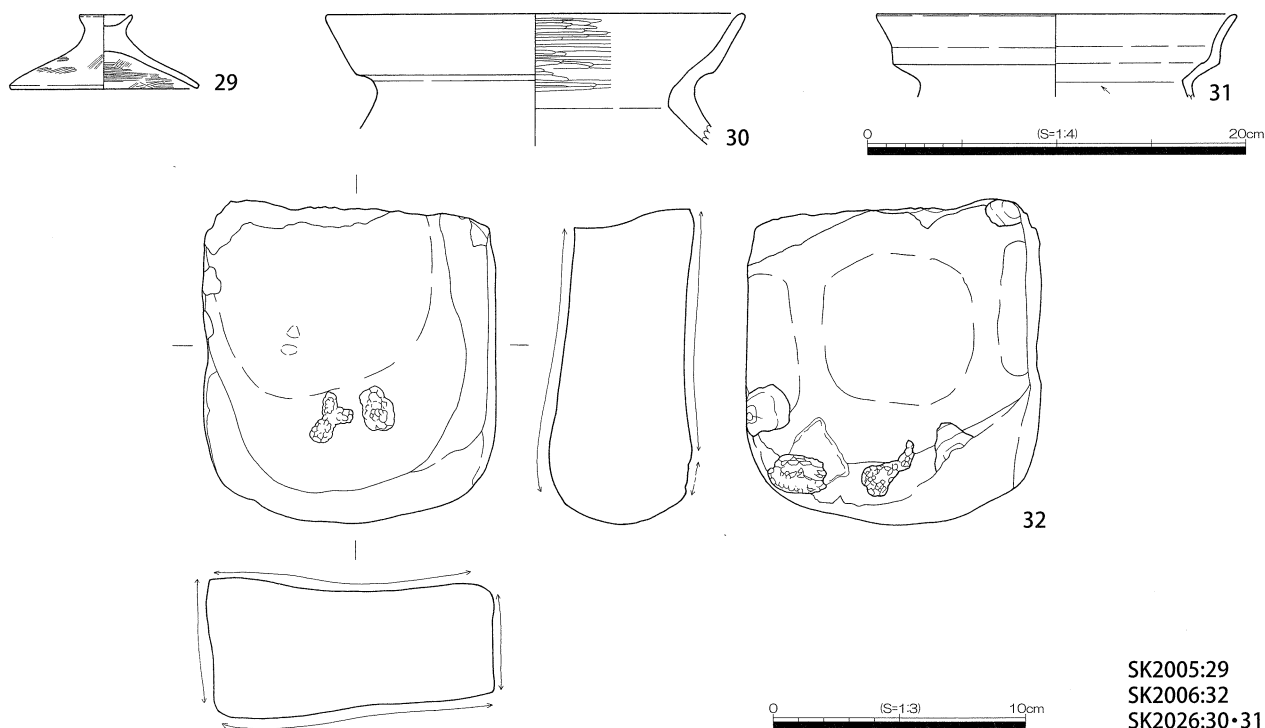
検出状況 第1面調査時、2-6層を除去した段階で検出された。

平面形状・規模 平面形は楕円形で長軸 0.942m・短軸 0.659m を測る。断面形は盤形で確認面から遺構底面までの深さは 0.018m である。

埋土 埋土は上下2層に分かれる。上層は砂粒を含む黒褐色細粒砂である。下層は黄灰色細粒砂～極細粒砂、検出基盤層である 2-7層のブロック土が顕著である。土坑開削時の取り残し土(加工層)と思われる。

遺物検出状況 最も残りの良い遺物は土師器(あるいは弥生土器)蓋(29)である。その他の遺物は微細破片である。体部細片が5点出土した。

遺構の性格と帰属時期 土坑である。帰属時期は出土遺物から古墳時代前期と推定される。断面観察から、掘り込まれていることは証明できるが、それ以上の所見は示せない。



遺物図7 SK2005・SK2006・SK2026出土遺物

遺物観察表 7

遺物番号	調査区	遺構番号(調査番号)	遺物図番号	図版番号	種別種	法量(cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成色調	備考
29	2	SK2005(2017)	7	49	(土師器)蓋	つまみ径:(2.6) 器径:3.9 口径:9.8	外面:つまみ部ナデ、天井部ミガキ 内面:天井部ハケ	密 ～3mmの砂粒、 少ない	普通 外面:にぶい橙 内面:橙	
30	2	SK2026(2072)	7	49	弥生土器甕	口径:(22.2) 器高:7.0～	外面:口縁部～肩部ナデ 内面:口縁部～頸部ナデ後ミガキ、肩部ケズリ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:明黄褐 内面:黒	D1類
31	2	SK2026(2072)	7	49	弥生土器甕	口径:(18.6) 器高:4.4～	外面:口縁部～頸部ナデ 内面:口縁部ナデ、頸部ケズリ	普通 ～3mmの砂粒、 普通	やや不良 外面:橙 内面:にぶい褐	外面煤付着 D2類
32	2	SK2006(2019)	7	49	石器 砥石	長さ:12.85 幅:11.65 厚さ:5.65 重さ:1401	断面は矩形 砥面4面	砂岩(新第三紀)	黄灰	

■ SK2026(図 19、遺物図 7、遺物観察表 7、写真図版 49)

位置 2区第1面 M35 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 46.220m である。

検出状況 第1面調査時、2-6層を除去した段階で径 20cm 程度の礫の集積部が検出された。遺構の存在が予想されたが、平面上では確認できなかった。礫の多さからサブトレンチによる断面確認は困難と判断し、2-7層掘削時に南半部を大きく段状に残して第2面調査時に平・断面再確認をおこなった。その結果、掘り込みの内側に礫が集中する状況が確認されたため、遺構として追加調査を実施した。

平面形状・規模 平面形は不定形・楕円形に近いびつな形状である。長軸 1.208m・短軸 0.873m を測る。断面形は不整 U 字形で確認面から遺構底面までの深さは 0.371m である。

埋土 埋土は単層、黒褐色の極細粒砂を主体とし、大小様々な大きさの礫が不規則に混じる。わずかに炭化物が含まれる。

遺物検出状況 弥生時代終末期に帰属するとみられる甕 (30・31) がある。その他の細片遺物は、壺 2 点・甕 12 点・高坏 2 点・器台 6 点。甕の比率が高い。土器以外では、遺構底から長さ 10cm 程度の炭破片が出土した。

遺構の性格と帰属時期 土坑である。礫の多さと、遺構形状が不整形なことから判断して、礫を捨てることを目的とした土坑と推定される。帰属時期は出土遺物から弥生時代終末期以降と判断されるが、2-6層の時期によっては新しくなる可能性がある。

■ SK2006(遺物図 7、遺物観察表 7、写真図版 49)

位置 2区第1面 N30 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 46.093m である。

検出状況 第1面調査時、2-6層を除去した段階で検出された。

平面形状・規模 平面形は円形で長軸 0.892m・短軸 0.673m を測る。断面形は盤形で確認面から遺構底面までの深さは 0.038m である。

埋土 埋土は単層、オリーブ黒色極細粒砂を主体とし、下方にかけて、検出時の基盤層である 2-7層のブロック土が増す。掘削土でそのまま埋め戻された状況と思われる。

遺物検出状況 32 は砂岩製の砥石である。砥面は 4 面。土器は微細破片のみである。

遺構の性格と帰属時期 土坑である。帰属時期は遺構面所見からの判定となる。耕作溝以前、弥生時代後期後葉から近世までの時期幅しか示せない。

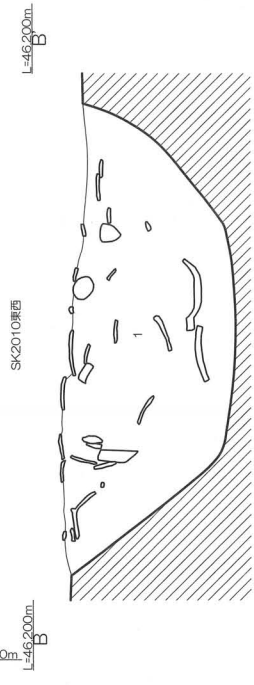
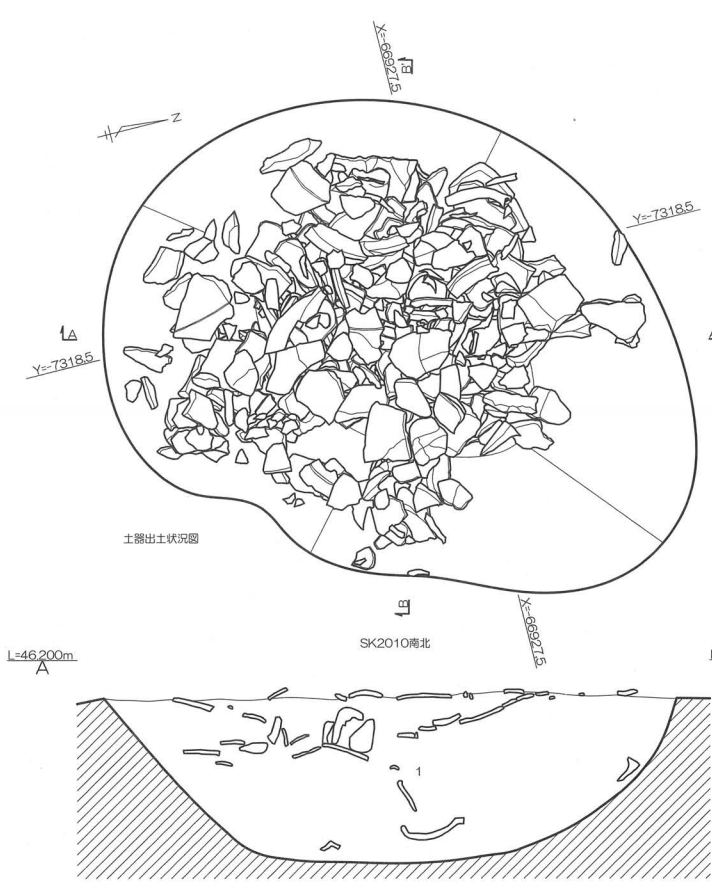
■ SK2008(図 19、写真図版 8)

位置 2区第1面 N30 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 46.171m である。

検出状況 第1面調査時、2-6層を除去した段階で検出された。

平面形状・規模 平面形状は楕円形、断面形状は U 字形もしくは不整逆台形である。長軸 1.579m・短軸 0.608m、確認面から遺構底面までの深さは 0.250m である。

埋土 埋土は上下 2 層に分かれる。上層は黒褐色極細粒砂の主体土に、砂粒とブロック土が含まれる。下層は色調がやや明るくなりブロック土が増す。両層に含まれるブロック土は色調から 2-7 層起源と考えられ、当遺構は埋め戻された可能性が高い。



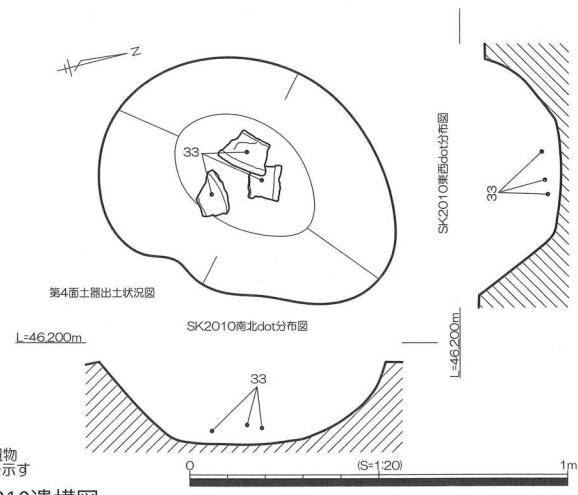
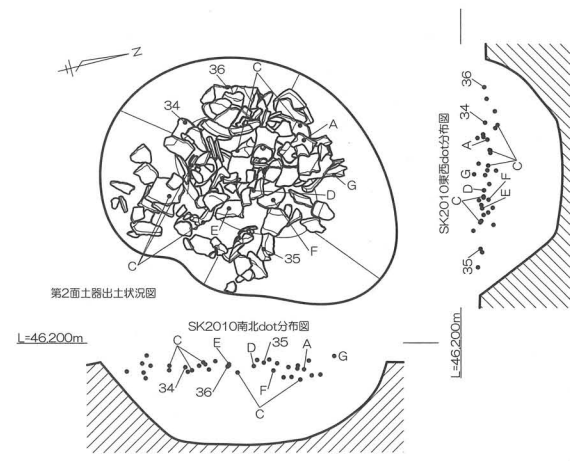
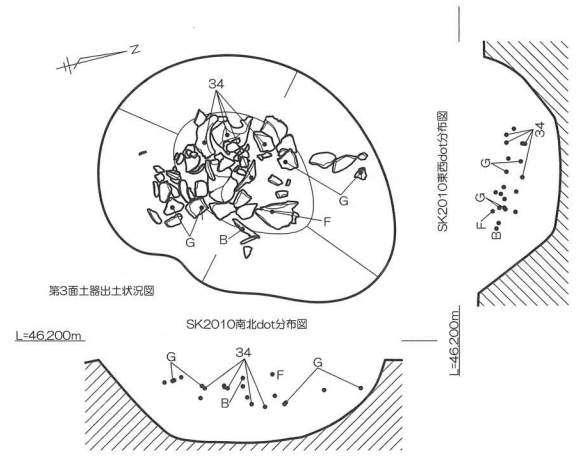
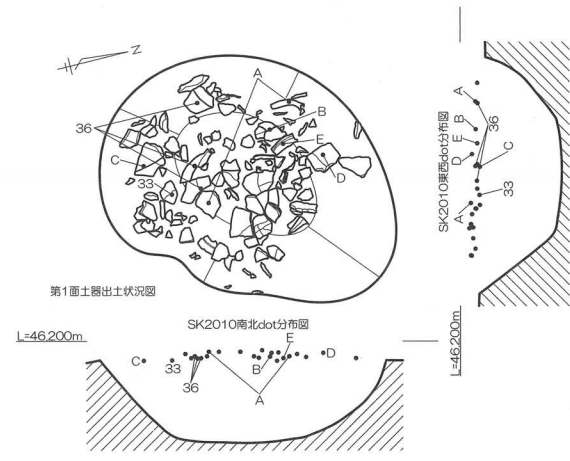
同一個体-遺物検出面dot対応

	1面	2面	3面	4面
33	●		●●●	●●●
34		●	●●●	
35		●		
36	●●●	●		
A	●●●	●		
B	●		●	
C	●	●●●		
D	●	●		
E	●	●		
F	●	●		
G		●	●●●	

SK2010 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y4/1 黄灰色	極細粒砂	土器片多量

0 50cm (S=1:10)



33~36は抽出遺物
A~Gは同一個体を示す

図20 SK2010遺構図

遺物検出状況 計数可能な土器点数は 16 点である。このうち、甕 2 点・器台 1 点が器種判定が可能な破片である。明瞭に時期のわかる遺物はないが、鼓形器台の脚裾端部とみられる破片から、かろうじて弥生時代後期後葉から終末期の様相が読み取れる。

遺構の性格と帰属時期 土坑である。2-7 層起源のブロック土が上下層とも含まれ、それが下層にかけて増える状況から掘削土による埋め戻し行為が想定される。平面形状と遺構規模から土坑墓の可能性も想定して調査を進めたが、副葬品と考えられる遺物はなく、埋葬施設の痕跡は見つからなかった。遺構の短軸断面からは明確に掘り込まれていることを確認できるが、底面の不整形さからは特に形を意識していたとは思えない。墓としての根拠に乏しく、その可能性は極めて低い。

遺構時期について、出土土器は微細破片であるため時期判定には適さない。したがって、帰属時期は遺構面と層所見からの判定となる。耕作溝以前、弥生時代後期後葉から近世までの時期幅しか示せない。(浅井)

■ SK2010(図 20、表 4、遺物図 8、遺物観察表 8、写真図版 8・50)

位置 2 区第 1 面 M31 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 46.095m である。

検出状況 第 1 面調査時、2-6 層を除去した段階で土器片が多数露出したことで検出された。

平面形状・規模 平面形は楕円形、断面形は皿形である。長軸 0.821m・短軸 0.608m、確認面からの遺構底面までの深さは 0.230m である。

埋土 埋土は単層、黄灰色極細粒砂を主体とする。埋土内に細片土器が多く含まれる。土色・土質共に 2-7 層と類似しており、遺物がなければ遺構の認識は困難である。

遺物出土状況 遺構からは、多数の土器片が出土した。4 回に分けて記録した出土状況図からは、土器片が土坑中央部を中心として上部まで広がるように埋まっていたことがわかる。確認された器種は、壺・甕・高坏・器台である。個体としての残存率はそれほど高くなく、最大のものでも口縁部から体部上半までの接合にとどまる。

a. 遺物の出土傾向 出土土器について帰属時期と摩耗の有無による分類をおこなった。帰属時期は弥生時代後期から古墳時代前期までの幅がある。弥生時代後期後葉と古墳時代前期の土器遺物が多く、弥生時代終末期の遺物は少ない。また、須恵器は確認されていない。摩耗については、器表・調整がはっきり残存するものから、破断面が削れて丸くなってしまっているものまで、遺存状態の差が激しい。土器片検討の結果、摩耗の有無は遺物の帰属時期や出土面とは無関係であることが判明し、さらに、摩耗のある破片とない破片の接合が確認された。

b. 器種細分と抽出遺物 器種は壺の割合が高い。個体レベルで確認できた壺は、口縁部に波状文を施したものの 6 個体、肩部に突帯を有するもの 5 個体、それ以外 1 個体、合計 12 個体を確認した。甕は口縁部に平行沈線文を施したものの 2 個体、施されていないもの 1 個体、合計 3 個体を確認した。これらの甕の細片は破碎され摩耗が進行しているが

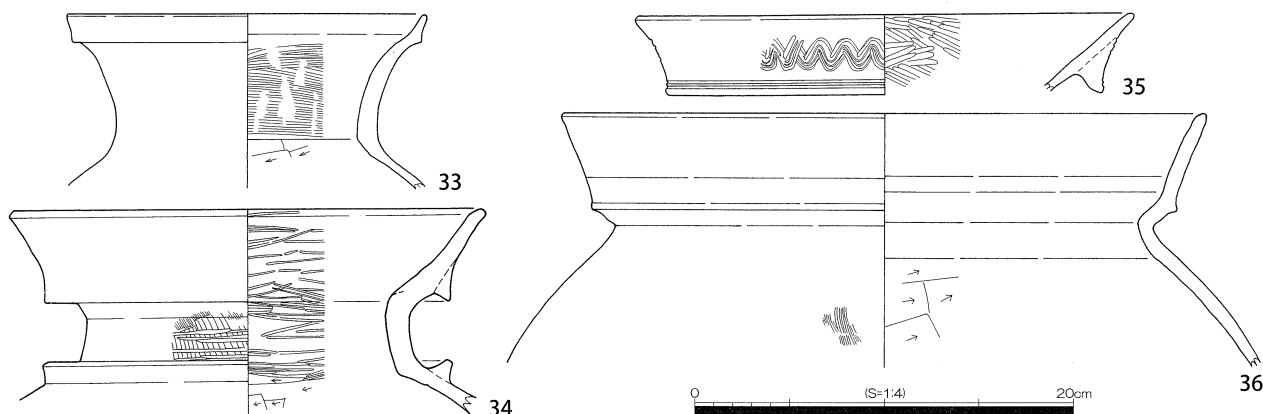
表 4 SK2010 遺物構成表

器種	特徴	時期要素	数量	部位	摩耗
壺	波状文	弥生後期後葉	6 個体	口縁部	有・無
	突帯有り	古墳前期前葉	5 個体	口縁部～体部	有・無
	それ以外		1 個体	口縁部 頸部	有・無
甕	沈線文有り	弥生後期後葉	2 個体	口縁部	有
	沈線文なし	弥生終末期	1 個体	口縁部～体部	有・無
器台	大破片	～弥生終末期	1 個体	受部 筒部	無
器台・高坏	器種特定不能		10 個体+	体部 脚(台)部	有・無
不明	底部(平底)		2 個体	底部	有・無
	細片		100 点+	体部	有・無

接合可能であった。高坏・器台はいずれも数個体ずつ出土しているが接合できるものは少ない。出土遺物の中から遺物番号 33～36 を抽出した。35 は壺である。口縁部に波状文・平行沈線文が施されている。波状文は櫛状工具を用いて施文したとみられるが、その方法が特徴的である。通常の波状文は、施文方向に対して角度を固定した原体を平行移動させることで波を表現する。これに対して、本例では波形に対して常に直交するように原体の角度を調整しており、波形頂点では内側を起点とした原体の回転によって折り返しをおこなっている。35 と同じ特徴を持つ壺破片を検討した結果、類似性の高い破片が、口縁部の長さの違い、波状文と平行沈線文の施文順序の違い等で 5 個体に細分された。34 は壺である。口縁部は無文、屈曲部から外反して立ち上がる。肩部に貼付される突帯は古墳時代前期の要素と判断される。当遺構内で最も新しい遺物と思われる。34 と同じ特徴を持つ壺破片は、口縁の形態、突帯形状の微細な差から 4 個体に細分された。直接の接合関係にはないが、これと同系統とみられる壺破片は相当数出土している。36 は壺である。複数の遺物検出面に跨る接合関係を持つ個体である。1 回目の検出で頸部の一部、4 回目の検出で口縁部の 3 分の 2 が出土した。36 のように検出面を異にししながら同一個体と判断される遺物を 10 例確認した。遺構埋土が単層であることとあわせて考えると、SK2010 の土器片はまとめて一度に埋められたと考えられる。

遺構の性格と帰属時期 破片遺物をまとめて埋める行為が想定されることから廃棄土坑と考えられる。遺構の帰属層と出土遺物についてはさらなる検討が必要である。

調査時には、遺物量の多さとその状況から一括性の高さを想定し、土器埋納遺構などの性格を考えていた。しかし、土器詳細検討の結果は、個体・時期的な一括性を否定するものであった。出土遺物は、個体数の多さ、土器の帰属時期幅の広さを特徴とし、さらに、土器の新旧と摩耗の有無に関連性が乏しいことが判明した。そのような土器片を一括廃棄するための掘り込みが当遺構であるのなら、廃棄に至る以前の土器の状況を考える必要がある。



遺物図8 SK2010出土遺物

遺物観察表 8

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
33	2	SK2010 (2001)	8	50	弥生土器 壺	口径:(18.6) 器高:9.3～	外面:口縁部～頸部ナデ 内面:口縁部ナデ、頸部ハケ、肩部ケズリ後ナデ	普通 ～2mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:にぶい橙	
34	2	SK2010 (2001)	8	50	土師器 壺	口径:(24.4) 器高:10.8～	外面:口縁部ナデ、頸部ハケ後ミガキ、肩部突帯 貼り付け後ナデ 内面:口縁部ナデ、口縁部～頸部ミガキ、肩部 ケズリ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	良好 外面:橙 内面:橙	
35	2	SK2010 (2001)	8	50	弥生土器 壺	口径:(25.6) 器高:4.2～	外面:口縁部ナデ後波状文、口縁部下端沈線文2 条、頸部ミガキ 内面:口縁部ミガキ	密 ～4mmの砂粒、 普通	良好 外面:にぶい黄橙 内面:黄褐	
36	2	SK2010 (2001)	08	50	(弥生土器) 甕	口径:(33.2) 器高:13.4～	外面:口縁部～頸部ナデ、肩部ハケ後ナデ 内面:口縁部～頸部ナデ、肩部ケズリ	普通 ～2mmの砂粒、 少ない	普通 外面:灰白 内面:浅黄	径8～11mmの礫を 少量含む

時期を違えた土器が同じように破碎、摩耗を受ける状況としては、耕作行為があげられよう。当調査で確認される最も古い耕作土は当遺構を切る 2-6 層である。当遺構埋土には 2-6 層のブロック土が含まれておらず、2-7 層に非常に近い。したがって、遺構構築面は後世に削平されたと考えられる。埋土所見からは 2-7 層帰属遺構と判断されるが、2-7 層は耕作土ではないため、直接つなげることはできない。可能性として、2-6 層耕作前にさらに古い段階の耕作土を想定できればそこに帰属させることができるが、調査を通じて 2-6 層より古い耕作痕跡を確認していないため憶測に過ぎず、土器摩耗原因の特定には至らない。

そして、もう一つ考えなければならないことは。出土遺物から復元される器種構成が特殊であるという点である。他遺構や層掘削では確認できない特徴を持った壺が 11 個体も想定される。この壺は摩耗のない破片も多く、元々は別の遺構に属していた可能性が高いが、今回の調査ではこれらの壺と関連を見いだせる遺構は検出されなかった。

遺構時期については、多数の土器片の中に須恵器が一点も含まれないことと、最も新しい遺物である壺(34)を判定根拠として、古墳時代前期と判断できる。ただし、上記の検討から遺構が形成されるのは、この壺が破碎・摩耗を受けた後と考えられる。当遺構を切る 2-6 層の形成時期は古墳時代後期から近世までの幅が考えられるため、2-6 層の時期次第では新しくなる可能性があることを補足事項として指摘しておく。(浅井・島田)

第 2 面 (図 21、巻頭図版 1・2、写真図版 9)

第 2 面は 2-7 層を除去した後の遺構面である。ただし、これはあくまで理論上の定義であり、実調査では掘削状況に少し違いがある。Tr.1 ~ Tr.5 の断面観察による堆積状況の確認からは、2-8 層と同色の埋土を持つ遺構を確認しており、この検出には 2-8 層除去、すなわち、2-9 層を検出基盤層とする必要があった。このため調査北部では 2-8 層除去面を第 2 面とした(図 21 一点鎖線以北)。

南に下がりながら厚く堆積する 2-7 層には大きな課題がある。堆積時期は弥生時代後期前葉から終末期後半にかけてとされるが、層中には古墳時代前期の遺物も含まれる。基本層序項では、埋土が検出基盤層に類似するため検出しえない遺構についての可能性を示した。2-7 層掘削中においては土器だまり 2001 など、明らかな遺物の集積がみられるにも関わらず掘方が確認できない遺構や、土器だまり 2002 と大溝との関連の検討、また、各セクションにおける断面観察を通じて、第 2 面遺構の層位上の帰属は 2-7 層上面もしくは 2-7 層中(2-7 層堆積中の一時点)になると判断される。これは、理論上の検出面が、第 1 面・第 2 面とも 2-6 層除去面であることを意味する。調査においては遺構検出の必要性から 2-7 層を包含層として掘削し、その除去面において遺構検出をおこなった結果、堆積の厚い南部では 30cm ~ 40cm あまり掘り下げることになった。第 1 面検出時に平面上で把握した第 2 面遺構は 2-9 層礫部を切る SD2015 と、埋土内の礫が帯状に延びることから検出された SD2012 の 2 遺構のみである。どちらの遺構も途中で途切れてしまい、完全な検出には至っていない。このような大遺構でさえ検出がままならない状況から 2-7 層の掘り下げは調査手法上やむを得なかったと考えるが、そのために浅い遺構を破壊してしまったことは悔やまれる。

調査区南西部に残る高台は、第 2 面未調査範囲である。この範囲は溝状の深い攪乱があったため、既設 U 字溝掘方の法面養生の必要性から、第 1 面からの面下げは行わず表面遺物の回収のみとした。

第 2 面の標高値は、北東部 46.197m・南東部 46.058m・中央北 46.038m・中央南 45.723m・北西

部 46.066m、南西部 45.880m である。東から西にかけてわずかに、北から南にかけては、2-7 層掘削のために大きく下がる遺構面である。遺構密度は北側に高い。この要因は南側 (2-7 層内) の検出しえない遺構のためだけではなく、旧地形と密接に関わっていると考えられる。第 2 面遺構の 70% を占めるピットの分布は北部に集中する。この範囲は最終基盤層である 2-9 層と 2-10 層が礫質になっており、第 2 面検出時には面に礫が露出していた。Tr.2・Tr.5 のセクションからは南から北にかけて最終基盤層が高くなることがわかる。当時の地表面においてもこの範囲は高地部となっていたと想定できれば、ピット類が集中するのは自然な状況といえる。ただし、礫質な地表面に集落を築くとは考えにくく、また、遺構の存在は埋土内の礫密度の低さから認識されることが多かった。したがって、当時の地表面はまだかなり高く、地表面に広がっていた土壌は少なくとも礫質ではなかったと考えられる。ピットの集中からは建物の存在が予想されるが、確認されたのは総柱の掘立柱建物跡 SB2001 と竪穴住居跡 SI2001 の 2 棟と、布掘建物の可能性のある溝状土坑 SK2031・SK2041 のみである。高地部を示す砂礫層は調査区の北東側に延びており、現八東川に沿って帯状の微高地を形成していると思われる。集落はその方向に展開する可能性がある。

調査区南西から北東にかけて検出された 3 条の大溝は、その規模と遺物量から 2 区を象徴する遺構といえる。固く締った砂礫層を 1.5m 以上も掘り抜く労力は想像を絶するものである。大溝は北東方向への流れであったとみられ、八東川に接続していたものとみられる。出土した弥生時代後期から古墳時代前期にかけての大量の土器は完形に近いものも多く、当該期の良好な一括資料である。さらに、地方との交流を示す丹後や吉備の影響を強く受けた土器の出土も特筆される。

第 2 面で、最も新しい遺構は SD2015 である。調査区を東西方向に横断するこの溝はその他の全ての遺構を切っている。先の大溝群とは明らかに異なる方向に延びることからも、局面の違いが窺える。時期決定に値する決定的な遺物がないが、400 点を超える微細破片の中に須恵器が一点もみられないことから、やはり古墳時代前期に属すると考えられる。

■ SD2015(図 22、表 5、遺物図 9、遺物観察表 9、写真図版 10・50)

位置 2 区第 2 面 M30～L36 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 45.914～46.159m である。

検出状況 調査区中央の Tr.2 断面観察において存在が確認された。埋土が検出基盤層である 2-8 層と同じ黒色土になっていたため検出は困難であった。礫の抜けている範囲を頼りに東西に延びる溝状遺構であることは確認できたが、検出は既に砂礫層が露出していた範囲を含めた 30m 程度で、その延長が全く不明であった。遺構プラン確定には、調査区中央から東部の高地部では 2-8 層の、西部の窪地部分では 2-7 層の除去が必要と判断されたため、これを第 2 面調査時の課題とした。2-8 層掘削中に、溝埋土は周囲の同色土に比べて乾燥が遅いことが判明した。これは粒度組成や有機物の含有量の違いによる保水力の差と考えられ、大溝類 (SD2013・SD2014) との切り合い関係の判定根拠とした。図 22 中の一点鎖線の北側は 2-8 層の除去範囲を示しており、この外側では 2-7 層が堆積している。M30・M31 グリッドでは 2-7 層除去後の精査において、2-7 層に類似する埋土の溝が検出され、先に検出されていた部分と繋がった。これにより SD2015 は調査区を東西に横断する溝としてプランが確定した。第 2 面主要遺構との切り合い関係あり。SD2015 は建物・大溝等、その他の第 2 面遺構を全て切る。

平面形状・規模 平面形は帯状で、検出長 63.409m・幅 0.762m、主軸は N-72°-E をふる。断面

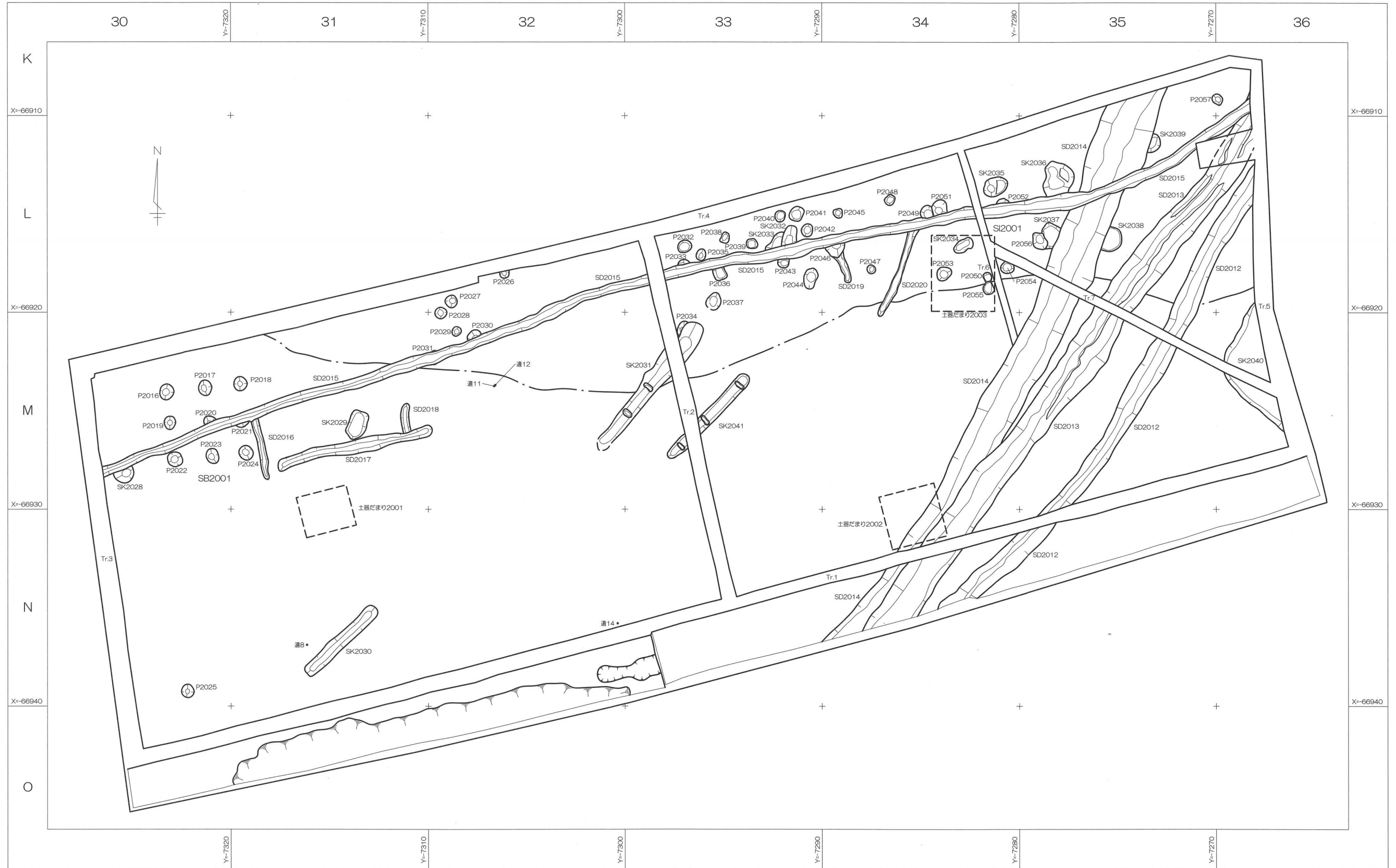
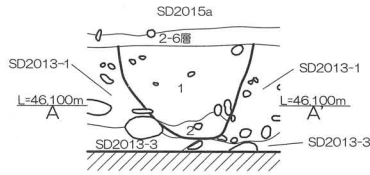
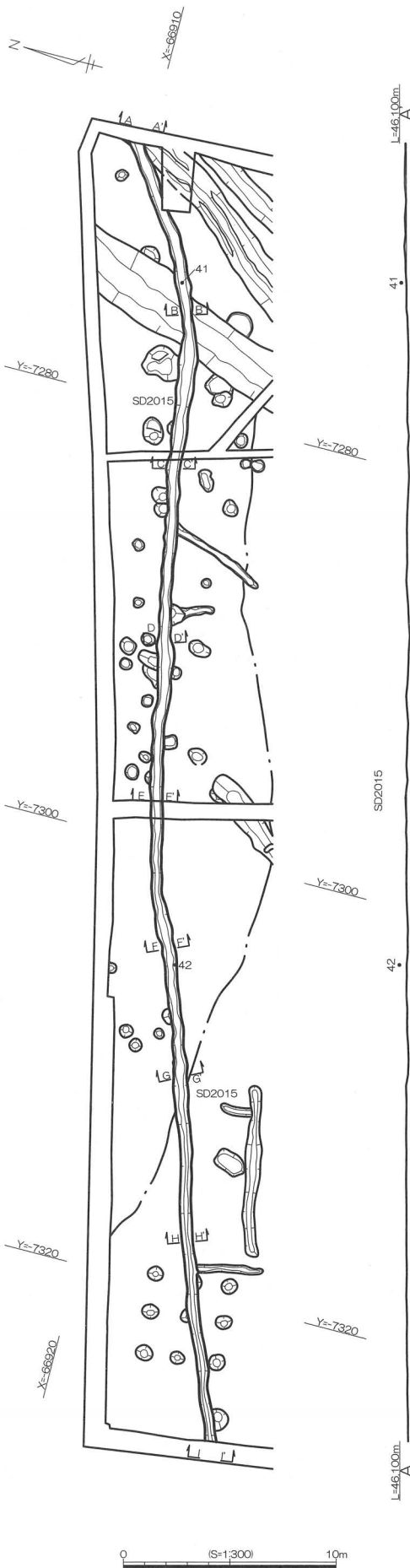
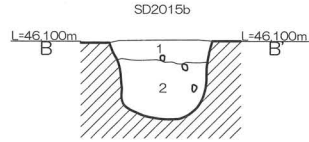


図21 2区 第2面平面図



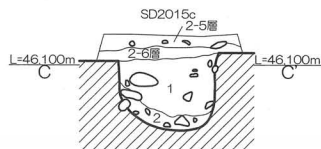
SD2015セクションa 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径3cm以下の礫少量
2	10YR2/1 黒色	細粒砂	粗粒砂～中粒砂少量 径5cm以下の礫少量



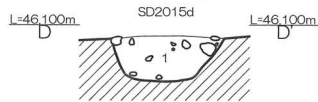
SD2015セクションb 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径3cm以下の礫少量
2	2.5Y3/2 黒褐色	細粒砂	粗粒砂～中粒砂少量 径5cm以下の礫少量



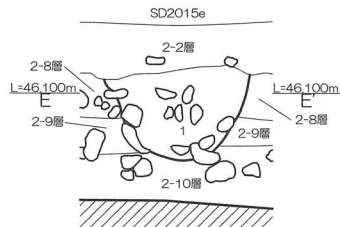
SD2015セクションc 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径15cm以下の礫微量
2	2.5Y2/1 黒色	細粒砂	粗粒砂～中粒砂多量 径5cm以下の礫微量



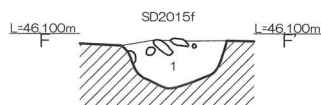
SD2015セクションd 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y2/1 黒色	中粒砂～ 細粒砂	粗粒砂微量 径10cm以下の礫微量



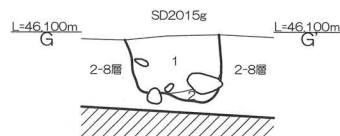
SD2015セクションe 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y2/1 黒色	極細粒砂～ シルト	粗粒砂～中粒砂中量 径10cm以下の礫微量



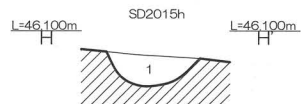
SD2015セクションf 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	10YR2/1 黒色	中粒砂～ 細粒砂	粗粒砂中量 径10cm以下の礫中量



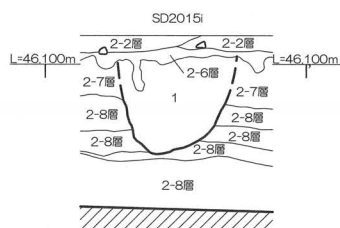
SD2015セクションg 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径5cm以下の礫少量
2	2.5Y3/1 黒褐色	中粒砂 極細粒砂	粗粒砂中量 径15cm以下の礫少量



SD2015セクションh 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y5/2 暗灰黄色	細粒砂～ 極細粒砂	炭化物微量



SD2015セクションi 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	10YR4/2 灰黄褐色	細粒砂～ 極細粒砂	締り軟質

※2-○層は層序名(2区第○層)を、
SD2013-○は別遺構埋土を示す
詳細は基本層序・遺構報告項に記載

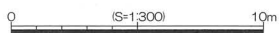


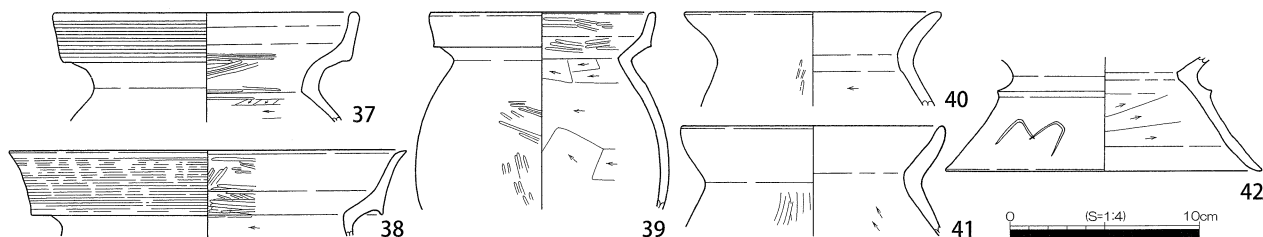
図22 SD2015遺構図

形はU字形で、確認面からの深さは最大0.392mを測る。東端のセクションaと西端セクションiの比高は30.1cm、0.5%の勾配である。ただし、溝底面の標高は一定しない。表5に標高値の推移を示した。概ね東から西にかけて下がっているが、東端～セクションg間での標高値は振幅が大きく、やや低い値を示す。この範囲の基盤は大礫が多く含まれる砂礫層である。セクションc・dの断面計測値は周囲の標高値に比較して高い値を示すことから、調査における礫除去や精査の繰り返しによって面が下がり、結果として掘り過ぎになってしまった可能性が高い。

埋土 9ヶ所のセクションを設定し断面観察をおこなった。埋土の様相はその検出位置によって2-8層系と2-7層系の2つに分類できる。調査区北東部の遺構埋土は2-8層に近い黒色～黒褐色土である(セクションa～g)。調査区西半部の遺構埋土は2-7層に近い暗灰黄色土である(セクションh・i)。共に堆積構造は確認できない。埋土内には一定量の礫が含まれ、わずかながら炭化物も確認された。土色や礫の含量がその場所の基盤層を反映していることから、溝埋土は埋め立て行為による人為的な形成層の可能性が高い。

遺物検出状況 破片遺物が多数出土した。計数可能な遺物点数は412点である。接合関係の乏しい表面摩耗の進んだ微細破片が大半を占める。破片は全て弥生土器もしくは土師器であり、須恵器は確認できない。その中で、SK2010出土の古墳時代前期壺と接合する摩耗した破片が確認されたことが特筆される。遺物抽出は破片遺物のうち残存率の高いものについておこなった。口縁部に平行沈線文が施される甕(37・38)は弥生時代後期後葉の帰属とみられる。42は鼓形器台である。脚台部外面にへら状工具によって描かれる逆U字形の線刻を2つ組み合わせM字形を成す。線刻土器については「弥生時代後期末葉～古墳時代前期初頭の鼓形器台を中心に施される^{註1}」とされ、本例はその特徴と一致する。

遺構の性格と帰属時期 溝である。垂直に近い肩の立ち上がりから溝幅は広くても1m程度と推測

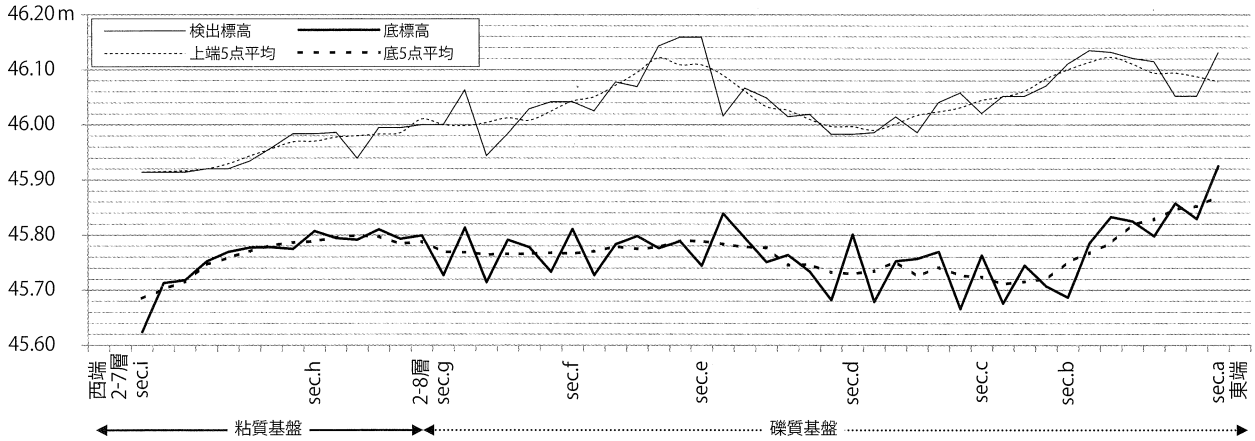


遺物図9 SD2015出土遺物

遺物観察表 9

遺物番号	調査区	遺構番号(調査番号)	遺物図番号	図版番号	種別 器種	法量(cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
37	2	SD2015(2005)	9	50	弥生土器 甕	口径:(16.2) 器高:5.8～	外面:口縁部平行沈線文、頸部～肩部ナデ 内面:口縁部ナデ・ミガキ、頸部～肩部ケズリ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	良好 外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい褐色	C1類
38	2	SD2015(2005)	9	50	弥生土器 (甕)	口径:(20.8) 器高:4.55～	外面:口縁部平行沈線文+ナデ消し、頸部ナデ 内面:口縁部ミガキ、頸部ケズリ	普通 ～3mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:浅黄褐色	外面煤付着 (C2類)
39	2	SD2015(2005)	9	50	弥生土器 壺	口径:(11.2) 器高:10.4～ 最大径:(13.4)	外面:口縁部～肩部ナデ、体部ミガキ 内面:口縁部ナデ後ミガキ、頸部～体部ケズリ	普通 ～2mmの砂粒、 多い	普通 外面:褐色 内面:にぶい黄褐色	外面煤付着
40	2	SD2015(2005)	9	50	(土師器) 甕	口径:(12.6) 器高:5.0～	外面:口縁部～肩部ナデ後ミガキ 内面:口縁部～頸部ナデ、肩部ケズリ	普通 ～3mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
41	2	SD2015(2005)	9	50	(土師器) 甕	口径:(14.0) 器高:5.8～	外面:口縁部ナデ、肩部ハケ 内面:口縁部ナデ、肩部ケズリ	やや粗 ～2mmの砂粒、 普通	普通 外面:暗褐色 内面:橙	
42	2	SD2015(2005)	9	50	弥生土器 器台 (鼓形器台)	器高:6.0～ 脚径:(16.8)	外面:筒部～脚台部ナデ 内面:受部ナデ、筒部～脚台部ケズリ、脚台部下 端ナデ 特記:外面脚台部に線刻	やや密 ～2mmの砂粒、 普通	良好 外面:黄灰 内面:淡黄	

表5 SD2015 検出面・底部レベル推移表



される。そして、調査における範囲だけでも直線状に 60m 以上延びることを考えると、何か明確な機能を持つ遺構であることは間違いない。遺構規模と形状からは東から西に流れる水路の可能性が挙げられるが、断面観察からは水流があった痕跡は確認できなかった。しかし、溝埋土形成要因は人為的な埋め立て行為とされることから、SD2015 が相当な長さの溝として存在したことは間違いない。

溝の遺構時期について、SD2015 は古墳時代前期前葉から中葉の廃絶とされる SD2013 を切り、古墳時代後期以降近世以前の耕作土とされる 2-6 層に切られることから、古墳時代前期(中葉)から近世の間の一時期の帰属となる。また、400 点を超える出土遺物の中に須恵器が全く含まれないことを加味して、SD2015 は古墳時代前期の帰属と判断される。ただし、この溝はその他の第 2 面主要遺構と比較すると、想定される流向や建物・大溝を問わず全ての遺構を切っている点が特殊といえ、それ以前とは土地利用形態の変化が想定される。同じ古墳時代前期の帰属としても、大溝の時期とは明確に区別して考える必要がある。

もう一つ、特異な器種構成で注目される第 1 面 SK2010 出土の壺と接合する破片が確認されたことにより、両遺構の繋がりが見えてくる。SD2015 から須恵器は全く確認できなかったが、SK2010 と同じく、帰属時期が新しくなる可能性も考えねばならない。さらに憶測を重ね、SK2010 項で想定された 2-6 層形成以前の耕作が成り立つとするならば、SD2015 をそれに伴う用水路と考えてもよいのではないだろうか。(浅井・島田)

註 1 湯村 功他 1997『天萬土井前遺跡』鳥取県教育文化財団調査報告書 53 (財)鳥取県教育文化財団

SD2015 端点詳細
SD2015 遺構検出長 63.409

sec 名	検出標高	5 点平均	底標高	5 点平均	
西端	sec.i	45.914	45.914	45.624	45.685
		45.914	45.916	45.713	45.702
		45.914	45.916	45.718	45.715
		45.920	45.920	45.752	45.746
		45.920	45.929	45.769	45.759
		45.934	45.943	45.777	45.770
		45.958	45.956	45.778	45.781
		45.984	45.969	45.775	45.786
	sec.h	45.984	45.970	45.807	45.789
		45.986	45.978	45.794	45.795
		45.939	45.980	45.791	45.799
		45.995	45.983	45.810	45.797
		45.995	45.986	45.793	45.784
2-7 層・2-8 層境界		46.000	46.011	45.799	45.788
	sec.g	46.000	46.000	45.727	45.769
		46.063	45.998	45.813	45.769
		45.944	46.004	45.714	45.765
		45.984	46.012	45.791	45.766
		46.029	46.008	45.778	45.765
		46.042	46.024	45.733	45.768
	sec.f	46.042	46.043	45.811	45.766
		46.025	46.051	45.727	45.770
		46.078	46.071	45.783	45.779
		46.069	46.095	45.798	45.775
		46.143	46.122	45.776	45.778
		46.159	46.109	45.789	45.789
	sec.e	46.159	46.109	45.744	45.789
		46.016	46.090	45.839	45.784
		46.067	46.061	45.795	45.779
		46.049	46.033	45.751	45.777
		46.015	46.027	45.764	45.745
		46.019	46.010	45.734	45.746
		45.983	45.997	45.682	45.732
	sec.d	45.983	45.997	45.801	45.730
		45.986	45.991	45.679	45.734
		46.015	46.002	45.753	45.752
		45.986	46.017	45.757	45.725
		46.041	46.024	45.770	45.742
		46.058	46.032	45.666	45.726
	sec.c	46.021	46.045	45.763	45.724
		46.052	46.051	45.676	45.711
		46.052	46.061	45.745	45.716
		46.071	46.084	45.707	45.720
	sec.b	46.111	46.100	45.687	45.751
		46.135	46.114	45.785	45.767
		46.132	46.123	45.833	45.786
		46.121	46.111	45.825	45.820
		46.115	46.094	45.798	45.828
		46.052	46.094	45.857	45.847
		46.052	46.088	45.829	45.852
東端	sec.a	46.131	46.078	45.925	45.870
	sec.a-sec.i	0.217		0.301	
	勾配 (%)	0.3%		0.5%	
	勾配 (cm/m)	0.342		0.475	

■ SB2001(図 23、表 6、写真図版 11)

位置 2区第2面 M30 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 45.928m ~ 46.075m である。

検出状況 第2面調査時、2-7層除去面(2-8層上面)を検出したところ9基のピットが格子状に並ぶ状況が確認された。検出した遺構埋土の類似性も認められたため関連性のある遺構群と認識し、その配置から建物と認識し調査を進めた。他遺構との切り合い関係あり。P2020・P2021はSD2015に切られる。

軸方向・平面形状・規模 桁行2間・梁間2間の総柱掘立柱建物跡である。主軸はN-84°-Eをふる。桁行長3.740m・梁間長3.520m、ほぼ正方形の建物が想定される。

SB2001はP2016~P2024の9基の柱穴で構成される。形状と遺構規模は共通性が高い。柱穴は全て円形で皿型の断面形状である。詳細数値(長軸×短軸-確認面からの深さ)は以下の通りである。

- P2016(0.813m × 0.679m-0.165m)、P2017(0.795m × 0.676m-0.115m)
- P2018(0.718m × 0.667m-0.110m)、P2019(0.674m × 0.572m-0.120m)
- P2020(0.634m × 0.500m-0.220m)、P2021(0.704m × 0.500m-0.185m)
- P2022(0.752m × 0.720m-0.250m)、P2023(0.776m × 0.606m-0.225m)
- P2024(0.742m × 0.672m-0.215m)。

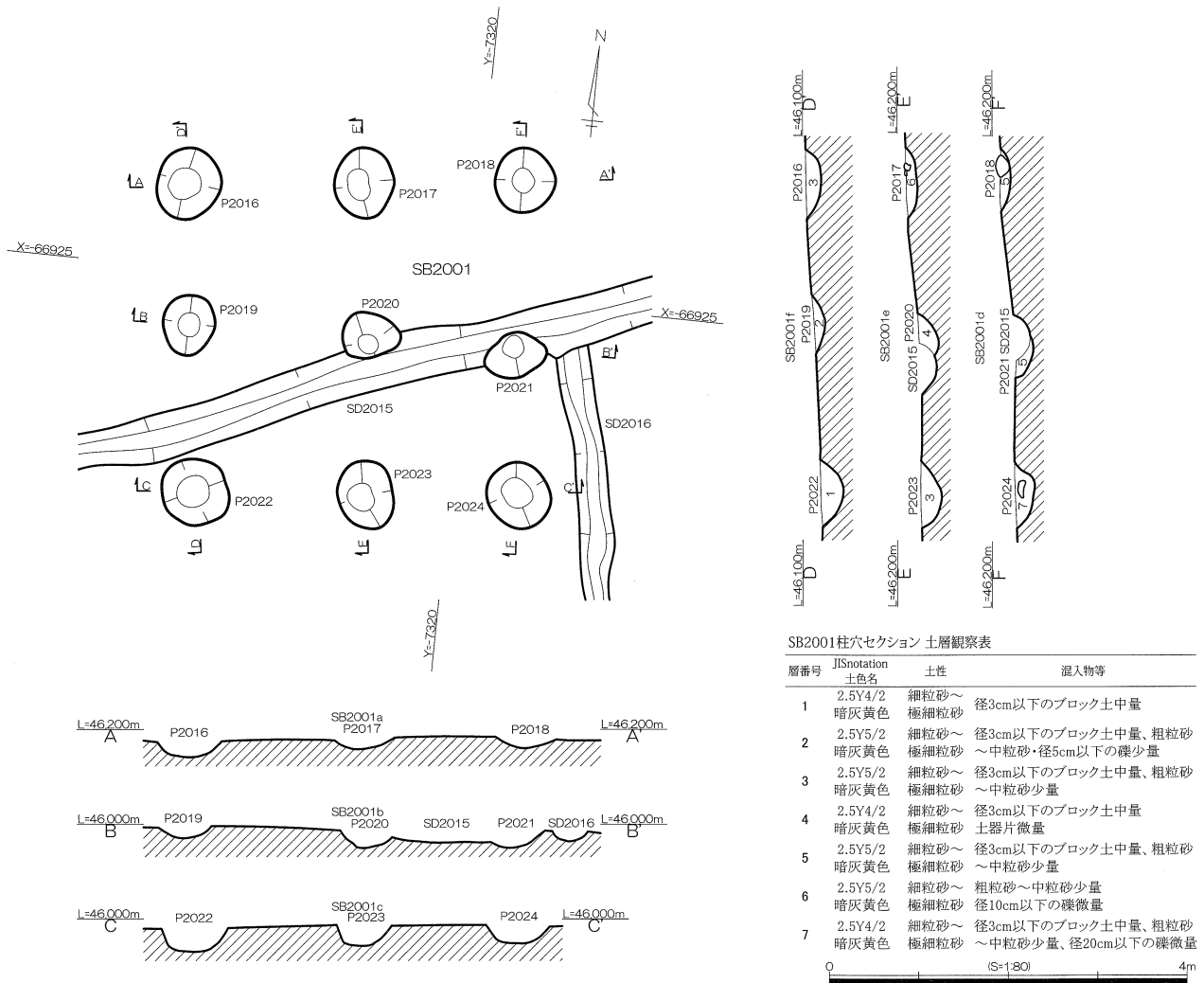


図23 SB2001遺構図

P2020 と P2021 の平面規模は他と比較してやや小さくなっているが、これは、SD2015 に切られ一部欠損するためである。

柱穴埋土・礎石の有無 暗灰黄色細粒砂～極細粒砂を主体土とする。埋土には共通点が多い。検出状況と併せて考えると、埋土特徴は以下の要素に集約される。

A. 色調は 2-7 層に基本的に酷似しており、わずかに暗い程度の差しかない。2-8 層を検出基盤層として初めて遺構として認識できる。

B. わずかながら微細遺物が含まれており、遺構としては確実に存在する。

C. 埋土内には黄灰色系のブロック土が散見される。埋土とよく似るがわずかに明るい。起源は 2-7 層と推定される。

D. 分層単位は認められず、ブロック土の分布に偏りは見られない。また、柱根や礎石等、直接柱を示すものは何も確認できない。底面の調整痕も認められない。

プラン及び断面からは柱の痕跡は確認できず、上記所見から導かれる埋土形成要因は埋め立て行為と判断される。また、遺構埋土の起源はほとんどが 2-7 層とみられることから、2-7 層帰属遺構と考えられ、本来の検出面は 2-6 層除去面と判断される。

遺物出土状況 ピットからの出土遺物は 24 点、基本的に表面摩耗の顕著な微細破片ばかりである。この中で器種判定が可能な破片は、壺 2 点・高坏 1 点である。時期のわかる個体には、弥生時代後期前葉とみられる壺口縁部がある。

遺構の性格と帰属時期 柱穴配置から総柱掘立柱建物跡と推定される。ただし、柱痕及びその痕跡が全く確認できなかったことから建物の妥当性を検討する必要がある。表 6 に SB2001 構成柱穴の計測値を示した。柱穴の深さは 0.110 ～ 0.250m、この深さで柱を立てることはまず不可能である。本来の帰属面は 2-6 層除去面 (2-7 層上面) であるが、建物周辺での 2-7 層の掘削深度は最深で 20cm であるため状況は同じといえる。2-6 層は耕作土とされることから、耕作行為によって柱穴上部はかなり破壊されてしまったと考えられる。次に検出段階での SB2001 柱穴は、第 2 面ピット平均値と比較して、残存状況が悪いにも関わらず径が大きいことがわかる。先の埋土所見を合わせて考えると柱の抜き取り行為が想定される。建物解体に際して、周囲を掘り込んで柱を抜き取った後に埋め戻しがあったと考えれば、大きな掘方を持つ柱痕のない柱穴への理解が可能となるのではないだろうか。以上の検討から SB2001 は掘立柱建物跡であった可能性が高いと考える。

一方、建物の時期に関しては明確に示すことができない。本来の検出基盤層である 2-7 層の堆積時期は弥生時代後期から終末期にかけてと推定される。柱穴出土遺物で時期を示せるものは弥生時代後期前葉の壺破片のみであり、時期判定には適さない。P2020 と P2021 が古墳時代前期と考えられる SD2015 に切られていることから、SB2001 の帰属時期は 2-7 層堆積後から SD2015 開削までの間となる。これは、弥生時代終末期から古墳時代前期までの時期幅を示すことになるが、これ以上詳細な時期を示すことはできない。(浅井・島田)

表 6 SB2001 ピット残存率分析表

	長軸	深さ	深さ / 長軸
P2016	0.813	0.165	20.3%
P2017	0.795	0.115	14.5%
P2018	0.718	0.110	15.3%
P2019	0.674	0.120	17.8%
P2020	0.634	0.220	34.7%
P2021	0.704	0.185	26.3%
P2022	0.752	0.250	33.2%
P2023	0.776	0.225	29.0%
P2024	0.742	0.215	29.0%
平均値	0.733	0.174	23.9%
第 2 面ピット平均	0.692	0.230	40.6%

■ SI2001(図 24・25、遺物図 10、遺物観察表 10、写真図版 12・13・50・51)

位置 2区第2面 L34 グリッドに位置する。SI2001 を構成する遺構は、土器だまり 2003・P2051～P2054・SK2034 である。帰属遺物(土器だまり 2003) 確認面の標高は 46.135m、遺構確認面(第2面)の標高は 46.058m である。

検出状況 当遺構は最終的に竪穴住居跡(SI2001)と認定されたが、結論に至るまでの調査・検討期間は長期にわたる。調査工程は大きく2段階に分かれる。

a. 遺物検出～第1面調査 - 土器だまり 2003 の調査 -

第1面調査時、2-6層掘削段階において、個体関係を示す破片が一定範囲で面状に広がる状況が確認された。それまでの2-6層内出土遺物は細片土器ばかりであったため、周辺において遺構の存在が想定された。検討のための土層観察用のベルトを設定し、周囲の遺物確認をおこなったところ、個体遺物は3mの範囲内に分布することが確認された。平面精査を再三試みたが遺構は確認されなかった。この周辺は2-7層の堆積はなく、2-6層除去後の第1面検出基盤層は、2-6層と同様の黒色土である2-8層である。遺構埋土が基盤層と類似する可能性を考えた場合、この段階での遺構検出は困難と判断し、遺構の有無の確認は次面調査での課題とした。出土した遺物群は土器だまり 2003 として遺構登録し、各種記録後第2面調査に移行した。

b. 2-8層掘削～第2面調査 - 住居構成遺構の調査 -

土器だまり 2003 に関連する遺構の有無の確認には2-8層の除去が必要と考えられたため、周辺の2-8層を掘削し面検出をおこなった。検出されたP2053とP2054は、ともに深さが0.6mに達するピットで、P2053からは柱痕が確認された。この二つのピットを軸にして周辺遺構の位置関係を検討した結果、SD2015に切られるP2051とP2052を合わせた4基のピットが正方形に並ぶことが判明した。位置的にも土器だまり 2003 と重なることから、竪穴住居跡の存在を想定し、ピットを主柱穴と、土器だまりを住居内の遺物と考えた。SK2034は推定される住居の中央からやや南西にずれた位置で検出された。この範囲内には他に土坑が見当たらないことから住居の中央土坑と推定される。

平面形状・規模・付帯施設 調査において竪穴本体は確認できなかったため、住居の規模は不明である。ただし、記録写真からの推測は可能である。第1面プラン検出写真を検討すると、調査区北部の住居が推定される位置において、扇状に礫が抜けている範囲を確認できる。この周辺の第2面遺構の埋土は、検出基盤層に比較して礫が少ないことが特徴の一つとされることから、先の礫抜け範囲は遺構である可能性が考えられる。全体を広く見ると、礫抜けと土器だまりを包括する範囲は暗色がやや強い。後に検出される主柱穴はその範囲内に収まっており、主柱穴の中心点と礫抜け範囲の北端間が約3.5mとなる。これを半径とする直径7mの範囲内に土器だまり 2003 遺物が全て含まれることから、この範囲を竪穴部の推定範囲とした。ただし、この円は建物の平面形状を示すものではなく、あくまで住居範囲及び規模推定のための補足情報であることを強調しておく。

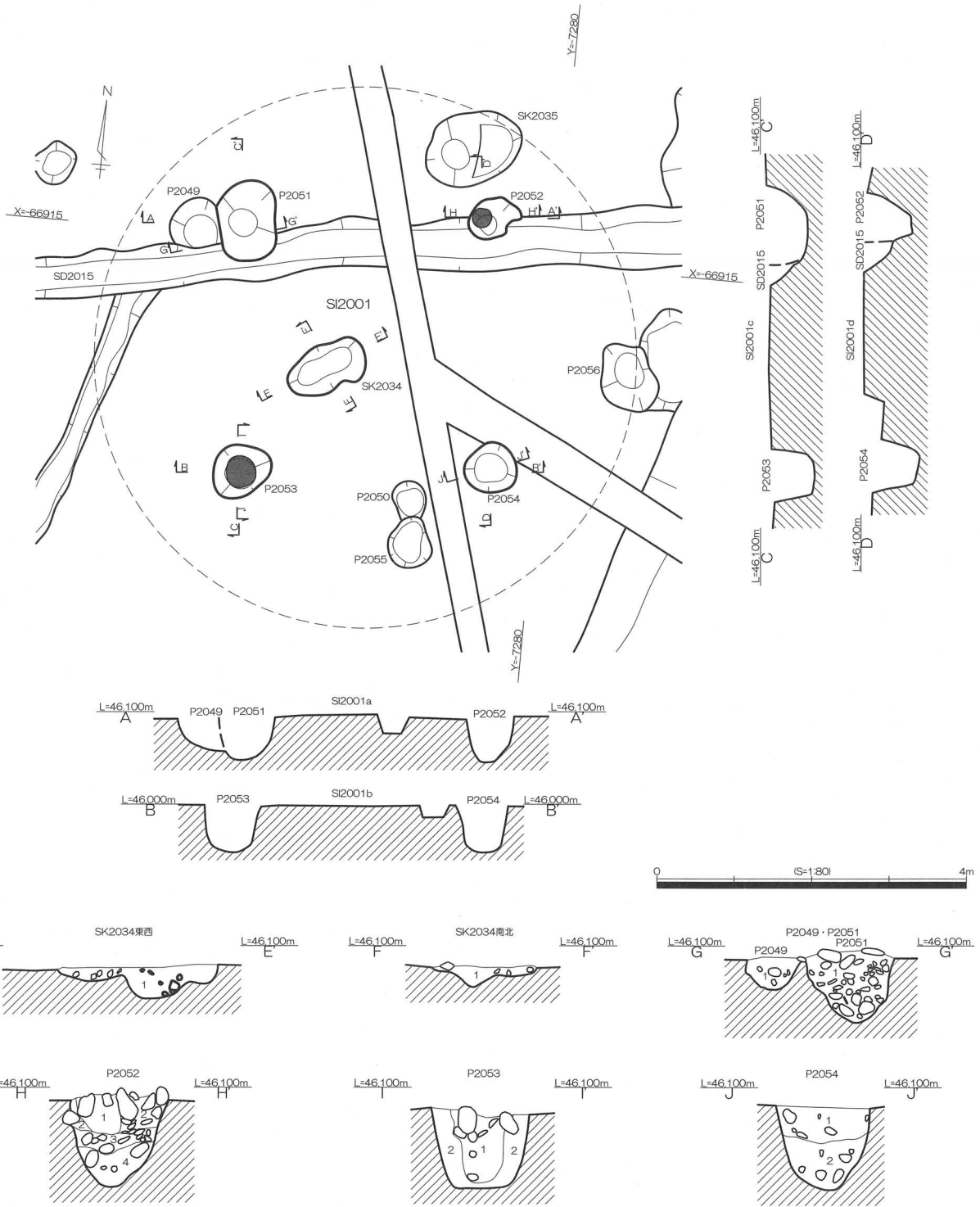
竪穴住居を構成する主柱穴と中央土坑の規模(長軸×短軸-確認面からの深さ)と形状は以下の通りである。

P2051(1.029m × 0.767m-0.545m) 平面形は楕円形、断面形はU字形

P2052(0.693m × 0.507m-0.669m) 平面形は円形、断面形はU字形

P2053(0.801m × 0.655m-0.582m) 平面形は円形、断面形はU字形

P2054(0.673m × 0.633m-0.599m) 平面形は円形、断面形はU字形



SI2001セクション 土層観察表

遺構番号	層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
SK2034 中央土坑	1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径20cm以下の礫微量
P2049	1	10YR3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	径10cm以下の礫中量
P2051 主柱穴	1	2.5Y3/2 黒褐色	細粒砂	径5cm以下の礫多量
P2052 主柱穴	1	10YR3/1 黒褐色	極細粒砂	柱痕、極粗粒砂～細粒砂少量 径10cm以下の礫微量
P2052 主柱穴	2	2.5Y3/2 黒褐色	細粒砂	径5cm以下の礫多量
P2052 主柱穴	3	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂	径10cm以下の礫多量
P2052 主柱穴	4	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	径5cm以下の礫中量

SI2001セクション 土層観察表

遺構番号	層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
P2053 主柱穴	1	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	柱痕、粗粒砂～中粒砂中量 径10cm以下の礫少量
P2053 主柱穴	2	2.5Y3/2 黒褐色	中粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂・径5cm以下の礫多量
P2054 主柱穴	1	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	極粗粒砂～中粒砂中量 径15cm以下の礫少量
P2054 主柱穴	2	10YR3/2 黒褐色	中粒砂～ 細粒砂	極粗粒砂～中粒砂多量 径10cm以下の礫・径2cm 以下の第9層ブロック土少量

図24 SI2001遺構図1

SK2034(1.061m × 0.574m-0.200m) 平面形は楕円形、断面形は不整皿形である。

主柱穴間距離は 3.12m~3.24m、配置は正方形に近い。4 つの主柱穴の底面標高値は 45.379m ~ 45.480m で、エレベーション図からは底が揃っている状況が読み取れる。また、底の平均標高は 45.435m となり、第 2 面ピット平均値の 45.711m に対して明らかに深い数値を示す。

埋土 周辺の第 2 面遺構と同じく黒色砂質土を主体とする埋土である。P2052・P2053 では、柱根と掘方とは礫含量の違いで分層することができる。これに対して、P2051 などは埋土全体に礫が広がっていることから、柱が抜き取られた可能性がある。礎石は確認されなかったが、基本的に基盤層が固く締った砂礫層なため、底が揃っていればあえて礎石を設置する必要はないと考える。

遺物出土状況 遺物と遺構の関係について、土器だまり 2003 と SI2001 の遺物・遺構位置関係及び標高情報を集約した図 25 を基に検討をおこなう。

a. 遺物の帰属層位について 土器類は個体単位でまとまって出土したが、状況的には第 1 面に対して完全に浮いている。定義上では、第 1 面は 2-6 層除去面とされることから、そのままでは 2-6 層に帰属すると判断される。しかし、土器だまり 2003 では、遺物と遺構を探すための掘り下げと精査を繰り返しおこなっているため、実際はそれ以上に面が下がっている。したがって、遺物の帰属検討のためには 2-6 層の底を示す必要がある。最寄りの 2-6 層標高値は SD2015 セクション c で確認できる。2-6 層は水平に広がる耕作土とされることから、この数値を 2-6 層耕作の底と仮定した。遺物はこの 2-6 層の底あたりに集中している。若干浮いている遺物はあるが、残存率の非常に高い個体遺物(43・44)を評価してこれらの遺物を 2-6 層以下、SI2001 の帰属と考える。

b. 遺物性格について 次に出土遺物の性格について検討する。土器だまり 2003 遺物は取り上げ位置(dot)情報から次の二群に分類される。

A 群 46.100m 付近に面状に分布する一群、残存率の高い個体が多い。2-6 層によって多少の攪乱を受けている可能性はあるが、個体単位で密集しており原位置を保つとみられる。主柱穴上に遺物が全く無いこととあわせて考えると、住居床面遺物の可能性が高い。

B 群 SK2034 と平面位置を同じくし 46.100m 以下に分布する一群で、密集する遺物には重なりがみられる。SK2034 に帰属する遺物と考えられる。

c. 遺物について

A 群 A 群は竪穴住居時期を示す遺物群である。残存率の高い甕が 2 個体(43・44)ある。43 は体部上半に叩き調整による平坦面が残る。尖底から丸底ぎみの底部は弥生時代終末期以降の要素とみることができそうである。44 の口縁部はやや厚手、緩やかに外反しながら立ち上がる。外面は無文である。球胴傾向の体部と小さな底部から弥生時代終末期前半の要素が強い個体と考えられる。外面全体に煤が付着する。46 はスタンプ文が配される器台である。受部と裾部に上下対称に同心円文を施す。他と A 群遺物と比較して出土位置がやや低い。47 は蓋である。器表の荒れが激しく調整不明であるが、残存状態は良い。49 は砂岩製砥石である。砥面は 4 面確認でき、主要面とみられる表裏 2 面の中央部の凹みが顕著である。A 群の遺物時期は弥生時代終末期前半から後半の範囲に収まると考えられる。

B 群 B 群は SK2034 に帰属する遺物である。45 はスタンプ文が配される器台である。受部上半下端に同心円文を施す。時期は弥生時代終末期前半までと思われる。48 は甗形土器である。広口部の破片が重なって出土した。甗形土器はその用途は不明ながら、住居跡からの出土例が多い器種

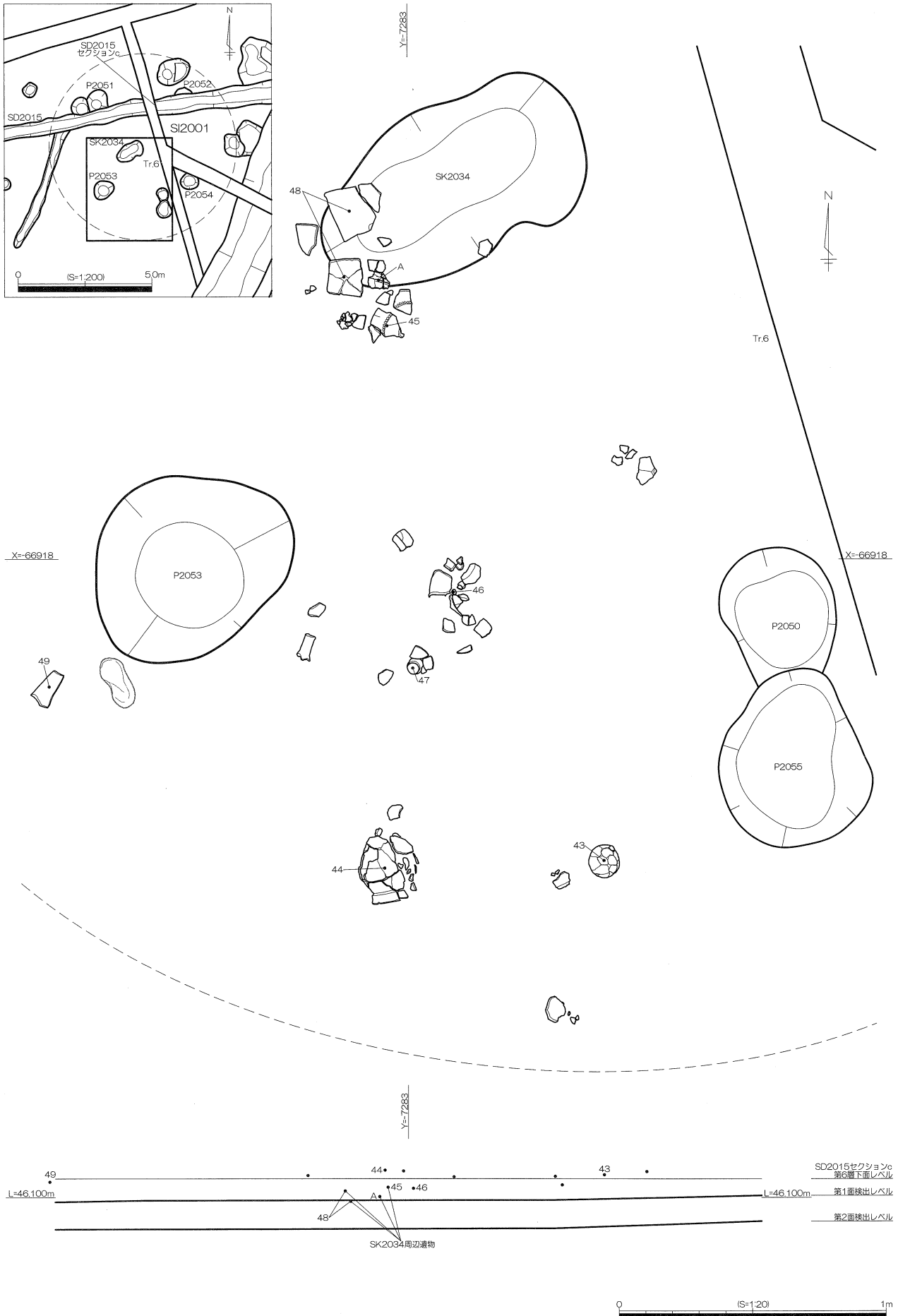
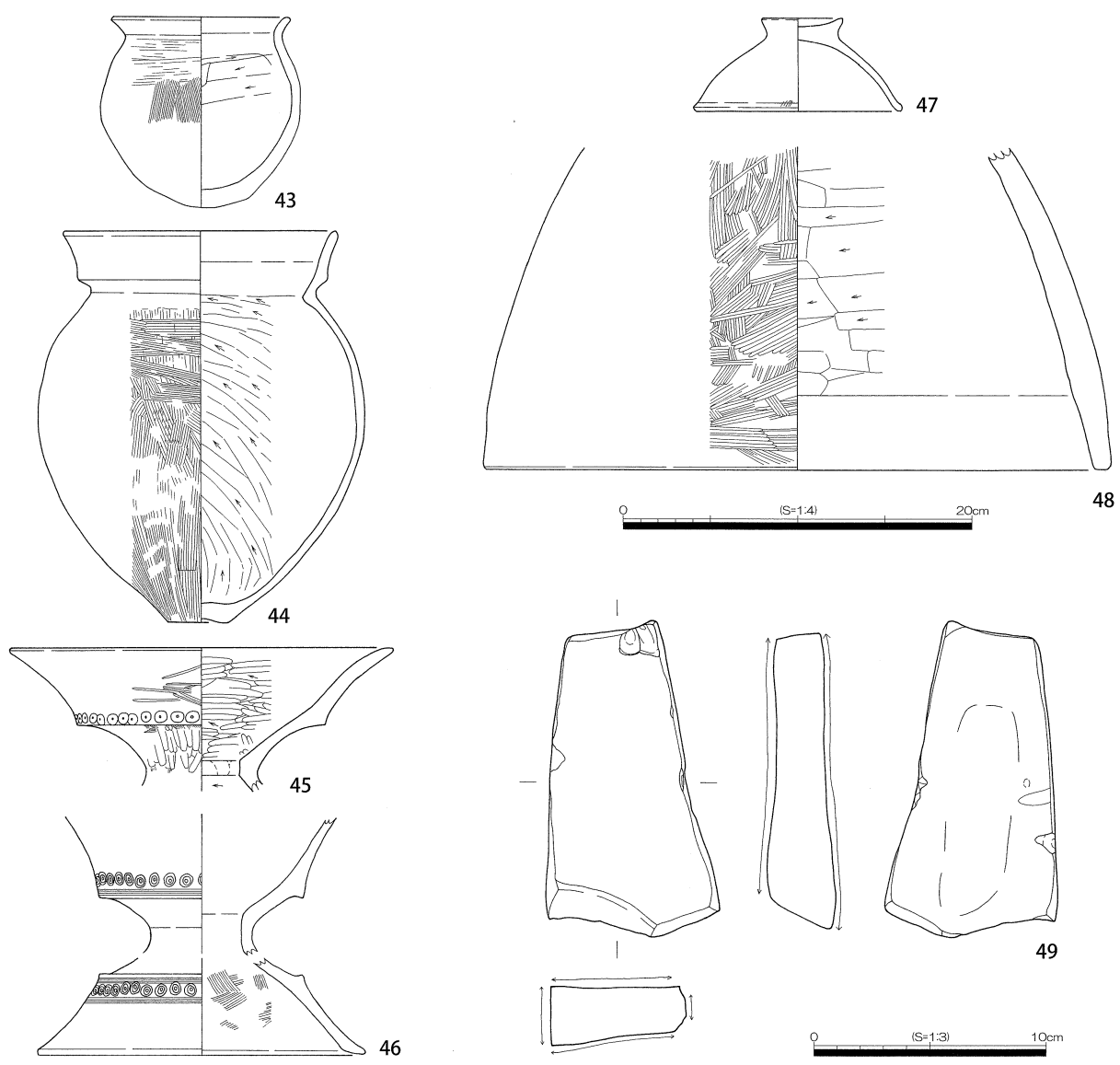


図25 SI2001遺構図2(土器だまり2003遺構図)



遺物図10 SI2001内土器だまり2003出土遺物

遺物観察表 10

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
43	2	SI2001内 土器だまり2003 (2119)	10	50	弥生土器 甕	口径:10.0 器高:10.95 最大径:11.4	外面:口縁部ナデ、体部ハケ、底部ナデ 内面:口縁部ナデ、体部ケズリ、底部ナデ 特記:外面にタタキ面残る	普通 ~2mmの砂粒、 少ない	普通 外面:灰黄褐 内面:橙	外面煤付着
44	2	SI2001内 土器だまり2003 (2119)	10	50	弥生土器 甕	口径:15.4 器高:22.5 最大径:18.7 底径:3.4	外面:口縁部~頸部ナデ、体部ハケ 内面:口縁部ナデ、頸部~底部ケズリ	普通 ~3mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい橙	外面煤付着 D1類
45	2	SI2001内 土器だまり2003 (2119)	10	51	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:(20.8) 器高:8.3~	外面:受部ナデ後ミガキ・同心円文、筒部ハケ後 ミガキ 内面:受部ミガキ、筒部指オサエ、脚台部上端ケ ズリ	普通 ~3mmの砂粒、 少ない	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい褐	スタンプ文土器
46	2	SI2001内 土器だまり2003 (2119)	10	51	弥生土器 器台 (鼓形器台)	器高:7.7~ 脚径:(18.6)	外面:受部下端・脚台部上端平行線文4条1帯を 2帯・同心円文、筒部(ミガキ) 内面:受部~筒部調整不明、脚台部ハケ、脚端部 ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	スタンプ文土器 接点なし、2破片図上 復元
47	2	SI2001内 土器だまり2003 (2119)	10	51	弥生土器 蓋	つまみ径:4.5 器高:5.4 口径:(12.0)	外面:摩耗のため調整不明 内面:摩耗のため調整不明	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	
48	2	SI2001内 土器だまり2003 (2119)	10	51	弥生土器 甕形土器	器高:18.5~ 広口径:(34.0)	外面:体部~広口部ミガキ 内面:体部ケズリ、広口部ナデ	普通 ~6mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:にぶい橙	
49	2	SI2001内 土器だまり2003 (2119)	10	51	石器 砥石	長さ:13.7 幅:7.5 厚さ:3.0 重さ:426	不整四角錐形、断面は矩形 砥面4面・擦面2面	砂岩(新第三紀)	にぶい黄橙	

である。抽出外の特記遺物ではやや新しい要素が見られる甕口縁部(図25 土器A)がある。口縁下端部の張り出しの発達が特徴的である。端部が欠損するため確定的ではないが、少なくとも弥生時代終末期以降に帰属すると考えられる。

破片遺物 その他の破片遺物点数は46点、器種判定可能なものは壺2点・甕5点・高坏2点・器台11点である。出土遺物からは器台の多さが特筆される。

遺構性格と帰属時期 床面帰属とみられる遺物群と、正方形に並ぶ4本の支柱穴が検出されたことから、竪穴住居跡と考えられる。竪穴部は確認できなかったが、2-6層下面検出時に床面遺物が出土することから、後世の耕作による削平のため、最初から残っていなかったものと考えられる。床面遺物は使い込まれた砥石や、煤が付着する甕など生活に密着したものがみられる。また、器台の点数が多いのも特徴である。

竪穴住居の時期は、SD2015との切り合い関係から少なくとも古墳時代前期以前となり、床面出土遺物からは弥生時代終末期と判断される。

中央土坑としたSK2034は、新しい要素の遺物(図25 土器A)が出土したことにより、その評価には慎重になる必要がある。共伴する器台は床面遺物に近い時期と考えられるため、両者が同時期に存在していてもよいと考えることもできるが、器台が混入遺物である可能性もある。新しい遺物で遺構時期を決定する原則に従うなら、SK2034は住居廃絶後の別遺構となる可能性があることを指摘しておく。

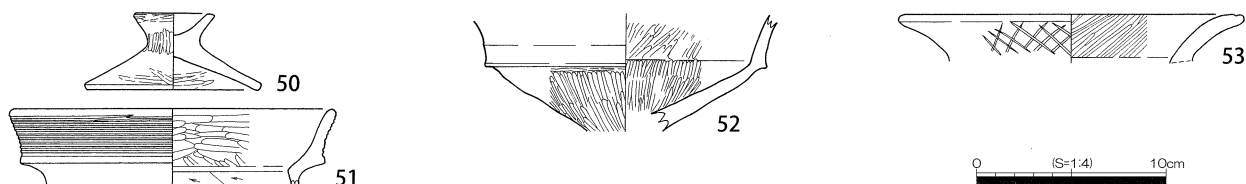
■ SK2031・SK2041

SK2031とSK2041は共に溝状土坑である。調査時は個別遺構として扱ったが、関連性の高い遺構であると考えられる。遺構所見は遺構概要の後にまとめて検討する。

■ SK2031(図26、遺物図11、遺物観察表11、写真図版14・51)

位置 2区第2面M32・M33グリッドに位置する。遺構確認面の標高は45.982mである。

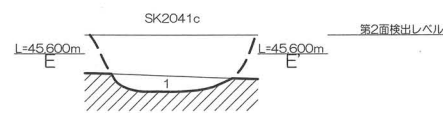
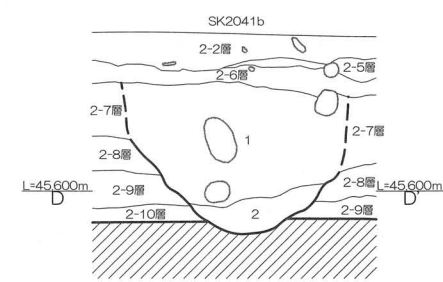
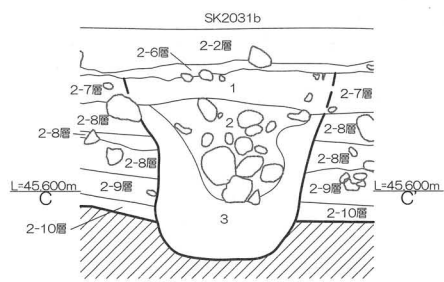
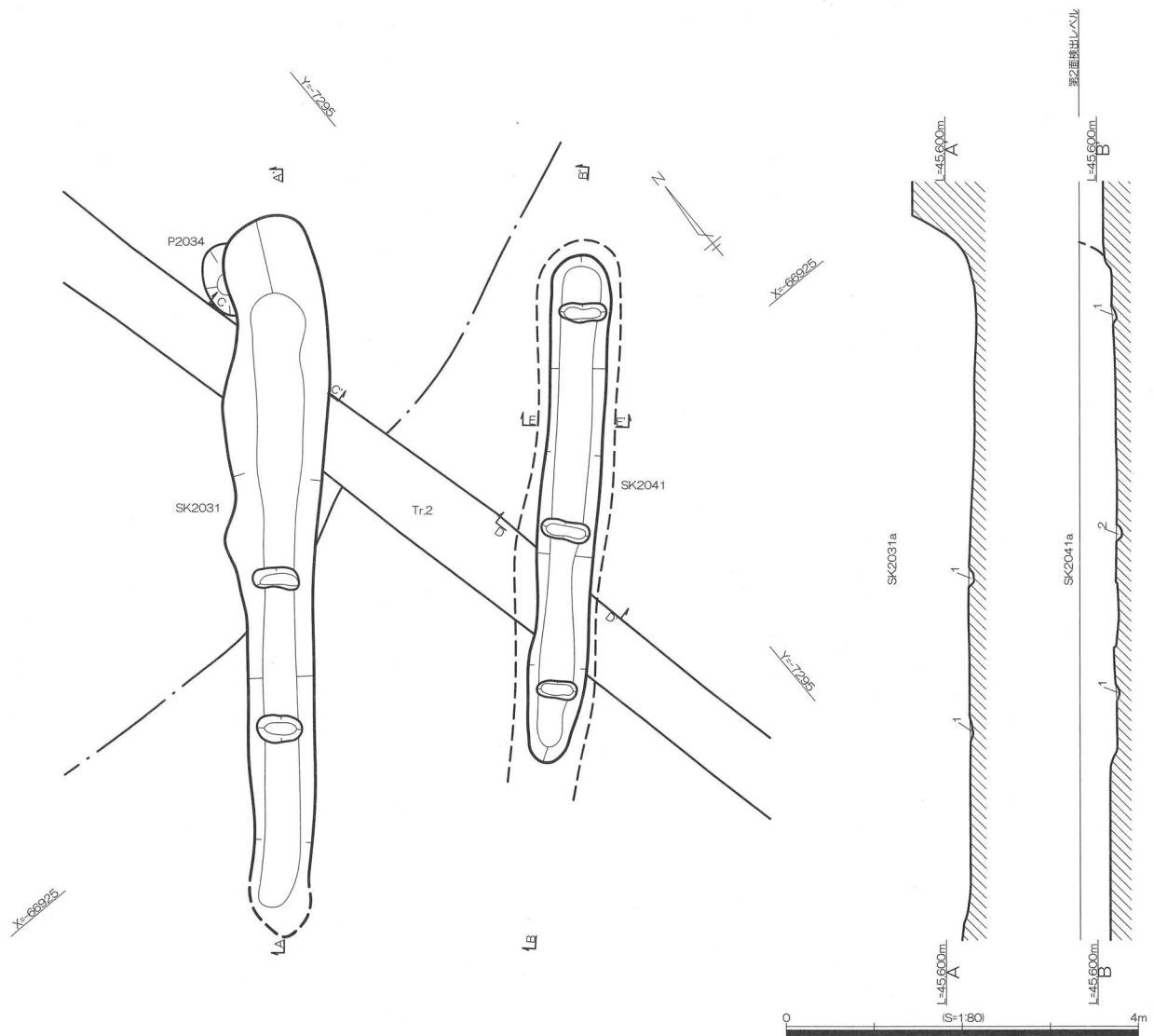
検出状況 調査初期に掘削された調査区中央のTr.2断面観察において2-8層を切る深い掘り込みが確認された。遺構下方に暗色が強くなる埋土は2-8層が強く影響したものと捉え、これを第2面



遺物図11 SK2031出土遺物

遺物観察表 11

遺物番号	調査区	遺構番号(調査番号)	遺物図番号	図版番号	種別器種	法量(cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成色調	備考
50	2	SK2031(2111)	11	51	弥生土器蓋	つまみ径:(3.9) 器高:4.05 口径:(9.0)	外面:つまみ部~天井部ナデ後ミガキ 内面:天井部ナデ後ミガキ	やや密 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄褐 内面:にぶい黄褐	
51	2	SK2031(2111)	11	51	弥生土器甕	口径:(16.6) 器高:4.1~	外面:口縁部平行沈線文、頸部ナデ 内面:口縁部ミガキ後下端ナデ、頸部ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:黒褐 内面:にぶい黄橙	外面煤付着 C1類
52	2	SK2031(2111)	11	51	弥生土器高坏	器高:6.2~	外面:口縁部ナデ、坏底部ミガキ 内面:口縁部~坏底部ミガキ	普通 ~0.5mmの砂粒、 少ない	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	
53	2	SK2031(2111)	11	51	弥生土器高坏	口径:(18.2) 器高:2.6~	外面:口縁部ナデ後斜格子文 内面:口縁部沈線文1条、口縁部ミガキ後下端ナデ	密 ~2mmの砂粒、 少ない	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	複合口縁屈曲部で剥離 吉備系



※2-○層は層序名(2区第○層)を示す、
詳細は基本層序項に記載

SK2031セクション 土層観察表

断面番号	層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
SK2031a	1	10YR3/2 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂少量 第9・10層ブロック土少量
SK2034b	1	10YR5/1 褐灰色	中粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂・径10cm以下の礫少量
SK2034b	2	7.5Y2/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	径20cm以下の礫多量、粗粒砂中量
SK2034b	3	7.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂・径15cm以下の礫少量

SK2041セクション 土層観察表

断面番号	層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
SK2041a	1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量
SK2041a	2	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 第9層・第10層ブロック土少量
SK2041b	1	2.5Y3/2 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径20cm以下の礫微量
SK2041b	2	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量
SK2041c	1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量

図26 SK2031・SK2041遺構図

調査対象遺構と判断した。第2面(2-7層除去面)検出時、Tr.2を中心とした両翼数m分が溝状に検出されたに過ぎず、その終端は不明瞭であった。溝の可能性を考え、延長が想定される位置へのサブトレンチ確認をおこなったが、どの断面にも遺構の延長は確認されなかった。このため、平面検出範囲で収束する溝状土坑と判断した。遺構終端部について、北東側終端部は立ち上がりの壁面で2-9層・2-10層との明瞭な境界が確認されたが、南西側終端部はサブトレンチによって既に破壊されていたため、下端のみの確認となった。遺構の底面において、長軸方向に直交する楕円形の小落ち込みが2か所検出された。P2034を切る。

平面形状・規模 溝状土坑の平面形状は直線状で、長軸7.437m・短軸1.213mを測る。主軸はN-39°-Eをふる。断面形状はU字形で、確認面から遺構底面までの深さは0.764mである。底面落ち込みの形状・規模は共通しており、平面形は楕円形、断面形は浅いU字形である。規模は北側落ち込みが長軸0.527m・短軸0.244m・深さ0.068m。南側落ち込みが長軸0.514m・短軸0.315m・深さ0.042mである。

埋土 埋土は最大3層に分かれる。下層埋土は黒色土で、上方にかけてやや明るく、褐灰色に変化する。遺構検出が困難であったことは埋土が検出時の基盤層と類似することを示し、これは掘削土がそのまま埋戻しに使用された結果と思われる。基盤層中の礫密度が高くなる遺構北東部の埋土には、礫が多く含まれる。底面落ち込みの埋土は、土坑本体の下層埋土を主体とし、2-10層ブロック土が少量含まれる。調査時は2-7層除去面より掘り込まれる遺構と認識したが、面所見から判断してこれは誤認の可能性が高いと考える。記録写真から、土坑内と想定される範囲の2-7層が周囲に比してわずかに明るい事が確認できる。したがって、層位上の帰属は2-6層除去面と判断される。

遺物検出状況 51は甕である。口縁部の平行沈線文が明瞭な個体で、帰属は弥生時代後期後葉と思われる。特記遺物として斜格子文を施された高坏(53)が挙げられる。坏口縁部の微細破片であるが、外面のヘラ描き斜格子文と内面の精緻なミガキが特徴的である。吉備系の要素が強く、搬入品の可能性が高い。その他の破片遺物では、壺1点・甕12点・高坏1点である。点数の多い甕の時期は弥生時代後期後葉から終末期前半と推定される。他遺構や層中遺物と比較して、やや大きな破片が多いことから遺構時期判定に使用できると考える。

■ SK2041(図26、写真図版14)

位置 2区第2面M33グリッドに位置する。ただし、遺構確認とプラン検出は第3面調査時である。確認面の標高は45.982mである。

検出状況 調査初期に掘削された調査区中央のTr.2断面観察において2-8層を切る掘り込みが確認され、これを第2面調査対象遺構と判断した。しかし、第2面(2-7層除去面)で検出された溝状のプランは極めて不明瞭で、終端部も判然としなかった。プランを縦断するサブトレンチによる断面検討の結果、遺構ではないと結論付けた。しかし、第3面調査、Tr.13の面検出において同位置に遺構が確認されたため、溝状土坑として追加調査を実施した。遺構の底面において、長軸方向に直交する楕円形の小落ち込みが3か所検出された。

平面形状・規模 溝状土坑の平面形状は直線状で、長軸5.785m・短軸0.679mを測る。主軸はN-42°-Eをふる。断面形状は浅いU字形で、確認面から遺構底面までの深さは0.174mである。底面落ち込みの形状・規模は共通しており、平面は楕円形、断面形は浅いU字形である。規模は北側落

ち込みが長軸 0.534m・短軸 0.216m・深さ 0.052m、中央落ち込みが長軸 0.550m・短軸 0.223・深さ 0.067m、南側落ち込みが長軸 0.455m・短軸 0.209m・深さ 0.059m である。

埋土 埋土は上下 2 層に分かれる。遺構検出が困難であったことは埋土が検出時の基盤層と類似することを示し、これは掘削土がそのまま埋戻しに使用された結果と思われる。基盤層中の礫密度が高くなる遺構北東部の埋土には、礫が含まれる状況が確認された。底面落ち込みの埋土は、基本的に土坑本体の下層埋土と変わらない、中央落ち込みにのみ 2-10 層ブロック土が確認された。

遺物検出状況 出土遺物の中には抽出遺物はない。土器破片点数は 37 点と微細破片である。器種内訳は、壺 1 点・甕 25 点・高坏 2 点・器台 3 点・低脚坏 1 点である。器種構成比では甕の多さが特筆される。平行沈線文が主体を占める中で、弥生時代後期中葉以前に属すると思われる破片も少数混じる。古い要素を示すものは器表の摩耗が著しい。特記遺物では、装飾のある破片がある。同心円文が施されるスタンプ文土器 1 点、貝殻腹縁による羽状文が施される破片 1 点である。どちらも薄く仕上げられた体部の微細破片である。SD2014 で出土している羽状文小壺 (122・123・124) に類似する個体と思われる。

SK2031・SK2041 の遺構性格と帰属時期について

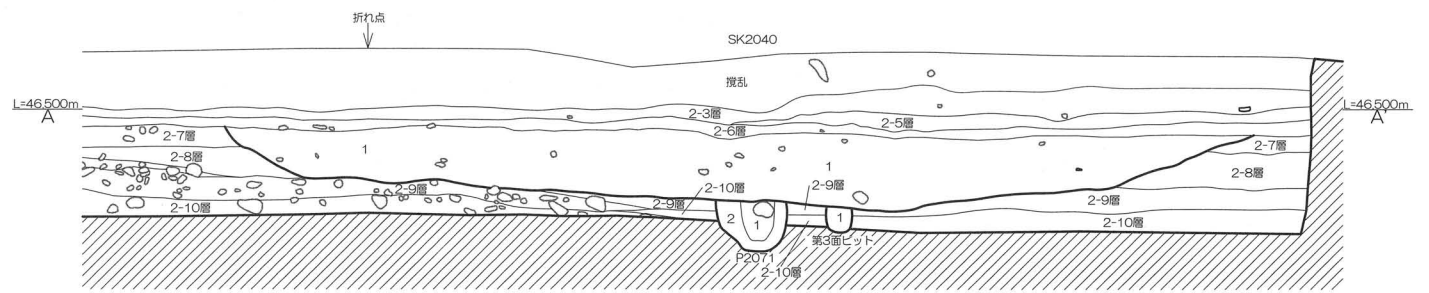
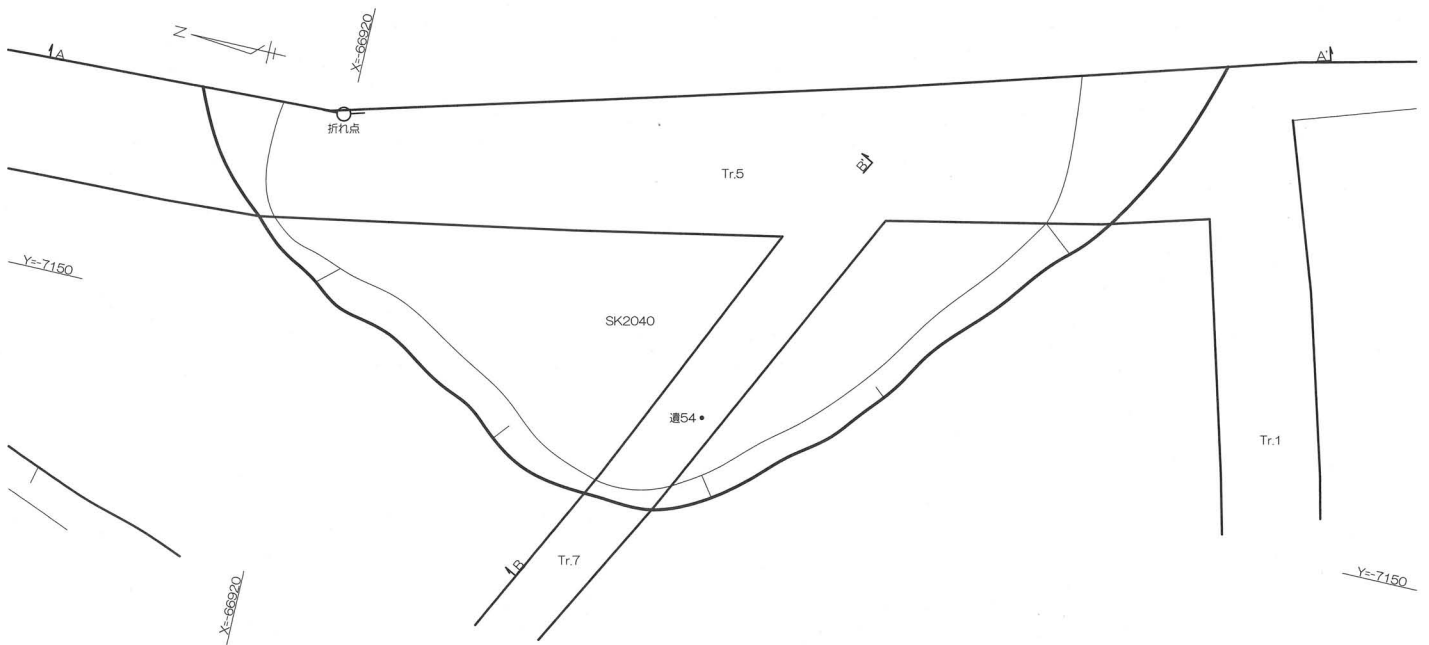
SK2031 と SK2041 は共に溝状土坑として個別に調査をおこなった。調査時は遺構認識の甘さにより検出面を違えてしまったが、層位上の帰属は共に 2-6 層除去面となる。遺構規模 (SK2041 は推定値) や主軸方向、遺構底面で検出された楕円形の小落ち込みなどの共通点から、同じ性格を持つ遺構とみて間違いないと考える。出土遺物の時期幅は弥生時代後期中葉から終末期前半までであるが、残存は悪いが器表の荒れの少ない低脚坏から遺構の帰属時期は弥生時代終末期前半と考えられる。

遺構性格について、当初は平面形状から墓坑を想定したが、深さが 70cm 以上残っていたにもかかわらず副葬品に値する遺物類がなかったことや、北東部の埋土に礫が多量に含まれることなどから判断して、その可能性は極めて低いと思われる。そのほかには、溝状土坑の端か揃い、かつ並行する状況を評価して、布掘建物の可能性を指摘できる。布掘建物とは桁行方向に並行する布掘りをおこない、その上に柱を据える掘立柱建物跡とされる。布掘りは荷重に対する基礎構造とされることから倉庫としての機能が有力視されており、掘方内に柱穴や枕木が確認される例がある。本調査では枕木痕跡や柱痕等は確認されなかった。遺構底面で検出された楕円形の落ち込みを柱穴とするのは無理があるが、二つの土坑の共通性を示すには有力な物証である。SK2031・SK2041 底面の平均標高はそれぞれ 45.318m・45.400m とかなり深い値を示す。底面平均比高 8.2cm は、長さが 7m を越える遺構である点を考慮に入れると、かなりの近似値といえ、底を揃える意図があったとみることができる。確実的な根拠は示せないが、両土坑の性格としては、布掘建物の可能性が最も高いと考える。建物であれば、梁間 3.266m・桁行 7.437m の規模となる。

■ SK2040(図 27、遺物図 12、遺物観察表 12、写真図版 15・52)

位置 2 区第 2 面 M36 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 46.107m である。

検出状況 大溝 (SD2012・SD2013・SD2014) 確認用のトレンチ (Tr.7) 掘削時に残存率の高い高坏 (54) が出土した。出土レベル的には 2-7 層内に収まっているが、層中遺物が希薄になりつつあるなかでの出土であった。このため、Tr.5 断面の再確認をおこなったところ、東に向かって 2-7 層を切る緩やかな



※2-〇層は層序名(2区第〇層)を示す、詳細は基本層序項に記載

SK2040セクション 土層観察表

遺構番号	層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	備考
SK2040	1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 上方にかけて 明るくなる。径5cm以下の礫・炭化物微量	
SK2040	2	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	第9層ブロック土少量	加工層
P2071	1	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	中粒砂中量、径15cm以下の礫少量	第3面遺構
P2071	2	2.5Y3/1 黒褐色	中粒砂～ 細粒砂	加工層、粗粒砂中量 第9・10層ブロック土中量	第3面遺構
SK2044	1	10YR2/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂中量、径10cm以下の礫少量	第3面遺構
第3面ビット	1	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	中粒砂少量	第3面遺構 プラン未確認

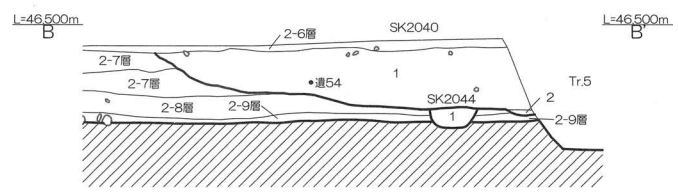
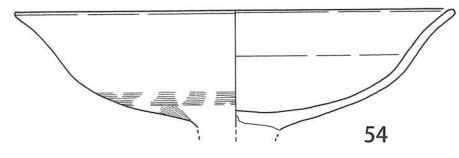
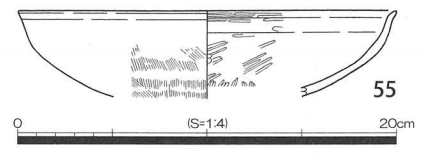


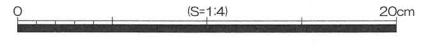
図27 SK2040遺構図



54



55



遺物図12 SK2040出土遺物

遺物観察表 12

遺物 番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種 別 器 種	法量 (cm/g)	特 徴	胎土 / 材質	焼 成 色 調	備 考
54	2	SK2040 (2112)	12	52	弥生土器 高杯	口径:(22.6) 器高:6.4～	外面:口縁部ナデ、坏底部ハケ 内面:坏部ナデ	普通 ～4mmの砂粒、 普通	普通 外面:明黄褐色 内面:黄褐色	焼きひずみが激しい
55	2	SK2040 (2112)	12	52	弥生土器 高杯	口径:(19.6) 器高:4.6～	外面:口縁部ナデ、坏底部ハケ後ナデ 内面:坏部ミガキ	普通 ～2mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい黄褐色 内面:灰黄褐色	

掘り込みが確認され、これを落ち込み状の遺構とした。落ち込みは調査区東壁 (Tr.5) を越えてさらに東へ延びる。Tr.5 断面から、遺構帰属は 2-6 層除去面になることが確認された。遺構確認時の基盤層 (2-8 層) に比べて遺構埋土は色調がわずかに明るく砂粒が多く含まれる。

平面形状・規模 平面形は隅丸方形と推測される。長軸 6.747m・短軸 3.031m、共に確認範囲での最大値である。東側は調査区外にさらに広がることが予想される。断面形は浅い U 字形で、確認面から遺構底面までの深さは 0.319m、Tr.5 セクションから確認できる 2-6 層除去面からの残存値は 0.671m である。

埋土 Tr.5 と Tr.7 セクション上で断面確認をおこなった。埋土は上下 2 層に分かれる。上層は黒褐色細粒砂～極細粒砂を主体とする。微細な炭化物片がわずかに含まれる。径 5cm までの礫が散在し上方に向かってやや明るくなるが、連続する変化であるため分層はできない。周囲からの土壌流入による埋積過程における一連の堆積層と思われる。下層は黒褐色細粒砂～極細粒砂を主体土とし、これに 2-9 層のブロック土が含まれるのが特徴である。遺構開削時の加工層と思われる。

遺物検出状況 高坏 (54) は坏部のみであるが、その残存率は高い。受部中位にある稜は緩く、外反する立ち上がりを持つ。焼きひずみが激しい。弥生時代終末期後半の帰属と考えられる。その他の器種は、壺・甕・器台・低脚坏がある。全て接合関係の乏しい細片遺物である。遺物の時期は甕・器台の特徴から、弥生時代後期後葉から終末期の間と推定される。計数可能な破片は 56 点である。遺構規模から考えると遺物は希薄と言え、器種のバリエーションが豊かなことが特徴である。この中に、脚台のみの残存だが表面摩耗の少ない低脚坏がある。弥生時代終末期後半の帰属と考えられる。

遺構の性格と帰属時期 全容が不明なため、性格不明の落ち込みとする。底に加工層と思しきブロック土を確認したことから、落ち込みの形成は人為によるものと考えられる。上層埋土は均質な土質であること、周囲の基盤層と類似する埋土であることから、その後は流入土によって徐々に埋積が進んだものと思われる。埋積時期は出土遺物から弥生時代後期後葉から終末期後半と推定される。

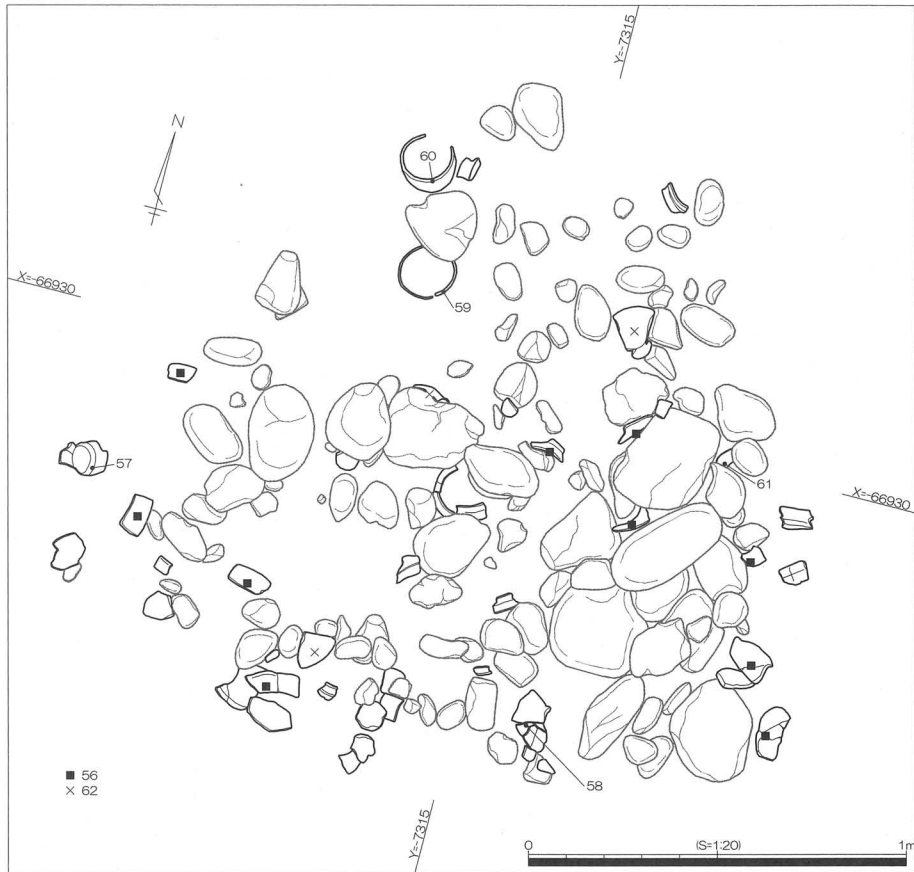
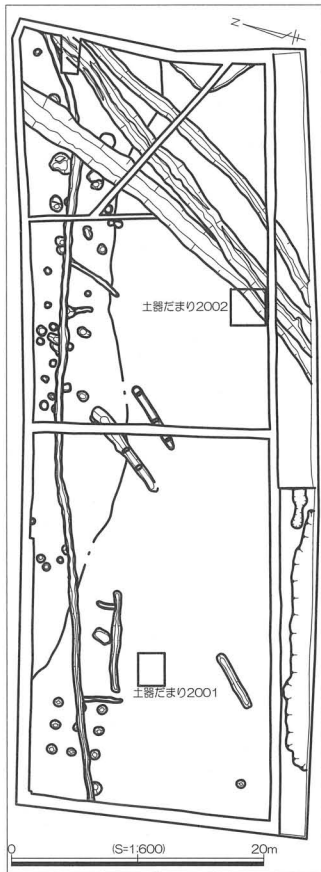
■土器だまり 2001(図 28、遺物図 13、遺物観察表 13、写真図版 15・52)

位置 2 区第 2 面 N31 グリッドに位置する。遺構 (遺物・礫) 確認面の標高は 46.086 ～ 45.866m である。

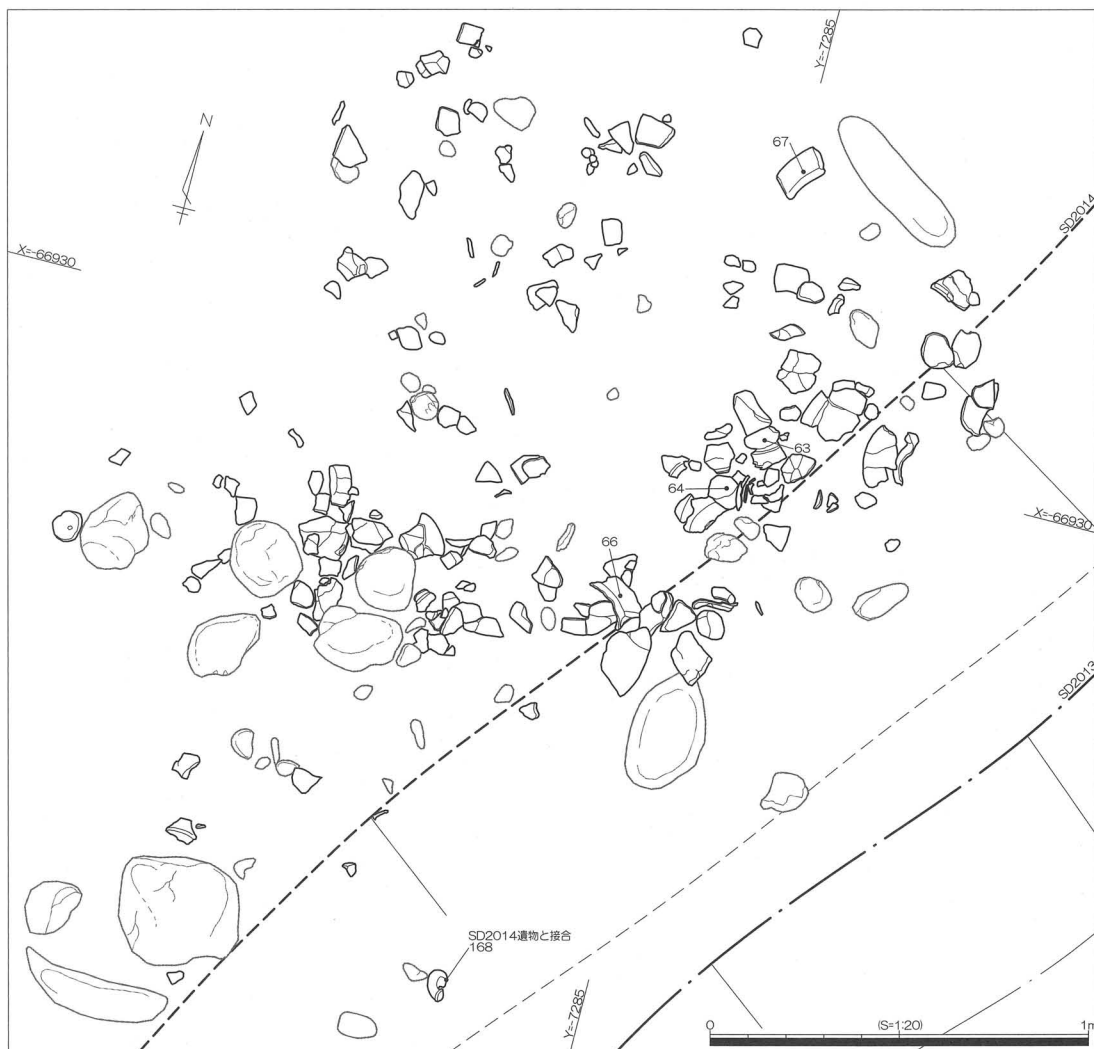
検出状況 第 2 面調査時、2-7 層掘削中に礫集中部が検出された。礫の密度が最も高いところでは他ではほとんど見られないような 30cm を超える巨礫が多く含まれる。礫の間に多数の遺物片が確認されたため遺構扱いとし、土器だまりとして個別調査をおこなった。この状況下で最初に考えられるのは検出漏れ遺構の存在である。面を揃えて精査を試みたが掘方は確認されなかった。次に、遺構埋土がこの時点での基盤層である 2-7 層と類似していた場合を想定し、礫と遺物を段状に残して第 2 面 (2-7 層除去面) 上での再精査、さらに、出土状況記録後の十字半截による断面観察をおこなったが、掘方は確認できなかった。

平面形状・規模 遺物と礫は円形に分布し、その出土範囲は東西 2.060m・南北 1.805m を測る。南東部に巨礫が集中する。

遺物検出状況 土器の残存状態は微細片から完形までさまざまである。礫の間に挟まる破片の多さから、礫と土器が一括廃棄された状況が窺える。壺 (56) は遺構全域に広がる破片が接合した個体である。体部は球形で口縁部はやや開きながら直線状に伸びる。57・58 は直口壺である。口縁屈曲部



土器だまり2001

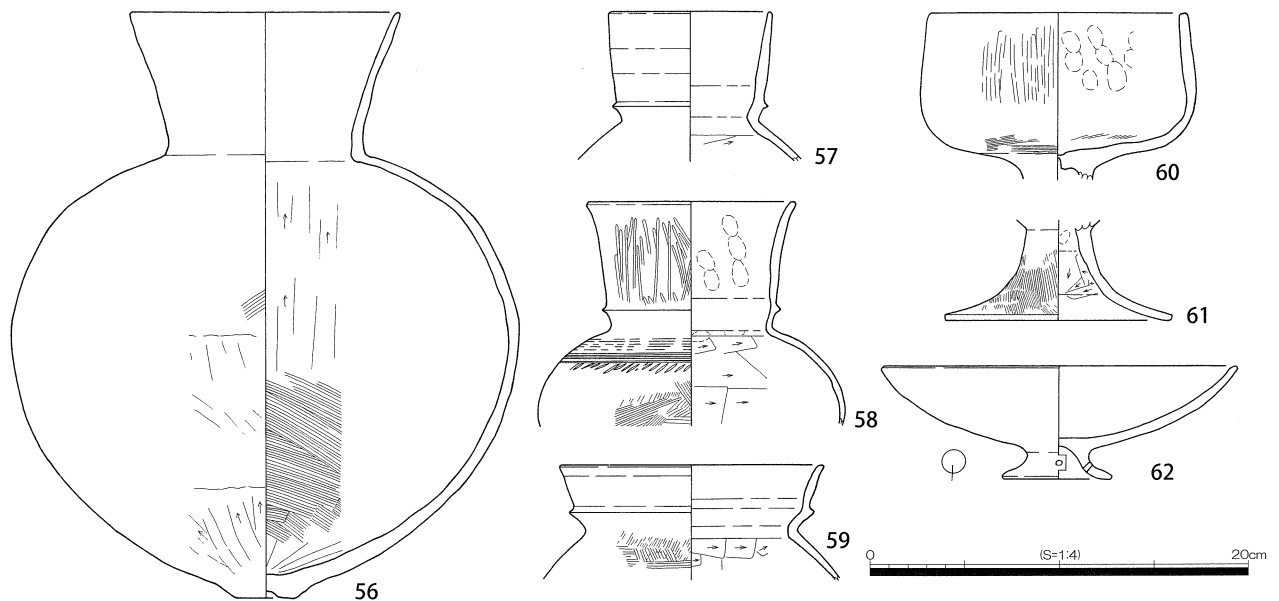


土器だまり2002

図28 土器だまり2001・2002微細図

からの立ち上がりが発達しており、弥生時代終末期後半に属すると思われる。甕(59)は複合口縁下端部の張り出しが顕著で口縁上端部に平坦面を持つ。古墳時代前期前葉に属する。1.2mの範囲に分布する3点の破片が接合し完形となった低脚坏(62)は、脚部に一箇所だけ開けられた孔が特徴的である。径2.5mm、焼成前に穿孔されている。抽出外遺物の破片数は255点と微細片である。直接の接合関係にないが、同一個体と思われる破片が多く、56と同様の傾向にあるといえる。器種内訳は、甕66点・高坏6点・器台2点・低脚坏1点である。甕の比率が非常に高く、古墳時代前期に属する個体の多さが特筆される。その数量比は弥生時代が10点に対し、古墳時代が51点と圧倒的である。その他の遺物では5mm程度の須恵器の微細破片が1点あるが、混入の可能性があるので積極的に扱えない。

遺構の性格と帰属時期 最後まで掘り込みが確認できなかったため、調査所見からは土器集中部としか評価できない。しかし、他では見られない巨礫の集石や、弥生時代後期から終末期にかけての堆積層とされる2-7層内に、59に代表されるような古墳時代前期の要素が強い甕が多く出土していることを考えると、やはり、窪みが存在した可能性を考えたい。礫と遺物が平面状に分布する点から、本遺構が廃棄場所としての性格を持つと仮定すると、遺構底面に遺物類が集中することは自然といえ



遺物図13 土器だまり2001出土遺物

遺物観察表 13

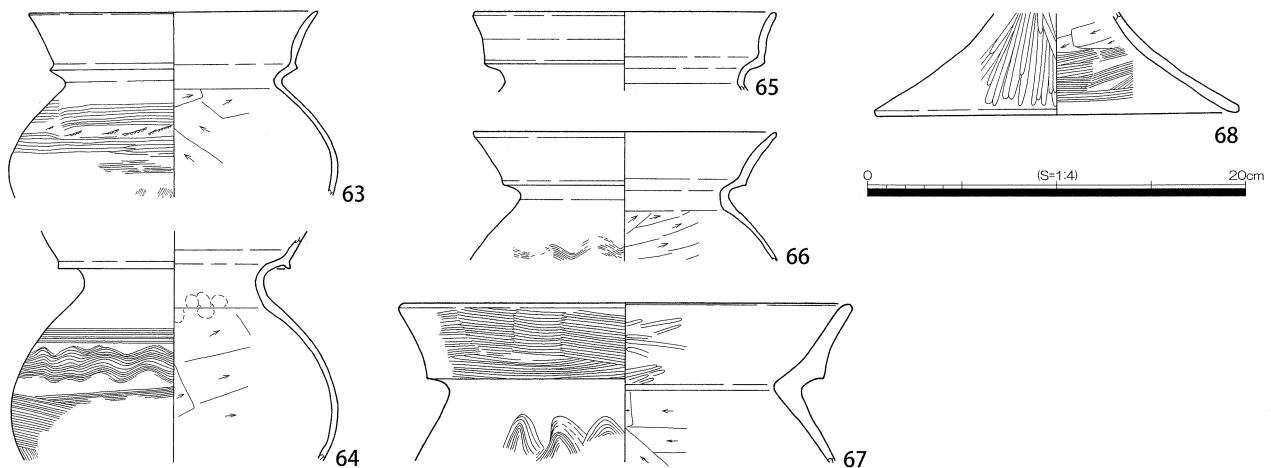
遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
56	2	土器だまり 2001 (2067)	13	52	(土師器) 壺	口径:14.2 器高:31.0 最大径:26.8 底径:3.2	外面:口縁部~底部ナデ 内面:口縁部~体部上半ナデ、体部下半ハケ、底部ハケ後ナデ	やや密 ~0.5mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:黄橙	
57	2	土器だまり 2001 (2067)	13	52	弥生土器 壺 (直口壺)	口径:8.2 器高:7.9~	外面:口縁部~頸部ナデ 内面:口縁部~頸部ナデ、肩部ケズリ	密 ~3mmの砂粒、 少ない	普通 外面:浅黄橙 内面:浅黄橙	
58	2	土器だまり 2001 (2067)	13	52	弥生土器 壺 (直口壺)	口径:(10.4) 器高:11.8~ 最大径:(16.2)	外面:口縁部ミガキ、頸部ナデ、肩部平行線文・キザミ、体部ハケ後ナデ 内面:口縁部~頸部ナデ、体部ケズリ後一部ナデ	緻密 ~1mmの砂粒、 わずか	普通 外面:にぶい褐 内面:にぶい黄褐	2破片を図面合成
59	2	土器だまり 2001 (2067)	13	52	土師器 甕	口径:(13.4) 器高:6.1~	外面:口縁部ナデ、頸部ハケ後ナデ、肩部ハケ 内面:口縁部~頸部ナデ、肩部ケズリ	普通 ~4mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:暗灰黄	口縁部煤付着 F1類~F2類
60	2	土器だまり 2001 (2067)	13	52	弥生土器 高坏	口径:12.6 器高:8.8~ 最大径:14.5	外面:口縁部ナデ・ミガキ、坏底部ハケ、脚柱部 上端ナデ 内面:口縁部ナデ、坏底部ハケ・ナデ	普通 ~7mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	
61	2	土器だまり 2001 (2067)	13	52	弥生土器 高坏	器高:5.3~ 脚径:11.2	外面:脚柱部ハケ後ナデ、脚裾部ハケ、脚端部ナ デ 内面:脚柱部ケズリ、脚裾部ナデ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:浅黄橙	
62	2	土器だまり 2001 (2067)	13	52	弥生土器 低脚坏	口径:18.5 器高:6.1 脚径:5.6	外面:摩擦のため調整不明 内面:摩擦のため調整不明 特記:脚部焼成前穿孔1箇所径2.5mmあり	やや密 ~0.3mmの砂粒、 少ない	普通 外面:浅黄橙 内面:浅黄橙	

る。礫と遺物の中で最も低い標高値 45.866m に対して、最終確認面である第 2 面標高値は 45.765m となることから、最終確認時には面を下げ過ぎていた可能性が高い。断面上で確認できなかった以上はあくまで仮説に過ぎないが、調査区中央部から南部にかけての第 2 面遺構は埋土が基盤層に近く検出が困難なものが多いことを考慮し、土器だまり 2001 が古墳時代前期に帰属する廃棄目的の土坑であった可能性を指摘しておく。

■土器だまり 2002(遺物図 28、遺物図 14、遺物観察表 14、写真図版 15・53)

位置 2区第2面 N34 グリッドに位置する。遺構(遺物・礫)確認面の標高は 46.211 ~ 46.000m である。

検出状況 第2面調査時、2-7層掘削中に土器破片の密度が高い個所が検出された。破片の大きさは概ね 10cm 程度である。周辺遺物に比べてやや大きく、原形が判別できる個体が確認されたため、検出漏れ遺構の存在を想定し、土器だまりとして個別調査をおこなった。最初に土器精査を、次に面を揃えて精査を試みたが掘方は確認されなかった。遺構埋土がこの時点での基盤層である 2-7 層と類似していた場合を想定し、礫と遺物を段状に残して第2面(2-7層掘削面)上で再精査をおこなったが、遺物範囲を囲むような掘方は確認できなかった。この位置では後の第2面精査において SD2013・SD2014 が検出された。



遺物図14 土器だまり2002出土遺物

遺物観察表 14

遺物番号	調査区	遺構番号(調査番号)	遺物図番号	図版番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
63	2	土器だまり 2002 (2116)	14	53	弥生土器 壺	口径:(14.8) 器高:9.8~ 最大径:(17.3)	外面:口縁部~肩部ナデ、肩部平行線文・貝殻腹 縁による刺突文、体部中位ハケ 内面:口縁部~頸部ナデ、体部ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい褐 内面:橙	外面煤付着
64	2	土器だまり 2002 (2116)	14	53	弥生土器 壺	口径:13.2~ 器高:12.1~ 最大径:(17.2)	外面:口縁部ナデ、頸部~肩部ハケ後ナデ、体部 上半ハケ後平行線文・波状文 内面:口縁部~頸部ナデ、体部ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:浅黄橙	
65	2	土器だまり 2002 (2116)	14	53	土師器 甕	口径:(15.6) 器高:4.2~	外面:口縁部~肩部ナデ 内面:口縁部~頸部ナデ、肩部ケズリ	普通 ~3mmの砂粒、 少ない	やや不良 外面:黒褐 内面:灰黄褐	外面煤付着 F1類~F2類
66	2	土器だまり 2002 (2116)	14	53	土師器 甕	口径:(16.0) 器高:6.7~	外面:口縁部~頸部ナデ、肩部ナデ・波状文 波状文 内面:口縁部~頸部ナデ、肩部ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:灰黄褐 内面:にぶい黄橙	F1類
67	2	土器だまり 2002 (2116)	14	53	弥生土器 甕	口径:(23.0) 器高:8.3~	外面:口縁部平行沈線文、頸部~肩部ナデ、肩部 波状文 内面:口縁部ミガキ、頸部ナデ、肩部ケズリ	やや粗 ~4mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:灰白	C1類
68	2	土器だまり 2002 (2116)	14	53	弥生土器 高坏	器高:5.4~ 脚径:19.2	外面:脚裾部ミガキ、脚端部ナデ 内面:脚裾部上端ケズリ、脚裾部ハケ後ナデ、脚 端部ナデ 特記:外面に赤色塗彩	普通 ~4mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい橙 内面:にぶい橙	

平面形状・規模 遺物と礫の分布状況から特に形状は見出せない。その出土範囲は東西 2.965m・南北 2.367m を測る。径 40cm を超える礫もみられるが、全体的に礫密度は高くはない。

遺物検出状況 基本的に土器は破片状態で出土している。遺構南東部にやや集中する傾向がみられ、中央部から北西部にかけて土器密度は低くなる。甕・壺類は全般的に口縁部の開きの大きさが特徴的となっており、古墳時代前期前葉の要素が強い。168(SD2014 遺物図 17-4 に掲載) は甕形土器の把手である。南端部で単独出土した。この個体は同位置第 2 面で検出された SD2014 内遺物と接合したため、そちらに帰属させた。

遺構の性格と帰属時期 掘り込みが確認できなかったため、遺構として評価するのは難しい。遺物と礫の集中が明瞭な土器だまり 2001 とは対照的といえる。遺構性格を考えるにあたっては、第 2 面検出遺構である SD2013・SD2014 との関連性を検討する必要がある。詳細は個別遺構項に記載しているが、共に調査区を貫く大きな溝で、その廃絶は SD2013 が古墳時代前期と、SD2014 が弥生時代終末期とされる。帰属層位は 2-6 層除去面、2-7 層を切る遺構とされる。土器だまり 2002 の位置は 2 条の溝が重なる場所の真上にあたり、土器密度の最も高い南東部はこの西肩と一致する。以上の条件と甕形土器の接合例から判断して、土器だまり 2002 と認識した範囲は大溝内となる可能性が高く、その中でも、南東部の古墳時代前期の要素の強い甕が出土する範囲は新しい溝である SD2013 内にあたと推定される。したがって、土器だまり 2002 は単独の遺構ではなく、SD2013・SD2014 内の遺物集中部である可能性が最も高いと考える。この状況は 2-6 層除去面において検出が極めて困難な 2-7 層系埋土の遺構が存在しえることを示す。

■大溝 (SD2012・SD2013・SD2014)(図 29-1・29-2、巻頭図版 8、写真図版 16)

調査区東部から東端部において検出された 3 本の溝である。その規模や方向、出土遺物の共通性から大溝として分類した。層位上の帰属は 2-6 層除去面となることから、調査区北半部では 2-8 層が、南半部では 2-7 層が本来の検出基盤となる。実際の調査では遺構埋土と基盤層の区別が困難であったため、プラン確認のためには面を下げざるを得ず、第 2 面調査対象遺構となった。

■SD2012(図 30・31、遺物図 15、遺物観察表 15、写真図版 17・18)

位置 2 区第 2 面 N34～L36 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 46.285m(第 1 面:礫確認時)、46.113m～45.787m(第 2 面:溝確定時)である。

検出状況 遺構の存在は平成 21 年 11 月実施の試掘調査で確認されている。本調査では SD2012 は第 1 面においてその存在が確認されたが、遺構範囲及び溝としての性格が確定したのは第 2 面調査時においてである。調査工程は 2 段階に分かれる。

a. 礫検出～第 1 面調査

調査区南端を東西に横断する Tr.1 の断面観察において礫集中部が確認された。礫の間に表面摩耗の少ない土器片が確認されたことから、遺構の存在が想定されたが掘方と底は判然としなかった。第 1 面調査に向けての 2-6 層掘削中にこの礫集中部が帯状に北東方向に延びることを確認し、延長線上の Tr.5 にも遺構が存在することが確認された。平面精査によるプラン検出を複数回試みたが、平面上での繋がりは確認できなかった。これにより、溝状に広がる礫集中部を当初は大溝と認識できず、2-6 層帰属の耕作地整備に伴う礫捨て坑と想定し調査を実施した。その結果判明したことは次の 2 点

である。

1. 掘削過程において確認された残存率の高い土器類は全て弥生時代後期から終末期に属するとみられ、古墳時代以降の土器は皆無である。
2. 遺構両端部では黒色土系の遺構埋土が基盤層を切って外側に延びる。

これらのことから当遺構は時期の古い溝であるとの認識に至り、先の想定が誤りであると判断した。遺物出土状況及び遺構平面情報の記録後、土層観察用ベルトを設定し、第2面調査で溝であるか否かを再検討することとした。

b.2-7層・2-8層掘削～第2面調査

第1面で不明瞭であったTr.5からの遺構延長の検出には、遺構埋土と同色の2-8層の除去が必要と判断された。このため、調査区北半部では2-8層除去面において、遺構プランを確定させた。第1面調査時に遺構の大部分の掘削は終わっていたと認識していたが、検出を進めるにつれて、礫下位の下層埋土を掘り残していたことが判明した。Tr.1以南では、2-7層を掘削することにより周囲より砂粒が多く、色調的にはやや明るい範囲が帯状に検出された。第1面確認の遺構終端部から南西方向に延びることが確認された。結果として、第2面検出時には調査区を貫く一本の溝として再検出することができた。

平面形状・規模 平面形状は緩やかな弧を描く帯状で、検出長28.489m・幅1.475m、主軸はN-34.5°-Eをふる。断面形は深いV字形で確認面から底面までの深さは最大で0.859mを測る。溝の底面から肩にかけて急角度に立ち上がる。溝底面の標高は南から北にかけてわずかに下がる。南端のセクションdと北端のセクションaの比高は15.8cm、0.6%の勾配である。

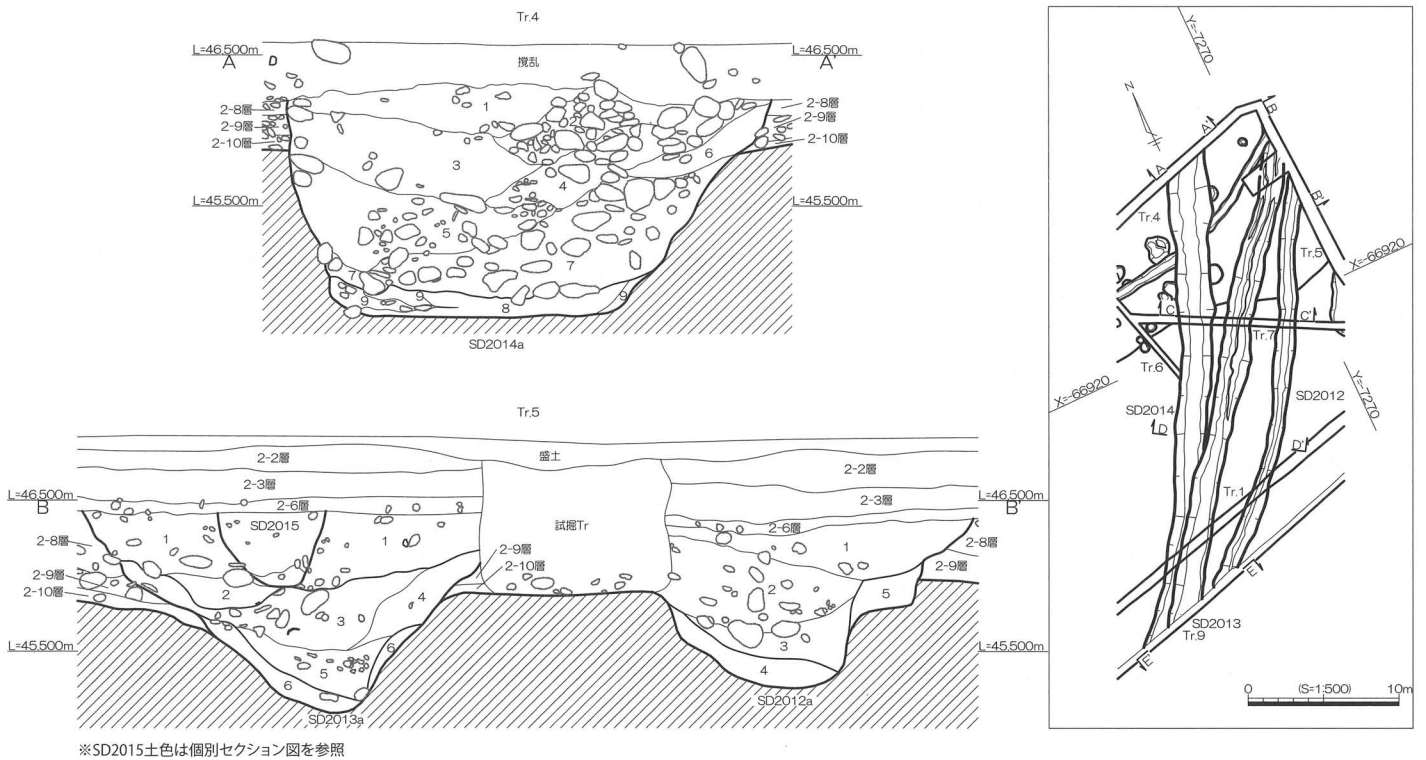
埋土 4箇所を設定したセクションベルトによる断面観察をおこなった。調査区外周部に位置するセクションa・セクションdにおいて、溝が2-7層を切り込んで形成されていることが判明した、したがって、層位上の帰属は2-6層除去面である。溝埋土は基本的に検出基盤層(2-7層・2-8層)に類似する。黒色～褐灰色を呈する主体土の中に多量の礫と土器が含まれるのが特徴で、埋土上層ほど礫と土器が多くなる。埋土は最大5層に細分され、その堆積過程の違いから上層・下層・最下層に大別した。

上層 黒褐色細粒砂～極細粒砂を主体とする。堆積構造は確認できない。最終基盤層である2-9層・2-10層が礫質となる調査区中央から北部にかけては、大小さまざまな礫が多く含まれ、大きなものでは径50cmにも達する。加えて、多量の土器が含まれており、残存率の高い個体が多くみられるのが特徴である。残存率の高い土器はある程度のまとまりをもって出土する傾向にある。第1面調査時に溝状土坑として検出したのはこの上層埋土の礫集中部分である。

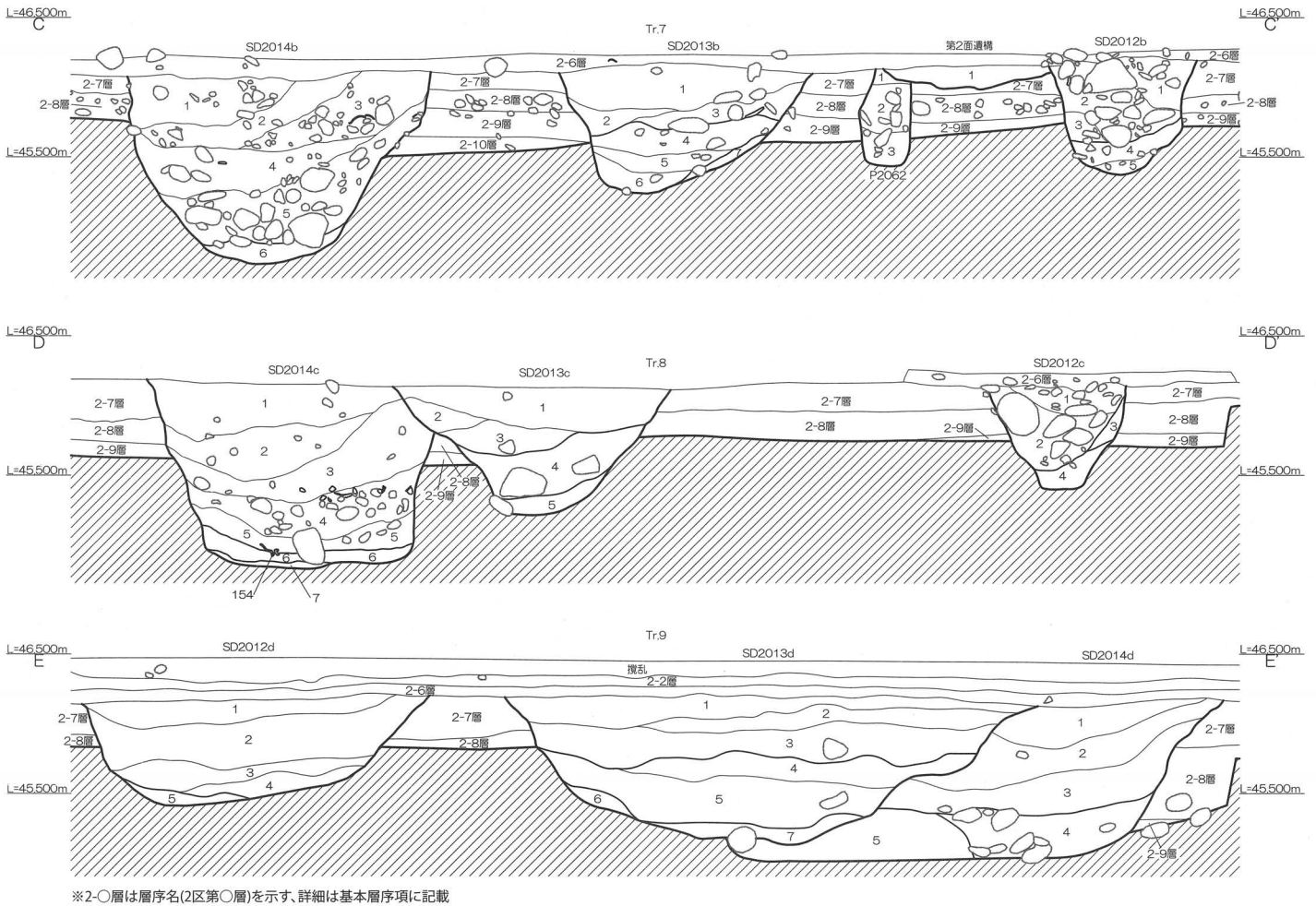
下層 黒褐色細粒砂～シルトを主体とする。締りがなくやや軟質な土質で、炭化物がわずかに含まれる。堆積構造は特に確認できない。上層に比較して礫・土器ともに少なくなる傾向にあり、礫径は小さくなる。機能時堆積層の可能性はある。



写真11 2区 大溝冠水



※SD2015土色は個別セクション図を参照



※2-〇層は層序名(2区第〇層)を示す、詳細は基本層序項に記載

図29 - 1 SD2012・SD2013・SD2014セクション図

SD2012セクション 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂・径2cm以下の礫中量 土器片中量	上層a
2	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	中粒砂・径40cm以下の礫中量 土器片中量	上層b
3	2.5Y3/1 黒褐色	極細粒砂 ～シルト	中粒砂少量、径10cm以下の礫少量 土器片中量	上層
4	10YR3/1 黒褐色	細粒砂～ シルト	機能層?、粗粒砂～中粒砂少量 径5cm以下の礫微量、土器片少量 締めり軟質	下層a
5	2.5Y4/2 暗灰黄色	粗粒砂～ 細粒砂	加工層、径5cm以下礫多量 第9・10層ブロック土中量	最下層b

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	10YR3/1 黒褐色	細粒砂	径5cm以下の礫中量、土器片少量	上層a
2	10YR2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	径40cm以下の礫多量 粗粒砂～中粒砂中量、土器片中量	上層b
3	10YR4/1 褐灰色	中粒砂～ 極細粒砂	機能層?、粗粒砂多量 径10cm以下の礫微量、締めり軟質	下層a
4	10YR2/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	加工層、径5cm以下の礫中量 ブロック状の粗粒砂少量、締めり軟質	最下層
5	10YR1.7/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	加工層、粗粒砂中量 径5cm以下の礫少量、締めり軟質	最下層a

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂・径10cm以下の礫中量 土器片多量	上層a
2	2.5Y2/1 黒色	細粒砂	粗粒砂～中粒砂・径40cm以下の礫多量 土器片多量	上層b
3	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	機能層?、粗粒砂～中粒砂少量 径5cm以下の礫・炭化物微量、締めり軟質	下層a
4	10YR2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	加工層、粗粒砂～中粒砂中量 径1cm以下のブロック土少量、締めり軟質	最下層b

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	中粒砂・径2cm以下の礫少量 土器片中量	上層
2	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	中粒砂・径2cm以下の礫微量 土器片中量	上層
3	2.5Y3/1 黒褐色	極細粒砂 ～シルト	中粒砂微量、土器片少量	上層
4	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量、土器片少量	上層
5	2.5Y3/2 黒褐色	細粒砂 ～シルト	加工層 径2cm以下のブロック土少量、締めり軟質	最下層a

SD2013セクション 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	10Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径20cm以下の中量、土器片中量	上層a
2	10YR2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂少量、土器片少量	上層b
3	10YR3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂・径20cm以下の礫中量 ブロック状の粗粒砂中量、土器片微量	中層b
4	10YR3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	径5cm以下の礫・ブロック状の粗粒砂中量 土器片微量	中層
5	2.5Y2/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂・第9・10層ブロック土少量 径5cm以下の礫中量	中層
6	2.5Y4/2 暗灰黄色	中粒砂～ 極細粒砂	加工層 径5cm以下の礫・第9・10層ブロック土多量	最下層

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	10Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂・径20cm以下の礫中量 土器片中量	上層a
2	10Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径5cm以下の礫微量、土器片中量	上層b
3	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	径25cm以下の礫・ブロック状粗粒砂中量 土器片中量	上層c
4	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径40cm以下の礫少量、土器片少量	中層a
5	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	ブロック状粗粒砂中量 径10cm以下の礫少量、土器片少量	中層b
6	10YR2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	径5cm以下の礫少量、土器片少量	中層
7	2.5Y2/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	加工層、第9・10層ブロック土多量、粗粒砂 中量、径5cm以下の礫少量、締めり軟質	最下層a

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	10YR3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂・径20cm以下の礫中量 土器片中量	上層a
2	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂少量、径5cm以下の礫微量 土器片中量	上層
3	10YR4/1 褐灰色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂・径10cm以下の礫少量 土器片少量	上層
4	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 土器片少量	中層a
5	2.5Y2/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	加工層、第9層ブロック土多量、粗粒砂 中量、径5cm以下の礫少量、締めり軟質	最下層a

SD2013セクション 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径5cm以下の礫少量、土器片中量	上層
2	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂・径2cm以下の礫微量 土器片少量	上層
3	10YR3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	中粒砂中量 径20cm以下の礫・土器片少量	上層
4	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ シルト	土器片少量	中層
5	2.5Y2/1 黒色	極細粒砂 ～シルト	溝肩に向かって中粒砂増加、土器片少量	中層
6	2.5Y3/2 黒褐色	中粒砂～ 極細粒砂	加工層、第9・10層ブロック土多量	最下層a
7	2.5Y2/1 黒色	細粒砂 ～シルト	加工層、第9・10層ブロック土多量	最下層

SD2014セクション 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	10Y2/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	極粗粒砂～粗粒砂中量 径10cm以下の礫少量、土器片多量	上層
2	10YR2/1 黒色	中粒砂～ 極細粒砂	極粗粒砂～粗粒砂多量 径25cm以下の礫多量、土器片多量	上層a
3	10YR3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径5cm以下の礫少量、土器片多量	上層b
4	10YR3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径25cm以下の礫多量、土器片多量	上層c
5	5Y3/2 オリーブ黒色	細砂～ 細粒砂	径10cm以下の礫多量、土器片多量	上層
6	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	径10cm以下の礫微量、土器片多量	上層
7	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	径30cm以下の礫多量 粗粒砂～中粒砂中量、土器片少量	上層e
8	2.5Y3/1 黒褐色	中粒砂～ シルト	機能層、粒度の単位で互層を成す 締めり軟質	下層a
9	2.5Y3/2 黒褐色	極粗粒砂 ～中粒砂	機能層 径5cm以下の礫・第9・10層起源の砂中量	下層a

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂 ～シルト	径15cm以下の礫中量 粗粒砂～中粒砂少量、土器片多量	上層a
2	2.5Y3/1 黒褐色	中粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂中量 径5cm以下の礫微量、土器片多量	上層b
3	2.5Y3/2 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	径20cm以下の礫多量 粗粒砂～中粒砂中量、土器片少量	上層c
4	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	径5cm以下の礫・中粒砂中量 土器片多量	上層d
5	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ シルト	径30cm以下の礫多量 中粒砂少量、土器片中量	上層e
6	2.5Y2/1 黒色	中粒砂～ シルト	機能層、粒度の単位で互層を成す 締めり軟質	下層a

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂中量 径5cm以下の礫少量、土器片多量	上層a
2	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂・径5cm以下の礫少量 土器片多量	上層b
3	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂～中粒砂・径5cm以下の礫微量 土器片多量	上層d
4	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	粗粒砂・径20cm以下の礫多量 土器片少量	上層e
5	2.5Y3/2 黒褐色	細粒砂～ シルト	粗粒砂中量、径5cm以下の礫少量 第9・10層ブロック土少量、炭化物微量 土器片中量	中層a
6	2.5Y2/1 黒色	中粒砂～ シルト	機能層、粒度の単位で互層を成す 土器片微量、締めり軟質	下層a
7	2.5Y2/1 黒色	粗粒砂～ 極細粒砂	加工層、径2cm以下の礫中量 第9・10層のブロック土中量	最下層

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	埋土分類
1	2.5Y3/1 黒褐色	中粒砂～ 極細粒砂	極粗粒砂～粗粒砂中量 径5cm以下の礫少量、土器片少量	上層
2	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	極粗粒砂～粗粒砂中量 径5cm以下の礫少量、土器片少量	上層
3	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ シルト	粗粒砂～中粒砂少量 径10cm以下の礫微量、土器片多量	上層
4	2.5Y2/1 黒色	細粒砂～ 極細粒砂	径20cm以下の礫多量、土器片中量	中層a
5	2.5Y2/1 黒色	極細粒砂 ～シルト	機能層、径20cm以下の礫微量、締めり軟質	下層

P2062他(Tr.7) 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等	備考
1	2.5Y3/2 黒褐色	細粒砂	径15cm以下の礫多量	P2062
2	2.5Y2/1 黒	細粒砂～ 極細粒砂	径5cm以下の礫中量	P2062
3	2.5Y2/1 黒	細粒砂～ 極細粒砂	径5cm以下の礫少量	P2062
1	2.5Y3/1 黒褐色	細粒砂～ 極細粒砂	極粗粒～中粒砂中量 炭化物少量	第2面遺構 プラン未確認

図29-2 SD2012・SD2013・SD2014セクション図

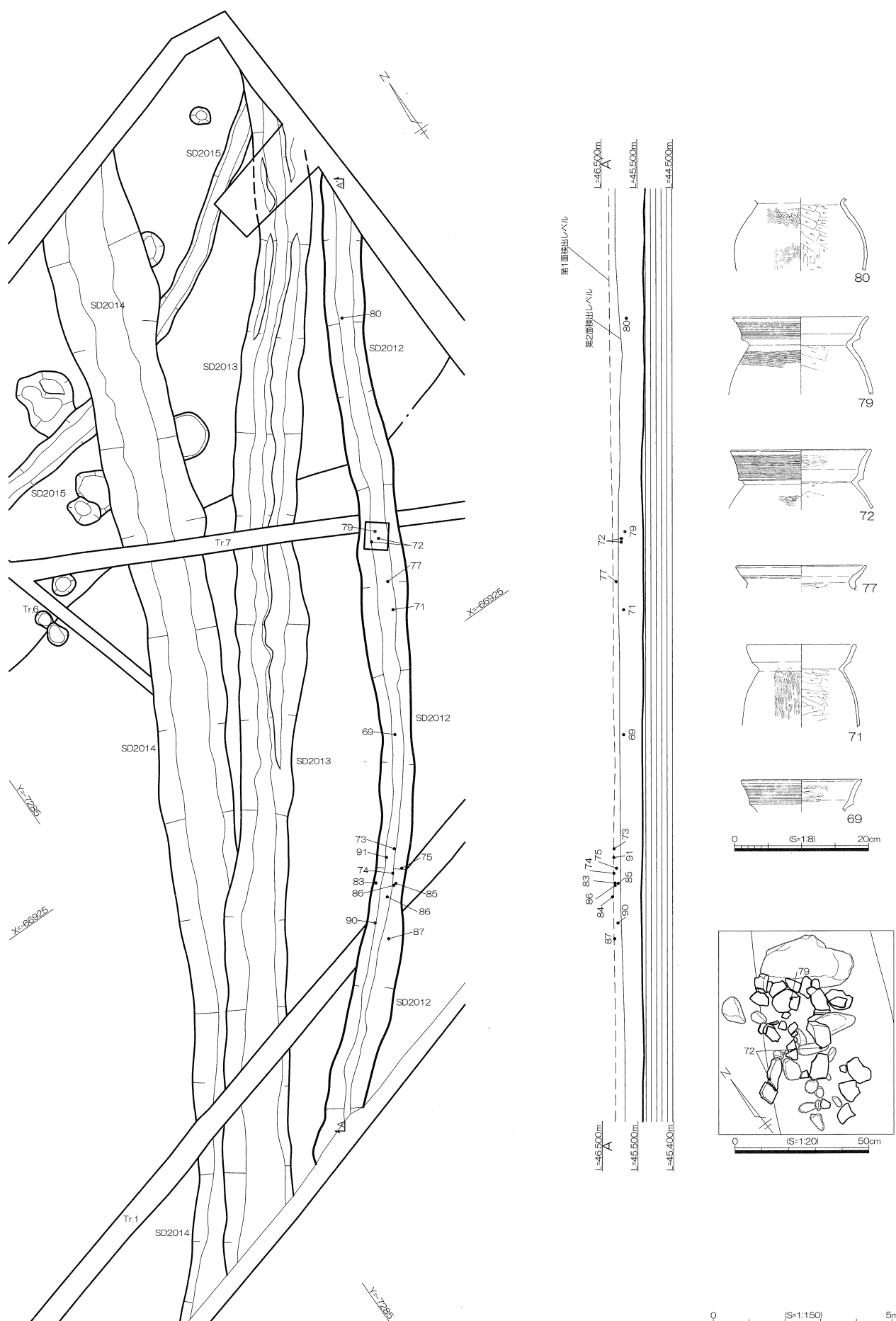


図30 SD2012遺構図

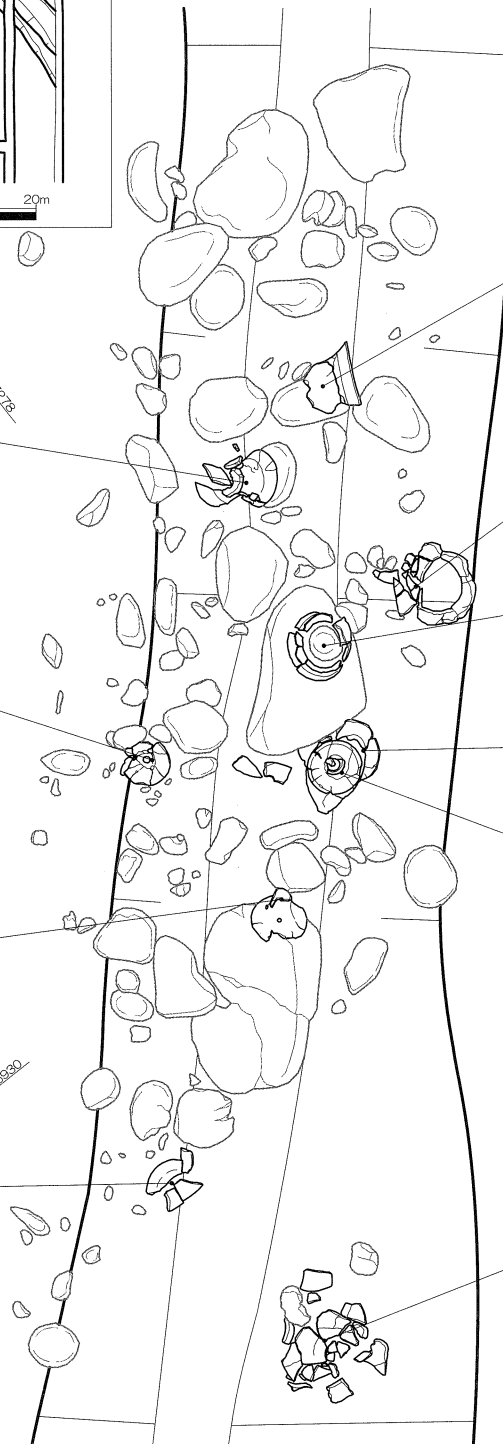
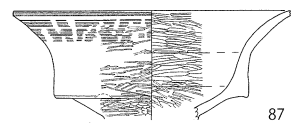
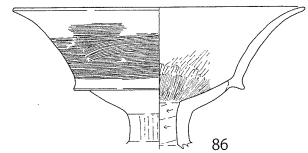
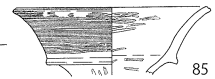
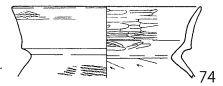
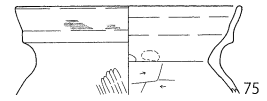
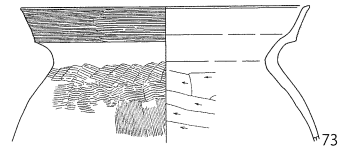
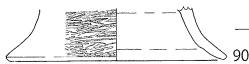
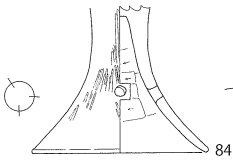
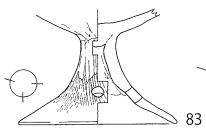
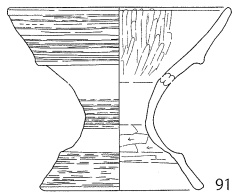
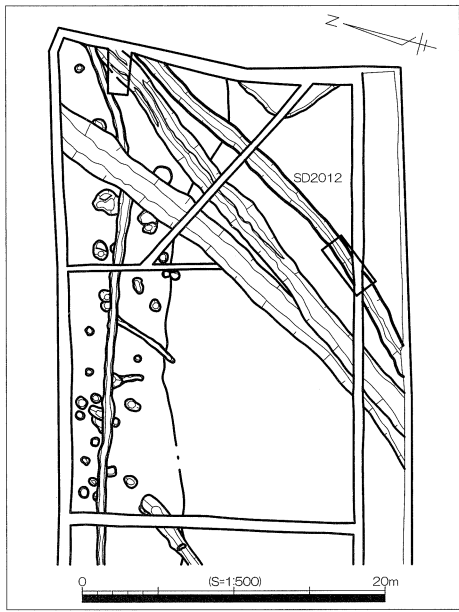
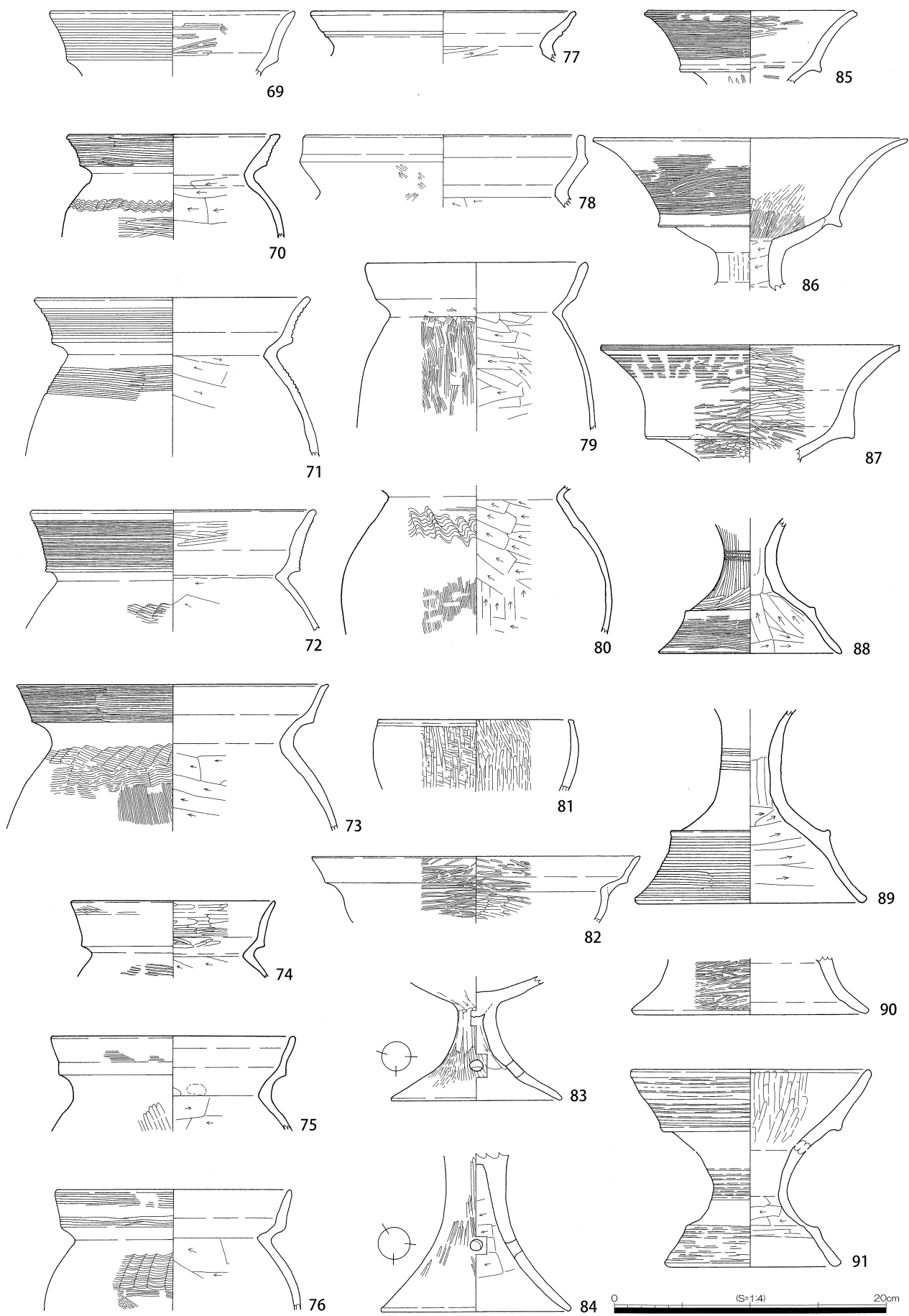


図31 SD2012微細図



遺物图15 SD2012出土遺物

遺物観察表 15

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
69	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 甕	口径:(17.6) 器高:4.8 ~	外面:口縁部平行沈線文、頸部ナデ 内面:口縁部ナデ後ミガキ	普通 ~ 3mmの砂粒、 普通	やや不良 外面:明黄橙 内面:明黄橙	外面煤付着 C1類
70	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 甕	口径:(15.2) 器高:7.7 ~	外面:口縁部平行沈線文、頸部ナデ、肩部波状文、 体部ミガキ 内面:口縁部ナデ、頸部~体部ケズリ	普通 ~ 1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	C1類
71	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 甕	口径:(19.8) 器高:11.7 ~	外面:口縁部平行沈線文、頸部ナデ、肩部平行線 文 内面:口縁部ナデ、頸部~肩部ケズリ	普通 ~ 2mmの砂粒、 多い	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	外面煤付着 C1類
72	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 甕	口径:(20.6) 器高:8.9 ~	外面:口縁部平行沈線文、頸部~肩部・口縁部 ナデ、肩部波状文(貝殻) 内面:口縁部ナデ後ミガキ、頸部~肩部ケズリ	普通 ~ 1mmの砂粒、 多い	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	外面煤付着 C1類
73	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 甕	口径:(22.8) 器高:10.8 ~	外面:口縁部平行沈線文、頸部ナデ、肩部貝殻腹 線による押し沈線文・波状文(貝殻)、体 部ハケ 内面:口縁部沈線1条、口縁部~頸部ナデ、体 部ケズリ	普通 ~ 3mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄褐 内面:橙	C1類
74	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 甕	口径:14.6 器高:5.7 ~	外面:口縁部平行沈線文+ナデ消し、頸部ナデ、 肩部平行線文 内面:口縁部ミガキ、頸部ナデ、体部ケズリ 特記:外面肩部に爪または工具痕あり	普通 ~ 4mmの砂粒、 普通	良好 外面:にぶい黄褐 内面:にぶい黄橙	外面煤付着 C2類~D2類
75	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 甕	口径:(17.2) 器高:7.0 ~	外面:口縁部平行沈線文+ナデ消し、頸部ナデ、 体部ミガキ 内面:口縁部ナデ、頸部~体部ケズリ	普通 ~ 2mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	外面煤付着 ケズリのムラがあり 厚さが場所により違 う C2類
76	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 甕	口径:(17.0) 器高:8.8 ~	外面:口縁部平行沈線文、頸部ナデ、肩部貝殻腹 線押しによる波状文、体部ハケ 内面:口縁部ナデ、頸部~体部ケズリ	普通 ~ 3mmの砂粒、 普通	やや不良 外面:浅黄橙 内面:にぶい黄橙	外面煤付着 C2類
77	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 甕	口径:(19.2) 器高:3.7 ~	外面:口縁部~頸部ナデ、口縁部沈線文1条 内面:口縁部ナデ、頸部ケズリ	普通 ~ 2mmの砂粒、 多い	普通 外面:明赤褐 内面:橙	
78	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 (甕)	口径:(20.0) 器高:5.4 ~	外面:口縁部~頸部ミガキ 内面:口縁部ナデ、頸部ケズリ	普通 ~ 3mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい赤褐 内面:浅黄橙	
79	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 甕	口径:(16.0) 器高:12.4 ~ 最大径:(17.4)	外面:口縁部~頸部ナデ、体部ハケ 内面:口縁部ナデ、体部ケズリ	普通 ~ 1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい赤褐 内面:にぶい褐	外面煤付着
80	2	SD2012 (2004)	15	53	弥生土器 甕	器高:11.0 ~ 最大径:(19.8)	外面:頸部ナデ、体部ハケ後ナデ、肩部波状文 内面:頸部ナデ、体部ケズリ	普通 ~ 0.5mmの砂粒、 普通	普通 外面:明赤褐 内面:灰黄褐	
81	2	SD2012 (2004)	15	54	弥生土器 鉢	口径:(13.8) 器高:5.2 ~ 最大径:(15.0)	外面:口縁部ナデ、体部ミガキ、口縁部沈線文 1条 内面:口縁部~体部ミガキ	やや密 ~ 0.5mmの砂粒、 少ない	普通 外面:褐 内面:褐	
82	2	SD2012 (2004)	15	54	弥生土器 高坏	口径:(23.4) 器高:4.9 ~	外面:口縁部~坏底上半ミガキ 内面:口縁部~坏底上半ミガキ	普通 ~ 1mmの砂粒、 少ない	普通 外面:灰黄褐(黒) 内面:にぶい黄橙	北近畿系
83	2	SD2012 (2004)	15	54	弥生土器 高坏	器高:9.1 ~ 脚径:12.4	外面:坏底部ケズリ後ナデ、脚部ハケ後ミガキ、 脚部ナデ 内面:脚部ナデ 特記:円形透かし3方向	普通 ~ 3mmの砂粒、 普通	やや不良 外面:橙 内面:橙	
84	2	SD2012 (2004)	15	54	弥生土器 高坏	器高:11.5 ~ 脚径:(13.2)	外面:脚部ミガキ、脚部ナデ 内面:脚部ナデ、脚部ナデ 特記:円形透かし3方向	やや粗 ~ 4mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄 内面:にぶい黄橙	
85	2	SD2012 (2004)	15	54	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:14.8 器高:5.4 ~	外面:受部上半平行線文、受部下半ミガキ、口縁 部沈線文1条 内面:受部ナデ一部ミガキ	普通 ~ 2mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	
86	2	SD2012 (2004)	15	54	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:(22.8) 器高:11.25 ~	外面:受部上半平行線文、受部下半ナデ、筒部ミ ガキ 内面:受部ミガキ、筒部ケズリ後ナデ	普通 ~ 1mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	
87	2	SD2012 (2004)	15	54	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:21.6 器高:8.5 ~	外面:受部上半平行沈線文後ミガキ、受部下半ミ ガキ、口縁部沈線文2条 内面:受部ミガキ	やや密 ~ 2mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい橙 内面:橙	
88	2	SD2012 (2004)	15	54	弥生土器 器台 (鼓形器台)	器高:10.0 ~ 脚径:13.3	外面:筒部ハケ後ミガキ、筒部中位に沈線文4条、 脚部平行線文、脚部上端・脚部ナデ 内面:筒部ナデ、脚部ケズリ、脚部ナデ	普通 ~ 1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい橙 内面:にぶい橙	
89	2	SD2012 (2004)	15	54	弥生土器 器台 (鼓形器台)	器高:14.3 ~ 脚径:16.5 ~	外面:(ミガキ)、筒部中位に平行線文4条1 帯を2帯、脚部平行線文、脚部上端・脚 部ナデ 内面:筒部ナデ、脚部ケズリ、脚部ナデ	やや密 ~ 2mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:黄橙	
90	2	SD2012 (2004)	15	55	弥生土器 器台 (鼓形器台)	器高:4.1 ~ 脚径:17.4	外面:脚部ミガキ 内面:脚部ナデ	普通 ~ 2mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:橙 内面:にぶい橙	
91	2	SD2012 (2004)	15	55	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:17.2 器高:14.5 最大径:17.7 底径:12.2	外面:口縁部平行線文、筒部ナデ中位に平行線文、 脚部平行線文+ナデ消し 内面:受部ミガキ、筒部上半ナデ、筒部下半~脚 部上端ケズリ、脚部ナデ	やや粗 ~ 0.5mmの砂粒、 少ない	やや不良 外面:黄褐 内面:橙	接点を持たない2破 片を図上復元

最下層 暗灰黄色粗粒砂～極細粒砂である。土質はその場所の2-9層・2-10層に類似する。2-9層・2-10層のブロック土が確認されることから、溝開削時の掘り残し土、すなわち加工層と推定される。遺物は確認されなかった。

遺物検出状況 溝内の遺物検出状況は特殊といえる。土器は上層部に集中しており、巨礫につぶされながらも形状を維持している個体が多数確認された。また、場所による遺物の粗密もはっきりしており、残存率の高い個体は集中する傾向にある。出土遺物量は整理用コンテナ4箱分である。弥生時代後期後葉の要素の強い甕と器台の多さが特筆される。甕(69～76)はやや開きながら立ち上がる口縁部とその外面の平行沈線文が特徴的である。口縁立ち上がりの平行沈線文がきっちり描かれる個体(69～73)、平行沈線文にナデ消しを加えられる個体(74～76)に大別される。肩部に貝殻腹縁による押し引き文や連続刺突文を施す個体がある。器台(85～91)は全て鼓形器台である。受部と脚台部に平行沈線文を施し、明瞭な筒部を有する。中でも89にみられる細く長い筒部はやや古い要素で、帰属時期は弥生時代後期中葉になる可能性がある。82は椀形の坏部を特徴とする北近畿系の高坏である。胎土は周りから出土する甕などと同じ灰黄褐色系であることから在地産と考えられる。ただし、模倣品にしてはオリジナルにかなり近い形状で、その技術を持つ工人の作の可能性がある。ヒトの移動を示唆する個体である。

遺構の性格と帰属時期 溝である。基盤層の砂礫層・粘土層に関わらず底を揃えて深く掘り込まれる状況から明確な目的があって開削されたことは間違いない。当然のことながら水を流すために掘削されたと推定されるが、調査においてそれを確認することはできなかった。しかしながら、遺物と礫の出土状況から溝の廃絶についての検討は可能である。土器が最も多い上層部では巨礫の間に元形状を維持しながら破碎している個体が多数確認された。もし、溝が洪水や土石流によって埋没したものであるなら、上層埋土内の礫と土器は同時に堆積したことになり、巨大な礫とともに流されてきたのならば、激しい流れの中で土器はさらに破碎され、元形状を維持できないと考える。次に、遺構埋土が場所によって連続的に変化し、それが検出基盤層(想定される地表層)に近いということは、その出所がすぐ近くにあることを示す。したがって、礫と土器は同時期にヒトの手によって溝内に入れたと考えられることから、それは溝廃絶時の埋め立て行為であると理解できる。そして、その時期は弥生時代後期後葉から終末期前半の一時点と考えられる。下層・最下層からは時期判定可能な遺物がなかったため、溝の開削時期と存続期間は不明である。

■ SD2013(図32、遺物図16、遺物観察表16、写真図版17・19)

位置 2区第2面N34～K36グリッドに位置する。遺構の確認面の標高は46.131m～45.795mである。

検出状況 遺構の存在は平成20年11月実施の試掘調査で確認されており、試掘トレンチ範囲で溝として検出及び掘削されている。本調査では第1面調査以前、試掘トレンチ再掘削時の壁面精査においてその存在を再確認した。わずかに明るい溝芯から2-8層を検出基盤層とする掘り込みと判断したが、第1面(この周辺での2-6層除去面=2-8層上面)において全く検出できなかったため、遺構プラン確定には2-8層除去が必要と判断した。第2面調査に先だって、溝の延長が予測される位置にTr.7・Tr.8を設定し断面確認をおこなったところ、溝は調査区北東端から南西方向に直線状に延びること、2-8層の上位に堆積する2-7層を切ることが確認され、層位上の帰属が2-6層除去面であ

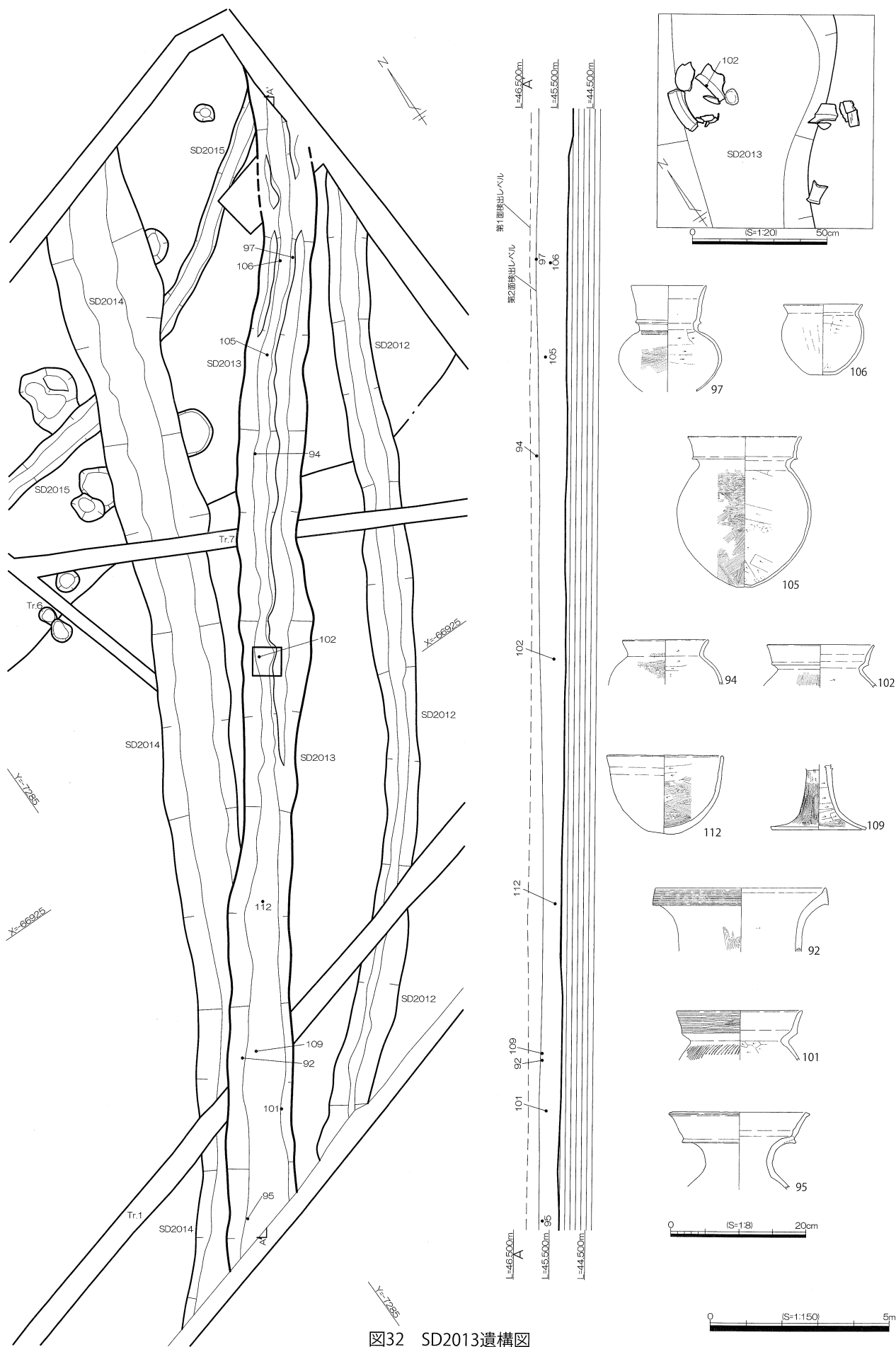
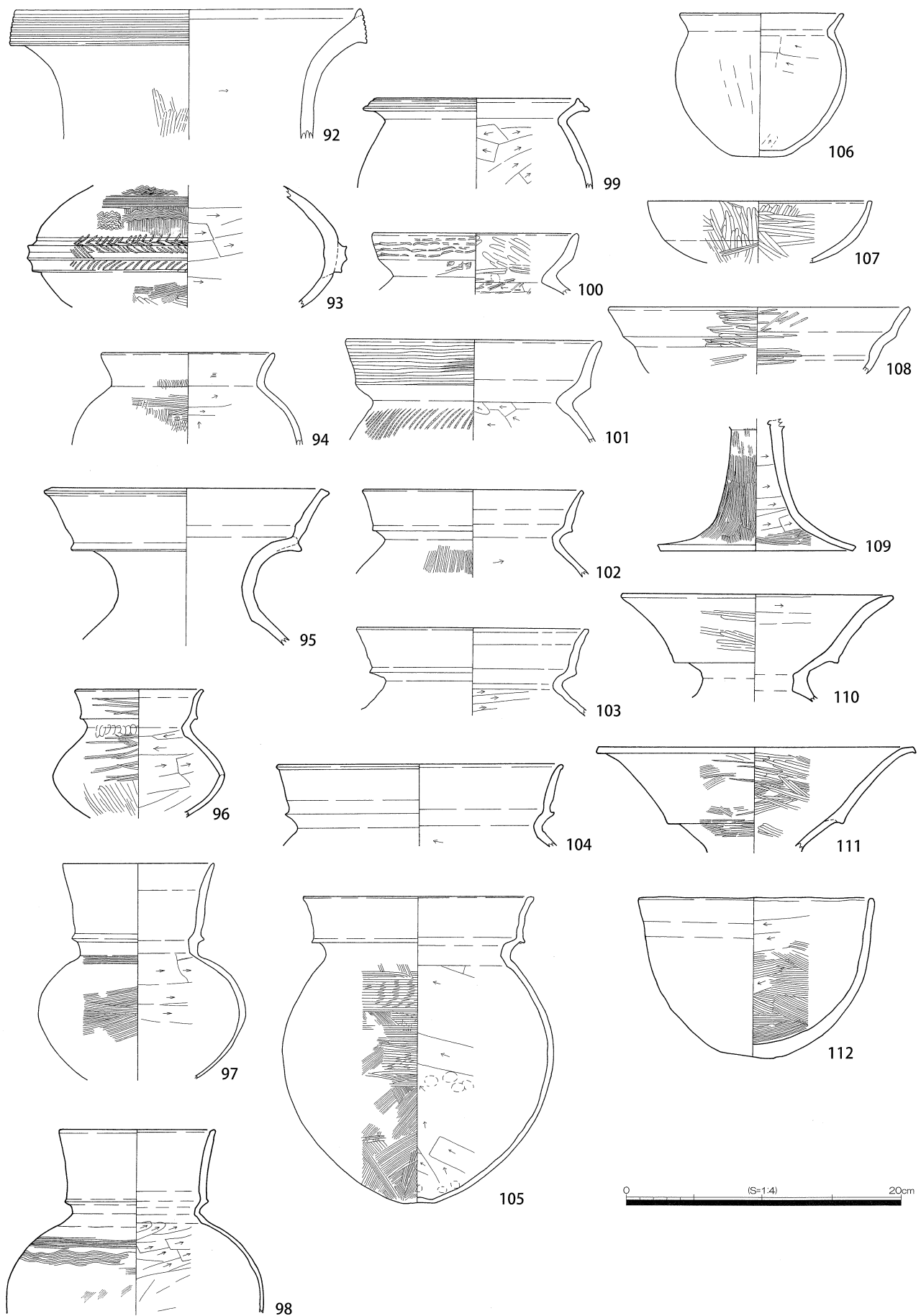


図32 SD2013遺構図



遺物図16 SD2013出土遺物

遺物観察表 16

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
92	2	SD2013 (2109)	16	55	弥生土器 壺	口径:(25.0) 器高:9.6~	外面:口縁部ナデ後擬凹線文6条、口縁部ナデ、 頸部ナデ後一部ミガキ 内面:口縁部~頸部ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 多い	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	
93	2	SD2013 (2109)	16	55	弥生土器 壺 (台付裝飾壺)	器高:9.0~ 最大径:(23.1)	外面:体部上半ハケ後波状文2帯、平行線文、突 帯ナデ後貝殻腹縁による連続刺突文4列、 体部下半ハケ後ミガキ 内面:体部ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	搬入品か
94	2	SD2013 (2109)	16	55	弥生土器 壺	口径:(12.2) 器高:6.7~	外面:口縁部ハケ後ナデ、体部上半ハケ 内面:口縁部ハケ後ナデ、体部上半ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	
95	2	SD2013 (2109)	16	55	土師器 壺 (二重口縁壺)	口径:(19.8) 器高:11.5~	外面:口縁部~頸部ナデ、肩部(ハケ) 内面:口縁部ナデ、肩部ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:灰黄褐	
96	2	SD2013 (2109)	16	55	弥生土器 壺	口径:(9.0) 器高:9.4~ 最大径:(12.4)	外面:口縁部ナデ後ミガキ、頸部~体部上半ミガ キ、体部下半ハケ後ミガキ 内面:口縁部ケズリ後ナデ、頸部~体部上半ケズ リ、体部下半ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 少ない	普通 外面:にぶい黄橙 内面:浅黄橙	搬入品か
97	2	SD2013 (2109)	16	55	弥生土器 壺 (直口壺)	口径:10.9 器高:15.9~ 最大径:15.5	外面:口縁部~頸部(ナデ)、体部ハケ 内面:口縁部~頸部ナデ、体部ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 多い	普通 外面:浅黄 内面:灰	
98	2	SD2013 (2109)	16	55	弥生土器 壺 (直口壺)	口径:(11.2) 器高:13.5~ 最大径:(18.6)	外面:口縁部~頸部ナデ、体部ハケ後ナデ、肩部 平行線文・波状文各1帯 内面:口縁部ナデ、頸部ナデ・ケズリ後ナデ、体 部上半ケズリ、体部下半ケズリ後ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:灰白 内面:浅黄橙	
99	2	SD2013 (2109)	16	56	弥生土器 甕	口径:(14.6) 器高:6.6~	外面:口縁部並行沈線文2条、口縁部~肩部ナデ 内面:口縁部ナデ、肩部ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:橙	外面煤付着 A類
100	2	SD2013 (2109)	16	56	弥生土器 甕	口径:(14.4) 器高:4.4~	外面:口縁部並行沈線文+ナデ消し、頸部~肩部 ナデ 内面:口縁部ミガキ、頸部~肩部ケズリ後ミガキ	普通 ~3mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい橙 内面:にぶい橙	
101	2	SD2013 (2109)	16	56	弥生土器 甕	口径:(18.2) 器高:7.5~	外面:口縁部平行沈線文、頸部ナデ、肩部貝殻腹 縁による連続刺突文 内面:口縁部ナデ、頸部~肩部ケズリ	普通 ~4mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:灰黄	C1類
102	2	SD2013 (2109)	16	56	弥生土器 甕	口径:(15.6) 器高:6.3~	外面:口縁部~頸部ナデ、肩部ハケ 内面:口縁部~頸部ナデ、肩部ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄 内面:にぶい黄橙	外面煤付着 E2類
103	2	SD2013 (2109)	16	56	弥生土器 甕	口径:16.5 器高:6.5~	外面:口縁部~肩部ナデ 内面:口縁部~頸部ナデ、肩部ケズリ	やや粗 ~4mmの砂粒、 普通	やや不良 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	E2類
104	2	SD2013 (2109)	16	56	土師器 甕	口径:(20.4) 器高:6.1~	外面:口縁部~肩部ナデ 内面:口縁部~頸部ナデ、肩部ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:黄灰 内面:灰黄褐	F1~F2類
105	2	SD2013 (2109)	16	56	土師器 甕	口径:15.8 器高:(22.5) 最大径:19.8 底径:2.8	外面:口縁部~頸部ナデ、体部ハケ 内面:口縁部~頸部ナデ、体部ケズリ	普通 ~3mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:暗灰黄	外面煤付着 接点を持たない2破 片を図上復元 F1類
106	2	SD2013 (2109)	16	56	弥生土器 甕	口径:(11.6) 器高:10.5~ 最大径:(12.2) 底径:3.4	外面:口縁部~底部ナデ 内面:口縁部~頸部ナデ、体部~底部ケズリ	普通 ~0.5mmの砂粒、 少ない	普通 外面: 内面:	
107	2	SD2013 (2109)	16	56	弥生土器 高坏	口径:(16.2) 器高:6.0~	外面:坏部ナデ後ミガキ 内面:口縁部ナデ、坏部ミガキ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	良好 外面:橙 内面:橙	
108	2	SD2013 (2109)	16	56	弥生土器 高坏	口径:(21.4) 器高:4.9~	外面:口縁部~坏底部上半ミガキ 内面:口縁部~坏底部上半ミガキ	普通 ~3mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄褐	北近畿系、丹後からの 搬入品か
109	2	SD2013 (2109)	16	57	弥生土器 高坏	器高:9.7~ 脚径:14.0	外面:脚部ハケ、脚端部ナデ 内面:脚柱部ケズリ、脚裾部ハケ、脚端部ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	
110	2	SD2013 (2109)	16	57	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:(19.5) 器高:7.9~	外面:口縁部~脚台部ナデ後ミガキ 内面:口縁部ナデ、口縁部ケズリ後ナデ、脚台 部ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	
111	2	SD2013 (2109)	16	57	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:(22.8) 器高:7.7~	外面:口縁部ナデ後ハケ一部ミガキ、受部ミガキ 内面:口縁部ハケ後ミガキ、受部ミガキ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	
112	2	SD2013 (2109)	16	57	弥生土器 鉢	口径:16.8 器高:11.85	外面:口縁部~底部ナデ 内面:口縁部ナデ、体部上半ケズリ後ナデ、体部 下半~底部ハケ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:橙 内面:明黄褐	外面煤付着

ることが確認された。しかし、この周辺において、第1面(2-6層除去面=2-7層上面)では溝は検出されていないうえ、セクション上でも遺構埋土と2-7層の差がわずかなことからこの段階での平面検出は断念し、2-7層掘削後の第2面検出時に遺構プランを確定させた。溝は北東側、南西側ともに調査区外に延びる。第2面主要遺構との切り合い関係あり。SD2014を切り、SD2015に切られる。SD2014との切り合い関係判定は困難であったが、埋土上層に含まれる礫の分布がSD2013に沿っていることをその根拠とした。

平面形状・規模 平面形状は帯状で、検出長33.623m・幅2.027m、主軸はN-34.5°-Eをふる。断面形は深いV字形、底近くに段があり二段掘りとなる。この最深部は直線状に延びる溝の中でわずかにS字に振れる。確認面から底面までの深さは最大で1.040mを測る。溝の底面から肩にかけて急角度に立ち上がる。溝底面の標高は一定しない。南端のセクションdと北端のセクションaの比高は4.3cm、計算上は0.1%の勾配となり、北東に向かってほんのわずかに下がることになるが、実際にはセクションb・cの溝底が高くなるため、勾配と捉えるのは難しいかもしれない。

埋土 4箇所を設定したセクションベルトによる断面観察をおこなった。溝埋土は基本的に検出位置での基盤層(2-7層・2-8層)に類似する。黒色～褐灰色を呈する主体土の中に多量の礫と土器が含まれるのが特徴で、その傾向は上方に顕著となる。埋土は最大7層に細分され、その堆積過程の違いから上層・中層・最下層に大別した。

上層 黒褐色細粒砂～極細粒砂を主体とする。堆積構造は特に確認できない。2-9層・2-10層が礫質となる調査区中央から北部にかけては、大小さまざまな礫が多く含まれる、最大径35cm程度である。この中に多量の土器が含まれているのが特徴である。残存率の高い個体も見られるが、SD2012・SD2014程ではない。SD2012上層と同じ層相を示すことから、埋め立て行為による人為的な形成層と推定される。

中層 黒色細粒砂～極細粒砂を主体とする。粗粒砂～中粒砂の混入量がやや多く、部分的にブロック状に集中する。上層に比較して礫と土器の量が減少する。堆積要因は不明であるが、上層との土質や混入物の共通性から埋め戻し土の可能性が最も高いと思われる。

最下層 黒色～暗灰黄色中粒砂～シルト。土質はその場所の2-9層・2-10層に類似し、このブロック土が多く含まれる。溝開削時の掘り残し土、すなわち加工層と推定される。遺物は確認されなかった。セクションdではこのブロック土の立ち上がりやSD2014との切り合い判定の根拠とした。

遺物検出状況 土器の大半は上層部から出土している。遺物出土量はSD2012・SD2014と比較すると少ないが、完形に近い個体が出土する状況はやはり特殊といえる。土器は上層部に多いが、集中部といえるほど土器が密集している箇所はなかった。出土遺物量は整理用コンテナ3箱分である。その帰属時期は弥生時代後期前葉から古墳時代前期中葉まで。古墳時代前期前葉の要素を持つ個体が多い。壺(92～99)には、多様な器種がみられる。93は台付装飾壺と考えられる体部破片である。体部最大径位置に突帯を貼り付け、突帯上とその基部に貝殻腹縁による連続刺突文を、体部上半には平行線文と波状文を施す。この近隣では青谷上寺地遺跡において相当数が出土しているが、それらと比較すると器形や施文法など、基本ルールが踏襲されていないことが判る。本例は同系列でありながらもかなり変容を遂げた後の様相を示しており、近隣の類例と直接の系譜を求めるのは難しい。形状的には、むしろ、伝播の過程で変容した地方の模倣品に近いと考えられ、それが搬入品として持ち込まれた可能性を考える。これに関連して96も脚台は付かないながら、体部の張り出しとやや下膨れな

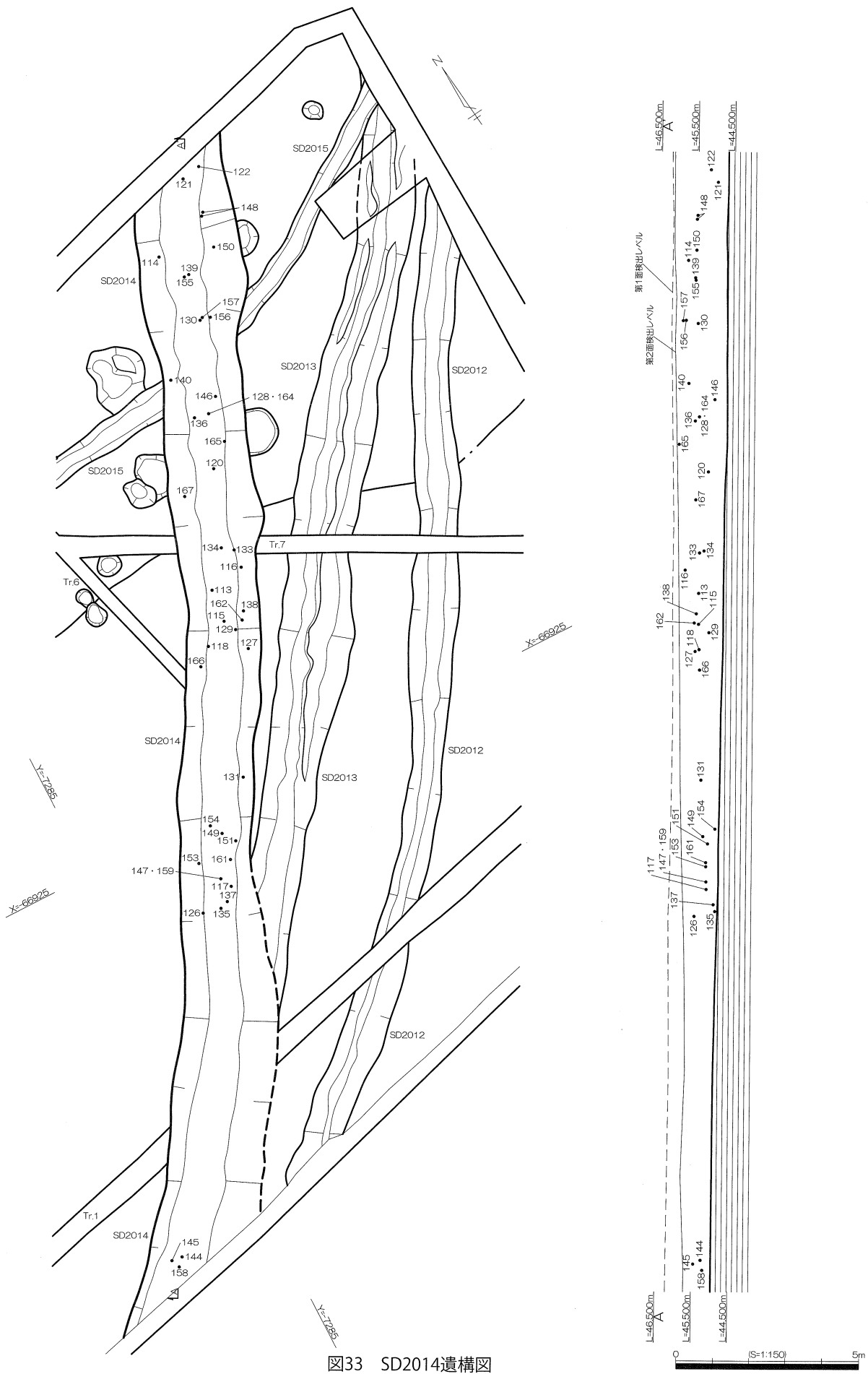


図33 SD2014遺構図

器形から台付装飾壺の系統と考えられる。95は大きく開く厚手の口縁部と、端部の外傾する平坦面が特徴的な壺である。古墳時代前期中葉まで下る可能性がある。97・98は直口壺である。口縁屈曲部からの立ち上がりが発達する。弥生時代終末期後半に属する。特に97は完形に近い状態で出土した。甕(99～106)はその時期幅が広い。主体を占めるのは口縁立ち上がりの文様が無文化した一群(102～103)と、口縁端部における肥厚または平坦面を持つ一群(104・105)である。これらは弥生時代終末期後半から古墳時代前期前葉の要素である。古墳時代の要素を持つ個体の多さが特筆される。外来系土器としては高坏(108)が挙げられる。椀形の坏部が破片で出土した。胎土はにぶい黄色を呈し在地系に比べてやや淡い。北近畿系、丹後の所産と考えられる。

遺構の性格と帰属時期 溝である。基盤層の砂礫層・粘土層に関わらず深く掘り込まれており、底を一定に揃える意識があったとみられる。ただし、その底面は一定せず多少の凹凸がある。計測値からは北東方向へのほんのわずかな傾斜が読み取れるが、中央部の盛り上がりを考えると勾配を示すとはいえない。溝の廃絶については、上層埋土の様相からやはり埋め立て行為によるものと考えられ、その時期は古墳時代前期前葉から中葉の一時点と考えられる。開削時期はSD2014との切り合い関係から判断すると、弥生時代終末期後半以降となる。

■ SD2014(図33～37、遺物図17-1～17-4、遺物観察表17-1～17-4、巻頭図版8、写真図版20～24)

位置 2区第2面N34～L36グリッドに位置する。遺構確認面の標高は45.141～45.707mである。

検出状況 調査区北壁沿いのTr.4の断面観察において遺構の存在が確認された。この時点では2-8層を掘り込む遺構かどうかは判断できなかったが、第1面(この周辺での2-6層除去面=2-8層上面)においてプラン検出ができなかったため、2-8層除去後に再検出をおこなうことにした。第2面調査に先だって、溝の延長が予測される位置にTr.7・Tr.8を設定して断面確認をおこなったところ、溝は調査区北東端から南西方向に直線状に延びること、2-8層の上位に堆積する2-7層を切ること、層位上の帰属は2-6層除去面であることが確認された。ただし、遺構埋土と2-7層の差がわずかなことからこの段階での平面検出は断念し、2-7層除去後の第2面検出時に遺構プランを確定させた。第2面主要遺構との切り合い関係あり。SD2014とSD2015に切られる。特に同類遺構とされるSD2013とは、その位置・軸方向が近いために、調査区南部から南端部にかけて大きく重なる。

平面形状・規模 平面形状は緩やかな弧を描く帯状で、検出長32.897m・幅2.895m、主軸はN-27.5°-Eをふる。断面形は深い逆台形で確認面から底面までの深さは最大で1.448mを測る。溝の底面から肩にかけて急角度に立ち上がる。溝底が幅0.8～1.4m程度の平坦面になっているのが大きな特徴である。底面の標高は南から北にかけて下がる。南端のセクションdと北端のセクションaの比高は25.3cm、0.8%の勾配である。

埋土 4箇所を設定したセクションベルトによる断面観察をおこなった。溝埋土は基本的に検出位置での基盤層(2-7層・2-8層)に類似する。黒色～褐灰色を呈する主体土の中に多量の礫と土器が含まれるのが特徴で、その傾向は上方に顕著となる。また、SD2014独自の要素として、明確な機能層(下層)の堆積がある。埋土は最大9層に細分され、その堆積過程の違いから上層・中層・下層・最下層に大別した。

上層 黒褐色細粒砂～極細粒砂を主体とする。堆積構造は特に確認できない。基盤層が礫質となる調査区中央から北部にかけては、大小さまざまな礫が多く含まれ、最大径は80cmにも達する。

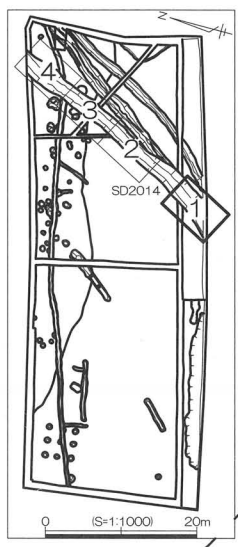
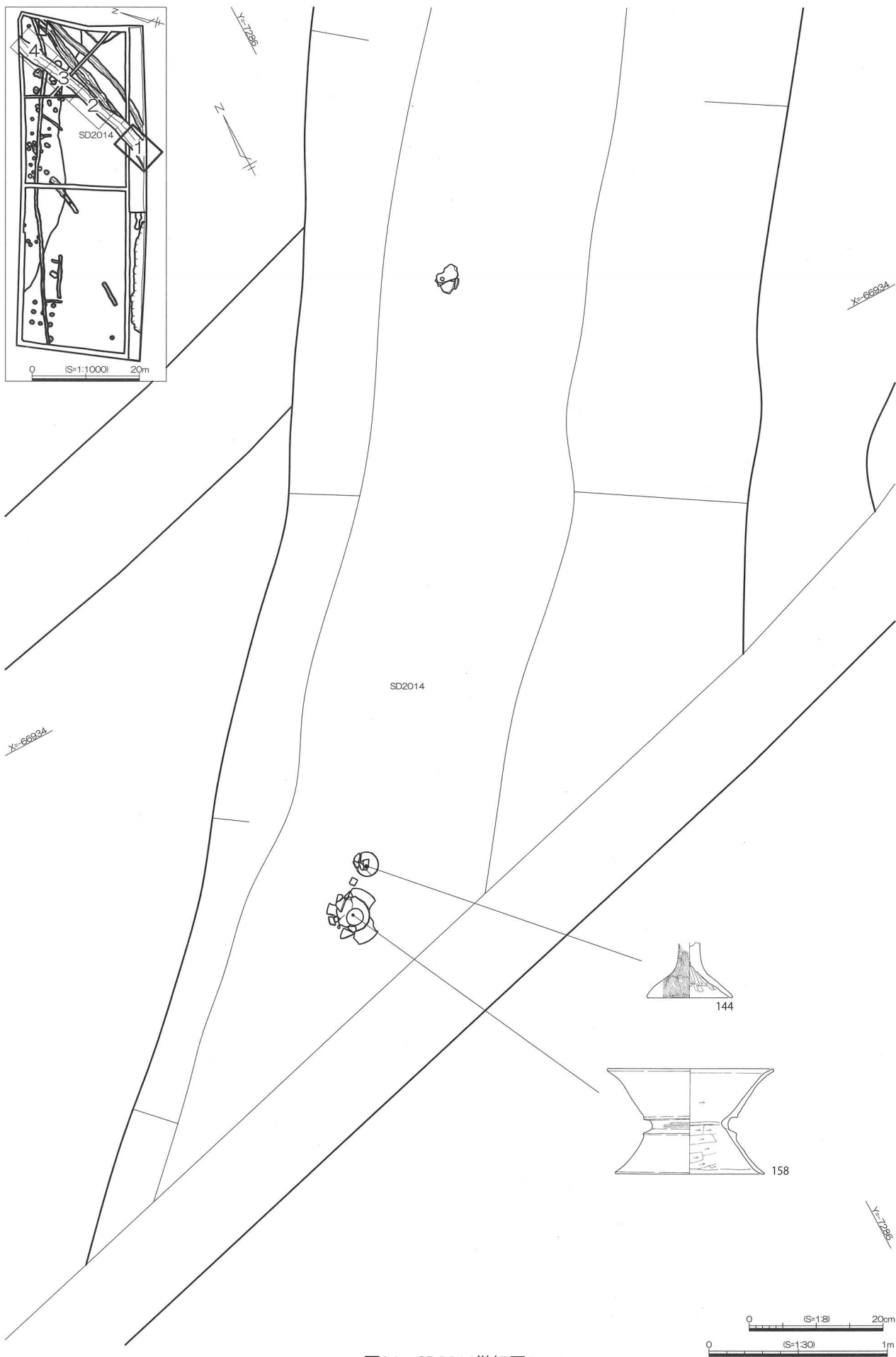


図34 SD2014微細図1

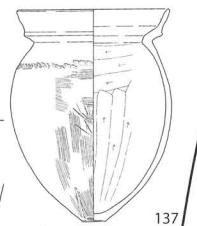
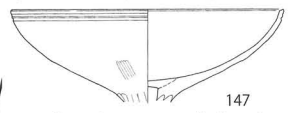
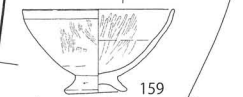
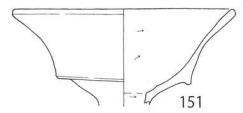
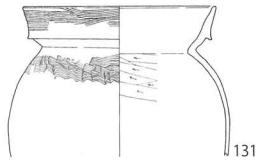
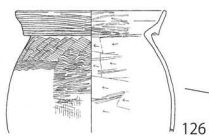
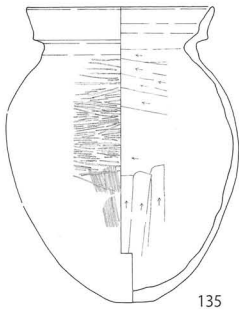
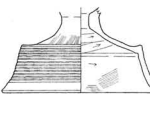
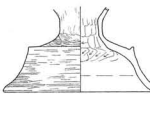
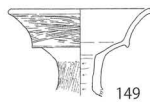
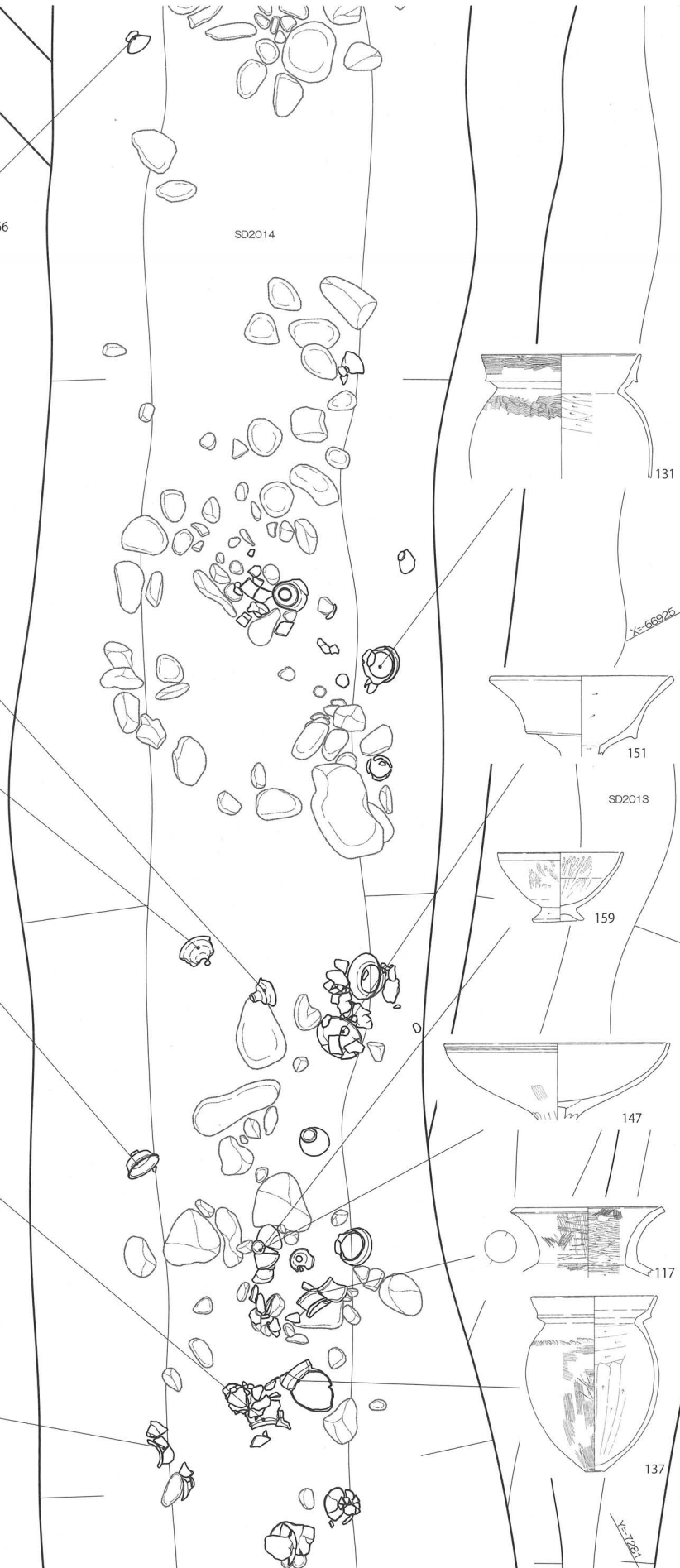
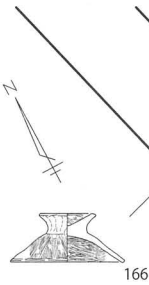
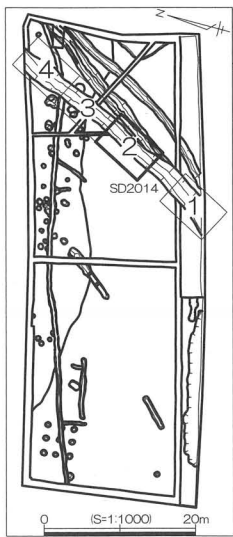


図35 SD2014微細図2

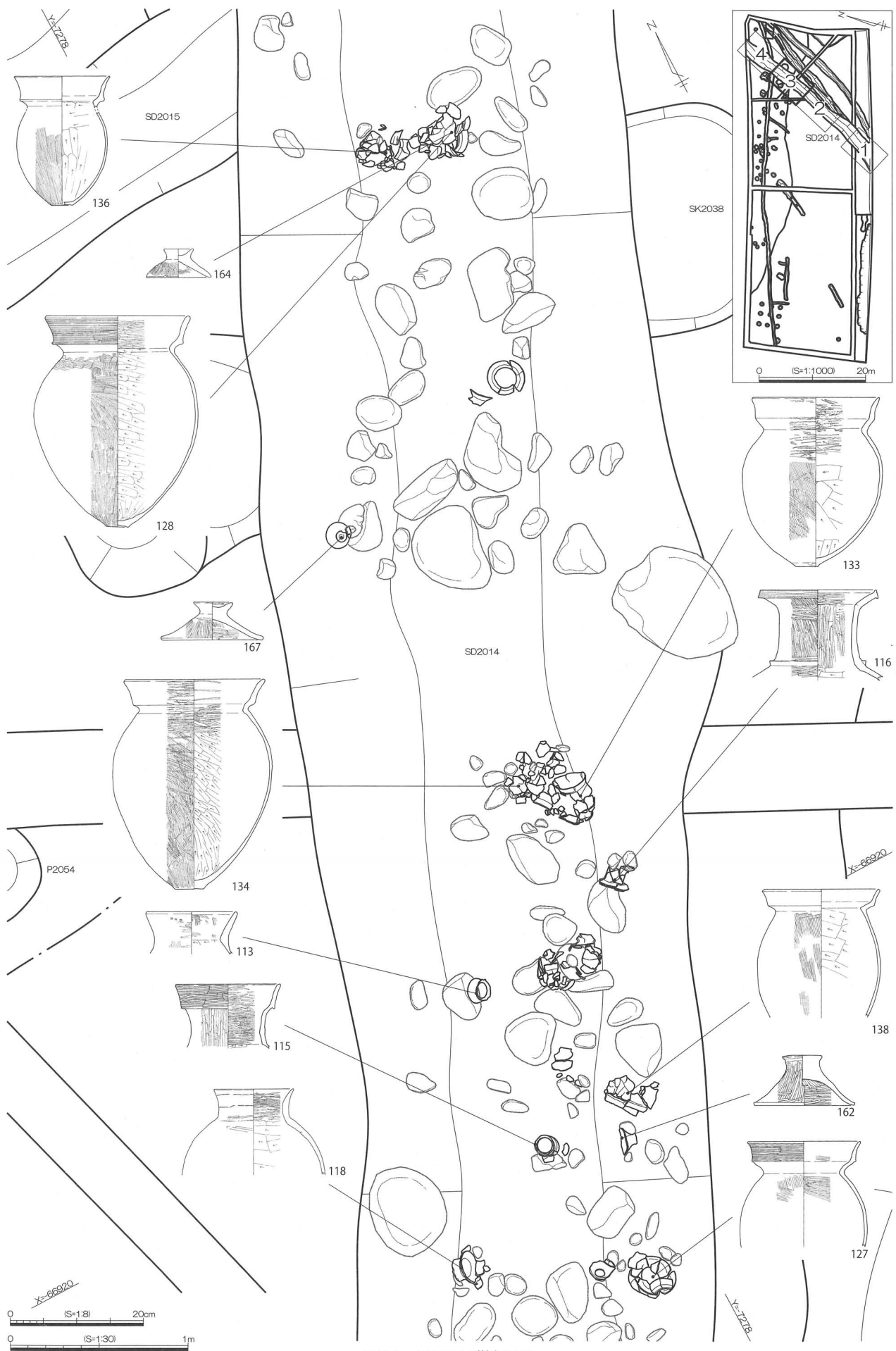


図36 SD2014微細図3

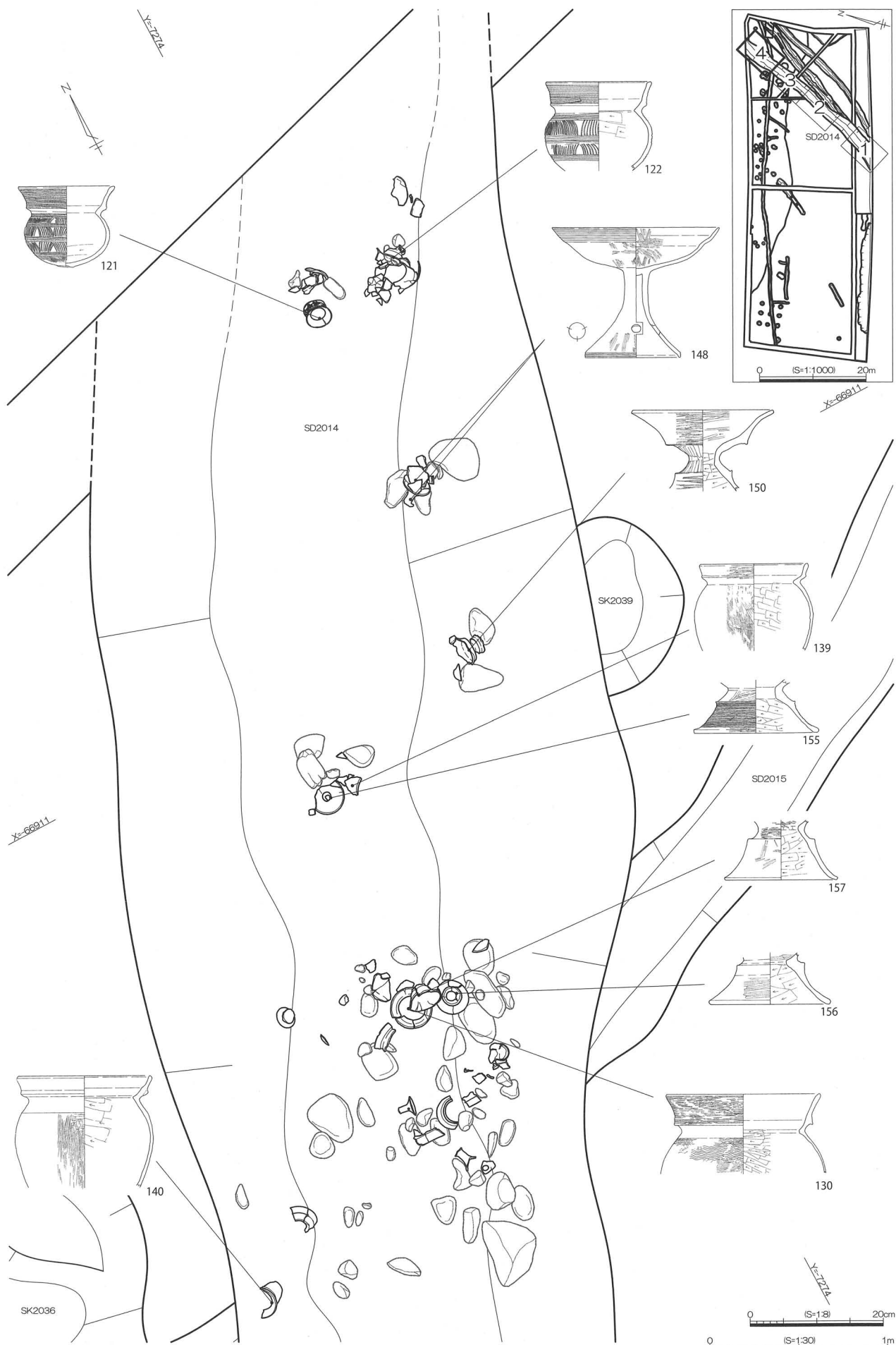


図37 SD2014微細図4

この中に多量の土器が含まれているのが特徴である。残存率の高い個体が多い状況は SD2012 と同様である。埋め立て行為による人為的な形成層と考えられる。礫は東側に礫中する傾向があり、その粗密に注意して層の細分をおこなった結果、細分層が東側へ大きく立ち上がる状況が認められた。このことから、埋め立て行為は主に東側からおこなわれたものと推定される。

中層 黒褐色～黒色細粒砂～シルトを主体とする。礫や炭化物、ブロック土が含まれるが一定した傾向はみられず、堆積構造も確認できない。自然形成とは考えにくく、上層と同じく埋め立て土の可能性が最も高いと考える。調査区南側のセクション c・d でのみ存在する。

下層 黒色～黒褐色極粗粒砂～中粒砂と細粒砂～シルトである。層の締りはなく軟質で、粒度の違う砂粒によって互層を形成する。明確な堆積構造から純粹な自然堆積層といえ、溝機能時の堆積層と捉えられる。調査区南側では粒度がやや低くなるが、これは、堆積物の起源が 2-9 層・2-10 層に由来するためと考えられる。基本的に礫の混入はなく、上層部に比較して遺物量は極めて少ないといえる。砂を主体とする堆積状況からは、ある程度の流れが常にあったものと推定される。

最下層 黒色粗粒砂～極細粒砂を主体とする。2-9 層・2-10 層起源のブロック土が含まれる。この上位に機能層が堆積することから溝開削時の掘り残し土、すなわち加工層と考えられる。遺物は確認されなかった。

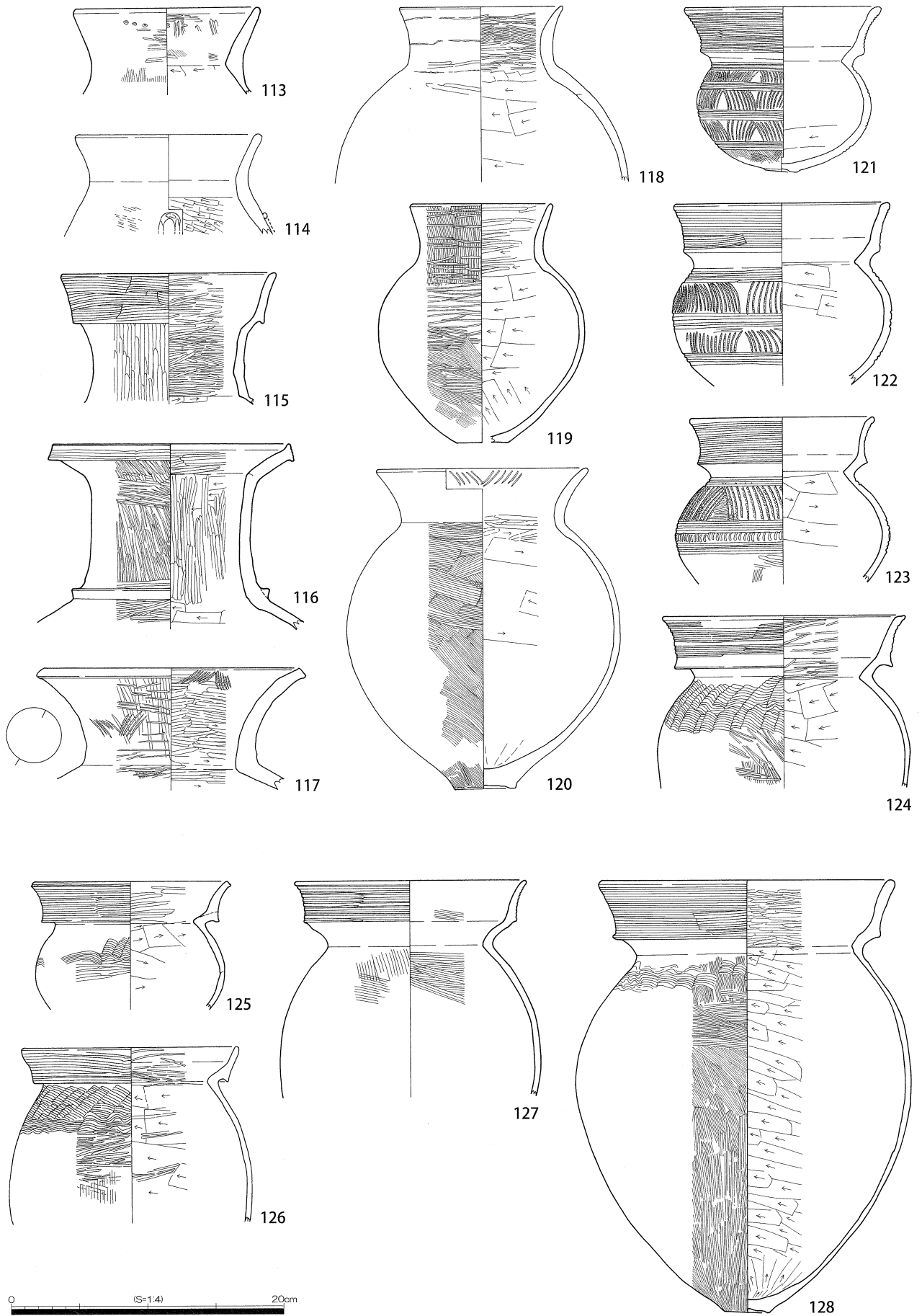
遺物検出状況 出土遺物量は整理用コンテナ 16 箱分と非常に多い。そして、溝内の遺物検出状況はやはり特殊といえる。土器は上層部及び中層部に集中しており、巨礫につぶされながらも形状を維持している個体が多数確認された。残存率の高い土器は全体に分布しているが、土器集中部も数箇所で見られる。土器の帰属時期は弥生時代後期後葉から古墳時代前期前葉まで、数量的には弥生時代終末期前半の要素を持つ個体が多い。壺 (113～124) には装飾を施す例が多くみられる。113 には口縁上部に微細な竹管文を配す。記号的要素か。114 肩部には逆 U 字形の浮文が付く。下部は欠損しており全容は不明である。117・120 は口縁部に貝殻腹縁刺突による羽状文をスポット的に配す。121～123 の小壺は過剰な施文が特徴的な個体である。口縁部を平行沈線文、体部を擬凹線文と貝殻腹縁刺突による羽状文で絢爛に飾る。123 は体部最大径位置に半截竹管文を巡らす。甕 (125～140) については、口縁立ち上がりの平行沈線文がきっちり描かれている一群 (125～128)、平行沈線文にナデ消しが加えられる一群 (129～131)、口縁立ち上がりが無文化した一群 (132～137) に大別される。肩部に貝殻腹縁による押し引き文や連続刺突文を施す個体がある。甕の帰属時期は弥生時代後期後葉か



写真 12 SD2014 セクション a (右岸立ち上がり)



写真 13 SD2014 出土 礫 (横は 1 m 箱尺)

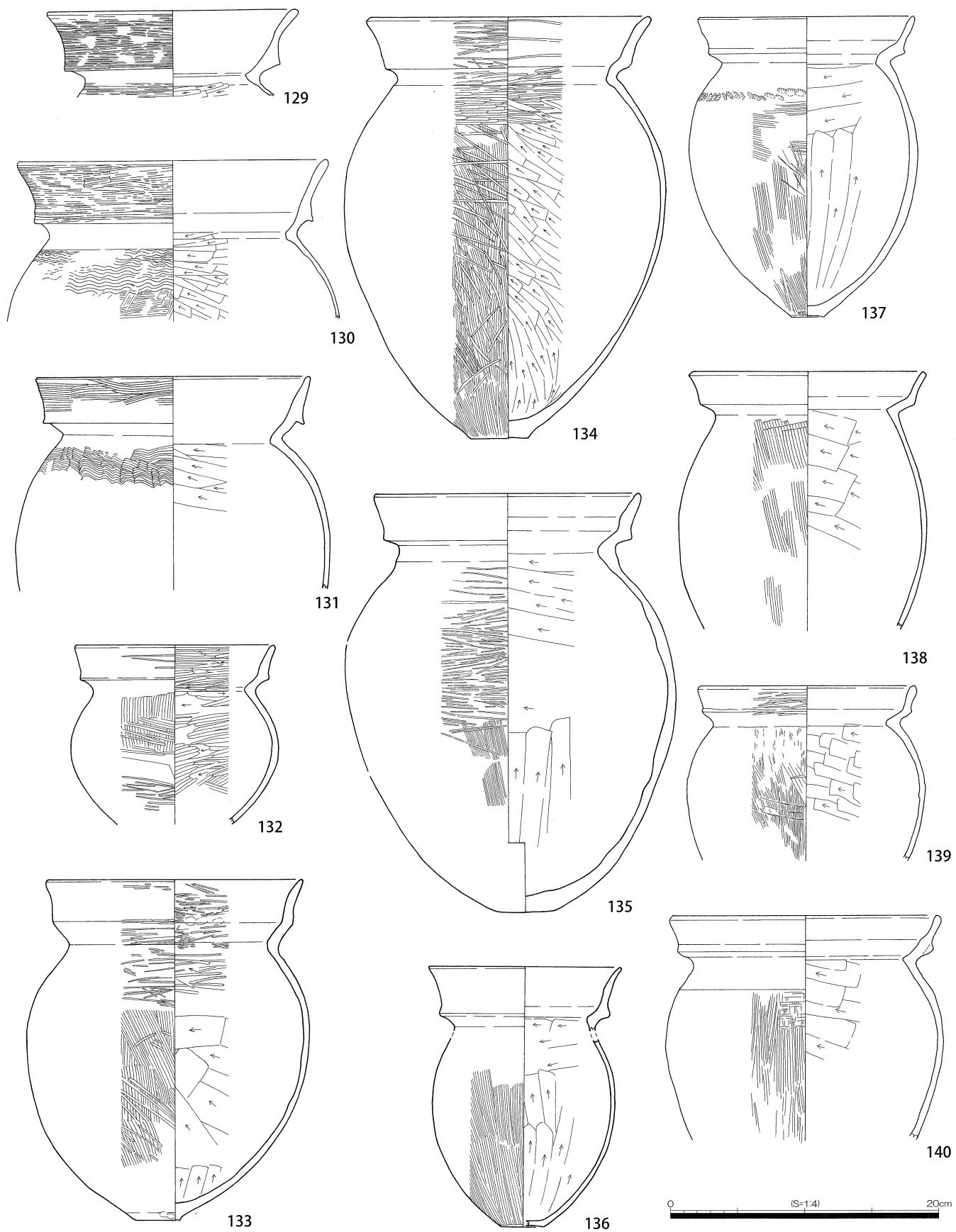


遺物図17-1 SD2014出土遺物

遺物観察表 17-1

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
113	2	SD2014 (2106)	17-1	57	弥生土器 壺	口径:(13.2) 器高:6.4~	外面:口縁部ナデ後ミガキ、上位に竹管文3個、 肩部ハケ後ナデ 内面:口縁部上半ナデ後ミガキ、口縁部下半ハ ケ後ナデ、肩部ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	
114	2	SD2014 (2106)	17-1	57	弥生土器 壺	口径:(13.0) 器高:7.4~	外面:口縁部ナデ、肩部ハケ後ナデ後浮文 内面:口縁部~頸部ナデ、肩部ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:にぶい黄橙	
115	2	SD2014 (2106)	17-1	57	弥生土器 壺	口径:15.4 器高:9.6~ 最大径:15.8	外面:口縁部平行線文、頸部ミガキ 内面:口縁部~頸部ミガキ、肩部上端ケズリ	普通 ~0.5mmの砂粒、 少ない	普通 外面:橙 内面:橙	
116	2	SD2014 (2106)	17-1	57	土師器 壺	口径:17.3 器高:13.6~	外面:口縁部擬凹線文2条、頸部ミガキ、頸 部下端貼付突帯、肩部ミガキ 内面:口縁部~頸部ミガキ、肩部ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい黄橙 内面:橙	
117	2	SD2014 (2106)	17-1	58	土師器 壺	口径:(18.6) 器高:8.9~	外面:口縁部ナデ、口縁部~頸部ミガキ、頸 部貝殻腹縁による羽状文、肩部ハケ後ミ ガキ 内面:口縁部ナデ後ミガキ、肩部ケズリ後ミガ キ、頸部貝殻腹縁による羽状文	普通 ~2mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい橙 内面:橙	
118	2	SD2014 (2106)	17-1	58	弥生土器 壺	口径:11.9 器高:12.9~	外面:頸部~肩部(ミガキ) 内面:口縁部~頸部ハケ後ミガキ、肩部上端ナ デ、体部ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	
119	2	SD2014 (2106)	17-1	58	弥生土器 壺	口径:10.0 器高:(17.5) 最大径:14.9 底径:(3.7)	外面:口縁部~体部上半ハケ後ミガキ、体部下 半ハケ、底部ナデ 内面:口縁部ミガキ、頸部ケズリ後ミガキ、体 部~底部ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:橙	
120	2	SD2014 (2106)	17-1	58	弥生土器 壺	口径:15.2 器高:23.5 最大径:(20.0) 底径:4.5	外面:口縁部ナデ、体部ハケ、底部ナデ 内面:口縁部ケズリ後ナデ後貝殻腹縁による羽 状文、頸部ミガキ、体部ケズリ後ナデ、底 部ハケ後ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:にぶい橙	外面煤付着 内外面付着物多い
121	2	SD2014 (2106)	17-1	58	弥生土器 壺	口径:14.3 器高:12.1 底径:2.3	外面:口縁部平行沈線文、口縁部~頸部上半 ナデ、頸部下半~体部擬凹線文3条1帯 を3帯、貝殻腹縁による羽状文3列、底 部ナデ・ハケ 内面:体部ケズリ、底部ナデ	普通 ~1mm砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	外面煤付着
122	2	SD2014 (2106)	17-1	58	弥生土器 壺	口径:15.5 器高:13.3 最大径:16.0	外面:口縁部ナデ後平行沈線文、頸部ナデ、体 部ハケ・ミガキ後擬凹線文3条1帯を3 帯、貝殻腹縁による羽状文2列 内面:口縁部ナデ、口縁部~体部ケズリ	普通 ~0.5mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	外面煤付着
123	2	SD2014 (2106)	17-1	59	弥生土器 壺	口径:(13.2) 器高:12.2~ 最大径:(15.6)	外面:口縁部平行沈線文、肩部擬凹線文2条・ 貝殻腹縁による羽状文1列、体部中位擬 凹線文3条1帯を2帯・半截竹管文1列、 体部下半ミガキ 内面:口縁部ナデ、体部ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:にぶい黄橙	外面煤付着
124	2	SD2014 (2106)	17-1	59	弥生土器 (壺)	口径:(17.6) 器高:12.6~ 最大径:(18.6)	外面:口縁部平行沈線文+ナデ消し、頸部ナデ、 肩部貝殻腹縁による押しきり波状文、体部 ハケ後ミガキ 内面:口縁部ミガキ、頸部~体部ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい黄橙 内面:褐灰	外面煤付着
125	2	SD2014 (2106)	17-1	59	弥生土器 (甕)	口径:14.0 器高:9.4~ 最大径:(13.8)	外面:口縁部平行沈線文、頸部ナデ、肩部貝殻腹 縁による押しきり波状文、体部ミガキ 内面:口縁部ナデ後ミガキ、頸部~体部ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい橙	外面煤付着 (C1類)
126	2	SD2014 (2106)	17-1	59	弥生土器 甕	口径:(15.6) 器高:12.9~ 最大径:(17.6)	外面:口縁部平行沈線文、頸部ナデ、肩部貝殻 腹縁による押しきり沈線文・波状文(貝殻)、 体部ハケ後ミガキ 内面:口縁部ナデ後ミガキ、頸部~体部ケズリ 後ナデ一部ミガキ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい褐 内面:褐	C1類
127	2	SD2014 (2106)	17-1	59	弥生土器 甕	口径:(16.8) 器高:15.8~ 最大径:(19.0)	外面:口縁部平行沈線文、頸部ナデ、体部ハケ 内面:口縁部~頸部ナデ、体部ハケ	普通 ~0.5mmの砂粒、 普通	やや不良 外面:にぶい黄橙 内面:灰黄褐	外面煤付着 C1類
128	2	SD2014 (2106)	17-1	59	弥生土器 甕	口径:21.4 器高:31.7 最大径:24.5 底径:3.2	外面:口縁部平行沈線文、頸部ナデ、肩部波状 文、体部ハケ 内面:口縁部ミガキ、頸部~体部ケズリ 特記:底部は小さく凹レンズ状	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:黄橙 内面:黄橙	外面煤付着 C1類

ら弥生時代終末期後半までである。器台(149~158)は全て鼓形器台である。149~157は細い筒部を持つ一群で、弥生時代後期後葉から弥生時代終末期前半の様相を示す。152の器台は受部に上半部下端に3条1帯の平行線文を2帯巡らし、その間に同心円スタンプ文を配す。スタンプには重なりや押しムラがみられる。158は詰まった筒部を持つ径の大きな器台である。弥生時代終末期後半に属すると思われる。168は甕形土器である。把手は土器だまり2002から出土した。狭口部下に巡る突帯には指で押さえつけたような凹みを2か所確認できる。この凹みは把手位置と一致していることから明らかに意図的なものといえ、真上から見ると把手内側の孔を通すように意識していることがよくわかる。この中に何かが通されていた可能性を示すのではないだろうか。鳥取県を分布の中心とする甕形土器は、住居からの出土例が圧倒的に多く何らかの実用具であると考えられているが、その用途は未だ判明していない。外来系土器も遺物量の多さに比例して多く出土した。148は椀形の坏部を



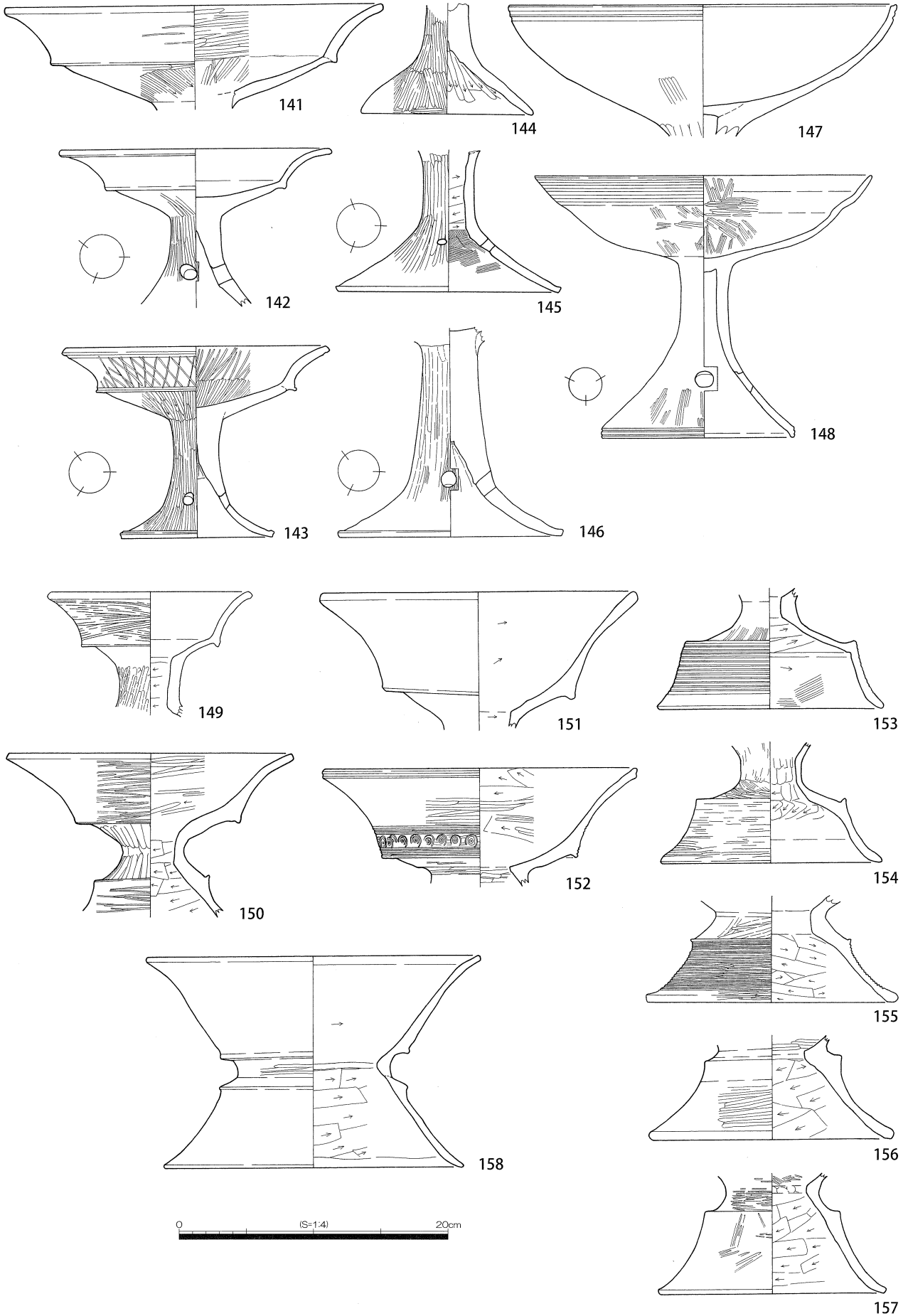
遺物图17-2 SD2014出土遺物

遺物観察表 17-2

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
129	2	SD2014 (2106)	17-2	59	弥生土器 甕	口径:18.0 器高:6.5～	外面:口縁部平行沈線文+ナデ消し、頸部ナデ、 肩部平行線文 内面:口縁部ナデ、頸部ケズリ後ナデ、肩部ケズ リ	普通 ～5mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:黄灰	C2類
130	2	SD2014 (2106)	17-2	59	弥生土器 甕	口径:22.8 器高:11.9～ 最大径:(24.6)	外面:口縁部平行沈線文+ナデ消し、頸部ナデ、 肩部ハケ後波状文 内面:口縁部ナデ、頸部～肩部ケズリ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:黄橙 内面:黄橙	C2類
131	2	SD2014 (2106)	17-2	60	弥生土器 甕	口径:20.3 器高:12.3～	外面:口縁部平行沈線文+ナデ消し、頸部ナデ、 肩部貝殻腹縁による押し沈線文・波状文 (貝殻)、体部ナデ 内面:口縁部ナデ、頸部～体部ケズリ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄褐 内面:にぶい黄褐	外面煤付着 C2類
132	2	SD2014 (2106)	17-2	60	弥生土器 甕	口径:14.7 器高:13.4～ 最大径:(15.3)	外面:口縁部ナデ後ミガキ、頸部ナデ、体部ハケ 後ミガキ一部ナデ 内面:ケズリ後ミガキ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:橙 内面:にぶい黄橙	外面煤付着 D1類
133	2	SD2014 (2106)	17-2	60	弥生土器 甕	口径:18.6 器高:25.4 最大径:21.0 底径:3.3	外面:口縁部～肩部ミガキ、体部ハケ後一部ミガ キ、底部指オサエ 内面:口縁部～頸部ミガキ、肩部ケズリ後ミガキ、 体部～底部ケズリ	普通 ～3mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:明黄褐 内面:明黄褐	外面煤付着 D1類
134	2	SD2014 (2106)	17-2	60	弥生土器 甕	口径:20.6 器高:31.5 最大径:23.3 底径:4.7	外面:口縁部～肩上半ミガキ、体部ハケ後一部 ミガキ、底部ナデ 内面:口縁部～肩上半ミガキ、体部ケズリ、底 部ケズリ後ナデ	普通 ～2mmの砂粒、 普通	普通 外面:明黄褐 内面:にぶい黄橙	D1類
135	2	SD2014 (2106)	17-2	60	弥生土器 甕	口径:(19.6) 器高:31.2 最大径:(24.2) 底径:4.5	外面:口縁部～頸部ナデ、体部上半ミガキ、体部 下半ハケ、底部ナデ 内面:口縁部ナデ、頸部～体部ケズリ、底部ナデ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	D1類
136	2	SD2014 (2106)	17-2	60	弥生土器 甕	口径:(14.2) 器高:(19.3) 最大径:(13.6) 底径:(3.2)	外面:口縁部平行沈線文+ナデ消し、頸部ナデ、 体部ハケ、底部ナデ 内面:口縁部～頸部ナデ、肩部ケズリ後ナデ、体 部ケズリ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:橙 内面:橙	外面煤付着 D2類～E1類
137	2	SD2014 (2106)	17-2	60	弥生土器 甕	口径:15.8 器高:22.35 最大径:16.9 底径:2.4	外面:口縁部ナデ、肩部ナデ・連続刺突文、体部 ハケ、底部ナデ 内面:口縁部～頸部ナデ、体部～底部ケズリ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	良好 外面:にぶい黄褐 内面:にぶい黄橙	D2類～E1類
138	2	SD2014 (2106)	17-2	61	弥生土器 甕	口径:17.0 器高:14.2～ 最大径:18.3	外面:口縁部～頸部ナデ、体部ハケ 内面:口縁部ナデ、体部ケズリ後ナデ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい橙 内面:橙	外面煤付着 E2類か
139	2	SD2014 (2106)	17-2	61	弥生土器 甕	口径:(15.4) 器高:13.0～ 最大径:(17.2)	外面:口縁部～頸部ナデのちミガキ、肩部ハケ後 ナデ、体部ハケ 内面:口縁部～頸部ナデ、体部上半ケズリ、体部 下半ケズリ後ナデ	普通 ～1mmの砂粒、 多い	普通 外面:黄橙 内面:残黄橙	外面煤付着
140	2	SD2014 (2106)	17-2	61	弥生土器 甕	口径:(19.6) 器高:16.2～ 最大径:20.6	外面:口縁部～頸部ナデ、体部ハケ 内面:口縁部ナデ、頸部～体部上半ケズリ、体部 下半ケズリ後ナデ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:橙	外面煤付着

持つ高坏である。多少の欠損はあるがほぼ完形に復元された。北近畿系、丹後からの搬入品である。同じく北近畿系の高坏の可能性のあるものとして144が挙げられる。端部に向かってすぼまる脚裾を特徴とする。160はコップ形土器である。縦方向の把手が付いていた痕が残る。北近畿～北陸にかけて分布する器種、北近畿以東の土器の搬入もしくは模倣品と思われる。141～143は吉備系の高坏である。坏部の屈曲部のシャープな稜と外反する立ち上がりの特徴とする。143の口縁部には吉備系高坏に特徴的な斜格子文が施される。

遺構の性格と帰属時期 溝である。基盤層の砂礫層・粘土層に関わらず深く掘り込まれており、底を揃えて深く掘り込む目的は水を流すためと考えられる。SD2014では実際に溝が機能していた段階での堆積層が確認されたことからそれを証明できた。その水量は一定量あったと想定されることから、SD2014が水路としての機能を持っていたと考える。溝の廃絶はSD2012と同様に埋め立てられたものと考えられる。埋土上層部からは巨礫に混じって残存率の高い土器が集中出土している。祭祀用途とされる羽状文小壺(121・122)が形を保ちながら近接して出土したことから、溝埋め立て時には廃絶のための祭祀行為があったと考えられ、その時期は弥生時代終末期の一時点と考えられる。溝の開削時期と存続時期に関して、明確な機能層である下層と、開削時の加工層である最下層に時期決定しうる遺物がなかったことから直接の判定はできない。上層・中層で出土標高が低く時期判定が可

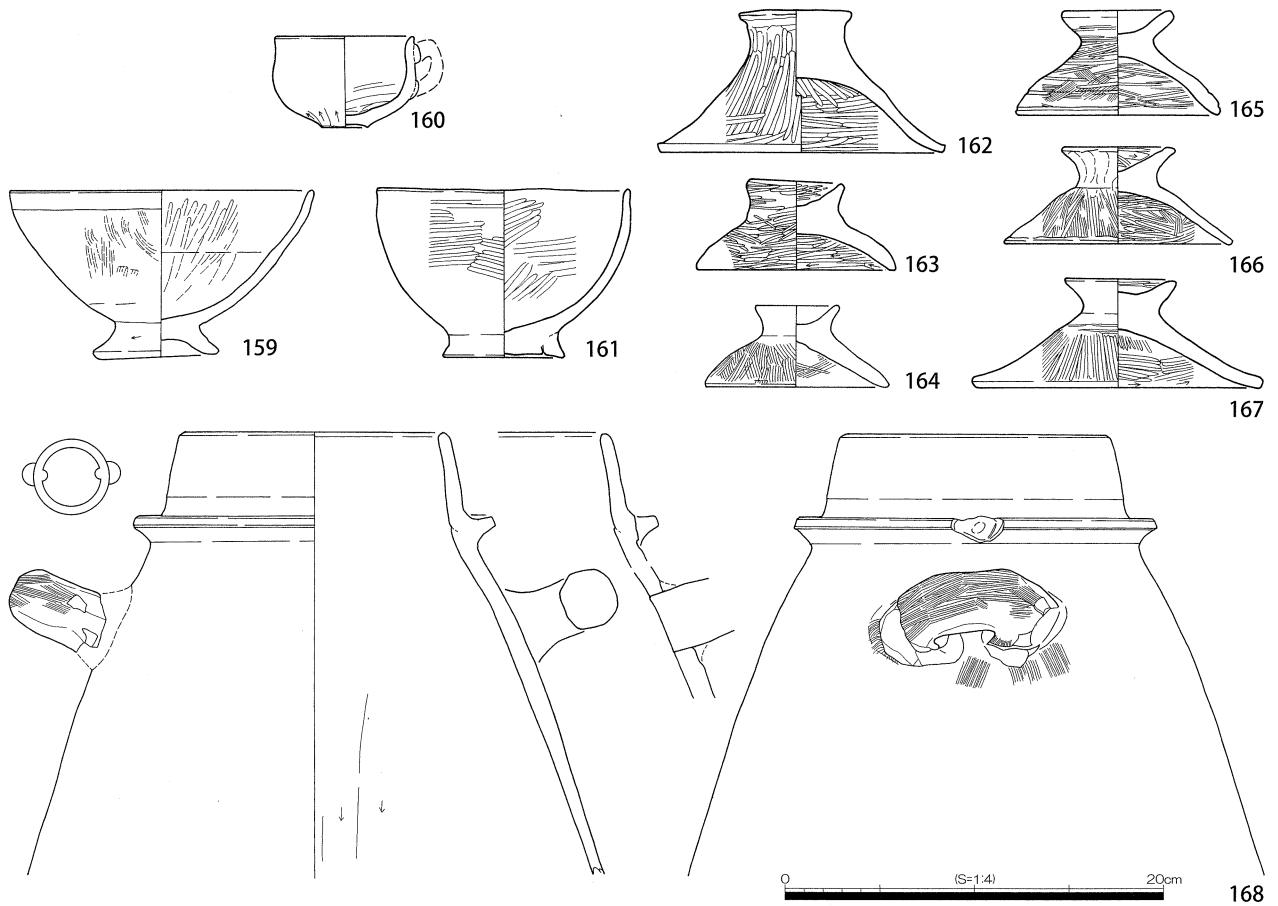


遺物圖17-3 SD2014出土遺物

遺物観察表 17-3

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種 別 器 種	法量 (cm/g)	特 徴	胎土 / 材質	焼 成 色 調	備 考
141	2	SD2014 (2106)	17-3	61	弥生土器 高環	口径:27.8 器高:7.7~	外面:口縁部ナデ後ミガキ、環底部ケズリ後ハケ後ミガキ 内面:口縁部~環底部ミガキ 特記:環部の屈曲部は張り出し強い稜をなす	普通 ~0.5mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:明黄褐	吉備系(備前か)
142	2	SD2014 (2106)	17-3	61	弥生土器 高環	口径:(19.8) 器高:11.7~	外面:口縁部ナデ、環底部~脚柱部ミガキ 内面:口縁部(ミガキ)、脚部(ナデ) 特記:円形透かし3方向、環部の屈曲部は張り出し強い稜をなす	普通 ~0.5mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:浅黄橙	吉備系(備前か)
143	2	SD2014 (2106)	17-3	61	弥生土器 高環	口径:(19.2) 器高:14.2 脚径:11.2	外面:口縁部斜格子文、その上に凹線文1条、下に沈線文1条、環底部~脚部ミガキ、脚端部ナデ 内面:口縁部~環底部ミガキ、脚部ナデ 特記:円形透かし3方向、環部の屈曲部は張り出し強い稜をなす	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	吉備系(備前か)
144	2	SD2014 (2106)	17-3	61	弥生土器 高環	器高:8.1~ 脚径:12.7	外面:脚部ミガキ、脚端部ハケ後ミガキ 内面:脚部上半ケズリ、脚部下半ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 少ない	やや良好 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	
145	2	SD2014 (2106)	17-3	61	弥生土器 高環	器高:10.6~ 脚径:(16.3)	外面:脚柱部ミガキ、脚部ハケ後ミガキ、脚端部ナデ 内面:脚柱部ケズリ後ナデ、脚部上半ハケ、脚部下半ナデ 特記:円形透かし3方向	普通 ~1mmの砂粒、 普通	良好 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	
146	2	SD2014 (2106)	17-3	61	弥生土器 高環	器高:15.5~ 脚径:(16.4)	外面:脚柱部~脚部上端ハケ後ミガキ、脚端部ナデ 内面:脚部ナデ 特記:円形透かし3方向	普通 ~0.5mmの砂粒、 少ない	普通 外面:明黄褐 内面:にぶい黄橙	
147	2	SD2014 (2106)	17-3	62	弥生土器 高環	口径:(28.6) 器高:9.8~	外面:口縁部擬凹線文2条、環底部~脚部上端ミガキ 内面:口縁部~環底部(ミガキ)	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:にぶい橙	
148	2	SD2014 (2106)	17-3	62	弥生土器 高環	口径:24.6 器高:19.5 脚径:12.6	外面:口縁部平行線文、環底部~脚部ミガキ、脚端部沈線文2条 内面:環部ミガキ、脚部ナデ 特記:円形透かし3方向	普通 ~4mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	北近畿系、丹後からの 搬入品か
149	2	SD2014 (2106)	17-3	62	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:14.5 器高:9.3~	外面:口縁部ナデ、受部上半平行線文、受部下 半ナデ、筒部ミガキ 内面:受部ナデ、筒部ケズリ後ナデ	やや密 ~0.5mmの砂粒、 少ない	普通 外面:明褐 内面:残黄橙	
150	2	SD2014 (2106)	17-3	62	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:(20.9) 器高:12.15~	外面:口縁部ナデ、受部~脚部ミガキ 内面:受部ミガキ、筒部~脚部ケズリ	普通 ~0.5mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	
151	2	SD2014 (2106)	17-3	62	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:23.0 器高:10.2~	外面:受部~筒部ナデ 内面:口縁部ナデ、受部ケズリ後ナデ、筒部ケ ズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	外面煤付着
152	2	SD2014 (2106)	17-3	62	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:23.0 器高:8.7~	外面:口縁部凹線文1条、受部上半ヘラミガキ、 受部上下端平行線文3条1帯を2帯同心 円文1列、受部下半ナデ、筒部上端ミガキ 内面:受部ケズリ後ナデ後ミガキ、筒部上端ミガ キ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:橙	スタンプ文土器
153	2	SD2014 (2106)	17-3	62	弥生土器 器台 (鼓形器台)	器高:9.0~ 脚径:16.6	外面:筒部下端ハケ、脚部平行線文18条、脚 端部ナデ 内面:筒部下端ケズリ、脚部ハケ、脚端部ナデ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:橙	
154	2	SD2014 (2106)	17-3	62	弥生土器 器台 (鼓形器台)	器高:9.0 脚径:16.2	外面:筒部ハケ、筒部下端ミガキ、脚部平行線 文、脚部上端~口縁部ナデ 内面:受部下端ナデ、筒部ケズリ後ナデ、脚部 上端ケズリ、脚部~口縁部ナデ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:明褐 内面:にぶい橙	
155	2	SD2014 (2106)	17-3	62	弥生土器 器台 (鼓形器台)	器高:7.9~ 脚径:18.4	外面:受部下端~筒部ミガキ、脚部平行線文、 脚端部ナデ後ミガキ 内面:受部ミガキ、筒部ナデ、脚部ケズリ、脚 端部ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	
156	2	SD2014 (2106)	17-3	63	弥生土器 器台 (鼓形器台)	器高:7.8~ 脚径:17.6	外面:筒部~脚部上端ナデ、脚部ナデ後ミガ キ、脚端部ナデ 内面:受部下端ミガキ、筒部ナデ、脚部ケズリ、 脚端部ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:橙	
157	2	SD2014 (2106)	17-3	63	弥生土器 器台 (鼓形器台)	器高:9.0~ 脚径:16.8	外面:筒部~脚部ミガキ、脚端部ナデ 内面:受部下端ミガキ、筒部指オサエ、脚部ケ ズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	
158	2	SD2014 (2106)	17-3	63	弥生土器 器台 (鼓形器台)	口径:(24.6) 器高:15.7 裾径:22.1	外面:受部ナデ、筒部ナデ後ミガキ、脚部ナデ 内面:口縁部ナデ、受部ケズリ後ナデ(一部ミ ガキ)、筒部ナデ、脚部ケズリ、脚端部 ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:灰黄褐 内面:浅黄橙	摩耗顕著

能な個体としては、甕(135・137)、器台(154・158)があり、その時期幅は弥生時代後期後葉から弥生時代終末期後半と考えられる。これは、出土遺物総体の時期幅と概ね一致する。溝底から廃絶時期と同時期の土器が出土する点は、溝廃絶時(埋め立て時)にほとんど堆積層がなかったことを示す現象といえ、下層埋土の遺物の少なさと合わせて考えると、浚渫等によって溝の機能が維持・管理されていた可能性を示すものとする。



遺物図17-4 SD2014出土遺物

遺物観察表 17-4

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 種類	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
159	2	SD2014 (2106)	17-4	63	弥生土器 低脚環	口径:15.8 器高:8.9 脚径:6.1	外面:口縁部ナデ、体部ハケ後ナデ、体部下端～ 脚台部ケズリ後ナデ 内面:口縁部ナデ、体部ミガキ、脚台部ナデ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:黄橙 内面:黄橙	
160	2	SD2014 (2106)	17-4	63	弥生土器 コップ形土器	口径:7.3 器高:4.8 底径:2.4	外面:口縁部ナデ、体部ケズリ後ナデ、底部ナデ 内面:口縁部～体部ナデ、底部オサエ 特記:底部凹状を呈する、外面に把手貼付け痕残 る	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	北近畿系・北陸系
161	2	SD2014 (2106)	17-4	63	弥生土器 鉢	口径:(13.2) 器高:8.9 底径:6.2	外面:口縁部～体部ナデ後ミガキ、台部ナデ 内面:口縁部～体部ナデ後ミガキ 特記:台部は底部周縁に粘土紐を張り足し形成	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:橙	
162	2	SD2014 (2106)	17-4	63	弥生土器 蓋	口径:14.8 器高:7.5 脚径:5.9	外面:口縁端部ナデ、環部～脚端部・底部ナデ後 ミガキ 内面:環部ミガキ	普通 ～0.5mmの砂粒、 少ない	やや良好 外面:にぶい黄橙 内面:橙	
163	2	SD2014 (2106)	17-4	64	弥生土器 蓋	つまみ径:4.8 器高:4.8 口径:10.3	外面:つまみ部～天井部ミガキ 内面:天井部ケズリ後ミガキ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい黄橙 内面:褐灰	
164	2	SD2014 (2106)	17-4	64	弥生土器 蓋	つまみ径:4.0 器高:4.3 口径:9.5	外面:つまみ部ナデ、天井部ハケ、口縁端部ナデ 内面:天井部ハケ後ナデ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:にぶい黄橙	
165	2	SD2014 (2106)	17-4	64	弥生土器 蓋	つまみ径:(5.1) 器高:5.45 口径:10.5	外面:つまみ部ナデ、天井部～口縁部ハケ後ミガ キ、口縁部調整前に沈線文2条 内面:天井部ケズリ後ミガキ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄褐	外面煤付着
166	2	SD2014 (2106)	17-4	64	弥生土器 蓋	つまみ径:5.5 器高:5.1 口径:12.1	外面:つまみ部ケズリ後ミガキ・指オサエ後ナ デ、天井部ハケ、口縁端部ナデ 内面:天井部ミガキ	普通 ～0.5mmの砂粒、 普通	普通 外面:黄橙 内面:にぶい橙	
167	2	SD2014 (2106)	17-4	64	弥生土器 蓋	つまみ径:(5.7) 器高:5.8 口径:15.0	外面:つまみ部ナデ後一部ミガキ、天井部～口縁 部ナデ後ミガキ 内面:天井部上半ナデ後ミガキ、天井部下半ケズ リ後ミガキ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:にぶい黄橙	
168	2	SD2014 (2106)	17-4	64	弥生土器 甕形土器	狭口径:(13.5) 器高:23.4～	外面:狭口部(ナデ)、突帯ナデ、体部(ハケ)、把 手ハケ内面:狭口部ナデ、体部ケズリ・ハ ケ 特記:突帯に指(親指)で押さえた凹み2箇所あ り、凹みの下位の体部に把手あり	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:にぶい黄橙	部分的に煤付着

第3面(図38、写真図版25)

第3面は2-8層を除去した後の遺構面である。2-8層は基本的に遺物を含まない土壌層で、最終基盤層から連続する一連の堆積層とされる。Tr.7断面(図29)で確認されたP2062は2-7層を切るにもかかわらず、第2面上での検出が困難であった。検出漏れ遺構の確認と、旧土壌層に遺物が含まれるかどうか、その下面遺構の有無の確認のために、調査区全域をカバーする下層確認用トレンチを設定し(Tr.10～Tr.15)、最終基盤層までの掘り下げによる遺物確認後、面精査を行い遺構検出を行った。各トレンチの成果は以下の通りである。

Tr.10 調査区西部に位置する。第2面からの掘削深度は0.55m～0.9m、東から西にかけて深くなる。湧水が激しく西端ではぬかるみとなってしまったため、面よりも掘り過ぎている。トレンチ掘削中に出土した4点の土器片は、全て時期不明の体部破片である。上層部からの出土で2-8層帰属とは断定できない。面精査において遺構は検出されなかった。

Tr.11 調査区西部に位置する。第2面からの掘削深度は0.6m～0.8m、東から西にかけて深くなる。西半部では湧水が激しい。トレンチ掘削中に土器片2点が出土した。そのうち一点は、器台の裾部である。弥生時代後期から終末期に属すると思われる。面精査において遺構は検出されなかった。

Tr.12 調査区中央部に位置する。第2面からの掘削深度は0.35m～0.4m、東から西にかけて深くなる。西端ではわずかに湧水がある。トレンチ掘削中の出土遺物は、高坏もしくは器台と思しき破片が1点、その他不明破片6点である。検出遺構は土坑1基のみ。SK2042は不定形の土坑である。

Tr.13 調査区中央部に位置する。第2面からの掘削深度は0.35m～0.5m、東から西にかけて深くなる。トレンチ掘削中に遺物は出土していない。検出遺構は土坑1基のみ。SK2041は溝状土坑である。当初のトレンチ範囲を超えて広がるため、遺構延長に合わせてトレンチを拡張した。当土坑は第2面調査時に存在の有無を検討しており、一度は遺構ではないと判断したが、掘り下げることによって再検出された。第2面に帰属させたため詳細は第2面項で解説している。

Tr.14 調査区中央部に位置する。第2面からの掘削深度は0.4m。北端部の基盤層は礫質、南にかけて深くなる。トレンチ掘削時に遺物は出土してない。検出遺構は3基、北端にあるSK2041に関してはTr.13で述べた通りである。南端部のP2058・P2059は共にピットである。P2058は浅く基盤層との境界が不明瞭である。土壌の染み、あるいは植生痕の可能性が高い。これに対してP2059は底が明瞭な掘り込みで、時期不明ながら体部破片が1点出土している。遺構であると思われる。

Tr.15 調査区東部に位置する。Tr.5及びTr.7で確認されたピットを包括し、2-8層が残存する範囲としてSD2012以東全域を調査対象とした。第2面からの掘削深度は0.1～0.2m、北東から南西にかけて深くなる。トレンチ掘削中の遺物は破片遺物のみで、内訳は、古墳時代前期の甕口縁部1点・器台裾部1点・穿孔のある小壺底部1点・器種不明破片3点である。検出遺構は15基、遺物が出土したのはP2065のみである。ピット配置に並びは確認できなかった。

図38には補足情報として、2-8層除去面の等高線を記載している。第3面検出レベルとTr.1～Tr.5断面を元として、未掘削部分を推定復元したものである。等高線からは、2区北東部と南西部が高まりとなっており、その間が深く落ち込んでいることが読み取れる。落ち込みはTr.10あたりが最深部となり、その西側はさらに低くなると予想される。

第3面まとめ 第3面の調査成果は以下の通りである。

出土遺物の帰属について トレンチ掘削中にわずかながらも土器が出土している。基本的に細片遺物であるため大半は時期不明であるが、時期幅を示すとすると弥生時代後期から古墳時代前期となる。弥生時代中期以前の土器はみられない。遺物密度は2区中央部から東部にかけて高くなるようで、遺物量は遺構数に比例しているといえるが、2-8層掘削中の遺物量は2-7層に比較すると極めて少ない。以上のことから判断すると、これらの細片遺物は2-7層掘り残しもしくは検出漏れ遺構内に帰属する可能性が高く、2-8層に帰属する可能性は極めて低いと考える。

検出遺構の分布と帰属について 第3面の遺構密度は東が最も高い。検出標高値は45.323m～45.882m、平均値は45.692mである。底部標高値は45.162m～45.733m、平均は45.474mである。復元された等高線からは45.70mラインを遺構粗密の境界とみることができ、それよりも高い場所に遺構が集中する。この範囲は第2面でもピット類が集中しており、やはり高地部に遺構が集中する傾向がある。遺構底標高の最低値は45.162mである。これは、それ以下まで掘り下げてしまうと仮に遺構があったとしても検出できない可能性が高いことを示している。第3面遺構は基本的に第2面の検出漏れと考えられ、2-8層に帰属する遺構はないと思われる。

調査地内の旧地形について トレンチ掘削深度は東から西にかけて深くなる。これは2-8層が厚くなることを意味する。復元された2-8層除去面の等高線からは調査区北部から北東部一帯と南西端が高地部となっていることが判明した。トレンチ断面からは、高地部の2-10層がかなりの礫質になっていることが判明しており、特に北部では第2面遺構集中部と一致している。2-10層の堆積が後世まで影響を残す高まりの起源になっていたものと思われる。このことから考えると、同様の高まりである、調査区南西側にも遺構が広がる可能性があるといえる。一方、高まりの間にある落ち込みの性格は不明である。Tr.10等での湧水の激しさから、旧河川を示すとも考えられるが、その下層部を確認していないため形成要因はわからない。



写真14 2区 Tr.10 掘削



写真15 2区 調査終了

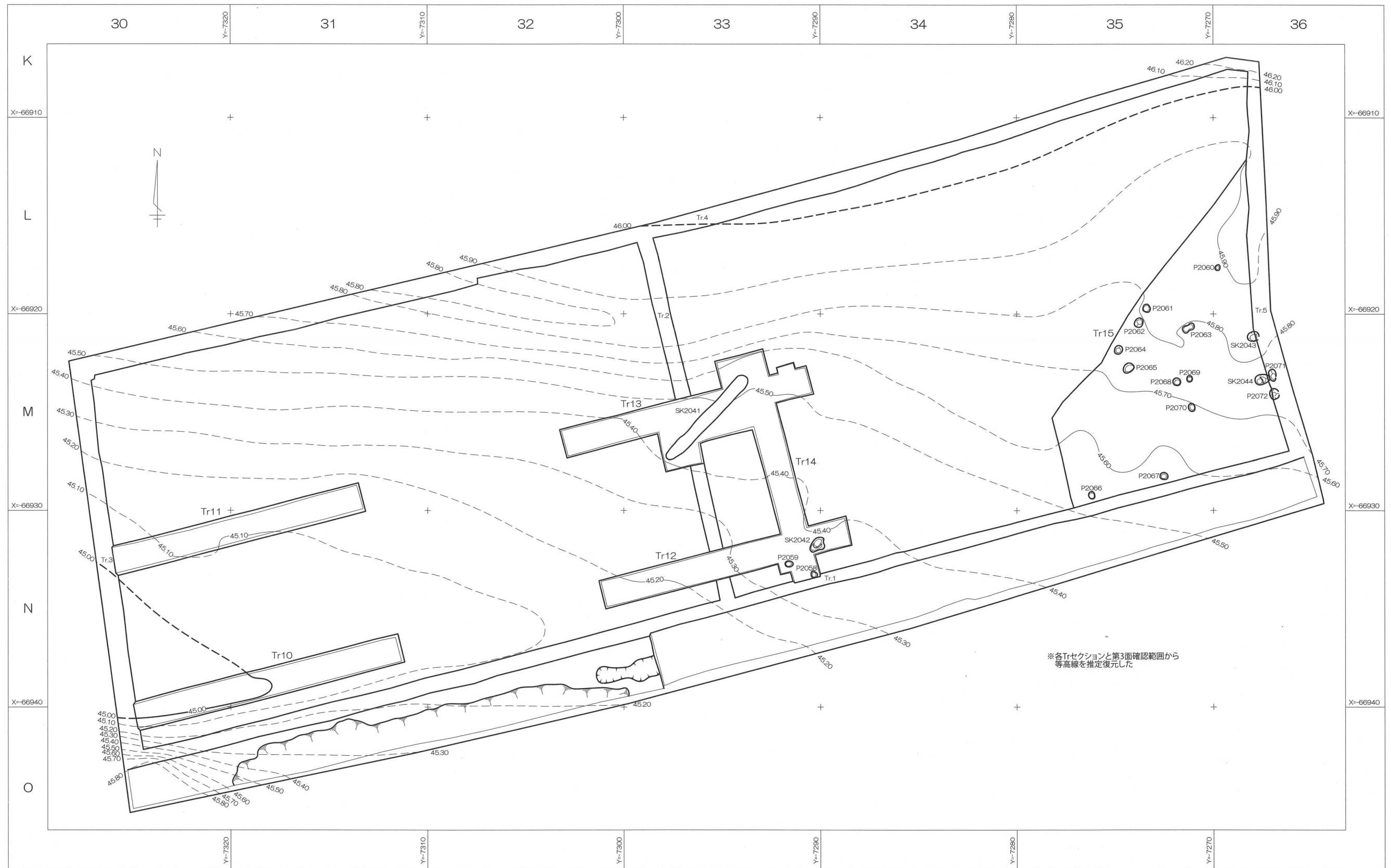


図38 2区 第3面平面図

0 (S:1:250) 10m

表 7 2区 遺構一覧表 1

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
P2001	2006	ビット	1		M30	0.213	0.205	0.211	円形	逆台形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	
P2002	2008	ビット	1		M30	0.368	0.349	0.101	円形	皿形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	
P2003	2016	ビット	1		N30	0.284	(0.244)	0.163	円形	U字形	黄灰色細粒砂	
P2004	2021	ビット	1		N30	0.264	0.243	0.093	円形	有段U字形	黄灰色極細粒砂～シルト	
P2005	2022	ビット	1		N30	0.384	0.376	0.101	円形	皿形	オリーブ黒色極細粒砂	
P2006	2023	ビット	1		N30	0.449	0.423	0.062	円形	皿形	オリーブ黒色極細粒砂	
P2007	2024	ビット	1		N30	0.417	0.411	0.124	円形	皿形	黒褐色極細粒砂	
P2008	2043	ビット	1		M31	0.265	0.203	0.059	円形	皿形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	
P2009	2048	ビット	1		M31	0.395	0.270	0.178	円形	変形有段U字形	黒褐色極細粒砂	
P2010	2054	ビット	1		M31	0.362	0.265	0.085	円形	皿形	黒褐色極細粒砂	
P2011	2050	ビット	1		N31	0.294	0.260	0.049	円形	皿形	褐色極細粒砂	
P2012	2032	ビット	1		N31	0.280	(2.061)	0.213	円形	有段U字形	褐色極細粒砂	
P2013	2036	ビット	1		N32	0.403	0.360	0.137	円形	逆台形	黄灰色極細粒砂	
P2014	2035	ビット	1		N32	0.484	0.402	0.172	円形	皿形	黒褐色極細粒砂	
P2015	2039	ビット	1		N32	0.429	0.289	0.081	円形	不整U字形	褐色極細粒砂～極細粒砂	
P2016	2073	柱穴	2	SB2001	M30	0.813	0.679	0.165	円形	皿形	暗灰黄色細粒砂	
P2017	2074	柱穴	2	SB2001	M30	0.795	0.676	0.115	円形	皿形	暗灰黄色細粒砂	
P2018	2075	柱穴	2	SB2001	M31	0.718	0.667	0.110	円形	皿形	暗灰黄色細粒砂	
P2019	2076	柱穴	2	SB2001	M30	0.674	0.572	0.120	円形	皿形	暗灰黄色細粒砂	
P2020	2077	柱穴	2	SB2001	M30	0.634	(0.500)	0.220	円形	皿形	暗灰黄色細粒砂	SD2015 に切られる
P2021	2078	柱穴	2	SB2001	M31	0.704	(0.500)	0.185	円形	皿形	暗灰黄色細粒砂	SD2015 に切られる
P2022	2079	柱穴	2	SB2001	M30	0.752	0.720	0.250	円形	皿形	暗灰黄色細粒砂	
P2023	2080	柱穴	2	SB2001	M30	0.776	0.606	0.225	円形	皿形	暗灰黄色細粒砂	
P2024	2081	柱穴	2	SB2001	M31	0.742	0.672	0.215	円形	皿形	暗灰黄色細粒砂	
P2025	2084	ビット	2		N30	0.682	0.632	0.176	円形	浅いU字形	暗灰黄色細粒砂	
P2026	2059	ビット	2		L32	0.488	(0.348)	0.198	円形	皿形	黒褐色中粒砂～細粒砂	
P2027	2058	ビット	2		L32	0.625	0.607	0.190	円形	皿形	黒褐色中粒砂～細粒砂	
P2028	2057	ビット	2		M32	0.605	0.573	0.238	円形	皿形	黒褐色中粒砂～細粒砂	
P2029	2087	ビット	2		M32	0.490	0.439	0.194	円形	U字形	黒褐色中粒砂～細粒砂	
P2030	2129	ビット	2		M32	0.822	0.799	0.591	円形	変形U字形	黒色細粒砂～極細粒砂	SD2015 に切られる
P2031	2128	ビット	2		M32	0.676	0.666	0.635	円形	変形U字形	黒色細粒砂～極細粒砂	
P2032	2089	ビット	2		L33	0.719	0.617	0.131	円形	皿形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	
P2033	2088	ビット	2		L33	0.629	0.476	0.321	円形	変形有段U字形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	SD2015 に切られる
P2034	2120	ビット	2		M33	0.826	0.428	0.402	円形	不整皿形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	SK2031 に切られる
P2035	2090	ビット	2		L33	0.589	0.478	0.222	円形	U字形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	
P2036	2093	ビット	2		L33	0.626	(0.616)	0.140	円形	皿形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	
P2037	2121	ビット	2		M33	0.724	0.650	0.417	楕円形	浅いU字形	黒色細粒砂～極細粒砂	SK2031 の北東延長確認トレンチ確認。トレンチによって西半は破壊
P2038	2091	ビット	2		L33	0.546	0.436	0.099	円形	皿形	灰黄褐色中粒砂～細粒砂	
P2039	2092	ビット	2		L33	0.558	0.489	0.134	円形	皿形	黒色中粒砂～細粒砂	
P2040	2094	ビット	2		L33	0.574	0.546	0.278	円形	U字形	黒色細粒砂	
P2041	2095	ビット	2		L33	0.827	0.732	0.358	隅丸方形	U字形	黒色細粒砂	
P2042	2096	ビット	2		L33	0.666	0.574	0.213	円形	不整皿形	黒色細粒砂	
P2043	2061b	ビット	2		L33	0.568	(0.441)	0.410	円形	U字形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	SD2015 に切られる。SK2032 とは別遺構
P2044	2098	ビット	2		L33	1.077	0.673	0.431	楕円形	V字形	黒色中粒砂～細粒砂	
P2045	2062	ビット	2		L34	0.478	0.462	0.042	円形	皿形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	
P2046	2122	ビット	2		L34	1.020	0.967	0.479	隅丸方形	U字形	黒色細粒砂～極細粒砂	SD2015 に切れ、SD2019 を切る
P2047	2100	ビット	2		L34	0.451	0.413	0.239	円形	浅いU字形	黒色中粒砂～細粒砂	
P2048	2063	ビット	2		L34	0.565	0.536	0.088	円形	皿形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	
P2049	2097	ビット	2		L34	(0.641)	(0.640)	0.164	円形	不整皿形	黒褐色細粒砂～極細粒砂	SD2015 に切られる
P2050	2127	ビット	2		L34	0.514	0.422	0.208	円形	皿形	黒褐色細粒砂	
P2051	2130	主柱穴	2	SI2001	L34	1.029	0.767	0.545	楕円形	U字形	黒褐色細粒砂	竪穴住居跡 SI2001 主柱穴
P2052	2103	主柱穴	2	SI2001	L34	0.693	0.507	0.639	円形	U字形	柱痕：黒褐色極細粒砂 掘方：黒褐色細粒砂	SD2015 に切られる。竪穴住居跡 SI2001 主柱穴
P2053	2123	主柱穴	2	SI2001	L34	0.801	0.655	0.582	円形	U字形	柱痕：黒色細粒砂 掘方：黒褐色中粒砂	竪穴住居跡 SI2001 主柱穴
P2054	2126	主柱穴	2	SI2001	L34	0.673	0.633	0.599	円形	U字形	上層：黒色細粒砂 下層：黒褐色中粒砂	竪穴住居跡 SI2001 主柱穴
P2055	2125	ビット	2		L34	0.669	0.571	0.176	円形	皿形	黒色細粒砂～極細粒砂	
P2056	2115	ビット	2		L35	0.946	0.684	0.437	楕円形	有段U字形	黒色細粒砂	SK2037 と切り合っているが関係は不明
P2057	2118	ビット	2		K36	0.596	0.513	0.305	円形	変形U字形	黒褐色細粒砂	SK2027 に上部を切られる
P2058	2137	ビット	3		N33	0.360	0.313	0.050	円形	皿形	黒色細粒砂～極細粒砂	
P2059	2136	ビット	3		N33	0.415	0.305	0.132	円形	皿形	黒色中粒砂～極細粒砂	
P2060	2138	ビット	3		L36	0.307	0.244	0.149	円形	不整逆台形	黒色細粒砂～極細粒砂	
P2061	2139	ビット	3		M35	0.415	0.375	0.455	円形	U字形	黒色細粒砂～極細粒砂	
P2062	2140	ビット	3		M35	0.500	0.416	0.462	円形	U字形	上層：黒褐色細粒砂 下層：黒色細粒砂	
P2063	2141	ビット	3		M35	0.640	0.343	0.284	楕円形	U字形	黒色細粒砂～極細粒砂	
P2064	2142	ビット	3		M35	0.463	0.396	0.228	円形	逆台形	黒色中粒砂～極細粒砂	
P2065	2143	ビット	3		M35	0.586	0.452	0.478	円形	U字形	黒色中粒砂～極細粒砂	
P2066	2144	ビット	3		M35	0.384	0.295	0.118	円形	不整皿形	黒色中粒砂～極細粒砂	
P2067	2145	ビット	3		M35	0.410	0.353	0.089	円形	皿形	黒褐色中粒砂～極細粒砂	
P2068	2146	ビット	3		M35	0.411	0.378	0.384	円形	U字形	黒色中粒砂～極細粒砂	
P2069	2147	ビット	3		M35	0.309	0.292	0.217	円形	U字形	黒色中粒砂～極細粒砂	
P2070	2148	ビット	3		M35	0.410	0.325	0.147	円形	皿形	黒褐色中粒砂～極細粒砂	
P2071	2152	ビット	3		M36	0.607	0.291	0.492	円形	変形U字形	黒色細粒砂～極細粒砂	
P2072	2151	ビット	3		M36	0.524	0.148	0.275	円形	浅いU字形	黒色細粒砂～極細粒砂	
SB2001	2132	掘立柱建物跡	2	SB2001	M30	3.740	3.520	0.432	-	-	-	
SD2001	2044	耕作溝	1		M31	(5.386)	0.335	0.049	直線状	浅いU字形	褐色極細粒砂	
SD2002	2047	耕作溝	1		M31	1.684	0.306	0.130	直線状	浅いU字形	褐色極細粒砂	

表8 2区遺構一覧表2

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
SD2003	2011	耕作溝	1		N30	(6.061)	0.330	0.111	直線状	浅いU字形	黒褐色極細粒砂	調査区外に伸びる。SD2008 と一連
SD2004	2014	耕作溝	1		N30	(5.870)	0.329	0.081	直線状	皿形	黒褐色極細粒砂	調査区外に伸びる。SD2007 と一連
SD2005	2020	耕作溝	1		N30	(6.098)	0.376	0.108	直線状	皿形	黒褐色極細粒砂	調査区外に伸びる。
SD2006	2025	耕作溝	1		N30	(2.899)	0.350	0.056	直線状	不整皿形	黒褐色極細粒砂	調査区外に伸びる。
SD2007	2031	耕作溝	1		N31 ~ N32	(9.576)	0.340	0.080	直線状	皿形	黒褐色極細粒砂	SD2004 と一連
SD2008	2034	耕作溝	1		N31 ~ N32	(7.893)	0.297	0.102	直線状	浅いU字形	黒褐色極細粒砂	SD2003 と一連
SD2009	2037	耕作溝	1		N32	(5.371)	0.370	0.097	直線状	浅いU字形	黒褐色極細粒砂	
SD2010	2042	耕作溝	1		N32	3.383	0.192	0.066	直線状	浅いU字形	黒褐色極細粒砂	
SD2011	2041	耕作溝	1		N32	4.408	0.278	0.084	直線状	皿形	黒褐色細粒砂~極細粒砂	
SD2012	2004	大溝	2		N34 ~ L36	28.489	1.475	0.833	孤状	深いV字形	上層: 黒褐色細粒砂 下層: 褐灰色中粒砂~極細粒砂	調査区外に伸びる大溝、遺物多量
SD2013	2109	大溝	2		N 34 ~ K36	33.623	2.027	1.060	帯状	深いV字形	上層: 黒褐色細粒砂~極細粒砂 下層: 黒色中粒砂~極細粒砂	調査区外に伸びる大溝、遺物多量 SD2014 を切る
SD2014	2106	大溝	2		N34 ~ K35	32.897	2.895	1.453	孤状	逆台形	上層: 黒褐色細粒砂~極細粒砂 下層: 黒褐色中粒砂~シルト	調査区外に伸びる大溝、遺物多量 SD2013 に切られる
SD2015	2005	溝	2		M30 ~ L36	63.409	0.762	0.418	直線状	U字形	黒色細粒砂	調査区外に伸びる大溝、第2面帰属遺構のなかで最も新しい
SD2016	2083	溝	2		M31	3.107	0.742	0.072	直線状	浅いU字形	黄灰色細粒砂~極細粒砂	SD2015 に切られる
SD2017	2085	溝	2		M31	8.033	0.768	0.158	直線状	浅いU字形	灰色細粒砂~極細粒砂	
SD2018	2086	溝	2		M31	1.487	0.413	0.141	直線状	浅いU字形	オリープ黒色細粒砂~極細粒砂	
SD2019	2099	溝	2		L34	1.575	0.594	0.193	直線状	不整逆台形	暗灰黄色細粒砂~極細粒砂	P2046 に切られる
SD2020	2101	溝	2		L34	4.687	0.409	0.133	直線状	不整皿形	黒褐色細粒砂~極細粒砂	SD2015 に切られる
SI2001	2133	竪穴住居跡	2		L34	-	-	-	-	-	-	
SK2001	2010	土坑	1		M30	1.274	1.252	0.084	不定形	不整皿形	黒褐色極細粒砂	
SK2002	2009	土坑	1		M30	0.961	0.389	0.039	楕円形	浅いU字形	黄灰色細粒砂~極細粒砂	
SK2003	2012	土坑	1		N30	(0.724)	0.603	0.060	楕円形	有段U字形	黒褐色極細粒砂	調査区外に伸びる
SK2004	2013	土坑	1		N30	1.095	(0.565)	0.361	楕円形	有段U字形	黄灰色細粒砂~極細粒砂	調査区外に伸びる
SK2005	2017	土坑	1		N30	0.942	0.659	0.018	楕円形	盤形	上層: 黒褐色極細粒砂 下層: 黄灰色細粒砂~極細粒砂	
SK2006	2019	土坑	1		N30	0.892	0.673	0.038	円形	盤形	オリープ黒色極細粒砂	
SK2007	2066	土坑	1		N30	0.968	0.461	0.149	楕円形	皿形	黒色砂質シルト	
SK2008	2003	土坑	1		M31	1.579	0.608	0.250	楕円形	不整逆台形	黒褐色極細粒砂~黄灰色細粒砂	
SK2009	2002	土坑	1		M31	0.570	0.534	0.091	円形	皿形	黒褐色細粒砂~極細粒砂	
SK2010	2001	土坑	1		M31	0.821	0.608	0.230	円形	浅いU字形	黄灰色極細粒砂	土器片多量に含む。廃棄土坑か?
SK2011	2053	土坑	1		M31	0.456	0.439	0.094	円形	皿形	黄灰色極細粒砂	
SK2012	2045	土坑	1		M31	0.736	0.340	0.046	楕円形	皿形	黄灰色細粒砂~極細粒砂	
SK2013	2049	土坑	1		M31	0.935	0.328	0.076	楕円形	盤形	黒褐色極細粒砂	
SK2014	2046	土坑	1		M31	0.556	0.393	0.085	円形	皿形	黄灰色細粒砂~極細粒砂	
SK2015	2051	土坑	1		N31	0.328	0.289	0.089	円形	皿形	褐灰色極細粒砂	
SK2016	2052	土坑	1		N31	0.497	0.310	0.033	楕円形	皿形	灰色極細粒砂	
SK2017	2027	土坑	1		N31	0.694	0.544	0.061	円形	皿形	オリープ黒色極細粒砂	
SK2018	2028	土坑	1		N31	1.121	0.920	0.120	隅丸方形	不整皿形	黒褐色極細粒砂	
SK2019	2029	土坑	1		N31	0.953	0.767	0.057	楕円形	盤形	黒褐色極細粒砂	
SK2020	2026	土坑	1		O31	0.583	0.480	0.094	円形	皿形	オリープ黒色極細粒砂	
SK2021	2065	土坑	1		N32	0.552	0.409	0.010	隅丸方形	皿形	黒褐色細粒砂~極細粒砂	
SK2022	2030	土坑	1		N32	0.712	0.537	0.054	円形	皿形	黒褐色極細粒砂	
SK2023	2060	土坑	1		M33	0.765	0.415	0.119	楕円形	皿形	黒褐色極細粒砂	
SK2024	2069	土坑	1		M33	(0.637)	0.613	0.060	楕円形	皿形	上層: 黒褐色極細粒砂 下層: 黄灰色極細粒砂	須恵器蓋埋納遺構、第7層掘削中の検出
SK2025	2071	集石土坑	1		M35	0.580	0.162	0.260	円形	不整U字形	黒褐色極細粒砂混じり礫	
SK2026	2072	集石土坑	1		M35	1.208	0.873	0.371	不定形	不整U字形	黒褐色極細粒砂混じり礫	
SK2027	2113	土坑	1		K35・36	1.873	0.540	0.252	楕円形	浅いU字形	黒褐色細粒砂	須恵器片出土範囲で検出された土坑、プラン確認は第2面
SK2028	2082	土坑	2		M30	(0.680)	1.030	0.166	円形	不整皿形	黄灰色細粒砂~極細粒砂	SD2015 に切られる
SK2029	2068	土坑	2		M31	1.494	0.930	0.064	隅丸方形	不整盤形	黄灰色細粒砂~極細粒砂	
SK2030	2114	溝状土坑	2		N31	4.815	0.729	0.348	直線状	浅いU字形	上層: 黄灰色細粒砂 下層: 灰黄褐色細粒砂	
SK2031	2111	溝状土坑	2		M32 ~ M33	7.487	1.213	0.764	直線状	U字形	上層: 黒褐色細粒砂 下層: 黒色細粒砂	SK2041 と並行、布掘建物か。底面で長軸に直交する小溝状の落ち込み2箇所検出
SK2032	2061a	土坑	2		L33	(1.006)	0.702	0.292	楕円形	変形有段U字形	黒色細粒砂~極細粒砂	SD2015 に切られる P2043 とは別遺構
SK2033	2131	土坑	2		L34	1.159	0.612	0.572	不定形	変形U字形	黒褐色細粒砂~極細粒砂	SD2015 に切られる
SK2034	2124	中央土坑?	2	SI2001	L34	1.061	0.574	0.200	楕円形	不整皿形	黒褐色細粒砂~極細粒砂	竪穴住居跡 SI2001 関連遺構か?
SK2035	2102	土坑	2		L34	1.302	0.938	0.334	楕円形	不整皿形	黒褐色細粒砂	SD2015 に切られる
SK2036	2104	土坑	2		L35	1.721	1.656	0.372	不定形	不整皿形	黒褐色細粒砂	SD2015 に切られる
SK2037	2107	土坑	2		L35	1.303	0.916	0.202	不定形	浅いU字形	黒褐色細粒砂	SD2014 に切られる。P2056 と切り合っているが関係は不明
SK2038	2108	土坑	2		L35	1.270	0.879	0.132	円形	不整皿形	黒褐色細粒砂	SD2014 に切られる
SK2039	2105	土坑	2		L35	0.973	(0.521)	0.240	円形	不整皿形	黒色細粒砂~極細粒砂	SD2014 に切られる
SK2040	2112	落ち込み	2		M36	(6.747)	(3.031)	0.319	隅丸方形	浅いU字形	黒褐色細粒砂~極細粒砂	調査区外に広がる落ち込み
SK2041	2134	土坑	2		M33	5.785	0.677	0.174	直線状	皿形	黒褐色細粒砂~極細粒砂	SK2031 と並行、布掘建物か。プラン確認は第3面。底面で長軸に直交する小溝状の落ち込み3箇所検出
SK2042	2135	土坑	3		N33	0.911	0.653	0.210	不整形	不整皿形	黒色細粒砂~極細粒砂	
SK2043	2149	土坑	3		M36	0.499	0.490	0.353	円形	U字形	黒褐色中粒砂~細粒砂	
SK2044	2150	土坑	3		M36	0.752	0.529	0.173	円形	不整逆台形	黒色中粒砂~極細粒砂	
DD2001	2067	土器だまり	2		N31	2.060	1.805	0.164	-	-	-	第7層掘削中に検出された遺物集中範囲
DD2002	2116	土器だまり	2		N34	2.965	2.367	0.143	-	-	-	第7層掘削中に検出された遺物集中範囲南東側はSD2014に帰属すると思われる
DD2003	2119	土器だまり	2	SI2001	L34	3.260	2.480	0.150	-	-	-	第1面検出時に確認された土器集中部。SI2001床面遺物と思われる。確認面からの深さは土器の最高部から最低部を計測

第3節 3区 遺構と遺物

第1項 3区 基本層序(図39-1・39-2・41、写真図版26)

3区調査に先立ち、八頭町教育委員会発掘調査監理者の指示のもとでトレンチ調査をおこなった。3区を東西に縦断する170mの長さのTr.1を設定して調査し、続いてTr.1と直行する南北方向にTr.2・Tr.3・Tr.4・Tr.5を設定し、遺構・遺物の遺存状態を確認した。その結果、調査区の広範囲に暗褐色砂層(3-3層)・黄灰色砂層(3-4層)が堆積しており、これが弥生時代の遺物包含層であることがわかった。また人力掘削によるサブトレンチ調査で下位層を確認したところ、3区全体に黒色土層(3-8層)が広がっており、この層が地点によってシルト・粘土質シルト・砂質シルトに変わりつつも、切れずに続いていることがわかった。Tr.1黒色土層の下位の標高を比較すると東端と西端の比高差は約1.5mで、西に緩やかに下がっている。この黒色土層は無遺物層であり、弥生時代の竪穴住居跡等はこの層を切って構築されていることが確認できたため、黒色土上面でプラン確認するのが最適と判断した。第3面は黒色土(3-8層)上面である。

Tr.1を128層に区分し、Tr.5を54層に区分した。セクション図を図39-1・39-2に掲載する。これを特徴・時期ごとに整理すると以下ようになる。

基本層序区分	名称	特徴・時期
3-1層	圃場整備関連層……圃場整備の際の盛土・整地層、暗渠排水、昭和期。	
3-2層	旧耕作土……圃場整備以前の水田耕作土の残骸、近世・近代。	
3-3層	暗褐色砂層……弥生時代遺物包含層、洪水性二次堆積層、耕作攪乱を受ける。	
3-4層	黄灰色砂層……上面が第2面、耕作攪乱を受ける。	
3-5層	明黄褐色砂層……3-4層より明るい黄色砂、3区西側の一部にのみ残る。	
3-6層	褐灰色砂質シルト層……南側低地部に広がる3-4層と3-6層の混合土。	
3-7層	黒褐色砂質シルト層……北側の黒色土上面に広がる二次堆積層。	
3-8層	黒色土層……無遺物層、上面が第3面、地点によりシルト・粘土質シルト・砂質シルトに主体土が変わる。3区北側ではシルト層であるが、南側では湿地性堆積層の砂質シルトとなる。南側の黒色砂質シルトは、有機物由来の黒色土と河川氾濫の砂が混合した層である。	
3-9層	漸移層……黒褐色砂質シルト・暗褐色砂質シルト・黄褐色砂質シルトの混合土、弥生時代中期以前の無遺物層、上面が第4面である。	
3-10層	黄褐色砂層……基盤層相当層、弥生時代中期以前の無遺物層、上面が第4面である。	

第2項 3区の概要

3区は今回発掘調査対象範囲のうち最も南西側の八東川下流方向に位置する。調査区は東西に細長く、調査面積は4861.375㎡である。調査はトレンチ確認調査を含め、4面にわたる。

面ごとの検出遺構の内訳は以下の通りである。

第1面	耕作溝群4・土坑2・ピット56	……平安時代～中世
第2面	掘立柱建物跡7・竪穴住居跡12・木棺墓4・土坑54(住居内土坑含む)・ピット384(住居内ピット含む)	……弥生～平安時代

第3面 掘立柱建物跡1・竪穴住居跡3・土坑31(住居内土坑含む)・ピット349
(住居内ピット含む) ……弥生時代

第4面(トレンチ調査) 土坑1・ピット19・落ち込み3・倒木痕3 ……弥生時代以前

第1面は耕作溝群・ピット列で構成される面である。耕3001～耕3003の耕作溝群が多数検出される。時代は古代以降である。近世以降の耕作土3-2層を除去した段階で検出された。

第2面はSB3001～SB3007の掘立柱建物跡とSI3001～SI3012の竪穴住居跡がプラン上で検出される面である。耕3001～耕3003を除去し、暗褐色砂層(3-3層)を除去した段階で検出された。確認面は黒褐色砂質シルト層(3-7層)上面から黄灰色砂層(3-4層)上面である。遺構の所属時期は弥生時代中期が主体で、中でも竪穴住居跡12棟、掘立柱建物跡3棟、土器が集中する土坑等で弥生時代中期後葉の土器が出土している。中期以外の土器はほとんどみられない。木棺墓4基は出土遺物が水晶製小玉のみで年代は確定的ではないが、弥生時代後期以降と推測している。また、掘立柱建物跡のうちSB3004・SB3005は古代と推測している。第2面上面では石包丁他の石器が比較的多数出土している。

第3面はSI3013～SI3014の竪穴住居跡の検出される面である。確認面は3-8層の黒色土上面である。直上に堆積していた黒褐色砂質シルト層を除去した面である。

第4面は、黒色土層を除去した下位面である。時代は弥生時代中期以前である。基盤層相当層とした黄褐色砂層・砂礫層(3-10層)には遺物は全く含まれない。

第2面・第3面で検出された15棟の竪穴住居跡はいずれも弥生時代中期後葉前後に比定される。八頭町内最大の弥生時代中期の集落跡である。この集落は調査区の南西方向にある旧船岡町の丸山遺跡と時代的に重なりあい、土器も類似の型式のものが多い。八東川南岸から広範囲に広がる集落の一面を占めていたようである。八東川対岸の万代寺遺跡にも弥生時代中期の竪穴住居跡があり、当該地と同時性が高いといえる。また、奈免羅・西の前遺跡は八東川に直近の川岸という立地にあるため、川との密接な関係がうかがえる。出土した土器群は、港湾都市・青谷上寺地遺跡や鳥取市の岩吉遺跡との類似性が強い。いずれも千代川水系に所在する弥生遺跡である。

3区第2面SI3012竪穴住居跡内から山陰初となる銅釧片が出土したこと、また、第2面弥生後期以降の木棺墓SX3003から水晶製小玉42点が検出されたことなどから、山陰地方全体の中でも重要な位置を占めていた可能性がでてきた。

第3項 3区第1面遺構と遺物(図42、写真図版26、表10)

洪水砂堆積層の暗褐色砂層を除去し、黄灰色砂層・黒褐色砂質シルト層の上面で検出された遺構群である。耕作溝群が中心であり、当該地が開墾されてから以降の相対的に新しい遺構群を包括する。杭列等については3区遺構一覧表(表10)と付図1・2を参照のこと。

■耕3001・耕3002・耕3003・耕3004(図44、写真図版28)

耕作溝群の集中箇所を大きく3つに分けて調査し、東から耕3003・耕3002・耕3001・耕3004とした。耕作溝の底に鋤痕を残す箇所がある。耕3001は暗褐色砂・暗灰黄色砂を主体とし、出土遺物は弥生土器片を少量伴う。耕3002は黒褐色砂質シルトを主体とし、下層からは古代の須恵器甕片

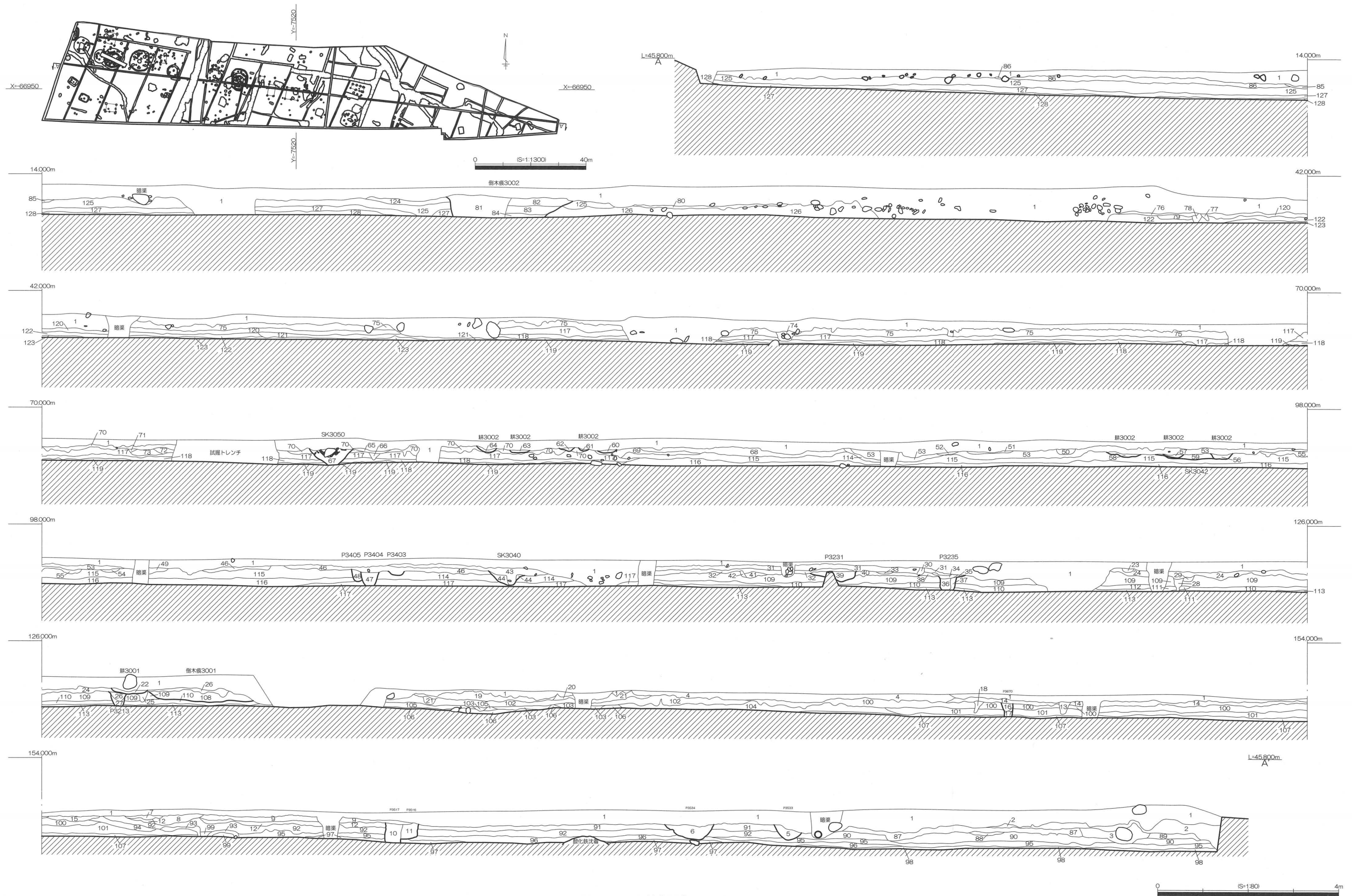


図39-1 3区 基本層序 Tr.1セクション図

3区 Tr.1 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等	基本層序	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等	基本層序	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等	基本層序
1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	現表土及び開場整備の盛土・整地層、径25cm以下の円礫多数、粘性あり、締りやや軟質	3-1 層	44	10YR3/1 黒褐色	シルト	土坑埋土、暗褐色砂質シルト	SK 3040	87	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト15%、粘性あり、締りあり	3-6 層
2	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	旧耕作土、暗灰黄色細粒砂・中粒砂5%、小礫少量、粘性・締りあり	3-1 層	45	10YR5/3 黒褐色	砂質シルト	耕作溝の一つ、黒褐色砂質シルト5%、粘性弱い、締りあり	耕 3002	88	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐灰色砂質シルト10%、小礫微量、粘性やや強い、締りあり	
3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	攪乱層、暗灰黄色細粒砂・中粒砂10%、礫少量、締りやや軟質	3-1 層	46	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	弥生土器片ごく微量、粘性やや強い、締りやや硬質		89	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐灰色砂質シルト3%、小礫微量、粘性やや強い、締りあり	
4	10YR4/3 黒褐色	砂質シルト	旧耕作土、暗灰黄色細粒砂・中粒砂5%、小礫少量、粘性・締りあり	3-2 層	47	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	ピット埋土、暗褐色砂質シルト10%、粘性弱、締りあり	P 3404	90	10YR2/1 黒褐色	シルト	暗褐色シルト少量、粘性あり、締りあり	3-8 層
5	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	ピット埋土、黒色砂質シルト10%、粘性あり、締りあり	P 3553	48	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	ピット埋土、黄褐色砂質シルト2%未満、粘性弱、締りあり	P 3405	91	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐灰色細粒砂5%、小礫微量、粘性弱い、締りやや硬質	
6	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	ピット埋土、黒色砂質シルト10%、粘性あり、締りあり	P 3554	49	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト3%、粘性あり、締りあり	P 3405	92	10YR2/1 黒褐色	シルト	暗褐色シルト少量、粘性あり、締りあり	3-8 層
7	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	ピット埋土、にぶい黄褐色シルト20%、粘性やや弱い、締りあり	SI 3013	50	10YR5/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、粘性弱い、締りあり	耕 3002	93	10YR1.7/1 黒色	砂	漸移層、酸化鉄・酸化マンガン沈着層、粘性なし、締り非常硬質	3-9 層
8	10YR4/2 黒褐色	砂質シルト	ピット埋土、酸化鉄沈着、黒褐色粘土質シルト20%、粘性弱、締り硬質	SI 3013	51	10YR5/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、粘性弱い、締りあり	耕 3002	94	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗赤褐色酸化鉄沈着、黒色シルト5%、粘性あり、締りあり	3-9 層
9	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	ピット埋土、酸化鉄沈着、黒褐色粘土質シルト20%、粘性弱、締り硬質	SI 3013	52	10YR5/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、粘性弱い、締りあり	耕 3002	95	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	漸移層、黒色シルト5%、粘性あり、締りあり	3-9 層
10	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	ピット埋土、黒色砂質シルト10%、粘性あり、締りあり	P 3517	53	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	土坑埋土、弥生土器片微量、粘性やや弱い、締りやや硬質	SK 3042	96	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	漸移層、にぶい黄褐色中粒砂20%、粘性あり、締りあり	3-9 層
11	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	ピット埋土、黒色砂質シルト10%、粘性あり、締りあり	P 3517	54	10YR5/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、黒褐色砂質シルト5%、粘性弱い、締りあり	耕 3002	97	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂	基盤層、砂層、暗褐色粘土質シルト少量、粘性なし、締り硬質	3-10 層
12	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト5%、粘性弱い、締り硬質	ピット	55	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	灰白色粘土質シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、締り硬質		98	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂	基盤層、砂層、暗褐色粘土質シルト少量、粘性なし、締り硬質	3-10 層
13	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	ピット埋土、にぶい黄褐色砂質シルト3%、粘性あり、締りあり	ピット	56	10YR4/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、粘性弱い、締りあり	耕 3002	99	10YR6/4 明黄褐色	粗粒砂	基盤層、砂層、暗褐色粘土質シルト少量、粘性なし、締り硬質	3-10 層
14	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト5%、粘性強い、締り硬質	3-7 層	57	10YR4/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、黄灰色細粒砂1%未満、粘性弱い、締りあり	耕 3002	100	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色シルト少量、粘性あり、締りあり	3-8 層
15	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂	にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性あり、締りあり		58	10YR4/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、黄灰色細粒砂1%未満、粘性弱い、締りあり	耕 3002	101	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	漸移層、黒褐色砂質シルト10%、粘性弱い、締りあり	3-9 層
16	10YR4/2 黒褐色	砂	ピット埋土、にぶい黄褐色砂質シルト20%、黒色シルト10%	P 3670	59	10YR4/3 粗粒砂	粗粒砂	黄灰色細粒砂1%未満、粘性あり、締りあり	SK 3042	102	10YR2/1 黒色	シルト	暗褐色シルト少量、粘性あり、締りあり	3-8 層
17	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	ピット埋土、にぶい黄褐色中粒砂10%、粘性なし、締り硬質	P 3670	60	10YR4/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、黄灰色細粒砂1%未満、粘性弱い、締りあり	耕 3002	103	10YR2/1 黒色	砂質シルト	暗褐色砂20%、粘性弱い、締りやや硬質	
18	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	杭穴、黒色シルト5%含む、粘性あり、締りあり	ピット	61	10YR4/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、にぶい黄色細粒砂1%未満、粘性弱い、締りあり	耕 3002	104	10YR3/3 黒褐色	砂質シルト	漸移層、黒褐色砂質シルト30%、粘性弱い、締りあり	3-9 層
19	10YR4/3 灰黄褐色	中粒砂・細粒砂	黒褐色シルト3%、粘性弱、締りあり		62	10YR4/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、にぶい黄色細粒砂1%未満、粘性弱い、締りあり	耕 3002	105	10YR2/1 黒色	砂質シルト	暗褐色砂20%、粘性弱い、締りやや硬質	
20	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト5%、粘性あり、締りあり		63	10YR4/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、にぶい黄色細粒砂1%未満、粘性弱い、締りあり	耕 3002	106	10YR5/4 にぶい黄褐色	粗粒砂	基盤層、砂層、暗褐色粘土質シルト少量、粘性なし、締り硬質	3-10 層
21	10YR3/3 暗褐色	中粒砂・細粒砂	黒褐色シルト20%、粘性あり、締りあり		64	10YR4/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、にぶい黄色細粒砂1%未満、粘性弱い、締りあり	耕 3002	107	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂	基盤層、砂層、小礫少量、粘性なし、締り硬質	3-10 層
22	10YR4/2 灰黄褐色	砂	耕3001埋土、粘性あり、締りあり	耕 3001	65	10YR4/3 粗粒砂	粗粒砂	耕作溝の一つ、にぶい黄色細粒砂1%未満、粘性弱い、締りあり	耕 3002	108	10YR2/1 黒色	砂質シルト	倒木痕、黒褐色砂質シルト10%、粘性あり、締りやや硬質	3001
23	10YR4/2 灰黄褐色	砂	耕3001埋土、粘性あり、締りあり	耕 3001	66	2.5Y3/1 黒褐色	粗粒砂	ピット埋土、黒色粘土質シルト少量、ピット中粒砂		109	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	小礫微量、黄灰色細粒砂1%未満、鉄斑あり、粘性やや強い、締りあり	
24	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	鉄斑あり、黒色粘土質シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満		67	10YR3/1 黒褐色	シルト	土坑埋土、弥生土器片多数、径30cm大の礫1、砂粒・粘土質シルト少量、小礫微量、粘性やや強い	SK 3050	110	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	小礫微量、灰色砂質シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、粘性やや強い	
25	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	根跡?、黄灰色細粒砂1%未満、礫微量、鉄斑あり、粘性・締りあり		68	2.5Y3/3 黒褐色	砂質シルト	黒色粘土質シルト少量、にぶい黄色細粒砂1%未満、粘性・締りあり		111	10YR2/1 黒色	砂質シルト	黄灰色細粒砂1%、鉄斑あり、粘性強い、締りあり	
26	10YR2/2 黒褐色	シルト	ピット埋土、土器片微量、小礫微量、黒色シルト少量、粘性やや強	ピット	69	10YR2/2 シルト	シルト	弥生土器片微量、黄灰色細粒砂1%未満、小礫微量、粘性・締りあり		112	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄色細粒砂1%未満、鉄斑あり、粘性やや強い、締りあり	
27	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	ピット埋土、浅黄色砂10%、粘性あり、締りあり	ピット	70	2.5Y3/3 黒褐色	砂質シルト	黒色粘土質シルト少量、にぶい黄色細粒砂1%未満、粘性・締りあり		113	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂	基盤層、砂層、暗褐色粘土質シルト少量、粘性なし、締り硬質	3-10 層
28	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄色細粒砂1%未満、粘性あり、締りあり		71	10YR3/1 黒褐色	シルト	黄灰色細粒砂1%未満、鉄斑あり、粘性あり、締りあり		114	10YR2/1 黒色	砂質シルト	黄灰色細粒砂1%、鉄斑あり、粘性強い、締りあり	
29	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂5%、粘土質シルト多量、粘性あり、締りあり		72	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	炭化物微量、灰色シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、鉄斑あり		115	10YR2/1 黒色	シルト	黄灰色細粒砂1%、鉄斑あり、粘性やや強い、締りあり	
30	10YR2/2 黒褐色	シルト	にぶい黄色細粒砂1%未満、黒色粘土質シルト少量、粘性・締りあり		73	10YR2/2 黒褐色	シルト	弥生土器片微量、炭化物微量、黒色粘土質シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、小礫微量		116	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	漸移層、鉄斑あり、粘性あり、締りあり	3-9 層
31	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄色細粒砂1%未満、黒色砂質シルト少量、粘性・締りあり		74	10YR2/2 黒褐色	シルト	黒色粘土質シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、鉄斑あり		117	10YR2/2 黒褐色	シルト	灰白色粘土質シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、粘性やや強い	3-8 層
32	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	灰白色砂質シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、小礫微量、粘性やや強		75	2.5Y3/3 黒褐色	砂質シルト	黒色粘土質シルト少量、にぶい黄色細粒砂1%未満、鉄斑あり		118	10YR2/1 黒色	砂質シルト	黄灰色細粒砂1%未満、小礫微量、鉄斑あり、粘性やや強、締りあり	
33	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	黄灰色砂粒1%未満、黒色粘土質シルト少量、粘性やや強い、締りあり		76	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	水路跡、褐色酸化鉄10%、小礫少量、黒色粘土質シルト5%	3-1 層	119	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂	基盤層、砂層、粘性なし、締り硬質	3-10 層
34	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	ピット埋土、黒色粘土質シルト・灰黄色砂質シルト少量	P 3235	77	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	杭跡、灰黄褐色粘土質シルト5%、粘性あり、締り軟質	杭跡 層	120	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	小礫少量、黄灰色細粒砂1%未満、粘性やや弱い、締りあり	
35	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	ピット埋土、黒色粘土質シルト少量、粘性あり、締りあり	P 3235	78	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	杭跡、灰黄褐色粘土質シルト10%、杭跡粘性あり、締り軟質	杭跡 層	121	10YR3/2 黒褐色	粗粒砂	漸移層、暗褐色粘土質シルト30%、粘性やや強い、締りあり	3-9 層
36	10YR2/1 黒色	砂質シルト	ピット埋土、黒褐色粘土質シルト微量、粘性あり、締りあり	P 3235	79	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂質シルト20%、粘性あり、締り軟質		122	10YR3/2 黒褐色	中粒砂	漸移層、粘性なし、締り硬質	3-9 層
37	10YR2/1 黒色	砂質シルト	ピット埋土、黒褐色粘土質シルト少量、灰黄褐色砂微量	P 3235	80	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐色酸化鉄10%、小礫少量、粘性あり、締りあり		123	10YR5/6 明黄褐色	粗粒砂	基盤層、砂層、粘性なし、締り硬質	3-10 層
38	10YR2/1 黒色	砂質シルト	黄灰色中粒砂1%未満、灰色シルト少量、粘性やや強い、締りあり	SI 3007	81	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂・礫	倒木痕、黒褐色砂質シルト10%、粘性なし、締り硬質	倒木痕 3003	124	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粘性あり、締りあり	
39	10YR2/3 黒褐色	シルト	ピット埋土、弥生土器片微量、黄灰色中粒砂1%未満、粘性弱	SI 3231	82	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	倒木痕、黒褐色砂質シルト5%、小礫微量、粘性あり、締りあり	倒木痕 3003	125	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂	基盤層、砂層、粘性なし、締り硬質	3-10 層
40	10YR2/2 黒褐色	シルト	住居址埋土、黄灰色中粒砂1%未満、鉄斑あり、粘性弱、締りあり	SI 3007	83	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	倒木痕、黒褐色砂質シルト5%、小礫微量、粘性やや強い、締りあり	倒木痕 3003	126	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂	基盤層、砂層、粘性なし、締り硬質	3-10 層
41	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色粘土質シルト少量、黄灰色砂質シルト少量、粘性やや強い		84	10YR2/1 黒色	砂質シルト	弥生中期以前の倒木痕、粘性あり、締りあり	倒木痕 3003	127	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	基盤層、シルト・粘土少量、粘性強い、締りある	3-10 層
42	10YR2/1 黒色	シルト	黒色シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、粘性やや強い		85	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト30%、耕作痕か、粘性あり、締りあり		128	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	基盤層、シルト・粘土少量、粘性強い、締りある	3-10 層
43	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	旧耕作土、弥生土器片微量、黒褐色粘土質シルト5%、粘性弱	3-2 層	86	10YR2/1 黒色	砂質シルト	弥生土器片微量、直下の層より灰色味が強い、粘性あり、締りあり	3-7 層					

図39-2 3区 基本層序 Tr.1セクション図

が数点出土した。耕 3003 は黒褐色砂質シルトを主体とし、埋土から中世の備前焼播鉢片が出土した。各耕作地の時期は、出土遺物の年代以降である。

■ SK3001・SK3002(図40)

位置・検出状況 SK3001 は第1面 O12 グリッドに位置し、標高は 44.744m である。SK3002 は N13 グリッドに位置し、標高は 44.730m である。確認面は昭和の圃場整備の整地層を除去した黒色土層(3-8層)上面である。周辺には近代以降の溝跡等攪乱が多い。

平面形状・規模 SK3001 の平面形は円形で、長軸 1.794m・短軸 1.730m を測る。断面形は浅い円筒形か盤形に近い形状で、確認面からの遺構底面までの深さは 0.171m である。SK3002 の平面形は不整な円形で、長軸 1.465m・短軸 1.207m を測り、南東側に一段浅くなって張り出す箇所がある。断面形は浅い盤形に近い形状で、確認面からの遺構底面までの深さは 0.231m である。いずれも底面調整は粗雑である。

遺物・埋土・遺構性格・時期 両遺構とも埋土は黒褐色シルトを主体とし、直径 3～30cm 大の多数の円礫を含む。礫は当該地の基盤層のものと大差なく、礫を埋めた穴のような印象を受ける。両遺構とも遺物は出土していない。遺構性格は土坑とするが、SK3002 の不整な形状や、粗雑な掘方から、貯蔵穴とか墓坑のような用途は考えにくい。耕作地を新たに開墾する際、樹木の根を抜き去った跡に礫や不要物を埋める例はよくあるため、これらもそれに類するものであろう。遺構掘方の縁が鮮明なため、古いものではなく、古代～中世頃と考える。

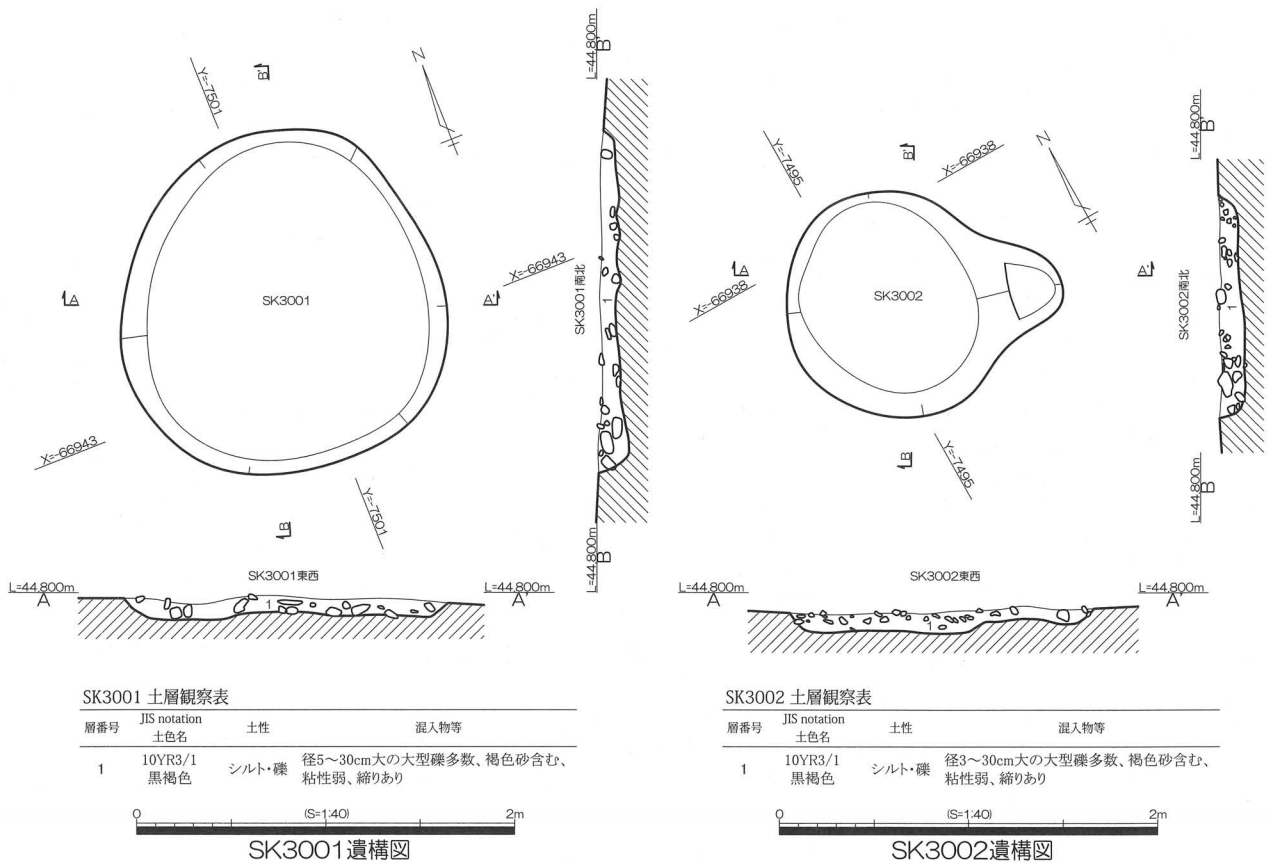
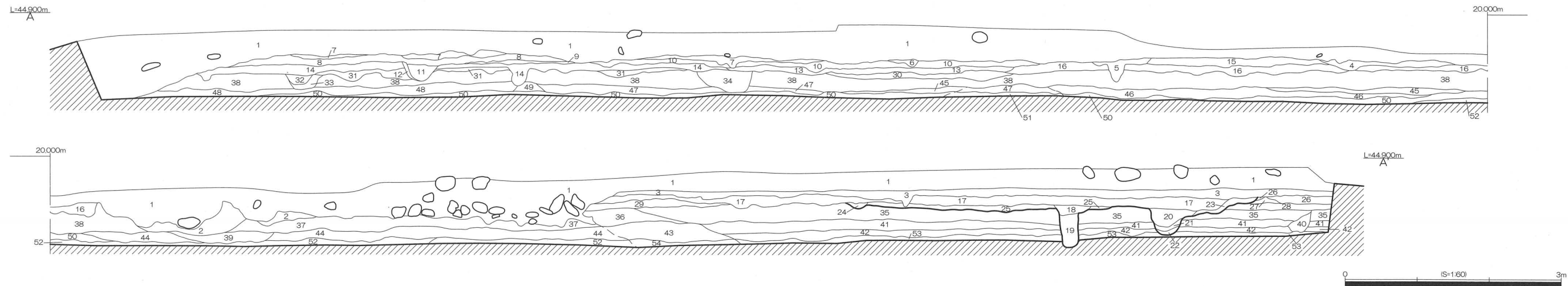


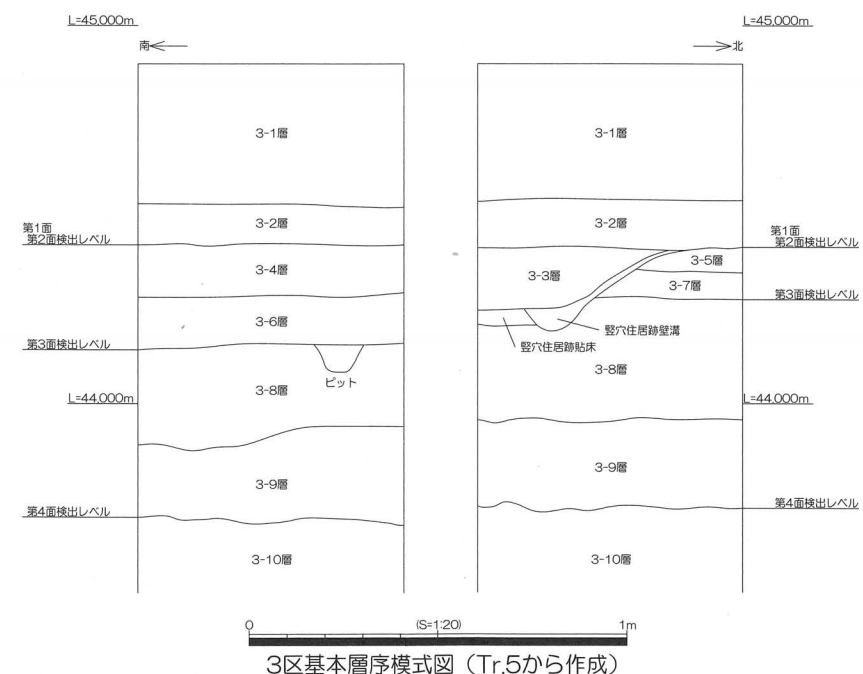
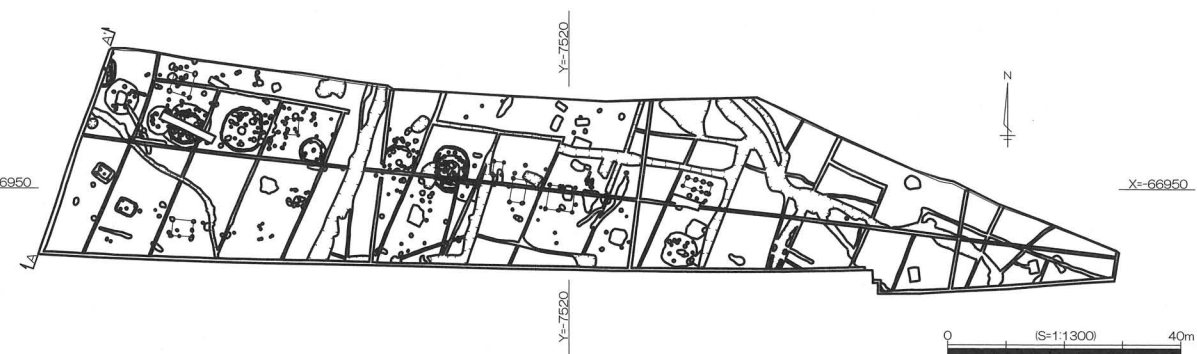
図40 SK3001・SK3002遺構図



Tr.5 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等	基本 層序
1	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	現表土及び圃場整備の盛土・整地層、径25cm以下の円礫多数、粘性あり、締りやや軟質	3-1層
2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	攪乱層、暗灰黄色細粒砂・中粒砂5%、粘性あり、締りあり	3-1層
3	10YR2/1 黒色	砂質シルト	攪乱層、暗灰黄色細粒砂・中粒砂5%、粘性あり、締りあり	3-1層
4	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	圃場整備より前の耕作土、礫少量、粘性あり、締りやや軟質	3-2層
5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト5%、粘性やや弱い、締りやや軟質	3-2層
6	2.5Y6/6 明黄褐色	砂	にぶい黄褐色砂30%、粘性やや弱い、締りやや軟質	3-2層
7	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト20%、粘性やや弱い、締りあり	3-2層
8	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性あり、締りあり	3-2層
9	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色シルト20%、粘性やや弱い、締りあり	3-3層
10	2.5Y5/2 暗灰黄色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性あり、締りあり	3-3層
11	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	ビット埋土、粘性あり、締りあり	3-3層
12	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	ビット埋土、粘性あり、締りあり	3-3層
13	10YR6/6 明黄褐色	砂	褐灰色粘土質シルト15%、中粒砂・粗粒砂がやや多い、粘性なし、締りやや軟質	3-5層
14	10YR6/6 明黄褐色	砂	中粒砂・粗粒砂がやや多い、灰黄褐色シルト少量、粘性なし、締りやや軟質	3-5層
15	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト20%、粘土質シルト含有、粘性あり、締りあり	3-7層
16	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト20%、粘土質シルト含有、粘性あり、締りあり	3-7層
17	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	SI3002埋土、弥生土器片微量、暗褐色砂25%、粘性弱い、締りやや硬質	SI3002
18	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	SI3002内ビット埋土、にぶい黄褐色中粒砂10%、粘性あり、締りあり	SI3002
19	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	SI3002内ビット埋土、にぶい黄褐色中粒砂10%、粘性あり、締りあり	SI3002
20	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	SI3002内ビット埋土、にぶい黄褐色中粒砂10%、粘性あり、締りあり	SI3002
21	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	SI3002内ビット埋土、にぶい黄褐色中粒砂10%、粘性あり、締りあり	SI3002
22	10YR3/2 暗褐色	砂質シルト	SI3002内ビット埋土、にぶい黄褐色細粒砂10%、粘性あり、締りあり	SI3002
23	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	SI3002埋土、粘性あり、締りあり	SI3002
24	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	SI3002壁溝埋土、粘性あり、締りあり	SI3002
25	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	SI3002貼床、明黄褐色砂ブロック30%、粘性あり、締りあり	SI3002
26	2.5Y7/6 明黄褐色	砂	堅穴住居跡SI3002に切られる、中粒砂・粗粒砂やや多い、粘性なし、締りあり	3-5層
27	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	浅黄色砂10%、粘性あり、締りあり	3-7層
28	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト20%、粘土質シルト少量、粘性あり、締りあり	3-7層

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等	基本 層序
29	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト20%、粘土質シルト少量、粘性あり、締りあり	3-7層
30	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色細粒砂10%、粘土質シルト少量、粘性やや強い、締りあり	3-7層
31	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	褐色細粒砂20%、粘性あり、締りやや軟質	3-6層
32	10YR3/2 黒褐色	シルト	ビット埋土、粘土質シルト少量、粘性やや強い、締りあり	3-6層
33	10YR3/2 黒褐色	シルト	ビット埋土、粘土質シルト少量、粘性やや強い、締りあり	3-6層
34	10YR3/2 黒褐色	シルト	植物痕状の落ち込み、にぶい黄褐色中粒砂・粗粒砂25%、粘性あり、締りあり	3-6層
35	10YR1.7/1 黒色	シルト	黒色土層、無遺物層、粘土質シルトを20%、粗粒砂・中粒砂10%、黒褐色シルトを少量、粘性やや強い、締りやや硬質	3-8層
36	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色土層、無遺物層、酸化鉄沈着層、有機物由来の黒ボク土と河川氾濫堆積物の混合土、黒褐色粘土質シルト・砂粒含有、粘性あり、締りやや軟質	3-8層
37	10YR2/1 黒色	砂質シルト	黒色土層、無遺物層、有機物由来の黒ボク土と河川氾濫堆積物の混合土、粗粒砂・細粒砂・粘土含有、粘性あり、締りやや軟質	3-8層
38	10YR2/1 黒色	砂質シルト	黒色土層、無遺物層、酸化鉄・酸化マンガン沈着層、粗粒砂・中粒砂・粘土質シルト含有、黒褐色シルト少量、粘性あり、締りあり	3-8層
39	10YR3/1 黒褐色	中粒砂・砂質シルト	倒木痕跡に黒褐色シルトと褐色砂が混合、粘性弱、締りあり	3-9層
40	10YR3/1 黒褐色	中粒砂・砂質シルト	植物痕跡もしくはビット痕跡、粘性弱、締りあり	3-9層
41	10YR3/1 黒褐色	中粒砂・砂質シルト	漸移層的、粘性弱、締りあり	3-9層
42	10YR3/1 黒褐色	中粒砂・砂質シルト	漸移層的、粘性弱、締りあり	3-9層
43	7.5YR3/4 暗褐色	粗粒砂・中粒砂・小礫	漸移層、酸化鉄沈着、砂礫層、粘性なし、締り硬質	3-9層
44	10YR3/1 黒褐色	中粒砂・砂質シルト	漸移層的、砂礫層、粘性なし、締り硬質	3-9層
45	10YR3/1 黒褐色	中粒砂・砂質シルト	漸移層、褐色砂20%、粘性弱、締りあり	3-9層
46	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂・中粒砂・礫	漸移層、粘性弱、締りあり	3-9層
47	10YR3/1 黒褐色	中粒砂・砂質シルト	漸移層、粘性弱、締りあり	3-9層
48	10YR3/1 黒褐色	中粒砂・砂質シルト	漸移層、粘性弱、締りあり	3-9層
49	10YR3/1 黒褐色	中粒砂・砂質シルト	漸移層、褐色砂20%、粘性弱、締りあり	3-9層
50	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂・中粒砂	基盤層相当層、砂層、粘性なし、締り硬質	3-10層
51	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂・中粒砂	酸化鉄沈着層、基盤層相当層、砂層、粘性なし、締り硬質	3-10層
52	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂・中粒砂	基盤層相当層、砂層、粘性なし、締り硬質	3-10層
53	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂・中粒砂	基盤層相当層、砂層、小礫少量、粘性なし、締り硬質	3-10層
54	10YR6/6 明黄褐色	粗粒砂・中粒砂	酸化鉄・酸化マンガン沈着層、基盤層相当層、砂層、小礫少量、粘性なし、締り硬質	3-10層



3区基本層序模式図 (Tr.5から作成)

図41 3区 基本層序 Tr.5セクション図・基本層序模式図

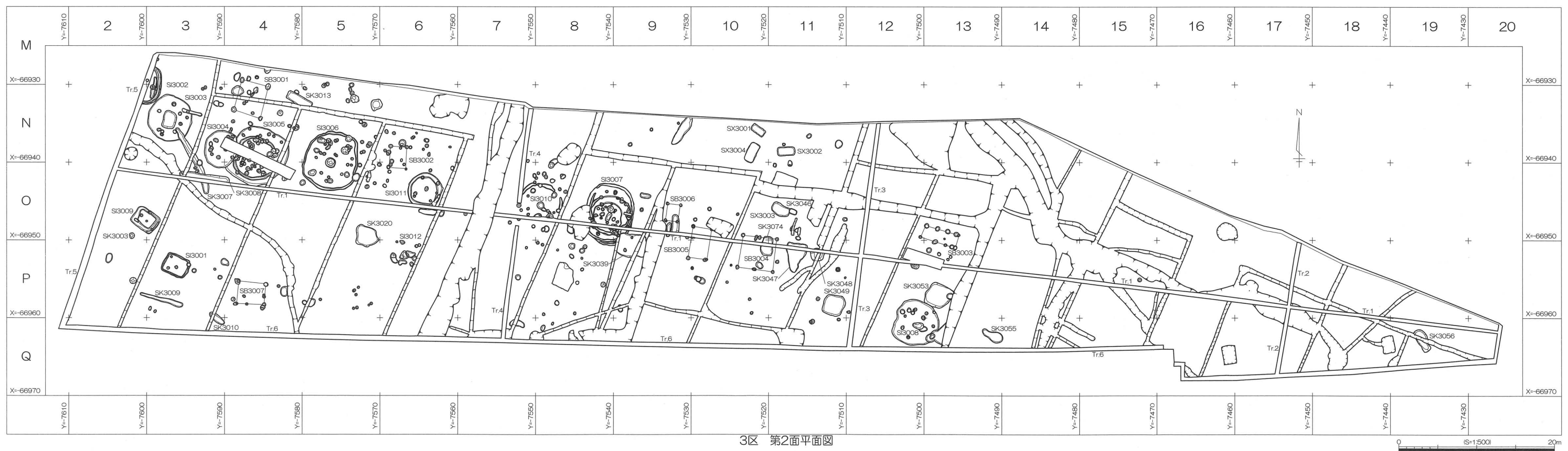
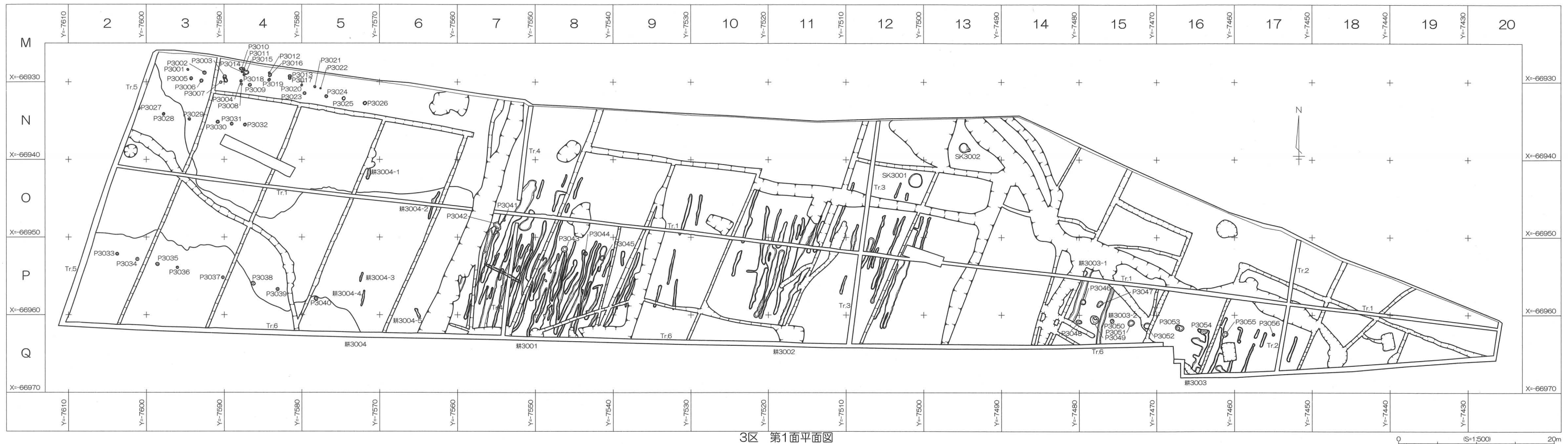


图42 3区 第1面·第2面平面图

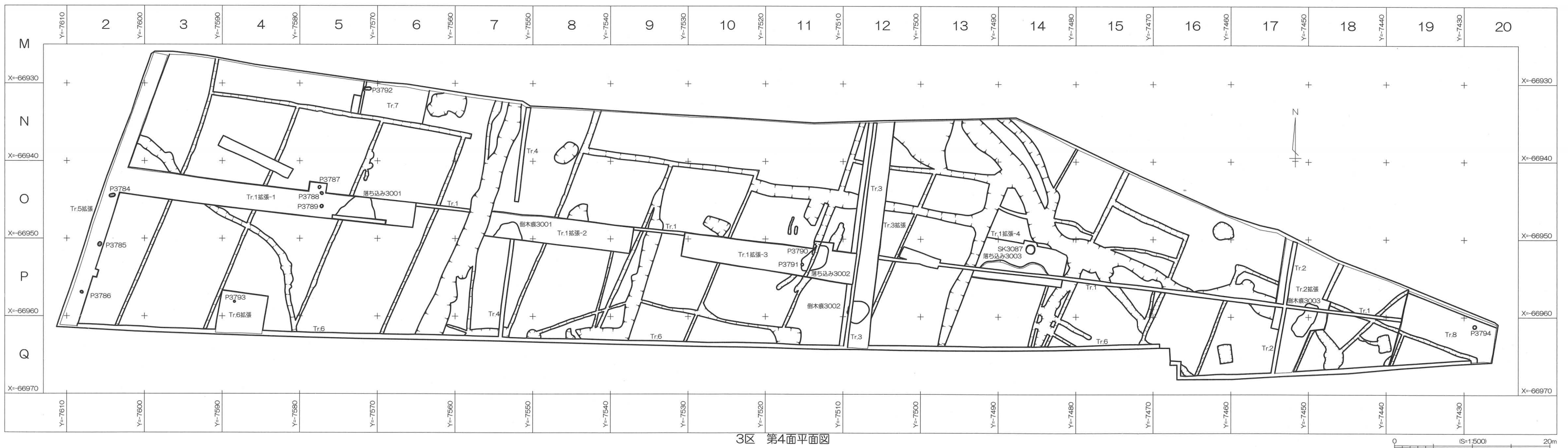
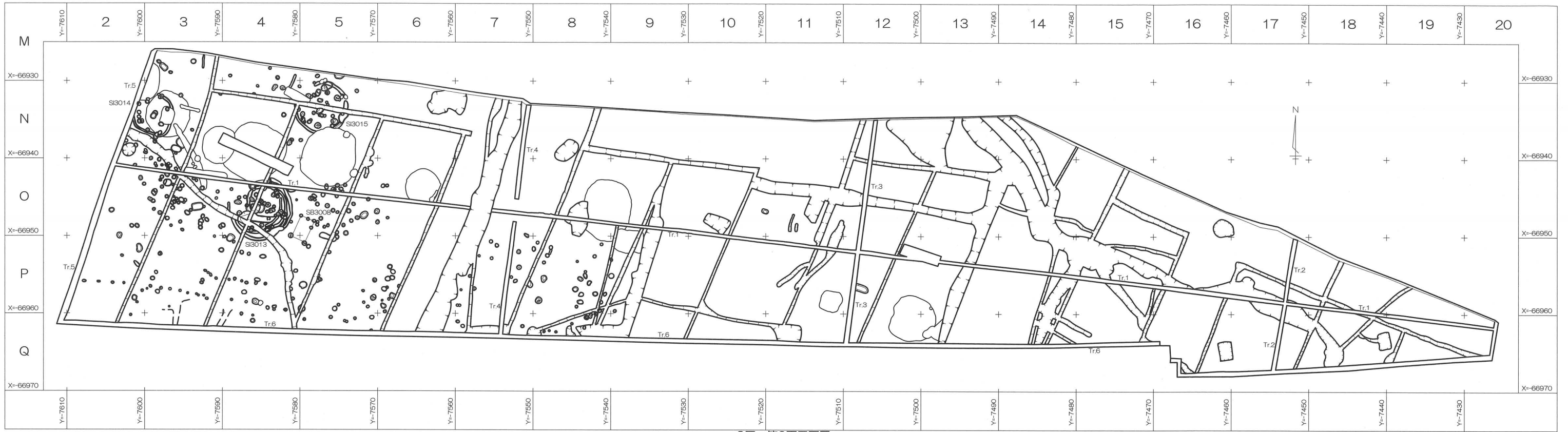
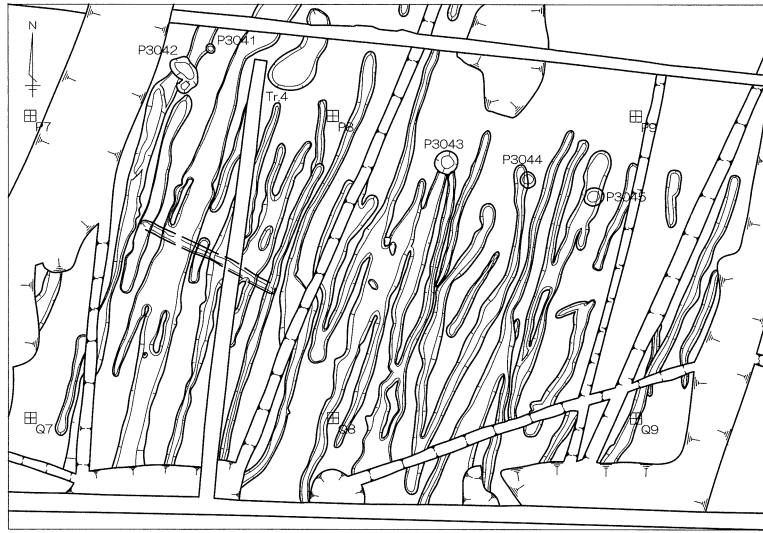
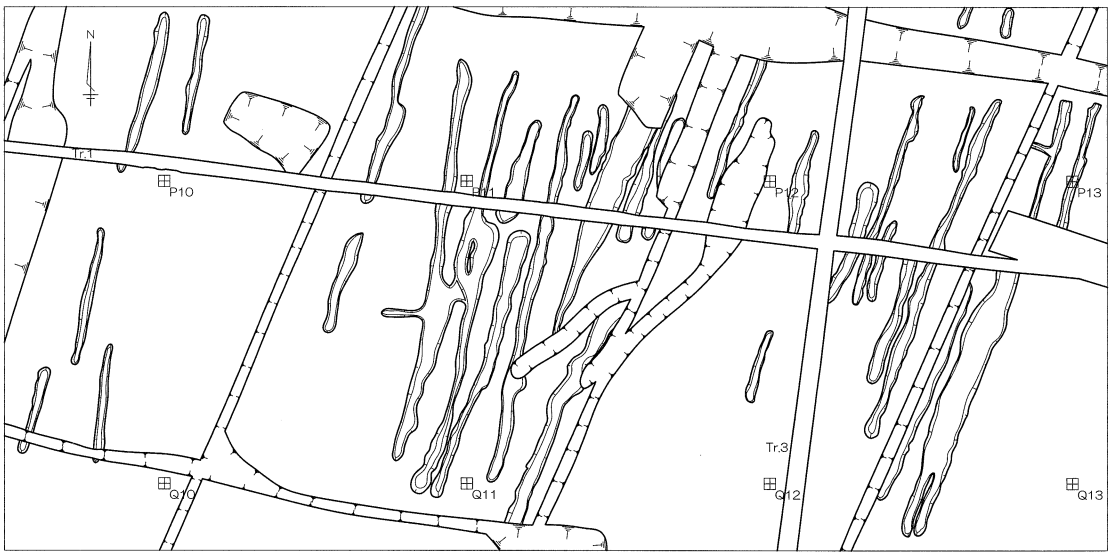


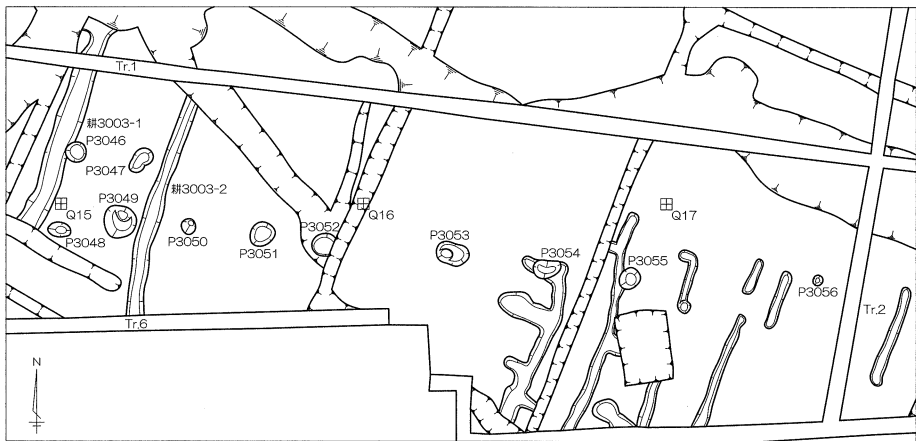
图43 3区 第3面·第4面平面图



耕3001平面图



耕3002平面图



耕3003平面图

图44 3区 第1面耕作溝群平面图

第4項 3区第2面 遺構と遺物(図42、巻頭図版1・2、写真図版28・29)

3区第2面は、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・木棺墓が検出された面を基準にした。調査区北側は黒色土(3-8層)と黒褐色砂質シルト(3-7層)であり、調査区南側では黄褐色砂層(3-4層)・明黄褐色砂層(3-5層)が検出された面である。

検出された遺構は、掘立柱建物跡7・竪穴住居跡13・木棺墓4・土坑54(竪穴住居内土坑12を含む)・ピット384(掘立柱建物跡の柱穴33を含む)である。主な遺物は、弥生時代中期の土器と石器で、土器は甕・壺・高坏・器台・水差形土器・蓋等、石器は石包丁・石槍・石鍬・砥石・石斧・石錘等である。弥生時代中期後葉の竪穴住居跡から銅釧片1、弥生時代後期と思われる木棺墓の一つから水晶製小玉42点が出土した。

■ SB3001(図45、写真図版36)

位置 第2面北西側のM4・N4グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.376mである。

検出状況 圃場整備時の整地層を除去したところで、黒褐色砂質シルト層を検出した。この黒褐色砂質シルト層は黒色土層の直上を覆う層である。この黒褐色砂質シルト層面を遺構確認面として、4基のほぼ同じ埋土のピットが長方形に並んでいるのが確認された。

軸方向・平面形状・規模 桁行1間・梁間1間の掘立柱建物跡である。主軸はN-15°-Eをふる。軸方向がSB3004・SB3005等とほぼ同じである。建物の平面形は長方形である。桁行長4.240m・梁間長3.560mを測る。

SB3001はP3057-P3058-P3059-P3060の4基の柱穴で構成される。各柱穴の規模(長軸×短軸-確認面からの深さ)は、P3057は(0.903m×0.507m-0.207m)、P3058は(0.811m×0.628m-0.236m)、P3059は(0.703m×0.637m-0.113m)、P3060は(0.571m×0.478m-0.154m)である。平面形状は、P3057・P3058・P3060は楕円形、P3059は円形で、断面形はU字形を示す。周辺で検出された弥生時代の竪穴住居跡の柱穴と比べて深さが浅い。底面の調整痕は残っていない。

柱穴埋土・礎石の有無 柱痕は残っていない。4基とも、埋土上層はにぶい黄褐色の砂質シルトを主体とし、下層に黒色シルトが堆積する。上層のにぶい黄褐色砂質シルトは、本調査区内で黒褐色土層より上層に堆積する弥生時代の遺物包含層=暗褐色砂層とほぼ同質のものであり、その層上から掘り込まれたものと思われる。4基とも礎石はない。

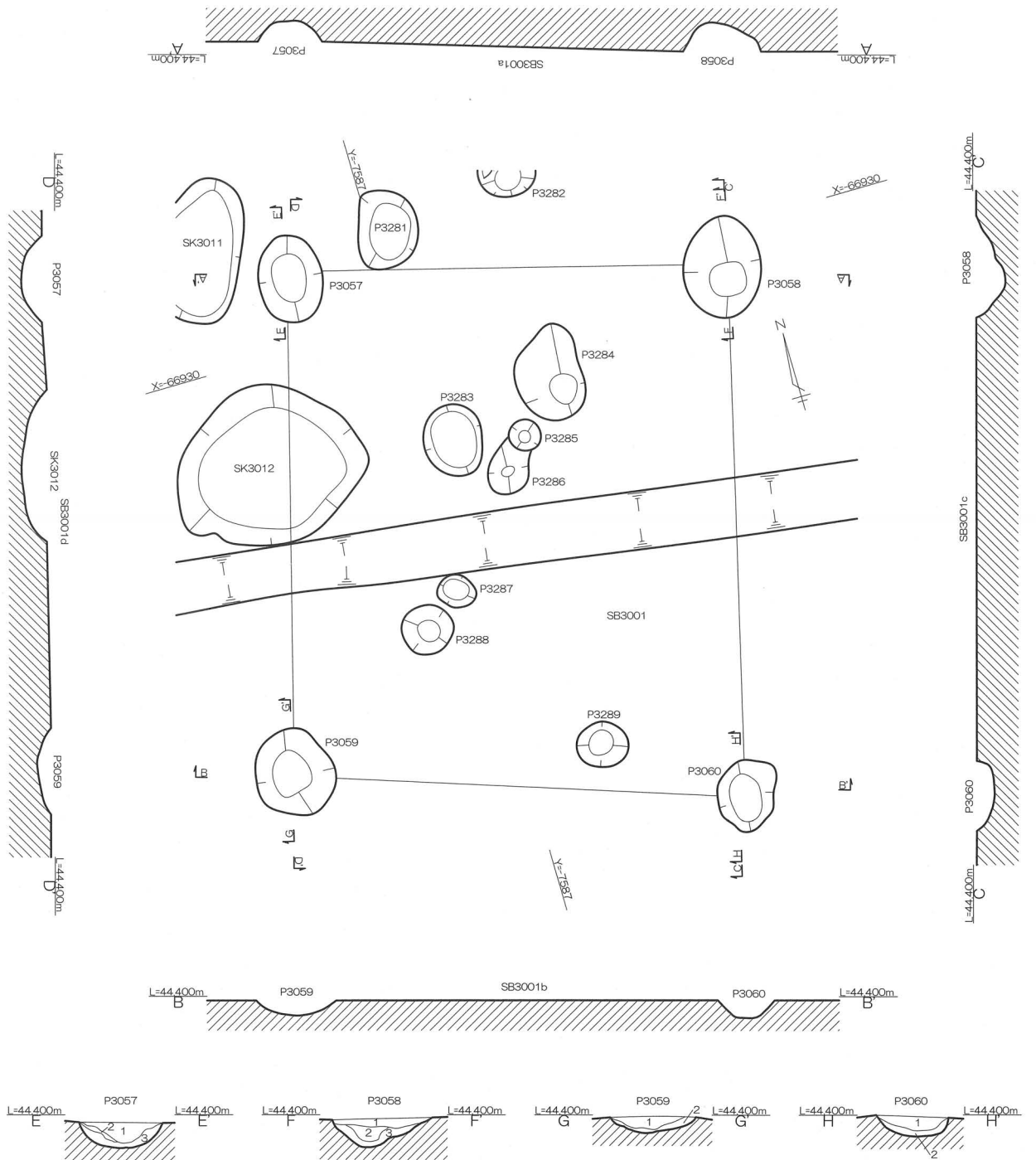
遺物出土状況 P3057から土器片2点、P3059から土器片1点、P3060から土器片22点(弥生土器甕底部1点)及び石製品(頁岩製砥石)1点が出土している。P3057からは遺物は出土していない。

遺構の性格と帰属時期 掘立柱建物跡である。出土遺物の弥生時代の甕から、弥生時代中期以降の可能性が高い。(井汲・浅井)

■ SB3002(図46、写真図版36)

位置 第2面北西側のM4・N4グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.376mである。

検出状況 圃場整備の際の整地層を除去したところで、黒褐色砂質シルト層を検出した。この黒褐色砂質シルト層は黒色土層の直上面を覆う再堆積層である。この黒褐色砂質シルト層を遺構確認面として、4基のピットが長方形に並んでいるのが確認された。柱根埋土に淡黄色粘土が検出されたため、周辺の遺構群の中では突出して目立つ。

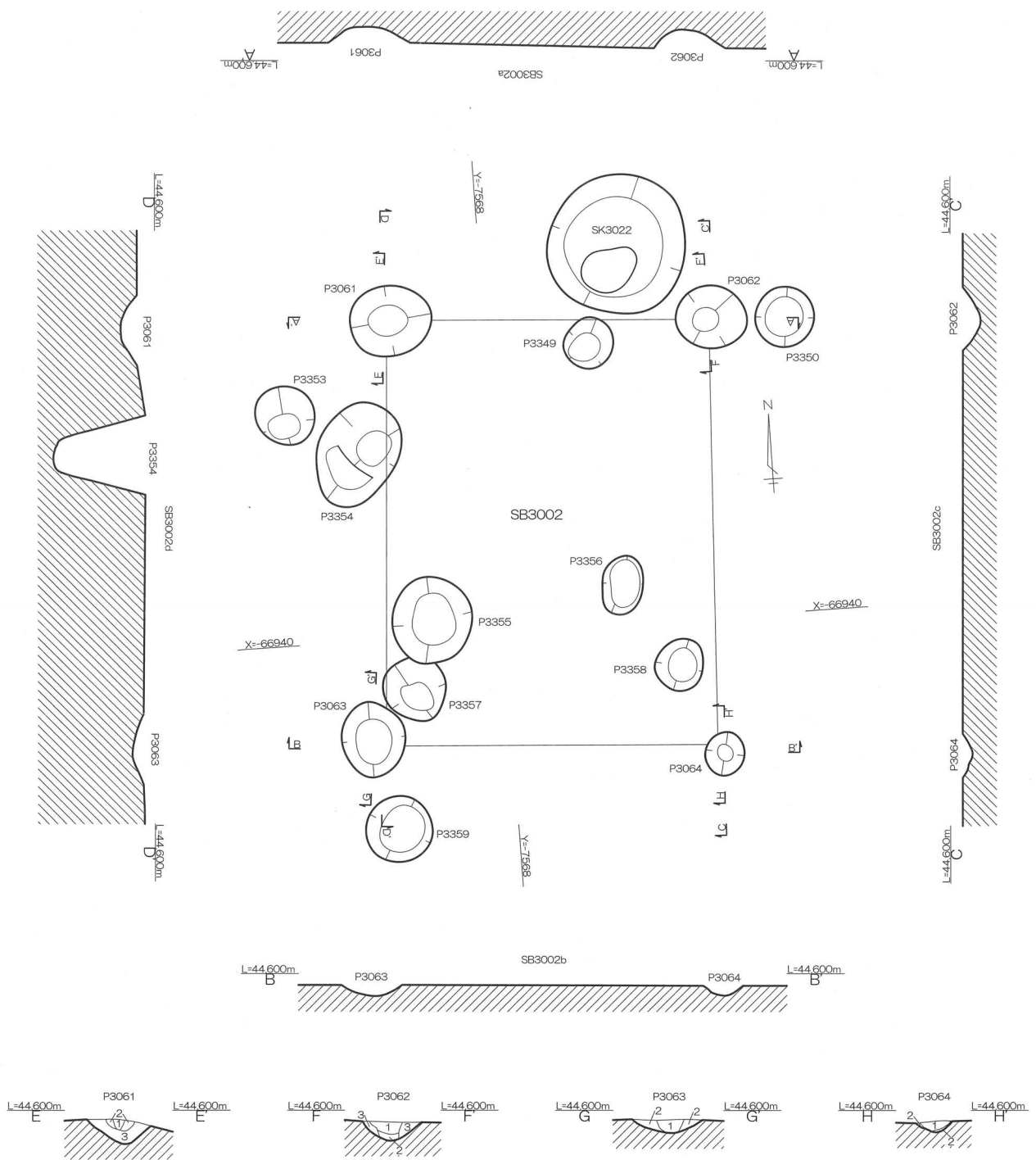


SB3001 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3057	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細粒砂多量、黒色土少量、 粘性弱い、縮りやや硬質
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルト25%、 粘性あり、縮りあり
P3057	3	10YR2/1 黒色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト10%、 粘性あり、縮りあり
P3058	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細粒砂多量、黒色土少量、 粘性弱い、縮りやや硬質
	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルト20%、 粘性あり、縮りあり
P3058	3	10YR2/1 黒色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト10%、 粘性あり、縮りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3059	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細粒砂多量、黒色土少量、 粘性弱い、縮りやや硬質
	2	10YR3/1 黒色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト10%、 粘性あり、縮りあり
P3060	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細粒砂多量、黒色土少量、 粘性弱い、縮りやや硬質
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト10%、 粘性弱い、縮りあり

図45 SB3001遺構図



SB3002 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3061	1	2.5Y8/3 淡黄色	粘土	柱痕、暗灰黄色粘土質シルト25%、粘性強い、締りやや硬質
	2	2.5Y6/2 灰黄色	粘土質シルト	柱痕、黄灰色細粒砂1%未満、粘性やや強い、締りやや硬質
	3	10YR3/3 暗褐色	中粒砂・細粒砂	にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性弱い、締りやや硬質
P3062	1	2.5Y8/3 淡黄色	粘土	柱痕、暗灰黄色粘土質シルト25%、粘性強い、締りやや硬質
	2	2.5Y2/2 黒褐色	シルト	柱痕、黄灰色細粒砂1%未満、粘性やや強い、締りやや硬質
	3	10YR3/3 暗褐色	砂	中粒砂・細粒砂混合、にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性弱い、締りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3063	1	2.5Y5/3 オリーブ褐色	砂質シルト	鉄斑あり、礫あり、灰色シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、粘性強い、締りやや硬質
	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	オリーブ褐色砂質シルト20%、粘性あり、締りあり
P3064	1	2.5Y8/3 淡黄色	粘土	柱痕、暗灰黄色粘土質シルト25%、黒色土少量、粘性強い、締りやや硬質
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性弱い、締りあり



図46 SB3002遺構図

軸方向・平面形状・規模 桁行1間・梁間1間の掘立柱建物跡である。主軸はN-4°-Eをふる。軸方向がSB3004・SB3005等より真北に近く、約10度ずれる。建物の平面形は長方形である。桁行長2.760m・梁間長2.060mを測る。

SB3002はP3061-P3062-P3063-P3064の4基の柱穴で構成される。各柱穴の規模(長軸×短軸-確認面からの深さ)は、P3061は(0.521m×0.454m-0.143m)、P3062は(0.461m×0.408m-0.164m)、P3063は(0.491m×0.412m-0.079m)、P3064は(0.285m×0.252m-0.076m)である。形状は、4基とも平面形は円形で、断面形はU字形を示す。周辺で検出された弥生時代の竪穴住居跡の柱穴と比べて深さが浅い。

柱穴埋土・礎石の有無 P3061・P3062・P3064はプラン面上で直径の小さい柱痕が確認され、柱痕埋土は淡黄色粘土であった。掘方の埋土は、黒褐色砂質シルト層とほぼ同じ、黒褐色砂質シルトを主体とする。礎石は確認できない。

遺物出土状況 P3061から3点、P3062から1点、計4点の土器細片が出土している。おそらく弥生土器片と思われる。

遺構の性格と帰属時期 掘立柱建物跡である。SB3004・SB3005等の掘立柱建物跡と軸方向が異なるため、弥生時代中期の所属ではなく、それ以降のものと思われる。(井汲・浅井)

■ SB3003(図47、遺物図18、遺物観察表18、写真図版36・65)

位置 第2面中央部のO12・13、P12・13グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.880mである。

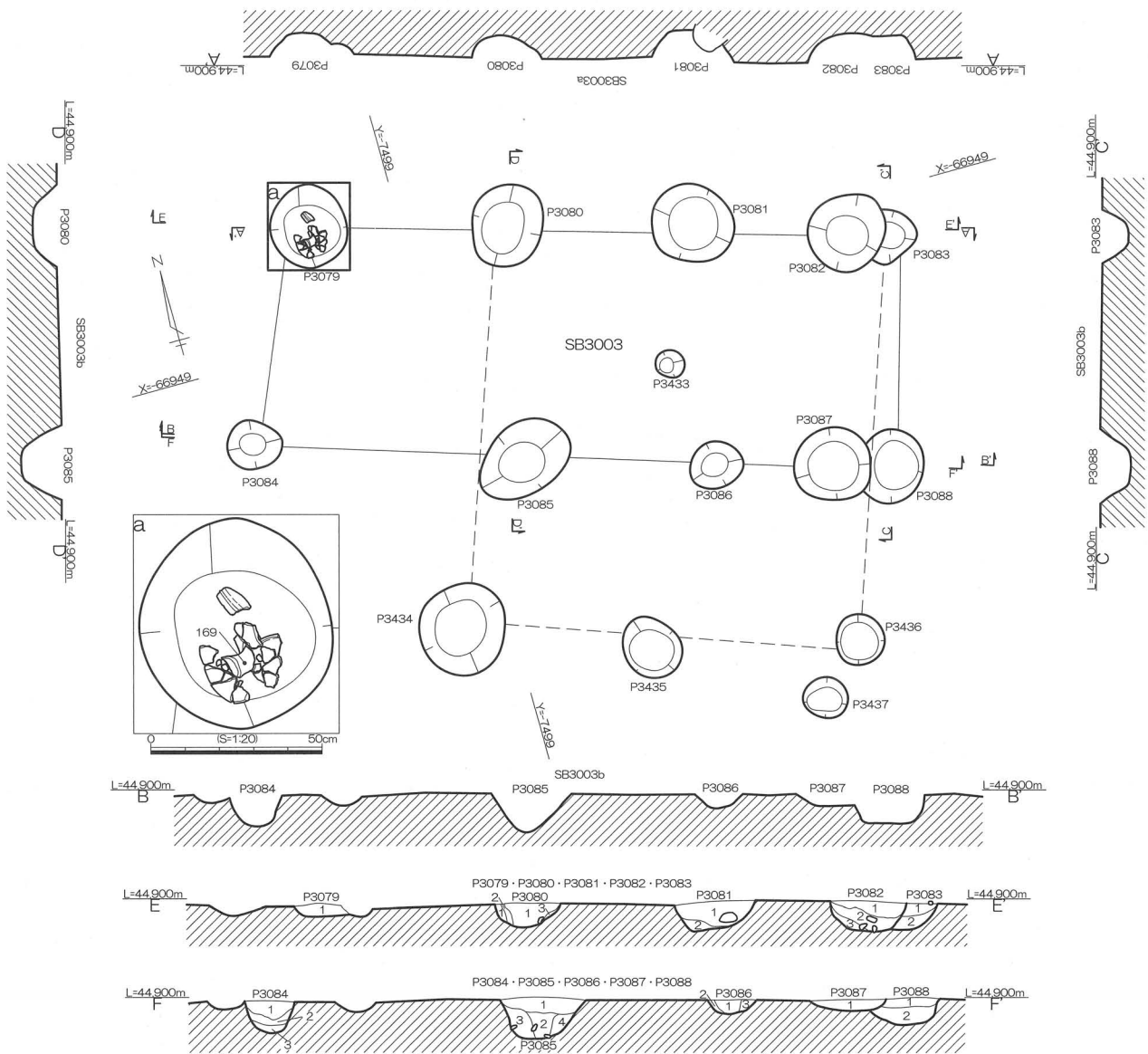
検出状況 圃場整備の際の整地層を除去した段階で黒褐色シルト層面が検出された。周囲に攪乱以外の遺構がほとんどなかったため、この面上で長方形に並んだ柱列が確認された。上面層は削平を受けており、柱穴は浅く残っているのみである。

軸方向・平面形状・規模 桁行3間・梁間1間の掘立柱建物跡である。主軸はE-16°-Sをふる。建物の平面形は長方形である。桁行長4.600m・梁間長1.700mを測る。

SB3003はP3079-P3080-P3081-P3082-P3083-P3084-P3085-P3086-P3087-P3088の10基の柱穴で構成される。P3082はP3083を、P3087はP3088を切って構築されている。各柱穴の規模(長軸×短軸-確認面からの深さ)は、P3079は(0.618m×0.391m-0.156m)、P3080は(0.590m×0.536m-0.156m)、P3081は(0.598m×0.585m-0.233m)、P3082は(0.575m×0.548m-0.221m)、P3083は(0.394m×0.349m-0.200m)、P3084は(0.403m×0.361m-0.246m)、P3085は(0.719m×0.508m-0.312m)、P3086は(0.394m×0.342m-0.113m)、P3087は(0.558m×0.534m-0.099m)、P3088は(0.490m×0.532m-0.056m)である。形状は10基とも平面形は円形、断面形はU字形。底面の調整痕は残っていない。

掘立柱建物跡の柱穴としては、南側に位置するP3434・P3435・P3436と対応させた方が平面図的にはバランスよく感じる。ただし、土質が黒褐色粘土質シルト系の暗味の強い土で、規模は、P3434が(0.671m×0.628m-0.093m)、P3435が(0.464m×0.414m-0.150m)、P3436が(0.373m×0.352m-0.132m)と、深さも若干浅い。このため、P3085～P3088を柱穴とした。

柱穴埋土・礎石の有無 P3080・P3085・P3086は柱痕が確認され、P3080の柱痕埋土は黒褐色シルトを主体とし、P3085の柱痕埋土は黒褐色砂質シルトを主体とし、P3086の柱痕埋土は黒褐色



SB3003 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3079	1	10YR2/2 黒色	シルト	弥生土器高坏、鉄斑あり、礫少量、黄灰色細粒砂2~4%、粘性やや強い、縮りあり
P3080	1	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	礫少量、褐灰色・黒色粘土質シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3080	2	2.5Y2/2 黒褐色	シルト	攪乱、黄灰色細粒砂1%未満、粘性やや強い、縮りあり
P3080	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、粘性やや強い、縮りあり
P3081	1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質 シルト	鉄斑あり、礫あり、灰色シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、粘性強い、縮りあり
P3081	2	10YR2/2 黒褐色	シルト	礫少量、黄灰色細粒砂1%未満、粘性やや強い、縮りあり
P3082	1	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	礫微量、灰黄色粘土質シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3082	2	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	礫少量、褐灰色砂質シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、粘性強い、縮りあり
P3082	3	2.5Y3/1 黒褐色	シルト	礫少量、黄灰色細粒砂1~2%程度、粘性あり、縮りあり
P3083	1	10YR2/1 黒色	砂質シルト	礫微量、褐灰色シルト少量、黄灰色細粒砂1%未満、粘性やや強い、縮りあり
P3083	2	10YR2/1 黒色	粘土質 シルト	黄灰色細粒砂1%未満、粘性強い、縮りあり
P3084	1	10YR2/1 黒色	シルト	礫少量、黄灰色細粒砂2~3%、粘性やや強い、縮りあり
P3084	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質 シルト	黄灰色細粒砂1%未満、粘性強い、縮りあり
P3084	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質 シルト	黄灰色細粒砂1%未満、粘性強い、縮りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3085	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	黄灰色細粒砂1%未満、粘性強い、縮りあり
P3085	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	礫微量、褐灰色中粒砂1%未満、粘性あり、縮りあり
P3085	3	10YR2/3 褐灰色	シルト	礫微量、褐灰色中粒砂1%未満、粘性あり、縮りあり
P3085	4	10YR2/2 黒褐色	粘土質 シルト	礫微量、黄灰色細粒砂、粘性強い、縮りあり
P3086	1	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質 シルト	淡黄色細粒砂1~2%、浅黄色シルト少量、粘性強い、縮りあり
P3086	2	10YR3/2 黒褐色	粘土質 シルト	礫微量、褐灰色砂質シルト少量、粘性強い、縮りあり
P3086	3	10YR2/1 黒色	粘土質 シルト	黄灰色細粒砂1%程度、粘性強い、縮りあり
P3087	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	鉄斑あり、礫あり、灰白色粘土質シルト少量、黒色シルト少量、黄灰色細粒砂2~3%、粘性あり
P3088	1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	鉄斑あり、礫あり、褐灰色中粒砂1%未満、灰黄色粘土質シルト少量、粘性あり、縮りやや軟質
P3088	2	2.5Y2/1 黒色	シルト	鉄斑あり、礫あり、黄灰色細粒砂2~3%、灰黄色粘土質シルト少量、粘性強い、縮りやや軟質

図47 SB3003遺構図・微細図

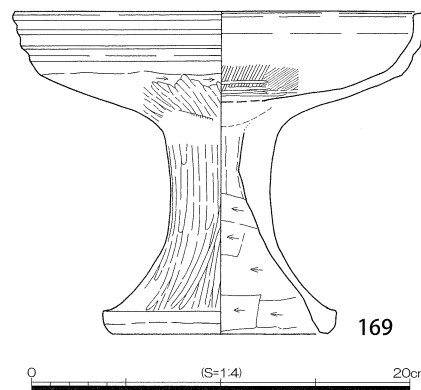
遺物観察表 18

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
169	3	SB3003内 P3079 (3031)	18	65	弥生土器 高坏	口径:(21.6) 器高:(17.0) 脚径:11.3	外面:口縁部ナデ・凹線文3条、坏底部ケズリ・ハケ後ミガキ、脚部ミガキ、脚端部ナデ 内面:口縁部ナデ、坏底部ハケ後ミガキ、脚部ケズリ後ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:にぶい橙	

粘土質シルトを主体とする。他のピットの埋土は黒褐色砂質シルトを主体とする。礎石はない。

遺物出土状況 P3079 から 25 点、P3080 から 5 点、P3081 から 5 点、P3082 から 2 点、P3084 から 2 点、P3085 から 1 点、P3086 から 1 点、P3087 から 1 点、P3088 から 5 点、計 47 点の土器片が出土した。このうち P3079 から出土した土器が一個体となり、弥生土器の高坏 (169) となった。盤形の広い容器の口縁外面に 3 条の凹線文をめぐらしている。弥生時代中期後葉に比定される。

遺構の性格と帰属時期 掘立柱建物跡である。出土遺物等から、弥生時代中期と推測する。(浅井)



遺物図18 SB3003内P3079出土遺物

■ SB3004(図 48、写真図版 36)

位置 第 2 面中央部の O10・11、P10・11 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.863m である。

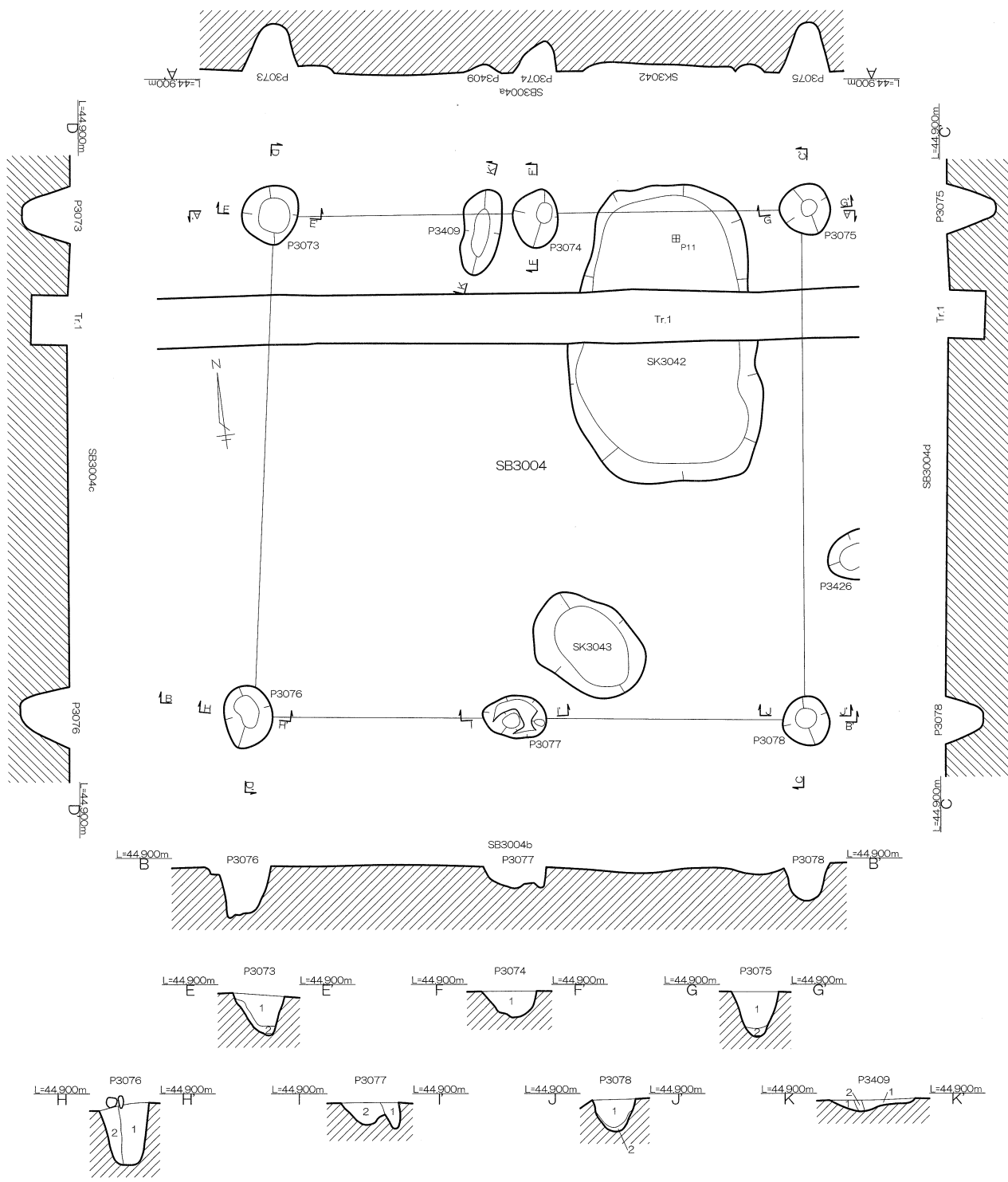
検出状況 圃場整備時の整地層を除去したところで、黒褐色砂質シルト層を検出すると共に、その黒褐色砂質シルト層を切る耕作溝群、耕 3002 が検出された。この耕 3002 を除去したところで、ピットが直線状に 2 列並んでいるのが確認され、掘立柱建物跡として調査した。SB3005 と並んでいる。

軸方向・平面形状・規模 桁行 2 間・梁間 1 間の掘立柱建物跡である。主軸は E-9°-S をふる。軸方向が SB3005・SB3006 等と同じである。建物の平面形は長方形である。桁行長 4.560m・梁間長 4.160m を測る。SB3004 は P3073-P3074-P3075-P3076-P3077-P3078 の 6 基の柱穴で構成される。各柱穴の規模は、P3073 は (0.488m × 0.476m-0.413m)、P3074 は (0.489m × 0.374m-0.258m)、P3075 は (0.427m × 0.414m-0.399m)、P3076 は (0.507m × 0.396m-0.376m)、P3077 は (0.533m × 0.361m-0.209m)、P3078 は (0.408m × 0.388m-0.299m) である。形状は、平面形は P3073・P3074・P3075・P3078 は円形、P3076・P3077 は楕円形を呈する。断面形は P3073・P3076・P3078 は U 字形、P3074・P3075 は V 字形、P3077 は W 字形を示す。P3077 は 2 本の柱を並べたものかもしれない。壁面・底面の調整痕は残っていない。

柱穴埋土・礎石の有無 埋土上層の褐灰色砂質シルト及び、にぶい黄褐色砂質シルトは、本調査区内で黒褐色土層より上層に堆積する暗褐色砂層とほぼ同質であり、その層上から掘り込まれたものと思われる。P3076 には柱痕が確認され、埋土は褐灰色砂質シルトを主体とする。6 基とも礎石はない。

遺物出土状況 土器片 27 点が出土した。P3073 から 4 点、P3074 から 6 点、P3076 から 5 点、P3077 から 8 点、P3078 から 4 点である。弥生土器の細片と思われる。

遺構の性格と帰属時期 掘立柱建物跡である。出土遺物は弥生土器であるが、SB3005 と同じ軸方向で並ぶことから、古代と思われる。(井汲・浅井)



SB3004 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3073	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒色シルト25%、 粘性あり、縮りあり
P3073	2	10YR2/1 黒色	シルト	褐灰色砂質シルト20%程度、 粘性やや強い、縮りあり
P3074	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルト25%、 粘性あり、縮りあり
P3075	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒色シルト10%含む、 粘性あり、縮りあり
P3075	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質 シルト	にぶい黄褐色砂質シルト25%、 粘性あり、縮りあり
P3076	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	柱痕に相当、上面に礫あり、黒色シルト 10%、粘性あり、縮りあり
P3076	2	10YR2/1 黒色	シルト	上面に礫あり、にぶい黄褐色砂質シルト 30%散在、粘性やや強い

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3077	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	斜めに刺さる杭穴、にぶい黄褐色砂質 シルト10%、粘性あり、縮りやや軟質
P3077	2	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質 シルト	にぶい黄褐色砂質シルト10%、 粘性あり、縮りあり
P3078	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	細粒砂多量、黒色土少量、 粘性弱い、縮りあり
P3078	2	10YR2/1 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト10%、 粘性弱い、縮りあり

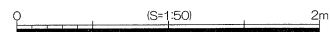


図48 SB3004遺構図

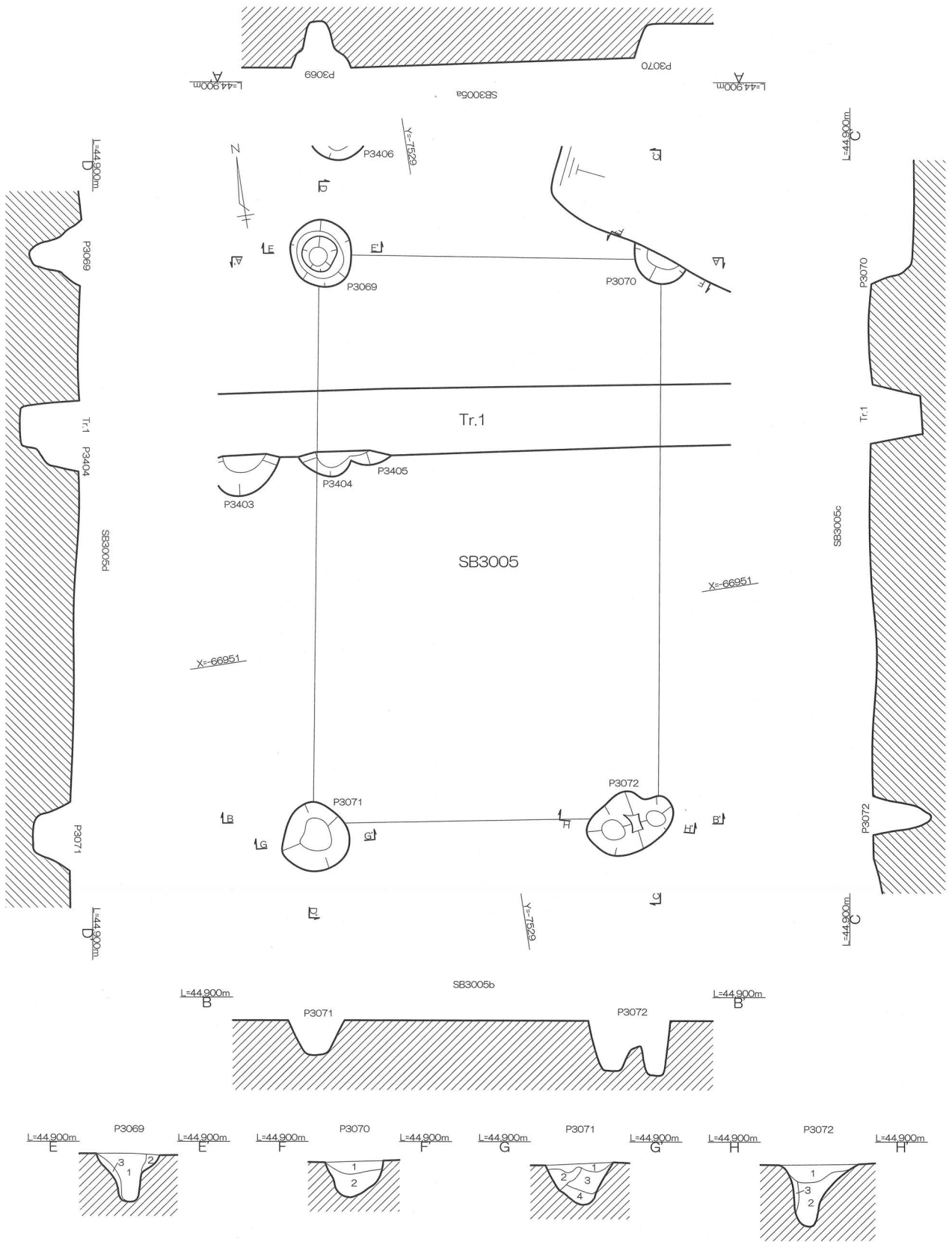


图49-1 SB3005遺構図

SB3005 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3069	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	柱痕、黒色シルト10~20%程度、粘性弱い、縮りやや硬質
P3069	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	褐灰色砂質シルト20%程度、粘性あり、縮りあり
P3069	3	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	褐灰色砂質シルト10%程度、粘性あり、縮りあり
P3070	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗灰黄色粘土質シルト25%、粘性弱い、縮りあり
P3070	2	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	褐灰色砂質シルト10%程度、粘性あり、縮りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3071	1	10YR3/3 暗褐色	砂	中粒砂・細粒砂混合、にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性弱い、縮りあり
P3071	2	10YR4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	灰色シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3071	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	オリーブ褐色砂質シルト20%、粘性あり、縮りあり
P3071	4	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	暗褐色砂質シルト10%、粘性やや強い、縮りあり
P3072	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	暗灰黄色粘土質シルト25%、黒色土少量、粘性やや強い、縮りあり
P3072	2	2.5Y3/2 黒褐色	シルト	柱痕、暗灰黄色砂質シルト・黒色粘土質シルト混合、粘性やや強い
P3072	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性弱い、縮りあり

図49-2 SB3005遺構図

■ SB3005(図 49-1・49-2、写真図版 36)

位置 第2面中央部のO9・10、P9・10グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.817mである。

検出状況 圃場整備時の整地層を除去したところで、黒褐色砂質シルト層を検出すると共に、その黒褐色砂質シルト層を切る耕作溝群、耕3002が検出された。この耕3002を除去したところで、ピットが直線状に2列並んでいるのが確認され、掘立柱建物跡として調査した。SB3004と並んでおり、一連の建物である可能性もある。

軸方向・平面形状・規模 桁行1間・梁間1間の掘立柱建物跡である。主軸はN-10°Eをふる。軸方向がSB3004・SB3006と同じ方向を向く。建物の平面形は長方形である。桁行長3.940m・梁間長2.440mを測る。

SB3005はP3069-P3070-P3071-P3072の4基の柱穴で構成される。各柱穴の規模(長軸×短軸・確認面からの深さ)は、P3069は(0.478m×0.427m-0.368m)、P3070は(0.407m×0.187m-0.013m)、P3071は(0.494m×0.488m-0.257m)、P3072は(0.628m×0.430m-0.390m)である。形状は、平面形はP3069・P3071・P3072は円形。断面形はP3069は有段U字形。P3071は浅いU字形。P3072はU字形を示す。P3070は攪乱により半壊されており、形状・断面形共に不明である。底面の調整痕は残っていない。

柱穴埋土・礎石の有無 P3069・P3072は柱痕が確認され、P3069の柱痕埋土は灰黄褐色砂質シルトを主体とし、P3072の柱痕埋土は黒褐色シルトを主体とする。掘方の埋土は黒色粘土質シルトを主体とする。礎石はない。

遺物出土状況 P3073から須恵器坏底部片(陶邑Ⅲ期後葉併行)1点及び土器片7点、P3072から土器片2点が出土している。

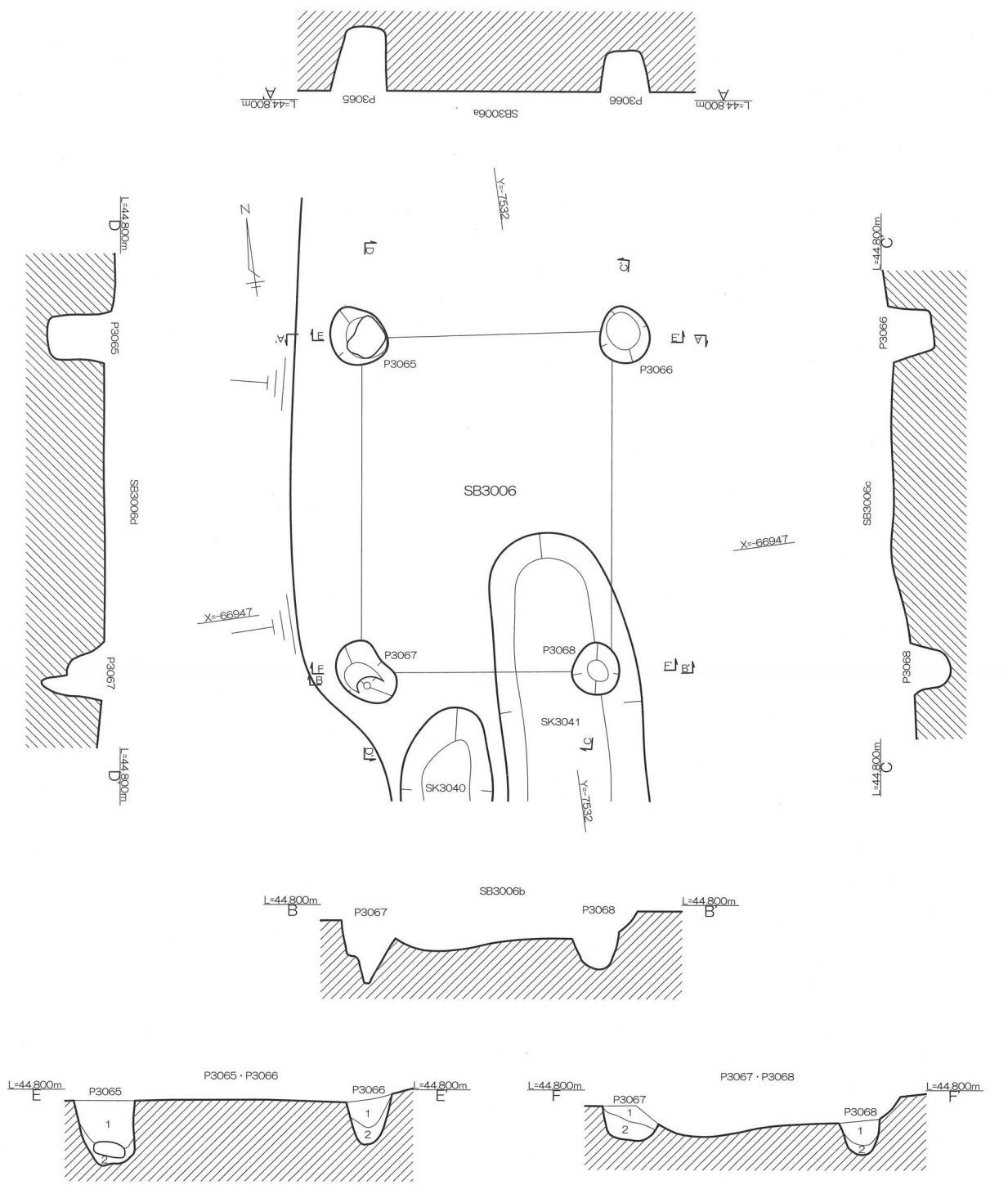
遺構の性格と帰属時期 掘立柱建物跡である。出土遺物と軸方向から、古代と思われる。(浅井)

■ SB3006(図 50、写真図版 36)

位置 第2面中央部のO9グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.858mである。

検出状況 圃場整備時の整地層を除去したところで、黒褐色砂質シルト層を検出すると共に、その黒褐色砂質シルト層を切る耕作溝群、耕3002が検出された。この耕3002とその一部であるSK3040・SK3041の掘削後、4基の柱穴が検出された。

軸方向・平面形状・規模 桁行1間・梁間1間の掘立柱建物跡である。主軸はN-9°Eをふる。軸方向がSB3004・SB3005と同じ方向を向く。建物の平面形は長方形である。桁行長2.160m・梁間長1.600mを測る。



SB3006 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3065	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト20%、粘性やや弱い、縮りあり
P3065	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	礫石(直径20cm大)あり、黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂5%、粘性やや強い、縮りあり
P3066	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト20%、粘性やや弱い、縮りあり
P3066	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂5%、粘性あり、縮りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3067	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	砂粒やや多く含む、粘性やや弱い、縮りあり
P3067	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂5%、粘性あり、縮りあり
P3068	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト20%、粘性やや弱い、縮りあり
P3068	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂5%、粘性やや強い、縮りあり

図50 SB3006遺構図

SB3006 は P3065-P3076-P3067-P3068 の 4 基の柱穴で構成される。各柱穴の規模(長軸×短軸・確認面からの深さ)は、P3065 は (0.382m × 0.361m-0.420m)、P3066 は (0.366m × 0.328m-0.348m)、P3067 は (0.445m × 0.322m-0.571m)、P3068 は (0.337m × 0.305m-0.464m) である。形状は、4 基とも平面形は円形。断面形は U 字形を示す。底面の調整痕は残っていない。

柱穴埋土・礎石の有無 柱痕は残っていない。上層は P3065・P3066・P3068 は暗褐色砂質シルトを主体とし、P3065 はにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。下層は 4 基とも黒褐色シルトを主体とする。P3067 に礎石(直径 20cm)を有する。

遺物出土状況 P3065 から土器片 7 点、P3068 から土器片 1 点が出土している。P3065 から出土した弥生土器片のうち 1 点は壺の口縁外面に斜格子沈線文が施される。

遺構の性格と帰属時期 掘立柱建物跡である。SB3004 と軸方向から、古代の可能性が高い。(浅井)

■ SB3007(図 51、写真図版 36)

位置 第 2 面南西部の P4 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.377m である。

検出状況 近世・近代の耕作土と暗褐色砂層を除去した段階で明黄褐色砂層を検出した。この明黄褐色砂層は弥生時代以降の遺構の確認面である。周囲に稲架穴^{はさ}と思われるピット列があったため最初は掘立柱建物跡とは認識しなかったが、これらの 4 基のピットのみがかなり深さがあり建物跡の可能性を提示することにした。

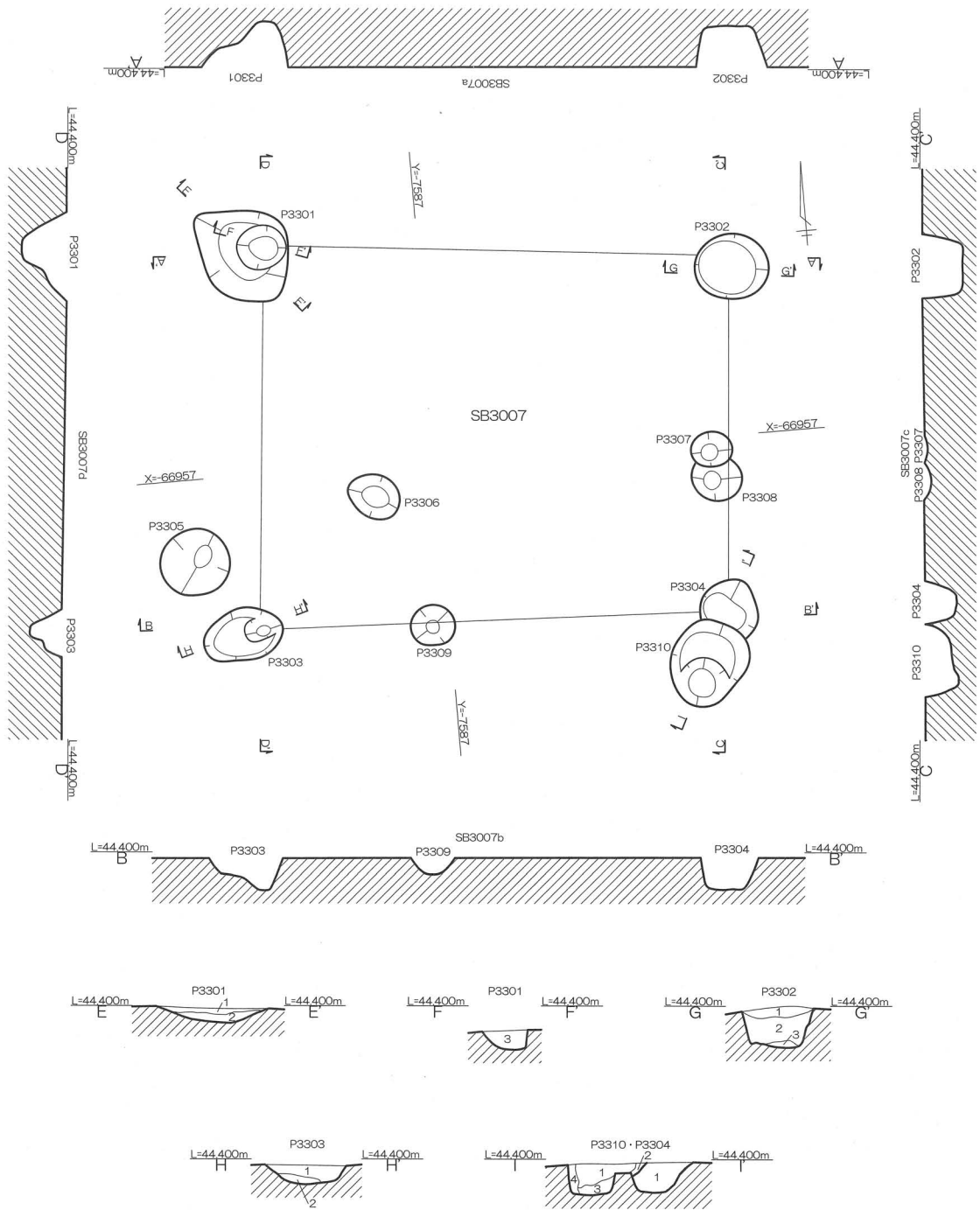
軸方向・平面形状・規模 桁行 1 間・梁間 1 間の掘立柱建物跡である。主軸は E-5°-S をふる。建物の平面形は長方形である。桁行長 3.640m・梁間長 2.620m を測る。

SB3007 は P3301-P3302-P3303-P3304 の 4 基の柱穴で構成される。各柱穴の規模(長軸×短軸・確認面からの深さ)は、P3301 は (0.858m × 0.691m-0.318m)、P3302 は (0.558m × 0.494m-0.350m)、P3303 は (0.618m × 0.404m-0.223m)、P3304 は (0.463m × 0.429m-0.253m) である。平面形状は、P3301 は不整楕円形。P3302・P3303 は楕円形。P3304 は円形。断面形は P3301・P3303 は有段 U 字形。P3302・P3304 は U 字形を示す。底面の調整痕は残っていない。

柱穴埋土・礎石の有無 柱痕は残っていない。上層は P3301・P3302・P3304 は暗褐色砂質シルトを主体とし、P3303 はにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。下層は 4 基とも黒褐色シルトを主体とする。礎石はない。

遺物出土状況 P3301 から土器片 15 点、P3302 から土器片 2 点、P3303 から土器片 3 点、P3304 から土器片 10 点が出土している。すべて細片で、ほとんどが弥生土器の甕片である。

遺構の性格と帰属時期 掘立柱建物跡である。出土遺物と埋土と軸方向から、弥生時代中期に所属すると推測される。(井汲・浅井)



SB3007 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3301	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト20%、 粘性やや弱い、縮りあり
P3301	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂5%、 粘性あり、縮りあり
P3301	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色シルト少量、黒褐色砂10%、 粘性やや強い、縮りあり
P3302	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	灰黄褐色シルト10%、 粘性やや強い、縮りあり
P3302	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒色シルトブロック5%、灰黄褐色シルト微量、 灰色粘土1%、粘性やや強い、縮りあり
P3302	3	10YR2/1 黒色	粘土質	褐灰色砂質シルト5%、 粘性強い、縮りやや硬質

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3303	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト20%、黄灰色砂少量、 黒色シルト微量、粘性あり、縮りあり
P3303	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト25%、褐灰色砂質シルト20%、 粘性やや強い、縮りあり
P3304	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	土器片微量、黒色シルト・灰色シルトごく微量、 粘性あり、縮りあり
P3310	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒色シルトブロック10%、 粘性あり、縮りあり
P3310	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒色シルトブロック20%、 粘性あり、縮りあり
P3310	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	暗味強い、黒色シルト少量、 粘性やや強い、縮りあり
P3310	4	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	暗味強い、黒色シルト少量、 粘性やや強い、縮りあり

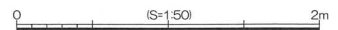


図51 SB3007遺構図

■ 3区第2面竪穴住居跡(表9)

第2面では弥生時代中期の竪穴住居跡12棟が検出された。平面形は円形のものと同丸長方形のものがあり、円形9棟、同丸長方形2棟である。同丸長方形の住居跡2棟は3区南西側の灰黄色砂層面上に構築されている。SI3011、SI3012はやや小型の円形住居であり、4基ある柱穴の1基が礎石柱穴で、この礎石柱穴の脇にもう1基礎石を有するピットを備えている。SI3003もそれに類似するが、4基ある柱穴すべてが礎石柱穴で、そのうち1基の礎石が2段になっており、その2段重ねの礎石の脇にもう1基2段重ねの礎石がある。SI3005、SI3007の2棟は拡張住居である。SI3012内のSK3027から全国で80点目となる銅釧片1点が出土している。

表9 3区 竪穴住居跡一覧表(第2面・第3面含む)

遺構記号	検出位置	形状	規模(m)	埋土	中央土坑・壁溝・貼床	柱穴・ピット・土坑	主要出土遺物	備考	時期
SI3001	第2面所属 Level 44.364 Grid P3	平面形 隅丸長方形 断面形 浅い盤形	長軸 3.442 短軸 2.665 深さ 0.024	暗褐色砂 (洪水砂)	中央土坑1? 壁溝 貼床あり	ピット4基	弥生土器片 石皿		弥生 中期
SI3002	第2面所属 Level 44.286 Grid M2・3、N2・3	平面形 円形 断面形 浅い盤形	長軸 5.096 短軸 (1.767) 深さ 0.220	暗褐色砂	中央土坑一 壁溝あり 貼床あり	柱穴1基 ピット2基	弥生土器片	SI3003を切る	弥生 中期 後葉
SI3003	第2面所属 Level 44.365 Grid N3	平面形 円形 断面形 浅い盤形	長軸 6.007 短軸 5.689 深さ 0.216	暗褐色砂 炭化物微量	中央土坑1 壁溝あり	柱穴5基 ピット5基 土坑1基	弥生土器片 石鉢	SI3002に切られる SI3014を切る 礎石柱穴5基のうち 2基が礎石2段	弥生 中期 後葉
SI3004	第2面所属 Level 44.367 Grid N3・4、O3	平面形 円形 断面形 浅い盤形	長軸 4.758 短軸 4.261 深さ 0.206	暗褐色砂	中央土坑 壁溝あり	柱穴5基 ピット6基	焼成粘土塊	SI3005を切る 試掘Trに切られる	弥生 中期 後葉
SI3005	第2面所属 Level 44.474 Grid N4・O4	平面形 楕円形 断面形 浅い盤形	長軸 7.491 短軸 7.147 深さ 0.371	暗褐色砂	中央土坑 壁溝あり	柱穴11基 ピット25基	弥生土器片 叩き石	SI3004に切られる 拡張あり 試掘Trに切られる	弥生 中期 後葉
SI3006	第2面所属 Level 44.507 Grid N5、O4・5	平面形 楕円形 断面形 浅い盤形	長軸 7.902 短軸 7.437 深さ 0.132	暗褐色砂 耕作攪乱	中央土坑 壁溝あり 貼床少量	柱穴12基 ピット16基 土坑1基	弥生土器片 中央土坑から 石鏃と剥片	SI3015を切る	弥生 中期 後葉
SI3007	第2面所属 Level 44.831 Grid O8・9、P8・9	平面形 楕円形 断面形 浅い盤形	長軸 7.917 短軸 6.106 深さ 0.074	暗褐色砂 耕作攪乱	中央土坑 壁溝あり 貼床少量	柱穴16基 ピット18基 土坑2基	弥生土器片 中央土坑から 甕片	拡張あり 下面に幅の広い溝	弥生 中期 後葉
SI3008	第2面所属 Level 44.320 Grid P12・13、 Q12・13	平面形 不整円形 断面形 浅い盤形	長軸 6.205 短軸 6.155 深さ 0.192	暗褐色砂 炭化物微量	中央土坑 壁溝なし 貼床少量	柱穴5基 ピット7基 土坑2基	土器多数(甕・ 壺・高坏等)、 石包丁		弥生 中期 後葉
SI3009	第2面所属 Level 44.259 Grid O2・O3	平面形 隅丸長方形 断面形 浅い盤形	長軸 3.321 短軸 2.639 深さ 0.192	暗褐色砂	中央土坑 壁溝あり 貼床あり	柱穴1基 ピット4基	石皿、磨石 弥生土器片		弥生 中期
SI3010	第2面所属 Level 44.816 Grid O7・O8	平面形 円形 断面形 (浅い盤形)	長軸 6.349 短軸 5.846 深さ 0.118	暗褐色砂	中央土坑 壁溝あり	柱穴4基 ピット15基 土坑1基	弥生土器片		弥生 中期
SI3011	第2面所属 Level 44.621 Grid O6	平面形 円形 断面形 浅い盤形	長軸 4.539 短軸 4.179 深さ 0.130	暗褐色砂	中央土坑1 壁溝あり	柱穴5基 ピット11基 土坑1基	弥生土器片	南西礎石柱穴脇に礎 石ピット	弥生 中期
SI3012	第2面所属 Level 44.547 Grid P6	平面形 (円形) 断面形 (浅い盤形)	長軸 4.260 短軸 3.850 深さ -	暗褐色砂	中央土坑1 壁溝不明	柱穴6基 ピット1基 土坑4基	SK3026 甕、 SK3027 銅釧片	北東礎石柱穴脇に礎 石ピット	弥生 中期 後葉
SI3013	第3面所属 Level 44.464 Grid O4・P4	平面形 円形 断面形 浅い盤形	長軸 8.419 短軸 8.283 深さ 0.166	黒褐色砂質 シルト(酸化鉄・マン ガン多量)	中央土坑 壁溝あり	柱穴15基 ピット21基 土坑5基	中央土坑に 弥生土器片	SI3005に切られる 拡張あり	弥生 中期 後葉
SI3014	第3面所属 Level 44.279 Grid N2・N3	平面形 円形(隅丸 断面形 方形) (浅い盤形)	長軸 5.259 短軸 4.880 深さ 0.072	黒褐色 砂質シルト	中央土坑 壁溝あり	柱穴7基 ピット5基 土坑2基	被熱を受けた 砥石		弥生 中期 後葉
SI3015	第3面所属 Level 44.444 Grid N4・N5	平面形 円形 断面形 浅い盤形	長軸 7.073 短軸 6.917 深さ 0.054	暗褐色砂～ 黒褐色 砂質シルト	中央土坑 壁溝あり	柱穴14基 ピット11基 土坑3基	P3465から弥 生土器小型甕 出土	SI3006に切られる 松菊里型?	弥生 中期 後葉

■ SI3001(図 52、遺物図 19、遺物観察表 19、写真図版 29・65)

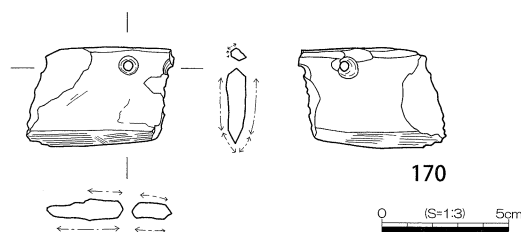
位置 第 2 面 P3 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.364m である。

検出状況 表土剥ぎの際、圃場整備の整地層を除去したところ、明黄褐色砂層を検出した。この明黄褐色砂層は、3 区南西側の褐灰色・黒褐色砂質シルト層の上面に 3～15cm 程度の厚さで堆積しており、洪水性堆積層の可能性が高い。この明黄褐色砂層内から緑色千枚岩製石包丁・石鍬等の石器が出土したため、水田跡の可能性を考慮し、プラン精査を慎重におこなった。その結果、水田跡ではなく竪穴住居跡のプランが検出された。既に床面が露出するまで削平されているが、壁溝が隅丸長方形に囲むのが明瞭に観察できる。

平面形状・規模・付帯施設・主軸方向 平面形は隅丸長方形で、長軸 3.442・短軸 2.665m を測る。断面形は浅い盤形で、壁溝が明瞭に残っている。確認面から床面掘方までの深さは 0.024m である。平面形と規模は SI3009 と類似する。住居内からピット 4 基と壁溝が検出された。各ピットの規模は、P3061 が (0.521m × 0.454m-0.143m)、P3062 が (0.461m × 0.408m-0.164m)、P3063 が (0.491m × 0.412m-0.079m)、P3064 が (0.285m × 0.252m-0.076m) である。形状は、4 基とも平面形は円形で、断面形は U 字形を示す。柱穴を想定できるピットは確認できない。3 区北東側の SI3002～SI3006 等の竪穴住居跡と比べて小規模であることから、柱穴をもたないタイプのものかもしれない。ピット 4 基の埋土は、灰黄褐色砂質シルトもしくはにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。礎石は確認できない。壁溝 SD3005 は深さ 0.105m のしっかりした掘方を有し、途中で切れ目や分岐はない。壁溝埋土は灰黄褐色砂質シルトを主体とする。主軸方向は E-26° -S をふる。

遺物出土状況 床面上に石皿 1 点が検出された。この石皿の位置は埋没時の状態に近いと思われる。壁溝 SD3005 から土器片 5 点、点及びピット内から、弥生土器甕細片が 6 点出土した。実測図は床面直上から出土した 170 を掲載する。粘板岩製の石包丁で、丁寧な円孔が 2 箇所空けられている。

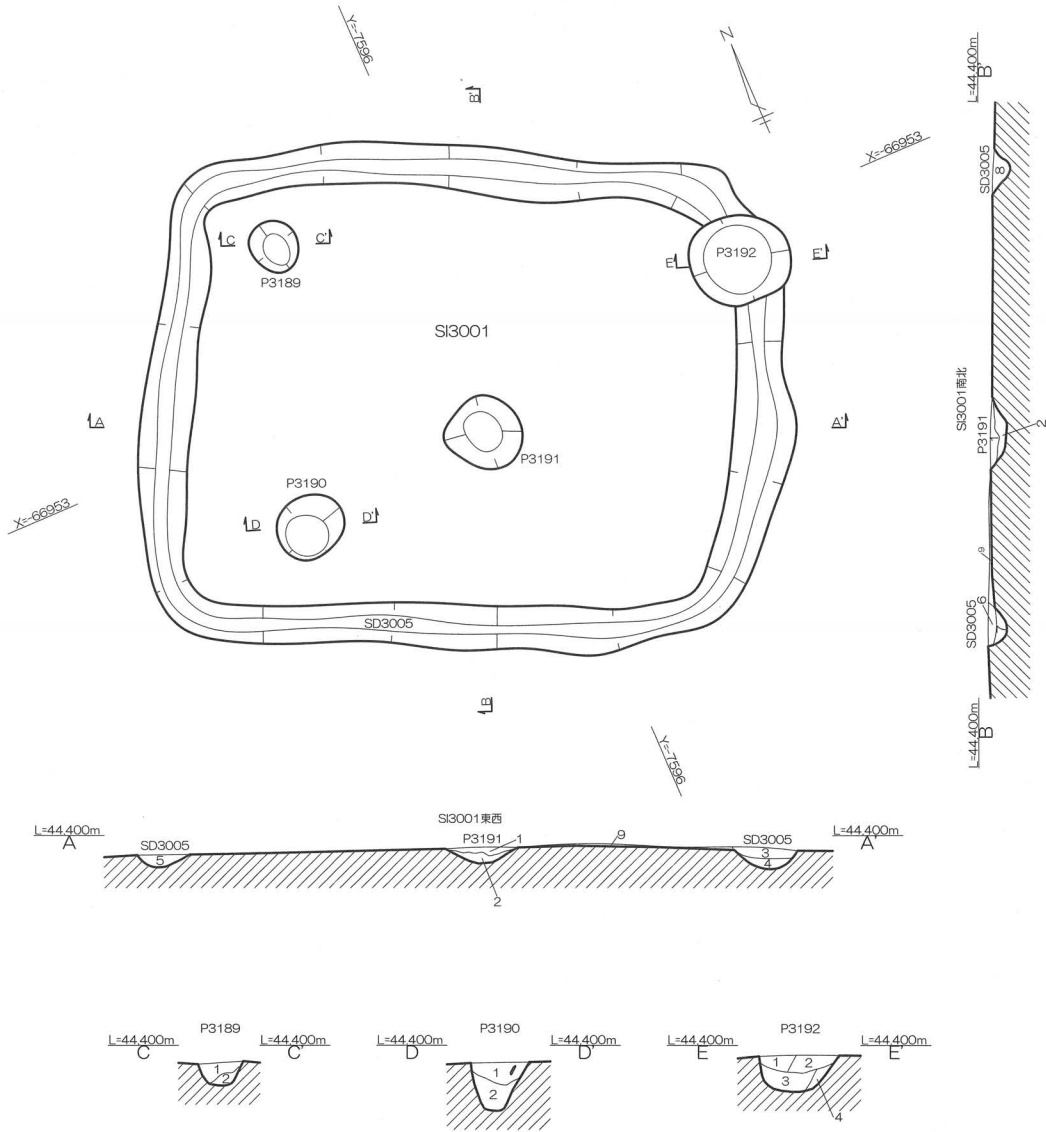
遺構性格と帰属時期 竪穴住居跡である。当初は形状から古墳時代の可能性を考慮したが、出土遺物が弥生土器片のみであり、3 区北西側の SI3002 も明黄褐色砂層を切って構築されており、SI3001 とは面的には同時期である。SI3001 と形態・規模の似る SI3009 も弥生中期の土器片を伴い、本遺構も石包丁を伴うことから、弥生時代中期とする。



遺物図19 SI3001出土遺物

遺物観察表 19

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
170	3	SI3001 (3001)	19	65	石器 石包丁	長さ:5.75～ 幅:3.9 厚さ:0.75 重さ:24.8	磨製、研磨痕あり 紐部穿孔 2 箇所 径 4.5mm、未貫通穿孔 1 箇所 径 4mm あり	粘板岩	灰	両端欠損



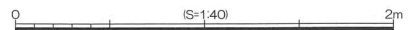
SI3001 東西・南北セクション 土層観察表

遺構番号	層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
P3191	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	細粒砂	にぶい黄褐色細粒砂少量、 粘性あり、縮りあり
P3191	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色細粒砂微量、 粘性あり、縮りあり
SD3005 壁溝	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	細粒砂	灰黄色細粒砂多量、黒色土少量、 粘性弱い、縮りあり
SD3005 壁溝	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色細粒砂微量、黒褐色 シルト10%、粘性あり、縮りあり
SD3005 壁溝	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒色シルト5%、黄白色細粒砂微 量、粘性あり、縮りあり
SD3005 壁溝	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	細粒砂	細粒砂多量、黒色シルト微量、粘 性弱い、縮りあり
SD3005 壁溝	7	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色細粒砂微量、黒褐色 シルト20%、粘性あり、縮りあり
SD3005 壁溝	8	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒色シルト5%、黄白色細粒砂微 量、粘性あり、縮りあり
SI3001	9	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	住居跡床面直上土、細粒砂多量、 黒色土少量、粘性あり、縮りあり

SI3001内ピット 土層観察表

遺構番号	層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
P3189	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黄褐色細粒砂3%、黒色シルト 5%、粘性あり、縮りあり
P3189	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色シルト30%、粘性あり、 縮りあり
P3190	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	細粒砂	弥生土器片微量、黒色シルト 少量、粘性やや弱い、縮りあり
P3190	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色細粒砂微量、 粘性やや弱い、縮りあり
P3192	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黄褐色細粒砂微量、にぶい黄 褐色砂微量、粘性あり、縮りあり
P3192	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黄褐色細粒砂5%、 粘性あり、縮りあり
P3192	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色細粒砂20%、粘性あり、 縮りあり
P3192	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色細粒砂微量、 粘性あり、縮りあり

図52 SI3001遺構図



■ SI3002(図 53-1・53-2、写真図版 30)

位置 第2面北西側 M2・3、N2・3 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.286m である。SI3003 を切る。西側は調査区外に延びる。

検出状況 第1面の暗褐色砂層を人力掘削で除去して黒褐色砂質シルト層を検出し、この黒褐色砂質シルト層を切る遺構として SI3002 のプランを検出した。洪水砂の影響でプラン上での遺構範囲が識別できなかったが、3区 Tr.5 西壁で住居跡の貼床と周溝の掘方断面が確認でき、ようやく半円形のプランを確定した。Tr.5 北西隅では黒褐色砂質シルトの上面に明黄褐色砂層の堆積が確認され、弥生時代頃の当該地ではこの明黄褐色砂層が表土層の下にあり、この層を切って竪穴住居跡が構築されていたことがわかった。

平面形状・規模 平面形は円形と推測される。検出部分での長軸 5.096m・短軸 1.767m を測る。断面形は浅い盤形で、壁溝が明瞭に残っている。確認面から床面掘方までの深さは 0.220m である。貼床と壁溝が検出された。貼床面の直上はやや硬化しており、生活の跡がうかがえる。貼床面上から掘り込まれたピットは P3089 と P3091 の2基である。各ピットの規模(長軸×短軸-床面からの深さ)は、P3089 が (0.622m × 0.594m-0.836m)、P3091 が (0.351m × 0.345m-0.837m) である。形状は、2基とも平面形は円形で、断面形は有段 U 字形を示し、柱穴の深さは 60cm 前後と非常に深い。

柱穴埋土・礎石の有無 P3089 埋土は黒褐色～暗褐色砂質シルトを主体とし、砂粒を多く含む。砂粒・粘土・シルトの混合土のためか埋土が硬質に締る。Tr.5 西壁セクションで確認する限り、竪穴住居跡埋土は洪水性堆積層の暗褐色砂層と一体である。壁溝 SD3001 の埋土は暗褐色砂質シルト主体である。本住居跡は貼床を明瞭に残しており、黒色シルトと明黄褐色砂の混合土である。礎石は確認できない。

遺物出土状況 埋土中から土器片 110 点が出土しており、このうち壺口縁 5 点・甕口縁 4 点・高坏片 4 点が確認できる。他に石器が 3 点ある。貼床面内から土器片 13 点が出土しており、このうち壺口縁部片 1 点に斜格子文と円形浮文が施される。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。時期は出土遺物から弥生時代中期後葉であろう。

■ SI3003(図 54-1・54-2、遺物図 20、遺物観察表 20、写真図版 30・65)

位置 第2面北西側 N3 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.365m である。SI3002 に切られる。SK3006 に切られる。SK3007 に切られる。SI3014 を切る。

検出状況 第1面で洪水性堆積層の暗褐色砂質シルト層が検出され、これを人力掘削で除去して黒褐色砂質シルト層を検出した。土器片・被熱痕のある礫・炭化物が検出されたため、竪穴住居内埋土と考えてプラン精査をおこなったが、この黒褐色砂質シルト層上面ではプラン確定が困難であった。何度かプラン精査をおこない、周辺より礫を多く含む炭化物を微量含む箇所が円形を呈したため、これを竪穴住居跡プランとし、ベルト設定をおこなった。結果的に柱穴 4 基が確認され、住居跡であることが確定した。

軸方向・平面形状・規模・礎石柱穴 平面形は不整円形である。検出長軸 6.007m・短軸 5.689m を測る。断面形は浅い盤形で、壁溝はない。確認面から床面掘方までの深さは 0.216m である。貼床面は検出できない。

柱穴は 4 基が菱形に並んでいる。柱穴の規模は P3096 は (0.457m × 0.412m-0.541m)、P3101

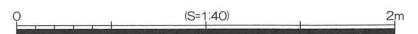
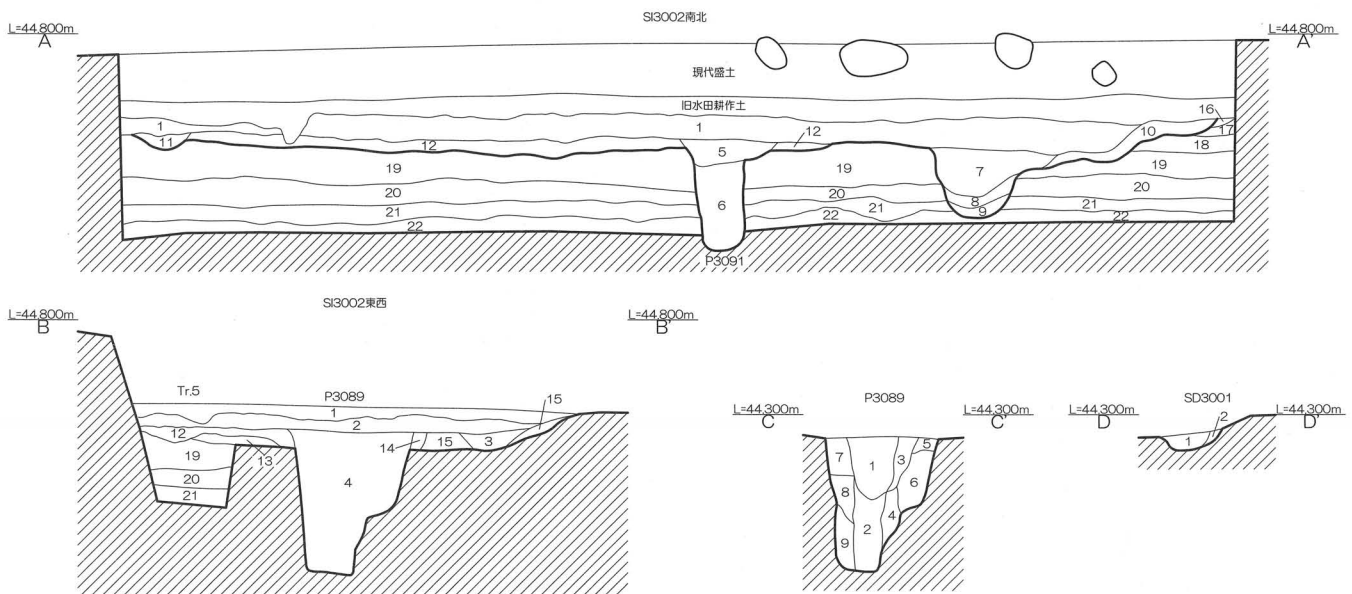
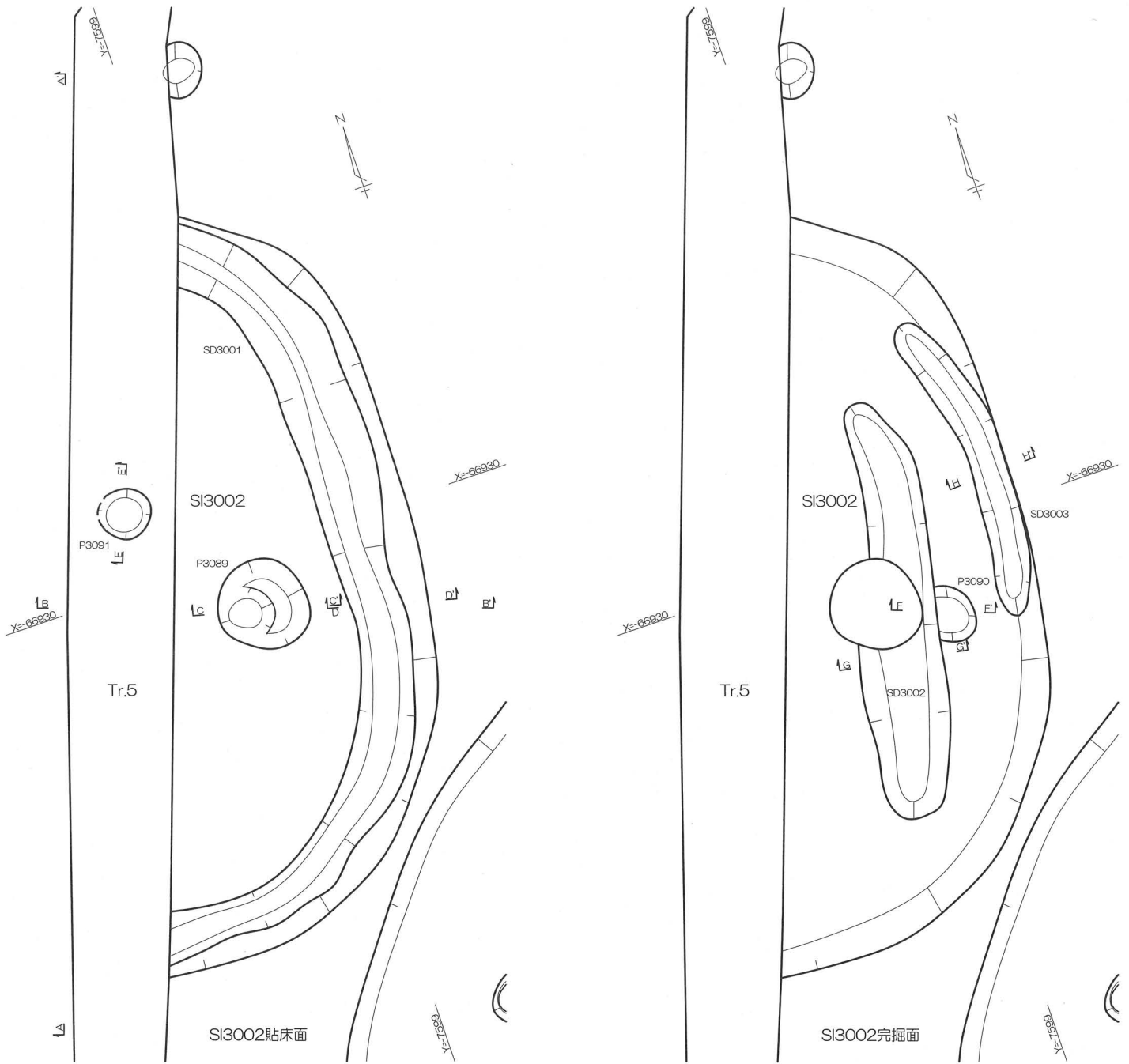
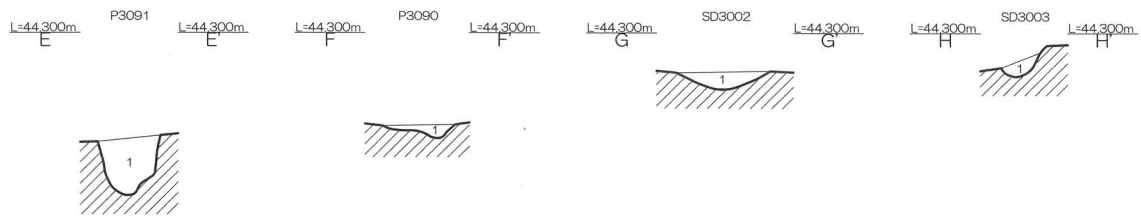


図53-1 SI3002遺構図



SI3002 東西・南北セクション 土層観察表

遺構番号	層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
SI3002	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	弥生土器片微量、暗褐色砂25%、 粘性弱い、縮りやや硬質
SI3002	2	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	黒褐色砂質シルト40%、黄褐色砂 微量、粘性弱い、縮りやや硬質
SD3003 壁溝	3	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質 シルト	細粒砂多量、黒色シルト少量 粘性弱い、縮りあり
SI3002	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質 シルト	黒褐色砂質シルト20%、 粘性強い、縮りあり
P3091	5	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	にぶい黄褐色中粒砂20%、 粘性あり、縮りあり
P3091	6	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	にぶい黄褐色中粒砂5%、 粘性あり、縮りあり
ピット	7	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	にぶい黄褐色中粒砂10%、 粘性あり、縮りあり
ピット	8	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質 シルト	灰白色粒微量、 粘性あり、縮りあり
ピット	9	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	にぶい黄褐色中粒砂10%、 粘性あり、縮りあり
SI3002	10	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	粘性あり、縮りあり
SI3002	11	7.5YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	酸化鉄沈着、砂粒多量、 粘性あり、縮りあり
SI3002 貼床	12	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	明黄褐色砂ブロック30%、 粘性あり、縮りあり
SI3002 貼床	13	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	明黄褐色砂ブロック5%、 粘性あり、縮りあり
SI3002 貼床	14	2.5Y4/1 黄灰色	砂質 シルト	炭化物微量、黒褐色砂質シルト 20%、粘性あり、縮りあり
SI3002 貼床	15	10YR1.7/1 黒色	シルト	黄灰色砂質シルト20%、 粘性やや強い、縮りあり
P3197	16	10YR6/6 明黄褐色	砂	褐色粘土質シルト15%、中粒 砂・粗粒砂やや多い、 粘性なし、縮りやや軟質
P3197	17	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	柱痕、黒色シルト少量、にぶい黄 褐色砂10%、粘性あり、縮りあり
3-6層	18	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	黄灰色砂質シルト5%、 粘性強い、縮りあり
3-7層	19	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	にぶい黄褐色砂混在、 粘性やや弱い、縮りあり
3-8層	20	10YR3/2 黒褐色	砂・砂質 シルト	黒褐色シルト少量、暗褐色砂 混在、粘性弱い、縮り硬質
3-8層	21	10YR3/2 黒褐色	砂・砂質 シルト	暗褐色砂・黄褐色砂混在、 粘性弱い、縮り硬質
3-9層	22	10YR5/6 明黄褐色	中粒砂・ 細粒砂	砂層、粘性なし、縮り硬質

SI3002 ピット・壁溝・小溝 土層観察表

遺構番号	層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
P3089	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	柱痕、 粘性あり、縮りあり
P3089	2	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	柱痕、黒褐色シルト25%、 粘性あり、縮りあり
P3089	3	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	黄褐色細粒砂5%、黒色シルト ブロック3%、粘性あり、縮りあり
P3089	4	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	にぶい黄褐色砂質シルト15%、 黒色シルト20%、粘性あり、縮りあり
P3089	5	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	黒褐色シルト5%、 粘性あり、縮りあり
P3089	6	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質 シルト	にぶい黄褐色シルト5%、 粘性あり、縮りあり
P3089	7	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質 シルト	にぶい黄褐色シルト3%、黒褐色 シルト5%、粘性あり、縮りあり
P3089	8	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	黒褐色シルト25%、 粘性あり、縮りあり
P3089	9	10YR2/1 黒色	シルト	黄褐色砂5%、 粘性やや強い、縮りやや硬質
P3090	1	10YR2/2 黒褐色	シルト	暗褐色シルト20%、 粘性あり、縮りあり
P3091	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	褐色砂質シルト25%、 粘性やや弱い、縮りあり
SD3001	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	褐色砂・黒褐色砂混在、 粘性やや弱い、縮りあり
SD3001	2	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂少量、 粘性やや弱い、縮りあり
SD3002	1	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色シルト5%、灰白色粒1%、 粘性あり、縮りあり
SD3003	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	褐色砂20%、 粘性弱い、縮りやや硬質

図53-2 SI3002遺構図

は (0.464m × 0.441m-0.507m)、P3092 は (0.561m × 0.543m-0.494m)、P3098 は (0.416m × 0.405m-0.527m) である。形状は、4 基とも平面形は円形で、断面形は U 字形もしくは円筒形を示す。この 4 基はいずれも礎石を伴う。このうち P3098 の礎石は 2 段重ねである。また、P3098 の南側には P3099 が並存し、これも礎石が二段重ねである。礎石柱穴の脇にもう一つ礎石ピットを設けるパターンは、SI3011、SI3012 でもみられるが、この SI3003 ではその礎石柱穴と脇の礎石ピットが 2 基とも 2 段重ねの礎石になっていることが特徴的である。用途等は不明としかいえない。SK3005 は住居跡のほぼ中央に位置しており、中央土坑と考えて調査したが、隅丸長方形を呈する大型のもので、規模は (2.278m × 1.693m-0.267m) である。切り合いでは周囲の暗褐色砂質シルト層を切っているようにも見え、この住居跡埋没後に新たに掘られた土坑である可能性も否定できない。

住居埋土・柱穴埋土 埋土は暗褐色砂質シルト・黒褐色砂質シルト層を主体とする。掘方の埋土は、

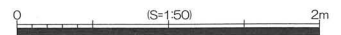
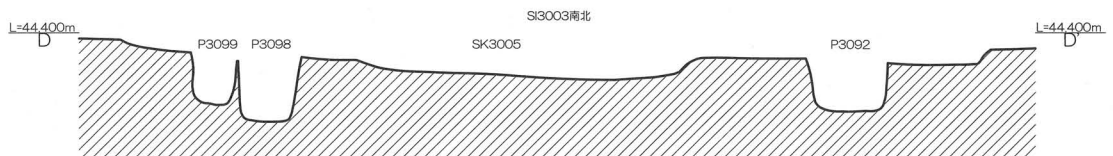
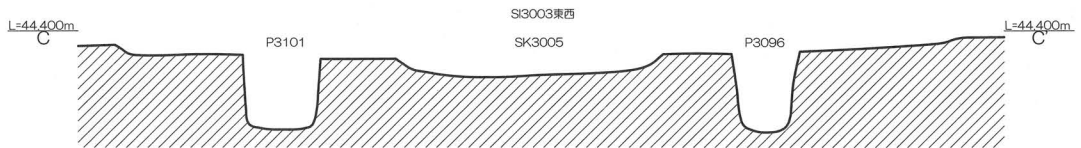
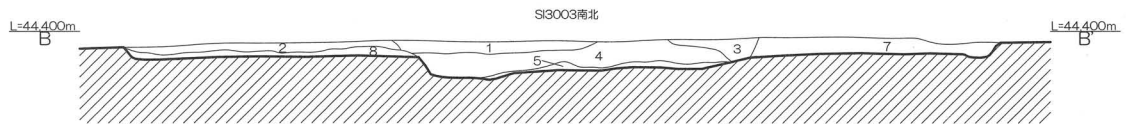
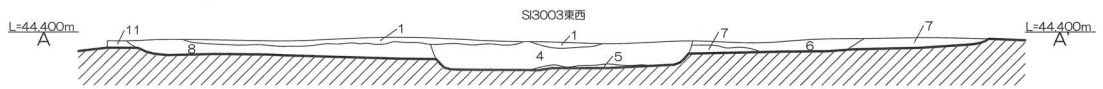
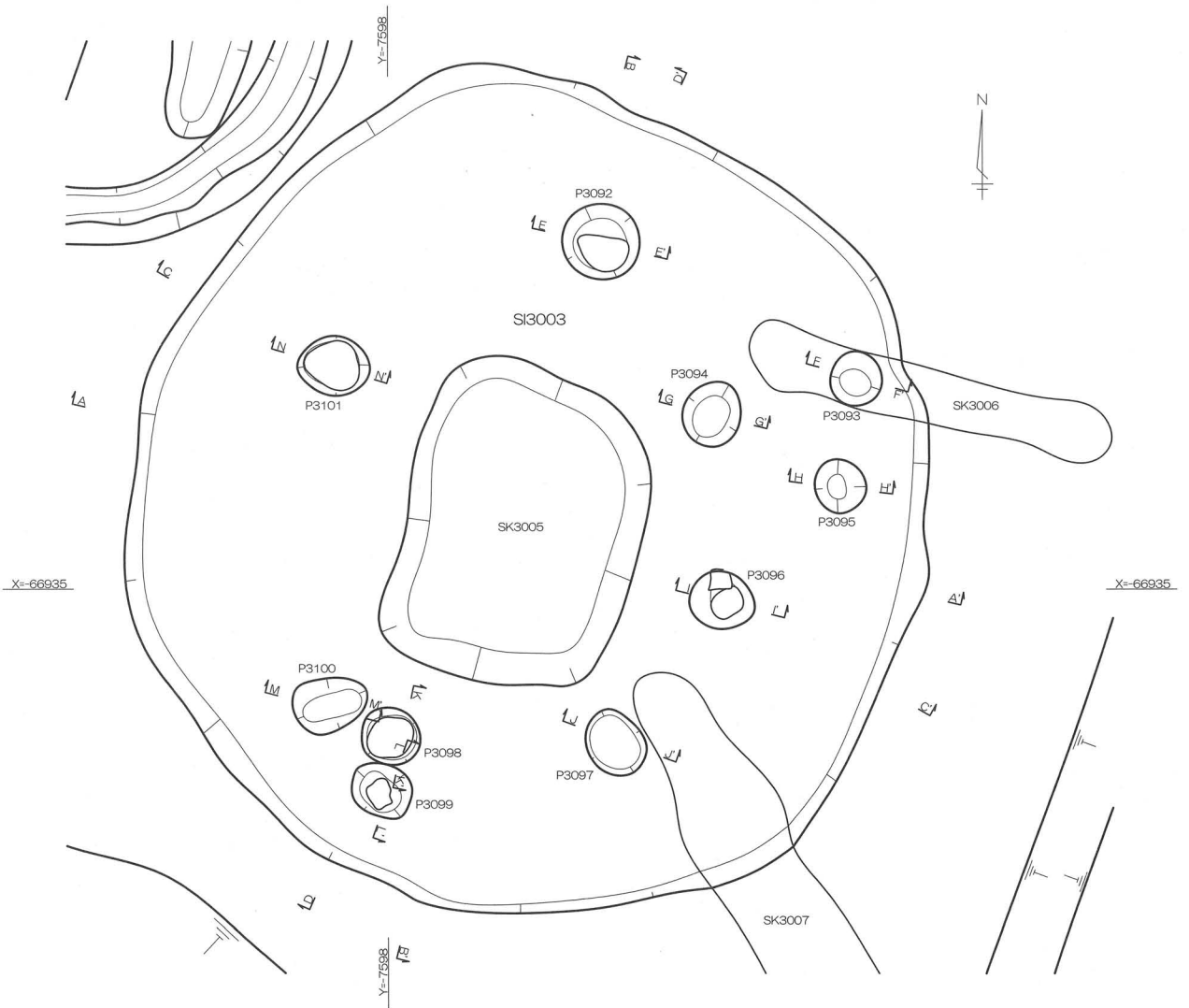
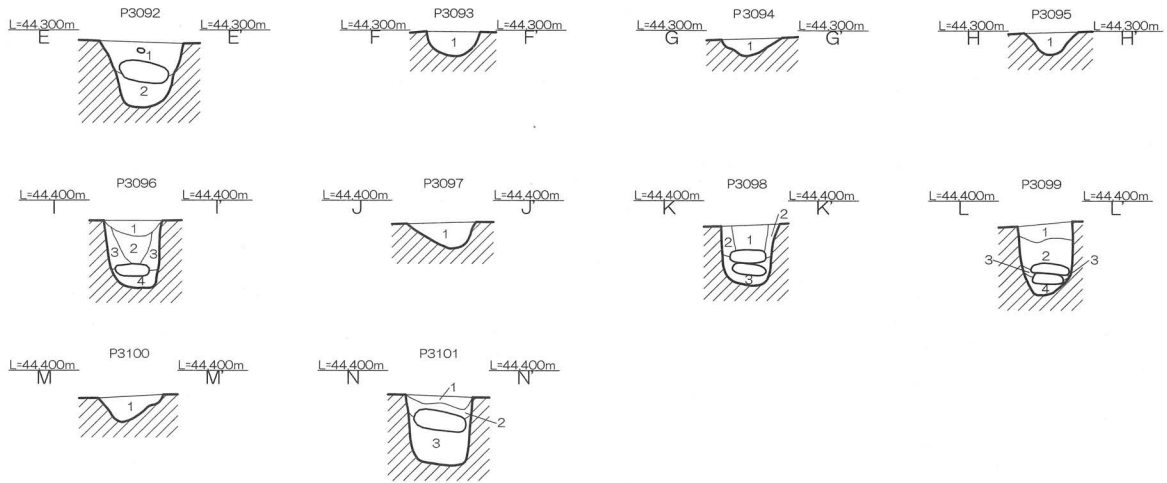


图54-1 SI3003遺構図

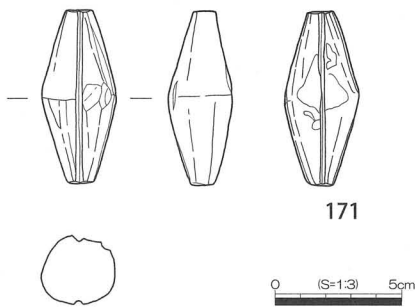


SI3003 東西・南北セクション 土層観察表

遺構番号	層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
SI3003	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	細粒砂	耕作土微量混在、砂粒多量、黒色土少量、粘性弱い、縮りあり
SI3003	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	明黄褐色細粒砂少量、黒色シルト微量、粘性あり、縮りあり
SK3005	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	中央土坑?、明黄褐色細粒砂少量、黒色シルト微量、粘性あり、縮りあり
SK3005	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	中央土坑?、明黄褐色細粒砂少量、黒色シルト微量、粘性あり、縮りあり
SK3005	5	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	中央土坑?、明黄褐色細粒砂1%、黒色シルト5%、粘性あり、縮りあり
SI3003	6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰黄褐色細粒砂・中粒砂15%、黒色シルト5%、粘性あり、縮りあり
SI3003	7	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色細粒砂少量、黒色シルト微量、粘性あり、縮りやや硬質
SI3003	8	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色細粒砂15%、黒褐色シルト20%、粘性弱、縮りやや硬質
3-6層	9	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	遺構外、細粒砂少量、粘性あり、縮りあり

SI3003内ピット土層観察表

遺構番号	層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
P3092	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂10%、粘性弱、縮りあり
P3092	2	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	礎石あり、礎石下埋土、にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性あり、縮りあり
P3093	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3094	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3095	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、粘性弱、縮りあり
P3096	1	10YR3/2 黒褐色	砂	柱痕、にぶい黄褐色砂質シルト5%、粘性あり、縮りあり
P3096	2	10YR2/2 黒褐色	砂	柱痕、粘性あり、縮りあり
P3096	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト5%、明黄色砂微量、粘性あり、縮りあり
P3096	4	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	礎石あり、礎石下埋土、粘性あり、縮りやや硬質
P3097	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	粘性弱、縮りあり
P3098	1	10YR3/2 黒褐色	砂	柱痕、にぶい黄褐色砂ブロック少量、粘性弱、縮りあり
P3098	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト微量、粘性あり、縮りあり
P3098	3	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	礎石2段重ね、粘性あり、縮りやや硬質
P3099	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂20%、粘性弱、縮りあり
P3099	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂5%、粘性あり、縮りあり
P3099	3	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色細粒砂少量、粘性あり、縮りあり
P3099	4	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	礎石2段重ね、粘性あり、縮りやや硬質
P3100	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	明黄褐色細粒砂1%、黒色シルト5%、粘性あり、縮りあり
P3101	1	10YR3/3 暗褐色	細粒砂	にぶい黄褐色細粒砂5%、黒色シルト10%、粘性あり
P3101	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	黒褐色細粒砂10%、粘性あり、縮りあり
P3101	3	10YR3/2 黒褐色	シルト	礎石あり、礎石下埋土、にぶい黄褐色シルト10%、粘性あり、縮りあり



遺物図20 SI3003出土遺物

図54-2 SI3003遺構図

遺物観察表 20

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
171	3	SI3003 (3055)	20	65	石器 石錘	長さ:6.9 幅:2.9 厚さ:2.5 重さ:45.5	紡錘形 磨製、研磨は精緻 有溝石錘、両端部を除く長軸方向に施溝、溝断面V字形	橄欖石含有 輝石安山岩	灰	一部欠損

黒褐色砂質シルト層とほぼ同じである。埋土中に炭化物を少量含み、焼土粒を微量含む。

遺物出土状況 埋土中・ピット内・土坑内から土器片 378 点が出土した。このうち甕口縁部片 9 点・壺口縁部片 19 点・注口片 1 点・把手片 3 点が確認される。また、このうち SK3006 からは 36 点の土器片が出土した。いずれも小破片である。実測図 1 点を掲載した。171 は石錘であり、輝石安山岩製で紡錘形に作られる。磨製で丁寧な作りで、縦方向の溝を有する。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。SI3002 に切られ、第 3 面 SI3014 を切ることから、弥生時代中期後葉に収まる。

■ SI3004(図 55・56-1・56-2、写真図版 31)

位置 第 2 面北西側 N3・4、O3・4 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.367m である。SI3005 を切る。試掘トレンチに切られる。

検出状況 第 1 面で洪水性堆積層の暗褐色砂質シルト層が検出され、これを人力掘削で除去して黒褐色砂質シルト層を検出した。この層上で楕円形のプランが検出された。SI3005 との切り合いは試掘トレンチの壁面(図 55A-A')で確認した。

軸方向・平面形状・規模 平面形は楕円形である。残存長軸 4.758m・短軸 4.261m を測る。断面形は浅い盤形で、壁溝が明瞭に残っている。確認面から床面掘方までの深さは 0.206m である。

柱穴は P3107-P3102、P3109-P3104・P3105 が対になり、菱形に並ぶ 4 本柱穴の可能性が高い。ただし、P3110 も一定の深さがあり、6 本柱の可能性もある。各ピットの規模は P3107 は (0.470m × 0.393m-0.630m)、P3102 は (0.655m × 0.446m-0.817m)、P3109 は (0.379m × 0.354m-0.399m)、P3104 は (0.443m × 0.351m-0.811m)、P3105 は (0.499m × 0.434m-0.418m)、P3110 は (0.505m × 0.476m-0.452m) である。形状は、4 基とも平面形は円形で、断面形は U 字形もしくは円筒形を示す。P3104 が突出して深い。P3106 は中央土坑の可能性があるが、断定はできない。

柱穴埋土・礎石の有無 遺構内埋土は褐灰色砂質シルト層である。掘方の埋土は、黒褐色砂質シルト層とほぼ同じ、黒褐色砂質シルトを主体とする。いずれの柱穴にも礎石は確認できない。

遺物出土状況 埋土中から 185 点の土器片が出土した。土器はいずれも弥生土器と思われ、壺口縁部片 10 点・甕口縁部片 7 点・高坏片 1 点が確認できる。それらとは別に、住居内埋土の北壁寄りに焼成粘土塊が検出された。手で捏ねたままのゆがんだ形で焼成塊となったもので、一部筒状になる箇所があり、棒状のものに固められていたものかもしれない。このような焼成粘土塊が出土したのはこの住居跡だけである。

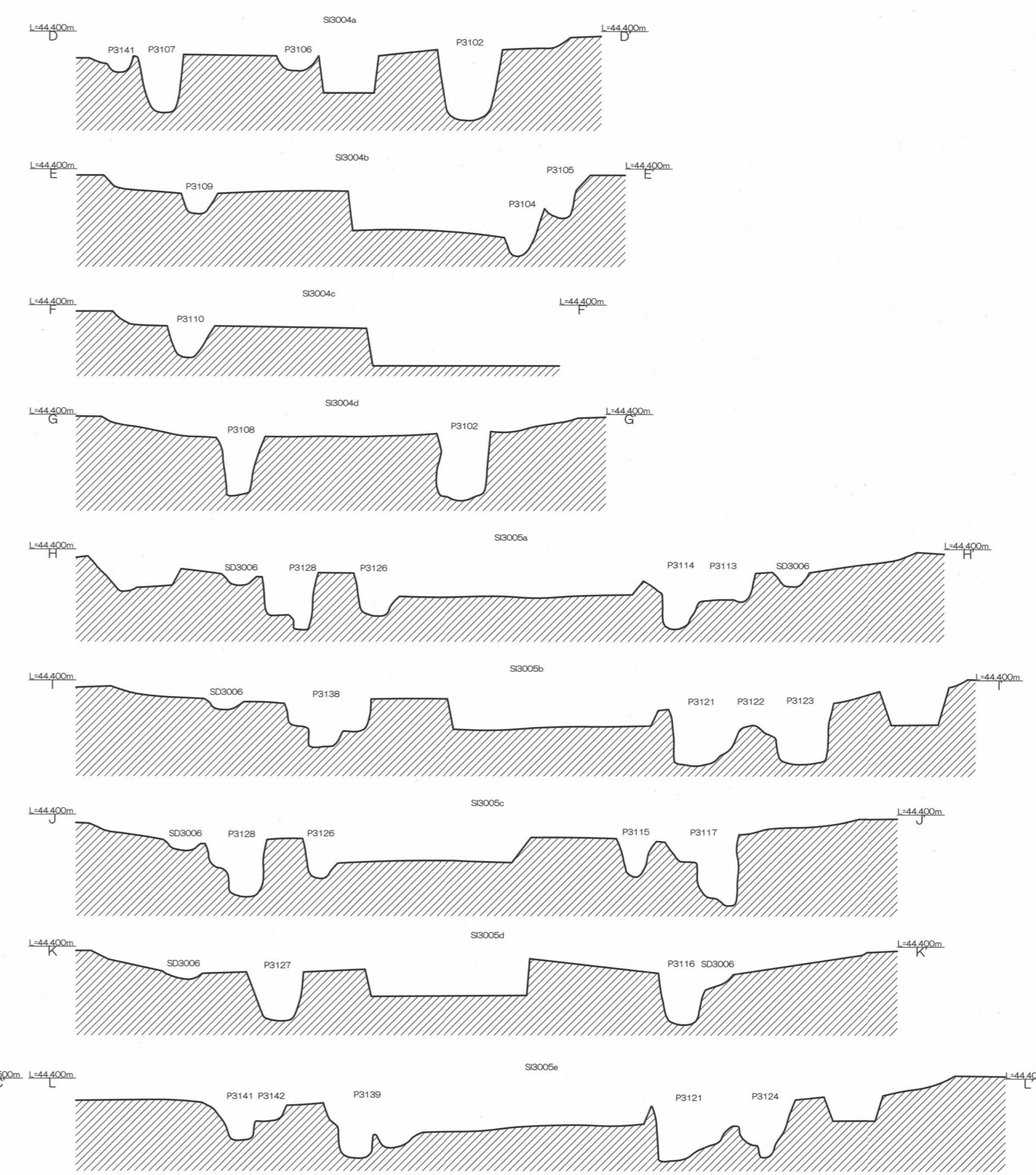
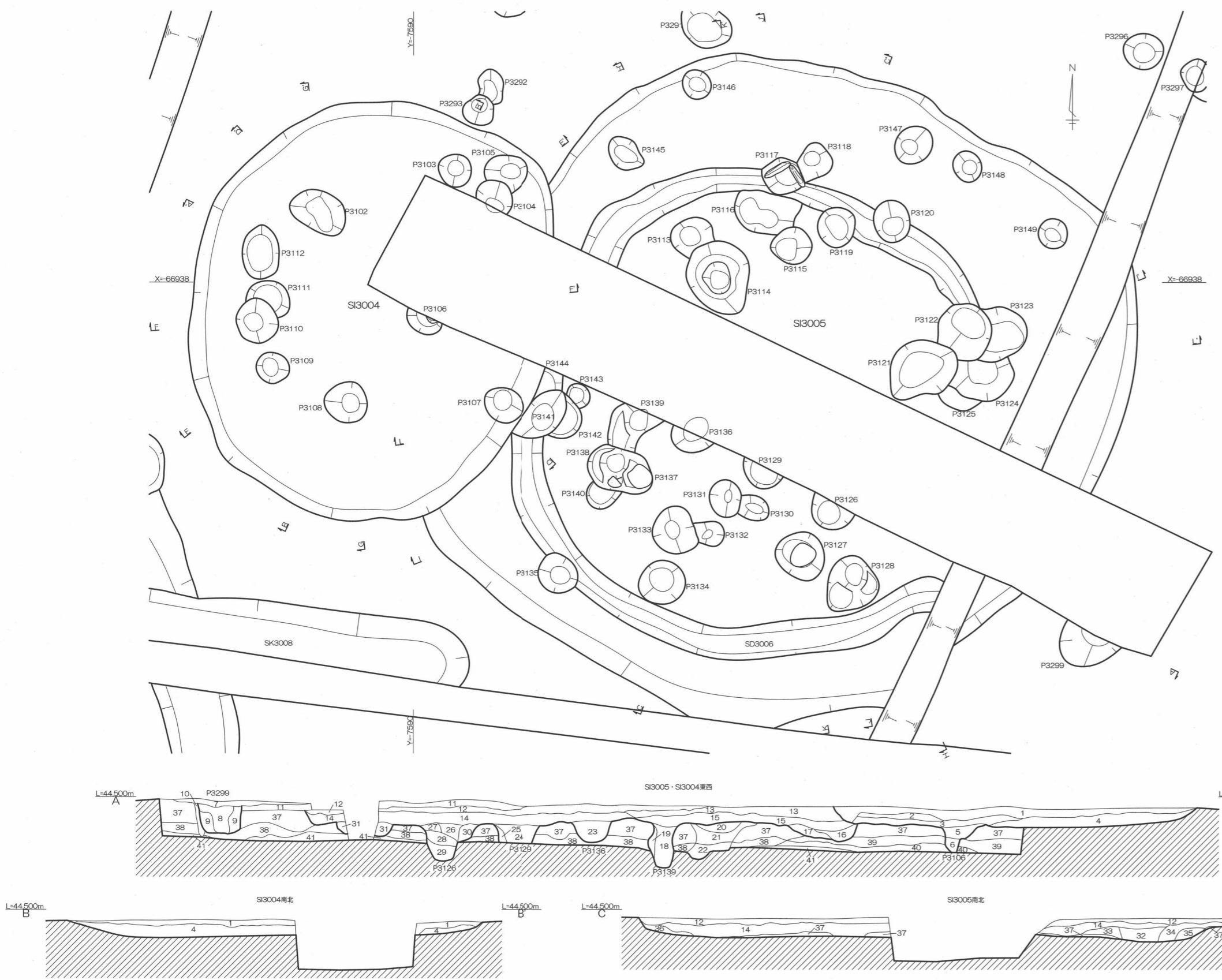
遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。出土遺物から弥生時代中期後葉頃と思われる。

■ SI3005(図 55・56-1・56-2、遺物図 21、遺物観察表 21、巻頭図版 6、写真図版 31・65)

位置 第 2 面 M4・O4 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.747m である。SI3004 に切られる。試掘トレンチに切られる。

検出状況 洪水性堆積層の暗褐色砂質シルト層を除去し、黒褐色シルト層を検出した。SI3005 はこの層を切る遺構の一つである。SI3004 との切り合いは、試掘トレンチの壁面で確認した。

平面形状・規模 平面形は円形である。長軸 7.491m・短軸 7.147m を測る。断面形は浅い盤形で、壁溝が明瞭に残っている。確認面から床面掘方までの深さは 0.371m である。



SI3004・SI3005 東西・南北セクション 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SI3004	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	暗褐色シルト20%、粘性弱、 締りあり
SI3004	2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト30%、粘性 弱、締りあり
SI3004	3	10YR3/3 暗褐色	砂	暗褐色シルト20%、粘性やや 弱い、締りあり
SI3004	4	10YR3/3 暗褐色	砂	粘性弱、締りあり
SI3005	5	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂5%、粘性やや 弱い、締りあり
SI3005	6	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂質シルト10%、粘性あり、 締りあり
SI3005	7	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	耕作擾乱あり、 粘性やや弱い、締りあり
P3299	8	10YR3/2 黒褐色	砂	にぶい黄褐色砂質シルト20%、 粘性あり、締りあり
P3299	9	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒褐色砂質シルト10%、 粘性あり、締りあり
P3299	10	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト少量、 粘性あり、締りあり
SI3005	11	10YR3/1 黒褐色	シルト	耕作による擾乱あり、砂粒少量、 粘性あり、締りあり
SI3005	12	10YR3/3 暗褐色	砂	炭化物微量、褐灰色シルト30%、 粘性あり、締りあり
SI3005	13	10YR4/2 灰黄褐色	砂	にぶい黄褐色砂質シルト20%、 粘性あり、締りあり
SI3005	14	10YR3/3 暗褐色	砂	貼床？、炭化物微量、にぶい黄褐色砂 質シルト20%、粘性やや弱い、締りあり
SI3005	15	10YR4/2 黒褐色	砂	にぶい黄褐色砂質シルト20%、黒褐色 シルト10%、粘性あり、締りあり
	16	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト5%、 粘性あり、締りあり
	17	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト5%、 粘性あり、締りあり
P3139	18	10YR3/3 暗褐色	砂	黒褐色砂質シルト5%、 粘性あり、締りあり
P3139	19	10YR3/3 暗褐色	砂	黒褐色砂質シルト10%、 粘性あり、締りあり
	20	10YR3/3 暗褐色	砂	植物痕？、黒褐色砂質シルト10%、 粘性弱、締りあり
	21	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	植物痕？、粘性弱、締りあり
	22	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	植物痕？、粘性弱、締りあり
P3136	23	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粗粒砂や多い、 粘性弱い、締りあり
P3129	24	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト少量、 粘性あり、締りあり
P3129	25	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	明黄褐色砂ブロック30%、 粘性あり、締りあり
P3126	26	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト少量、 粘性あり、締りあり
P3126	27	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色シルト30%、 粘性あり、締りあり
P3126	28	10YR3/2 黒褐色	シルト	暗褐色砂質シルト20%、粘土質 シルト少量、粘性あり、締りあり
P3126	29	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト20%、 粘性あり、締りあり
	30	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト20%、粘土質 シルト少量、粘性あり、締りあり
	31	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	粘土質シルト少量、 粘性あり、締りあり
P3119	32	10YR3/1 黒褐色	シルト	砂粒少量、粘性あり、締りあり
P3119	33	10YR3/2 黒褐色	シルト	砂粒少量、粘性あり、締りあり
SD3006	34	10YR3/2 黒褐色	壁溝	砂粒少量、粘性あり、締りあり
SI3005	35	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂質シルト少量、 粘性あり、締りやや硬質
SI3005	36	10YR2/1 黒色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、 粘性あり、締りやや硬質
3-8層	37	10YR2/1 黒色	シルト	粗粒砂・中粒砂・粘土質シルト 少量、粘性あり、締りあり、遺物なし
3-9層	38	10YR2/1 黒色	シルト	漸移層的、粘土質シルト・砂粒少量、 粘性弱、締りあり
3-9層	39	10YR3/1 黒褐色	砂・シルト	漸移層的、植物根痕多い、 粘性弱、締りあり
3-10層	40	10YR5/6 黄褐色	砂	基盤層、粘性弱、締り硬質
3-10層	41	10YR5/6 黄褐色	砂	基盤層、粘性弱、締り硬質

図55 SI3004・SI3005遺構図1



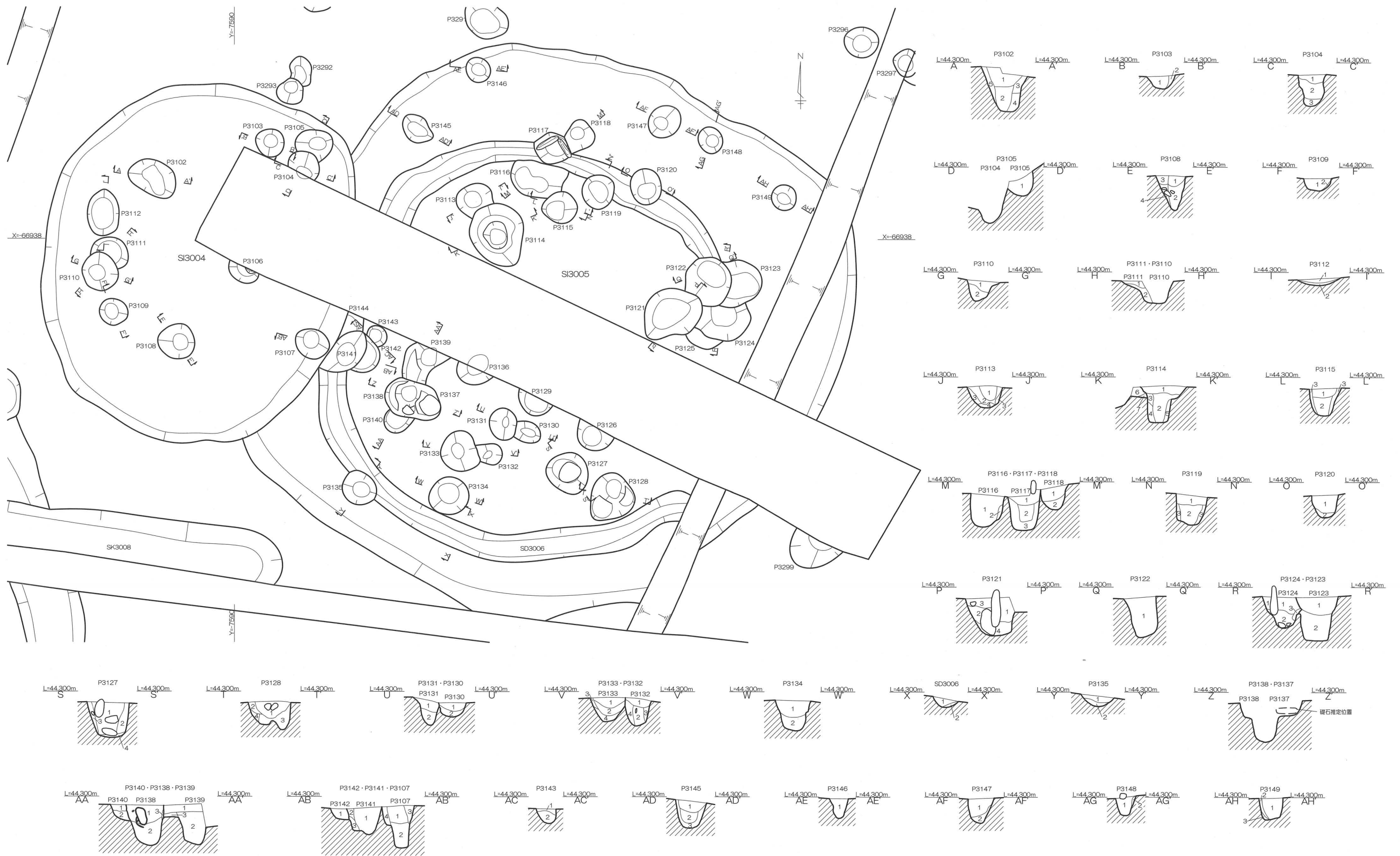


图56-1 SI3004·SI3005遺構図2

3区 SI3004 ビット 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3102	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	柱痕、粘性あり、締りあり
P3102	2	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	柱痕、粘性あり、締りあり
P3102	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色シルトブロック20%、粘性あり、締りあり
P3102	4	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	明黄褐色シルトブロック15%、粘性あり、締りあり
P3102	5	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色シルト20%含む粘性あり、締りあり
P3103	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗色シルト25%含む粘性あり、締りあり
P3103	2	10YR4/1 褐色灰	砂質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック25%、粘性あり、締りあり
P3104	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト25%、粘性あり、締りあり
P3104	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂30%、粘性あり、締りあり
P3104	3	10YR4/1 褐色灰	砂質シルト	にぶい黄褐色シルトブロック25%、粘性あり、締りあり
P3105	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂40%、粘性あり、締りあり
P3108	1	10YR4/1 褐色灰	砂質シルト	柱痕、粘性あり、締りあり
P3108	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	直径2~3cm大の円礫少量、粘性あり、締りあり
P3108	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	明黄褐色砂40%、粘性あり、締りあり
P3108	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	直径2~10cm大の円礫少量、粘性あり、締りあり
P3109	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂10%、粘性あり、締りあり
P3109	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂10%、粘性あり、締りあり
P3110	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質ブロック10%、粘性あり、締りあり
P3110	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	褐灰色シルト15%、粘性あり、締りあり
P3111	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色シルトブロック30%、粘性あり、締りあり
P3111	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	2cm大の礫5%、粘性あり、締りあり
P3112	1	10YR6/3 にぶい黄褐色	砂	黒色砂5%、粘性あり、締りあり
P3112	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂10%、粘性あり、締りあり

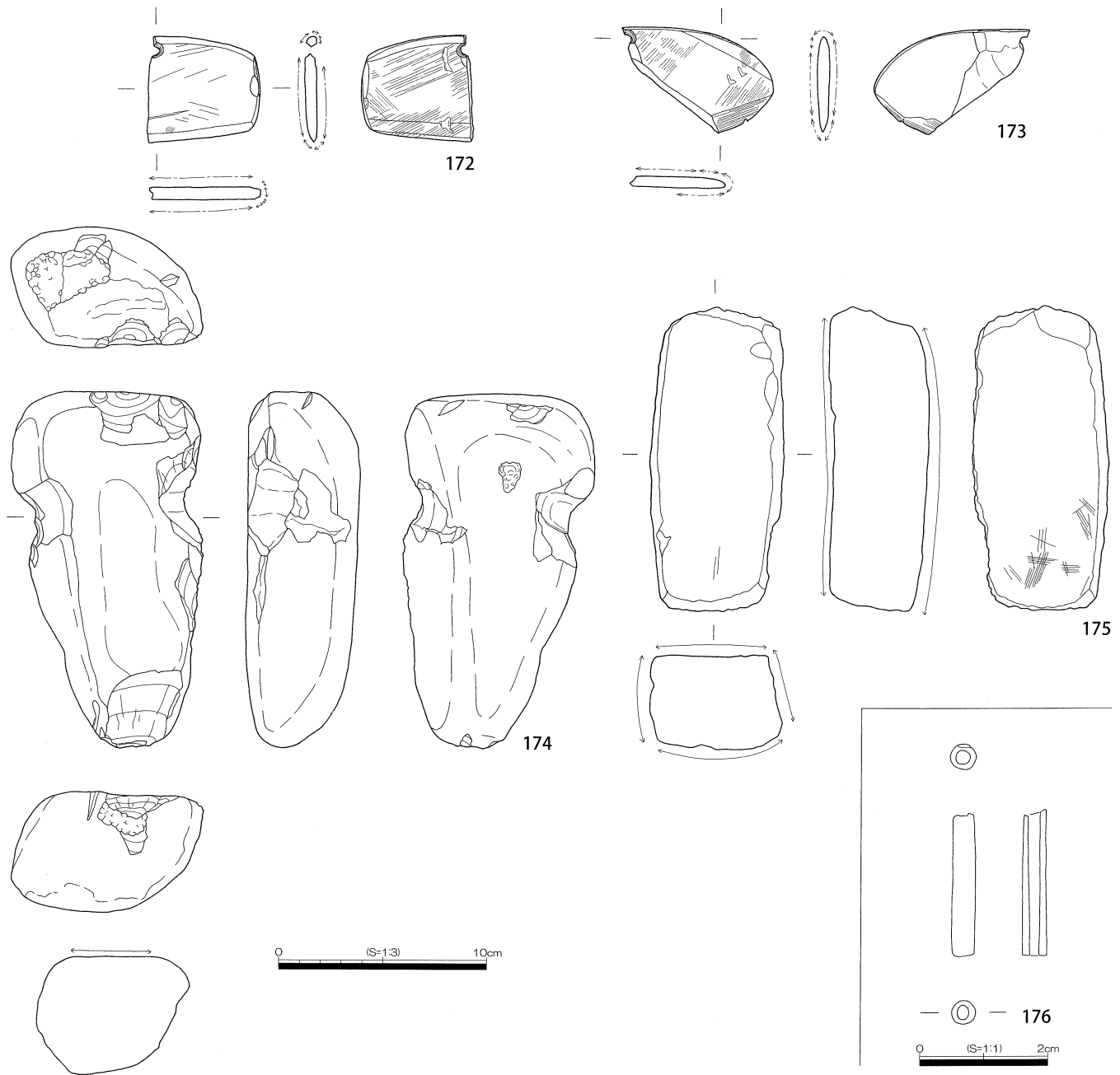
遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3117	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	柱痕、直径20cm大の礫1、灰黄褐色砂30%
P3117	2	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	柱痕、黄褐色砂30%、粘性あり、締りあり
P3117	3	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黒色シルト混在、粘性あり、締りあり
P3118	1	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色シルト20%、粘性あり、締りあり
P3118	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰黄色砂20%、粘性あり、締りあり
P3119	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト30%、粘性あり、締りあり
P3119	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト少量、粘性あり、締りあり
P3119	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	明黄褐色砂5%、黒色シルト少量、粘性あり、締りあり
P3120	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	花崗岩粒微量、粘性あり、締りあり
P3120	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	明黄褐色砂30%、粘性あり、締りあり
P3121	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3121	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	直径15cm大の礫1、粘性あり、締りあり
P3121	3	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	直径5cm大の礫1、粘性あり、締りあり
P3121	4	10YR2/1 黒色	砂質シルト	明黄褐色砂30%、粘性あり、締りあり
P3122	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂5%、粘性あり、締りあり
P3123	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3123	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	褐色砂15%、粘性あり、締りあり
P3124	1	7.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	直径15cm大の礫1、粘性あり、締りあり
P3124	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	直径5cm大の礫少量、粘性あり、締りあり
P3124	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒色砂5%、粘性あり、締りあり
P3127	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	直径15cm前後の礫3、暗褐色砂30%
P3127	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト30%、粘性あり、締りあり
P3127	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐色砂15%、粘性あり、締りあり
P3127	4	10YR2/1 黒色	砂質シルト	明黄褐色砂30%、粘性あり、締りあり
P3128	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	直径5cm大の礫1、粘性あり、締りあり
P3128	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3128	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	明黄褐色砂5%、粘性あり、締りあり
P3128	4	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色砂5%、粘性あり、締りあり
P3130	1	10YR5/1 褐灰色	砂	黒褐色砂質シルト25%、粘性あり、締りあり
P3130	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト20%、粘性あり、締りあり
P3131	1	10YR5/1 褐灰色	砂	黒褐色砂質シルト25%、粘性あり、締りあり
P3131	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3132	1	10YR5/1 褐灰色	砂	黒褐色砂質シルト10%、粘性あり、締りあり
P3132	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	土器片微量、粘性あり、締りあり
P3132	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3132	4	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3133	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒色砂5%、粘性あり、締りあり
P3133	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3133	3	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3133	4	10YR5/6 黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト40%、粘性あり、締りあり
P3134	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3134	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SD3006	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	花崗岩粒微量、粘性あり、締りあり
SD3006	2	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト少量、粘性あり、締りあり
P3135	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	花崗岩粒微量、にぶい黄褐色砂40%、粘性あり
P3135	2	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト20%、粘性あり、締りあり
P3138	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	直径15cm大の礫1、土器片含む、粘性あり、締りあり
P3138	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	土器片含む粘性あり、締りあり
P3138	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト30%、粘性あり、締りあり
P3139	1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト多量、粘性あり、締りあり
P3139	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3139	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト多量、粘性あり、締りあり
P3140	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3140	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3107	1	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3107	2	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	黒褐色砂質シルト10%、粘性あり、締りあり
P3107	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3107	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐色砂15%、粘性あり、締りあり
P3141	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	マンガン斑微量、粘性あり、締りあり
P3141	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3141	3	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	褐灰色砂質シルト微量、粘性あり、締りあり
P3142	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト25%、粘性あり、締りあり
P3143	1	10YR4/1 褐色灰	砂	黒褐色砂質シルト25%、粘性あり、締りあり
P3143	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3145	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3145	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3145	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂15%、粘性あり、締りあり
P3146	1	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3147	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3147	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色砂20%、粘性あり、締りあり
P3148	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	直径10cm大の礫1、粘性あり、締りあり
P3148	2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3149	1	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト30%、粘性あり、締りあり
P3149	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり
P3149	3	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	黄褐色砂20%、粘性あり、締りあり

3区SI3005 ビット・壁溝 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3113	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	明黄褐色砂30%、粘性あり、締りあり
P3113	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色砂20%、粘性あり、締りあり
P3113	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	黒色砂質シルト25%、粘性あり、締りあり
P3113	4	10YR2/1 黒色	砂質シルト	黒色シルト少量、粘性あり、締りあり
P3114	1	10YR4/1 褐色灰	砂質シルト	黒褐色砂質シルト10%、粘性あり、締りあり
P3114	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	柱痕、明黄褐色砂5%、粘性あり、締りあり
P3114	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト10%、粘性あり、締りあり
P3114	4	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂20%、粘性あり、締りあり
P3114	5	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂30%、粘性あり、締りあり
P3114	6	10YR1/3 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト10%、粘性あり、締りあり
P3114	7	10YR1/5 褐色灰	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、粘性あり、締りあり
P3115	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂少量、粘性あり、締りあり
P3115	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	明黄褐色砂5%、粘性あり、締りあり
P3115	3	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	黄褐色砂30%、粘性あり、締りあり
P3116	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂30%、粘性あり、締りあり
P3116	2	10YR6/6 明黄褐色	砂質シルト	黒色砂5%、粘性あり、締りあり

図56-2 SI3004・SI3005遺構図2



遺物図21 SI3005出土遺物

遺物観察表 21

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
172	3	SI3005 (3011)	21	65	石器 石包丁	長さ:5.35~ 幅:5.15 厚さ:0.6 重さ:37.4	長方形 磨製、研磨痕あり 紐部穿孔1箇所残存径4mm	緑色岩	灰	1/2以上欠損
173	3	SI3005内 P3114 (3357)	21	65	石器 石包丁	長さ:7.3~ 幅:5.1~ 厚さ:0.6 重さ:25.5	磨製、研磨痕あり 紐部穿孔1箇所径4mm残存	粘板岩	灰	1/2以上欠損
174	3	SI3005 (3011)	21	65	石器 叩石	長さ:17.15 幅:9.15 厚さ:5.7 重さ:1260	挟入り 両端に敲打痕あり 敲打後の擦面1面あり	頁岩(新第三紀)	灰	
175	3	SI3005 (3011)	21	65	石器 砥石	長さ:14.7 幅:6.4 厚さ:4.6 重さ:720.0	角柱形、断面は方形 砥面4面	流紋岩	浅黄橙	付着物多く表面観察は困難
176	3	SI3005 (3011)	21	65	石製品 管玉	長さ:2.3 幅:0.35 厚さ:0.35 重さ:0.2	円筒形 穿孔具は石針、両面穿孔か、孔径2mm	流紋岩質凝灰岩 (緑色凝灰岩)	灰黄褐	両面IIc類か

住居の拡張もしくは立て直しのため、柱穴の掘り直しが激しく、対応関係が見極めきれない。おそらく一度に立てられていたのは4基ないし6基であろう。対応する可能性が高い組み合わせとして、P3128・P3126-P3114・P3113、P3138-P3121・P3123、P3128・P3129-P3115・P3117、P3127-P3116、P3141・P3142・P3139-P3121・P3124をエレベーションで示した。各ピットの規模は、P3128が(0.636m×0.599m-0.792m)、P3126が(0.523m×残存値0.311m-0.538m)、P3114が(0.867m×0.728m-0.720m)、P3117が(0.508m×0.421m-0.801m)、P3115が(0.426m×0.426m-0.640m)、P3117が(0.508m×0.421m-0.801m)、P3127が(0.571m×0.536m-0.702m)、P3141が(0.739m×0.406m-0.541m)、P3142が(0.476m×残存値0.398m-0.390m)、P3139が(残存値0.532m×残存値0.505m-0.783m)、P3121が(0.8626m×0.679m-0.760m)、P3124が(0.744m×残存値0.528m-0.731m)である。

ピット内に礎石を有していたのは、P3127・P3137である。それらとは別に、P3117・P3121・P3124・P3127・P3138では、平坦な円盤形の石がピット内に立てて埋められていた。柱の補強として用いられたものであろうか。東側に位置するSI3006と比べて住居床面の掘方が深い。

竪穴住居跡埋土・柱穴埋土 セクションA-A'・C-C'で遺構埋土を観察した。埋土は暗褐色砂主体層である。14層も暗褐色砂主体であるが、炭化物を微量含み、上面がほぼ水平面となる。この14層が貼床の可能性もある。にぶい黄褐色砂質シルトを少量含む。各柱穴の埋土は黒褐色砂質シルトを主体とする。基盤層の黄褐色砂層まで深く掘り込んだ柱穴をいくつか確認できる。

遺物出土状況 埋土中・ピット内・壁溝中から907点の土器片が出土した。ほとんどが弥生土器片と推測され、甕口縁部片78点・壺口縁部24点・高坏片74点等が確認できる。土器片の中には、甕の口縁端部に擬凹線文を有するものが含まれる。石器・石製品5点の実測図を掲載する。172と173は石包丁でいずれも円孔部分で割れている。172は緑色岩製、173は粘板岩製である。174は叩き石として分類したが明確ではない。側面2箇所には抉りが入られ、側面1面に擦面、両端に打痕が残る。抉り部分は紐を巻いた跡とみられ、何らかの柄に縛り付けて石槌風に用いたものかもしれない。175は直方体の砥石で流紋岩製である。176は流紋岩質凝灰岩製の管玉で、長さ2.3cmの細長い形状のものである。土器片の中に分銅形土製品の可能性のある小片(写真16)が含まれる。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。他の住居跡より掘方が深く埋土はよく残っていたが、大型の土器片はなく、擬凹線文を有する甕や石包丁の出土から、弥生時代中期後葉とする。

■ SI3006(図57-1・57-2・58、遺物図22、遺物観察表22、写真図版31・66)

位置 第2面北西側N5、O4・5グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.507mである。北側のSI3015を切る。土坑SK3013との同時期に存在した可能性がある。

検出状況 圃場整備の整地層と旧耕作土を除去した段階で、洪水性堆積層の暗褐色砂層が検出された。この暗褐色砂層は弥生時代の遺物包含層であり少量の土器片を含む。この層中に少しまとまった

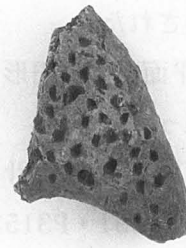


写真16 SI3005出土土製品

土器が集中し、硬質に土が固まった箇所があり、この層を掘り下げたところで住居跡の床面が検出された。検出面は黒褐色砂質シルト層面であり、貼床の残骸と思われる明黄褐色砂と黒褐色シルトの混合土が少量検出された。

形態・規模 平面形は楕円形である。残存長軸 7.640m・短軸 6.900m を測る。断面形は浅い盤形で、壁溝が明瞭に残っている。

住居内ピット・土坑は計 29 基が確認された。このうち、六角形に並ぶ柱穴が確認でき、P3167-P3174、P3151・P3152-P3169、P3158・P3159-P3172 が対となる。各ピットの規模(長軸×短軸-床面からの深さ)は、P3167 は (0.731m×0.660m-0.692m)、P3174 は (0.699 m×0.594m-0.575m)、P3151 は (0.615m×0.508m-0.586m)、P3152 は (0.768×0.573-0.567m)、P3169 は (0.670m×0.571m-0.696m) である。P3158 は (0.678m×0.609m-0.741m)、P3159 は (1.074m×残存値 0.850m-0.787m)、P3172 は (1.044m×0.776m-0.752m) である。形状は、いずれも円形もしくは楕円形で、断面形は U 字形である。柱穴の深さは 70cm に達するものが多く、今回検出された他の竪穴住居跡に比較して堅牢な感がある。SK3018 は中央土坑である。平面形は円形で断面形は底が丸く上端付近が広がりながら開く形で、規模は (1.326m×1.243m-0.493m) である。

住居跡埋土・柱穴埋土 遺構上面埋土は洪水砂の暗褐色砂・にぶい黄褐色砂層である。この層に含まれる土器片は、破損が著しい。後世の耕作と圃場整備の際の攪乱によるものと思われる。床面に少量であるが、貼床の残骸と思われる黒色シルトと明黄褐色砂との混合土が確認できる。この混合土は SI3002・SI3007 の貼床にも見られ、当該地の竪穴住居跡の貼床には意図的にこの混合土を用いられたものと思われる。ピット群の埋土には、埋土上層及び柱痕部に暗褐色砂・にぶい黄褐色砂が多量に含まれる。

遺物出土状況 住居床面直上及びピット・土坑・壁溝内から 940 点の土器片が出土した。内訳は甕の口縁部片 132 点・壺の口縁部片 68 点・高坏片 38 点・把手片 7 点等が確認できる。比較的まとまった破片についてはドット記号 (d) を付して座標を記録して採取した。遺物の含まれる住居床面直上の暗褐色砂は洪水砂層であり、床面直上の数点をのぞいて遺物がかなり攪乱されて元位置から動いているようである。実測図は 6 点を掲載する。177 は弥生時代中期の甕である。口縁端部に凹線文 2 条を施す。178 は口縁端部に擬凹線文 3 条を施す。179 は無頸壺の口縁部破片で複雑な装飾を有する。肩部にキザミが施される突帯を 6 条貼り付け、突帯上に 2 本一組の棒状浮文を縦方向に数組配する。青谷上寺池遺跡等で類似の土器が出土している。180 は壺の体部片で、上半部に櫛描で斜格子文・直線文・刺突文を施す。181 は頁岩製の石鏃で、中央土坑 SK3018 内からの出土である。SK3018 から



写真 17 SI3006 内 SK3012 出土 石鏃 (181) 接合資料

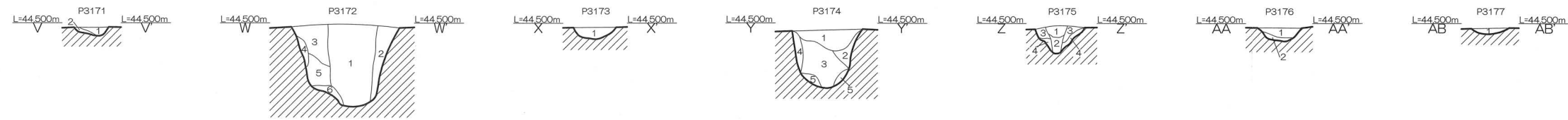
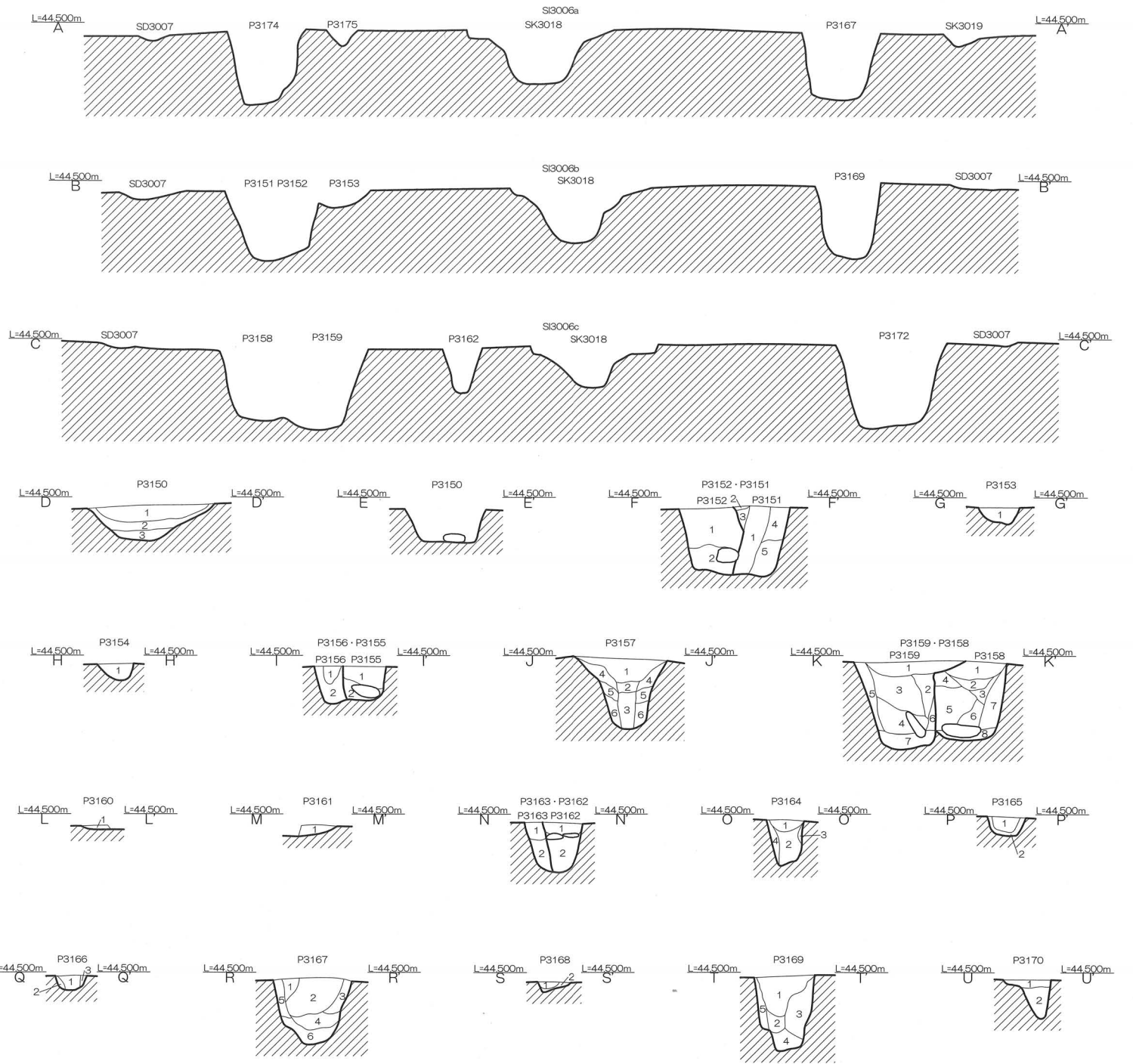
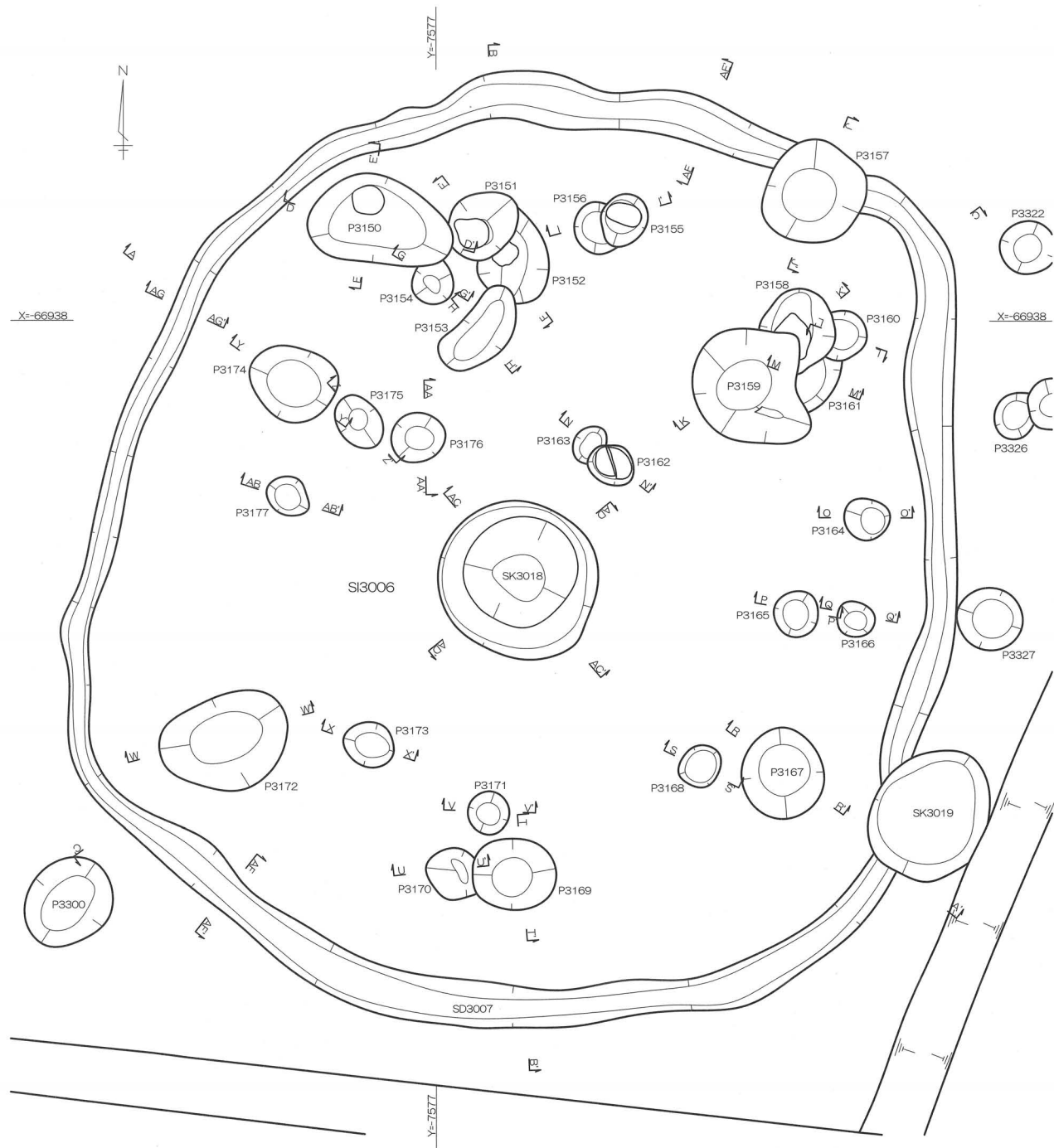
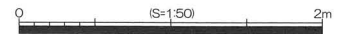


图57-1 SI3006遺構図

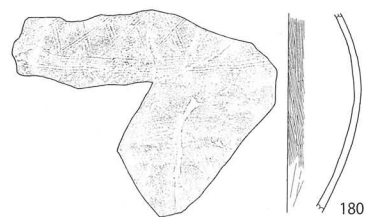
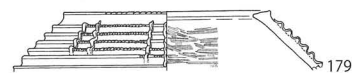
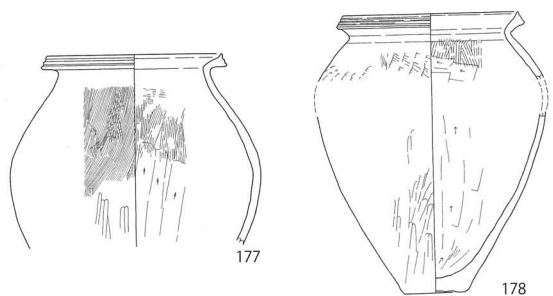
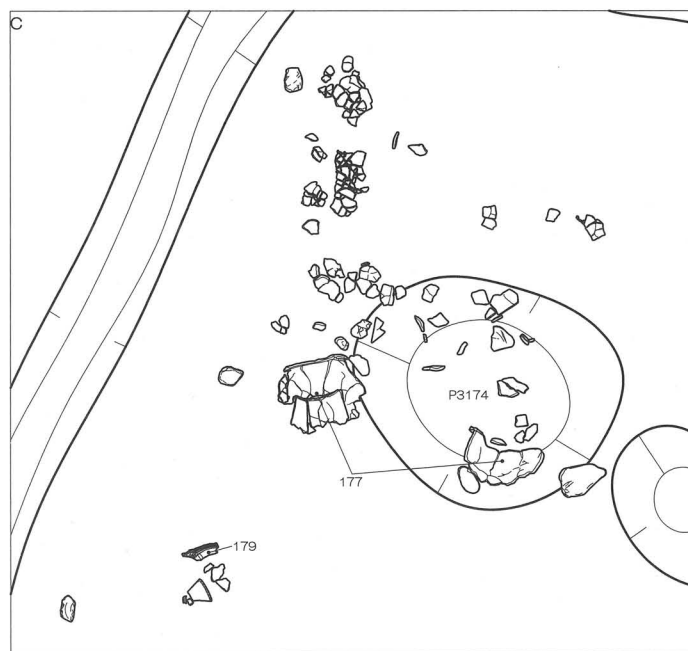
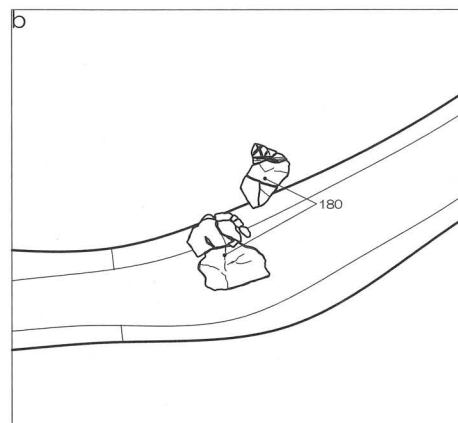
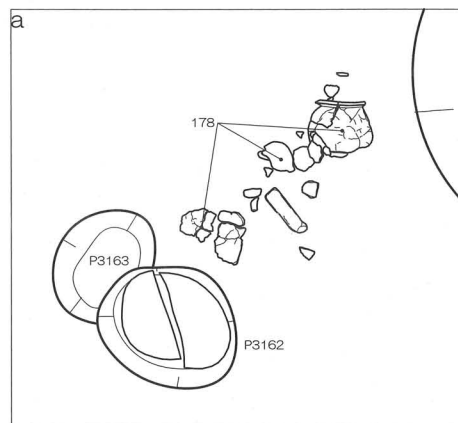
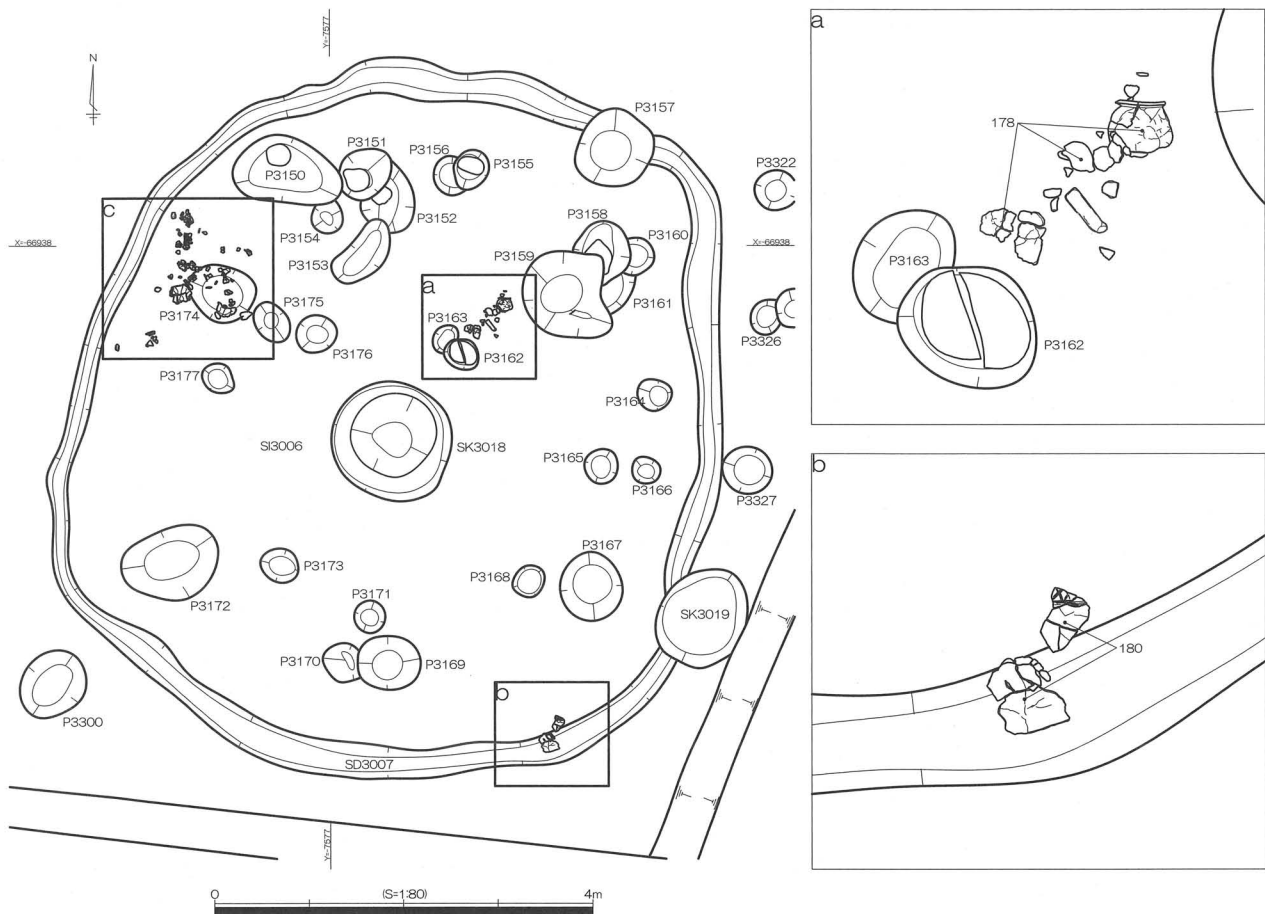


3区SI3006 ビット・中央土坑・壁溝 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3150	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	細粒砂	黄灰色細粒砂1%未満 粘性やや弱、縮りやや硬質
P3150	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	黄灰色砂少量 粘性やや弱、縮りやや硬質
P3150	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト少量、砂少量 粘性あり、縮りやや硬質
P3151	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	細粒砂	黄灰色細粒砂1%未満 粘性弱、縮りやや硬質
P3151	2	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	黄灰色砂少量 粘性あり、縮りあり
P3151	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂2% 粘性あり、縮りあり
P3151	4	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂20% 粘性あり、縮りあり
P3151	5	10YR2/3 黒褐色	砂質シルト	明黄褐色砂30% 粘性あり、縮りあり
P3152	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粘性あり、縮りあり
P3152	2	10YR2/1 黒褐色	粘土質シルト	明黄褐色砂5% 粘性やや強い、縮りあり
P3153	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	細粒砂	黄灰色細粒砂1%未満 粘性弱、縮りやや硬質
P3154	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	細粒砂	黄灰色砂3%、黒褐色シルト 20%、粘性弱、縮りやや硬質
P3155	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	細粒砂	黄灰色砂3%、黒褐色シルト 20%、粘性弱、縮りやや硬質
P3155	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	直径20cmの礫1、明黄褐色砂 30%、粘性あり、縮りやや硬質
P3156	1	2.5Y4/3 オリーブ褐色	細粒砂	黄灰色砂3%、黒褐色シルト 20%、粘性弱、縮りやや硬質
P3157	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	柱痕、粘性あり、縮りやや硬質
P3157	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	柱痕、粘性あり、縮りあり
P3157	3	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	柱痕、明黄褐色砂15% 粘性やや強い、縮りやや硬質
P3157	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	粘性あり、縮りあり
P3157	5	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	粘性あり、縮りあり
P3157	6	2.5Y6/6 明黄褐色	砂質シルト	黒色砂15%、粘性あり、縮りあり
P3158	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	柱痕、にぶい黄褐色砂30% 粘性弱、縮りやや硬質
P3158	2	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	柱痕、粘性弱、縮りやや硬質
P3158	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	柱痕、明黄褐色砂15% 粘性弱、縮りやや硬質
P3158	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	柱痕、明黄褐色砂15% 粘性弱、縮りやや硬質
P3158	5	10YR2/1 黒色	粘土質シルト	柱痕、粘性やや強い、 縮りやや硬質
P3158	6	2.5Y3/1 黒褐色	粘土質シルト	柱痕、粘性強い、縮りあり
P3158	7	2.5Y2/1 黒色	砂質シルト	粘性あり、縮りやや硬質
P3158	8	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	礫石あり、粘性あり、縮りあり
P3159	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	柱痕、粘性弱、縮りやや硬質
P3159	2	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	柱痕、粘性弱、縮りやや硬質
P3159	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	柱痕、粘性あり、縮りあり
P3159	4	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	柱痕、大型礫あり 粘性やや強い、縮りあり
P3159	5	10YR2/1 黒色	シルト	暗褐色砂微量 粘性あり、縮りあり
P3159	6	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色シルト微量 粘性あり、縮りあり
P3159	7	10YR2/2 黒褐色	シルト	粘性あり、縮りあり
P3160	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂10% 粘性弱、縮りあり
P3161	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂10% 粘性弱、縮りあり
P3162	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	細粒砂	黄灰色細粒砂2%、平坦な礫 あり、粘性なし、縮り硬質
P3163	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	粘性なし、縮り硬質
P3164	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	細粒砂	柱痕、炭化物微量、黄灰色砂 微量、粘性弱、縮りあり
P3164	2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	細粒砂	柱痕、炭化物微量、灰色砂微 量、粘性弱、縮りあり
P3164	3	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	細粒砂	灰白色細粒砂1%未満 粘性弱、縮りあり
P3164	4	10YR3/1 黒褐色	シルト	黄灰色細粒砂1~2% 粘性やや強い、縮りあり
P3165	1	10YR2/3 黒褐色	細粒砂	炭化物微量、礫あり、灰白色 砂2%、粘性弱、縮りあり
P3165	2	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	砂質シルト少量、灰白色砂少 量、粘性弱、縮りあり
P3166	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	細粒砂	炭化物微量、黄灰色細粒砂 2%、粘性弱、縮り硬質
P3166	2	10YR2/2 黒褐色	細粒砂	褐灰色シルト少量、黄灰色砂 1%、黄褐色砂少量、粘性弱
P3166	3	10YR3/2 暗褐色	細粒砂	礫あり、黄灰色細粒砂1~2% 程度、粘性弱、縮りやや硬質

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3167	1	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	柱痕、黒色砂30% 粘性あり、縮りやや硬質
P3167	2	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	柱痕、粘性あり、縮りあり
P3167	3	10YR6/1 褐灰色	砂質シルト	柱痕、黒色砂40% 粘性あり、縮りあり
P3167	4	10YR2/2 黒褐色	粘土質シルト	柱痕、酸化鉄微量 粘性あり、縮りやや硬質
P3167	5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	粘性あり、縮りあり
P3167	6	10YR2/3 黒褐色	粘土質シルト	酸化鉄微量、粘性やや強い、 縮りあり
P3168	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	粘性やや弱い、縮りあり
P3168	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	黒褐色シルト20%、粘性あり、 縮りあり
P3169	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	粘性やや弱い、縮りあり
P3169	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	黒褐色シルト20%、粘性あり
P3170	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂	粘性やや弱い、縮りあり
P3170	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	黒褐色シルト20%、粘性あり 縮りあり
P3171	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	粘性やや弱い、縮りあり
P3171	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	黒褐色シルト20%、粘性あり
P3172	1	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	細粒砂	柱痕、炭化物微量、明黄褐色・ 灰白色砂微量、粘性弱
P3172	2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	細粒砂	黒褐色細粒砂少量、灰白色 砂微量、褐色砂少量、粘性弱
P3172	3	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	細粒砂	炭化物微量、黄灰色中粒砂 3~5%、粘性弱、縮りあり
P3172	4	10YR2/3 黒褐色	細粒砂	灰白色砂微量、黄褐色細粒 砂微量、粘性弱、縮りあり
P3172	5	2.5Y4/4 オリーブ褐色	細粒砂	炭化物微量、礫あり、灰白色 砂微量、粘性弱、縮りあり
P3172	6	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	細粒砂	灰白色細粒砂微量、黄褐色 砂少量、粘性弱、縮りあり
P3173	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂15% 粘性あり、縮りあり
P3174	1	10YR4/4 褐色	砂	にぶい黄褐色砂40%、 粘性弱、縮りあり
P3174	2	10YR4/4 褐色	砂	にぶい黄褐色砂40%、 粘性弱、縮りあり
P3174	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒褐色シルト25%、 粘性やや強い、縮りあり
P3174	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	粘性あり、縮りあり
P3174	5	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂10%、 粘性あり、縮りあり
P3175	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	粘性あり、縮りあり
P3175	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	粘性あり、縮りあり
P3175	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	弥生土器片微量 粘性あり、縮りあり
P3175	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	粘性やや強、縮りあり
P3176	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	弥生土器片微量 粘性あり、縮りあり
P3176	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粘性あり、縮りあり
P3177	1	10YR4/4 褐色	砂	にぶい黄褐色砂40%、 粘性弱、縮りあり
SK3018	1	10YR4/4 褐色	砂	にぶい黄褐色砂40%、 粘性弱、縮りやや硬質
SK3018	2	10YR4/4 褐色	砂	にぶい黄褐色砂40%、 粘性弱、縮りやや硬質
SK3018	3	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黒褐色シルト25%、粘性やや 強、縮りあり
SK3018	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト少量、にぶい黄褐 色砂5%、粘性あり、縮りあり
SK3018	5	10YR3/4 暗褐色	砂質シルト	明黄褐色砂20%、黒色シルト 10%、粘性弱、縮りあり
SK3018	6	10YR3/2 暗褐色	砂質シルト	明黄褐色砂5%、黒色シルト 20%、粘性弱、縮りあり
SK3018	7	10YR4/4 褐色	砂質シルト	黄褐色砂10%、黒色シルト 微量、粘性弱、縮りあり
SD3007a	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性弱、縮り硬質
SD3007b	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂40% 粘性弱、縮り硬質
SD3007c	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂30% 粘性弱、縮り硬質

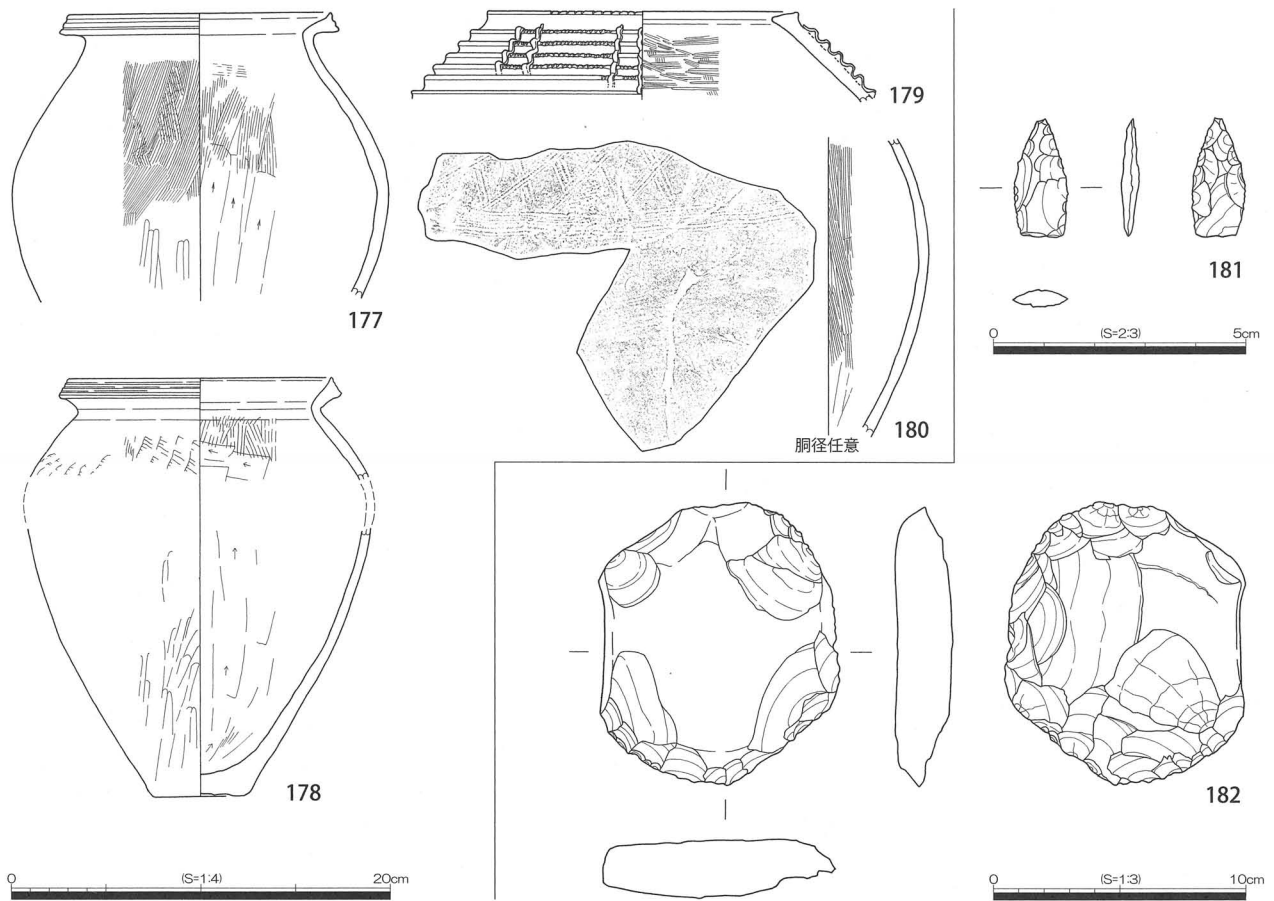
図57-2 SI3006遺構図



0 (S=1:6) 20cm

0 (S=1:20) 1m

图58 SI3006微細図



遺物図22 SI3006出土遺物

遺物観察表 22

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
177	3	SI3006 (3012)	22	66	弥生土器 甕	口径:(13.6) 器高:15.2~ 最大径:19.8	外面:口縁端部凹線文2条、口縁部ナデ、体部上半ハケ、体部下半ミガキ 内面:口縁部ナデ、体部上半ハケ、体部下半ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:灰黄褐	外面煤附着
178	3	SI3006 (3012)	22	66	弥生土器 甕	口径:(13.8) 器高:(22.2) 最大径:(18.0) 底径:4.8	外面:口縁端部擬凹線文3条、頸部ナデ、肩部貝殻腹線による押し引き文、体部ミガキ、底部ケズリ後ナデ 内面:口縁部ナデ、肩部ケズリ後ハケ、体部~底部ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:にぶい黄橙	外面煤附着
179	3	SI3006 (3012)	22	66	弥生土器 壺 (無頭壺)	口径:(16.0) 器高:6.5~	外面:口縁端部ナデ後キザミ、肩部突帯6条、突帯上にキザミ・棒状浮文 内面:口縁部ナデ、肩部ハケ後ミガキ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:浅黄橙	
180	3	SI3006 (3012)	22	66	弥生土器 壺	器高:15.9~	外面:体部上半櫛斜格子文・直線文・刺突文、体部下半ミガキ 内面:体部上半ハケ、体部下半ナデ	普通 ~0.5mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:にぶい黄褐	
181	3	SI3006内 SK3018 (3090)	22	66	石器 石鏃	長さ:2.35 幅:1.05 厚さ:0.35 重さ:0.8	打製 基部の長い平基無茎鏃	頁岩(新第三紀)	暗灰	先端欠損
182	3	SI3006 (3012)	22	66	石器 不明 未製品	長さ:11.2 幅:9.5 厚さ:2.3 重さ:347.0	打製 扁平な礫を素材とする 一側縁を除き敲打により成形	頁岩(新第三紀)	灰・灰白	石斧か

は水洗選別の結果、頁岩の剥片が数点検出され、その剥片と181の石鏃が接合することが確認され、この中央土坑の傍で石鏃を加工していたことが示された。182は打製石器の未成品である。頁岩製で同一石核から取ったと思われる石器未製品がSK3013から出土している。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。床面直上の土器群の年代から弥生時代中期後葉と推定できる。

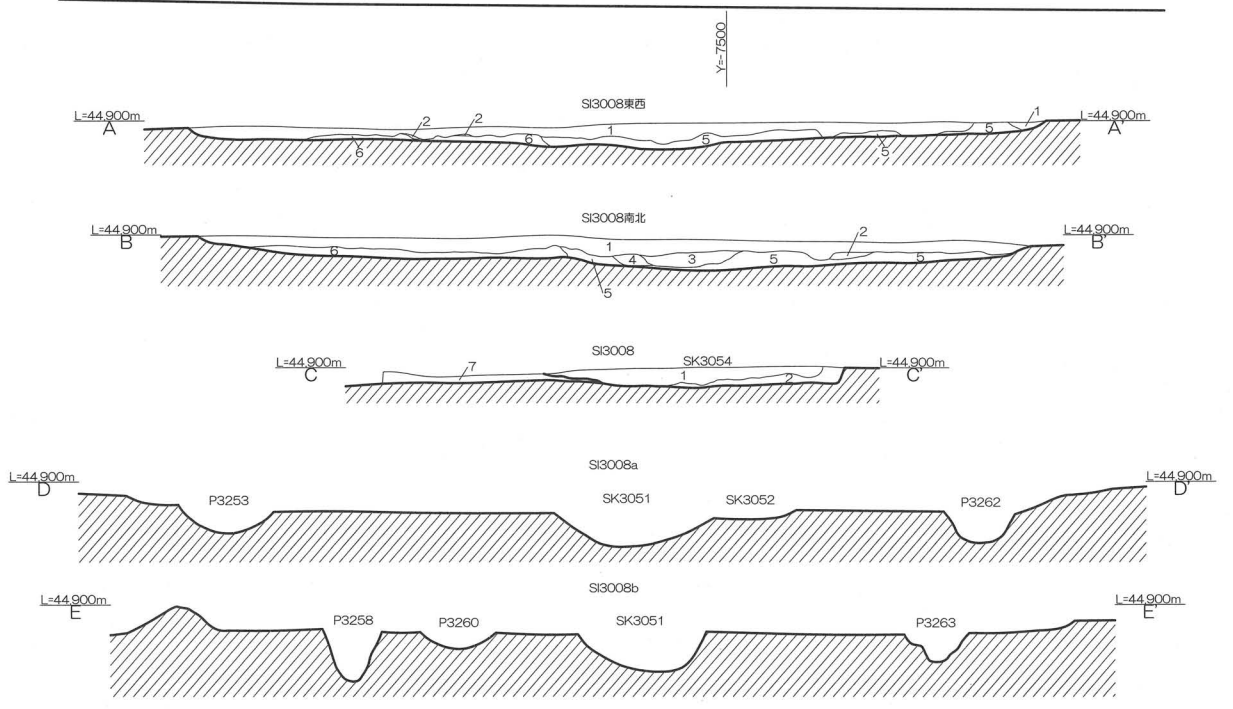
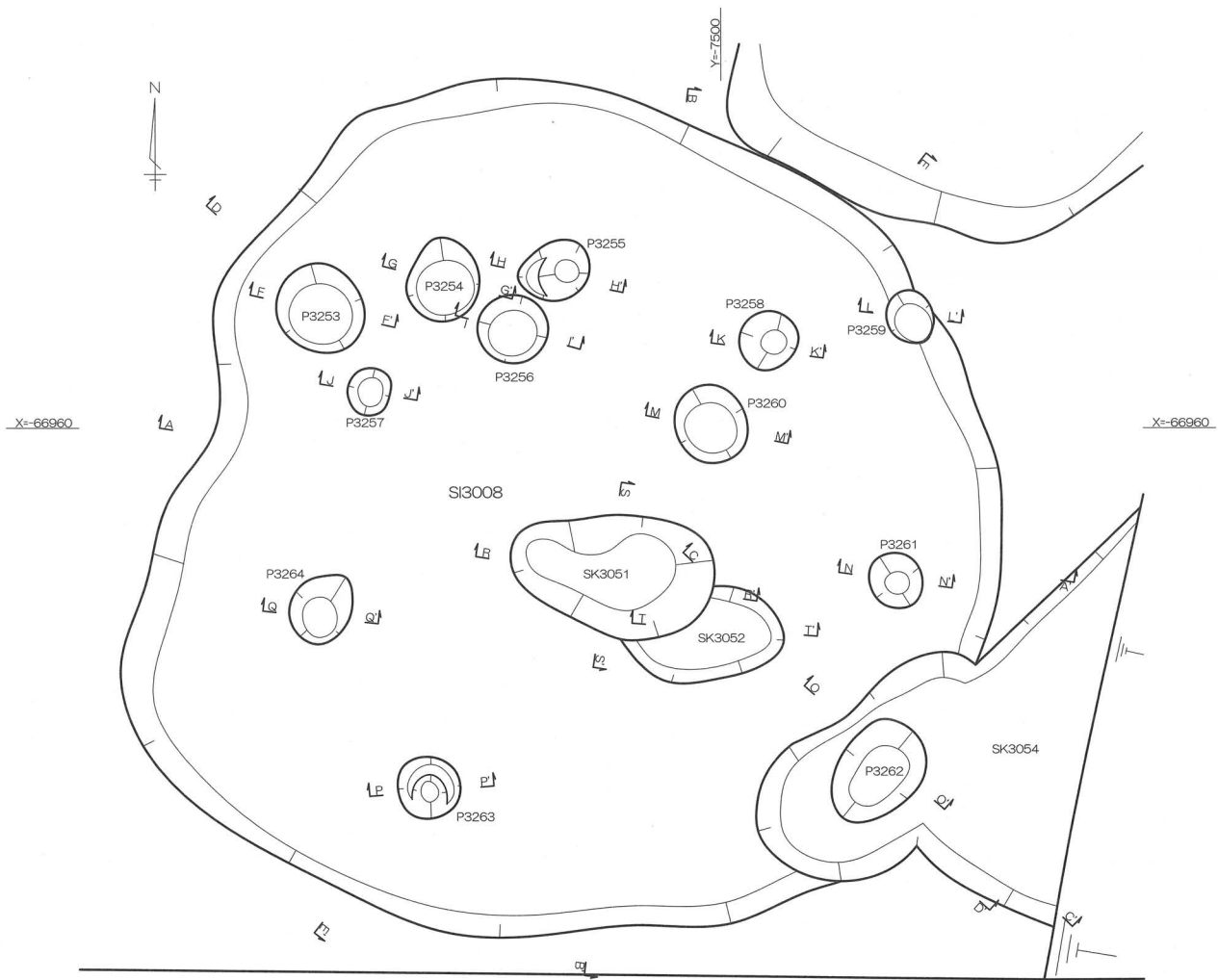
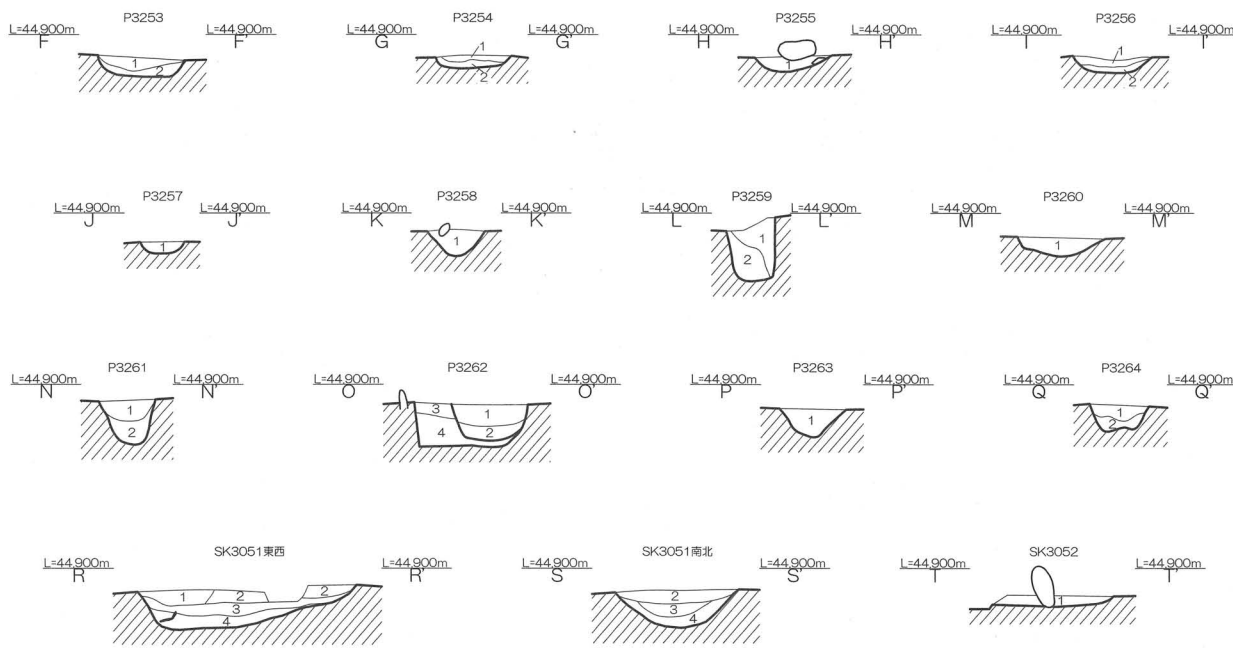


图59-1 SI3008遺構図



SI3008 A-A、B-B、C-C 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SI3008	1	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	炭化物微量、黄灰色細粒砂4%、 灰黄色砂質シルト少量、礫微量
SI3008	2	2.5Y3/1 黒褐色	砂質 シルト	粘土残骸、淡黄色砂少量、黒色粘土 質シルト少量、黄灰色細粒砂1%
SI3008	3	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	炭化物微量、黒色砂少量、黄灰色 砂少量、粘性弱、縮りあり
SI3008	4	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト多量、 粘性弱、縮りあり
SI3008	5	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	炭化物微量、黒色粘土質シルト少量、 褐色シルト少量、黄灰色細粒砂2%
SI3008	6	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	灰色砂質シルト少量、黒色粘土質 シルト少量、淡黄色砂少量、黄灰色 細粒砂3%、粘性あり、縮りあり
SI3008	7	10YR3/1 黒褐色	細粒砂	炭化物微量、灰黄色細粒砂少量、 小礫微量
SK3054	1	10YR2/2 黒褐色	細粒砂	炭化物3%、小礫微量、灰白色細粒 砂少量、粘性やや強い
SK3054	2	2.5Y3/1 黒褐色	砂質 シルト	炭化物微量、灰白色粘土質シルト 少量、粘性弱、縮りやや硬質

SI3008 ピット・中央土坑・土坑 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3253	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 シルト	炭化物微量、黒褐色砂15%、 粘性あり、縮りあり
P3253	2	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	黒褐色砂質シルト少量、 粘性やや強い、縮りやや軟質
P3254	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト3%、炭化物2%、 粘性あり、縮りあり
P3254	2	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	黒褐色シルト少量、 粘性やや強い、縮りあり
P3255	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	土器片微量、直径26cm大の礫1、 シルトブロック10%、粘性やや強い
P3256	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	炭化物微量、シルト・砂ブロック微 量、粘性やや強い、縮りあり
P3256	2	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	黒褐色シルト・砂ブロック微量、 粘性やや強い、縮りあり
P3257	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	明黄褐色砂微量、 粘性あり、縮りあり
P3258	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	小礫1、炭化物微量、 粘性あり、縮りやや硬質
P3259	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト少量、炭化物1%、 粘性あり、縮りあり
P3259	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト少量、にぶい黄褐 色砂微量、粘性やや強い、縮りあり
P3260	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	炭化物2%、粘土質シルト混在、 にぶい黄色砂微量、粘性やや強い
P3261	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	炭化物微量、暗褐色砂少量混在、 粘性あり、縮りあり
P3261	2	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	黒褐色砂質シルト少量混在、 粘性あり、縮りやや軟質
P3262	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	炭化物微量、暗褐色砂少量混在、 粘性あり、縮りあり
P3262	2	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	黒褐色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りあり
P3262	3	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	炭化物微量、暗褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
P3262	4	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	黒褐色砂質シルト10%散在、 粘性あり、縮りあり
P3263	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト20%散在、 粘性あり、縮りあり
P3264	1	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	炭化物5%、黒褐色シルト・砂プロ ック少量、粘性あり、縮り硬質
P3264	2	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	炭化物3%、黒褐色砂5%、 粘性あり、縮りあり
SK3051	1	10YR2/3 黒褐色	砂質 シルト	炭化物少量、 粘性弱、縮りあり
SK3051	2	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	弥生土器片微量、炭化物2%、 砂質シルト30%、縮りあり
SK3051	3	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	炭化物1%、 粘性弱、縮りあり
SK3051	4	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	弥生土器片少量、暗褐色粘土質シ ルト30%、粘性やや強い、縮りあり
SK3052	1	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	直径27cm大の礫1、暗褐色砂5%、 粘性あり、縮りやや硬質

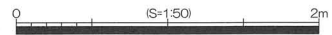


図59-2 SI3008遺構図

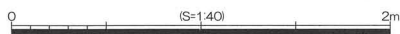
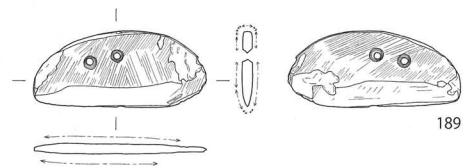
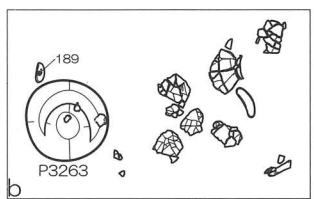
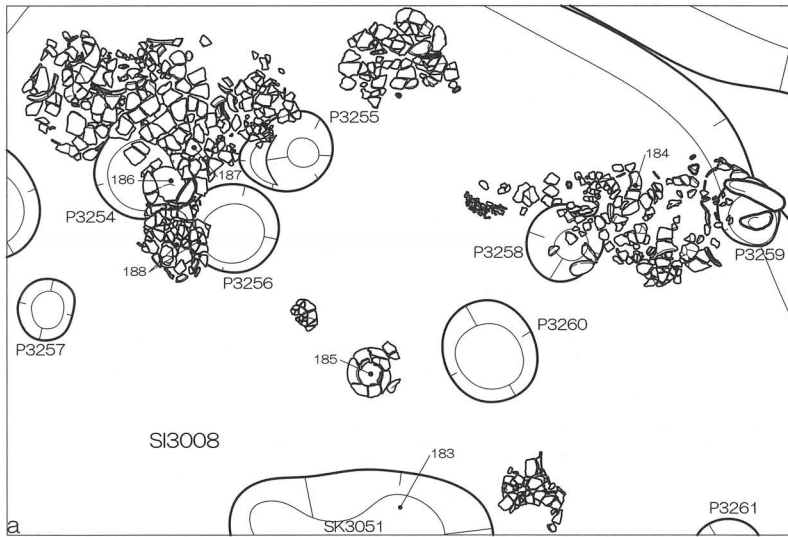
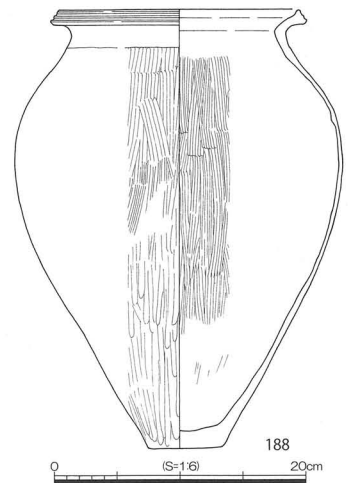
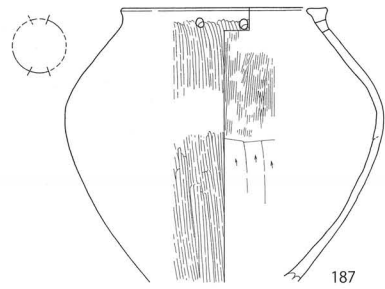
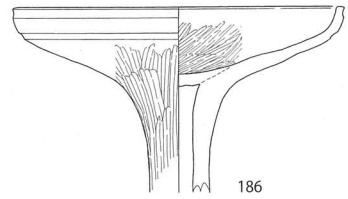
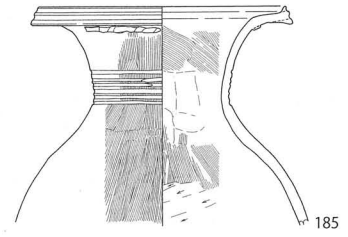
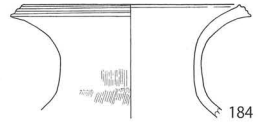
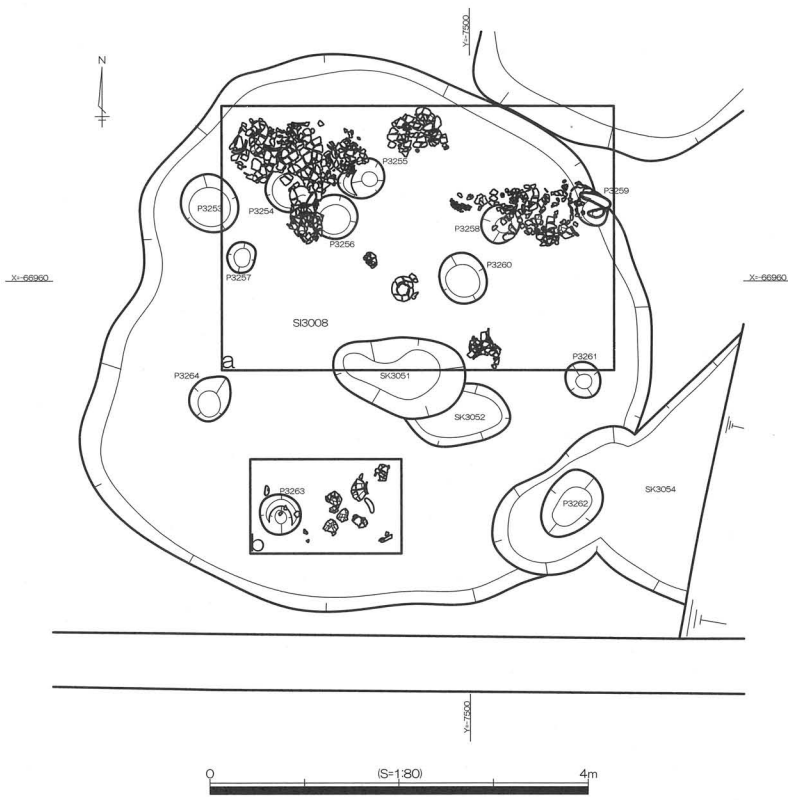


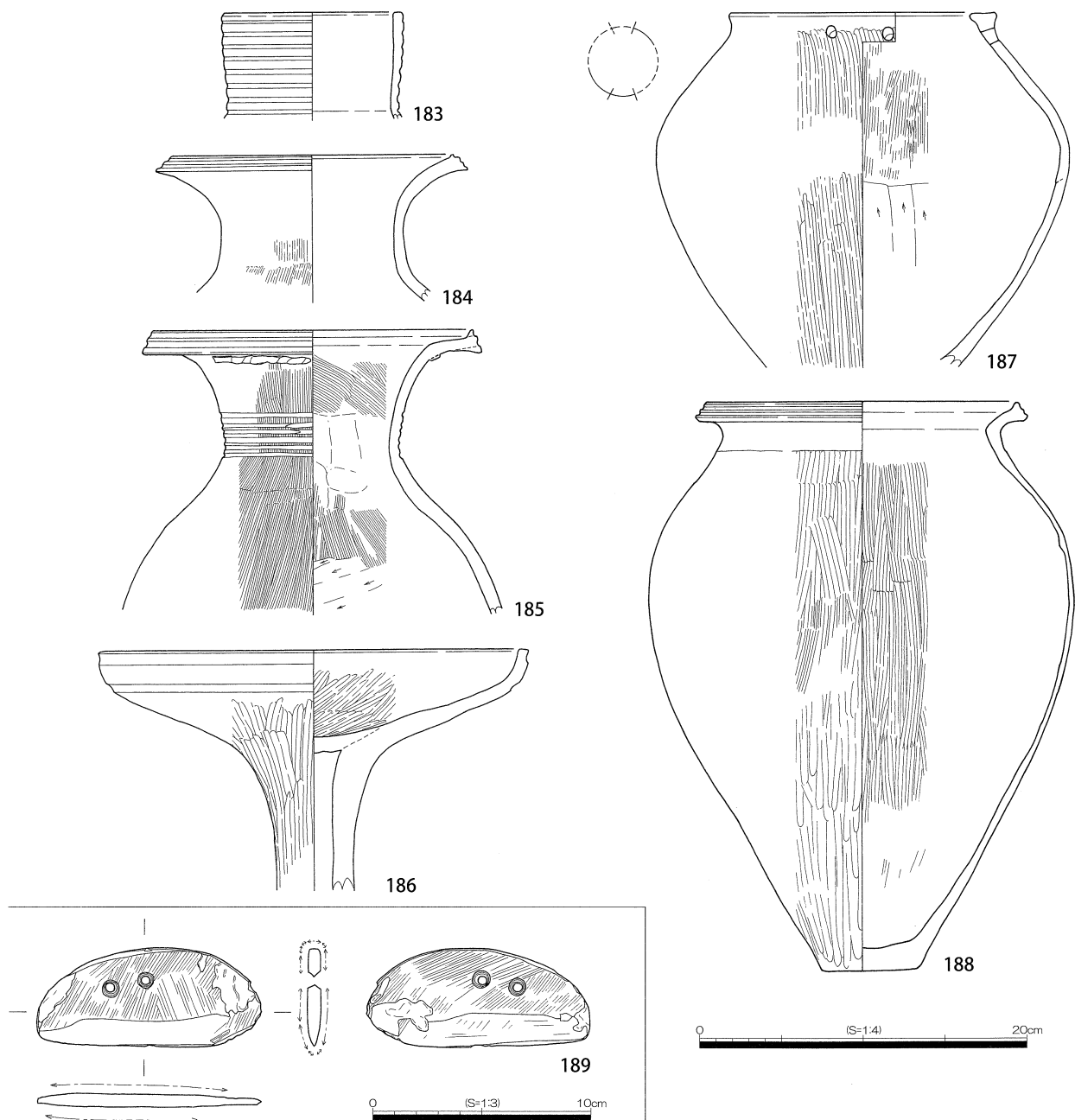
图60 SI3008微細図

■ SI3008(図 59-1 ~ 60、遺物図 23、遺物観察表 23、写真図版 33・67)

位置 第2面北西側 P12・13、Q12・13 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.320m である。

検出状況 上面に近代以降の耕作攪乱と、古代以降の耕 3002 による破壊を受けていた。耕作土を除去する途中から多数の弥生土器片が出土し始め、何らかの遺構が遺存すると予測できたため、周辺全体を平坦に削り下げて、プラン検出をおこなった。3区南側では地盤がやや下がりぎみになっており、竪穴住居跡的なプランがまわり、表面に多数の土器片が露出した状態となった。周囲の確認面が低湿地的な暗褐色砂質シルト・黒褐色砂質シルト主体の堆積層で、このような地盤に住居を作るのかどうか疑問もあったが、結果、柱穴、中央土坑も検出され、明らかな竪穴住居跡となった。

形態・規模 平面形は不整円形で、長軸 6.205m・短軸 6.155m を測る。断面形は浅い盤形で、深さは 0.192m である。壁溝は検出できない。



遺物図23 SI3008出土遺物

遺物観察表 23

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
183	3	SI3008 (3014)	23	67	弥生土器 壺	口径:(9.8) 器高:5.6~	外面:口縁部~頸部凹線文 8 条 内面:口縁部~頸部ナデ	普通 ~ 2mm の砂粒、 普通	やや良好 外面:橙 内面:橙	
184	3	SI3008 (3014)	23	67	弥生土器 壺	口径:17.0 器高:9.0~	外面:口縁端部凹線文 2 条一部 3 条、口縁部~頸 部上半ナデ、頸部下半ハケ後ナデ 内面:口縁部~頸部ナデ	普通 ~ 1mm の砂粒、 少ない	普通 外面:にぶい黄橙 内面:黒褐	口縁部内外面煤付着
185	3	SI3008 (3014)	23	67	弥生土器 壺	口径:(19.4) 器高:17.3~	外面:口縁端部擬凹線文 2 条、頸部ハケ、頸部上 端に棒状浮文、頸部下半に凹線文 6 条、体 部上半ハケ 内面:口縁部ナデ、頸部ハケ後下半ナデ、肩部ハ ケ、体部上半ケズリ後肩部ハケ	普通 ~ 1mm の砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:灰褐	
186	3	SI3008 (3014)	23	67	弥生土器 高坏	口径:(25.2) 残高:14.75~	外面:口縁部ナデ後凹線文 2 条、坏底部~脚柱部 ミガキ 内面:口縁部ナデ、坏底部ミガキ	普通 ~ 1mm の砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:褐灰	
187	3	SI3008 (3014)	23	67	弥生土器 壺 (無頸壺)	口径:(16.0) 器高:21.7~ 最大径:(25.2)	外面:口縁部ナデ、体部ミガキ 内面:口縁部ナデ、体部上半ハケ、体部中位ケズ リ、体部下半ケズリ後ナデ 特記:紐穴 2 個 1 組を 2 組	普通 ~ 0.5mm の砂粒、 普通	普通 外面:灰黄褐 内面:にぶい黄橙	
188	3	SI3008 (3014)	23	67	弥生土器 甕	口径:18.8 器高:34.8 最大径:26.0 底径:5.9	外面:口縁端部擬凹線文 2 条、頸部ナデ、体部ミ ガキ、底部ナデ 内面:口縁部~頸部ナデ、体部ハケ、底部ナデ	普通 ~ 1mm の砂粒、 普通	普通 外面:黄橙 内面:にぶい黄橙	
189	3	SI3008 (3014)	23	67	石器 石包丁	長さ:10.2~ 幅:4.55 厚さ:0.65 重さ:47.1	直線刃半月形 磨製、研磨痕あり 紐部穿孔 2 箇所、各径 4mm	緑色岩	灰	端部、部分的に欠損

住居内ピット・土坑は計 14 基が確認された。このうち、中央土坑と思われるのが SK3051 である。SK3051 は不整な楕円形で規模は (1.409m × 0.891m-0.368m) である。支柱穴と思われるピットは 4 基で、P3258 と P3263 が中央土坑を挟んで向き合う位置にくる。4 基の柱穴の規模は、P3253 は (0.615m × 0.605m-0.272m)、P3262 は (0.769m × 0.556m-0.354m)、P3258 は (0.408m × 0.406m-0.415m)、P3263 は (0.437m × 0.426m-0.278m) である。形状は、4 基とも平面形は円形で、断面形は U 字形を示す。床面に貼床の残骸と思われる、黒色シルトと明黄褐色砂との混合土が少量確認できる。この混合土は SI3002 の貼床と類似する。

柱穴埋土・礎石の有無 遺構内埋土は洪水砂と同じ暗褐色砂・にぶい黄褐色砂層である。掘方の埋土は、黒褐色砂質シルト層とほぼ同じ黒褐色砂質シルトを主体とする。各柱穴に礎石は確認できない。

遺物出土状況 弥生土器片が多数集中しており、実測した 7 個体以外に破片点数 1179 点が出土した。3 区で最大の土器量である。後世の耕作攪乱等による破壊のため細片に砕けており、接合に時間を要した。甕もしくは壺の口縁部片 55 点・甕の底部片 30 点・高坏片 4 点・把手付き土器の把手 1 点を確認できる。甕もしくは壺の口縁端部に擬凹線文のあるものが含まれる。実測図を掲載したものは以下の通りである。183 は頸部に平行に凹線文 8 条を入れた壺で、中央土坑 SK3051 からの出土である。184 ~ 189 は住居跡の床面上の埋土からの出土である。184 は口縁端部に凹線文 2 条、185 は口縁端部を断面 T 字風につくった壺であり、頸部外面の上端返りの下に棒状浮文を横方向に貼り付け、頸部下半には凹線文 6 条をめぐらす。186 は内面外面共に丁寧なミガキを施した高坏である。口縁部外面に凹線 2 条を入れる。187 は無頸壺で口縁直下に 2 個一組の紐孔を 1 対設ける。188 は口縁端部に擬凹線文 2 条をめぐらす甕である。体部外面にはミガキ調整がなされる。189 は緑石岩製の直線刃半月形の石包丁である。磨製であり、円形の紐孔が 2 個丁寧に空けられている。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。出土遺物から年代は弥生時代中期後葉である。

■ SI3007(図 61・62、遺物図 24、遺物観察表 24、写真図版 32・68)

位置 第 2 面 O8・9、P8・9 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.831m である。南東側を SK3039 に切られる。南西側を攪乱に切られる。Tr.1 が東西に貫通する。

検出状況 旧耕作土を除去し、さらに古い時期の耕 3001 を除去した段階で検出された。住居内の貼床面まで暗褐色砂が入り込み住居範囲を絞り込むことが困難であった。周辺を黒色土上面まで削り下げてようやく壁溝 SD3010 を検出した。南側はこの住居が灰黄色砂層を切って構築されている。

形態・規模・付帯施設 平面形は楕円形で、長軸 7.917m・短軸 6.106m を測る。断面形は浅い盤形で、深さは 0.074m である。壁溝が浅く残る。住居内ピット 34 基・中央土坑 2 基が検出された。中央土坑 2 基が切り合い、小溝・ピットも多数切り合うことから、最低 1 回は建て直しがおこなわれたものと推測できる。

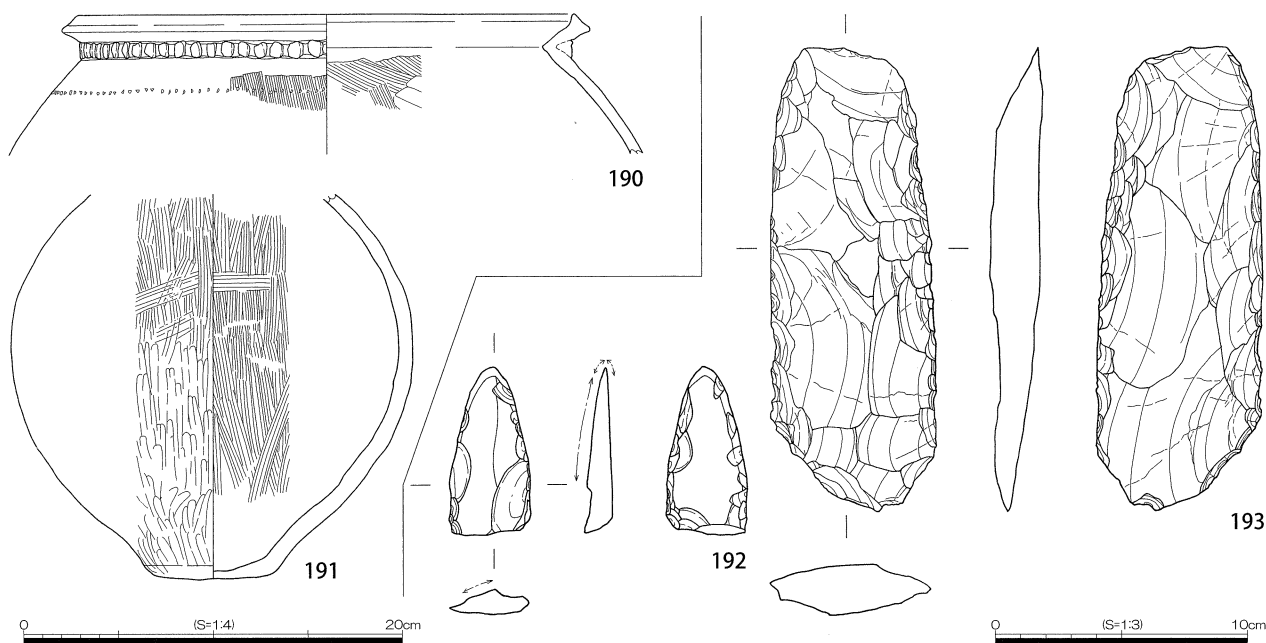
貼床の残骸がわずかに残る段階を SI3007 上面として床面精査をおこない、遺構内ピット等を検出した。図 61 にこの上面を掲載する。壁溝は外側を SD3010・SD3016・SD3017 が回り、内側を小溝 SD3011～SD3015 がめぐる。複数の時期の壁溝・小溝が混在している可能性がある。この段階で検出されたピットは 21 基である。このうち、柱穴は、P3219-P3234、P3244-P3227、P3222-P3235 が対になる可能性があり、やや変形な六角形を示す。各ピットの規模は 3 区遺構一覧表を参照のこと。柱穴の形状は円形もしくは不整形円形・楕円形で、断面形は U 字形である。SI3006 と比べて柱穴の掘方が浅く小さい。中央土坑の SK3035 の平面形は楕円形で、断面形は有段 U 字形で北西側がやや浅くなる。規模は (1.001m × 0.805m-0.374m) である。SK3035 の周囲には焼土が散在、遺構内から 190 が出土した。いずれの柱穴にも礎石は確認できない。

SI3007 上面の遺構を完掘し、貼床を除去して再精査し、黒色シルト層面で検出した遺構を SI3007 下面として図 62 に示す。貼床下に 1.2m～1.3m の幅で環状に回る SD3018 を検出した。SI3007 の古い時期の壁溝と思われるが、幅が不自然に広いため、別の意図で掘られたものかもしれない。SK3035 に切られて SK3036 がある。1 段階古い中央土坑であり、規模は (1.203m × 0.574m-0.396m) である。平面形は南北に細長い楕円形である。この段階に対応する柱穴もまた、対応関係が掴みにくく、P3234・P3235・P3243・P3229・P3236 が柱穴候補といえるが、確定にはいたらなかった。いずれの柱穴にも礎石は確認できない。

住居跡埋土・柱穴埋土 遺構上面埋土は洪水砂の暗褐色砂と黒褐色砂質シルトである。貼床の残骸は明黄褐色砂と黒色シルトの混合土で、SI3002・SI3006 の貼床と類似のパターンを示す。ピット群の埋土は、暗褐色砂もしくは黒褐色砂を含む黒褐色砂質シルトが多い。

遺物出土状況 住居埋土及びピット・土坑・壁溝内から 464 点の土器片が出土した。内訳は甕の口縁部片 41 点・壺の口縁部片 23 点・高坏片 22 点・器台片 9 点・把手片 3 点等である。床面の遺物の多くは耕作攪乱によって元位置から動いている。実測図 4 点を掲載する。190 は SK3035 中央土坑からの出土であり、土坑埋土下層に甕の口縁部の破片がばらばらに砕けた状態で埋没していた。甕の頸部には指頭押圧痕貼付突帯がめぐり、肩部にはハケ調整の後、連続刺突文を施す。弥生時代中期後葉の甕である。191 は体部外面上半に縦方向のハケ目としばしば横方向のハケを加え、体部外面下半にはミガキが施された壺である。192 は堇青石ホルンフェルス製の石槍で、加工は粗雑であり、未成品の可能性もある。193 は頁岩製の打製石斧である。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。出土遺物から弥生時代中期後葉と推定する。



遺物図24 SI3007出土遺物

遺物観察表 24

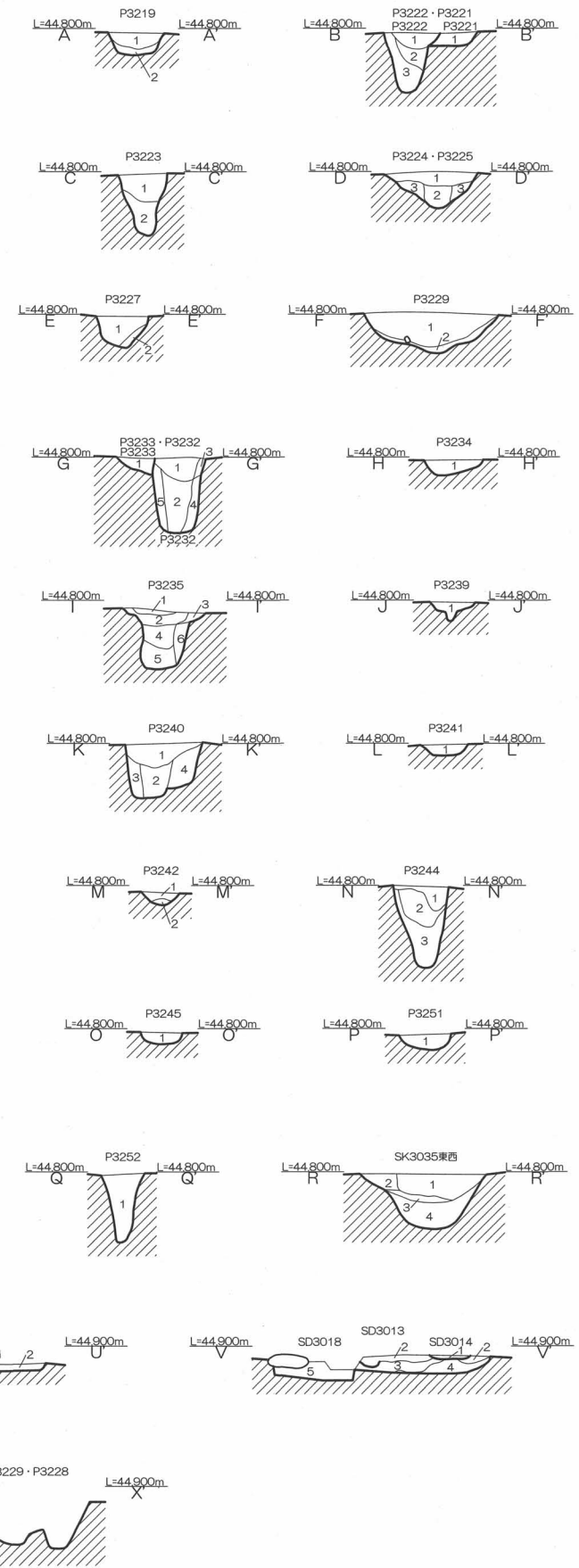
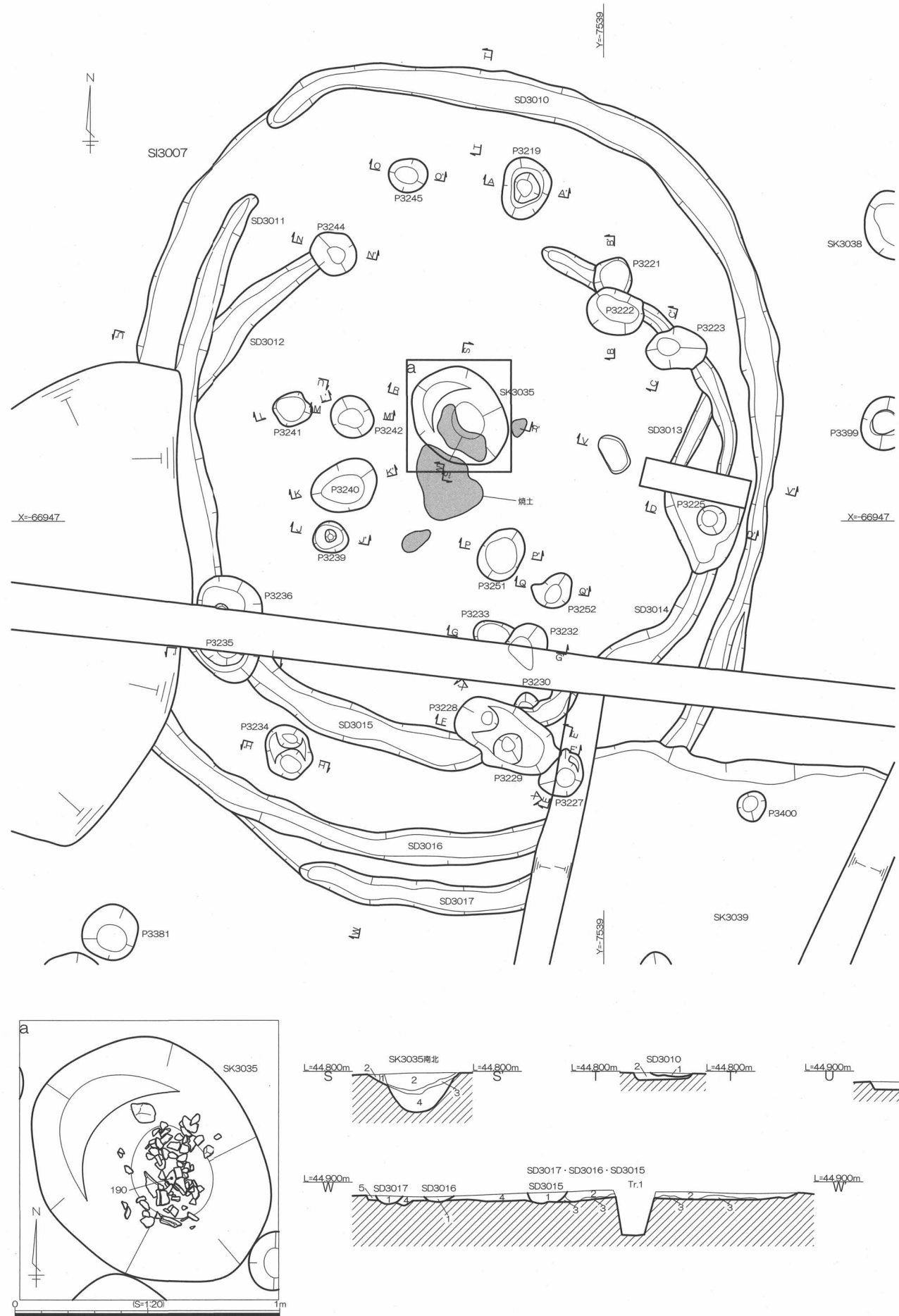
遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
190	3	SI3007内SK3035 (3171)	24	68	弥生土器 甕	口径:(26.0) 器高:7.5~	外面:口縁部ナデ、頸部指頭圧痕貼付突帯、肩部ハケ後連続刺突文 内面:口縁部ナデ、肩部ハケ・ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:浅黄	
191	3	SI3007 (3013)	24	68	弥生土器 壺	器高:20.3~ 最大径:(21.2) 底径:6.2	外面:体部上半ハケ、体部下半ミガキ、底部ナデ 内面:体部ハケ、底部ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:褐灰	底部の形状は凸レンズ状
192	3	SI3007 (3013)	24	68	石器 石槍	長さ:6.7~ 幅:3.25 厚さ:1.1 重さ:23.8	磨製 敲打成形後刃部を研磨	董 青石ホルン フェルス(新第三 紀)	灰白	
193	3	SI3007 (3013)	24	68	石器 石斧	長さ:18.0 幅:6.5 厚さ:2.15 重さ:268.0	打製、両側縁に細かい剥離痕あり 断面は木葉形	頁岩(新第三紀)	灰	磨製石斧未製品か

■ SI3009(図 63・64、遺物図 25、遺物観察表 25、写真図版 34・68)

位置 第2面南西側 O2・O3 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.259m である。

検出状況 圃場整備の整地層の下に明黄褐色砂層があり、この層は、3区南西側の褐灰色・黒褐色砂質シルト層の上面に 3~15cm 程度の厚さで堆積しており、洪水性堆積層の可能性が高い。この層面で、すぐそばに土器を伴う SK3003 が検出され、同一面で隅丸長方形のプランが検出された。検出面は住居貼床面に達している。

軸方向・平面形状・規模・付帯施設 平面形は隅丸長方形で、長軸 3.321m・短軸 2.639m を測る。断面形は浅い盤形で、壁溝が明瞭に残る。確認面から床面掘方までの深さは 0.192m である。軸方向は E-37°-S をふる。住居範囲内にピットは 5 基あり、P3184 が規模 (0.495m × 0.418m-0.507m) である程度深さがあるが、これに対応する柱は見つからない。P3187 は (0.260m × 0.220m-0.278m)、



SI3007内 ビット・中央土坑 土層観察表

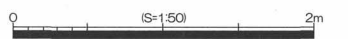
遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3219	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	土器片微量、酸化鉄微量、 粘性弱、縮りやや硬質
	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	小礫微量、酸化鉄微量、 粘性弱、縮りやや硬質
P3221	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂少量、酸化鉄微量、 粘性やや弱い、縮りあり
	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂少量、粗粒砂あり、酸化 鉄微量、粘性やや弱い、縮りあり
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト微量、酸化鉄微量、 粘性あり、縮りあり
P3222	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	砂質シルト少量、酸化鉄微量 粘性やや強い、縮りあり
	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	酸化鉄微量、 粘性あり、縮りあり
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	粗粒砂・中粒砂少量、 粘性やや弱い、縮りあり
P3224・ P3225	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	酸化鉄微量、 粘性あり、縮りあり
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	酸化鉄微量、 粘性あり、縮りあり
	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	酸化鉄微量、 粘性やや強い、縮りあり
P3227	1	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、 粘性やや弱い、縮りあり
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト10%、 粘性あり、縮りあり
P3229	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト25%、 粘性やや弱い、縮りあり
	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂微量、酸化鉄微量、 粘性やや強い、縮りあり
P3232	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	柱炭、黒褐色砂質シルト10%、 粘性弱、縮りやや硬質
	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	柱炭、酸化鉄微量 粘性あり、縮りあり
	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト25%、 粘性あり、縮りあり
P3232	4	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、 粘性やや強い、縮りあり
	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、酸化鉄微量、 粘性やや弱い、縮りあり
P3233	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	砂粒やや多い、 粘性やや弱い、縮りあり
	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りあり
P3235	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
	2	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	酸化鉄微量、黒褐色砂質シルト 少量、粘性あり、縮りやや硬質
	3	2.5Y3/1 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂20%、暗褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
P3235	4	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
	5	10YR3/2 黒褐色	粘土質 シルト	酸化鉄15%、暗褐色砂5%、 粘性やや強い、縮りあり
P3235	6	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂微量、 粘性あり、縮りあり
	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
P3240	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質 シルト	酸化鉄微量、 粘性やや強い、縮りあり
	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒褐色シルト少量、 粘性あり、縮りあり
P3240	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂25%、 粘性やや弱い、縮りやや硬質

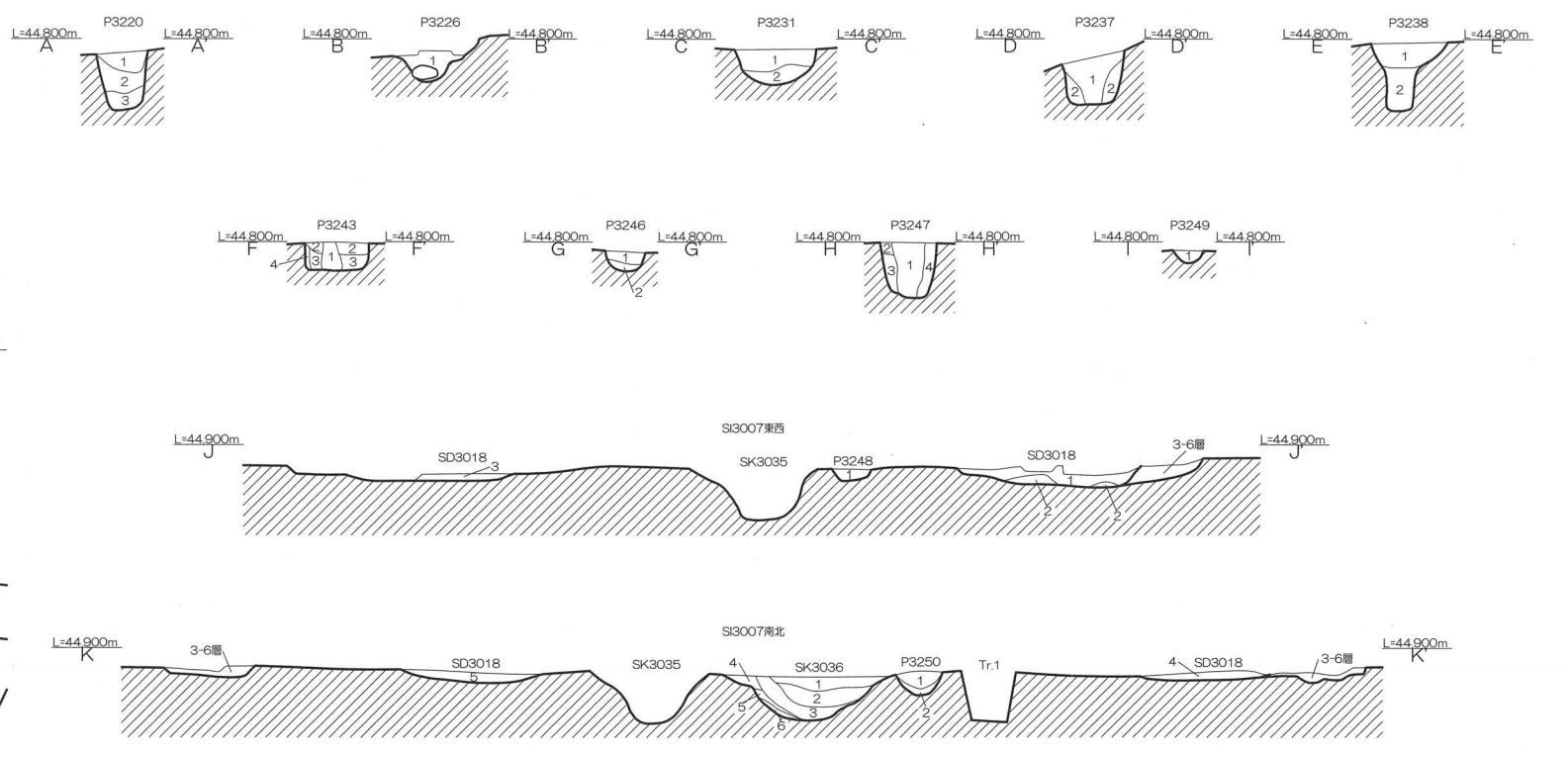
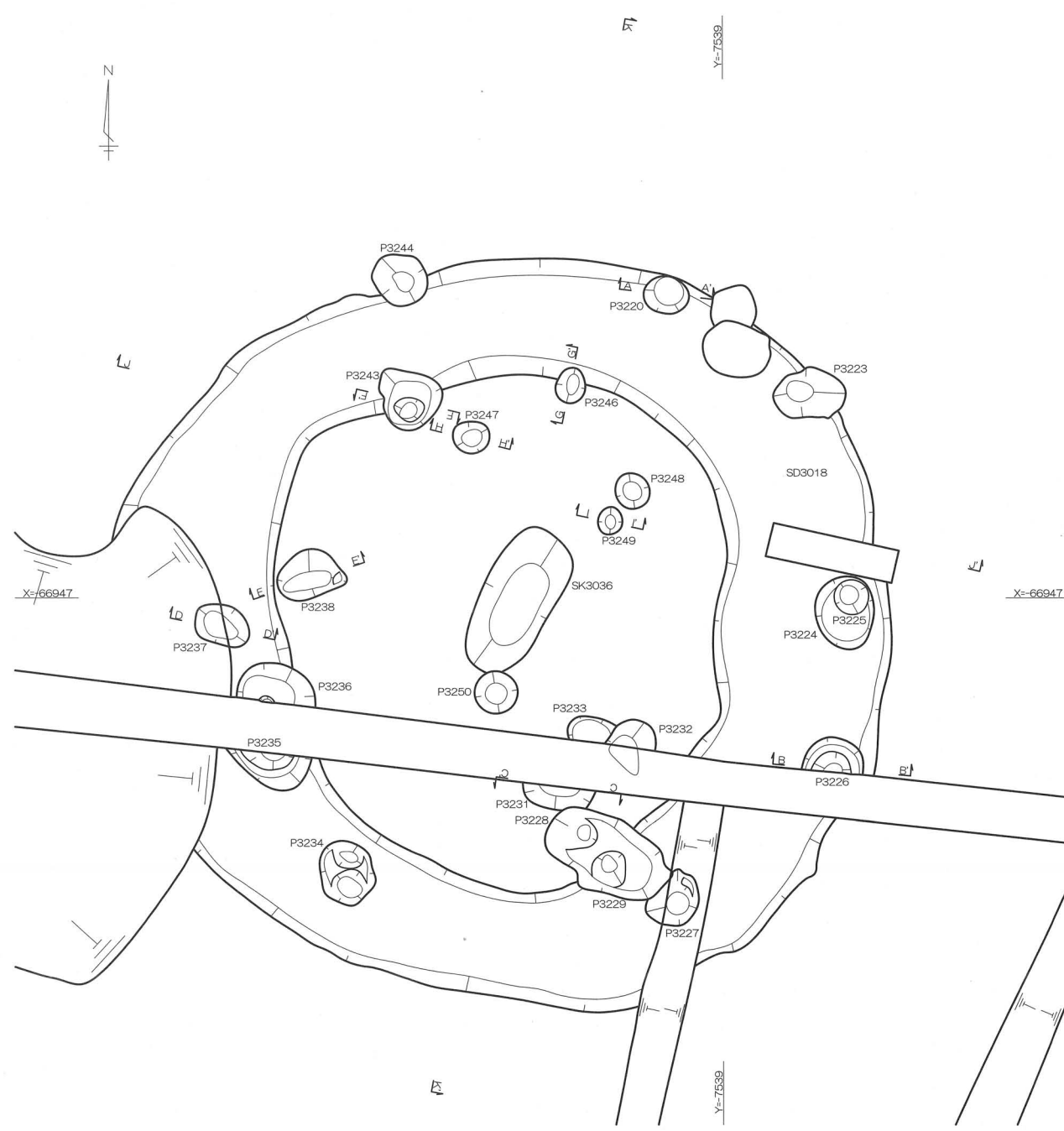
遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3242	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂微量、 粘性やや弱い、縮りあり
	2	10YR3/1 黒褐色	粘土質 シルト	暗褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
P3244	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、灰色砂 質シルト微量、粘性あり、縮りあり
	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りあり
P3244	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質 シルト	黒褐色砂質シルト10%、 粘性あり、縮りやや硬質
	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りあり
P3251	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りあり
	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト微量、 粘性あり、縮りあり
SK3035	1	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質 シルト	暗褐色砂・黄褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
	2	7.5YR5/6 明褐色	シルト	橙色シルト少量、 粘性やや強い、縮りやや硬質
SK3035	3	7.5YR4/2 灰褐色	シルト	橙色焼土粒5%散在、黒褐色砂 質シルト30%、粘性あり、縮りあり
	4	10YR3/3 暗褐色	シルト	赤土器片、橙色焼土粒10% 散在、粘性やや強い、縮りあり

SI3007 T-T'・U-U'・V-V'・W-W' 土層観察表

遺構記号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SD3010	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂微量 粘性あり、縮りあり
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	酸化鉄微量、灰褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
SD3011	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂5% 粘性あり、縮りあり
	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
SI3007	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
SD3014	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性やや弱い、縮りあり
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	貼床、にぶい黄褐色砂50% 粘性あり、縮りあり
SI3007	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
	2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
SD3018	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、 粘性強い、縮り硬質
SD3016	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、 粘性弱い、縮り硬質
	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、 粘性弱い、縮り硬質
SI3007	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	貼床、にぶい黄褐色砂50% 粘性あり、縮りあり
	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
SI3007	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり

図61 SI3007遺構図1





3区 SI3007 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3220	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	SD3018に切られる 粘性あり、縮りあり
P3220	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	酸化鉄微量、 粘性やや強い、縮りあり
P3220	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト少量、 粘性やや強い、縮りあり
P3226	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	直径15cm大の礫1、砂粒多量、酸化鉄 微量、粘性やや弱い、縮りやや硬質
P3231	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	中粒砂・細粒砂やや多い、 粘性弱、縮りあり
P3231	2	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	酸化鉄微量、暗褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
P3237	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	柱痕、暗褐色・黄褐色砂質シルト 少量、粘性あり、縮りあり
P3237	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質 シルト	酸化鉄微量、暗褐色砂少量、 粘性やや強い、縮りあり
P3238	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト30%混在、 粘性あり、縮りあり
P3238	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質 シルト	暗褐色砂少量、 粘性やや強い、縮りあり

3区 SI3007 J-J・K-K 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3243	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂5%、 粘性あり、縮りあり
P3243	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りあり
P3243	3	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りあり
P3243	4	10YR2/2 黒褐色	粘土質 シルト	粘性やや強い、縮りあり
P3246	1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
P3246	2	10YR2/2 黒褐色	粘土質 シルト	黒褐色砂質シルト25%、 粘性やや強い、縮りあり
P3247	1	10YR5/1 褐灰色	砂質 シルト	柱痕、酸化鉄微量、暗褐色砂 微量、粘性あり、縮りあり
P3247	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト20% 粘性あり、縮りあり
P3247	3	10YR3/1 黒褐色	粘土質 シルト	暗褐色砂質シルト30% 粘性強い、縮りあり
P3247	4	10YR2/2 黒褐色	粘土質 シルト	暗褐色砂質シルト20% 粘性強い、縮りあり
P3249	1	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りあり

3区 SI3007 J-J・K-K 土層観察表

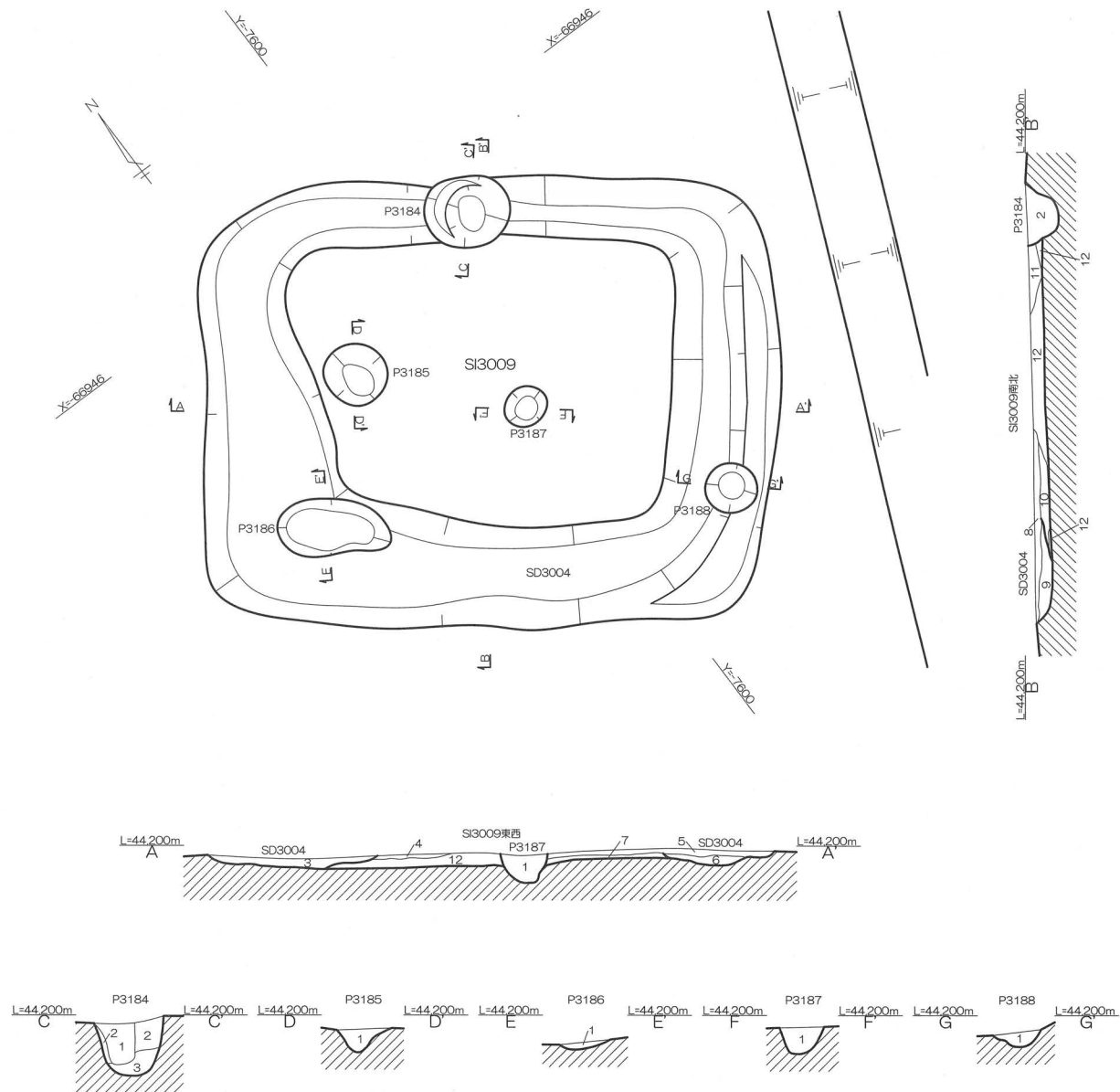
遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SK3036	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	黒色シルト10%、褐色砂少量、褐灰色 砂質シルト5%、粘性あり、縮りあり
SK3036	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	灰色砂20%、褐色砂微量、黒色シルト 微量、粘性あり、縮りあり
SK3036	3	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	砂粒少量、粘土質シルト少量、 粘性やや強い、縮りあり
SK3036	4	10YR4/3 褐色	砂	灰色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りあり
SK3036	5	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト30%、 粘性あり、縮りあり
SK3036	6	10YR3/2 黒褐色	粘土質 シルト	褐灰色砂質シルト20%、 粘性やや強い、縮りあり
P3248	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	酸化鉄微量、 粘性あり、縮りあり
P3250	1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	砂粒少量、 粘性やや強い、縮りあり
P3250	2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	粘土質シルト少量、 粘性やや強い、縮りあり

3区 SI3007 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SD3018	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂質シルト30%、 粘性あり、縮り硬質
SD3018	2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、 粘性弱い、縮りやや硬質
SD3018	3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	灰黄褐色砂質シルト少量、 粘性弱い、縮り硬質
SD3018	4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト少量、 粘性弱い、縮り硬質
SD3018	5	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、 粘性弱い、縮り硬質
基本層序 3-6層	3-6	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト少量、 粘性あり、縮りやや硬質

図62 SI3007遺構図2





SI3009 東西・南北セクション 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3187	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	中粒砂・ 細粒砂	にぶい黄褐色砂質シルト20%、 粘性弱い、縮りあり
P3184	2	10YR5/4 にぶい黄橙色	中粒砂・ 細粒砂	にぶい黄色細粒砂5%、黒色シルト 少量、粘性あり、縮りあり
SD3004	3	2.5Y4/2 暗灰黄色	中粒砂・ 細粒砂	にぶい黄褐色砂質シルト15%、 粘性やや弱い、縮りあり
SI3009	4	10YR4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト20%、 粘性やや弱い、縮りあり
SI3009	5	2.5Y4/2 暗灰黄色	中粒砂・ 細粒砂	褐灰色砂質シルト15%、 粘性やや弱い、縮りあり
SD3004	6	2.5Y4/2 暗灰黄色	中粒砂・ 細粒砂	土器片微量、褐灰色砂質シルト 20%、粘性弱い、縮りあり
	7	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂質シルト20%、 粘性やや弱い、縮りあり
SI3009	8	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト15%、 粘性やや弱い、縮りあり
SD3004	9	2.5Y4/2 暗灰黄色	中粒砂・ 細粒砂	にぶい黄褐色砂質シルト20%、 粘性やや弱い、縮りあり
SI3009	10	10YR4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト15%、 粘性やや弱い、縮りあり
SI3009	11	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	黄褐色砂10%、 粘性あり、縮りあり
	12	10YR3/2 黒褐色	シルト	径15cm以下の礫少量、褐灰色砂質 シルト少量、粘性あり、縮りやや硬質

SI3009内ピット 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3184	1	2.5Y5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト ・砂	黒色シルト少量、にぶい黄色細粒砂 3%、粘性あり、縮りやや硬質
P3184	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色細粒砂微量、 粘性やや弱い、縮りやや硬質
P3184	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色細粒砂微量、 粘性あり、縮りあり
P3184	4	2.5Y4/3 オリーブ褐色	砂質シルト	黒褐色シルト少量、 粘性あり、縮りあり
P3185	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト ・砂	黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂5%、 粘性あり、縮りあり
P3186	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト ・砂	黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂20%、 粘性あり、縮りあり
P3187	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト ・砂	黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂10%、 粘性あり、縮りあり
P3188	1	2.5Y4/2 暗灰黄色	細粒砂	黒色シルト少量、明黄褐色砂3%、 粘性あり、縮りあり

0 (S=1:40) 2m

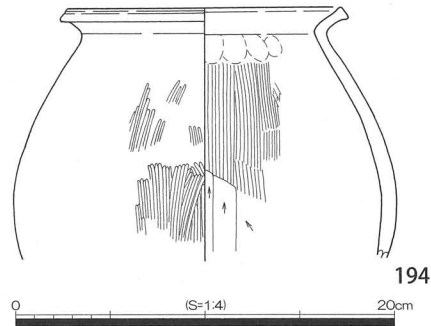
図63 SI3009遺構図

P3185は(0.372m×0.361m-0.337m)、P3186は(0.651m×0.329m-0.274m)である。ピットの形状は、円形もしくは不整楕円形で、P3186のみ浅い落ち込みである。SI3002～SI3006と比べて小規模で柱穴を有さないタイプの可能性もある。どのピットにも礎石は確認できない。壁溝SD3004の幅は東側では60cm前後であるが、西側で80cm幅に広がる。南東側には段があり、テラス状になる。

柱穴埋土・礎石の有無 住居内埋土は褐灰色砂質シルトを主体とする。ピット・壁溝も砂質シルトもしくはにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。

遺物出土状況 埋土中・ピット内・壁溝内から土器片29点が出土した。床面上まで攪乱をうけているが、礫と土器片が数点同一平面上に散在する。弥生土器の甕口縁部片2点・甕底部片2点が確認された。実測個体は1点、194は甕の口縁部～体部である。口縁端部に凹線文1条が施され、体部内面上端には指押さえの跡が残る。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。出土遺物から、弥生時代中期後葉とする。



遺物図25 SI3009出土遺物

遺物観察表 25

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
194	3	SI3009 (3524)	25	68	弥生土器 甕	口径:(14.2) 器高:13.3～ 最大径:(20.2)	外面:口縁端部凹線文1条、口縁部～肩部ナデ、 体部ミガキ 内面:口縁部ナデ、体部上端指オサエ、体部ケズ り後上半ハケ	普通 ～2mmの砂粒、 普通	普通 外面:浅黄橙 内面:にぶい橙	

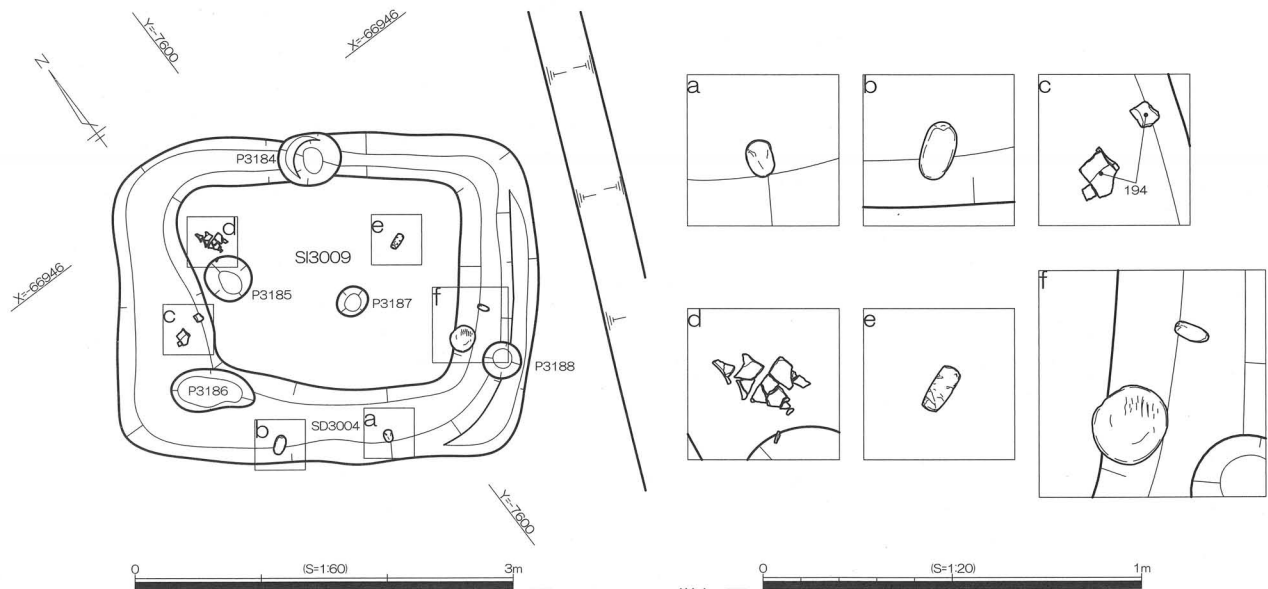


図64 SI3009微細図

■ SI3010(図 65-1・65-2、写真図版 34)

位置 第2面 07・08 グリッドに位置する。標高は 44.816m である。Tr.1 に切られる。

検出状況 耕 3001 を除去し、暗褐色砂層～黒褐色砂質シルト層を順次掘り下げながら検出した。ほとんどの柱穴は黒褐色砂質シルト層の上面で確認できたが、壁溝が検出できず、住居跡の範囲がわからなかった。SD3009 は黒色シルト上面まで掘り下げて検出した。壁溝の底面のみが残っている。

軸方向・平面形状・規模 平面形は不整形である。残存長軸 6.349m・短軸 5.846m を測る。断面形は浅い盤形で、壁溝が明瞭に残っている。確認面から床面掘り方までの深さは 0.118m である。

主柱穴は 4 基ないし 6 基の組み合わせを想定した。対になるのは P3200-P3210、P3201-P3213、P3204-P3231 である。規模は遺構一覧表に記載するが、平面規模・深さとも一定しない。壁溝 SD3009 が検出できなければ、竪穴住居跡とは認定できなかつたと思われる。

柱穴埋土・礎石の有無 遺構内埋土は暗褐色砂質シルト層である。掘り方の埋土は、黒褐色砂質シルト層とほぼ同じ、黒褐色砂質シルトを主体とする。いずれの柱穴にも礎石は確認できない。

遺物出土状況 埋土中・ピット内から土器片 55 点が出土した。弥生土器の甕口縁部片 5 点が確認できる。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。時期は出土遺物から弥生時代中期以降であろう。

■ SI3011(図 66-1・66-2、遺物図 26、遺物観察表 26、写真図版 34・68)

位置 第2面 06 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.621m である。東側を耕作溝に切られ、南側を Tr.1 に切られる。

検出状況 第1面で検出した洪水砂の暗褐色砂層を人力掘削で除去して黒褐色砂質シルト層を検出した。この段階では SI3011 は曖昧な落ち込みとしか確認できず、竪穴住居跡とは確認できなかった。さらに黒褐色砂質シルト層を 1cm 程度掘り下げ、黒色シルト層上面で再検出をすると、環状にめぐる壁溝が確認でき、柱穴 4 基が四角く配置されていることがわかった。貼床面は消失している。確認面直上は酸化鉄が多く沈着し、硬質に締る。確認面の黒褐色砂質シルト層より砂粒が多い。

軸方向・平面形状・規模・柱穴礎石 平面形は円形である。残存長軸 4.539m・短軸 4.179m を測る。断面形は浅い盤形で、壁溝が明瞭に残っている。確認面から床面掘り方までの深さは 0.130m である。SK3023 は中央土坑と思われ、規模は (0.600m × 0.425m-0.226m) を測る。

主柱穴は 4 基が菱形に並んでいる。各ピットの規模(長軸×短軸-床面からの深さ)は P3178 は (0.438m × 0.422m-0.370m)、P3181 は (0.316m × 0.296m-0.260m)、P3179 は (0.520m × 0.430m-0.360m)、P3182 は (0.463m × 0.434m-0.308m) である。P3182 は礎石を有する。形状は、4 基とも平面形は円形で、断面形は U 字形もしくは円筒形を示す。P3182 の南側に P3183 が付帯する。P3183 の規模は (0.334m × 0.291m-0.313m) で礎石を有する。礎石を有する柱の脇にもう一つ礎石を備えた柱を設けるパターンは、SI3012 でもみられる。

遺物出土状況 埋土中・ピット内から土器片 71 点が出土した。弥生土器の甕の口縁部片 5 点と同じく底部片 2 点が確認できる。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。出土遺物から弥生時代中期以降であろう。

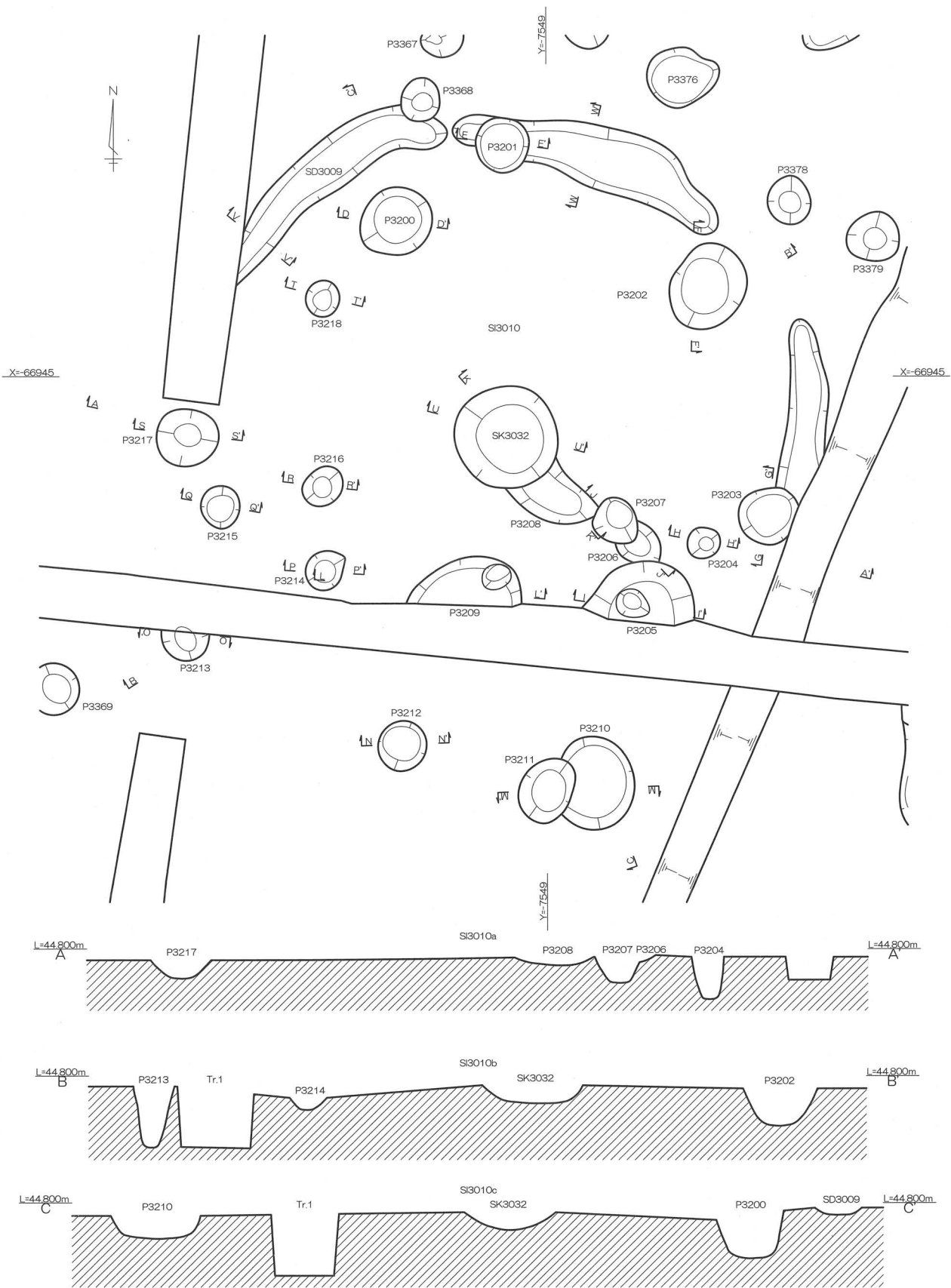
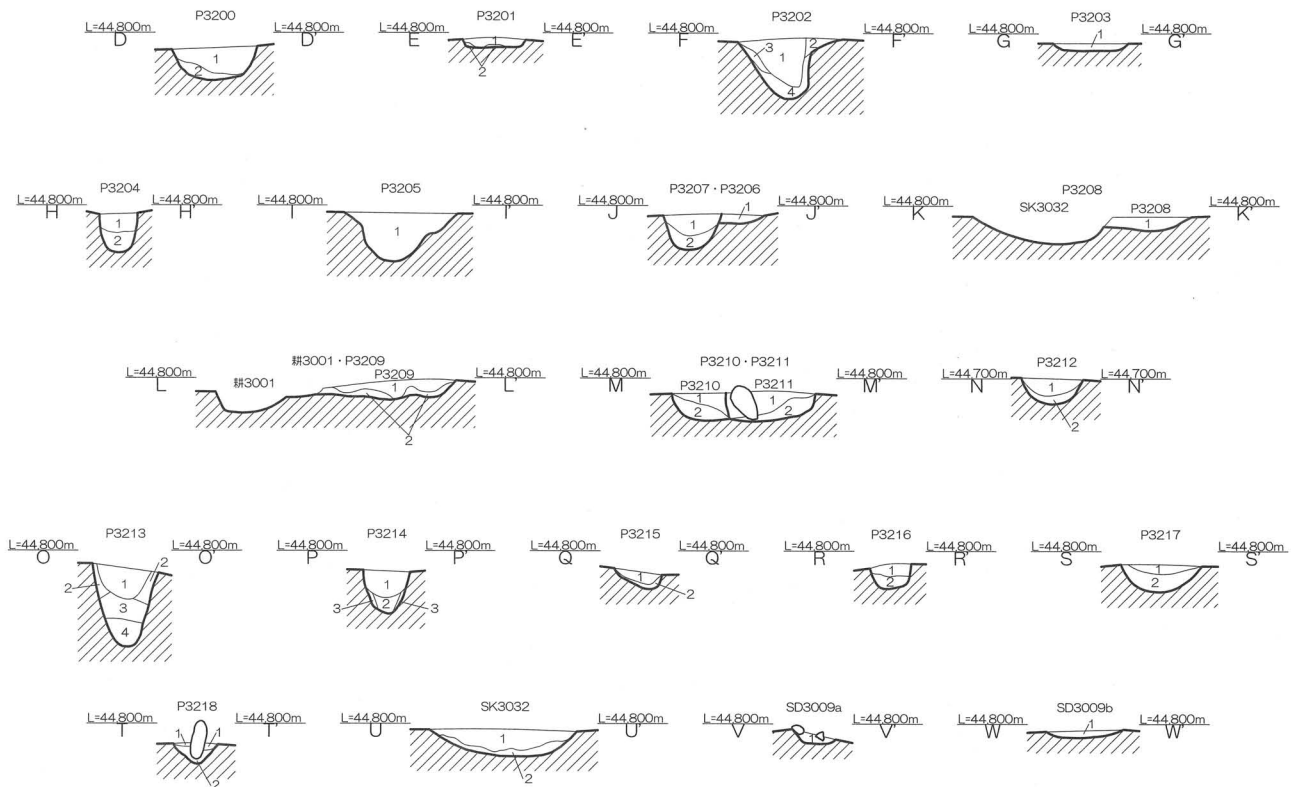


图65-1 SI3010遺構図



SI3010内ピット・土坑・壁溝土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3200	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	黒褐色砂質シルト20%、にぶい黄褐色細粒砂5%、粘性あり、縮りあり
P3200	2	10YR2/1 黒色	シルト	にぶい黄褐色細粒砂3%、粘性あり、縮りあり
P3201	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色細粒砂20%、黒色シルト5%、粘性あり、縮りあり
P3201	2	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂少量、粘性あり、縮りあり
P3202	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂25%、粘性あり、縮りあり
P3202	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂5%、粘性あり、縮りあり
P3202	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂5%、粘性あり、縮りあり
P3202	4	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂10%、灰白色細粒砂微量、粘性あり、縮りあり
P3203	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂	黒褐色砂質シルト20%、にぶい黄褐色細粒砂5%、粘性なし、縮りあり
P3204	1	10YR3/2 黒褐色	砂	黒色シルト2%、灰白色細粒砂微量、粘性なし、縮りあり
P3204	2	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂10%、灰白色細粒砂微量、粘性あり、縮りあり
P3205	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂25%、にぶい黄褐色細粒砂5%、小礫微量、粘性あり、縮りあり
P3206	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂20%、粘性あり、縮りあり
P3207	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂	褐色シルト2%、黒色シルト5%、粘性なし、縮りあり
P3207	2	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂10%、粘性あり、縮りあり
P3208	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂20%、粘性あり、縮りあり
P3209	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂10%、灰白色砂粒微量、粘性あり、縮りあり
P3210	1	10YR3/2 黒褐色	砂	暗褐色砂20%、粘性なし、縮りあり
P3210	2	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂10%、粘性あり、縮りあり
P3211	1	10YR3/2 黒褐色	砂	直径28cm大の礫あり、黒褐色砂質シルト20%、粘性なし、縮りあり
P3211	2	10YR2/1 黒色	シルト	暗褐色砂10%、粘性あり、縮りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3212	1	10YR3/3 暗褐色	砂	黒褐色砂質シルト20%、粘性なし、縮りあり
P3212	2	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂10%、粘性あり、縮りあり
P3213	1	10YR3/3 暗褐色	砂	黒褐色砂質シルト20%、黒色シルト2%、粘性なし、縮りあり
P3213	2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	黒褐色砂10%、粘性弱、縮りあり
P3213	3	10YR3/3 暗褐色	砂	黒色シルト25%、粘性なし、縮りあり
P3213	4	10YR3/3 暗褐色	砂	黒色シルト30%、粘性なし、縮りあり
P3214	1	10YR3/3 暗褐色	砂	黒色シルト2%、粘性なし、縮りあり
P3214	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂10%、黒色シルト15%、粘性あり、縮りあり
P3214	3	10YR2/1 黒色	砂質シルト	黒褐色砂20%、粘性やや強い、縮りあり
P3215	1	10YR3/3 暗褐色	砂	黒褐色砂質シルト5%、粘性なし、縮りあり
P3215	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト30%、粘性あり、縮りあり
P3216	1	10YR3/2 黒褐色	砂	にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性弱い、縮りあり
P3216	2	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂30%、灰白色粘土微量、粘性あり、縮りあり
P3217	1	10YR3/3 暗褐色	砂	黒色シルト2%、粘性弱い、縮りあり
P3217	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂10%、粘性あり、縮りあり
P3218	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	直径26cm大の礫あり、にぶい黄褐色細粒砂5%、灰白色小礫微量、粘性やや弱い、縮りあり
P3218	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂10%、粘性あり、縮りあり
SK3032	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性あり、縮りあり
SK3032	2	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂質シルト5%、粘性あり、縮りあり
SD3009	1	10YR3/3 暗褐色	砂	弥生土器片あり、小礫あり、黒褐色砂質シルト10%、粘性なし、縮りやや硬質
SD3009	2	10YR3/3 暗褐色	砂	黒褐色砂質シルト30%、粘性なし、縮りやや硬質

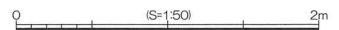


図65-2 SI3010遺構図

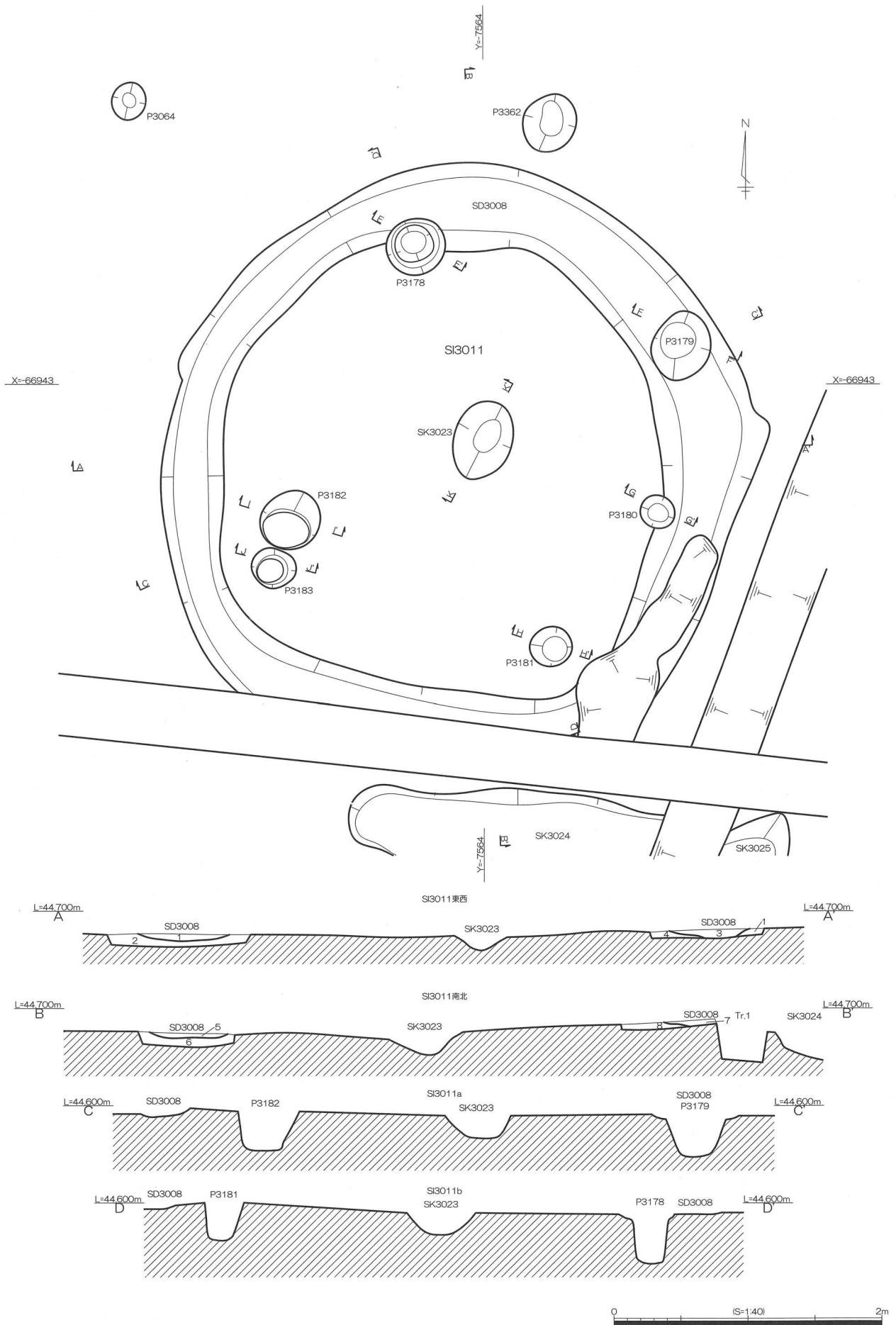
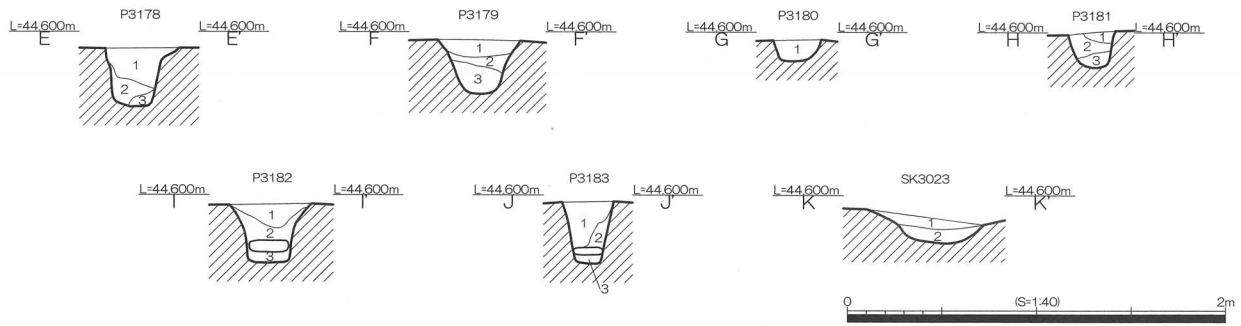


図66-1 SI3011遺構図



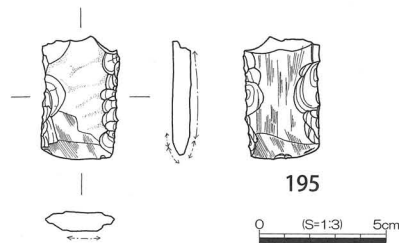
SI3011 東西・南北セクション土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SD3008	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粗粒砂・中粒砂混在、にぶい黄褐色砂質シルト20%、粘性なし、縮り硬質
	3-7層	2	10YR2/1 黒色	シルト 黒色土層、粘性あり、縮りやや硬質
SD3008	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粗粒砂・中粒砂混在、にぶい黄褐色砂質シルト5%、粘性なし、縮り硬質
	3-7層	4	10YR2/1 黒色	シルト 黒色土層、粘性あり、縮りやや硬質
SD3008	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	粗粒砂・中粒砂混在、にぶい黄褐色砂5%、粘性なし、縮り硬質
	3-7層	6	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト 黒色土層、粘性あり、縮りやや硬質
SD3008	7	7.5YR3/1 黒褐色	砂	酸化鉄沈着、粗粒砂・中粒砂混在、粘性なし、縮り硬質
	3-7層	8	7.5YR2/1 黒色	シルト 黒色土層、酸化鉄沈着、粘性あり、縮り硬質

SI3011内ピット土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SK3023	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粗粒砂・中粒砂混在、にぶい黄褐色砂10%、粘性なし、縮りあり
	SK3023	2	10YR2/1 黒色	砂質シルト 黒褐色シルト10%、粘性あり
P3178	1	7.5YR3/3 暗褐色	砂	粗粒砂・中粒砂混在、にぶい黄褐色砂10%、粘性なし、縮り硬質
	P3178	2	7.5YR3/1 黒褐色	砂質シルト 粘性あり、縮りやや硬質
	P3178	3	10YR3/1 黒褐色	シルト 粘性あり、縮りやや硬質
P3179	1	7.5YR3/3 暗褐色	砂	粗粒砂・中粒砂混在、粘性なし、縮り硬質
P3180	1	7.5YR3/3 暗褐色	砂	粗粒砂・中粒砂混在、にぶい黄褐色砂10%、粘性なし、縮り硬質
P3181	1	7.5YR3/3 暗褐色	砂	粗粒砂・中粒砂混在、にぶい黄褐色砂10%、粘性なし、縮り硬質
	P3181	2	7.5YR3/1 黒褐色	砂質シルト 粘性あり、縮りやや硬質
	P3181	3	10YR3/1 黒褐色	シルト 粘性あり、縮りやや硬質
P3182	1	7.5YR3/3 暗褐色	砂	粗粒砂・中粒砂混在、にぶい黄褐色砂5%、粘性なし、縮り硬質
P3182	2	7.5YR3/1 黒褐色	砂質シルト	中粒砂10%、粘性あり、縮りやや硬質
	P3182	3	10YR3/1 黒褐色	シルト 中粒砂5%、粘性あり、縮りやや硬質
P3183	1	7.5YR3/3 暗褐色	砂	粗粒砂・中粒砂混在、にぶい黄褐色砂10%、粘性なし、縮り硬質
P3183	2	7.5YR3/1 黒褐色	砂質シルト	粘性あり、縮りやや硬質
	P3183	3	10YR3/1 黒褐色	シルト 粘性あり、縮りやや硬質

図66-2 SI3011遺構図



遺物図26 SI3011出土遺物

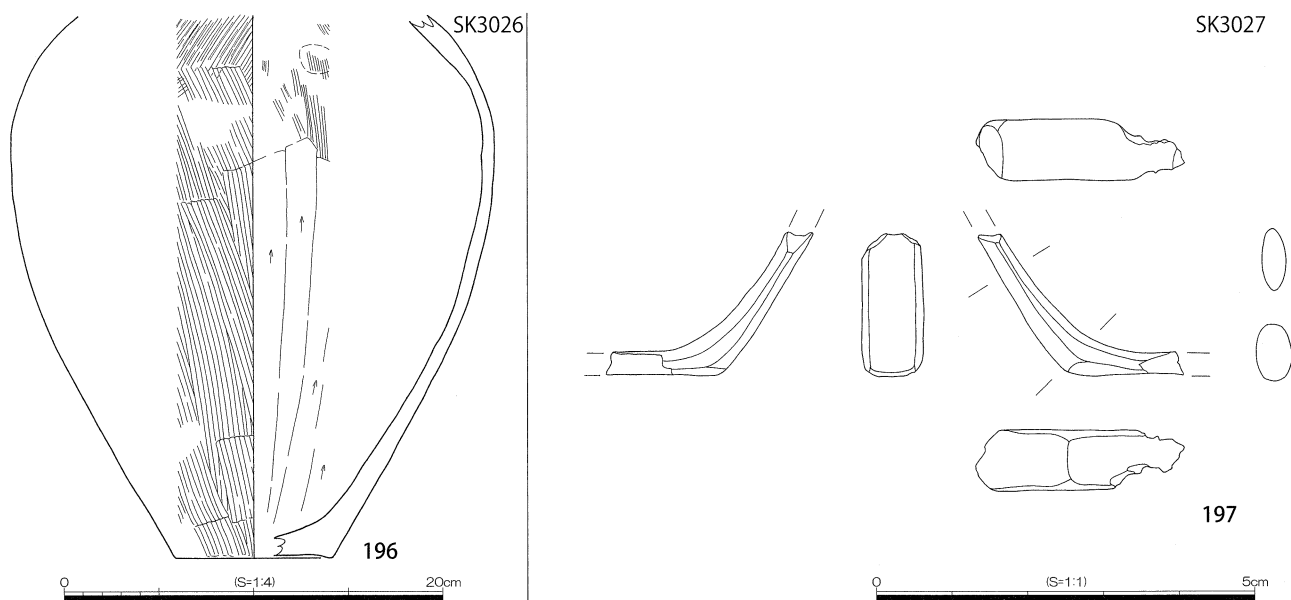
遺物観察表 26

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 種類	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
195	3	SI3011 (3996)	26	68	石器 石斧	長さ:4.85~ 幅:3.0 厚さ:0.7 重さ:18.6	磨製、刃部・裏面に研磨痕あり 両側縁に細かい剥離痕あり 表面に自然面残る 両刃	頁岩	灰	

■ SI3012(図 67-1・67-2、遺物図 27、遺物観察表 27、巻頭図版 6、写真図版 35・68)

位置 第2面 P6 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.547m である。

検出状況 圃場整備の整地層を除去した段階で暗褐色砂質シルト層が検出され、これを人力掘削で除去して黒褐色シルト層を検出した。この検出段階で、銅釧片(197)が出土した。出土地点は、P2 グリッドの SK3027 内である。洪水性堆積層と推定した暗褐色砂層(～にぶい黄褐色砂質シルト層)を人力掘削して、SK3027 の範囲をしぼりこみ、黒色シルト層上面で遺構検出をおこなった段階で見つかった。SK3027 のすぐ西側に SK3027 に切られる SK3026 があり、この遺構に弥生時代中期の甕片が見つ



遺物図27 SI3012内SK3026・SK3027出土遺物

遺物観察表 27

遺物番号	調査区	遺構番号(調査番号)	遺物図番号	図版番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
196	3	SI3012内SK3026(3065)	27	68	弥生土器 甕	器高:28.7~ 最大径:(25.4) 底径:(8.3)	外面:体部ハケ、底部ナデ 内面:肩部ハケ、体部ケズリ、底部ナデ	普通 ~0.5mmの砂粒、 普通	普通 外面:褐 内面:黄褐	外面煤付着
197	3	SI3012内SK3027(3064)	27	68	青銅器 有鉤銅釧	長さ:2.75~ 幅:0.8 厚さ:0.55 重さ:5.3	型流し成型 表面ミガキ		外面:オリープ黒 内面:オリープ黒 断面:灰	

SI3012 ビット・土坑 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混人物等
P3193	1	7.5YR4/3 褐色	砂質 シルト	柱痕、橙色砂・にぶい褐色砂少量、 粘性あり、締りあり
P3193	2	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	柱痕、橙色砂・にぶい褐色砂少量、 粘性あり、締りあり
P3193	3	10YR2/1 黒色	粘土質 シルト	粘性強い、締りあり
P3193	4	10YR2/1 黒色	粘土質 シルト	黒褐色砂質シルト20%、 粘性強い、締りあり
P3194	1	7.5YR4/3 褐色	砂質 シルト	柱痕、橙色砂・にぶい褐色砂少量、 炭化物微量、粘性あり、締りあり
P3194	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	礫あり、橙色砂・にぶい褐色砂微量、 粘性あり、締りあり
P3194	3	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂質シルト少量、 粘性やや強い、締りあり
P3194	4	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	灰白色粒微量、 粘性あり、締りあり
P3194	5	10YR3/1 黒褐色	シルト	礫石あり、礫石下層、黒色シルト少 量、にぶい黄褐色砂5%、粘性あ り、締りあり
P3195	1	7.5YR4/3 褐色	砂質 シルト	柱痕、酸化鉄沈着、砂粒多量、 粘性あり、締りあり
P3195	2	7.5YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	酸化鉄沈着、砂粒多量、 粘性あり、締りあり
P3195	3	7.5YR3/1 黒褐色	シルト	礫石あり、礫石下層、褐色砂少量、 粘性やや強い、締りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混人物等
P3196	1	2.5Y4/1 黄灰色	砂質 シルト	炭化物微量、黒褐色砂質シルト 20%、粘性あり、締りあり
P3196	2	10YR1.7/1 黒色	シルト	黄灰色砂質シルト20%、 粘性やや強い、締りあり
P3197	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質 シルト	黒色砂質シルト10%、粘性あり、 締りあり
P3197	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	柱痕、黒色シルト少量、にぶい黄褐 色砂10%、粘性あり、締りあり
P3197	3	10YR1.7/1 黒色	シルト	黄灰色砂質シルト5%、 粘性強い、締りあり
P3199	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	にぶい黄褐色砂混在、 粘性やや弱い、締りあり
SK3026	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質 シルト	中央土坑、弥生土器甕・礫あり、炭 化物・炭土粒微量、灰色砂・灰黄色 砂少量、粘性弱い、締りやや硬質
SK3027	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	銅釧片出土、にぶい黄褐色砂・灰黄 色砂少量、粘性弱い、締りあり
SK3028	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	にぶい黄褐色砂・褐灰色砂質シルト 少量、粘性あり、締りあり
SK3028	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	黒褐色シルト20%、 粘性あり、締りあり
SK3029	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質 シルト	灰黄色砂・灰色砂少量、 粘性あり、締りあり
SK3029	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト少量、 粘性あり、締りあり

図67-1 SI3012遺構図

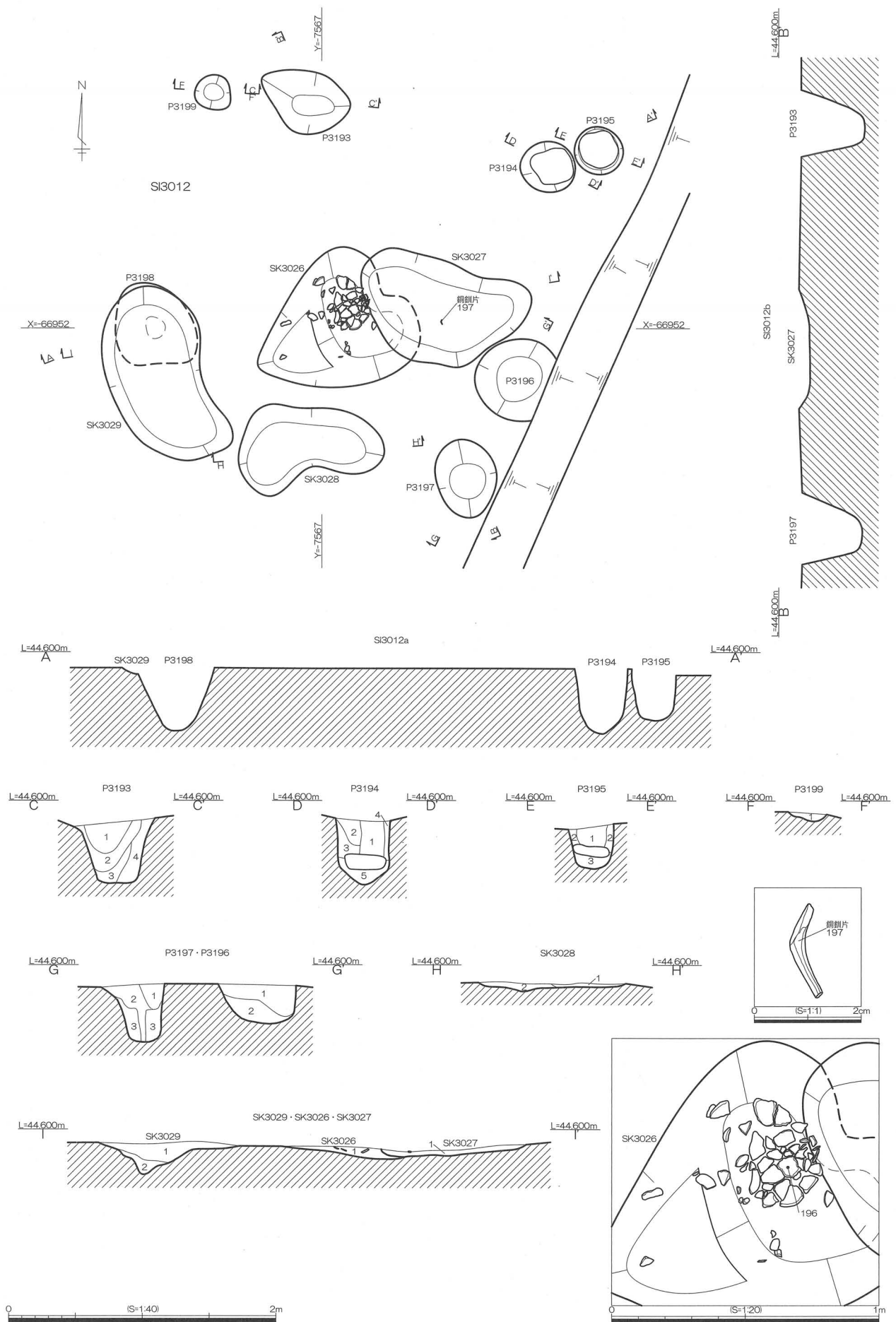


圖67-2 SI3012遺構圖

ぶれながらも残っていた。SK3026 内には焼成粘土粒と炭化物粒が少量検出され、竪穴住居跡の中央土坑の可能性が想定されたため、周辺の再精査をおこなった。その結果、SK3026 を中心に 4 基の柱穴と他に 2 基の柱穴がみつき、竪穴住居跡の残骸であると確認された。ただし、竪穴住居の掘方・壁溝・貼床は見つからなかった。直上の暗褐色砂層が幅 15m 程度で流路状に堆積していたため、大雨・洪水等による自然流路の埋没土とみられ、SI3012 の床面は流失したものと思われる。

平面形状・規模・付帯施設 竪穴住居跡の平面形は円形であったと推定される。残存長軸は柱穴の上端部の距離で測って、長軸 4.260m、短軸 3.850m を測る。掘方及び床面・壁溝は残っていない。

SK3026 は中央土坑と推定できる。規模は (1.222m × 1.035m-0.139m) で、焼土粒と炭化物と共に、弥生時代中期中葉の甕片が出土している。SK3026 の東側に SK3027 がある。SK3027 は SK3026 を切り、直上を攪乱に切られる。SK3027 の規模は (1.350m × 0.755m-0.073m) である。支柱穴は 4 基が菱形に並んでいる。各ピットの規模(長軸×短軸-床面からの深さ)は P3193 が (0.689m × 0.477m-0.569m)、P3197 が (0.588m × 0.456m-0.448m)、P3194 が (0.407m × 0.382m-0.464m)、P3198 が (残存長軸 0.644m × 残存短軸 0.590m-0.470m) である。形状は、4 基とも平面形は円形で、断面形は U 字形もしくは円筒形を示す。P3194 は礎石を有する。P3194 の北側には P3195 があり、規模は (0.362m × 0.358m-0.444m) と P3194 に比べてやや小型で、やはり礎石を有する。礎石を有する柱が補助柱穴をもつパターンは、SI3011 でもみられる。

柱穴埋土・土坑埋土 遺構内埋土は暗褐色砂質シルト層もしくは暗褐色砂である。中央土坑付近はにぶい黄褐色砂を多く含む。

遺物出土状況 住居範囲内から 48 点の土器片と 1 点の青銅製品が出土した。SK3026 からは、196 として掲載した弥生時代中期の甕体部～底部のほか、16 点の弥生土器片が出土した。うち 1 点は高坏の口縁部破片である。SK3027 からは弥生土器片 8 点の他、青銅製の銅釧 197 が出土した。屈曲部の形状と平坦面の作り方から有鉤銅釧の破片と思われる。有鉤銅釧の出土例は非常に少なく、鳥取・島根で過去に報告例はなく、全国的にみても 30 遺跡、80 点目となる貴重な資料である。有鉤銅釧はゴホウラガイの貝輪に起源をもつ腕輪であり、弥生時代中期から古墳時代にかけて作られたもので、集落内にあつて特別な地位の者が所有していたとされる。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。中央土坑出土の土器等から、弥生時代中期後葉と推定される。

■ 3 区 第 2 面 木棺墓 SX3001 ～ SX3004(巻頭図版 4、写真図版 37・38)

3 区中央北寄りの N10・11、O10・11 グリッドに 4 基の木棺墓 SX3001 ～ SX3004 が検出された。上面がほとんど削平されており、深さ 10 ～ 15cm 程度が残される。

石棺材等は全く残っておらず、非常に細長い棺のプランであったため、木棺墓と推測した。埋土の状況をみる限り、棺部の際がまっすぐに切り立つものは少なく、掘方部分に板材等を組み込んだ痕跡もなく、逆に丸い立ち上がりが目につく。このため組み合わせ式木棺や箱式木棺ではなく、舟形木棺の可能性を考慮した。木棺本体が残っていないため、確定的とはいえないが、可能性の一つとして指摘しておく。

時代は弥生時代後期以降と指摘できる。SX3003 から水晶製小玉が出土したのが唯一の副葬品であり、他は表土中からの混入と思われる弥生土器片である。水晶製小玉はそのほとんどが小型の算盤玉

形である。弥生時代後期以降の可能性はある。

■ SX3001(図 68、写真図版 37・38)

位置 第2面中央北側のN10グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.802mである。現在は削られて残っていないが、もとの地表面は1m近く高かったものと思われる。

検出状況 圃場整備の際の整地層を除去した段階で黒色土層(3-8層)を検出した。この面でプラン精査をおこなったところ、隅丸長方形の掘方と、その中に短冊形の木棺跡が検出された。同様のプランが周辺で3基みづかり(SX3004は後にトレンチ調査で確認)、墓坑としてSXの記号を付した。

平面形状・軸方向・規模 掘方の平面形は隅丸長方形で、長軸1.866m・短軸0.928m、確認面からの深さ0.101mである。断面形は盤形を呈する。軸方向は、E-36°-Sをふる。

埋土 埋土は5層に区分した。1・2層が木棺部の埋土、3～5層が掘方の埋土である。1・2層は黒褐色シルト主体で、暗褐色砂質シルトを含み、やや粘性が強い。3・4・5層は暗褐色砂質シルトを主体とし、5層には砂粒を多く含む。

遺物出土状況 土器細片を微量含む。遺構内から副葬品等は確認できず、木棺部内埋土をすべて採取し水洗して微細遺物を探したが、遺物は検出されなかった。

遺構の性格と帰属時期 木棺墓である。舟形木棺墓の可能性はある。時期はSX3003と同じ弥生時代後期以降と推測される。

■ SX3002(図 68、写真図版 37・38)

位置 第2面中央北側のN11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.760mである。

検出状況 SX3001と同様、黒色土層(3-8層)の面で、隅丸長方形の掘方と、その中の短冊形の木棺跡を検出した。

平面形状・軸方向・規模 掘方の平面形は隅丸長方形で、長軸2.287m・短軸1.085m、確認面からの深さ0.125mである。断面形は盤形を呈する。軸方向は、E-2°-Nをふる。

埋土 埋土は5層に区分した。1～3層が木棺部の埋土、4～6層が掘方の埋土である。1・2層は黒褐色砂質シルト主体、3層は黒色シルト主体である。やや暗褐色系の色調の砂質シルトが混在する。4～6層は黒褐色砂質シルトを主体とする。いずれも暗褐色砂を少量含む。暗褐色砂は黒色土直下の漸移層由来の土である。

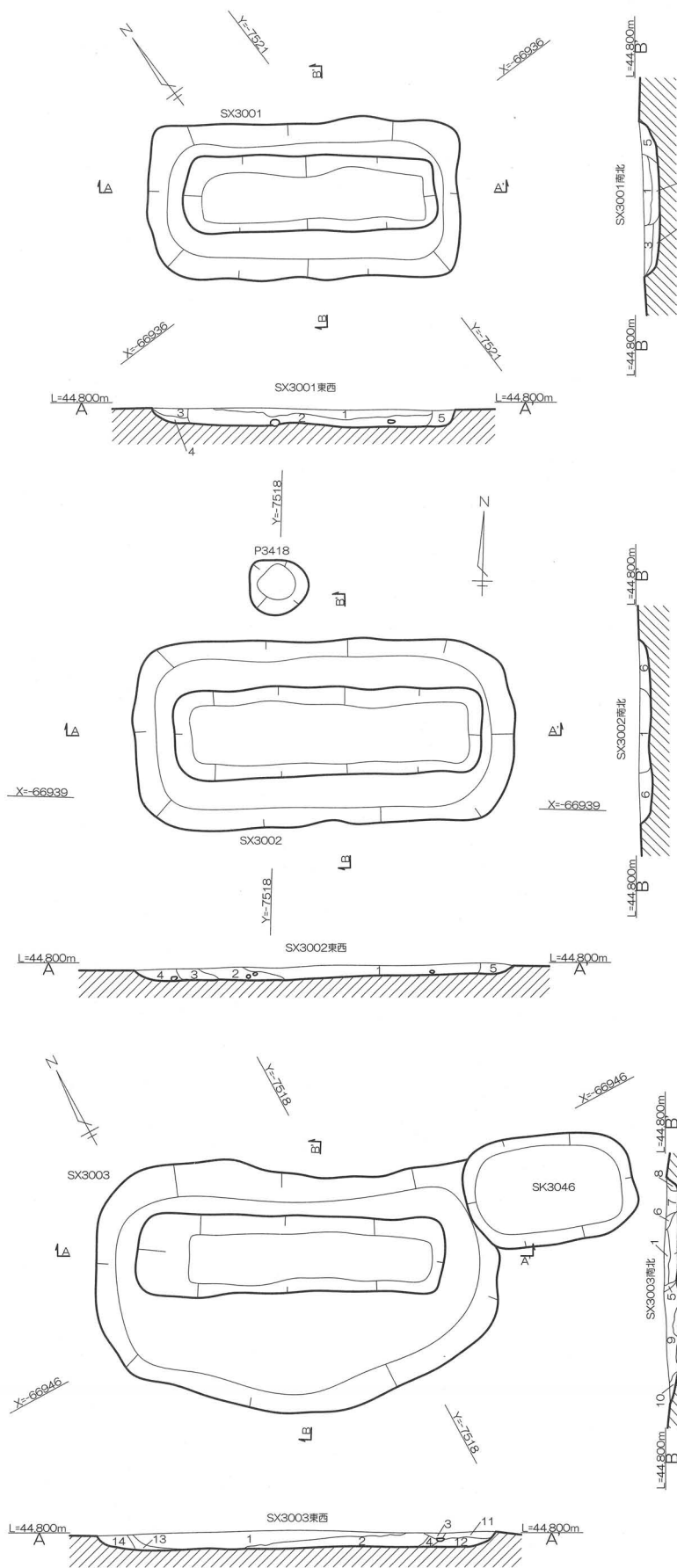
遺物出土状況 土器細片を微量含む。遺構内から副葬品等は確認できず、木棺部内埋土をすべて採取し水洗して微細遺物を探したが、遺物は検出されなかった。

遺構の性格と帰属時期 木棺墓である。舟形木棺墓の可能性はある。時期はSX3003と同じ弥生時代後期以降と推測される。

■ SX3003(図 68、遺物図 28、遺物観察表 28、巻頭図版 6、写真図版 37・38・69)

位置 第2面中央北側のO11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.798mである。東端部をSK3046に切られる。

検出状況 SX3001と同様、黒色土層(3-8層)の面で、隅丸長方形の掘方と、その中の短冊形の木棺跡を検出した。



SX3001 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	10YR3/1 黒褐色	シルト	木棺部、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
2	10YR3/2 黒褐色	シルト	木棺部、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 5%、小礫微量、粘性あり、縮りあり
3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	掘方、7.5YR4/6(褐色) 砂質シルト 10%、粘性あり、縮りあり
4	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	掘方、7.5YR4/6(褐色) 砂質シルト 20%、粘性あり、縮りあり
5	10YR3/3 暗褐色	砂・砂質 シルト	掘方、10YR3/1(黒褐色)シルト30%、 粘性あり、縮りあり

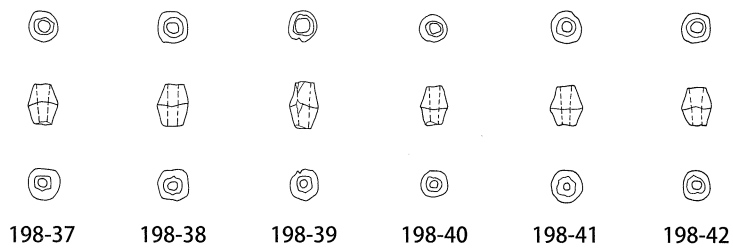
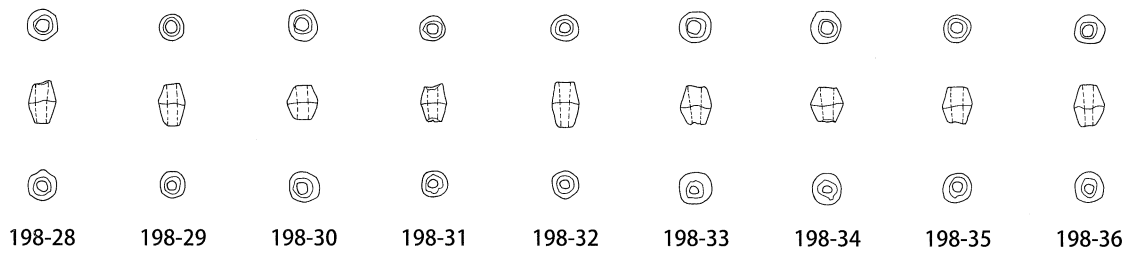
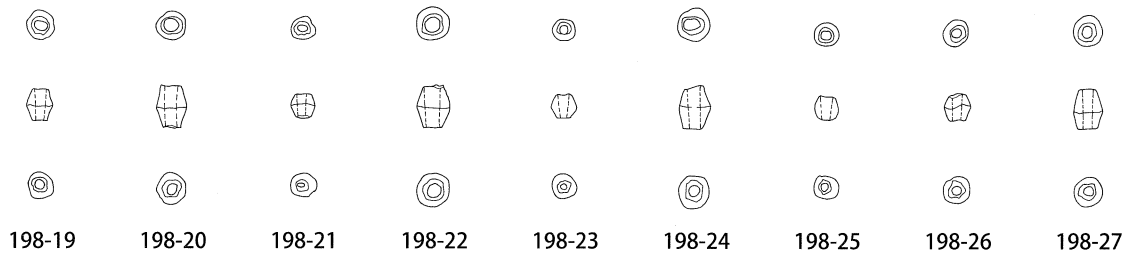
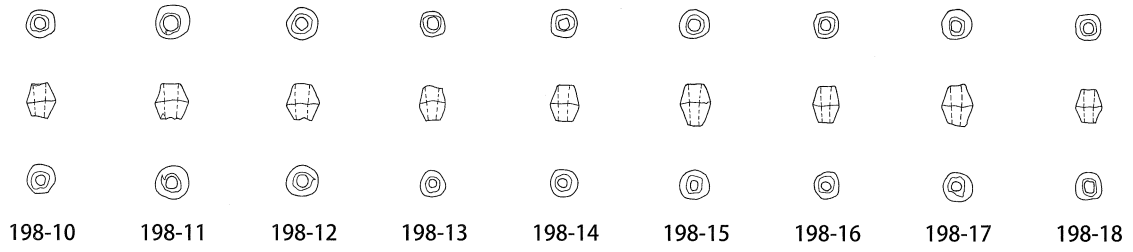
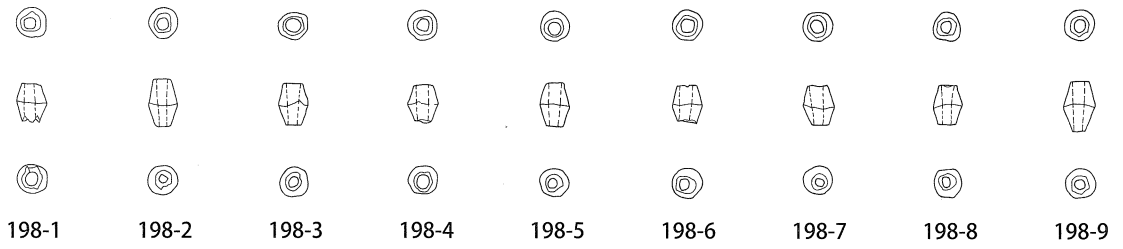
SX3002 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	木棺部、10YR3/2(黒褐色) 砂質シルト 20%、小礫微量、粘性あり、縮りあり
2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	木棺部、10YR3/2(黒褐色) 砂質シルト 5%、小礫微量、粘性あり、縮りあり
3	10YR2/1 黒色	シルト	木棺部、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 5%、小礫微量、粘性あり、縮りあり
4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
5	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色) 砂15%、 粘性やや強い、縮りあり
6	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色) 砂15%、 10YR3/2(黒褐色)砂質シルト10%、 粘性やや強い、縮りあり

SX3003 土層観察表

層番号	JISnotation 土色名	土性	混入物等
1	10YR3/2 黒褐色	シルト	木棺部、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
2	10YR3/2 黒褐色	シルト	木棺部、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり、埋土の 水洗選別で水晶玉検出
3	10YR3/1 黒褐色	シルト	木棺部、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
4	10YR3/1 黒褐色	シルト	木棺部、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
5	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	木棺部、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
6	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	木棺部、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
7	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	掘方、10YR3/1(黒褐色)シルト20%、 粘性あり、縮りあり
8	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
9	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
10	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	掘方、10YR5/6(黄褐色) 砂15%、 粘性弱、縮りあり
11	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
12	10YR2/1 黒色	シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト5%、 粘性やや強い、縮りあり
13	10YR2/1 黒色	シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト5%、 粘性やや強い、縮りあり
14	10YR4/1 褐灰色	シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色) 砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり

図68 SX3001・SX3002・SX3003遺構図



0 1:1 2cm

遺物図28 SX3003出土遺物

遺物観察表 28(SX3003 出土水晶製小玉法量一覧表)

遺物 No.	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	遺物 No.	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	遺物 No.	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)
198-1	算盤玉形	0.49	0.40	0.1	198-15	算盤玉形	0.55	0.41	0.1	198-29	算盤玉形	0.57	0.35	0.1
198-2	算盤玉形	0.64	0.40	0.1	198-16	算盤玉形	0.48	0.35	0.1	198-30	算盤玉形	0.47	0.41	0.1
198-3	算盤玉形	0.57	0.40	0.1	198-17	算盤玉形	0.53	0.42	0.1	198-31	算盤玉形	0.49	0.35	0.1
198-4	算盤玉形	0.50	0.40	0.1	198-18	算盤玉形	0.47	0.38	0.1	198-32	算盤玉形	0.59	0.36	0.1
198-5	算盤玉形	0.56	0.39	0.1	198-19	算盤玉形	0.42	0.34	0.1	198-33	算盤玉形	0.52	0.42	0.1
198-6	算盤玉形	0.49	0.40	0.1	198-20	算盤玉形	0.57	0.41	0.1	198-34	算盤玉形	0.49	0.42	0.1
198-7	算盤玉形	0.54	0.40	0.1	198-21	算盤玉形	0.31	0.35	0.1	198-35	算盤玉形	0.50	0.40	0.1
198-8	算盤玉形	0.50	0.36	0.1	198-22	算盤玉形	0.56	0.46	0.15	198-36	算盤玉形	0.56	0.40	0.1
198-9	算盤玉形	0.62	0.40	0.1	198-23	丸形	0.31	0.33	0.1	198-37	算盤玉形	0.54	0.43	0.1
198-10	算盤玉形	0.46	0.39	0.1	198-24	算盤玉形	0.58	0.42	0.1	198-38	算盤玉形	0.53	0.42	0.1
198-11	算盤玉形	0.47	0.46	0.1	198-25	丸形	0.34	0.35	0.1	198-39	算盤玉形	0.60	0.40	0.2
198-12	算盤玉形	0.43	0.42	0.1	198-26	算盤玉形	0.39	0.38	0.1	198-40	算盤玉形	0.52	0.35	0.1
198-13	算盤玉形	0.48	0.34	0.1	198-27	算盤玉形	0.55	0.40	0.1	198-41	算盤玉形	0.54	0.42	0.1
198-14	算盤玉形	0.48	0.39	0.1	198-28	算盤玉形	0.55	0.40	0.1	198-42	算盤玉形	0.52	0.37	0.1

平面形状・軸方向・規模 掘方の平面形は隅丸長方形で、長軸 2.415m・短軸 1.410m、確認面からの深さ 0.139m である。断面形は盤形を呈する。南側の掘方が広がりぎみになる。軸方向は、E-29° -S をふる。

埋土 埋土は 14 層に区分した。埋土は 1～6 層が木棺部の埋土、7～14 層が掘方の埋土である。1～4 層は黒褐色シルトを主体とし、5 層は黒褐色砂質シルト、6 層は褐灰色砂質シルトを主体とする。7～11 層は暗褐色砂質シルト主体であり、砂の含有がやや多い。12・13 層が黒色シルト主体、14 層が褐灰色シルト主体である。

遺物出土状況 遺構内から副葬品等は確認できず、木棺部内埋土をすべて採取し水洗選別して微細遺物を探した。その結果、水晶製小玉 42 点 (198-1～198-42) を検出した。水洗用の埋土採取は木棺部内を 4 分割し、北東・南東・南西・北西に分けておこなった。水晶製小玉が出土したのはこのうち北東・南東の 2 箇所であり、西側半分からは出土しなかった。この水晶製小玉が首飾りであったとするなら、被葬者は東に頭を向けて葬られたことになる。水晶製小玉はいずれも小型で 40 点は胴部がやや張り出した稜線を有するいわゆる算盤玉形である。

遺構の性格と帰属時期 木棺墓である。舟形木棺墓の可能性があり。時期は弥生時代後期以降と推測する。

■ SX3004(図 69、写真図版 38)

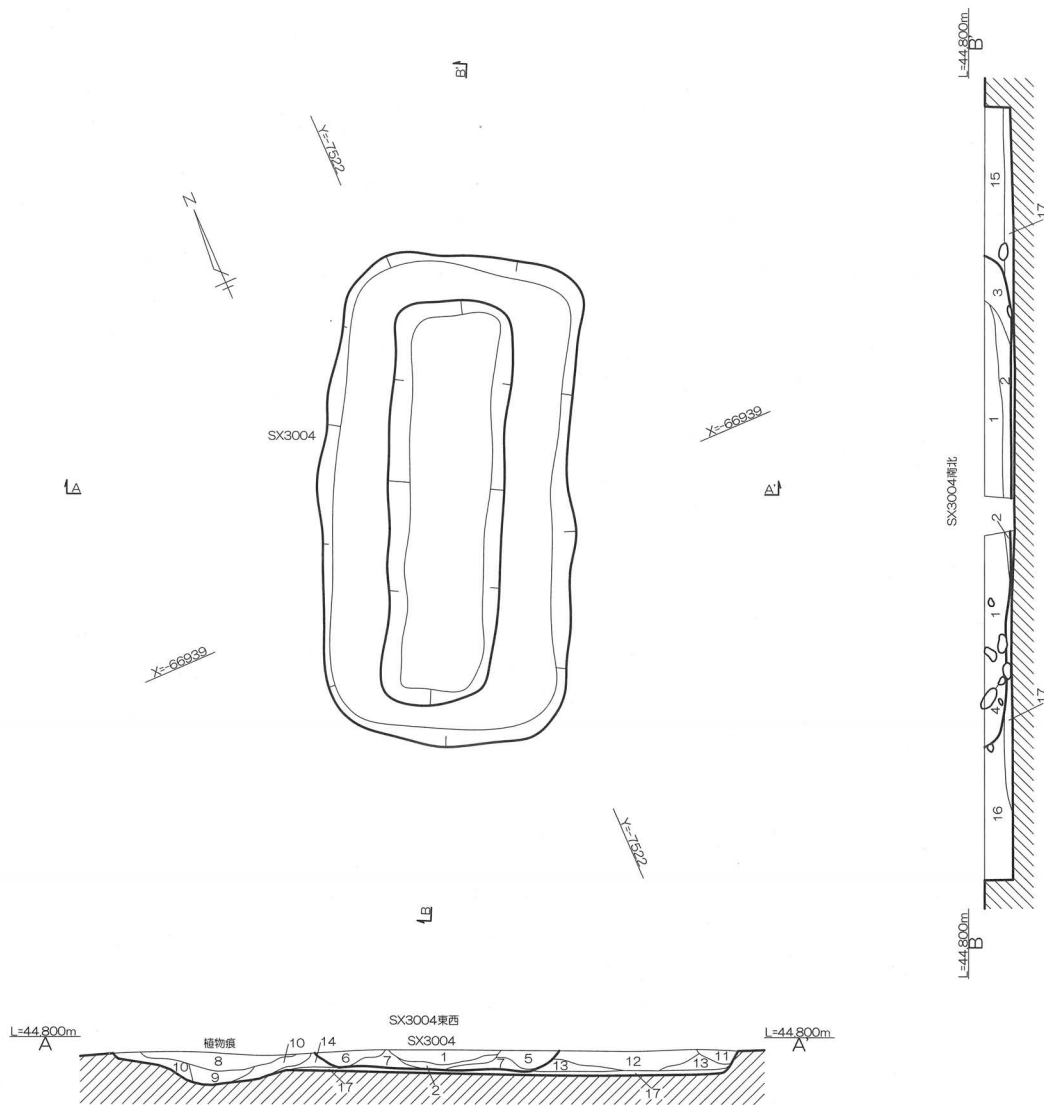
位置 第 2 面中央北側の N10・O10 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.702m である。

検出状況 SX3001 と同様、黒色土層 (3-8 層) の面で精査したが、後世の植物根の影響により、墓の掘方範囲が不明であった。このため、細長い十字トレンチを掘削して、断面を観察し、遺構範囲を絞り込んだ。

平面形状・規模・軸方向 掘方の平面形は隅丸長方形で、長軸 2.605m・短軸 1.326m、確認面からの深さ 0.074m である。断面形は盤形を呈する。軸方向は、E-63° -N をふる。

埋土 埋土は 7 層に区分した。埋土は 1・2 層が木棺部の埋土、3～7 層が掘方の埋土である。1・2 層は黒褐色シルトを主体とし、暗褐色砂質シルトを少量含む。3・4 層は黒褐色シルト主体、5～7 層は黒褐色砂質シルト主体である。

遺物出土状況 弥生土器片を少量含む。遺構内から副葬品等は確認できず、木棺部内埋土をすべて採取し水洗して微細遺物を探したが、遺物は検出されなかった。



SX3004 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR3/1 黒褐色	シルト	木棺部、10YR3/3(暗褐色)砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
2	10YR3/1 黒褐色	シルト	木棺部、10YR3/3(暗褐色)砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
3	10YR3/1 黒褐色	シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色)砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
4	10YR3/1 黒褐色	シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色)砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
5	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色)砂質シルト 20%、灰色粒微量、粘性あり、縮りあり
6	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	掘方、10YR3/3(暗褐色)砂質シルト 15%、粘性やや強い、縮りあり
7	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	掘方、7.5YR4/3(褐色)砂質シルト 30%、粘性あり、縮りあり
8	10YR2/1 黒色	シルト	植物痕、10YR3/1(黒褐色)砂質シルト 10%、粘性やや強い、縮りあり
9	10YR3/1 黒褐色	シルト	植物痕、小礫少量、黒褐色中粒砂・ 細粒砂20%、粘性やや強い、縮りあり

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
10	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	植物痕、10YR4/2(灰黄褐色)砂質シルト 10%、粘性やや強い、縮りあり
11	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒色土へ漸移層、10YR3/3(暗褐色)砂 質シルト15%、粘性やや強い、縮りあり
12	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒色土へ漸移層、10YR3/3(暗褐色)砂 質シルト15%、粘性やや強い、縮りあり
13	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒色土へ漸移層、10YR3/3(暗褐色)砂 質シルト15%、粘性やや強い、縮りあり
14	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒色土へ漸移層、10YR3/3(暗褐色)砂 質シルト15%、粘性やや強い、縮りあり
15	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色土へ漸移層、小礫微量、10YR4/4 (褐色)砂5%、粘性やや強い、縮りあり
16	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色土へ漸移層、小礫微量、15層より 暗味強い、粘性あり、縮りあり
17	7.5YR4/4 褐色	砂・礫	基盤層相当層、直径2~15cm大の礫 少量、粘性弱、縮り硬質

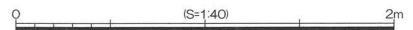


図69 SX3004遺構図

遺構の性格と帰属時期 木棺墓である。舟形木棺墓の可能性がある。時期はSX3003と同じ弥生時代後期以降と推測される。

■ 3区第2面土坑 SK3003～SK3056

3区第2面から、43基の土坑が検出された。このうち、SK3003・SK3007・SK3008・SK3009・SK3010・SK3013・SK3020・SK3039・SK3042・SK3043・SK3044・SK3045・SK3046・SK3047・SK3048・SK3049・SK3055・SK3056の18基の遺構についてここで述べる。

■ SK3003(図70、遺物図29、遺物観察表29、写真図版39・69)

位置 第2面南西側のO2グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.211mである。SI3009竪穴住居跡の南側に検出された。

検出状況 圃場整備の際の整地層を除去したところで、色調の明るいにぶい黄褐色砂層を検出された。このにぶい黄褐色砂層を切る遺構として暗褐色砂質シルトのプランが検出され、表面に弥生土器片が検出された。

平面形状・規模 平面形は楕円形で、長軸0.751m・短軸0.665mを測る。断面形はU字形で、確認面からの遺構底面までの深さは0.091mである。

埋土 埋土は暗褐色砂である。黄灰色砂粒を微量含む。

遺物出土状況 弥生土器の甕ほぼ1個体全体の破片と、それと別個体の弥生土器甕の部分片1点が破砕された状態で検出された。弥生土器の甕が原型をとどめた状態で検出されたため、土器棺墓の可能性が指摘できる。

遺構の性格と帰属時期 規模はやや小型であるが出土遺物を考慮して土坑とする。土器棺墓、もしくは廃棄土坑が想定できる。

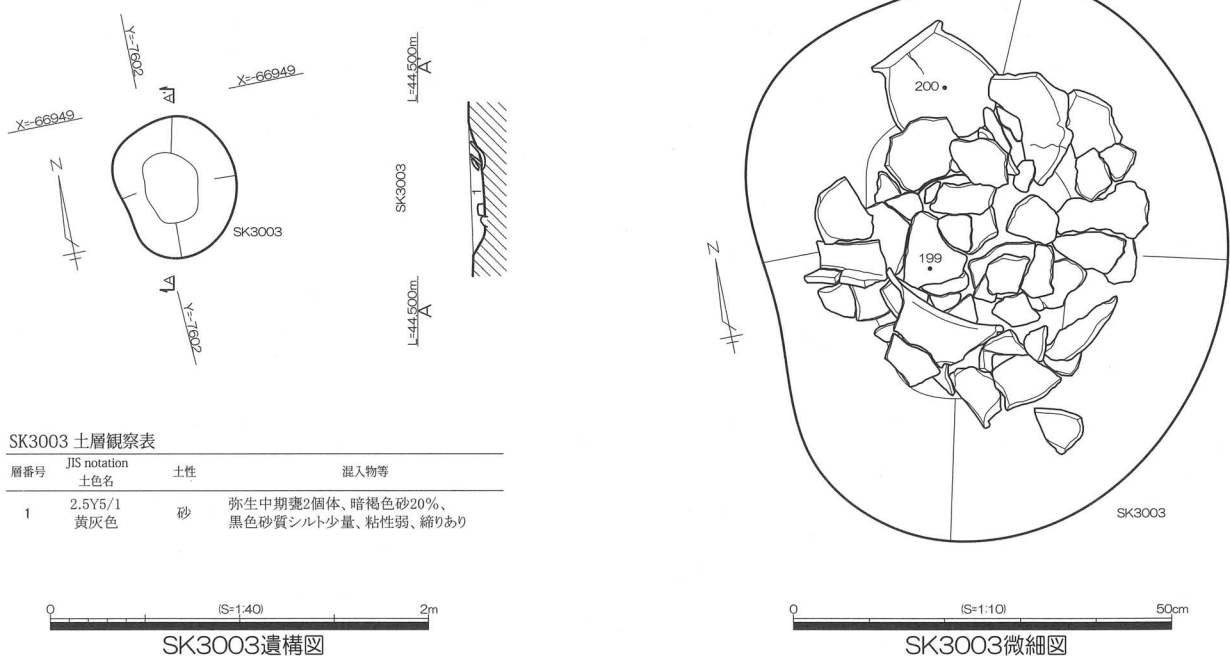
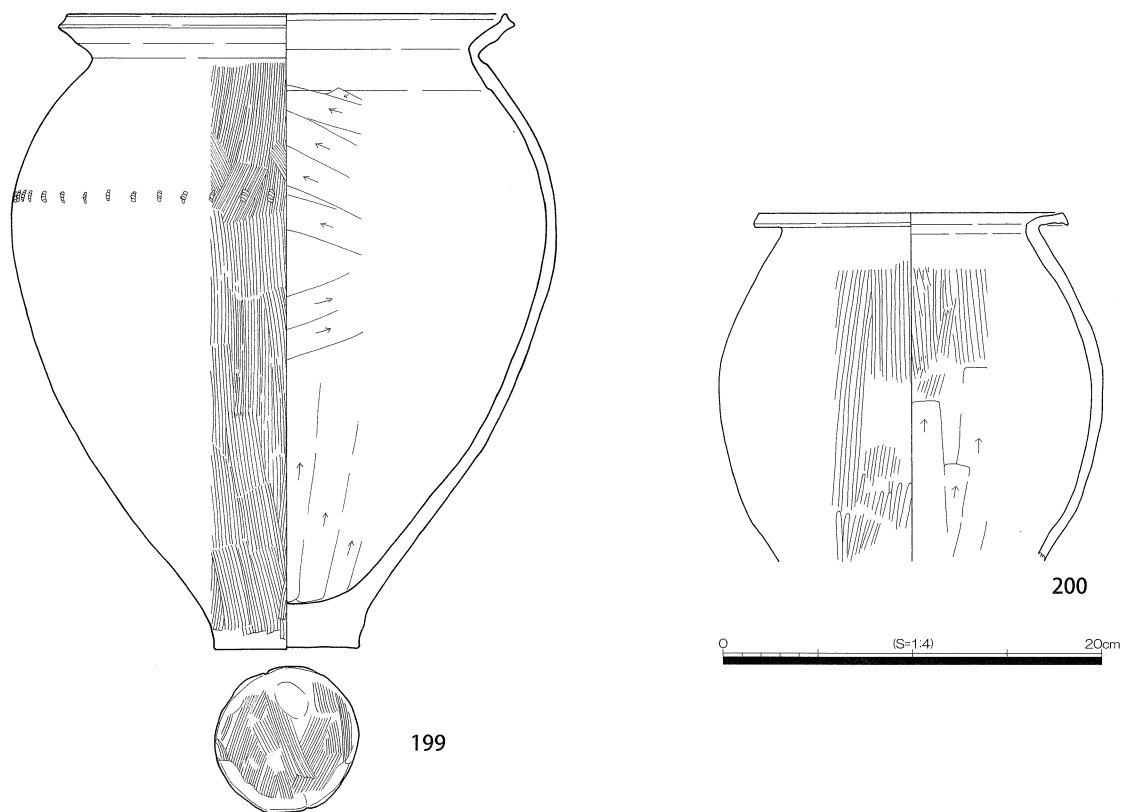


図70 SK3003遺構図・微細図



遺物図29 SK3003出土遺物

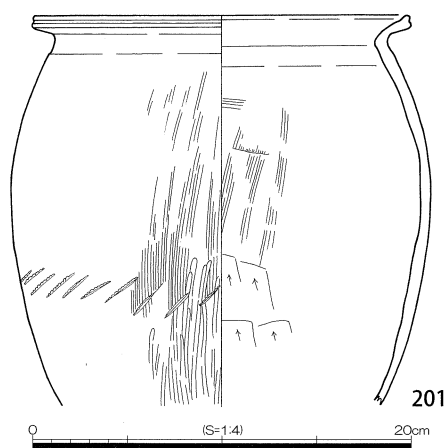
遺物観察表 29

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
199	3	SK3003 (3004)	29	69	弥生土器 甕	口径:23.0 器高:33.5 最大径:28.6 底径:7.6	外面:口縁部~頸部ナデ、体部ハケ後肩部刺突文、 底部ハケ 内面:口縁部~頸部ナデ、体部ケズリ、底部ナデ	普通 ~3mmの砂粒、 多い	やや良好 外面:灰黄 内面:浅黄橙	
200	3	SK3003 (3004)	29	69	弥生土器 甕	口径:(16.0) 器高:18.4~ 最大径:(20.2)	外面:口縁部~頸部ナデ、体部ミガキ 内面:口縁部~頸部ナデ、体部上半ハケ、体部下 半ケズリ	普通 ~3mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:にぶい橙	

■ SK3007(図 71、遺物図 30、遺物観察表 30、写真図版 39・69)

位置 第2面西側のN3・O3グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.361mである。SI3003 竪穴住居跡を切る。SI3004 竪穴住居跡の南西側にあるSK3008を切る。P3271・P3272・P3273に切られる。暗渠排水に切られる。

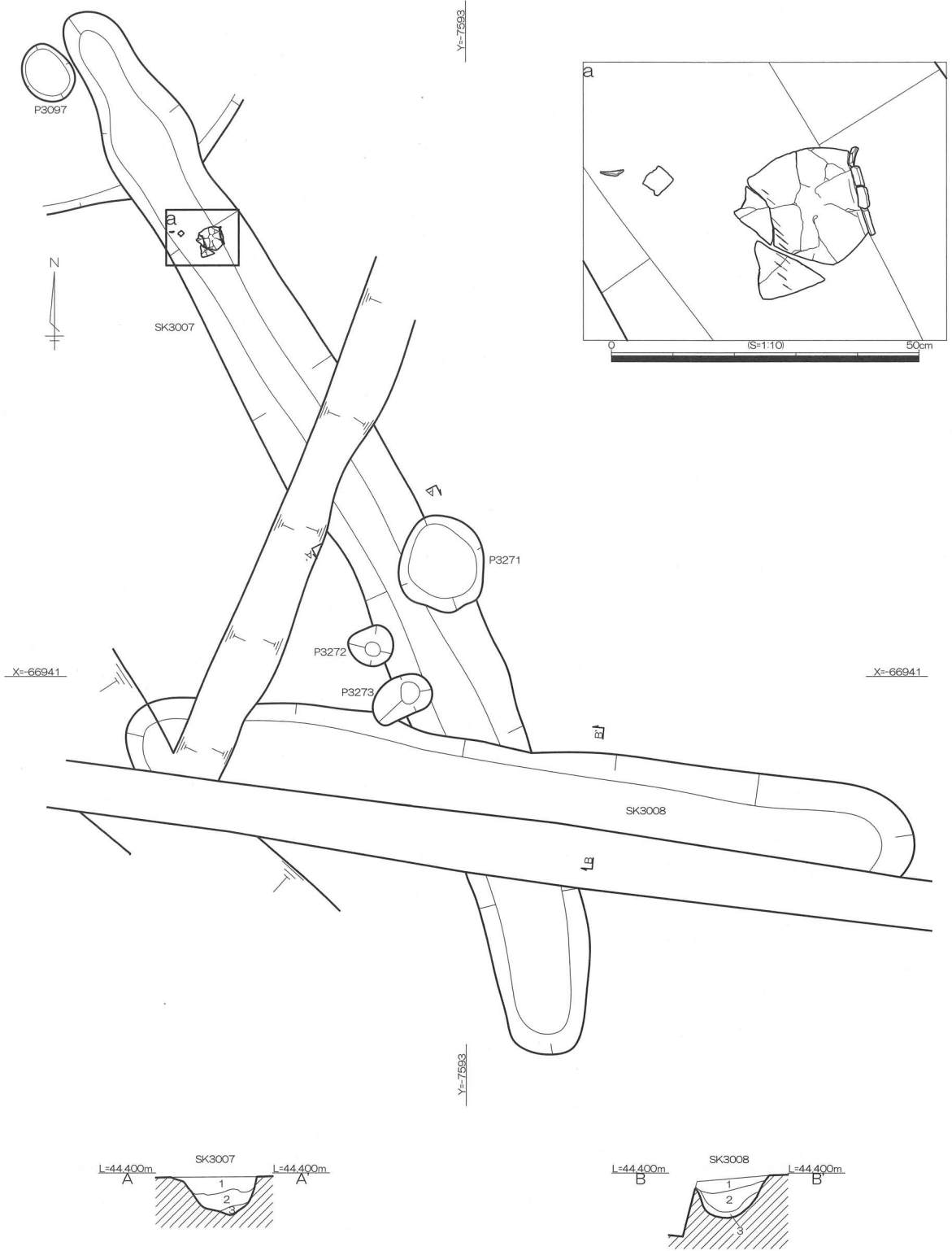
検出状況 洪水砂の堆積層とみられる暗褐色砂層を人力掘削で除去し、黒褐色砂質シルト層上を精査した際に検出された。南側をSK3008に切られる。



遺物図30 SK3007出土遺物

遺物観察表 30

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
201	3	SK3007 (3056)	30	69	弥生土器 甕	口径:(19.4) 器高:20.6~	外面:口縁端部凹線文1条、口縁部~頸部ナデ、 体部ハケ、体部のハケは下半部で押し引きに より刺突文風 内面:口縁部~頸部ナデ、体部上半ハケ、体部下 半ケズリ	普通 ~2mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:にぶい黄橙	



SK3007 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	弥生中期の土器あり、暗褐色砂少量、炭化木微量、粘性弱、縮り硬質
2	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂質シルト	弥生土器片微量、暗褐色砂少量、炭化物微量、粘性弱、縮りやや硬質
3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂微量、褐灰色砂微量、粘性弱、縮りやや硬質

SK3008 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	弥生中期の土器微量、暗褐色砂少量、炭化木微量、粘性弱、縮り硬質
2	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	弥生土器片微量、暗褐色砂少量、炭化物微量、粘性弱、縮りやや硬質
3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂微量、褐灰色砂微量、粘性弱、縮りやや硬質

図71 SK3007・SK3008微細図

平面形状・規模 平面形は溝状で、北西から南東へ細長く直線的に延びる。長軸 9.318m・短軸 0.873m を測る。断面形は逆台形で、確認面から底面までの深さは 0.281m である。壁面調整痕は確認できない。

埋土 埋土は 3 層に区分される。1 層は黒褐色砂質シルト主体で、暗褐色砂を少量含む。弥生土器片は 1 層からの出土が多い。2 層はにぶい黄褐色砂質シルトを主体とする。弥生土器片は微量である。3 層は黒褐色砂質シルトを主体とする。

遺物出土状況 弥生土器片 65 点が出土した。ほとんどは甕体部の破片で、1 点のみ壺の口縁部がある。遺物図 30 の 201 は弥生時代中期後葉の甕で、口縁端部に凹線文 1 条をめぐらす。201 の体部外面下半部には、右上がりの刺突文が施される。この刺突文は一見、貝殻腹縁による横方向の連続刺突文のように見えるが、縦方向のハケ調整の際に、ハケ先を体部に押しつけることにより、施したものと考えられる。

遺構の性格と帰属時期 溝状の土坑である。出土遺物から弥生時代中期後葉と推測する。

■ SK3008(図 71、写真図版 39)

位置 第 2 面南西側の O3・O4 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.377m である。西側を攪乱に切られる。南側を Tr.1 に切られる。

検出状況 洪水砂の堆積層とみられる暗褐色砂層を人力掘削で除去し、黒褐色砂質シルト層上を精査した際に検出された。南北に延びる SK3007 を切る。

平面形状・規模 平面形は東西に細長い溝状で、長軸 6.475m・幅 0.689m を測る。断面形はほぼ逆台形で、確認面からの遺構底面までの深さは 0.322m である。

埋土 埋土は 3 層に区分される。1 層は灰黄褐色砂質シルトを主体とし、砂粒がやや多く、弥生土器片を微量と炭化物を微量含む。2 層は褐灰色砂質シルトを主体とし、炭化物を微量含む。3 層は黒褐色砂質シルトを主体とする。

遺物出土状況 弥生土器片 56 点が出土した。ほとんどが甕の細片で、2 点が壺の口縁部破片である。うち 1 点の口縁端部に擬凹線文が施される。

遺構の性格と帰属時期 溝状の土坑である。土器片から弥生時代中期以降と推測される。

■ SK3009(図 72)

位置 第 2 面南西側の P2・P3 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.314m である。

検出状況 竪穴住居跡 SI3001 の検出面である黄褐色砂層面の精査中に確認された。SI3001 との同時期のものかは判断できない。

平面形状・規模 平面形は細長い溝状で、長軸 5.681m・短軸 0.674m を測る。断面形は浅い U 字形で、確認面からの遺構底面までの深さは 0.101m である。

埋土 埋土は褐色砂を主体とし、にぶい黄褐色砂、褐灰色砂質シルトを含む。

遺物出土状況 弥生土器片 6 点が出土した。いずれも細片でまとまりがない。

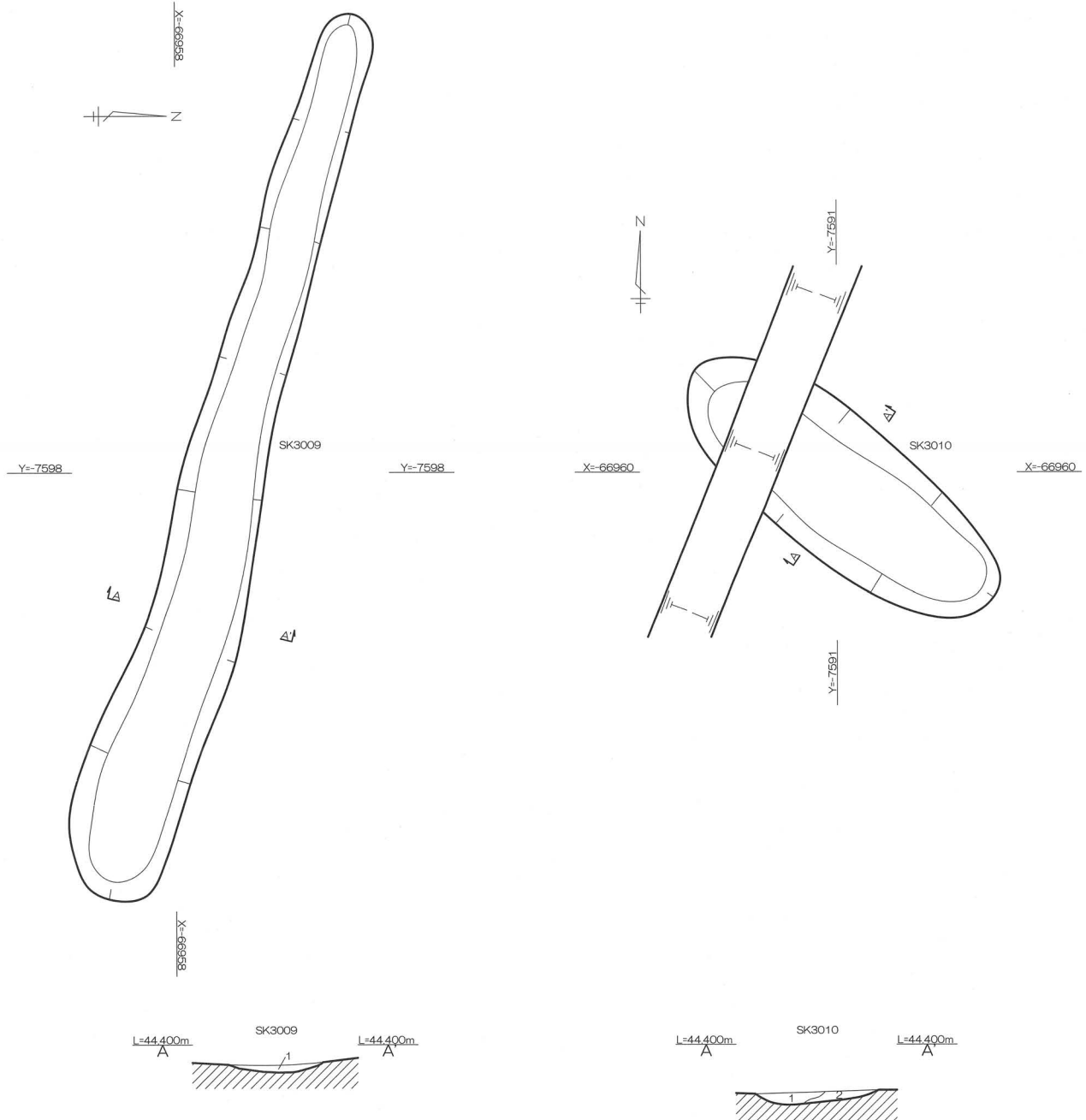
遺構の性格と帰属時期 溝状の土坑である。土器片から弥生時代中期頃と推測される。

■ SK3010(図 73、写真図版 39)

位置 第2面南西側のP2・Q3グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.343mである。暗渠排水に切られる。SB3007と比較的近い位置にある。

検出状況 竪穴住居跡SI3001の検出面である灰黄色砂層面の精査中に確認された。

平面形状・規模 平面形は細長い溝状で、長軸2.316m・短軸0.841mを測る。断面形は浅いU字形で、確認面からの遺構底面までの深さは0.304mである。



SK3009 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR4/4 褐色	砂	にぶい黄褐色砂20%、褐灰色砂質シルト少量、酸化鉄微量、粘性弱、締りあり

SK3010 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR4/4 褐色	砂	土器片微量、にぶい黄褐色砂20%、褐色砂質シルト少量、粘性弱、締りあり
2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂20%、褐灰色砂質シルト少量、粘性あり、締りあり

0 (S=1:40) 2m

図72 SK3009・SK3010遺構図

埋土 埋土は1層に区分され、1層が褐色砂主体で、2層が黒褐色粘土質シルト主体である。

遺物出土状況 土器片72点が出土した。細片が多い中、弥生土器の甕体部のやや大型の破片が含まれる。

遺構の性格と帰属時期 溝状の土坑である。土器片から弥生時代中期頃と推測される。

■ SK3013(図73・74、遺物図31、遺物観察表31、写真図版39・70)

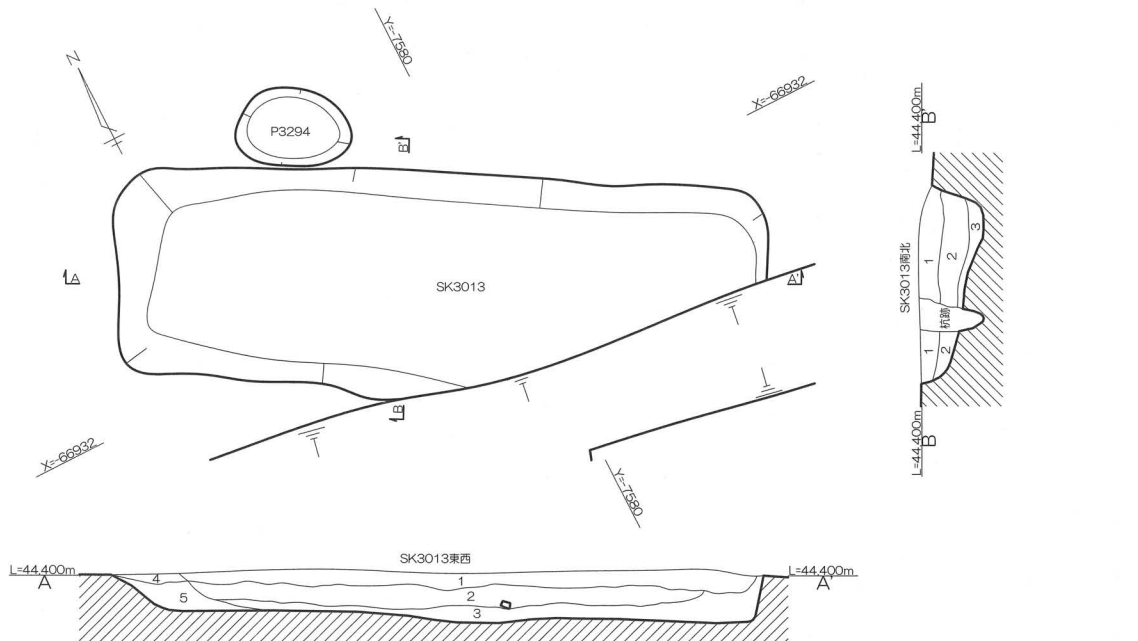
位置 第2面南西側のN4・N5グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.417mである。SI3015を切る。

検出状況 第1面上で検出された硬質な暗褐色砂層を除去し、黒褐色砂質シルト層の上面に下げたところでプランを確認した。確認面上に弥生土器片が露出しており、南東側の暗渠排水の掘方に切られ、その壁面で深さが確認できた。

平面形状・規模 平面形は長方形で、長軸3.461m・短軸1.214mを測る。断面形は逆台形で、確認面からの遺構底面までの深さは0.304mある。壁面の立ち上がりはかなり急である。

埋土 埋土は5層に区分される。1層は灰黄色砂質シルト、2・3・4層は黒褐色砂質シルト、5層はやや橙色味を帯びた黒褐色砂質シルトである。1・2層には炭化木片が含まれ、にぶい黄褐色砂である。遺物は1層に集中する。

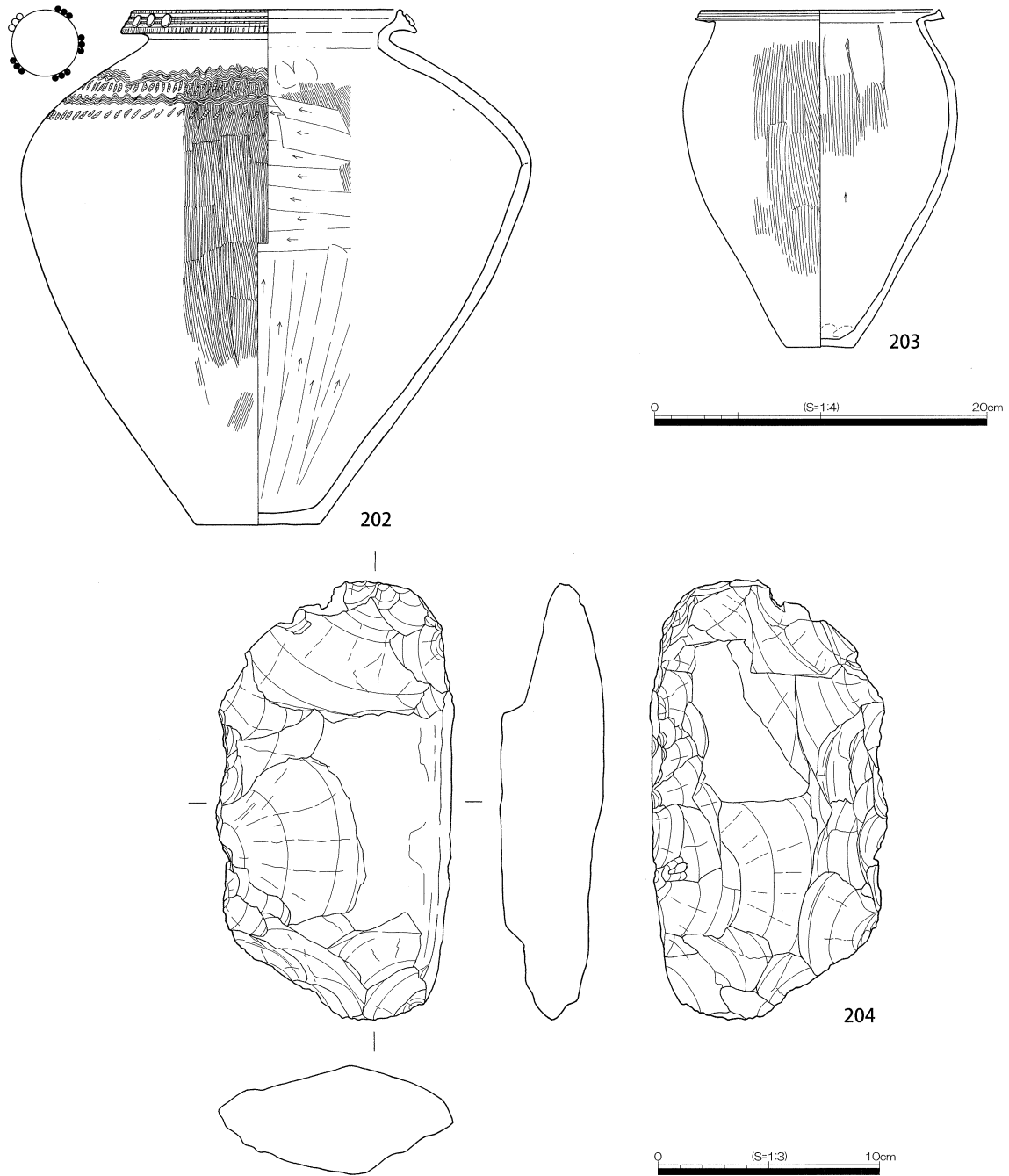
遺物出土状況 弥生土器片93点と石器1点が出土した。ほとんどが甕の細片であるが、2個体の土器がほぼ全体を留めた形で出土した。実測図は3点を掲載する。202は弥生時代中期後葉の甕で、ほぼ1個体が埋土上層につぶれた状態で検出された。口縁に擬凹線文と縦方向のキザミを施し、円



SK3013 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR4/2 灰黄色	砂質シルト	弥生中期甕出土、暗褐色砂少量、炭化木微量、粘性弱、縮り硬質	4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂微量、褐灰色砂微量、粘性弱、縮りやや硬質
2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	弥生土器片微量、暗褐色砂少量、炭化物微量、粘性弱、縮りやや硬質	5	7.5YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂少量、粘性弱、縮りやや硬質
3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂微量、褐灰色砂微量、粘性弱、縮りやや硬質				

図73 SK3013遺構図



遺物図31 SK3013出土遺物

遺物観察表 31

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
202	3	SK3013 (3136)	31	70	弥生土器 壺	口径:16.0 器高:31.0 最大径:30.3 底径:7.4	外面:口縁端部キザミ・擬凹線文3条・円形浮文 3個1組を5組(4組残)、肩部波状文2帯 ・貝殻腹縁による連続刺突文2列、体部ハ ケ、底部ナデ 内面:口縁部~肩部上半ナデ、体部ケズリ後肩部 ハケ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい黄橙 内面:褐灰	
203	3	SK3013 (3136)	31	70	弥生土器 甕	口径:(14.2) 器高:20.3 最大径:(16.3) 底径:4.0	外面:口縁端部凹線文2条、口縁部~肩部ナデ、 体部ハケ、底部ナデ 内面:口縁部~肩部ナデ、体部上半ハケ、体部下 半ケズリ後ナデ、底部指オサエ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:黄灰 内面:暗灰黄	外面煤付着 内面炭化物付着
204	3	SK3013 (3136)	31	70	石器 不明 未製品	長さ:19.7 幅:10.7 厚さ:4.7 重さ:1.184	扁平な礫を素材とする 両側縁に細かい剥離痕あり 表面に自然面残る	頁岩	灰・灰白	石斧か

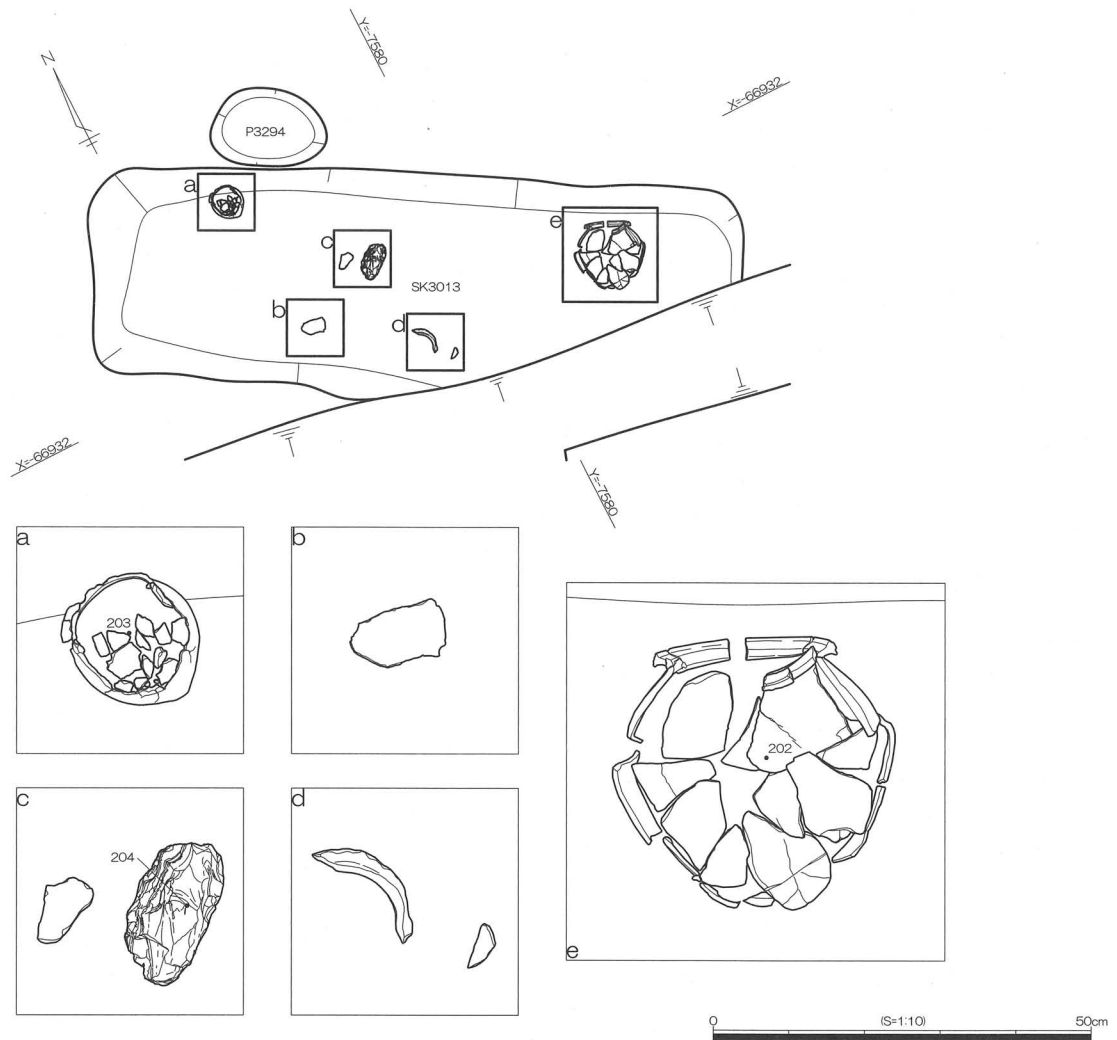


図74 SK3013微細図

形浮文を貼り付けている。203 は中期の甕で、折り返した口縁の端部を内傾した帯状に作り、凹線文をめぐらしている。胴部外面のナデはいずれも縦方向である。204 は打製石斧の未成品と推測する。頁岩を加工したもので、同一石材から作ったと推察される石器が SI3006 から出土している。

遺構の性格と帰属時期 長方形土坑である。出土遺物から弥生時代中期後葉と推測される。竪穴住居跡 SI3006 に伴うものか。

■ SK3020(図 75・76、遺物図 32、遺物観察表 32、写真図版 39・70・71)

位置 第 2 面 O5・P5 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.546m である。

検出状況 第 1 面の暗褐色砂層を人力掘削で除去した際、弥生土器片が集中する箇所が見つかった。遺物検出面上面で止めて再精査をしつつ、褐色砂質シルト層の上面を検出し、その面に揃えてプラン検出をおこなった。

平面形状・規模 平面形は不整形で、長軸 2.965m・短軸 2.903m を測る。断面形は盤形で、確認面からの最深部までの深さは 0.201m ある。底面にはわずかに起伏があるがほぼ平坦である。底面に、ピット・小溝・土坑等の付帯施設は全くなく、竪穴住居跡ではない。当初、平面形が不整形なのは、上面からの重機等による攪乱の影響かと考えたが、遺構内の出土土器が大きく動いていないことがわかった。遺構形状はもともとこの形だったようである。

埋土 埋土は2層に区分される。1層は灰黄色砂質シルト、2層は黒褐色砂質シルトを主体とする。1層には弥生土器片多数と炭化物を含む。全体に砂粒を多く含む。

遺物出土状況 弥生土器片304点と礫数点が出土した。圃場整備時に上面を重機が走った影響で土器片は細かく砕けているものが多い。現場の出土状況でみる限り、完存個体の4分の1ないし5分の1程度のやや大型の破片にまとまる傾向がある。土器の接合作業に入って以後も、完全に近い形に復元できるものは少ない。出土状況は、遺構の西側半分に集中する傾向がある。これは、遺構の西側方向から土器が廃棄された可能性を示唆している。実測図5点を掲載した。205は弥生時代中期後葉の壺で頸部にハケ調整を施した後、擬凹線文をめぐらせている。206～209は弥生時代中期後葉の甕で、口縁端部に凹線文または擬凹線文を施し、体部内面に縦方向のハケ調整を施したタイプのものである。206は口縁端部に擬凹線文3条をめぐらせた後キザミを入れる。207は口縁端部に凹線文1条をめぐらし、体部の張り出した箇所にも貝殻腹縁による連続刺突文が上下2段に施される。208は口縁端部に凹線文1条をめぐらせたものである。209は口縁端部に擬凹線文2条をめぐらせた後、貝殻腹縁による連続刺突文を刻み、さらに胴部にも貝殻腹縁による連続刺突文が施される。

遺構の性格と帰属時期 用途不明の土坑である。不整形の平面形状からは倒木痕か洪水時の水溜り跡のような印象を受ける。最終的には廃棄土坑として使われたと思われる。遺構埋没年代は、出土遺物から弥生時代中期後葉である。

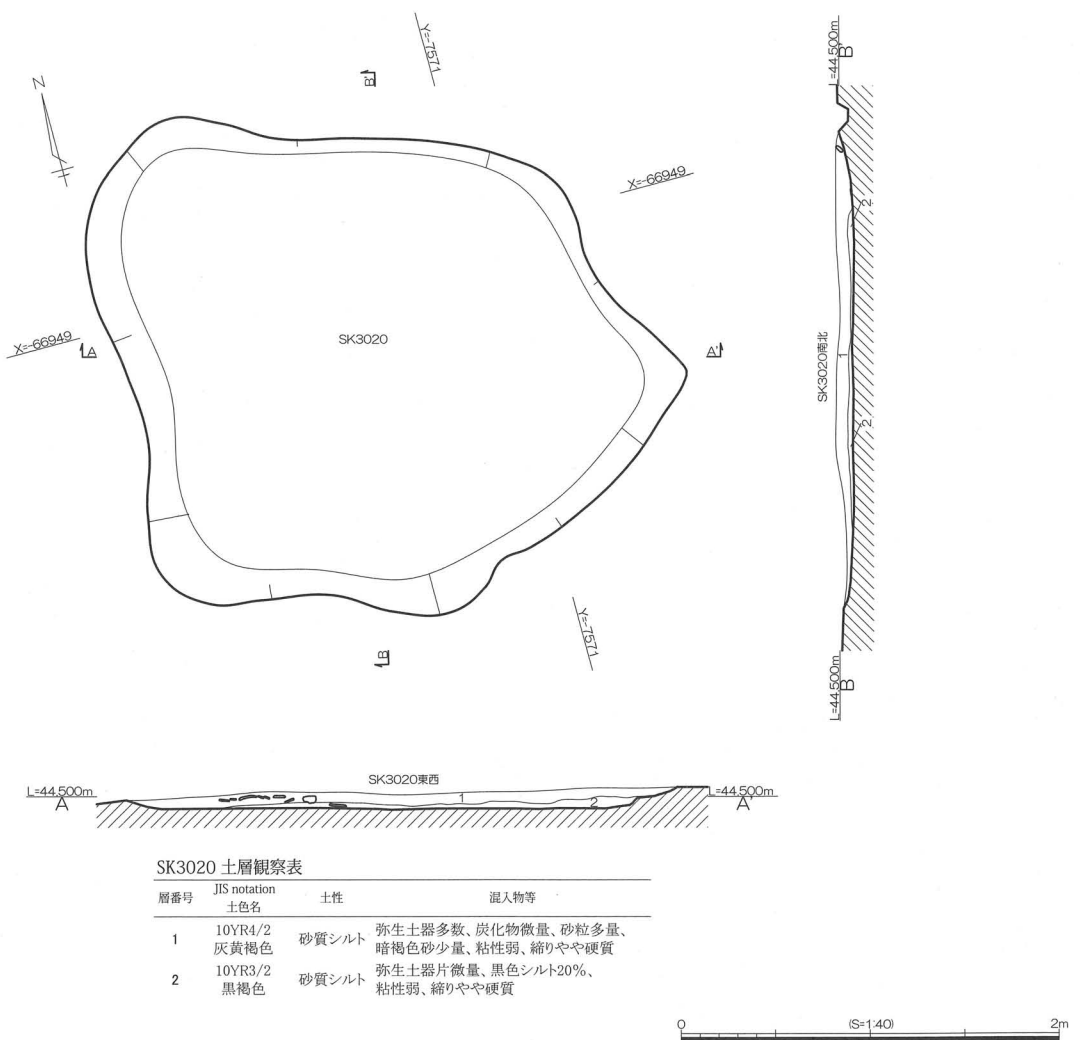
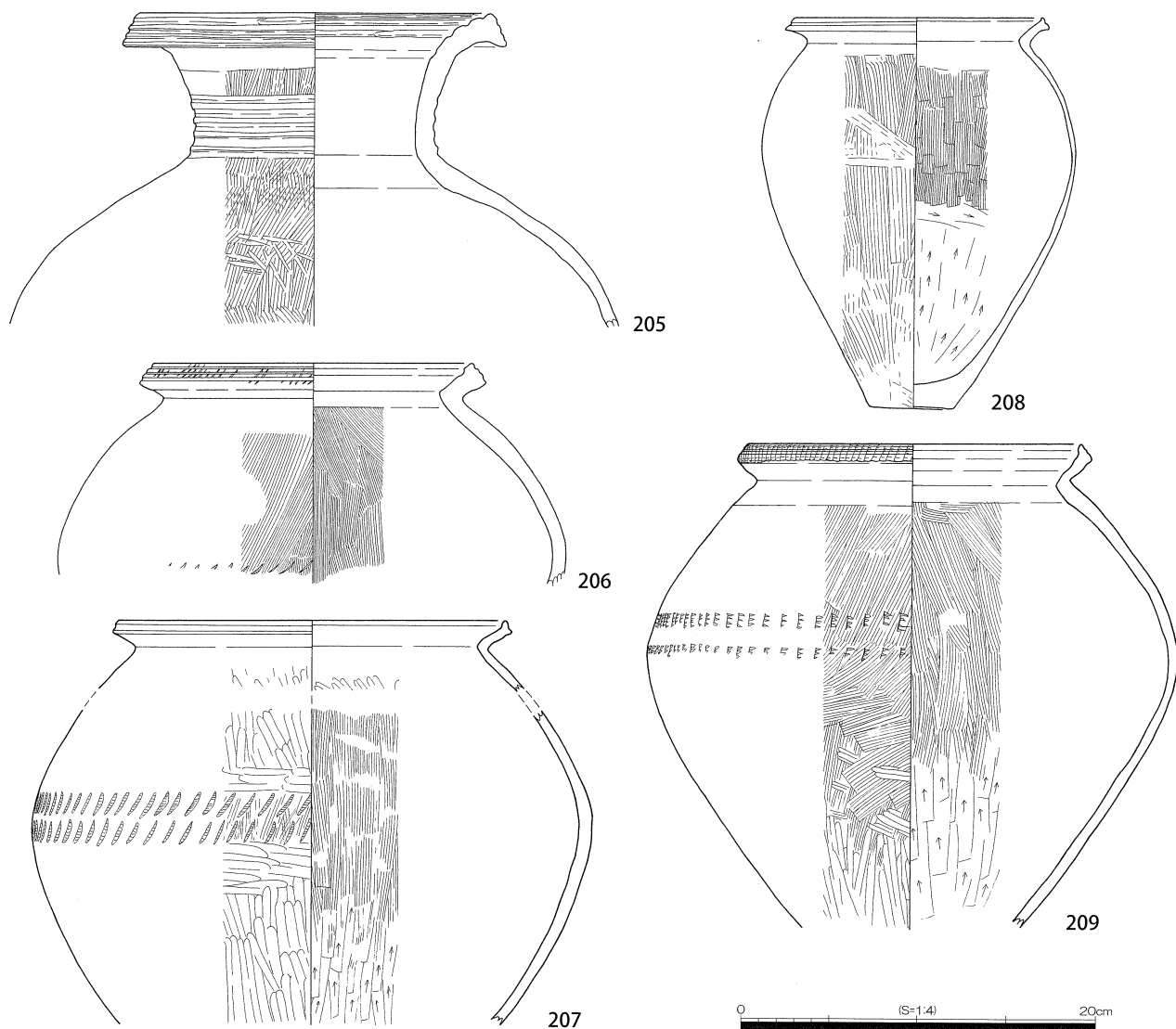


図75 SK3020遺構図



遺物図32 SK3020出土遺物

遺物観察表 32

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
205	3	SK3020 (3061)	32	70	弥生土器 壺	口径:19.6 器高:17.7~	外面:口縁端部擬凹線文3条、口縁部ハケ後ナデ、 頸部ハケ後擬凹線文5条、体部上半ハケ後 一部ミガキ 内面:口縁部擬凹線文3条、頸部~体部上半ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:黄橙 内面:橙	
206	3	SK3020 (3061)	32	70	弥生土器 甕	口径:(18.0) 器高:12.5~ 最大径:(28.6)	外面:口縁端部擬凹線文3条後キザミ、口縁部~ 肩部ナデ、体部ハケ・貝殻腹縁による連続 刺突文 内面:口縁部ナデ・凹線1条、頸部ナデ、体部ハ ケ	普通 ~4mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:橙	
207	3	SK3020 (3061)	32	70	弥生土器 壺	口径:(21.8) 器高:23.0 最大径:(31.6)	外面:口縁端部凹線文1条、口縁部~頸部ナデ、 肩部ミガキ、体部中位ハケ後貝殻腹縁による 連続刺突文2列、体部下ミガキ 内面:口縁部~頸部ナデ、体部上半ハケ、体部下 半ケズリ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:灰黄 内面:浅黄橙	
208	3	SK3020 (3061)	32	70	弥生土器 甕	口径:13.8 器高:22.4 最大径:17.6 底径:4.5	外面:口縁端部凹線文1条、口縁部ナデ、体部ハ ケ後一部ミガキ 内面:口縁部~肩部ハケ後ナデ、体部ケズリ後上 半ハケ、底部ケズリ後ナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄褐 内面:灰黄褐	外面煤付着 底部はやや凹レンズ 状の平底
209	3	SK3020 (3061)	32	71	弥生土器 甕	口径:18.8 器高:27.5~ 最大径:30.0	外面:口縁端部擬凹線文2条後貝殻腹縁による連 続刺突文、頸部ナデ、肩部貝殻腹縁による 連続刺突文2列、体部ハケ後下半にミガキ 内面:口縁部~肩部上端ナデ、体部ケズリ後上半 にナデ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:浅黄橙	



図76 SK3020微細図

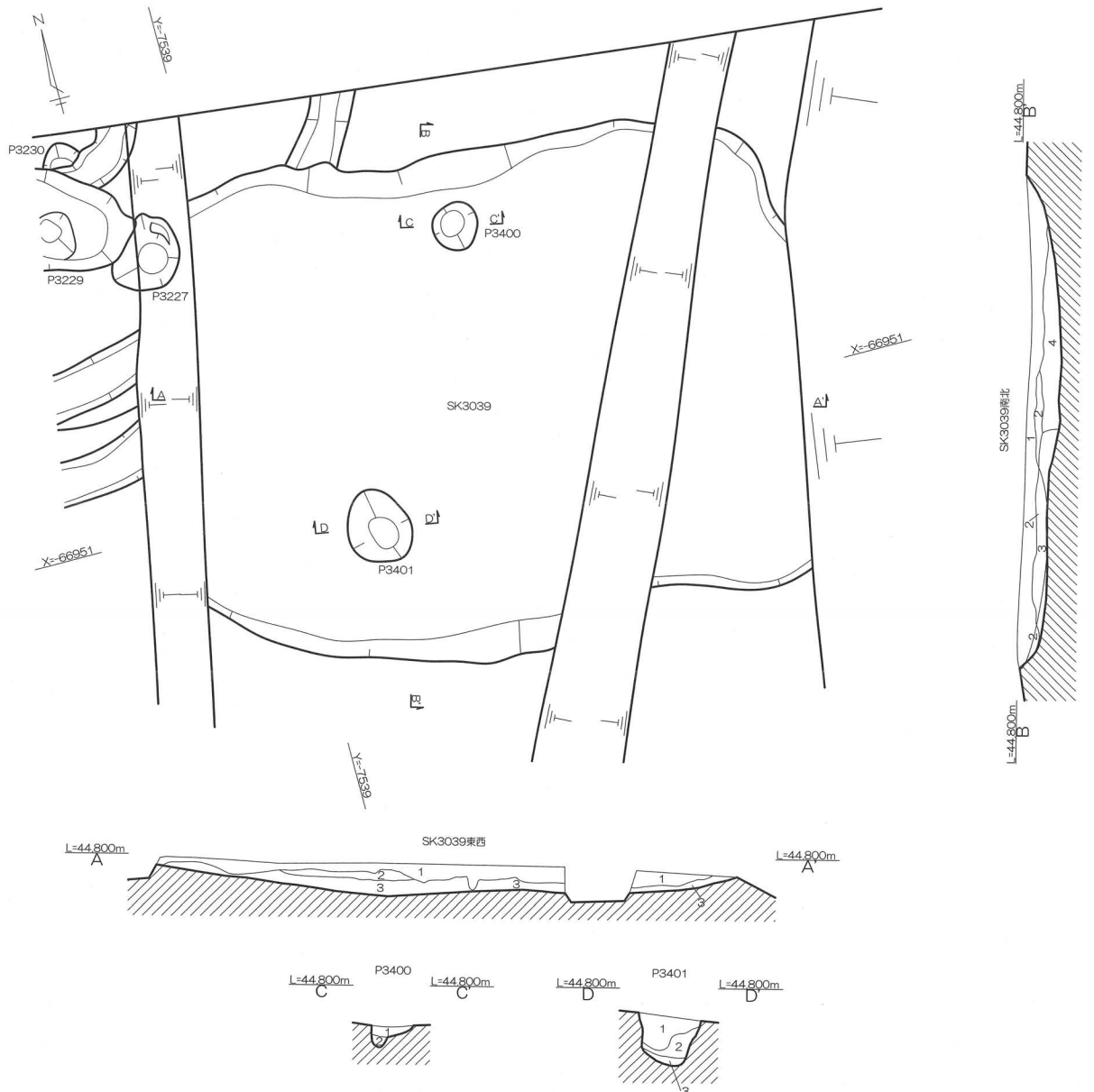
■ SK3039(図 77、写真図版 40)

位置 第2面O9・P9グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.807mである。竪穴住居跡SI3007を切る。

検出状況 耕3001を除去した段階で確認された。確認面は黒褐色砂質シルト層面である。埋土の砂質シルト中に炭化物が微量に散在している。竪穴住居跡の可能性を考えたが、平面形が不整、柱穴・壁溝等がなく、土坑として調査した。切り合いからSI3007より後のものである。

平面形状・規模 平面形は不整長方形で、長軸3.452m・短軸3.001mを測る。断面形は皿形で、確認面からの遺構底面までの深さは0.290mある。壁面及び底面の調整は粗雑である。底面にP3400とP3401が検出された。P3400は平面形円形で、断面形有段U字形、規模は(0.284m×0.267m-0.432m)である。P3401は平面形円形で、断面形不整U字形、規模は(0.444m×0.369m-0.498m)である。

埋土 埋土は4層に区分される。上層の1層は暗灰黄色砂質シルトである。2層は黒褐色シルト主体で炭化物を多量含む。3層・4層は黒褐色砂質シルト主体で、黒色シルトと明黄褐色砂を斑土状に含む。3層・4層は人為的に埋めた土であり、上面がほぼ水平で貼床面的に広がる。その直上の2層には炭化物は散在している。1層は洪水の作用を受けた自然堆積の埋没土である。



SK3039 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	弥生土器片微量、炭化物微量、 オリーブ褐色砂少量、粘性あり、縮りあり
2	10YR3/1 黒褐色	シルト	炭化物多量、黄褐色砂5%、 粘性弱、縮りやや軟質
3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト20%、明黄褐色砂10%、 粘性やや強い、縮りあり
4	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト20%と明黄褐色砂10%が斑土 状に混入、粘性やや強い、縮りあり

SK3039内P3400 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色シルト少量、褐色砂少量、 酸化鉄微量、粘性あり、縮り軟質
2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黒褐色粘土質シルト30%、 粘性やや強い、縮り軟質

SK3039内P3401 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	砂粒やや多い、暗褐色砂少量、 小礫微量、粘性あり、縮りあり
2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色シルト10%、褐色砂少量、 粘性あり、縮りやや硬質
3	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	にぶい黄褐色砂20% 粘性やや強い、縮りあり

図77 SK3039遺構図

遺物出土状況 弥生土器片 118 点が出土した。他は細片である。内面にハケナデ調整を残す高坏の坏部破片が出土している。

遺構の性格と帰属時期 性格不明の土坑である。竪穴住居跡に準ずる何らかの施設であろうか。埋没時期は、弥生時代中期以降である。

■ SK3042(図 78)

位置 第2面 O10・11、P10・11 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.831m である。遺構の中央を Tr.1 に切られる。

検出状況 耕 3002 を除去した段階で確認された。SK3047・SK3048 と北端 SB3004 の範囲内にあり、何らかの付帯施設の可能性も否定はできない。

平面形状・規模 平面形は隅丸長方形で、長軸 2.465m・短軸 1.555m を測る。断面形は浅い皿形で、確認面からの遺構底面までの深さは 0.181m ある。壁面及び底面の調整は粗雑である。

埋土 埋土は 3 層に区分される。1 層はにぶい黄褐色砂質シルト、2 層は暗褐色砂質シルト、3 層は黒褐色シルトを主体とする。1 層・2 層には砂粒を多く含む。

遺物出土状況 弥生土器細片が 6 点出土している。

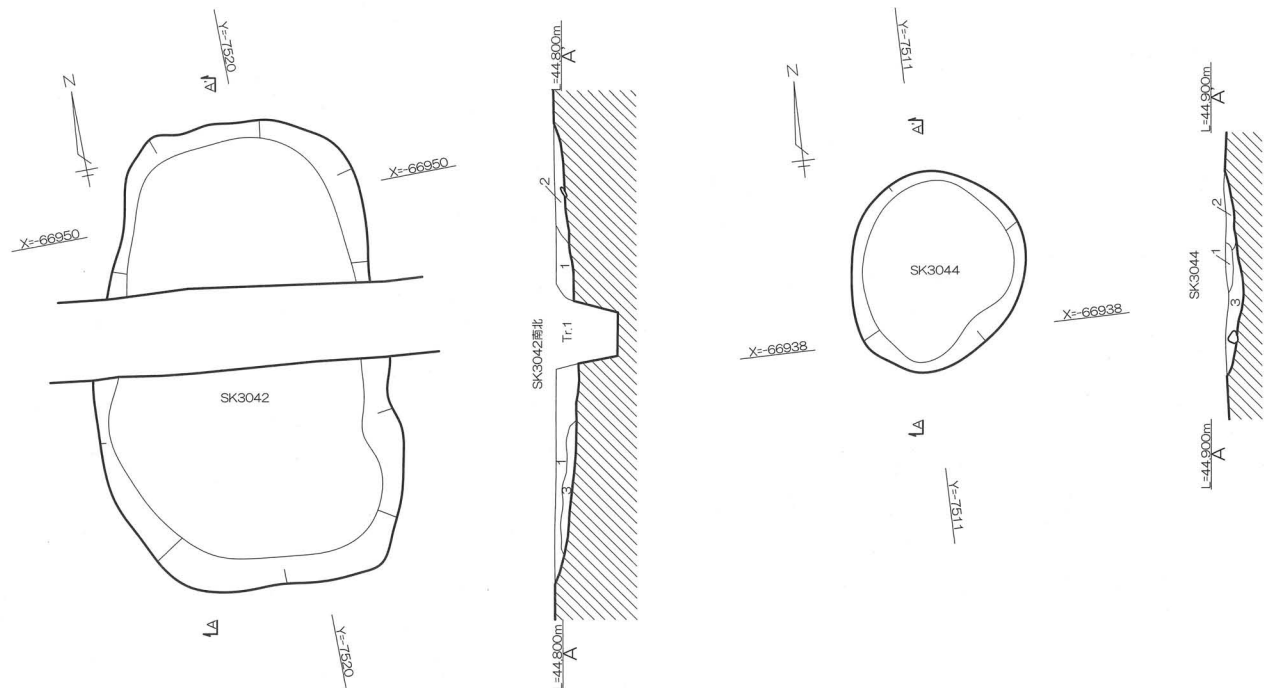
遺構の性格と帰属時期 性格不明の土坑である。出土遺物から弥生時代中期以降と推測する。

■ SK3044(図 78)

位置 第2面 N11 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.812m である。

検出状況 圃場整備の整地層を除去した段階で確認された。確認面は黒色砂質シルト層上面である。第2面 SX3001～SX3003 が近くにあり、当初は規模からみて土坑墓の可能性を考えたが、結果として判断できなかった。

平面形状・規模 平面形は隅丸長方形で、長軸 1.040m・短軸 0.912m を測る。断面形は浅い皿形で、



SK3042 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	砂粒やや多い、黒褐色シルト微量、小礫微量、粘性あり、縮りあり
2	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂20%、粘性弱、縮りやや硬質
3	10YR3/1 黒褐色	シルト	小礫微量、にぶい黄褐色砂10%、粘性あり、縮りあり

0 (S=1.40) 2m

SK3042遺構図

SK3044 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR3/3 暗褐色	砂	黒褐色砂質シルト10%、粘性あり、縮りあり
2	10YR3/2 黒褐色	シルト	にぶい黄褐色砂20%、粘性やや強い、縮りやや硬質
3	10YR3/1 黒褐色	シルト	小礫微量、灰褐色砂質シルト少量、粘性やや強い、縮りあり

0 (S=1.40) 2m

SK3044遺構図

図78 SK3042・SK3044遺構図

確認面からの遺構底面までの深さは 0.094m である。底面の調整はやや粗い。

埋土 埋土は 3 層に区分される。1 層は暗褐色砂主体、2 層は黒褐色シルト主体、3 層は黒褐色シルト主体である。

遺物出土状況 遺物は未検出である。

遺構の性格と帰属時期 性格不明の土坑である。土坑墓の可能性もあるが、用途・年代とも不明である。

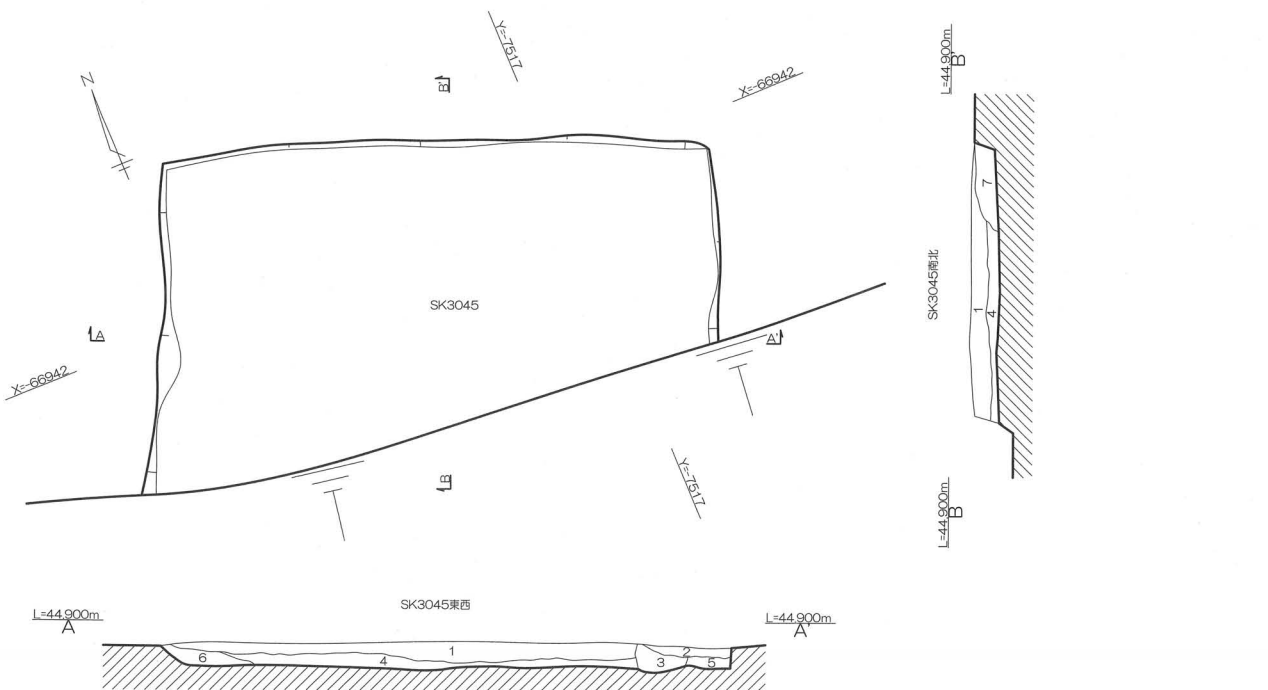
■ SK3045(図 79)

位置 区第 2 面の O11 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.807m である。南側を近代以降の暗渠排水に切られる。

検出状況 圃場整備の整地層を除去した段階で確認された。確認面は黒色砂質シルト層上面である。第 2 面 SX3001 ～ SX3003 が周囲にあるが、それらの埋土と比較して黄色砂粒・灰黄色砂粒が多く、時期は異なるものと推測される。

平面形状・規模 平面形は本来長方形であったと思われ、長軸 2.954m・残存短軸 1.687m を測る。断面形は盤形で、確認面からの遺構底面までの深さは 0.168m ある。底面がほぼ平坦で壁面の立ち上がりが垂直に近い。

埋土 埋土は 7 層に区分される。埋積経過が確認でき、遺構壁際の 5 層・6 層・7 層が先に埋積し、下層の 4 層が埋積後、上層の 1 層が埋積する。2・3 層は埋積後の掘り返しのようである。6 層は暗



SK3045 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂20%、粘性あり、縮りあり
2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂20%、粘性弱、縮りやや硬質
3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	径10cm大の礫あり、にぶい黄褐色砂30%、粘性弱、縮りやや硬質
4	10YR4/2 灰黄褐色	粘土質シルト	径5cm大の礫あり、黄褐色砂30%粘性やや強い、縮りあり

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
5	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	径5cm大の礫あり、褐色砂微量粘性やや強い、縮りあり
6	10YR3/3 暗褐色	粘土質シルト	暗褐色砂少量、粘性やや強い、縮りあり
7	7.5YR4/1 褐灰色	粘土質シルト	暗褐色砂少量、粘性やや強い、縮りあり

図79 SK3045遺構図

褐色粘土質シルト、7層は褐灰色粘土質シルトで、粘性のやや強い土である。底面直上の4層は灰黄褐色粘土質シルトで、上層の1層はにぶい黄褐色砂を多く含む褐灰色砂質シルトである。

遺物出土状況 遺物は未検出である。

遺構の性格と帰属時期 性格不明の土坑である。にぶい黄褐色砂を多く含む遺構は耕 3002 に多くみられることから、時期的にはこの遺構も耕 3002 以降と推測され、古代以降とする。

■ SK3046(図 80、写真図版 40)

位置 第2面 O11 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.769m である。SX3003 を切る。

検出状況 圃場整備の整地層を除去した段階で確認された。確認面は黒色砂質シルト層上面である。SX3003 の埋土に比較して灰黄色砂がわずかに多く、切り合いからみても時期は新しい。ただし、軸方向が SX3003 とほぼ揃っており、形態が小型の土坑墓に近い。

平面形状・規模 平面形は隅丸長方形もしくは小判形に近く、長軸 1.015m・短軸 0.664m を測る。

断面形は浅い皿形で、確認面からの遺構底面までの深さは 0.030m である。

埋土 埋土は単層で、褐灰色砂質シルトを主体とする。

遺物出土状況 弥生土器細片 1 点が出土している。年代は不明である。

遺構の性格と帰属時期 性格不明の土坑である。SX3003 より新しく、弥生時代後期以降である。土坑墓の可能性もある。

■ SK3047(図 81、遺物図 33、遺物観察表 83、写真図版 40・71)

位置 第2面の P11 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.830m である。耕 3002 に切られる。Tr.1 に切られる。

検出状況 Tr.1 掘削時にトレンチ内から弥生時代の高坏が出土し、遺構内埋土であることが確認された。その後、上面の耕 3002 を除去し、黒褐色砂質シルト層面で範囲を確認した。耕作溝群の埋土との土質の差異は明瞭ではなく、土器の検出された面でプラン精査をおこない範囲を確認した。

平面形状・規模 平面形は不整三角形状の浅い掘り込みである。長軸 3.743m・短軸 2.671m を測る。

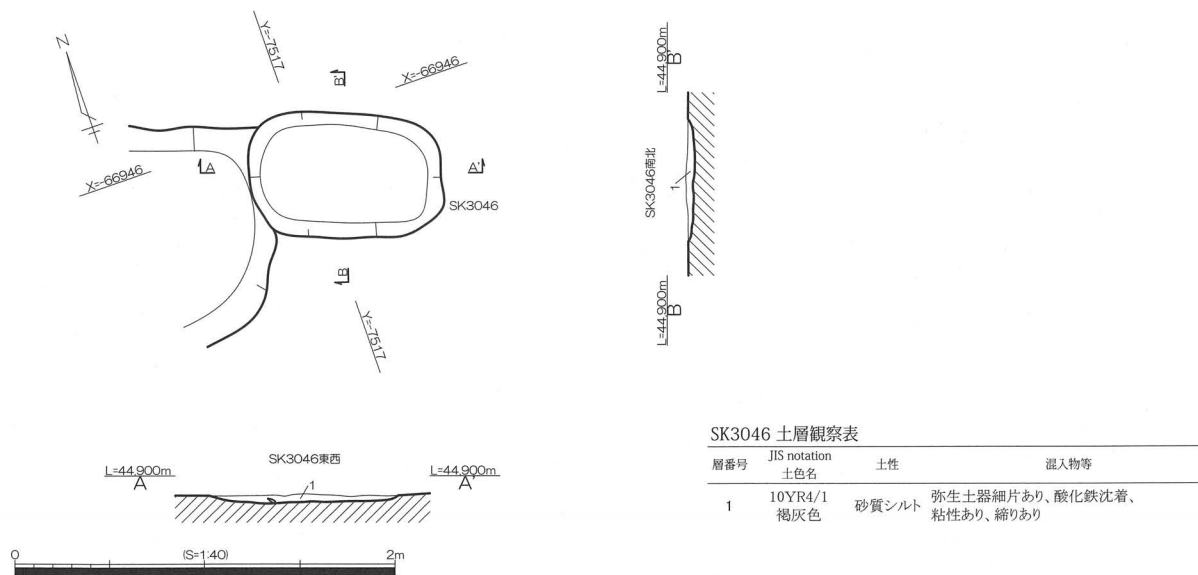
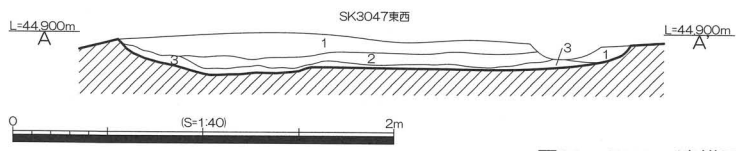
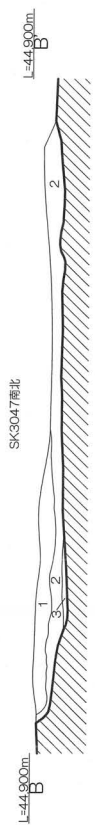
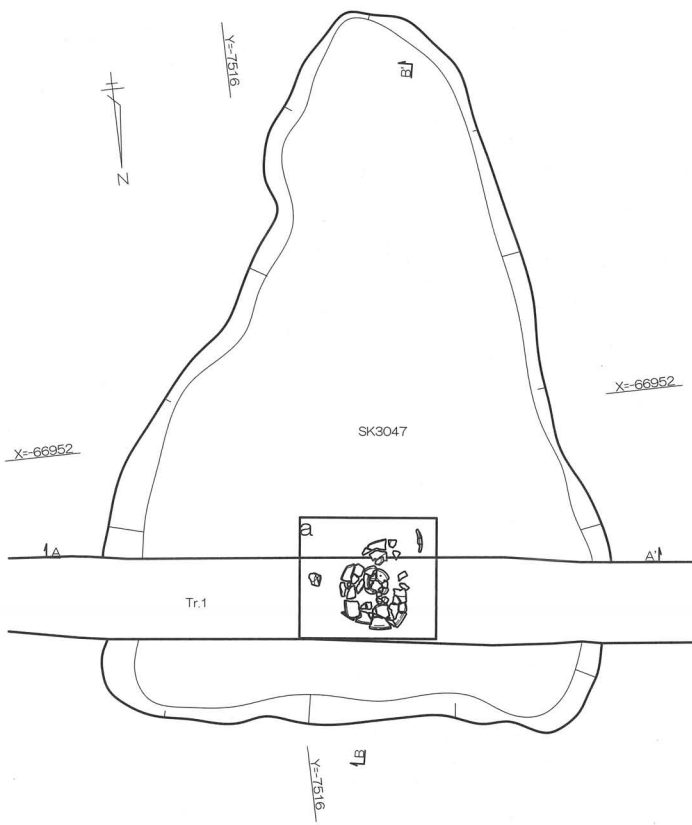


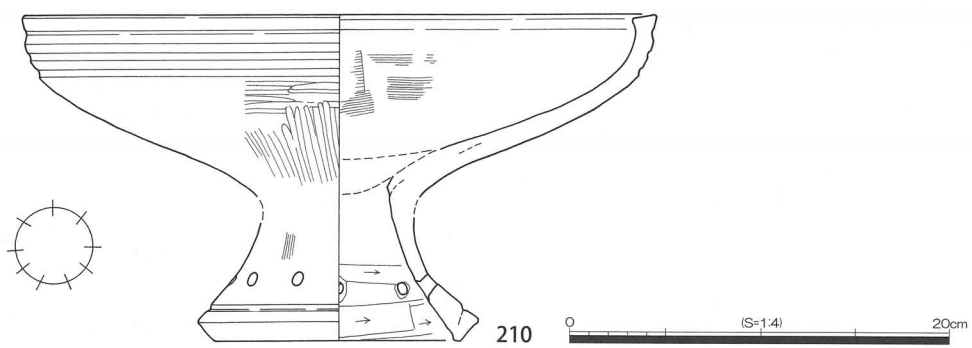
図80 SK3046遺構図



3区 SK3047 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	弥生土器高坏出土、炭化物微量、砂粒多い、粘性弱、縮りやや硬質
2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	砂粒多い、黒褐色シルトブロック少量、粘性弱、縮りあり
3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗灰黄色砂少量、粘性あり、縮りやや硬質

図81 SK3047遺構図



遺物図33 SK3047出土遺物

遺物観察表 33

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
210	3	SK3047 (3016)	33	71	弥生土器 高坏	口径:(33.0) 器高:(17.2) 脚径:12.9	外面:口縁部凹線文3条、坏底部ミガキ、脚部ナデ、脚裾部凹線文1条 内面:口縁部ナデ、坏底部ハケ後ミガキ、脚部ケズリ 特記:円形透かし9方向	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄褐 内面:橙	

断面形は不整な盤形で、確認面からの遺構底面までの深さは 0.140m ある。壁面調整の状態は確認できない。

埋土 埋土は 3 層に区分される。1 層は暗灰黄色砂質シルト主体で、弥生土器の高坏を含み、炭化物を微量含む。2 層は暗灰黄色砂質シルト主体で黒褐色シルトブロックを少量含む、3 層は黒褐色砂質シルト主体である。

遺物出土状況 実測図を 1 点掲載する。210 は弥生土器の高坏で坏部の口縁外面に 3 条の凹線文が施される。脚部には、円形の透かしが 9 箇所に入れている。弥生時代中期後葉に比定できる。

遺構の性格と帰属時期 性格不明の土坑である。高坏を供献土器と考えると墓坑の可能性もある。

■ SK3048(図 82)

位置 第 2 面の P11 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.830m である。耕 3002 に切られる。暗渠排水に切られ、Tr.1 に切られる。

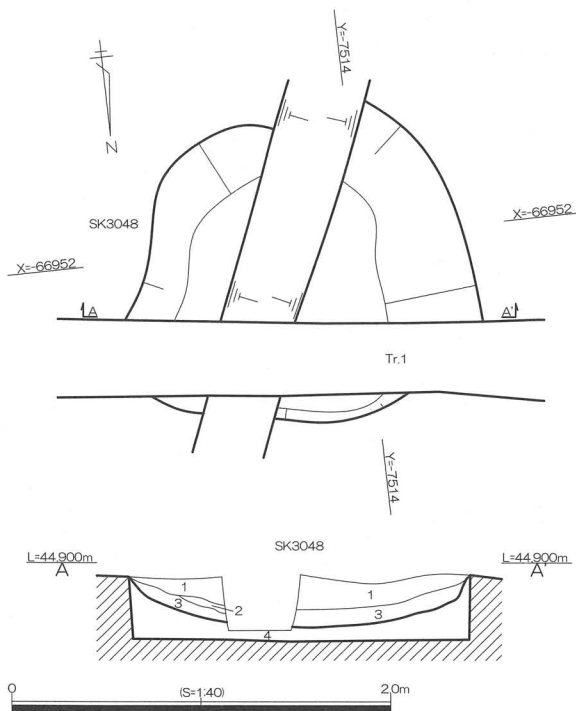
検出状況 Tr.1 掘削時に、周辺層より炭化物と焼土が多く集中する箇所があり、遺構埋土であることが確認された。上面の耕 3002 を除去し、黒褐色砂質シルト層面で範囲を確認した。

平面形状・規模 平面形は不整形で、長軸 1.830m・短軸 1.708m を測る。断面形は浅い U 字形で、確認面からの遺構底面までの深さは 0.319m ある。壁面調整の状態は確認できない。

埋土 埋土は 3 層に区分される。1 層は暗灰黄色砂質シルトで焼土と炭化物を微量含む。2 層は暗灰黄色砂質シルト主体で、黒褐色シルトブロックを少量含む。3 層は黒褐色砂質シルト主体で暗灰黄色砂ブロックを含む。セクション図の 4 層は基盤層の黒色土層である。

遺物出土状況 炭化物・焼土粒はあるが、遺物は出土していない。

遺構の性格と帰属時期 用途不明の土坑である。西側に並ぶ SK3047 の高坏が弥生時代中期であり、これと並存することから同時期の可能性があるともみている。



SK3048 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	焼土粒・炭化物微量、砂粒多い、小礫微量、粘性弱、縮りやや硬質
2	2.5Y4/2 暗灰黄色	砂質シルト	砂粒多い、黒褐色シルトブロック少量、粘性弱、縮りあり
3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗灰黄色砂ブロック30%、粘性あり、縮りあり
4	2.5Y2/2 黒褐色	砂質シルト	基盤層の黒色土層、粘性やや弱、縮りやや硬質

図82 SK3048遺構図

■ SK3049(図 83、写真図版 40)

位置 第2面のP11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.824mである。耕3002に切られる。

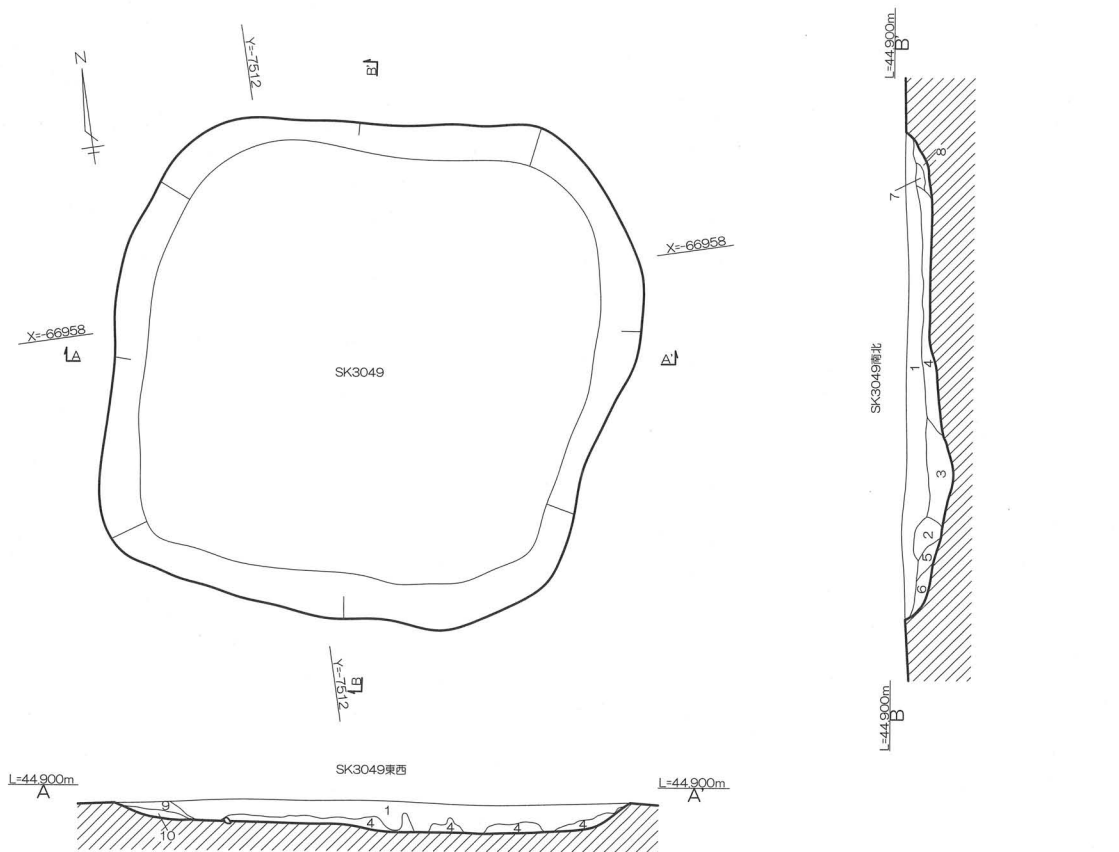
検出状況 上面の耕3002を除去し、黒褐色砂質シルト層面で範囲を確認した。

平面形状・規模 平面形は隅丸長方形で、長軸2.729m・短軸2.632mを測る。断面形は浅く不整なU字形で、確認面からの遺構最深部までの深さは0.273mある。壁面調整痕は確認できない。

埋土 埋土は8層に区分される。いずれも黒褐色砂質シルトを主体とし、黄色味の強い層と黒褐色味が強い層とがある。1層と4層の境界に細かい起伏があり、2層・3層部分で若干の落ち込みがある。

遺物出土状況 弥生土器片49点が出土した。いずれも細片で統一性がない。

遺構の性格と帰属時期 用途不明の土坑である。年代は弥生時代以降のものである。



SK3049 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	2.5Y3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
2	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性弱、縮りやや硬質
3	2.5Y2/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性弱、縮りやや硬質
4	2.5Y2/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性弱、縮りやや硬質

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
5	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性弱、縮りやや硬質
6	2.5Y2/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性弱、縮りやや硬質
7	2.5Y2/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性弱、縮りやや硬質
8	2.5Y2/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、 粘性弱、縮りやや硬質

図83 SK3049遺構図

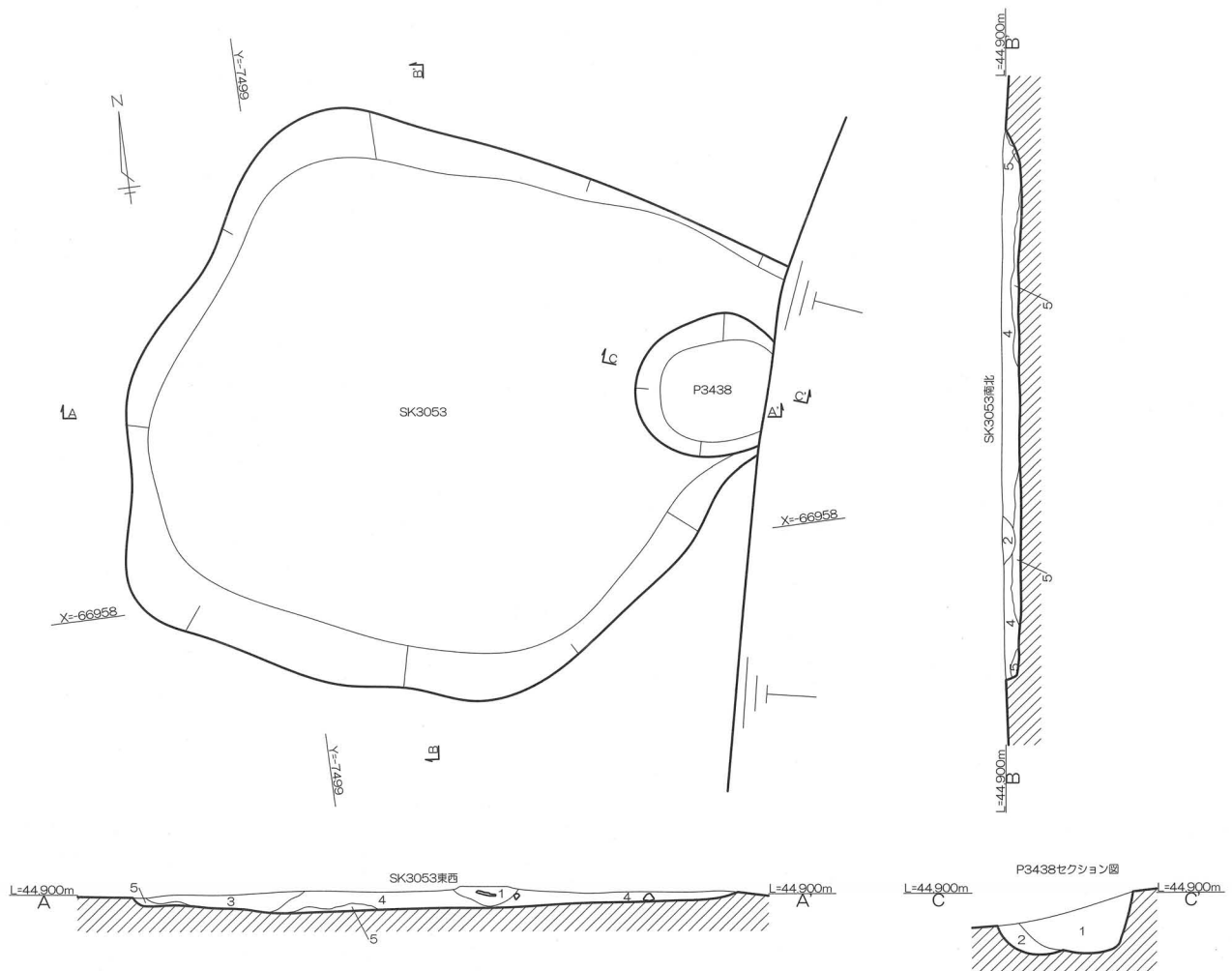
■ SK3053(図 84、写真図版 40)

位置 第2面のP12・P13グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.881mである。東側を攪乱に切られる。南側のSI3008と接する。

検出状況 黒褐色砂質シルト層上面で範囲を確認した。

平面形状・規模 平面形は不整な隅丸長方形で、長軸3.182m・短軸3.106mを測る。断面形は浅く不整なU字形で、確認面からの遺構底面までの深さは0.182mある。

埋土 埋土は5層に区分される。1層は上面からの耕作攪乱で、にぶい黄褐色粘土質シルト主体である。2層は褐灰色砂質シルト主体である。3層は暗褐色砂質シルト主体である。4層は灰黄褐色砂質シルト主体である。5層は黒褐色砂質シルト主体である。SK3055は2層に区分され、1層・2層とも黒褐色粘土質シルトを主体とし、粘性がやや強い。1層と4層の境が凹凸が激しく、植物痕の



SK3053 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土質シルト	弥生土器片微量、暗褐色砂少量、粘性やや強い、締りあり
2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りやや軟質
3	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りやや軟質
4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	径5cm大の礫あり、酸化鉄微量、粘性あり、締りやや軟質
5	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、粘性あり、締りやや軟質

SK3053内P3438 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR3/1 黒褐色	粘土質シルト	暗褐色砂少量、粘性やや強い、締りあり
2	2.5Y2/2 黒褐色	粘土質シルト	暗褐色砂質シルト微量、粘性やや強い、締りあり

0 (S=1:40) 2m

図84 SK3053遺構図

可能性がある。

遺物出土状況 弥生土器片 49 点が出土した。いずれも細片でまとまりがなく、表土からの流れ込みと思われる。

遺構の性格と帰属時期 用途不明の土坑である。年代は弥生時代以降である。

■ SK3055(図 85、遺物図 34、遺物観察表 34、巻頭図版 5、写真図版 40・71)

位置 第 2 面 Q13 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.911m である。

検出状況 圃場整備の際の重機攪乱を除去し、近代以降の耕作土と弥生時代遺物包含層を混合した層が検出されたため、遺物を採取しつつ面を掘り下げ、黒褐色砂質シルト面を検出した。その際、多数の土器片が集中する箇所が見つかったため、周辺を精査して土器集中範囲を確認し、土坑として調査することにした。

平面形状・規模 平面形は縦に細長い瓢箪形で、長軸 2.874m・短軸 1.390m を測る。断面形は不整な U 字形で、確認面からの遺構底面までの深さは 0.165m である。

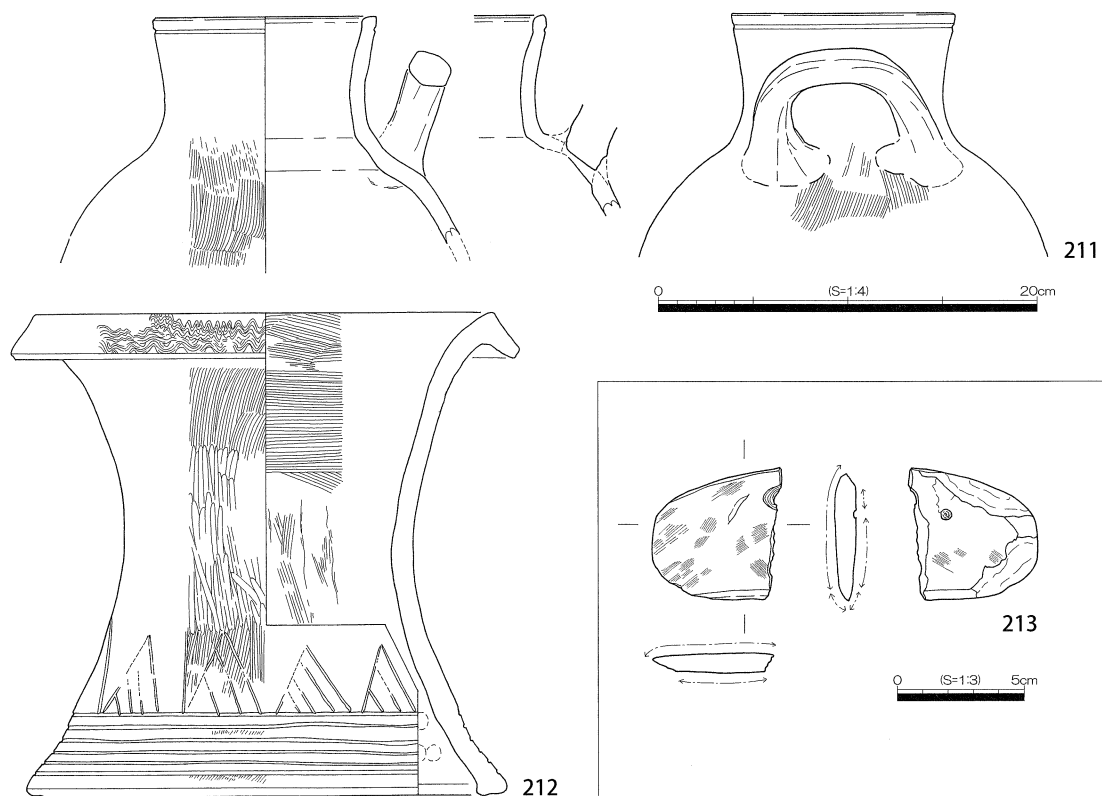
埋土 埋土は 3 層に区分され、3 層とも黒褐色砂質シルトを主体とする。1 層が弥生土器片を多数含み、2 層が弥生土器片を少数含み、3 層が土器片を微量含む。1 層と 3 層が若干黄色味を帯びる。



図85 SK3055遺構図

遺物出土状況 弥生土器片 2062 点と石器 1 点、礫数点が出土した。弥生時代中期後葉の土器片を中心に甕の体部片が多数を占め、高坏脚部・壺口縁部等、甕以外の器種も含まれる。出土状況でみる限り人為的に碎かれて埋められたものである。接合はほぼ不可能な状態であったが、211 と 212 のみ特殊な形状であったため復元できた。211 は水差形土器であり、把手と口縁部付近が確認された。212 は弥生土器の器台で、全体を立鼓形につくり、口縁外帯部に波状文を施し、裾部に凹線文 6 条をめぐらすものである。凹線文の直上に鋸歯文を大きくしたような三角文が 4 つ並んで陰刻されているのが特徴的で、三角文の中の斜線数に違いがあり、一番左と左から三番目が三本線、左から二番目と右端が二本線である。また、三角文の左側二つには柱を立てたような縦線が刻まれ、線刻画のようにも見える。213 は泥質粘板岩製の石包丁である。

遺構の性格と帰属時期 土坑である。出土した土器片は弥生時代中期を主体とするが、直上まで近代以降の耕作地を開墾した際の土器捨て場の可能性もある。



遺物図34 SK3055出土遺物

遺物観察表 34

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
211	3	SK3055 (3051)	34	71	弥生土器 壺 (水差形土器)	口径:(11.4) 器高:12.9~	外面:口縁部ナデ・凹線文1条、肩部ハケ、把手ナデ 内面:口縁部~肩部ナデ 特記:肩部に把手	普通 ~2mmの砂粒、 普通	やや良好 外面:にぶい黄橙 内面:灰黄褐	
212	3	SK3055 (3051)	34	71	弥生土器 器台	口径:23.8 器高:25.5 脚径:25.4	外面:口縁部波状文、体部ハケ後中位にミガキ、裾部凹線文6条 内面:ハケ・ナデ 特記:外面脚台部に線刻による鋸歯文4個	普通 ~3mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:灰黄	
213	3	SK3055 (3051)	34	71	石器 石包丁	長さ:5.1~ 幅:5.25~ 厚さ:0.85 重さ:28.1	磨製、研磨痕あり 紐部穿孔1箇所径4mm以上、未貫通穿孔1箇所径3.5mmあり	泥質粘板岩	灰	1/2以上欠損

■ SK3056(図 86、遺物図 35、遺物観察表 35、写真図版 40・72)

位置 第2面Q18グリッドに位置する。遺構確認面の標高は45.353mである。

検出状況 近代の耕作土を除去したところで、色調の明るいにぶい黄褐色砂層を検出した。このにぶい黄褐色砂層を切る遺構として暗褐色砂質シルトのプランが検出され、表面に弥生土器片が検出された。

平面形状・規模 平面形は不整楕円形で、長軸3.067m・短軸1.426mを測る。断面形はU字形で、確認面からの遺構底面までの深さは0.141mである。壁面調整の状態は確認できない。

埋土 埋土は単層である。黒褐色砂質シルトを主体とし、黒褐色砂・黒色砂質シルト等を含む。弥

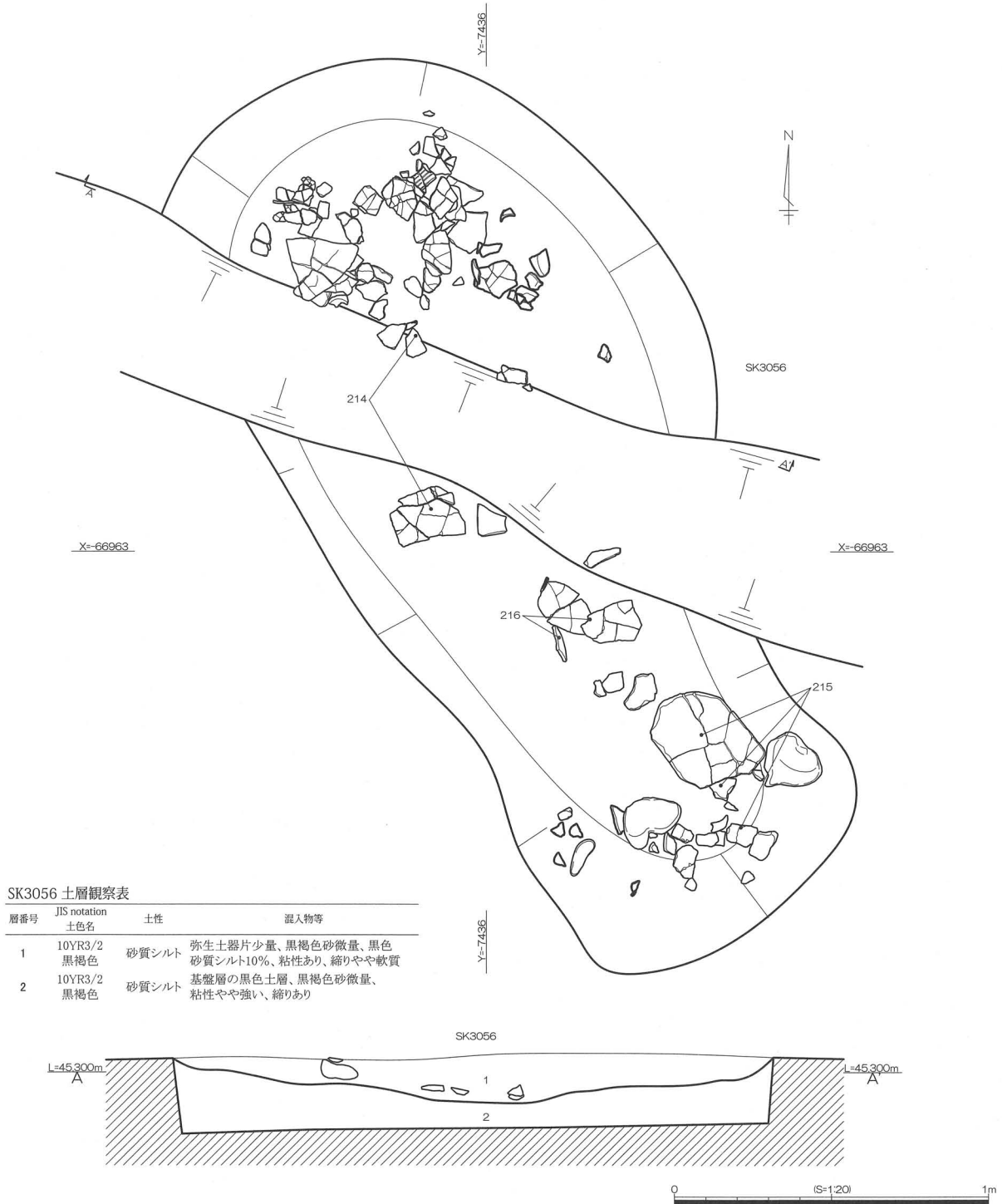
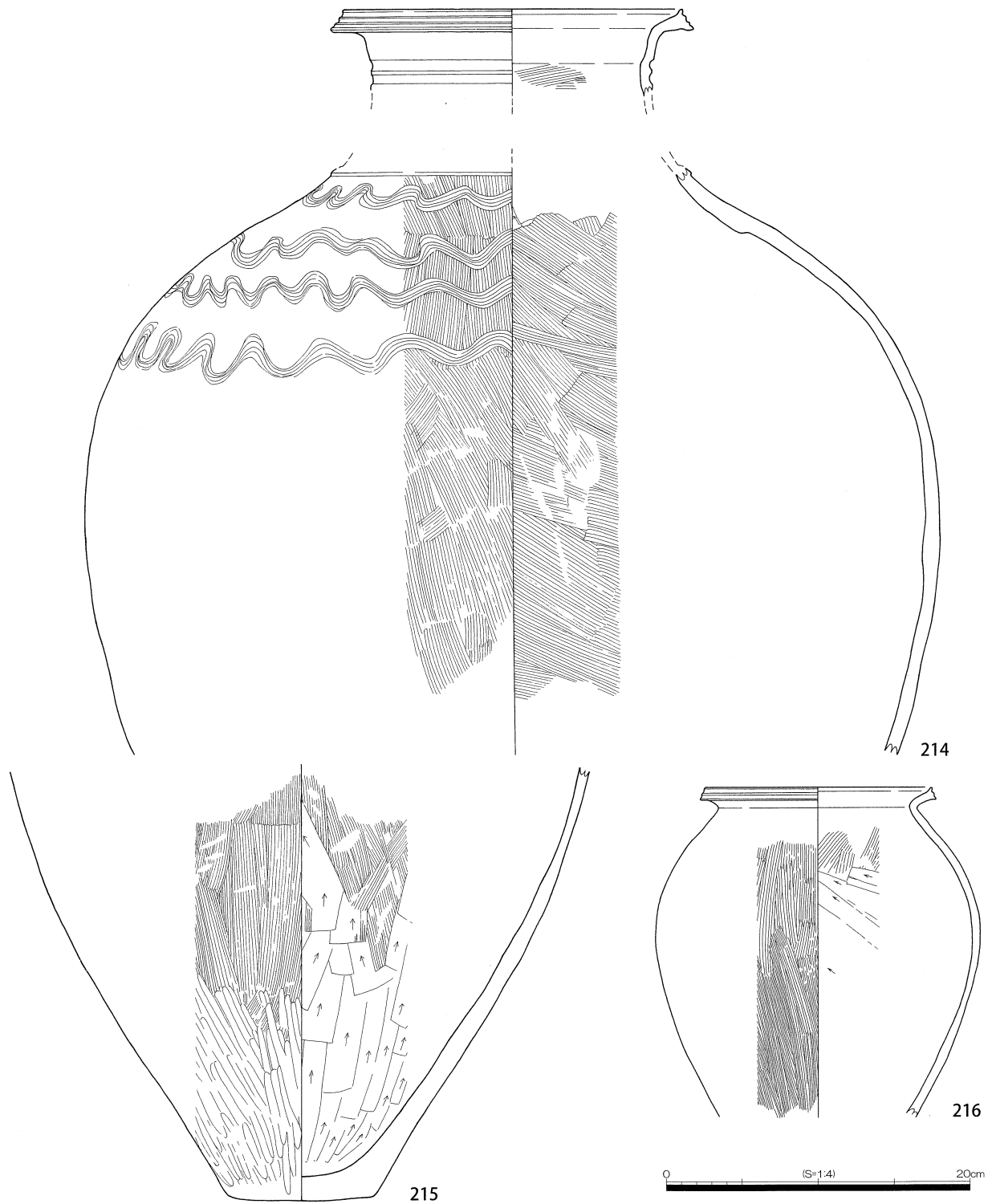


図86 SK3056遺構図



遺物図35 SK3056出土遺物

遺物観察表 35

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
214	3	SK3056 (3052)	35	72	弥生土器 壺	口径:(22.4) 最大径:(56.0)	外面:口縁端部擬凹線文3条、口縁部~頸部ナデ、 頸部凹線文2条、体部ハケ後肩部波状文 内面:口縁部ナデ、頸部ハケ、肩部ケズリ後ナデ ・ハケ、体部ハケ	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:橙	
215	3	SK3056 (3062)	35	72	弥生土器 甕	器高:28.4~ 最大径:38.0~ 底径:9.5	外面:体部ハケ後半ミガキ、底部ナデ 内面:体部ケズリ後上半ハケ 特記:底部は凸レンズ状	普通 ~1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:浅黄	
216	3	SK3056 (3052)	35	72	弥生土器 甕	口径:(14.8) 器高:21.7~ 最大径:(21.4)	外面:口縁端部凹線文2条、口縁部~肩上半ナ デ、体部ハケ 内面:口縁部ナデ、肩部ハケ、体部ケズリ	普通 ~3mmの砂粒、 普通	普通 外面:橙 内面:にぶい黄橙	外面体部下半爆付着

生土器片、特に大型の壺片を多く含む。

遺物出土状況 弥生土器片 255 点が出土した。弥生時代中期後葉の土器片を中心に多数出土した。214 は大型の壺で、口縁端部に擬凹線文 3 条を施し、体部外面は縦方向のハケ調整ののち肩部に 4 本の波状文を施す。215 は、大型の甕の底部である。216 は甕で、口縁端部に凹線文 2 条が施される。いずれも弥生時代中期後葉に比定される。

遺構の性格と帰属時期 土坑である。おそらく廃棄土坑である。出土遺物から弥生時代中期後葉と推測される。3 区の東側にはこの土器と関連のありそうな竪穴住居跡は確認されなかったが、隣接する調査区外に集落が続くことを予想させる出土状況である。

第 5 項 3 区第 3 面 遺構と遺物 (巻頭図版 4、写真図版 41)

洪水砂層である暗褐色砂層を除去して第 1 面を検出し、耕作溝群を調査した後、第 2 面を調査し、さらに黒褐色砂質シルトが混在する層を除去して、黒色土層上面まで掘り下げた。この黒色土上面が第 3 面の遺構確認面である。黒褐色砂質シルト層は、暗褐色砂層の下で流水作用等による攪乱を受けていたと思われ、砂・シルト・粘土質シルトが混在した硬質な層で、この層を除去しないとプランを検出できない遺構が多数あることがわかった。

調査の結果、第 3 面では、掘立柱建物跡 1 棟・竪穴住居跡 3 棟・土坑 31 基・ピット 349 基が検出された。このうち、掘立柱建物跡と竪穴住居跡と、P3662 について詳細を述べ、他の遺構は 3 区遺構一覧表 (表 10 ~ 22) で概要を記す。

■ SB3008 (図 87、写真図版 42)

位置 第 3 面南西部の O4・5、P4・5 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.048m を測る。

検出状況 黒褐色砂質シルト層を除去し、第 3 面確認面の黒色シルト層上面で検出した。周辺にピット群が多くあり、柱穴の対応関係が判別しにくい。柱穴と想定したもの以外にも深いピットがある。SI3013 の東側に隣接しており、竪穴住居跡の周堤幅を想定すると、SI3013 との並存は考えにくい。

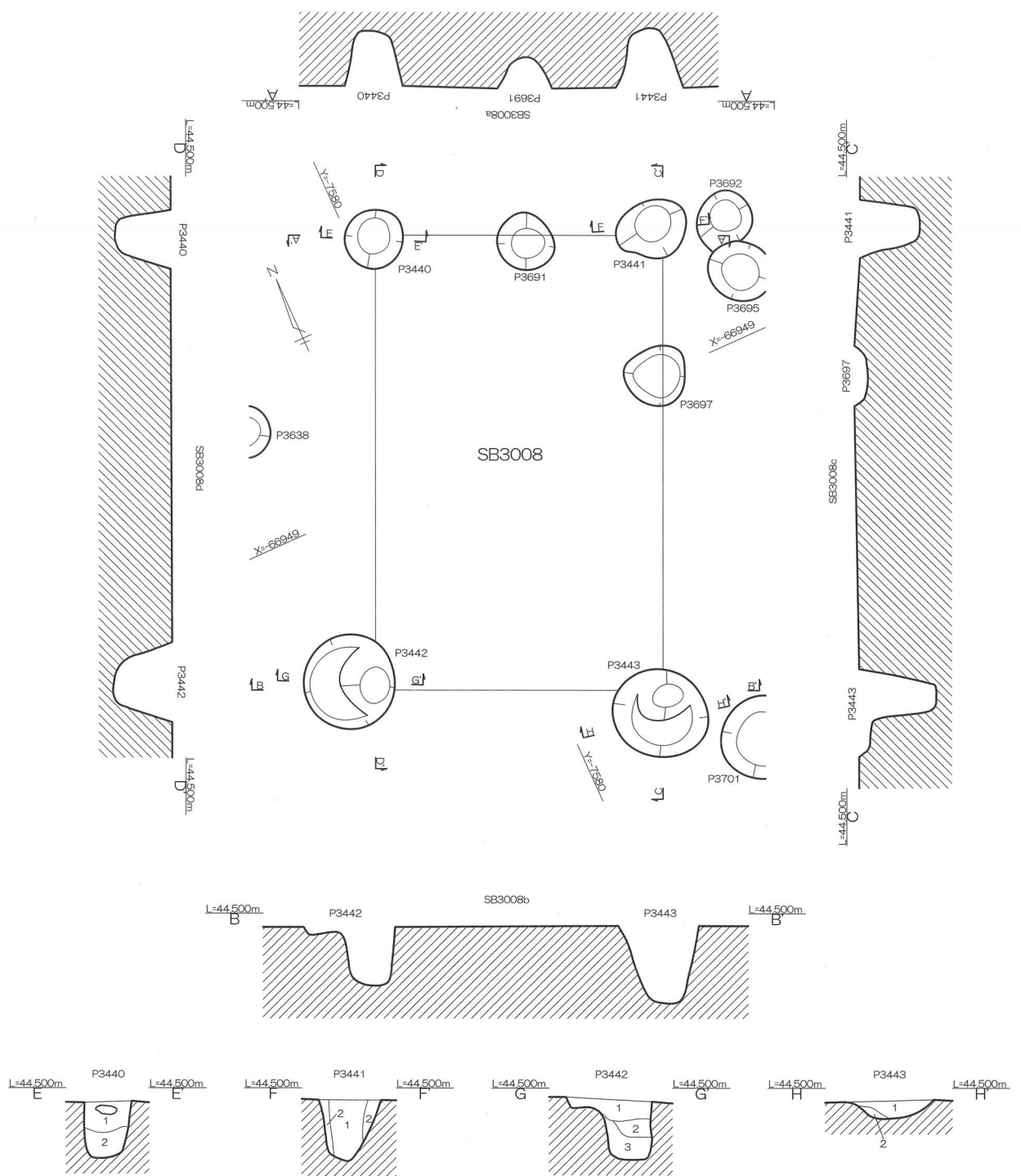
軸方向・平面形状・規模 桁行 1 間・梁間 1 間の掘立柱建物跡である。主軸は N-25°-E をふる。建物の平面形は長方形である。桁行長 2.940m・梁間長 1.860m を測る。

SB3008 は P3440-P3441-P3442-P3443 の 4 基の柱穴で構成される。各柱穴の規模 (長軸×短軸・確認面からの深さ) は、P3440 は (0.389m × 0.377m-0.393m)、P3441 は (0.470m × 0.383m-0.372m)、P3442 は (0.611m × 0.603m-0.424m)、P3443 は (0.629m × 0.560m-0.541m) である。形状は、平面形は 4 基とも円形。断面形は P3440・P3441 は U 字形。P3442 は有段 U 字形。P3443 は浅い U 字形を示す。底面の調整痕は残っていない。

柱穴埋土・礎石の有無 P3441 は柱痕が確認され、P3441 の柱痕埋土はにぶい黄褐色砂質シルトを主体とし、掘方の埋土は黒色シルトを主体とする。礎石はない。

遺物出土状況 P3441 から土器片 2 点、P3442 から土器片 3 点、P3443 から土器片 7 点が出土している。

遺構の性格と帰属時期 掘立柱建物跡である。出土遺物と埋土と軸方向から、弥生時代中期に所属すると推測される。



SB3008 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3440	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト20%、粘性やや弱い、縮りあり
P3440	2	10YR2/1 黒色	シルト	礎石(直径20cm大)あり、黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂5%、粘性あり、縮りあり
P3441	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト20%、粘性やや弱い、縮りあり
P3441	2	10YR2/1 黒色	シルト	にぶい黄褐色砂質シルト20%、粘性やや弱い、縮りあり
P3441	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂・暗褐色砂5%、粘性あり、縮りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3442	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	砂粒やや多い、粘性やや弱い縮りあり
P3442	2	10YR3/2 黒褐色	シルト	砂粒やや多い、粘性やや弱い縮りあり
P3442	3	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂5%、粘性あり、縮りあり
P3443	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂質シルト20%、粘性やや弱い、縮りあり
P3443	2	10YR3/1 黒褐色	シルト	黒色シルト少量、にぶい黄褐色砂5%、粘性あり、縮りあり

図87 SB3008遺構図

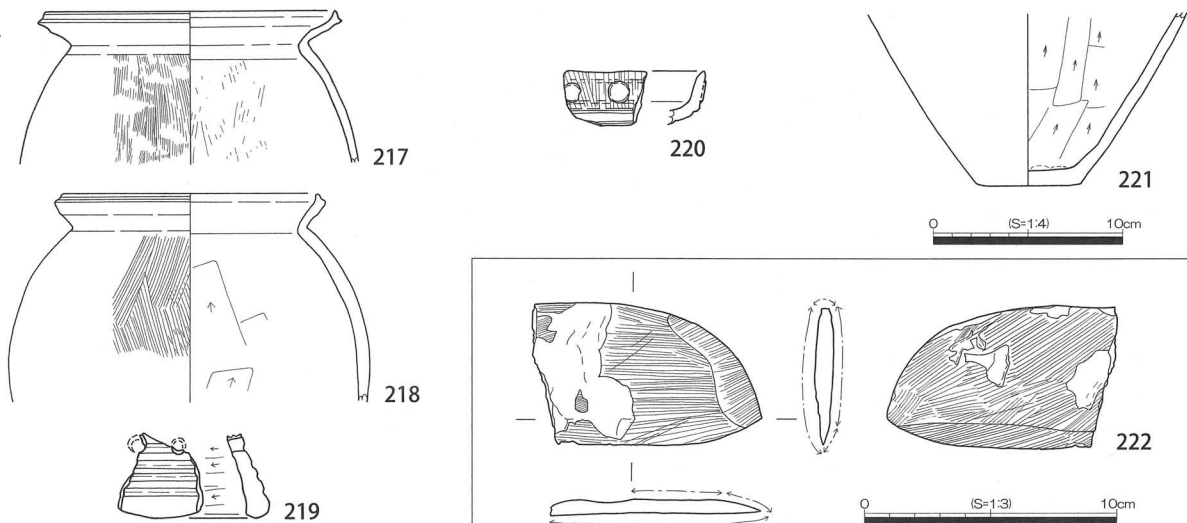
■ SI3013(図 88 ～ 90、遺物図 36、遺物観察表 36、写真図版 42・43・72)

位置 3区第3面南西O4・P4グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.464mである。北端をSI3005に切られる。暗渠排水とTr.1に切られる。

検出状況 黒褐色砂質シルト層上面で、この付近のみ、焼土粒・炭化物粒・微量の土器片を検出した。竪穴住居跡の可能性を考えたが、当箇所には酸化鉄・酸化マンガンが多量に沈着して硬質化しており、プラン面からはまったく遺構の範囲等は見えなかった。このため、暗渠排水の掘方とTr.1の壁面を再精査し、竪穴住居跡の壁溝の掘方と柱穴の存在を確認した。ベルトを設定して住居として調査することになった範囲内に多数の柱穴があることがわかり、竪穴住居跡の可能性は高まった。

軸方向・平面形状・規模 平面形は円形に近く、長軸8.419m・短軸8.283mを測る。床面は暗褐色砂層によって削られ消失している。断面形は浅い盤形で、0.166mの深さを確認した。壁溝が部分的に残っている。溝は最も外側のSD3021以外に、SD3022～SD3025まであり、二重になっているのではなく、渦状に拡大しているかのように見える。

住居内ピットは36基、中央土坑は2基検出された。ピット・土坑の規模は遺構一覧表を参照のこと。中央土坑はSK3068とSK3069が切り合った状態で検出され、SK3068がSK3069を切る。拡張もしくは建て直しがおこなわれているとみられ、調査時の所見では中央土坑の数の2回とされる。古い時



遺物図36 SI3013出土遺物

遺物観察表 36

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
217	3	SI3013 (3638)	36	72	弥生土器 甕	口径:(15.2) 器高:8.0～ 最大径:(17.8)	外面:口縁端部凹線文1条、口縁部～頸部ナデ、 肩部ハケ後一部ナデ 内面:口縁部～頸部ナデ、肩部ハケ後ナデ	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい黄橙 内面:橙	
218	3	SI3013内SK3071 (3641)	36	72	弥生土器 甕	口径:(13.2) 器高:11.0～ 最大径:(18.9)	外面:口縁端部凹線文1条、口縁部ナデ、体部ハ ケ 内面:口縁部～頸部ナデ、体部ケズリ	普通 ～4mmの砂粒、 普通	普通 外面:灰黄 内面:にぶい黄橙	
219	3	SI3013内P3513 (4046)	36	72	弥生土器 高坏	器高:4.5～	外面:ナデ、凹線文4条以上 内面:ケズリ、脚端部ナデ 特記:円形透かし2方向以上	普通 ～1mmの砂粒、 普通	普通 外面:暗赤褐 内面:暗赤褐	
220	3	SI3013内 SK3068・3069 (3965)	36	72	弥生土器 壺	器高:3.0～	外面:ナデ、凹線文2条後キザミ後円形浮文、頸 部上端凹線文2条 内面:口縁部ナデ	普通 ～0.5mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい橙 内面:明黄褐	
221	3	SI3013内 SK3068・3069 (3965)	36	72	弥生土器 甕	器高:9.1～ 底径:5.6	外面:体部下半～底部(ミガキ) 内面:体部下半～底部ケズリ	普通 ～3mmの砂粒、 普通	普通 外面:にぶい赤褐 内面:黒褐	
222	3	SI3013内P3492 (3645)	36	72	石器 石包丁 未製品	長さ:9.1～ 幅:5.65 厚さ:0.75 重さ:62.3	直線刃半月形 磨製、研磨痕あり 紐部穿孔残存せず	粘板岩	灰	

期の SI3013 を SI3013a、新しい時期の SI3013 を SI3013 b とすると、SI3013a は、図 88 の一点鎖線で示した小さい方の円と思われ、中央土坑 SK3069 を中心に柱穴は P3516-P3503、P3484-P3508、P3486-(SK3070 で消滅)、P3492-P3510 が対応していたと推測する。SI3013b は、図 88 の破線で示した大きい方の円と思われ、中央土坑 SK3018 を中心に、柱穴は P3482-P3507、P3486-P3509、P3490-P3512、P3504・P3506-P3517 が対応していたと推測する。いずれも 8 本柱である。

埋土・礎石の有無 貼床面は残っていない。遺構埋土と考えられた黒褐色砂質シルト主体の炭化物と焼土粒を含む層(セクション図 J-J'3 層)は、洪水性堆積層の一部をなしている。この層は、竪穴住居跡の掘方と貼床面のほぼすべてを押し流し堆積した層である。壁溝・小溝・柱穴・土坑の下部のみが残される。遺構内埋土は黒褐色砂質シルト主体で、黒褐色砂を含むものが多い。P3508・P3505・P3489 には礎石がある。P3492 は埋土の上層に礎石状に石が置かれている。

遺物出土状況 住居内範囲の埋土中・ピット内・壁溝内・小溝内・土坑内から土器片 225 点が出土した。この中で弥生土器の甕口縁部片 18 点・同甕底部片 5 点・同高坏片 1 点が出土した。実測個

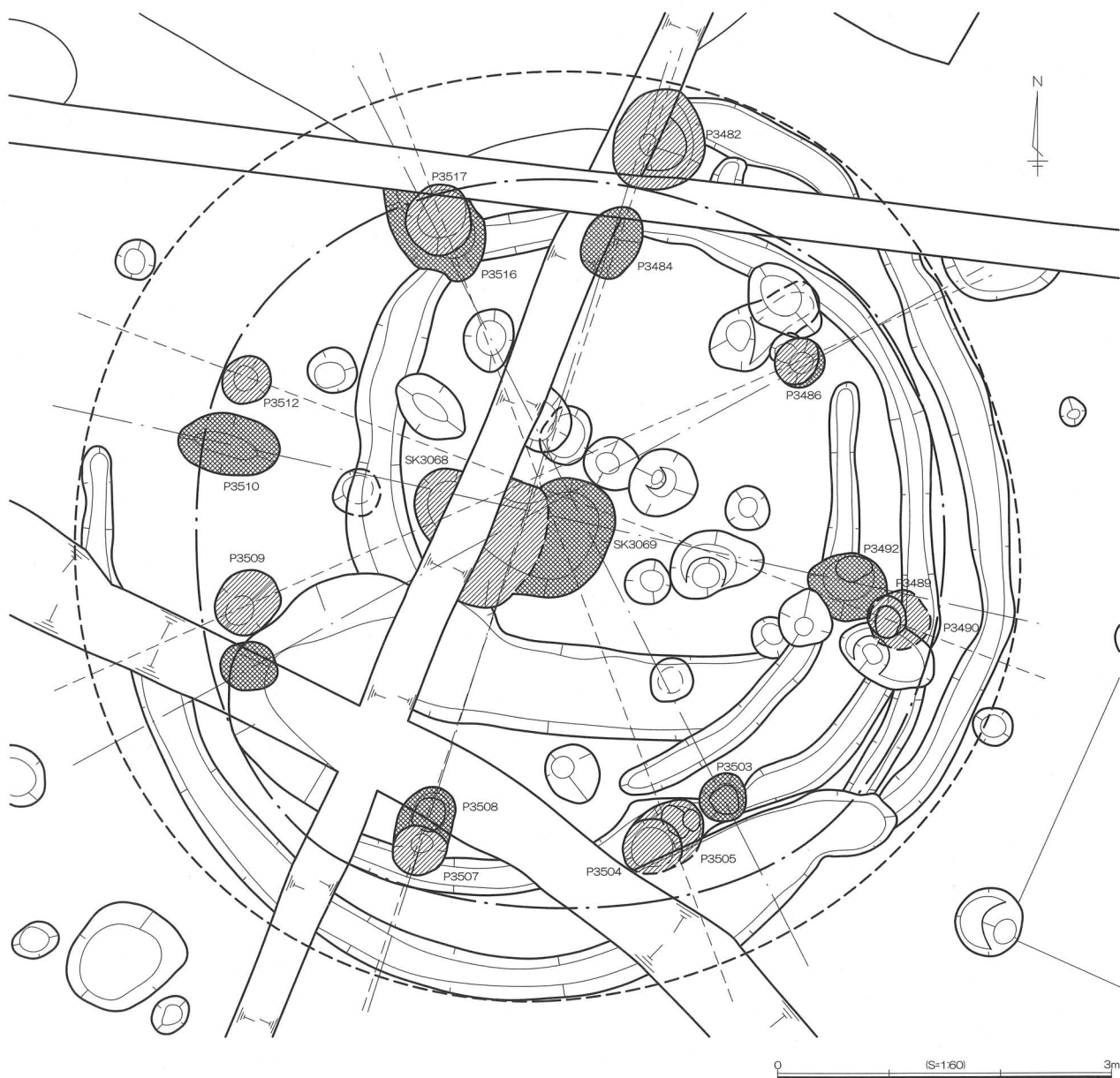


図88 SI3013柱穴の新旧振り変わり

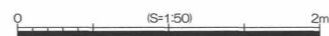
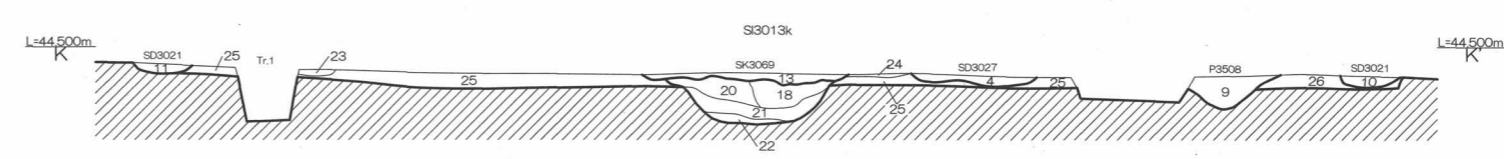
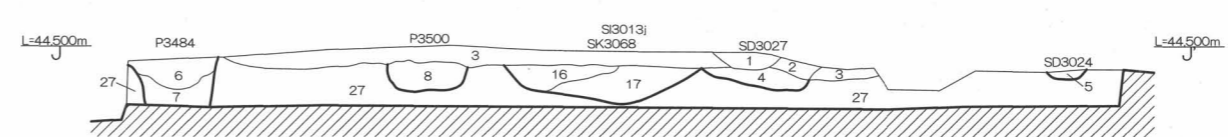
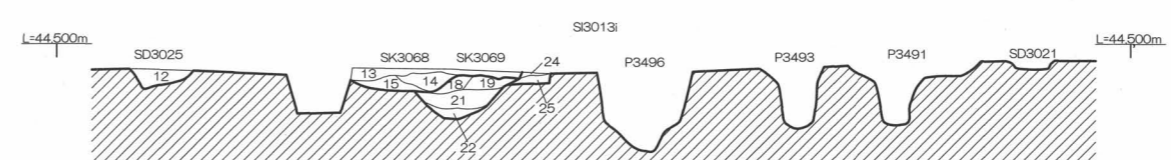
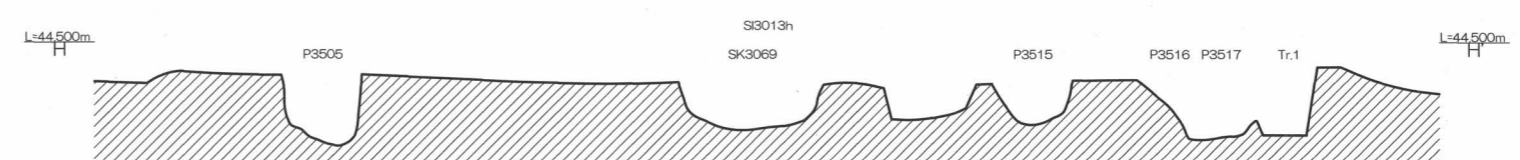
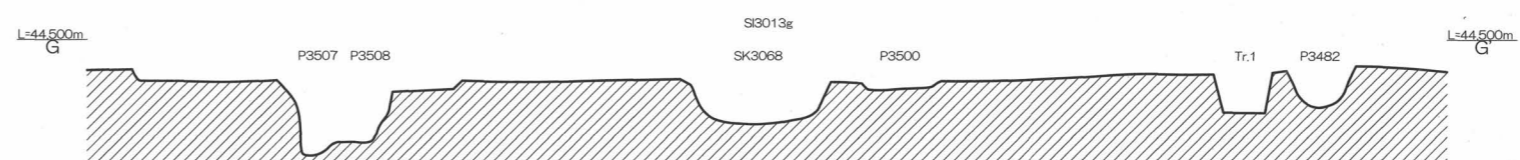
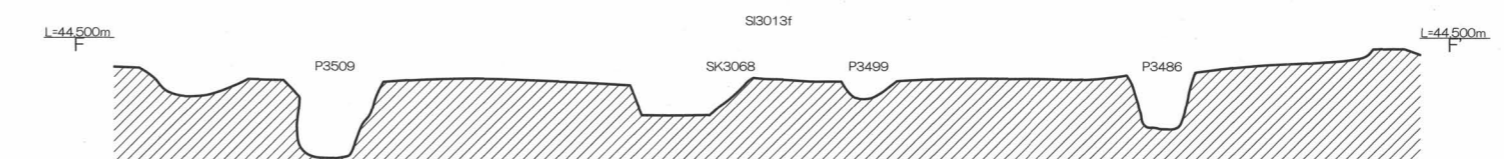
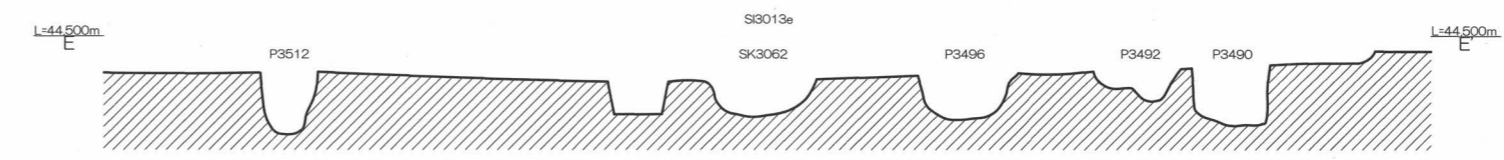
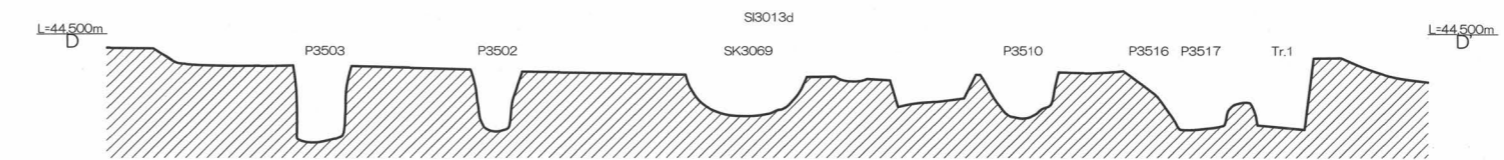
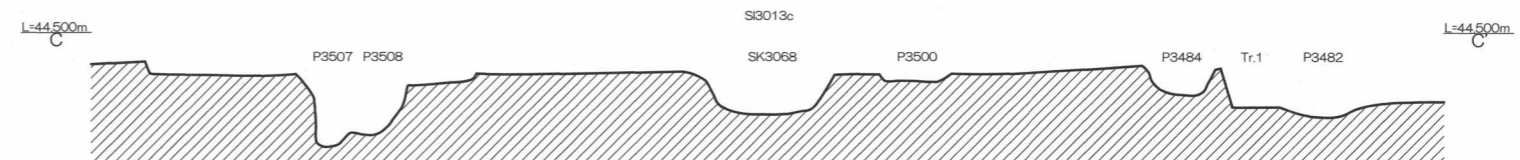
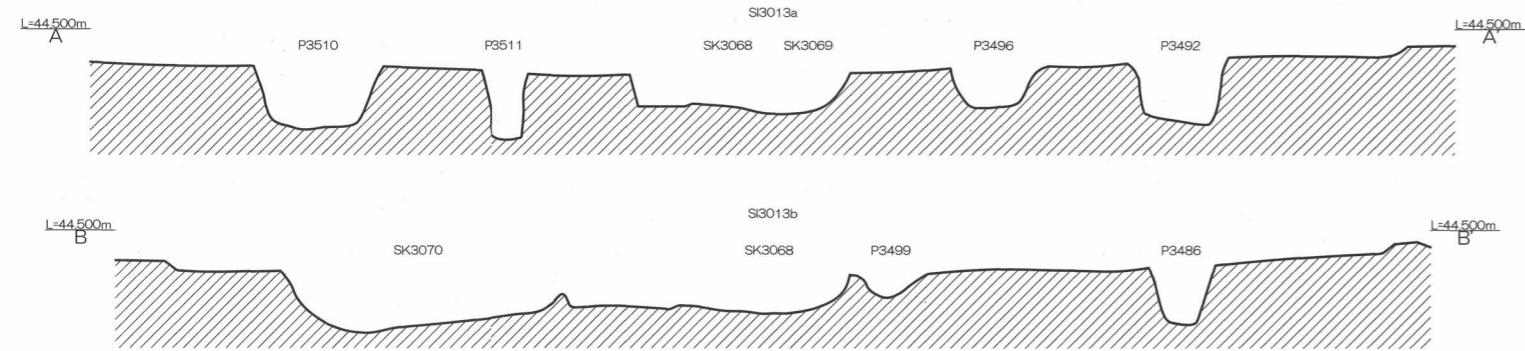
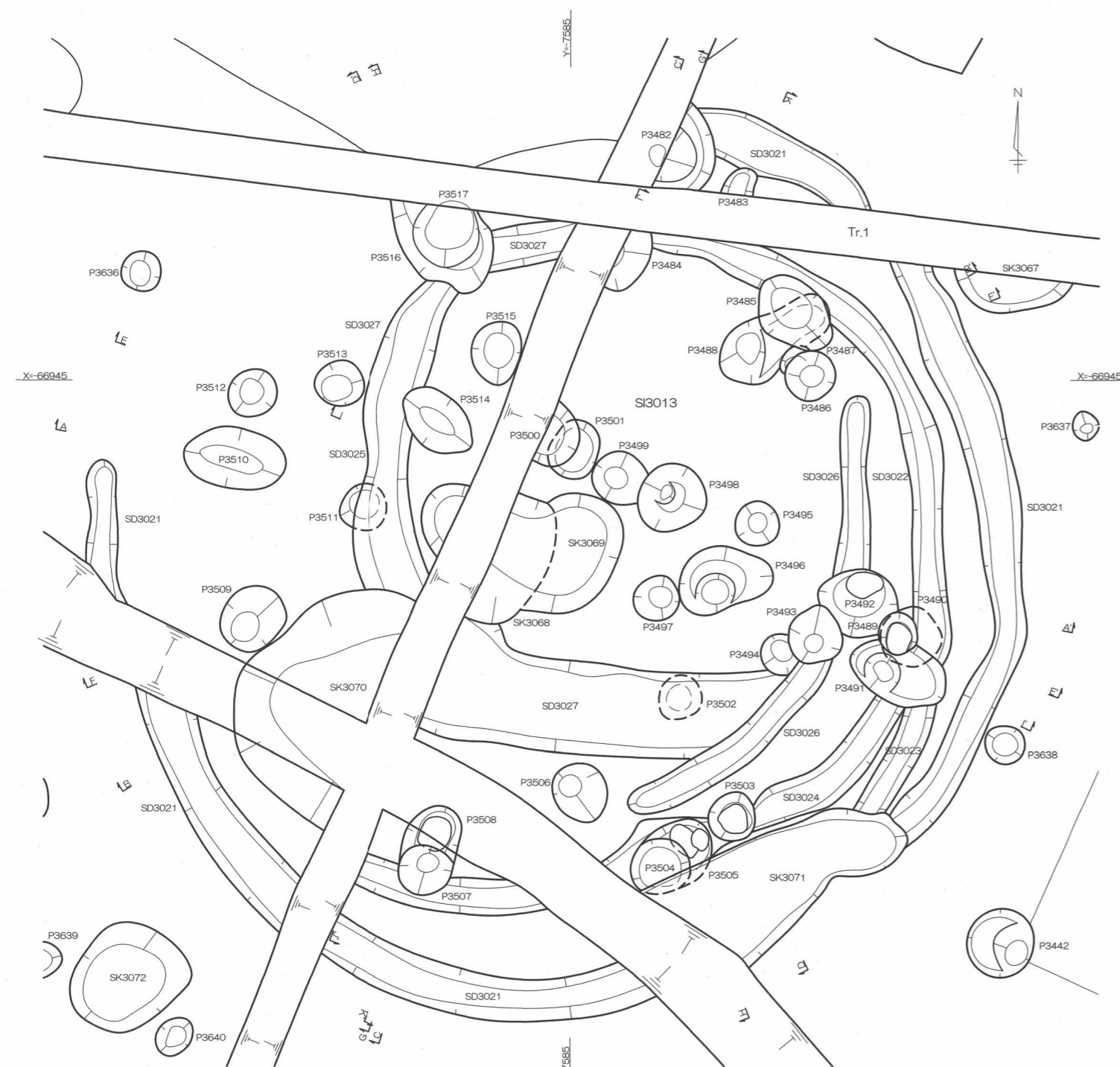


図89 SI3013遺構図1

SI3013内 東西・南北土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SI3013	1	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	攪乱、褐色砂質シルト少量、 粘性弱、締り硬質
SI3013	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	焼土粒微量、 粘性やや強い、締りあり
SI3013	3	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	焼土・炭化物微量、黒色シルト少量 酸化鉄多量、粘性弱、締り硬質
SD3027	4	7.5YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	焼土粒微量、 粘性あり、締りやや硬質
SD3024	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	黒褐色砂質シルト25%、 粘性弱、締りやや硬質
P3484	6	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂20%、砂粒多量、 粘性弱、締りやや硬質
P3484	7	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	黒色シルト30%、砂粒あり、 粘性弱、締りやや硬質
P3500	8	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂20%、砂粒多量、 粘性弱、締り硬質
P3508	9	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	黒褐色砂質シルト20%、 粘性弱、締りやや硬質
SD3021	10	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	暗褐色砂30%、砂粒多量、 粘性弱、締り硬質
SD3021	11	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	灰黄褐色砂20%、 粘性弱、締り硬質
SD3025	12	10YR4/1 褐色	砂質 シルト	黒褐色シルト少量、 粘性弱、締りやや硬質
SK3068	13	10YR4/1 褐色	砂質 シルト	焼土微量、黒褐色砂質シルト 25%、粘性あり、締りあり
SK3068	14	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト少量 粘性弱、締りやや硬質
SK3068	15	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	褐色砂質シルト少量、 粘性弱、締りやや硬質
SK3069	16	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	焼土・炭化物微量、 粘性あり、締りやや硬質
SK3069	17	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	褐色砂質シルト少量、 粘性あり、締りやや硬質
SK3069	18	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	焼土粒微量、暗褐色砂少量、 粘性あり、締りやや硬質
SK3069	19	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	焼土粒微量、暗褐色砂少量、 粘性あり、締りやや硬質
SK3069	20	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	焼土・炭化物微量、 粘性あり、締りやや硬質
SK3069	21	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	褐色砂質シルト少量、 粘性あり、締りやや硬質
SK3069	22	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	黄褐色砂40%、暗褐色砂少量 粘性あり、締りあり
SI3013	23	10YR2/3 黒褐色	砂質 シルト	黒色シルト少量、 粘性強い、締りあり
SI3013	24	10YR2/3 黒褐色	砂質 シルト	焼土粒少量、酸化鉄あり、 粘性弱、締り硬質
SI3013	25	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	粘土残骸?、黒色シルト少量、 酸化鉄多量、粘性なし、硬質
SI3013	26	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	黒色シルト少量、 粘性あり、締りやや硬質
SI3013	27	10YR2/1 黒色	シルト	黒褐色砂質シルト少量、 粘性やや弱い、締り硬質

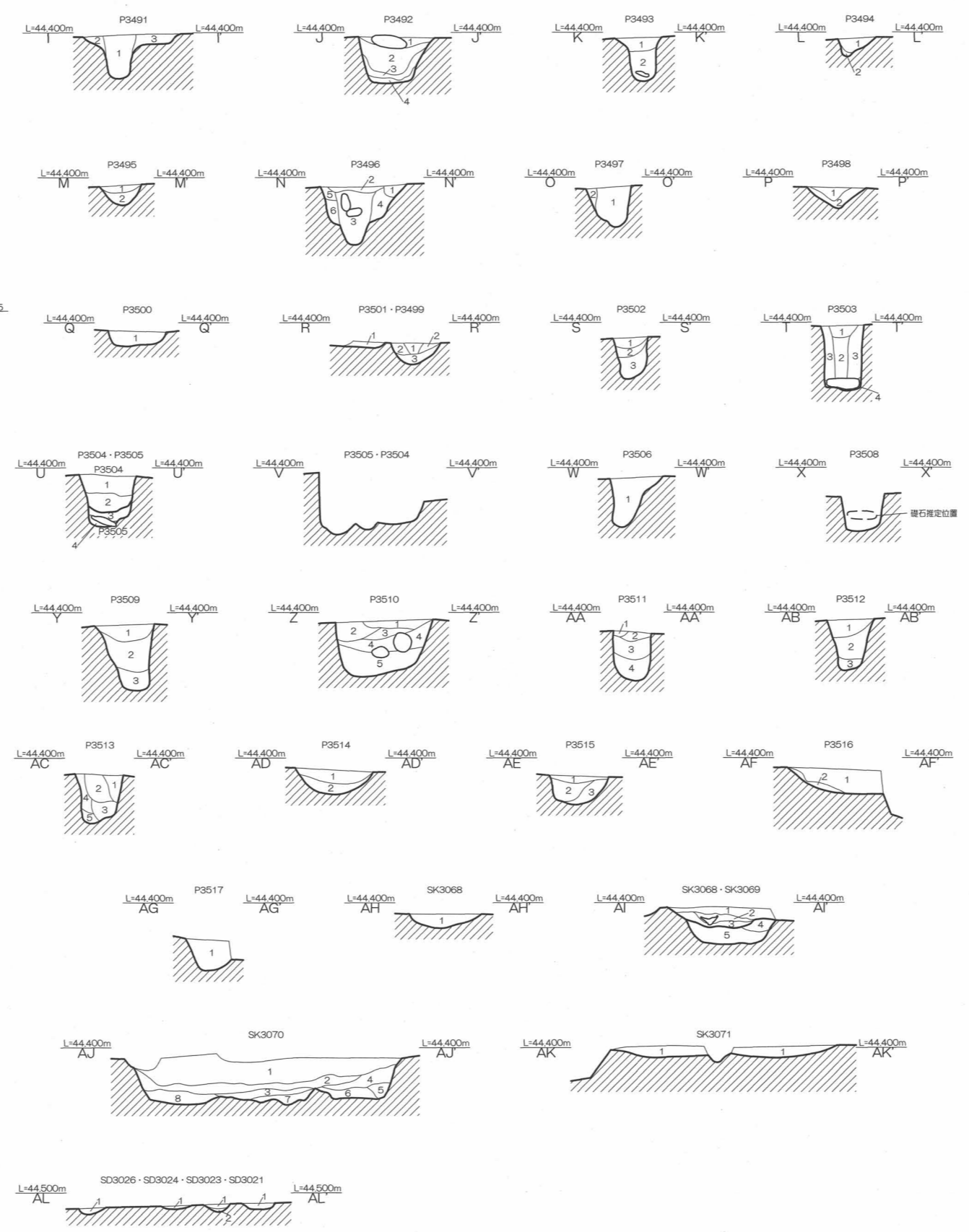
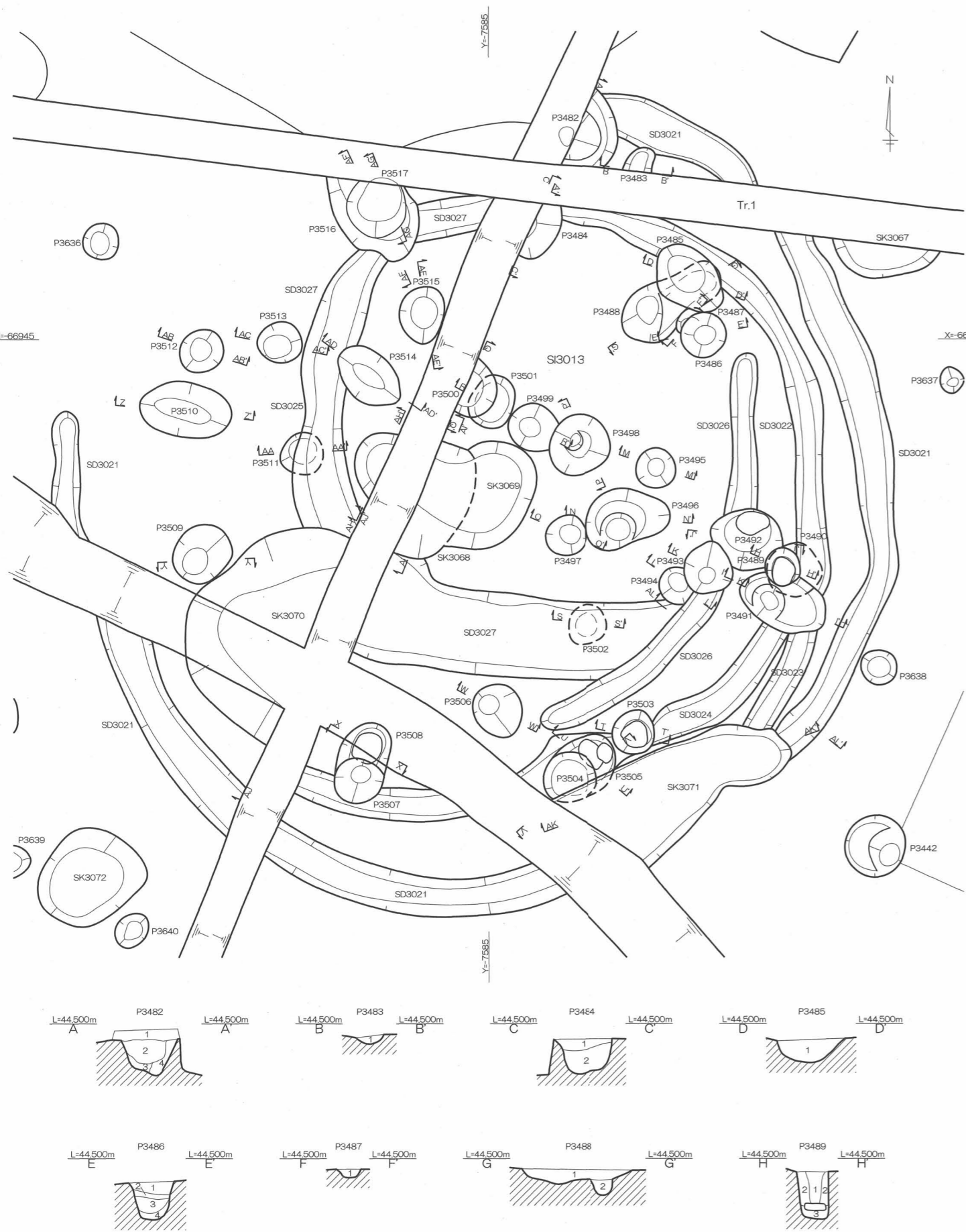


図90 SI3013遺構図2

SI3013内 ヒット・土坑・壁溝等 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3482	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	砂粒多量、 粘性弱、縮り硬質
P3482	2	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト少量、 粘性弱、縮りや硬質
P3482	3	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	暗褐色砂少量、 粘性弱、縮りや硬質
P3482	4	10YR3/3 暗褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト少量 粘性あり、縮りあり
P3483	1	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	黄褐色砂少量、黒褐色砂質 シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3484	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	灰黄褐色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りあり
P3484	2	10YR3/1 黒褐色	砂質 粘り硬質	黒色シルト少量、黒褐色砂5% 粘性あり、縮りあり
P3485	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	直径10cm大の礫あり、黒褐色 砂30%、粘性あり、縮りあり
P3486	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質 粘り硬質	酸化鉄微量含む 縮り硬質
P3486	2	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	酸化鉄微量含む 縮り硬質
P3486	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	暗褐色砂質シルト少量、 粘性弱、縮りや硬質
P3486	4	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	褐色砂質シルト少量、 縮りや硬質
P3487	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂5%、黒褐色 シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3488	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	暗褐色砂質シルト少量 粘性あり、縮りあり
P3488	2	10YR2/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	ピット状の落ち込み、 粘性あり、縮りあり
P3489	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	柱状、褐色砂質シルト少量、 粘性弱、縮りや硬質
P3489	2	10YR3/1 黒褐色	砂質 粘り硬質	黒色シルト少量、 粘性弱、縮りや硬質
P3489	3	10YR2/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	礫石あり、暗褐色砂質シルト シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3491	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	炭化物微量、黒褐色シルト少量、 シルト少量、粘性弱、縮りあり
P3491	2	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト20%、 黄褐色砂少量、粘性弱、縮りあり
P3492	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 粘り硬質	直径20cm大の礫あり、 粘性弱、縮りあり
P3492	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	暗褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
P3492	3	10YR2/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	黒色シルト少量、 粘性や強い、縮りあり
P3492	4	10YR2/1 黒色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト少量、 粘性や強い、縮りあり
P3493	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト少量、 粘性弱、縮りや硬質
P3493	2	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質 粘り硬質	直径10cm大の礫あり、酸化鉄 あり、縮りや硬質
P3494	1	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂5%、黒褐色 シルト少量、粘性弱、縮り硬質
P3494	2	10YR3/1 黒褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト多量、 粘性弱、縮り硬質
P3495	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂5%含む シルト少量、粘性弱、縮り硬質
P3495	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	酸化鉄微量、 粘性弱、縮り硬質
P3496	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト多量、 粘性弱、縮り硬質
P3496	2	10YR5/1 褐色	砂質 粘り硬質	柱状、黒褐色砂質シルト多量、 粘性弱、縮り硬質
P3496	3	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質 粘り硬質	柱状、直径20cm大の礫あり、 粘性弱、縮り硬質
P3496	4	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂5%、 粘性弱、縮りや硬質
P3496	5	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂5%、 粘性弱、縮りや硬質
P3497	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	酸化鉄微量、黒褐色砂質 シルト多量、粘性弱、縮り硬質
P3497	2	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト多量、 粘性弱、縮りや硬質
P3498	1	10YR3/1 黒褐色	砂質 粘り硬質	酸化鉄微量、 粘性弱、縮り硬質
P3498	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト少量、 粘性弱、縮りや硬質
P3499	1	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト多量、にぶい黄 褐色砂5%、粘性弱、縮りや硬質
P3499	2	10YR5/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト多量、 粘性弱、縮りや硬質
P3499	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂5%、 粘性弱、縮りや硬質

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3500	1	10YR7/4 にぶい黄褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂20%、 粘性弱、縮りや硬質
P3501	1	10YR7/4 にぶい黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト多量、 粘性弱、縮りや硬質
P3502	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂30%、 粘性弱、縮りや硬質
P3502	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	酸化鉄微量、 粘性弱、縮りや硬質
P3502	3	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂30%、 粘性弱、縮りや硬質
P3503	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	柱状、砂多量、 粘性弱、縮りや硬質
P3503	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	柱状、砂多量、酸化鉄微量、 粘性弱、縮りや硬質
P3503	3	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	褐色砂質シルト多量、 粘性あり、縮りあり
P3503	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	底面に礫石あり、 粘性や強い、縮りあり
P3504	1	10YR5/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト多量、 粘性弱、縮りや硬質
P3504	2	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	酸化鉄微量、黒褐色砂質シルト 少量、粘性弱、縮り硬質
P3504	3	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト多量、 粘性弱、縮りや硬質
P3504	4	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	礫石(直径15cm)、にぶい黄 褐色砂30%、粘性あり、縮りあり
P3506	1	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	酸化鉄微量、黒褐色砂質シルト 少量、粘性弱、縮りや硬質
P3509	1	10YR5/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト多量、 粘性弱、縮り硬質
P3509	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	酸化鉄微量、黒褐色砂質シルト 30%、粘性弱、縮り硬質
P3509	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質 粘り硬質	黒褐色シルト多量、 粘性弱、縮り硬質
P3510	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト少量 粘性弱、縮りや硬質
P3510	2	10YR5/4 砂質	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト少量 粘性弱、縮りや硬質
P3510	3	10YR5/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト少量 粘性弱、縮りや硬質
P3510	4	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	直径15cm大の礫あり、 黒褐色砂質シルト少量
P3510	5	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト20%、 粘性弱、縮りや硬質
P3511	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト20%、 粘性弱、縮りや硬質
P3511	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト20%、 シルト少量、粘性弱、縮りや硬質
P3511	3	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂15%、 褐色シルト少量、粘性弱、縮りや硬質
P3511	4	10YR3/2 黒褐色	粘土質 粘り硬質	酸化鉄微量、黒褐色砂質シルト 少量、粘性弱、縮り硬質
P3512	1	10YR5/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト20%、 粘性弱、縮り硬質
P3512	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト20%、 粘性弱、縮り硬質
P3512	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト20%、 粘性弱、縮り硬質
P3513	1	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	酸化鉄微量、黒褐色シルト 25%、粘性弱、縮り硬質
P3513	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト20%、 粘性弱、縮り硬質
P3513	3	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂30%、 粘性弱、縮りや硬質
P3513	4	10YR3/1 黒褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト40%、 粘性あり、縮りや硬質
P3513	5	10YR2/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト15%、 粘性あり、縮りや硬質
P3514	1	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	酸化鉄微量、 粘性あり、縮り硬質
P3514	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りや硬質
P3515	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト40%、 粘性あり、縮りや硬質
P3515	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト25%、 粘性あり、縮りや硬質
P3515	3	10YR3/2 黒褐色	粘土質 粘り硬質	酸化鉄微量、 粘性あり、縮りや硬質
P3516	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト30%、 粘性あり、縮りや硬質
P3516	2	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト30%、 粘性あり、縮りや硬質
P3517	1	10YR3/2 黒褐色	粘土質 粘り硬質	黒褐色シルト25%、 粘性あり、縮りや硬質

SI3013内 土坑・壁溝等 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
SK3068	1	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂15%、 褐色シルト少量、粘性弱、縮りや硬質
SK3068	2	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト少量 粘性あり、縮りあり
SK3068	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色砂質シルト少量 粘性あり、縮りあり
SK3068	4	10YR3/1 黒褐色	砂質 粘り硬質	褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
SK3069	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト少量、 粘性弱、縮りや硬質
SK3069	2	10YR5/6 黄褐色	砂質 粘り硬質	褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りや硬質
SK3070	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	炭化物微量、暗褐色酸化鉄少量、 粘性や強い、縮りや硬質
SK3070	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	粘土粒微量、 粘性や強い、縮りあり
SK3070	3	10YR2/1 黒色	砂質 粘り硬質	黒色粘土質シルト含む、 粘性強い、縮りあり
SK3070	4	10YR2/3 黒褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂ブロック10% 黒褐色シルト少量、 粘性強い、縮りあり
SK3070	5	10YR2/3 黒褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂ブロック30%、 粘性強い、縮りあり
SK3070	6	10YR1/3 黒褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂30%含む 黒褐色シルト少量、 粘性強い、縮りあり
SK3070	7	10YR2/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂30%含む 黒褐色シルト少量、 粘性強い、縮りあり
SK3071	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 粘り硬質	にぶい黄褐色砂含む 粘性強い、縮りや硬質
SD3021	1	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト少量、にぶい黄褐色 砂15%、粘性弱、縮りや硬質
SD3023	1	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト少量、にぶい黄褐色 砂15%、粘性弱、縮りや硬質
SD3023	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト少量、 粘性弱、縮りや硬質
SD3024	1	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト少量、にぶい黄褐色 砂15%、粘性弱、縮りや硬質
SD3026	1	10YR4/1 褐色	砂質 粘り硬質	黒褐色シルト少量、にぶい黄褐色 砂15%、粘性弱、縮りや硬質

体 6 点を掲載する。217 と 218 は弥生土器の甕の上半部で、いずれも口縁端部に凹線文 1 条を施す。219 は P3513 からの出土で、高坏の脚部破片であり、凹線文を 4 条以上をめぐらせた後、円形の透かし穴が穿たれる。220 と 221 は中央土坑 SK3068・SK3069 からの出土である。220 は壺の口縁部破片で、凹線文 2 条を施した後縦方向にキザミを多数入れ、円形浮文を貼り付けたものである。221 は弥生土器の甕の底部付近であり、内面のケズリが上向きに入れられている。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。出土遺物から弥生時代中期後葉に比定できる。第 3 面所属であるため、第 2 面竪穴住居址 SI3001～SI3012 より古いと考えたが、出土遺物の年代に際立った差はみられなかった。

■ SI3014(図 91、遺物図 37、遺物観察表 37、写真図版 43・73)

位置 3 区第 2 面北西側 N2・N3 グリッドに位置する。遺構確認面の標高は 44.279m である。SI3002・SI3003 に切られる。

検出状況 第 2 面の竪穴住居跡 SI3003 を完掘し、黒褐色砂質シルト層を掘り下げ、黒色シルト層(3-8 層) 上面で検出した。遺構埋土等は残っておらず、壁溝・中央土坑・ピットのみを検出である。
平面形状・規模・礎石の有無 平面形は円形で、やや隅丸方形ぎみになる。残存長軸 5.259m・短軸 4.880m を測る。断面形は浅い盤形で床面までの深さは 0.072m だけ残る。貼床は検出できない。

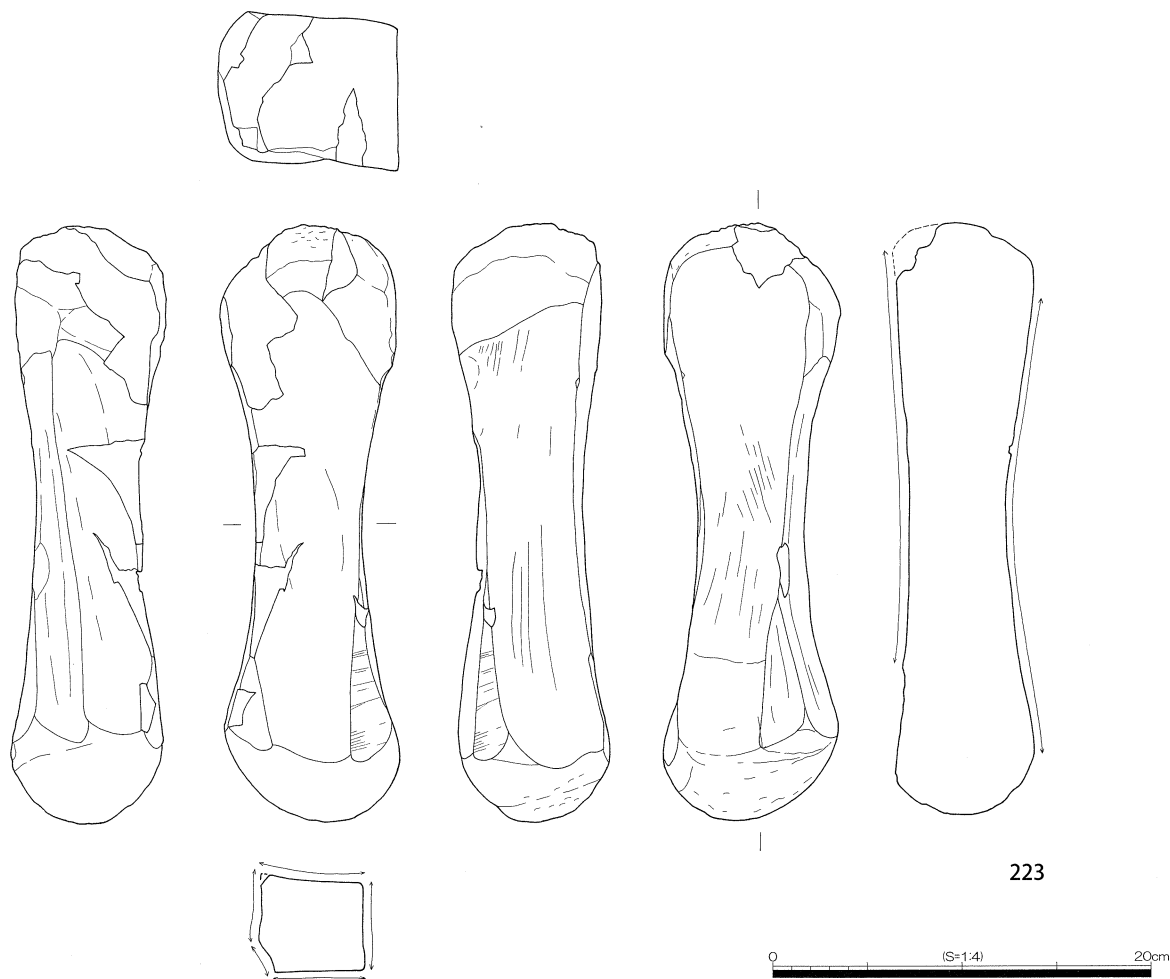
SK3060 と SK3061 は中央土坑と思われる。SK3060 が SK3061 を切り、規模は SK3060 が (0.795m × 0.680m-0.108m)、SK3061 が (残存 0.705m × 0.683m-0.114m) である。

柱穴は 6 基が確認できる。P3444-P3448、P3446-P3450、P3447-P3452 がそれぞれ対になる。規模は P3444 は (0.501m × 0.487m-0.531m)、P3448 は (0.655m × 0.510m-0.409m)、P3446 は (0.729m × 0.486m-0.191m)、P3450 は (0.475m × 0.439m-0.378m) である。P3447 は (0.487m × 0.443m-0.625m)、P3452 は (0.546m × 残存 0.419m-0.569m) である。形状は、ほとんどが平面形が円形で、断面形は U 字形もしくは円筒形を示す。P3446 のみが平面形が楕円形で断面形が有段 U 字形を示す。P3444・P3448・P3447・P3452 の 4 基が深さ 40～60cm 前後で深く掘り込まれ、P3446・P3450 がやや浅い。後者 2 基が補助柱穴的な役割を果たしていたのではないか。P3444 と P3448 のみ、礎石がある。

柱穴埋土 遺構内埋土は黒褐色砂質シルトを主体とする。暗褐色砂を少量含み、炭化物を微量含む。柱穴埋土は、非常に深く掘り込まれている関係で、基盤層由来の黄褐色砂ブロック、暗褐色砂質シルトを含むものが多い。

遺物出土状況 埋土中・ピット内・壁溝内から土器片 12 点・石器 1 点、他に被熱により割れた礫が数点出土した。土器片のうち 2 点が弥生土器の甕の口縁部である。石器 1 点を掲載する。223 は床面直上からの出土であり、被熱により 7 点以上の破片に割れて埋没していた。砂岩製の砥石で、直方体の側面 4 面すべてが著しく磨耗している。部分的に筋状の擦痕が見られる。刃こぼれ調整痕か。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。埋土に炭化物を含むことや砥石の出土状況から、焼失住居であった可能性がある。遺物が少なく細かい年代はわからないが、弥生時代中期中葉にさかのぼる資料はなく、SI3003 同様中期後葉と思われる。



223

遺物図37 SI3014出土遺物

遺物観察表 37

遺物番号	調査区	遺構番号 (調査番号)	遺物図 番号	図版 番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
223	3	SI3014 (3860)	37	73	石器 砥石	長さ:31.7 幅:9.55 厚さ:8.5 重さ:2709	角柱形、断面は方形 砥面4面・擦面4面 1擦面・角2方向に横方向の鋭利な筋状の砥ぎ痕あり	砂岩(古期)	灰黄褐・にぶい 黄橙	

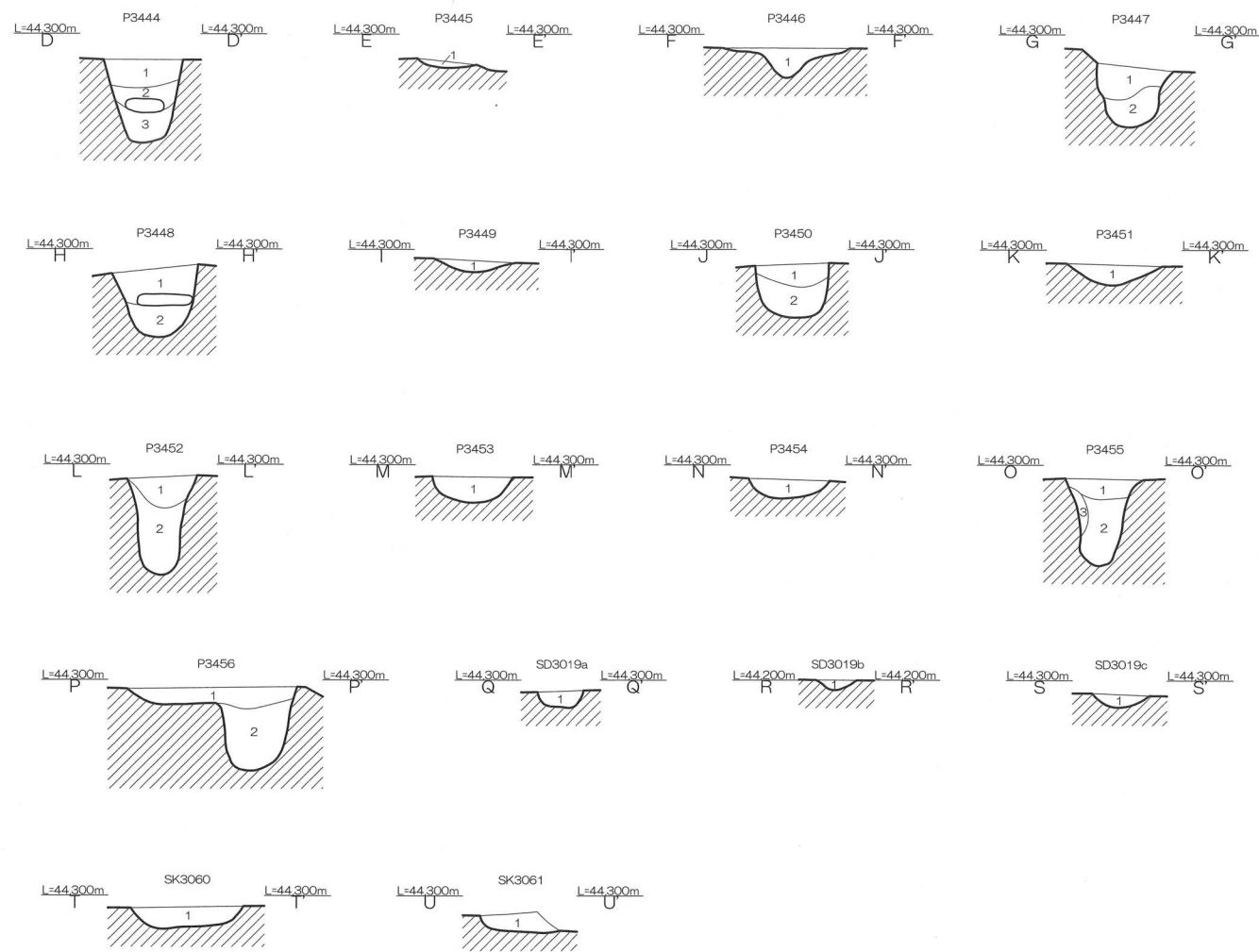
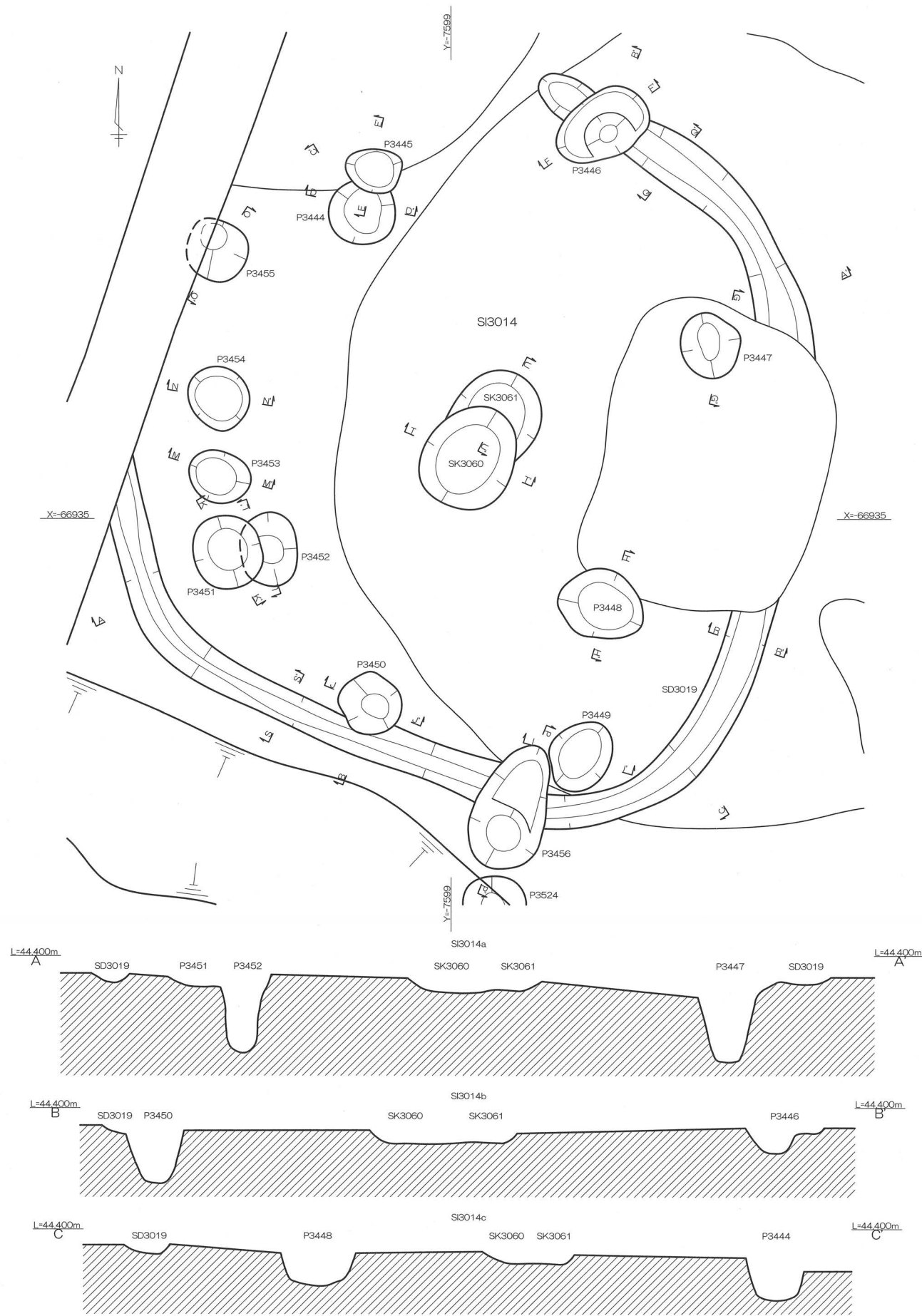
■ SI3015(図 92-1・92-2、遺物図 38、遺物観察表 38、写真図版 44・73)

位置 3区第3面北西N4・N5グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.444mである。第2面SI3006の北側に位置し、SI3006がSI3015の南側端部を切る。暗渠排水に切られる。

検出状況 第2面遺構検出面上には厚さ1～5cmの黒褐色砂質シルト層が広がっている。この層が弥生時代後期以降の洪水性の堆積層の一つと思われ、この層で覆われているため住居プランが検出できないでいた。基本層序3-7層の黒色シルト層面を検出し、慎重に精査して、ようやく竪穴住居跡の壁溝が浅く環状にめぐることを確認した。

平面形状・規模 平面形は円形である。長軸7.073m・短軸6.917mを測る。貼床面及び床面は黒褐色砂質シルト層によって削られ消失している。断面形は浅い盤形で、深さは0.054mが残る。壁溝は5cm程度遺存する。

中央土坑1基・土坑2基・ピット25基が検出された。ピットのうち柱痕状の痕跡を有するものは14基を数える。各ピットの規模は3区遺構一覧表の表10～20で示す。このうち、6基が支柱穴と思われる。エレベーション図A-A'で示したP3478とP3464、B-B'のP3457とP3466、C-C'のP3459とP3476が、SI3015の支柱穴であろう。

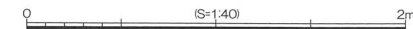


SI3014 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3444	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3444	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	礎石あり、黒色シルト少量、粘性やや弱、縮りあり
P3444	3	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	礎石下埋土、暗褐色砂少量、粘性やや強い、縮りあり
P3445	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	黒褐色シルト微量、粘性あり、縮りあり
P3446	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、粘性やや強い、縮りあり
P3447	1	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト15%、粘性あり、縮りあり
P3447	2	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト25%、粘性あり、縮りあり
P3448	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	礎石あり、黒褐色砂質シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3448	2	2.5Y3/3 暗オリーブ褐色	砂質シルト	礎石下埋土、黒褐色砂質シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3449	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂30%、粘性あり、縮りあり
P3450	1	10YR6/2 灰黄褐色	砂質シルト	暗褐色砂質シルト少量、粘性あり、縮りやや硬質
P3450	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、粘性あり、縮りやや硬質
P3451	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、粘性あり、縮りあり

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3452	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト少量、粘性やや弱い、縮りあり
P3452	2	10YR2/1 黒色	砂質シルト	直径5cm大の礫あり、粘性あり、縮りあり
P3453	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂15%、粘性弱、縮りやや硬質
P3454	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂15%、粘性弱、縮りやや硬質
P3455	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、粘性やや弱、縮りあり
P3455	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト30%、粘性やや弱、縮りあり
P3455	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	褐灰色砂質シルト20%、粘性やや弱、縮りあり
P3456	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂15%、粘性弱、縮りやや硬質
P3456	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質シルト	黒褐色砂質シルト20%、粘性あり、縮りあり
SD3019a	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂15%、黒褐色シルト微量、やや硬質
SD3019b	2	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂15%、黒褐色シルト微量、やや硬質
SD3019c	3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂15%、粘性やや弱い、縮りやや硬質
SK3060	1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂10%、黒褐色シルト少量、縮りやや硬質
SK3061	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	にぶい黄褐色砂10%、黒褐色シルト少量、縮りやや硬質

図91 SI3014遺構図



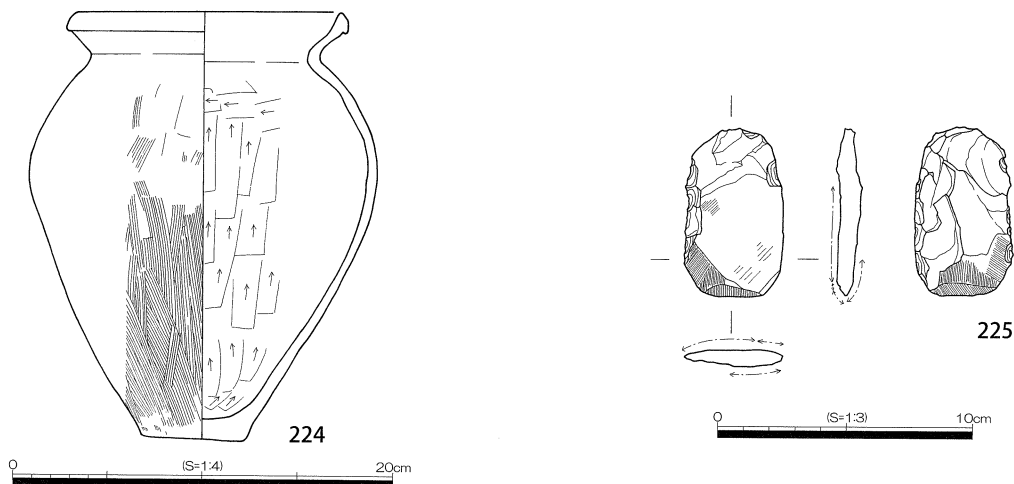
SI3015 は、完掘状態で見る限り、円形住居で壁溝が1条めぐり、6基の主柱穴を有し、住居のほぼ中心に中央土坑を備え、中央土坑の両脇に小ピットを備えるという、いわゆる「松菊里型^{しょうきくり}型竪穴住居」の様相を呈する。「松菊里型竪穴住居」は、韓国忠清南道の松菊里遺跡の竪穴住居跡を指標とするもので、日本では弥生時代中期前葉頃の北部九州を中心に日本列島各地に広がりを持ち、円形住居の祖形の一つとされる。3区の集落の存続時期は、出土遺物から弥生時代中期後葉を中心としており、「松菊里型竪穴住居」が構築されるには時代が下りすぎる感がある。ただし、これまでの出土事例で見ると、この住居の末限については、「中国地方、近畿地方では弥生時代終末期（一部の地域では古墳時代前期）まで根強く^{註2}営まれ」とされ、時期的・地域的に矛盾するわけではない。当該地ではこの住居跡以外に中央土坑両脇に小ピットを備えるタイプのものは確認できず、これ1棟のみである。ここでは「松菊里型竪穴住居」の可能性を指摘するにとどめておく。中央土坑脇のピットについてはP3481とP3469以外にもP3481とP3468・P3469の組み合わせも考えられる。

柱穴埋土・礎石の有無 各柱穴掘方の埋土は、直上に堆積していた黒褐色砂質シルト層とその上層にあった暗褐色砂層とが混合した状態のものが多い。礎石の確認できるものはない。

遺物出土状況 SI3015住居範囲内の埋土中・壁溝内・ピット内から土器片63点が出土した。このうち4点が弥生土器の甕の口縁部破片である。P3465出土の小型の甕(224)が唯一の個体別資料であり、時代は弥生時代中期であろう。また、壁溝SD3020を切るSK3077から1点有孔土製円盤が出土している。実測図は2点掲載する。224は弥生土器の小型の甕である。P3465内に天地逆で埋没していた。口縁端部は玉縁状で凹線はない。225は粘板岩製の石斧である。

遺構の性格と帰属時期 竪穴住居跡である。第3面所属であり、第2面所属の住居跡にくらべて古いと思われるが、出土遺物からは弥生時代中期中葉にまでさかのぼる資料はなく、弥生時代中期後葉に帰属すると思われる。

註2 蔭山誠一 1997「松菊里型(系)竪穴住居」『埋蔵文化財愛知 no.55』財団法人愛知県埋蔵文化財センター



遺物図38 SI3015出土遺物

遺物観察表 38

遺物番号	調査区	遺構番号(調査番号)	遺物図番号	図版番号	種別 器種	法量(cm/g)	特徴	胎土/材質	焼成 色調	備考
224	3	P3465 (4023)	38	73	弥生土器 甕	口径:13.8 器高:22.7 最大径:18.2 底径:5.4	外面:口縁部~頸部ナデ、体部上半ケズリ後ナデ、 体部下半ハケ、底部ナデ 内面:口縁部ナデ、体部~底部ケズリ	普通 ~0.5mmの砂粒、 少ない	やや良好 外面:橙 内面:橙	外面煤付着
225	3	P3467 (4002)	38	73	石器 石斧	長さ:6.7 幅:3.8 厚さ:0.9 重さ:27.4	磨製、刃部を中心に研磨痕あり 両側縁に細かい剝離痕あり 両刃	粘板岩	灰	

SI3015内 ビット・土坑等 土層観察表

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3457	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	柱痕上埋土、 粘性弱、縮りやや硬質
P3457	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	柱痕、暗褐色砂質シルト少量、 粘性弱、縮りやや硬質
P3457	3	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	黒色砂質シルト少量 粘性弱、縮りあり
P3457	4	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト多量、 粘性弱、縮りあり
P3458	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	柱痕、灰黄褐色砂10%、 粘性弱、縮りあり
P3458	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	にぶい黄褐色砂5%、灰黄褐色砂 質シルト少量、粘性あり、縮りあり
P3458	3	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	褐灰色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りあり
P3459	1	10YR4/3 にぶい黄褐色	砂質 シルト	柱痕上埋土、砂粒多量、 粘性弱、縮りやや硬質
P3459	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	柱痕、にぶい黄褐色砂30%、 粘性弱、縮りやや硬質
P3459	3	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト10%、 粘性あり、縮りやや硬質
P3459	4	10YR3/2 黒色	シルト	暗褐色砂(漸移層由来)、 粘性なし、縮り硬質
P3460	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 シルト	黒褐色砂15%、 粘性あり、縮りあり
P3461	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂少量、 粘性弱、縮りやや硬質
P3462	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色、にぶい黄褐色砂15%、 炭化物微量、粘性弱、縮りあり
P3462	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粘性あり、縮りやや硬質
P3463	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂少量、 粘性弱、縮りやや硬質
P3464	1	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	柱痕上埋土、粘性弱、縮り硬質
P3464	2	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	柱痕上埋土、黒褐色シルト少量 粘性やや弱い、縮りやや硬質
P3464	3	10YR2/3 黒褐色	砂質 シルト	明黄褐色砂微量、 粘性あり、縮りあり
P3464	4	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	暗褐色砂少量、 粘性あり、縮りやや硬質
P3464	5	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	明黄褐色砂30%、 粘性あり、縮りやや硬質
P3465	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	弥生土器埋出土、黒褐色シルト 30%、粘性あり、縮りやや硬質
P3465	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	黒色味強い、暗褐色砂少量、 粘性やや強い、縮りあり
P3466	1	7.5YR4/3 褐色	砂・砂質 シルト	柱痕、灰黄褐色砂10%、暗褐色 シルト10%、粘性弱、縮り硬質
P3466	2	7.5YR4/3 褐色	砂・砂質 シルト	柱痕、褐灰色砂質シルト 粘性弱、縮り硬質
P3466	3	10YR2/3 黒褐色	砂質 シルト	柱痕、浅黄褐色砂15% 粘性あり、縮りあり
P3466	4	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	褐色砂15%、粘性あり、縮りあり
P3466	5	10YR2/3 黒褐色	砂質 シルト	明黄褐色砂(基盤層由来)30% 粘性あり、縮り硬質
P3467	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質 シルト	黒褐色砂5%、 粘性あり、縮りあり
P3467	2	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	粘性あり、縮りあり
P3468	1	10YR4/1 褐灰色	砂質 シルト	柱痕、明黄褐色砂微量 粘性弱、縮りあり
P3468	2	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	柱痕、明黄褐色砂粒5%、褐灰色 砂質シルト30%、縮りあり
P3468	3	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	柱痕、褐灰色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
P3468	4	10YR4/1 褐灰色	砂質 シルト	柱痕、明黄褐色砂微量 粘性弱、縮りあり
P3468	5	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	柱痕、明黄褐色砂粒3%、褐灰色 砂質シルト30%、縮りあり
P3468	6	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	柱痕、褐灰色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
P3468	7	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	シルト多量、粘性あり、縮りあり
P3469	1	10YR2/3 黒褐色	砂質 シルト	明黄褐色砂30%、 粘性あり、縮りあり
P3470	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	柱痕、褐灰色砂質シルト20%、 粘性弱、縮りやや硬質
P3470	2	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	柱痕、灰黄褐色砂質シルト10%、 粘性弱、縮りやや硬質
P3470	3	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト20%、 砂粒少量、粘性あり、縮りあり
P3470	4	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	明黄褐色砂(基盤層由来)30%、 粘性あり、縮りやや硬質
P3471	1	10YR4/1 褐灰色	砂質 シルト	灰白色砂10%、 粘性弱、縮りやや硬質

遺構番号	層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
P3472	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	柱痕、にぶい黄褐色砂20%、 粘性弱、縮りあり
P3472	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	柱痕、暗褐色砂質シルト30%、 粘性弱、縮りあり
P3472	3	10YR3/1 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂微量、粘性・縮りあり
P3472	4	10YR2/3 黒褐色	砂質 シルト	明黄褐色砂(基盤層由来)30%、 粘性あり、縮りやや硬質
P3473	1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質 シルト	柱痕、褐灰色砂質シルト20%、 粘性あり、縮りやや硬質
P3473	2	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	柱痕、褐灰色砂質シルト20%、 縮りやや硬質
P3473	3	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	明黄褐色砂30% 粘性なし、縮り硬質
P3473	4	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	明黄褐色砂30%、 粘性なし、縮り硬質
P3474	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	黒褐色シルト少量、 粘性弱、縮りあり
P3475	1	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂30%、シルト少量、 粘性弱、縮りやや硬質
P3476	1	10YR4/1 褐灰色	砂質 シルト	柱痕、灰黄褐色砂20%、 粘性弱、縮りやや硬質
P3476	2	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	柱痕、灰黄褐色砂20%、 粘性弱、縮りやや硬質
P3476	3	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	柱痕、黒色シルト30%、明黄褐色 砂微量、粘性弱、縮りやや硬質
P3476	4	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	褐灰色砂質シルト少量 粘性あり、縮りあり
P3476	5	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	黒褐色シルト10%、 粘性あり、縮りあり
P3476	6	10YR2/1 黒色	シルト	明黄褐色砂(基盤層由来)30%、 粘性あり、縮りやや硬質
P3477	1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質 シルト	柱痕上埋土、炭化物微量、 暗褐色砂少量、粘性弱、縮りあり
P3477	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	柱痕上埋土、黄褐色砂少量、 粘性あり、縮りあり
P3477	3	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	柱痕上埋土、暗褐色砂質シルト 少量、粘性あり、縮りあり
P3477	4	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	柱痕、にぶい黄褐色砂5%、 粘性やや強い、縮りあり
P3477	5	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	にぶい黄褐色砂30%、 粘性やや強い、縮りあり
P3478	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	柱痕、灰黄褐色砂質シルト20%、 粘性弱、縮りやや硬質
P3478	2	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	柱痕、黒褐色砂質シルト微量、 粘性弱、縮りやや硬質
P3478	3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	暗褐色砂少量、粘性・縮りあり
P3478	4	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	灰黄褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
P3478	5	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト微量、 粘性あり、縮りあり
P3478	6	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂質シルト40%、 粘性あり、縮りやや硬質
P3478	7	10YR2/2 黒褐色	砂質シルト	黄褐色砂微量、粘性・縮りあり
P3479	1	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	明黄褐色砂15%、粘性・縮りあり
P3479	2	10YR3/1 黒褐色	砂質 シルト	黒色シルト10%、明黄褐色砂 15%、粘性あり、縮りあり
P3480	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	灰黄褐色砂質シルト少量、 粘性あり、縮りあり
P3480	2	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	灰黄褐色砂質シルト少量、黒褐 色砂30%、粘性あり、縮りあり
P3481	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	柱痕、褐灰色砂質シルト少量、 粘性弱、縮りやや硬質
P3481	2	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	褐灰色砂質シルト20% 粘性弱、縮りやや硬質
P3481	3	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂25%、明黄褐色砂5% 粘性あり、縮りあり
P3481	4	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	明黄褐色砂10% 粘性あり、縮りやや硬質
P3481	5	10YR2/1 黒色	砂質 シルト	明黄褐色砂(基盤層由来)5% 粘性あり、縮りやや硬質
SD3020a	1	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	灰黄褐色砂・暗褐色砂15% 粘性弱、縮り硬質
SD3020b	2	10YR3/3 暗褐色	砂質 シルト	灰黄褐色砂・暗褐色砂10% 粘性弱、縮り硬質
SK3075	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	暗褐色砂25% 粘性弱、縮りやや硬質
SK3075	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	暗褐色砂少量 粘性弱、縮りやや硬質
SK3076 中央土坑	1	10YR3/2 黒褐色	砂	直径21cm大の礫あり、褐色砂 粘性あり、縮り硬質
SK3076 中央土坑	2	10YR3/2 黒褐色	砂質 シルト	粘性あり、縮りやや硬質
SK3076 中央土坑	3	10YR2/2 黒褐色	砂質 シルト	黒色シルト少量、 粘性あり、縮りやや硬質
SK3077	1	10YR4/2 灰黄褐色	砂質 シルト	黒褐色砂15% 粘性あり、縮りあり

図92-1 SI3015遺構図

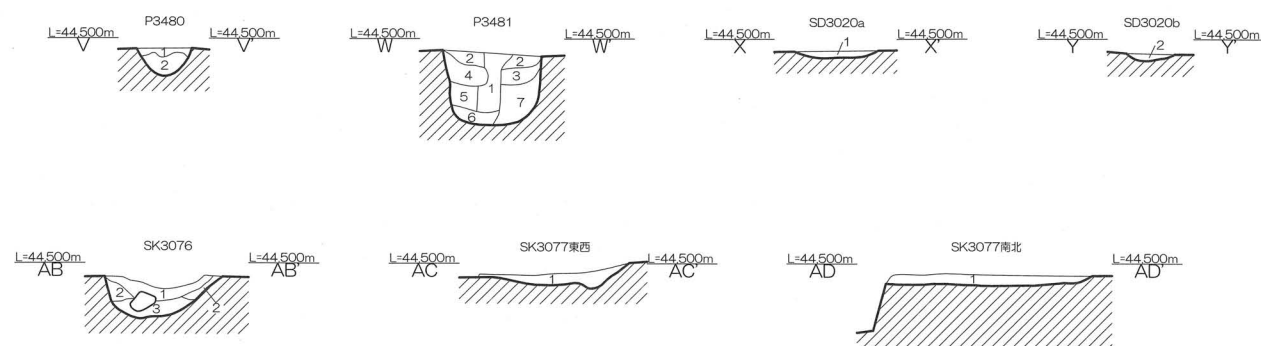
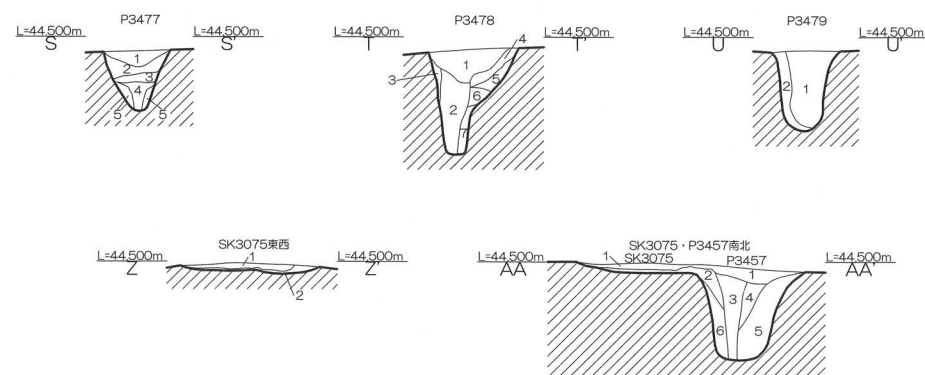
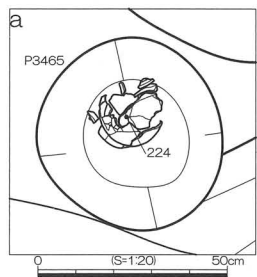
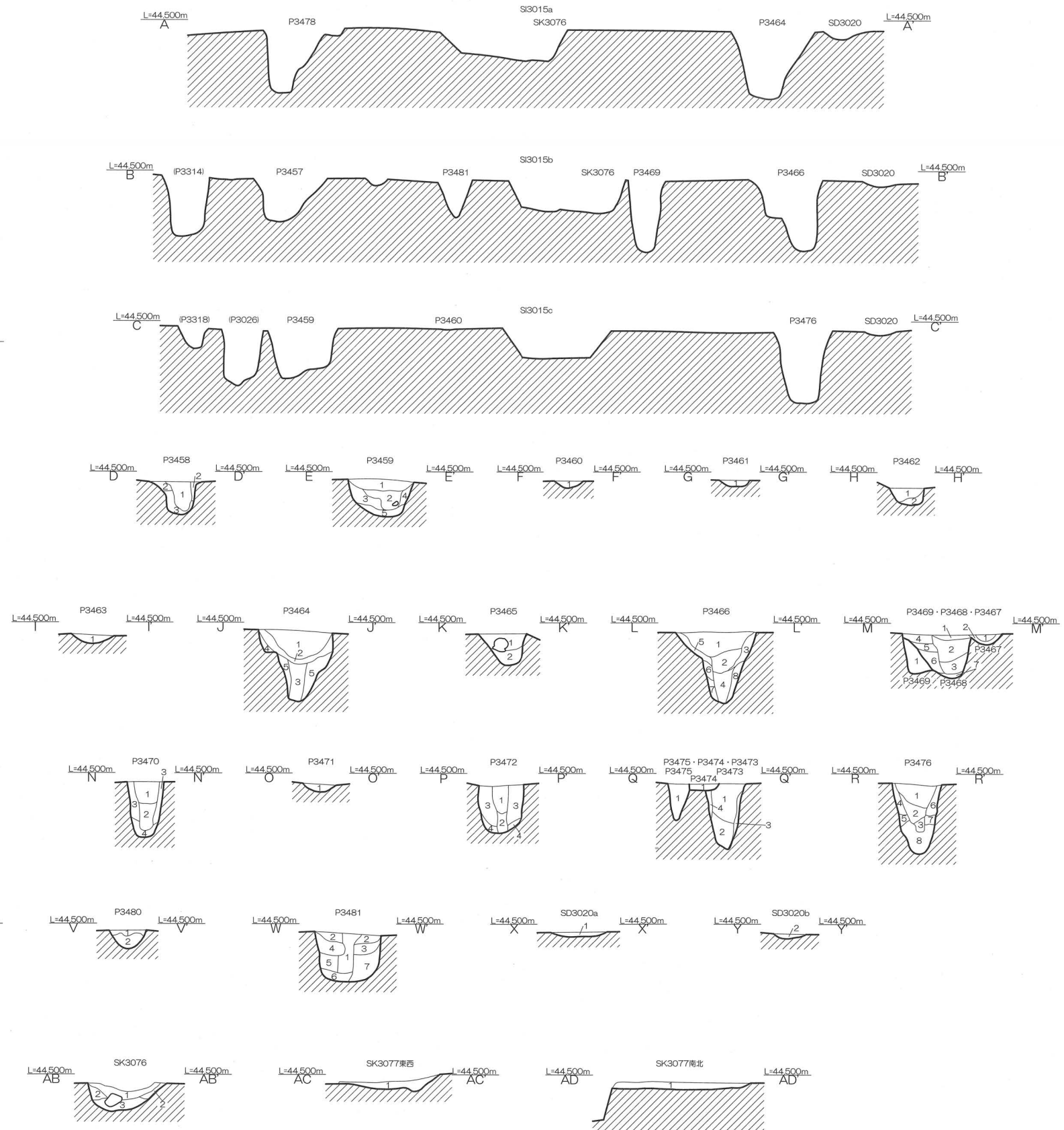
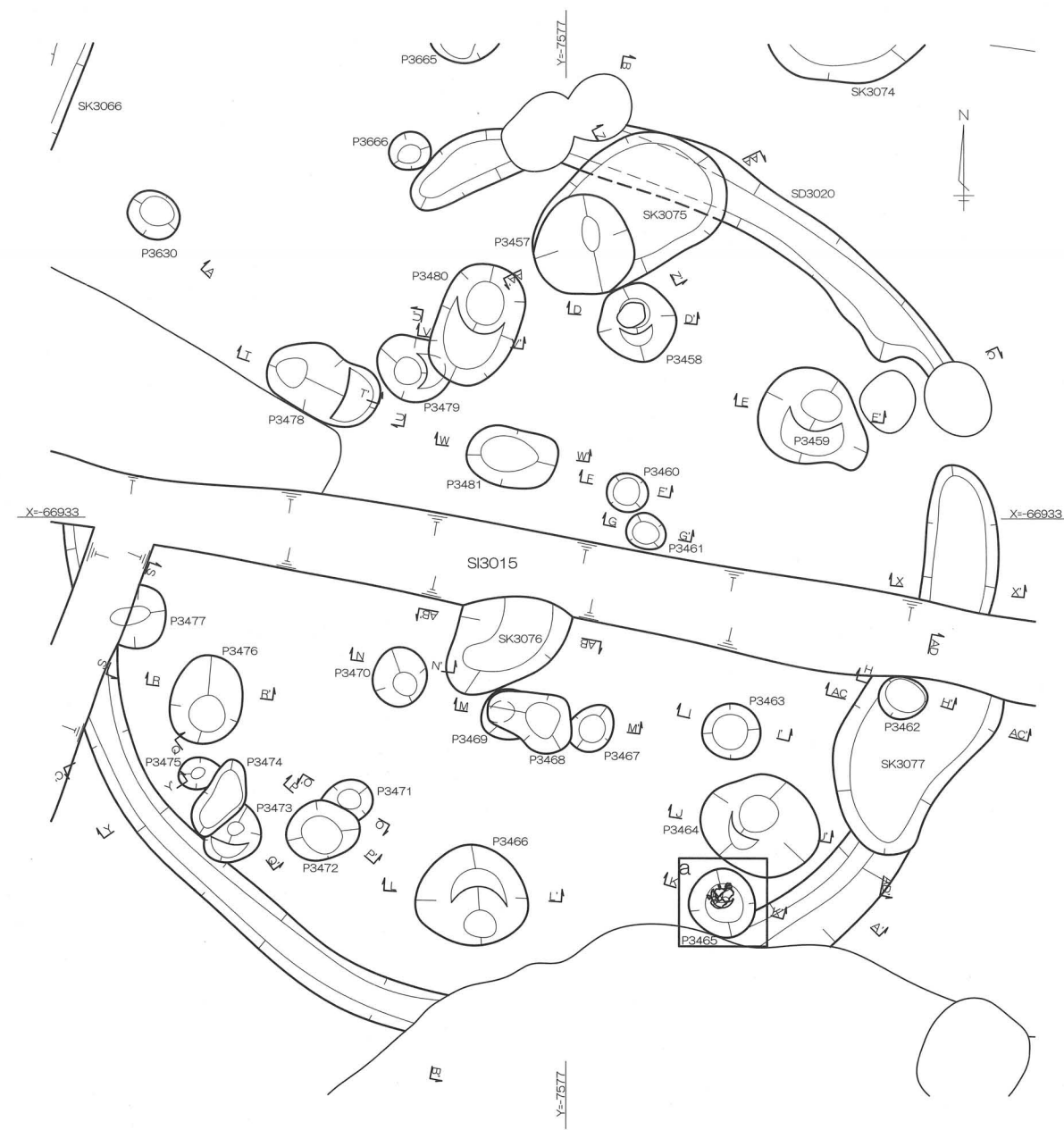
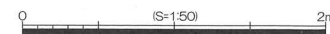
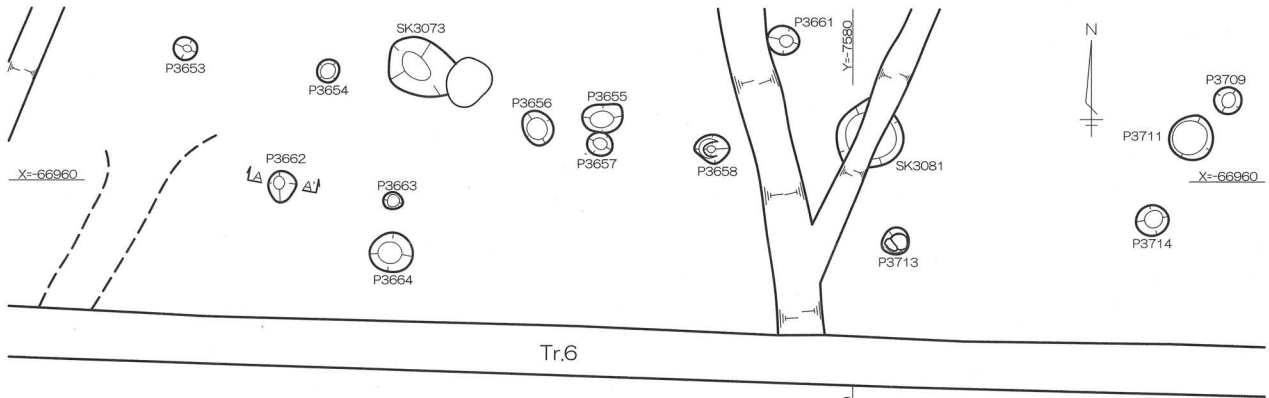


图92-2 SI3015遺構図





■ P3662(図 93、写真図版 40)

位置 第3面南西側のP4・Q4グリッドに位置する。遺構確認面の標高は44.170mである。

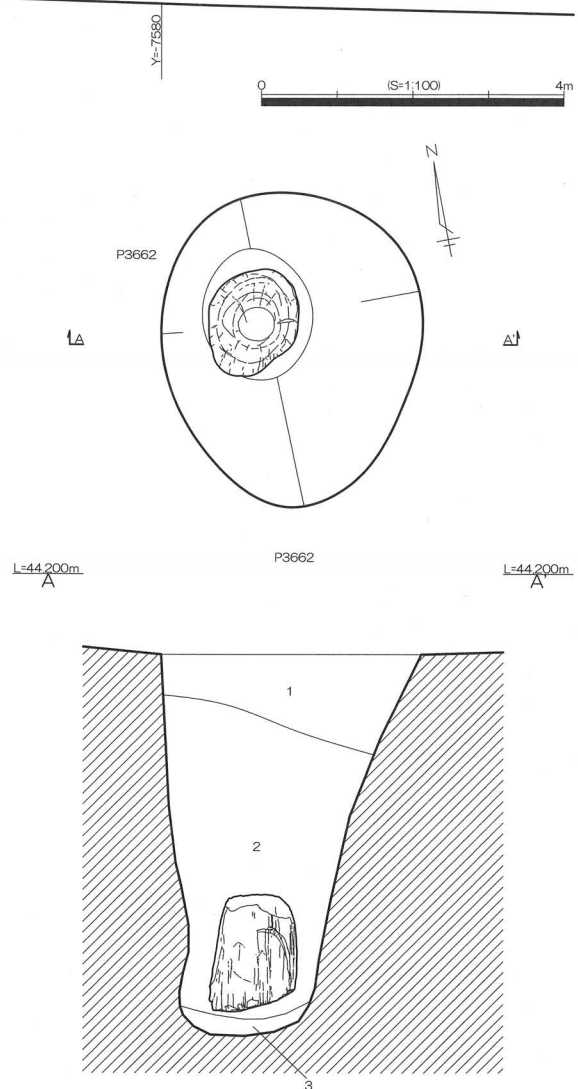
検出状況 にぶい黄褐色砂層と黒褐色砂質シルト層を除去し、黒色土層(3-8層)上面で検出された。底面直上には柱根が残っており、樹種同定の結果クリであることがわかった。年代は放射性炭素年代測定によって、現代から2100年前頃の弥生中期とわかった。周辺区域を5m×6mの規模で面下げて関連ピットがないか確認作業をおこなったが、この柱とセット関係になる遺構は見つけれなかった。酸化鉄集中が畦畔状に残される地点があり、耕作地の隅に立てられていた可能性はあるが、確定的とはいえない。

平面形状・規模 平面形は楕円形で、長軸0.416m・短軸0.369mを測る。断面形は深いU字形で、確認面からの遺構底面までの深さは0.498mである。壁面調整の状態は確認できない。柱根の残存規模は、残存高15.5cm・残存最大径14.9cmを測る。

埋土 柱根の上層は灰黄褐色砂質シルト主体で砂粒を多く含む。柱根の下層は黒褐色粘土質シルト主体層で粘性が強い。

遺物出土状況 柱根以外に遺物は出土していない。

遺構の性格と帰属時期 クリ材を用いた柱穴である。年代は、出土した柱根の放射性炭素年代測定と暦年校正の結果、B.C.110年±30年の年代が示された。この時期は弥生時代土器編年でみるなら、畿内IV期・吉備III期の平行期と考えられる。当該地の弥生中期後葉の土器群の年代と矛盾せず、同時期のものと思われる。(第2章第1節参照)



P3662 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等
1	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	褐色砂少量、酸化鉄沈着、砂粒多い、粘性弱、縮りあり
2	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	柱根残存、明黄褐色砂20%、粘性やや強い、縮りあり
3	10YR3/2 黒褐色	粘土質シルト	褐灰色粘土質シルト10%、粘性やや強い、縮りあり

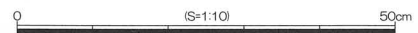


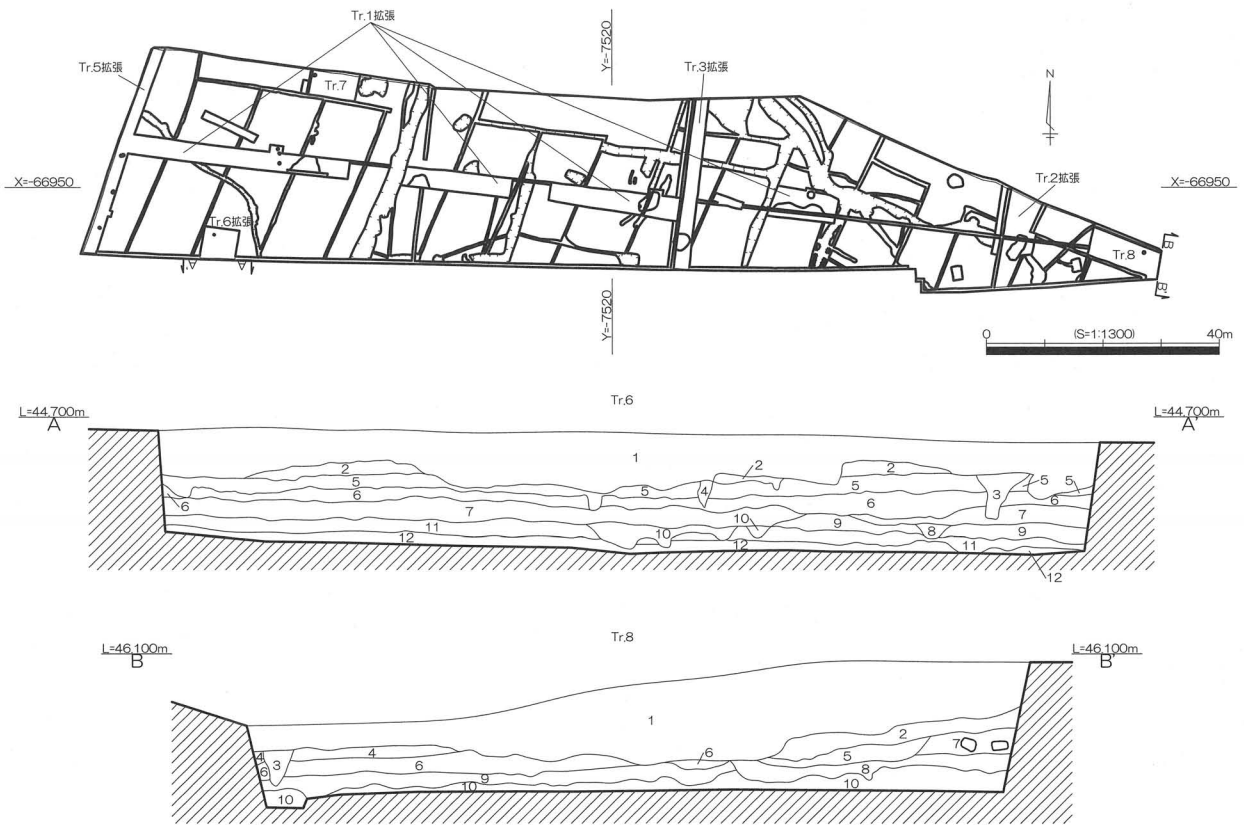
図93 P3662遺構図

第6項 3区 第4面 遺構と遺物 (図94、写真図版45)

黒色土層(3-8層)の残っている箇所、何らかの遺構が残っている可能性が比較的高い箇所について、トレンチを設定して面下げをおこない、見落としの遺構がないかどうか確認した。

Tr.1 拡張を3箇所でおこない、Tr.2 拡張・Tr.3 拡張・Tr.5 拡張・Tr.6 拡張と、新たに Tr.7・Tr.8 を掘削して、遺構確認と調査をおこなった。

調査の結果、ピット 11 基・土坑 1 基・落ち込み 3 箇所・倒木痕 3 箇所が確認された。土坑 1 基は礫の集中する落ち込みで、ピットのほとんどは根跡と3面から掘りぬいたピットの最深部の残りである。



3区 Tr.6南壁 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等	基本 層序
1	10YR4/1 褐灰色	砂質シルト	現表土及び圃場整備の盛土・整地層、径10cm以下の円礫多数、粘性あり、縮りやや軟質	3-1層
2	10YR5/1 褐灰色	砂質シルト	圃場整備より前の耕作土、礫少量、粘性あり、縮りあり	3-2層
3	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	ピット埋土、暗褐色砂少量、粘性あり、縮りやや軟質	
4	10YR5/2 灰黄褐色	砂質シルト	杭穴埋土、粘性あり、縮りやや軟質	
5	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂	褐灰色砂質シルト30%、粘性やや弱い、縮りやや軟質	3-4層
6	10YR5/1 褐灰色	シルト	にぶい黄褐色砂30%、粘性やや弱い、縮りやや軟質	3-6層
7	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	黒色土層、黒色粘土質シルト20%、粘性やや強い、縮りやや軟質	3-8層
8	10YR3/3 暗褐色	砂質シルト	落ち込み、黒褐色砂質シルト20%、粘性あり、縮りあり	
9	10YR3/3 暗褐色	シルト	一部畦畔状、にぶい黄褐色砂30%、酸化鉄沈着、粘性あり、縮りあり	
10	10YR4/2 灰黄褐色	シルト	根跡、黒褐色砂質シルト40%、粘性あり、縮りあり	
11	10YR5/2 灰黄褐色	粘土質シルト	漸移層、粘性強い、縮りあり	3-9層
12	10YR4/3 にぶい黄褐色	粘土	基盤層、粘性強い、縮りあり	3-10層

3区 Tr.8東壁 土層観察表

層番号	JIS notation 土色名	土性	混入物等	基本 層序
1	10YR5/3 にぶい黄褐色	砂質シルト	現表土及び圃場整備の盛土・整地層、径10cm以下の円礫多数、粘性あり、縮りやや軟質	3-1層
2	10YR3/1 黒色	シルト	暗灰黄色砂質シルト20%、粘性あり、縮りあり	3-8層 相当
3	10YR3/2 黒褐色	砂質シルト	ピット埋土、褐灰色砂質シルト30%、粘性あり、縮りあり	
4	10YR3/2 黒褐色	シルト	褐灰色砂質シルト少量、暗褐色砂質シルト混在、粘性あり、縮りやや軟質	3-8層 相当
5	10YR3/2 黒褐色	シルト	暗褐色砂質シルト混在、粘性やや弱い、縮りやや軟質	3-8層 相当
6	10YR3/2 黒褐色	シルト	暗褐色砂質シルト少量、粘性あり、縮りあり	3-8層 相当
7	10YR3/3 暗褐色	シルト	直径12cm大の礫あり、黒褐色シルト少量、粘性やや弱い、縮りやや硬質	3-9層
8	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	にぶい黄褐色砂30%、粘性あり、縮りあり	3-9層
9	10YR6/3 にぶい黄褐色	シルト	漸移層、灰黄褐色砂40%、粘性あり、縮りやや硬質	3-9層
10	10YR7/3 にぶい黄褐色	シルト	基盤層、にぶい黄褐色砂質シルト10%、粘性弱、縮り硬質	3-10層

図94 3区 Tr.6・Tr.8セクション図

第7項 3区 遺構外出土石器 (図95・96、遺物図39～41、遺物観察表39～41-2、巻頭図版6・7、写真図版27・73～76)

3区では耕作土及び遺物包含層中から多数の石器類が出土した。石包丁・石鋤・石槍等が多く、多くが弥生時代のものと思われる。出土地点は、遺構外の暗褐色砂層内・黄灰色砂層・攪乱・耕作土中である。基本層序に対応させると、攪乱：3-1層、耕作土：3-1層・3-2層、暗褐色砂層：3-3層、黄灰色砂層：3-4層となる。石器についての概要は、遺物観察表39～41-2及び「第3章 総括」の「第3節 奈免羅・西の前遺跡出土石器の様相」を参照。

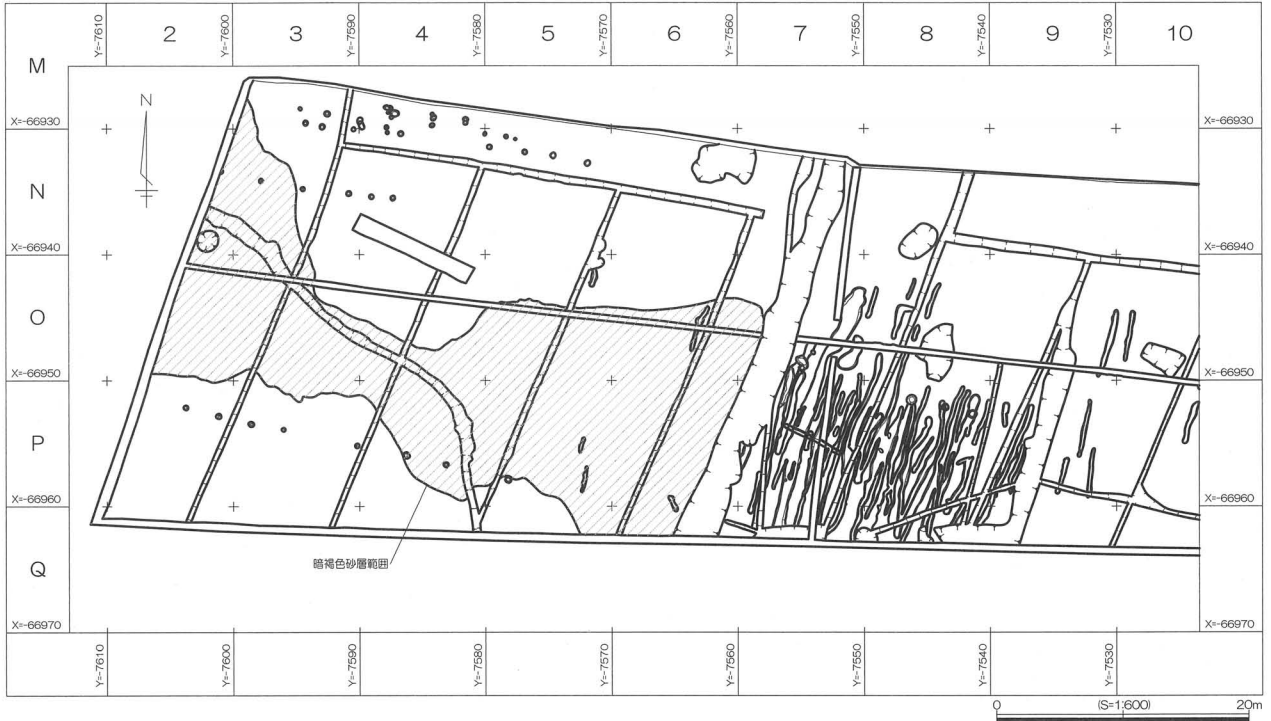


図95 3区 暗褐色砂層範囲

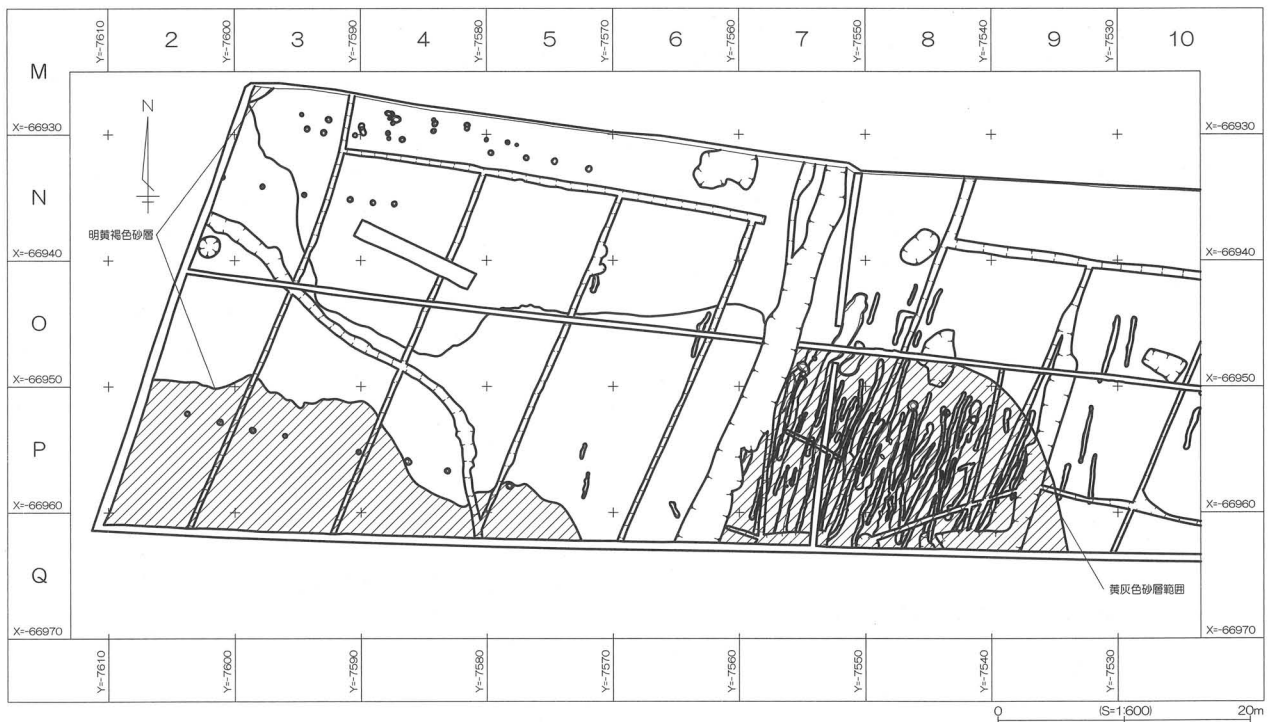
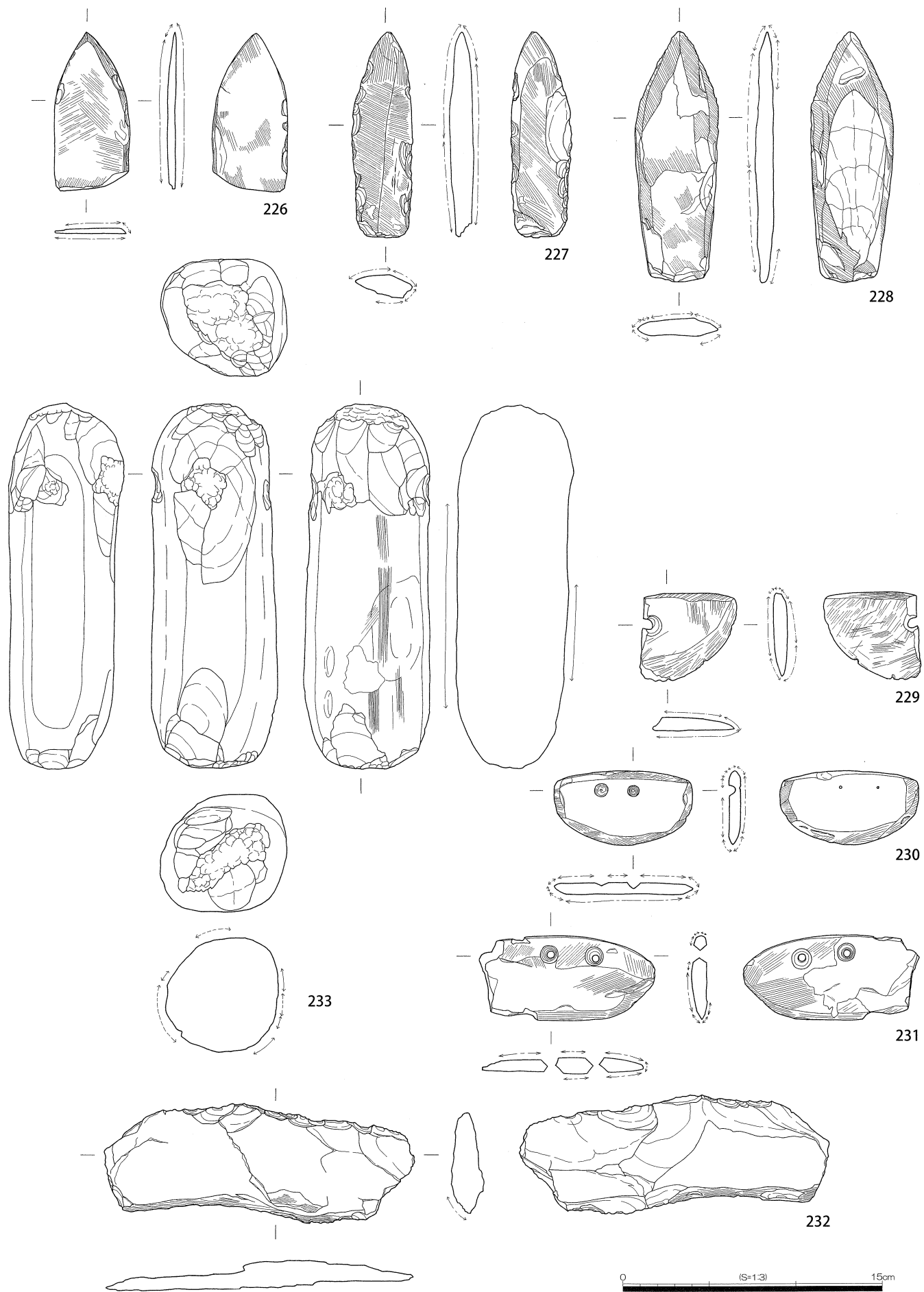


図96 3区 明黄褐色砂層・黄灰色砂層範囲



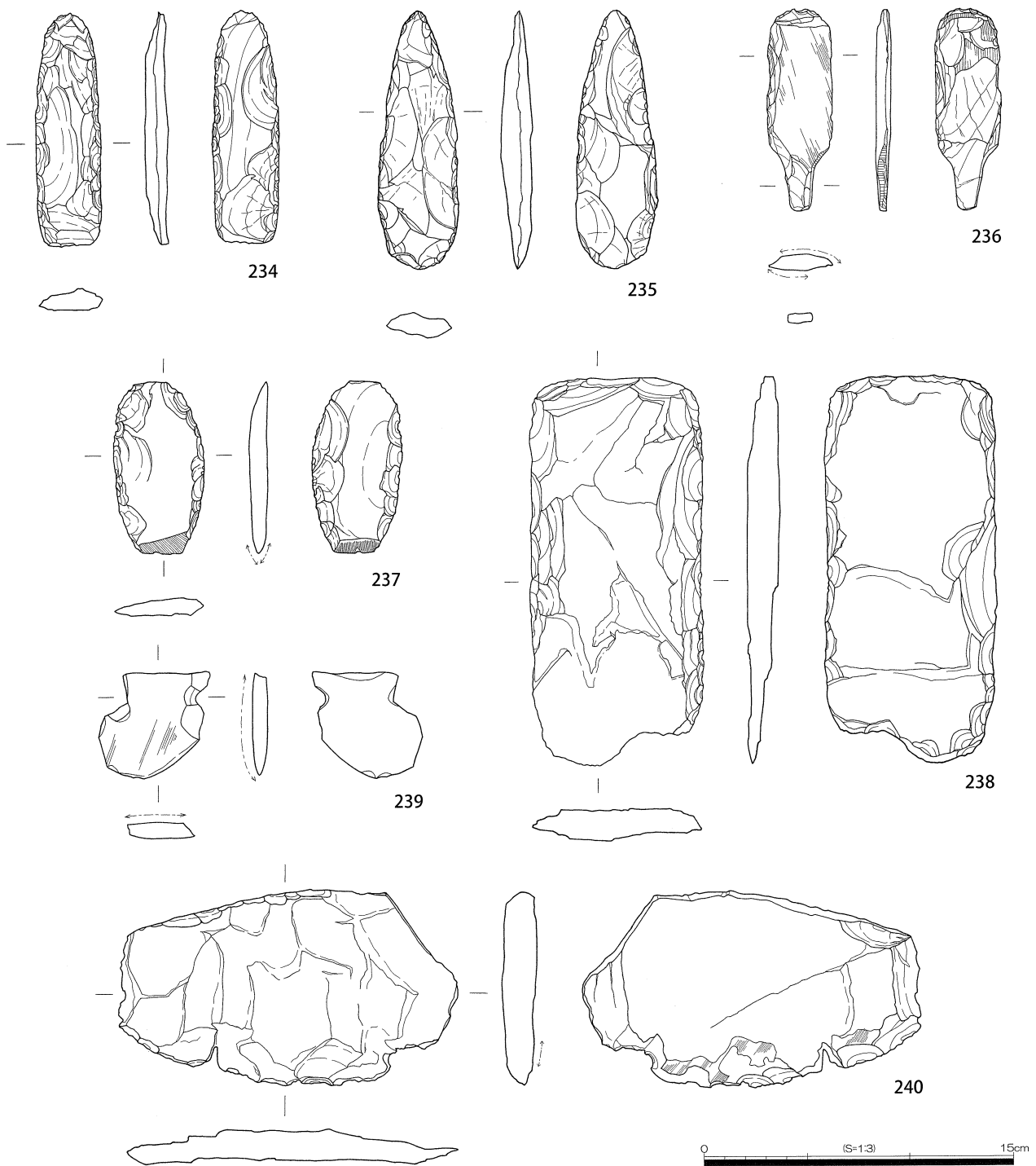
遺物図39 暗褐色砂層出土遺物

遺物観察表 39

遺物番号	調査区	出土地点	遺物図番号	図版番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
226	3	Q8 暗褐色砂層	39	73	石器 (石剣)	長さ:9.25~ 幅:4.35 厚さ:0.5 重さ:29.3	磨製 先端部に研磨により刃を作る	緑色千枚岩	オリーブ灰	一端欠損 剥離片の再加工品か
227	3	N5 暗褐色砂層	39	73	石器 石槍	長さ:11.9 幅:3.5 厚さ:1.35 重さ:81.3	磨製 敲打による成形後全体的に研磨 粗い研磨痕あり	緑色岩	オリーブ灰	
228	3	P6 暗褐色砂層	39	74	石器 (石剣)	長さ:14.45 幅:4.68 厚さ:1.0 重さ:107.0	磨製、表面・周縁に粗い研磨痕顕著 先端から最大幅部分まで刃を作る	頁岩 (新第三紀)	灰	未製品か
229	3	N4 暗褐色砂層	39	74	石器 石包丁	長さ:5.6~ 幅:5.1~ 厚さ:0.8 重さ:30.6	外湾刃半月形 磨製、研磨痕あり 紐部穿孔 1箇所残存径 5.5mm	粘板岩	灰	
230	3	N5 暗褐色砂層	39	74	石器 石包丁 未製品	長さ:8.1 幅:4.3 厚さ:0.7 重さ:42.9	外湾刃半月形 磨製、研磨痕あり 両面に未貫通の紐部穿孔 2箇所あり	緑色岩ドレライト	褐灰	
231	3	暗褐色砂層 Tr.3 ~ Tr.4 間	39	74	石器 石包丁	長さ:10.2~ 幅:4.85 厚さ:0.9 重さ:72.0	杏仁形 磨製、研磨痕あり 紐部穿孔 2箇所径 4.5mm・径 4mm	緑色千枚岩	灰・オリーブ灰	
232	3	Q9 暗褐色砂層	39	74	石器 石包丁 未製品	長さ:17.85 幅:6.6 厚さ:1.85 重さ:205.0	敲打により成形後、刃部を研磨 紐部穿孔なし	緑色千枚岩	灰	
233	3	O8 暗褐色砂層	39	74	石器 叩石	長さ:21.1 幅:7.3 厚さ:7.4 重さ:1677	挟入り 擦り後両端を敲打 擦面 4面あり	董青石ホルン フェルス (新第三紀)	にぶい黄橙	

遺物観察表 40

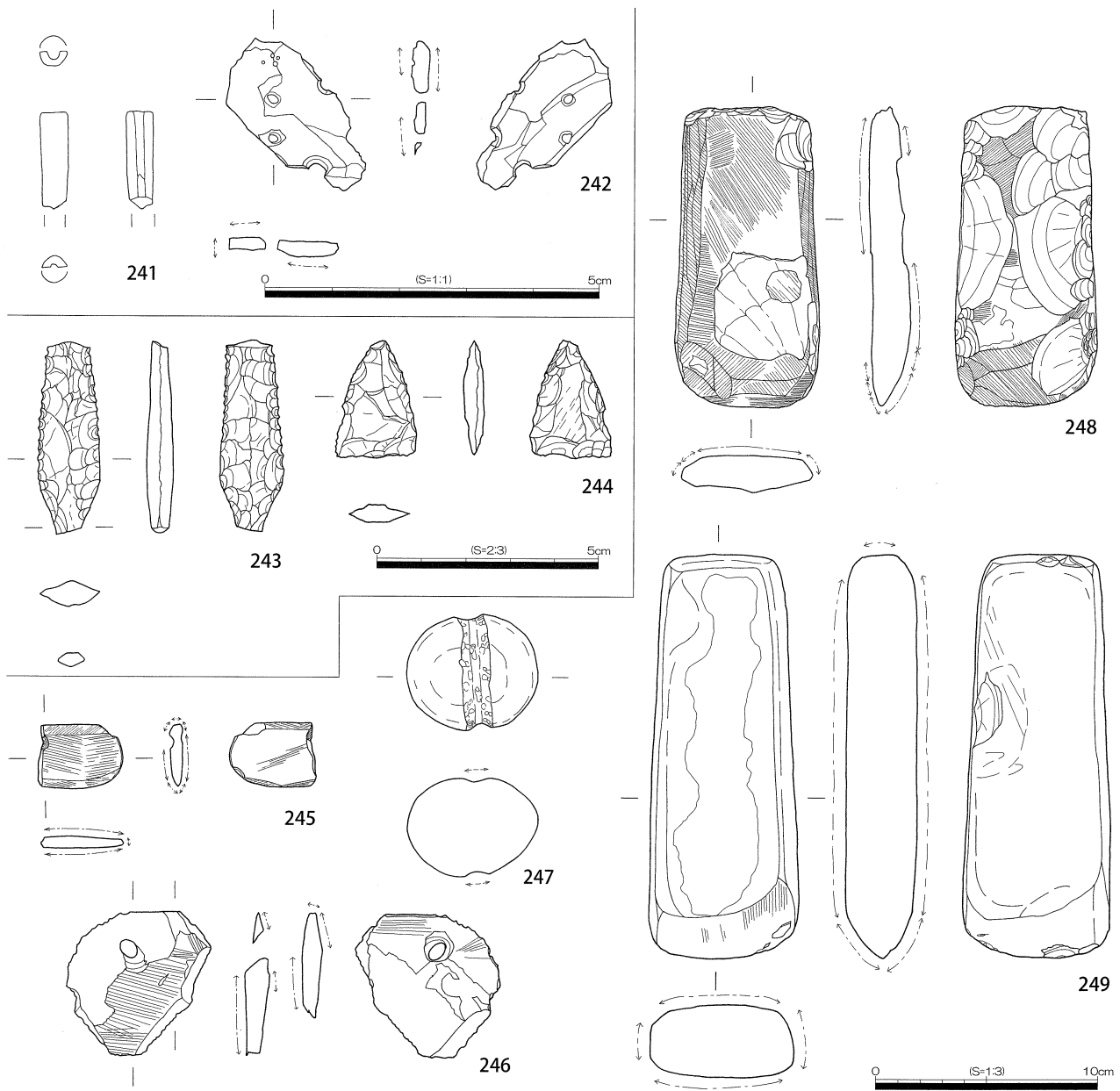
遺物番号	調査区	出土地点	遺物図番号	図版番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
234	3	P3 黄灰色砂層	40	74	石器 石槍	長さ:11.4 幅:3.15 厚さ:1.1 重さ:50.2	打製 剥片を素材とし、敲打により成形 刃部に細かい剥離痕あり	頁岩 (新第三紀)	灰	
235	3	P3 黄灰色砂層 (第1面上)	40	75	石器 石槍	長さ:12.6 幅:3.9 厚さ:1.5 重さ:69.1	打製 裏面の一部に自然面残る 平面・断面は木葉形	頁岩 (新第三紀)	灰	
236	3	P2 黄灰色砂層 (第1面上)	40	75	石器 不明	長さ:9.85 幅:3.15 厚さ:0.75 重さ:28.7	磨製、剥片を素材とし、一部を敲打により成形 茎状の突起は削り出して作る、突起の両脇に粗い 研磨痕顕著	粘板岩	オリーブ灰・灰	未製品の可能性あり
237	3	P3 黄灰色砂層 (第1面上)	40	75	石器 石斧	長さ:8.35 幅:4.4 厚さ:0.9 重さ:38.6	磨製 剥片を素材とし、両側縁を敲打後、研磨により刃 部を作る	頁岩 (新第三紀)	オリーブ灰	
238	3	P3 黄灰色砂層 (第1面上)	40	75	石器 石鏃	長さ:18.95 幅:8.4 厚さ:1.65 重さ:398.0	打製 両側縁に細かい剥離痕	緑色片岩	オリーブ灰	先端一部欠損
239	3	Q2 黄灰色砂層 (第1面上)	40	75	石器 石包丁	長さ:5.4~ 幅:5.15~ 厚さ:0.7 重さ:28.4	磨製、研磨痕あり 紐部穿孔 1箇所残存径 4.5mm~	緑色岩	オリーブ灰	
240	3	P3 黄灰色砂層 (第1面上)	40	75	石器 (石鏃)	長さ:16.4 幅:9.55 厚さ:1.7 重さ:362.0	敲打により成形後研磨 裏面刃部に研磨痕わずかにあり	緑色千枚岩	オリーブ灰	



遺物図40 黄灰色砂層出土遺物

遺物観察表 41-1

遺物番号	調査区	出土地点	遺物図番号	図版番号	種別 器種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成 色調	備考
241	3	P12 攪乱	41	75	石製品 管玉	長さ:1.45～ 幅:0.4 厚さ:0.2～ 重さ:0.1	円筒形 穿孔具は鉄針か、孔内表面は平滑、孔の形態は円筒形、両面穿孔、孔径 1.5mm	碧玉 (麦質安山岩)	暗緑	両面Ⅱc類 一端欠損
242	3	P6 攪乱	41	75	石製品 不明	長さ:3.9～ 幅:2.0～ 厚さ:0.45 重さ:3.9	穿孔 5箇所径 3～2mm、未貫通穿孔 4箇所あり	頁岩	灰	縁辺一部残存
243	3	O4 攪乱	41	76	石器 石鏃	長さ:4.35～ 幅:1.4 厚さ:0.6 重さ:3.7	打製 凸基有茎鏃	頁岩 (新第三紀)	黄灰	



遺物図41 3-1層・3-2層出土遺物

遺物観察表 41-2

遺物番号	調査区	出土地点	遺物図番号	図版番号	種別種	法量 (cm/g)	特徴	胎土 / 材質	焼成調	備考
244	3	P6 攪乱	41	76	石器 石鏃	長さ:2.65 幅:1.85 厚さ:0.45 重さ:2.1	打製 平基無茎鏃	頁岩 (新第三紀)	灰	
245	3	N4 攪乱	41	76	石器 石包丁	長さ:3.85~ 幅:2.95 厚さ:0.6 重さ:11.8	磨製、研磨痕あり 紐部穿孔 1箇所径 2mm 以上残存	緑色岩	灰	1/2 以上欠損
246	3	O13 攪乱	41	76	石器 石包丁	長さ:6.5~ 幅:6.5~ 厚さ:1.1 重さ:44.1	磨製、研磨痕あり 紐部穿孔 1箇所残存径 9mm	粘板岩	褐灰	
247	3	P8 旧耕作土	41	76	石器 石錘	長さ:6.0 幅:5.2 厚さ:4.3 重さ:170.5	円礫利用、有溝石錘 敲打により短軸方向に施溝	輝石安山岩	灰白	
248	3	P6 攪乱	41	76	石器 石斧	長さ:13.65 幅:6.35 厚さ:1.85 重さ:264.0	磨製、研磨痕あり 両側縁・基部に研磨前の細かい剥離痕あり 両刃	頁岩 (新第三紀)	灰	
249	3	P13 旧耕作土	41	76	石器 石斧	長さ:18.3 幅:6.65 厚さ:3.2 重さ:739.0	磨製、体部に研磨前の剥離痕あり 刃部は両刃で弧状	頁岩 (新第三紀)	灰白	刃部部分的に欠損 使用時の欠損か

表 10 3区 遺構一覧表 1

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
P3001	3350	ピット	1		M3	0.267	0.239	0.044	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	杭列 P3001-P3002-P3003-P3004
P3002	3298	ピット	1		M3・N3	0.453	0.429	0.517	円形	U 字形	柱痕：褐灰色砂質シルト 掘方：にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3001-P3002-P3003-P3004
P3003	4045	ピット	1		M3・4	0.975	0.464	0.398	楕円形	不整形皿形	灰黄褐色砂質シルト	杭列 P3001-P3002-P3003-P3004
P3004	3409	ピット	1		M4・5	0.318	0.296	0.336	円形	U 字形	黒褐色砂質シルト	杭列 P3001-P3002-P3003-P3004
P3005	3296	ピット	1		M3	0.410	0.356	0.292	円形	U 字形	灰黄褐色砂質シルト	杭列 P3005-P3006-P3007-P3008-P3009
P3006	3297	ピット	1		M3	0.427	0.329	0.417	円形	U 字形	灰黄褐色砂質シルト	杭列 P3005-P3006-P3007-P3008-P3009
P3007	3236	ピット	1		M3・N3	0.311	0.294	0.100	円形	不整形皿形	褐灰色砂質シルト	杭列 P3005-P3006-P3007-P3008-P3009
P3008	3153	ピット	1		M4	0.258	0.234	0.113	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3005-P3006-P3007-P3008-P3009
P3009	4032	ピット	1		M4	0.417	0.384	0.181	円形	V 字形	褐灰色砂質シルト	杭列 P3005-P3006-P3007-P3008-P3009
P3010	3071	ピット	1		M4	0.510	0.355	0.137	楕円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3010-P3010-P3012-P3013
P3011	3072	ピット	1		M4	(0.418)	0.304	0.493	楕円形	U 字形	暗褐色砂質シルト	杭列 P3010-P3010-P3012-P3013
P3012	3073	ピット	1		M4	0.248	(0.239)	0.107	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	杭列 P3010-P3010-P3012-P3013
P3013	3074	ピット	1		M4	0.415	(0.303)	0.188	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3010-P3010-P3012-P3013
P3014	3410	ピット	1		M4	0.205	0.182	0.049	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3014-P3015-P3016-P3017
P3015	3144	ピット	1		M4	0.685	0.520	0.546	円形	U 字形	褐灰色砂質シルト	杭列 P3014-P3015-P3016-P3017
P3016	3077	ピット	1		M4	0.469	0.338	0.435	楕円形	V 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3014-P3015-P3016-P3017
P3017	3078	ピット	1		M4	0.331	0.306	0.156	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3014-P3015-P3016-P3017
P3018	3145	ピット	1		M4	0.275	0.260	0.124	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3018-P3019-P3020-P3021-P3022
P3019	3133	ピット	1		M4	0.375	0.303	0.245	楕円形	U 字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	杭列 P3018-P3019-P3020-P3021-P3022
P3020	4012	ピット	1		N4・5	0.294	0.230	0.190	円形	U 字形	褐灰色砂質シルト	杭列 P3018-P3019-P3020-P3021-P3022
P3021	4008	ピット	1		N5	0.303	0.285	0.069	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	杭列 P3018-P3019-P3020-P3021-P3022
P3022	3193	ピット	1		N5	0.196	0.182	0.271	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	杭列 P3018-P3019-P3020-P3021-P3022
P3023	3079	ピット	1		N5	0.373	0.365	0.173	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3023-P3024-P3025-P3026
P3024	3081	ピット	1		N5	0.189	0.164	0.206	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3023-P3024-P3025-P3026
P3025	3197	ピット	1		N5	0.349	0.281	0.496	円形	U 字形	柱痕：にぶい黄褐色砂質シルト 埋土：褐灰色砂質シルト	杭列 P3023-P3024-P3025-P3026
P3026	3142	ピット	1		N5	0.458	0.432	0.389	円形	U 字形	柱痕：褐灰色砂質シルト 礎石下：黒褐色粘土質シルト	杭列 P3023-P3024-P3025-P3026
P3027	3059	ピット	1		N3	0.416	(0.171)	0.468	円形	U 字形	上層：にぶい黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	杭列 P3027-P3028-P3029
P3028	3459	ピット	1		N3	0.356	0.312	0.153	円形	V 字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：灰黄褐色砂質シルト	杭列 P3027-P3028-P3029
P3029	3307	ピット	1		N3	0.335	0.326	0.436	円形	U 字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	杭列 P3027-P3028-P3029
P3030	3165	ピット	1		N3	0.409	0.395	0.169	円形	皿形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	杭列 P3030-P3031-P3032
P3031	3169	ピット	1		N4	0.372	0.357	0.291	円形	U 字形	柱痕：灰黄褐色砂質シルト 掘り方：黒褐色砂質シルト	杭列 P3030-P3031-P3032
P3032	3168	ピット	1		N4	0.379	0.370	0.367	円形	不整形皿形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	杭列 P3030-P3031-P3032
P3033	3083	ピット	1		P2	0.378	0.364	0.161	円形	皿形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	杭列 P3033-P3034-P3035-P3036
P3034	3084	ピット	1		P2	0.418	0.413	0.485	円形	U 字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3033-P3034-P3035-P3036
P3035	3085	ピット	1		P3	0.462	0.394	0.395	円形	U 字形	柱痕：褐灰色砂質シルト 掘り方：黒褐色砂質シルト	杭列 P3033-P3034-P3035-P3036
P3036	3455	ピット	1		M3	0.318	0.301	0.243	円形	U 字形	褐灰色砂質シルト	杭列 P3033-P3034-P3035-P3036
P3037	3086	ピット	1		P3	0.368	0.348	0.373	円形	U 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3037-P3038-P3039-P3040
P3038	3088	ピット	1		P4	0.536	0.476	0.289	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	杭列 P3037-P3038-P3039-P3040
P3039	3412	ピット	1		P3	0.409	0.402	0.179	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	杭列 P3037-P3038-P3039-P3040
P3040	3324	ピット	1		P5	0.478	0.453	0.166	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	SK3021 を切る、 杭列 P3037-P3038-P3039-P3040
P3041	3934	ピット	1		O7	0.327	0.286	0.131	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	耕作溝群を切るピット
P3042	3935	ピット	1		O7	1.160	0.890	0.240	不整形	不整形	上層：にぶい黄褐色砂質シルト 下層：灰黄褐色砂質シルト	耕作溝群を切るピット
P3043	3244	ピット	1		P8	0.785	0.760	0.423	円形	盤形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：灰黄褐色砂質シルト	柱列 P3043-P3044-P3045
P3044	3248	ピット	1		P8	0.545	0.493	0.333	円形	U 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	柱列 P3043-P3044-P3045
P3045	3258	ピット	1		P8	0.662	0.592	0.363	円形	U 字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：黒褐色粘土質シルト	柱列 P3043-P3044-P3045
P3046	4069	ピット	1		P15	0.694	0.679	0.347	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	耕作溝群 3003 区域内
P3047	4074	ピット	1		P15	0.924	0.588	0.333	不整形楕円形	U 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	耕作溝群 3003 区域内
P3048	4078	ピット	1		Q14・15	0.759	0.488	0.328	楕円形	U 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	柱列 P3048-P3049-P3050-P3051- P3052-P3053-P3054-P3055-P3056
P3049	4070	ピット	1		Q15	1.102	1.102	0.370	円形	有段U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	柱列 P3048-P3049-P3050-P3051- P3052-P3053-P3054-P3055-P3056
P3050	4077	ピット	1		Q15	0.519	0.485	0.407	円形	V 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	柱列 P3048-P3049-P3050-P3051- P3052-P3053-P3054-P3055-P3056
P3051	4071	ピット	1		Q15	0.874	0.760	0.286	円形	U 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	柱列 P3048-P3049-P3050-P3051- P3052-P3053-P3054-P3055-P3056
P3052	4072	ピット	1		Q15	0.845	0.771	0.293	円形	U 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	柱列 P3048-P3049-P3050-P3051- P3052-P3053-P3054-P3055-P3056 攪乱底に検出
P3053	3048	ピット	1		Q16	1.100	0.725	0.312	円形	U 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	柱列 P3048-P3049-P3050-P3051- P3052-P3053-P3054-P3055-P3056
P3054	耕3003	ピット	1		Q16	0.914	0.619	0.094	楕円形	U 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	耕3003 から独立、柱列 P3048-P3049- P3050-P3051-P3052-P3053-P3054- P3055-P3056
P3055	3049	ピット	1		Q16	0.743	0.631	0.365	円形	U 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	柱列 P3048-P3049-P3050-P3051- P3052-P3053-P3054-P3055-P3056
P3056	3050	ピット	1		Q17	0.355	0.319	0.164	円形	U 字形	にぶい黄褐色砂質シルト	柱列 P3048-P3049-P3050-P3051- P3052-P3053-P3054-P3055-P3056
P3057	3146	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3001	M4	0.903	0.507	0.207	楕円形	浅いU字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3058	3147	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3001	M4・N4	0.811	0.628	0.236	楕円形	浅いU字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3059	3148	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3001	N4	0.703	0.637	0.113	楕円形	浅いU字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3060	3149	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3001	N4	0.571	0.478	0.154	楕円形	浅いU字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3061	3110	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3002	N6	0.521	0.454	0.143	円形	浅いU字形	柱痕：淡黄色粘土 埋土：暗褐色中粒砂	

表 11 3区 遺構一覧表 2

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
P3062	3114	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3002	N6	0.461	0.408	0.164	円形	浅いU字形	柱痕：淡黄色粘土 埋土：暗褐色砂	
P3063	3113	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3002	O6	0.491	0.412	0.079	円形	浅いU字形	柱痕：オリーブ褐色砂質シルト 埋土：黒褐色シルト	
P3064	3115	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3002	O6	0.285	0.252	0.076	円形	浅いU字形	柱痕：淡黄色粘土 埋土：黒褐色砂質シルト	
P3065	3498	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3006	O9	0.382	0.361	0.529	円形	U字形	暗褐色砂質シルト	礎石あり
P3066	3497	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3006	O9	0.366	0.328	0.348	円形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3067	3501	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3006	O9	0.445	0.322	0.571	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3068	3496	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3006	O9	0.337	0.305	0.464	円形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3069	3347	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3005	O10	0.478	0.427	0.368	円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3070	3475	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3005	O10	0.407	(0.187)	0.283	円形	U字形	黒色粘土質シルト	北側を攪乱に切られる
P3071	3346	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3005	P9	0.494	0.488	0.257	円形	U字形	黒褐色シルト	
P3072	3474	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3005	P10	0.628	0.430	0.390	不整楕円形	W字形	黒褐色シルト	
P3073	3336	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3004	O10	0.488	0.476	0.413	円形	U字形	褐色砂質シルト	
P3074	3338	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3004	O10	0.489	0.374	0.258	円形	V字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3075	3327	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3004	O11・P11	0.427	0.414	0.399	円形	V字形	褐色砂質シルト	
P3076	3331	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3004	P10	0.507	0.396	0.376	楕円形	U字形	褐色砂質シルト	
P3077	3335	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3004	P10	0.533	0.361	0.209	楕円形	W字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3078	3334	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3004	P11	0.408	0.388	0.299	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3079	3031	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3003	O13	0.618	0.391	0.156	円形	皿形	黒色シルト	
P3080	3032	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3003	O13	0.590	0.536	0.156	楕円形	皿形	黒褐色シルト	
P3081	3033	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3003	O13	0.598	0.585	0.233	楕円形	皿形	黒褐色シルト	
P3082	3034	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3003	O13	0.575	0.548	0.221	円形	皿形	黒褐色シルト	
P3083	3035	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3003	O13	0.394	0.349	0.200	円形	皿形	黒褐色シルト	
P3084	3036	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3003	O12	0.403	0.361	0.246	円形	皿形	黒褐色粘土質シルト	
P3085	3037	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3003	O13・P13	0.719	0.508	0.312	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3086	3041	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3003	P13	0.394	0.342	0.113	円形	皿形	黒褐色粘土質シルト	
P3087	3038	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3003	P13	0.558	0.534	0.099	円形	皿形	黒褐色シルト	
P3088	3039	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3003	P13	0.490	0.532	0.056	楕円形	皿形	黒色シルト	
P3089	3304	竪穴住居跡ピット	2	SI3002	N3	0.622	0.594	0.836	円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	
P3090	4034	竪穴住居跡ピット	2	SI3002	N3	0.370	(0.191)	0.509	円形	有段U字形	黒褐色シルト	Tr5 拡張で検出、第2面 SI3002 のピット、P3089 に切られる
P3091	4033	竪穴住居跡ピット	2	SI3002	M2・3	0.351	0.345	0.837	円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	Tr5 拡張で検出、第2面 SI3002 のピット
P3092	3448	竪穴住居跡ピット	2	SI3003	N3	0.561	0.543	0.494	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3093	3449	竪穴住居跡ピット	2	SI3003	N3	0.390	0.364	0.432	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	SK3006 に切られる
P3094	3450	竪穴住居跡ピット	2	SI3003	N3	0.465	0.416	0.186	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3095	3460	竪穴住居跡ピット	2	SI3003	N3	0.382	0.363	0.227	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3096	3308	竪穴住居跡柱穴	2	SI3003	N3	0.457	0.412	0.541	円形	U字形	黒褐色砂	礎石あり
P3097	3451	竪穴住居跡ピット	2	SI3003	N3	0.490	0.394	0.179	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3098	3310	竪穴住居跡ピット	2	SI3003	N3	0.416	0.405	0.527	円形	U字形	黒褐色砂	礎石あり
P3099	3493	竪穴住居跡柱穴	2	SI3003	N3	0.436	0.365	0.588	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり
P3100	3311	竪穴住居跡ピット	2	SI3003	N3	0.528	0.395	0.291	楕円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3101	3313	竪穴住居跡柱穴	2	SI3003	N3	0.464	0.441	0.507	円形	U字形	黒褐色シルト	礎石あり
P3102	3431	竪穴住居跡ピット	2	SI3004	N3	0.655	0.446	0.817	楕円形	U字形	黒色粘土質シルト	
P3103	3736	竪穴住居跡ピット	2	SI3004	N4	0.377	0.376	0.411	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3104	3430	竪穴住居跡ピット	2	SI3004	N4	0.443	0.351	0.811	円形	不整U字形	黒褐色砂質シルト	
P3105	3737	竪穴住居跡ピット	2	SI3004	N4	0.499	0.434	0.418	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3106	3435	竪穴住居跡ピット	2	SI3004	N3・4	0.434	(0.203)	0.427	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3107	3529	竪穴住居跡ピット	2	SI3004	N4	0.470	0.393	0.630	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3108	3436	竪穴住居跡ピット	2	SI3004	N3	0.493	0.466	0.761	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3109	3434	竪穴住居跡ピット	2	SI3004	N3	0.379	0.354	0.399	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3110	3433	竪穴住居跡ピット	2	SI3004	N3	0.504	0.476	0.452	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3111	3735	竪穴住居跡ピット	2	SI3004	N3	0.504	(0.397)	0.205	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3110 に切られる
P3112	3432	竪穴住居跡ピット	2	SI3004	N3	0.621	0.424	0.236	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3113	3356	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.507	0.480	0.484	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3114	3357	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.867	0.728	0.720	楕円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	
P3115	3424	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.426	0.426	0.640	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3116	3354	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.712	0.465	0.668	不整形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3117	3456	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.508	0.421	0.801	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3118	3423	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.466	0.388	0.509	不整形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3119	3359	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.454	0.433	0.724	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3120	3458	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.488	0.412	0.497	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3121	3362	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.862	0.679	0.760	不整形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3122	3457	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.655	0.618	0.801	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3123	3360	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.693	0.623	0.832	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3124	3361	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.744	(0.523)	0.731	不整形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3125	3363	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	(0.503)	(0.177)	0.100	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3126	3366	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.523	(0.311)	0.638	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3127	3368	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.571	0.536	0.702	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり
P3128	3367	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.636	0.599	0.792	不整形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3129	3365	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	O4	0.500	(0.249)	0.451	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3130	3427	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	O4	0.386	0.282	0.412	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3131	3426	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	O4	0.430	0.365	0.553	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3132	3428	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	O4	0.287	0.282	0.473	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3133	3364	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	O4	0.549	0.524	0.420	不整形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3134	3429	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	O4	0.543	0.505	0.619	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3135	3374	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	O4	0.473	0.423	0.291	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3136	3375	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.504	0.447	0.699	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3137	3372	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4・O4	(0.782)	0.495	0.425	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	礎石あり、P3137 と P3138 に区分
P3138	3372	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4・O4	(0.782)	0.495	0.556	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり、P3137 と P3138 に区分
P3139	3371	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	(0.532)	(0.505)	0.783	不整形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3140	3373	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	O4	(0.345)	0.337	0.386	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3141	3539	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.739	0.406	0.541	楕円形	有段U字形	暗褐色砂質シルト	
P3142	3530	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.476	(0.398)	0.390	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	

表 12 3区 遺構一覧表 3

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸(m)	短軸(m)	確認面からの深さ(m)	平面形	断面形	埋土(主体土)	備考
P3143	3531	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.286	(0.219)	0.425	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3144	3355	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	(0.415)	(0.250)	0.488	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	住居内溝から独立
P3145	3353	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.457	0.337	0.521	不整形円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3146	3738	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.346	0.316	0.383	円形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3147	3741	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.470	0.408	0.456	不整形円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3148	3739	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.362	0.315	0.318	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3149	3740	竪穴住居跡ピット	2	SI3005	N4	0.346	0.337	0.456	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3150	3094	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	1.164	0.711	0.275	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3151	3514	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.615	0.508	0.586	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり
P3152	3505	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.768	0.573	0.567	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり
P3153	3516	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.783	0.391	0.125	楕円形	皿形	暗褐色砂質シルト	
P3154	3515	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.369	0.333	0.135	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	礎石あり
P3155	3506	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.437	0.367	0.286	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	礎石あり
P3156	3513	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.407	0.388	0.310	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3157	3116	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.853	0.765	0.664	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3158	3091	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.678	0.609	0.741	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり
P3159	3095	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	1.074	(0.850)	0.787	不整形円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3160	3520	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.393	(0.387)	0.139	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3161	3519	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	(0.490)	(0.328)	0.187	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3162	3518	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.377	0.323	0.522	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり
P3163	3517	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.317	(0.249)	0.303	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3164	3096	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.364	0.333	0.805	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3165	3098	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	O5	0.368	0.359	0.237	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3166	3097	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	O5	0.304	0.280	0.194	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3167	3092	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	O5	0.731	0.660	0.692	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3168	3100	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	O5	0.366	0.320	0.195	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3169	3104	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	O5	0.670	0.571	0.696	円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	
P3170	3521	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	O5	0.432	0.395	0.375	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3171	3105	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	O5	0.345	0.333	0.115	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3172	3093	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	O5	1.044	0.776	0.752	楕円形	有段U字形	褐灰色砂質シルト	
P3173	3528	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	O5	0.409	0.357	0.184	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3174	3107	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.699	0.594	0.575	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3175	3108	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.453	0.345	0.234	円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3176	3109	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.428	0.391	0.152	円形	皿形	暗褐色砂質シルト	
P3177	3106	竪穴住居跡ピット	2	SI3006	N5	0.366	0.300	0.061	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3178	3438	竪穴住居跡ピット	2	SI3011	O6	0.438	0.422	0.370	円形	U字形	暗褐色砂	
P3179	3239	竪穴住居跡柱穴	2	SI3011	O6	0.520	0.430	0.360	楕円形	U字形	暗褐色砂	
P3180	3383	竪穴住居跡ピット	2	SI3011	O6	0.263	0.243	0.093	円形	皿形	暗褐色砂	
P3181	3382	竪穴住居跡ピット	2	SI3011	O6	0.316	0.296	0.260	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3182	3439	竪穴住居跡ピット	2	SI3011	O6	0.463	0.434	0.308	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり
P3183	3384	竪穴住居跡ピット	2	SI3011	O6	0.334	0.291	0.313	円形	U字形	暗褐色砂	礎石あり
P3184	3959	竪穴住居跡ピット	2	SI3009	O3	0.495	0.418	0.507	円形	有段U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3185	3958	竪穴住居跡ピット	2	SI3009	O2	0.372	0.361	0.337	円形	U字形	暗灰黄色砂質シルト	
P3186	3956	竪穴住居跡ピット	2	SI3009	O2	0.651	0.329	0.274	楕円形	皿形	暗灰黄色砂質シルト	
P3187	3957	竪穴住居跡ピット	2	SI3009	O2・3	0.260	0.220	0.278	円形	U字形	暗灰黄色砂質シルト	
P3188	3955	竪穴住居跡ピット	2	SI3009	O3	0.296	0.293	0.330	円形	皿形	暗灰黄色砂質シルト	
P3189	3292	竪穴住居跡ピット	2	SI3001	P3	0.284	0.249	0.104	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3190	3288	竪穴住居跡ピット	2	SI3001	P3	0.371	0.327	0.387	円形	U字形	灰黄褐色細粒砂	
P3191	3289	竪穴住居跡ピット	2	SI3001	P3	0.393	0.367	0.092	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3192	3407	竪穴住居跡ピット	2	SI3001	P3	0.528	0.470	0.276	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	SD3005を切る
P3193	3063	竪穴住居跡柱穴	2	SI3012	P6	0.689	0.477	0.569	不整形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3194	4080	竪穴住居跡柱穴	2	SI3012	P6	0.407	0.382	0.464	円形	U字形	褐色砂質シルト	礎石あり
P3195	3461	竪穴住居跡柱穴	2	SI3012	P6	0.362	0.358	0.444	円形	U字形	褐色砂質シルト	礎石あり
P3196	3067	竪穴住居跡柱穴	2	SI3012	P6	0.642	0.640	0.365	円形	U字形	黄灰色砂質シルト	
P3197	3068	竪穴住居跡柱穴	2	SI3012	P6	0.588	0.456	0.448	楕円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3198	3066	竪穴住居跡柱穴	2	SI3012	P6	(0.644)	(0.590)	0.470	不整形	U字形	暗褐色砂質シルト	SK3029とP3198に分離
P3199	3295	竪穴住居跡ピット	2	SI3012	P6	0.282	0.264	0.097	円形	皿形	暗褐色砂質シルト	
P3200	3299	竪穴住居跡柱穴	2	SI3010	O7	0.662	0.592	0.387	円形	U字形	にぶい黄褐色砂	
P3201	3269	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O8	0.484	0.459	0.063	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3202	3468	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O8	0.777	0.659	0.413	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3203	3416	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O8	0.537	0.490	0.054	円形	皿形	にぶい黄褐色砂	
P3204	3262	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O8	0.296	0.271	0.400	円形	U字形	黒褐色砂	
P3205	3264	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O8	0.989	(0.548)	0.435	不整形円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3206	3945	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O8	0.392	(0.367)	0.132	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3207	3944	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O8	0.392	0.367	0.307	不整形円形	U字形	灰黄褐色砂	
P3208	3943	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O8	0.397	0.367	0.181	不整形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3209	3415	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O8	1.010	0.417	0.105	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3210	3731	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O8	0.124	(0.644)	0.293	楕円形	U字形	黒色シルト	
P3211	3732	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O8	0.581	0.474	0.279	楕円形	皿形	黒色シルト	
P3212	3936	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O7	0.437	0.427	0.171	円形	U字形	暗褐色砂	
P3213	3941	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O7	0.423	(0.292)	0.630	楕円形	U字形	暗褐色砂	
P3214	3942	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O7	0.384	0.328	0.239	不整形円形	U字形	暗褐色砂	
P3215	3940	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O7	0.377	0.340	0.140	不整形円形	皿形	暗褐色砂	
P3216	3271	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O7	0.385	0.313	0.173	楕円形	U字形	黒色シルト	
P3217	3489	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O7	0.546	0.505	0.172	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3218	3490	竪穴住居跡ピット	2	SI3010	O7	0.326	0.294	0.157	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3219	3170	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	O8・9	0.579	0.445	0.359	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3220	3541	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	O9	0.354	0.296	0.455	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3221	3386	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	O8	(0.391)	0.368	0.136	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3222	3387	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	O8	0.534	0.428	0.516	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3223	3231	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	O8	0.569	0.404	0.497	楕円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3224	3413	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	O9	(0.555)	0.480	0.542	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3224とP3225に区分
P3225	3413	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	O9	(0.555)	0.480	0.542	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3224とP3225に区分
P3226	3714	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	O9	0.482	(0.278)	0.275	円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	

表 13 3区 遺構一覧表 4

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
P3227	3417	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	09	0.443	(0.348)	0.556	不整形円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3228	3396	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08-9	1.006	0.613	0.396	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	P3228 と P3229 に区分
P3229	3396	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08-9	0.286	0.267	0.368	円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	P3228 と P3229 に区分
P3230	3453	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	09	(0.236)	(0.141)	0.176	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3231	3526	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	0 8	0.580	(0.185)	0.345	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3232	3414	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	0 8	0.362	0.346	0.431	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	Tr1 に切られる、P3233 を切る
P3233	3230	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08-9	(0.389)	(0.214)	0.135	楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3234	3395	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.517	0.426	0.189	不整形円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3235	3394	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.683	(0.286)	0.493	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	P3235 と P3236 に区分
P3236	3394	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.683	(0.286)	0.229	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	P3235 と P3236 に区分
P3237	3393	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.456	0.335	0.457	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3238	3175	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.505	0.376	0.453	不整形円形	有段U字形	褐灰色砂質シルト	
P3239	3392	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.333	0.293	0.094	有段U字形	円形	褐灰色砂質シルト	
P3240	3391	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.640	0.470	0.457	楕円形	有段U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3241	3173	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.355	0.342	0.059	不整形円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3242	3551	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.403	0.394	0.455	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3243	3172	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.524	0.464	0.352	不整形円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3244	3398	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.422	0.403	0.438	不整形円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3245	3389	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.368	0.322	0.125	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3246	3508	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	05	0.280	0.225	0.182	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3247	3174	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.289	0.252	0.147	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3248	3509	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08	0.281	0.268	0.150	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3249	3510	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08-9	0.217	0.190	0.107	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3250	3525	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08-9	0.339	0.336	0.216	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3251	3229	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	08-9	0.522	0.395	0.161	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3252	3397	竪穴住居跡ピット	2	SI3007	09	0.362	0.346	0.564	不整形円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3253	3478	竪穴住居跡ピット	2	SI3008	P12	0.615	0.605	0.272	円形	皿形	黒色砂質シルト	
P3254	3479	竪穴住居跡ピット	2	SI3008	P12	0.578	0.504	0.181	不整形円形	皿形	黒色砂質シルト	
P3255	3481	竪穴住居跡ピット	2	SI3008	P12	0.491	0.426	0.448	不整形円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3256	3480	竪穴住居跡ピット	2	SI3008	P12	0.485	0.473	0.205	円形	皿形	黒色砂質シルト	
P3257	3534	竪穴住居跡ピット	2	SI3008	P12	0.326	0.294	0.205	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3258	3482	竪穴住居跡ピット	2	SI3008	P13	0.408	0.406	0.415	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3259	3483	竪穴住居跡ピット	2	SI3008	P13	0.375	0.318	0.425	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3260	3491	竪穴住居跡中央土坑	2	SI3008	P12・13 Q12・13	0.539	0.504	0.261	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3261	3484	竪穴住居跡ピット	2	SI3008	Q13	0.383	0.369	0.396	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3262	3485	竪穴住居跡ピット	2	SI3008	Q12	0.769	0.556	0.354	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	SK3054 に切られる
P3263	3486	竪穴住居跡ピット	2	SI3008	Q12	0.437	0.426	0.278	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3264	3487	竪穴住居跡ピット	2	SI3008	Q12	0.513	0.407	0.219	不整形円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3265	3465	ピット	2	M3		0.378	0.263	0.603	円形	U字形	柱痕：にぶい黄褐色砂質シルト 掘方：黒褐色砂質シルト	西側を Tr5 に切られる
P3266	3358	ピット	2	N3		0.426	0.382	0.230	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3267	3411	ピット	2	N3		0.366	0.351	0.194	円形	不整形皿形	褐灰色砂質シルト	
P3268	3237	ピット	2	N3		0.354	0.311	0.246	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3269	3150	ピット	2	N4		0.778	0.714	0.157	不整形楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3270	3151	ピット	2	N4		(0.678)	0.547	0.135	楕円形	皿形	暗褐色砂質シルト	
P3271	3057	ピット	2	N3・O3		0.779	0.733	0.124	円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	SK3007 を切る
P3272	3523	ピット	2	O3		0.357	0.320	0.265	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	SK3007 を切る
P3273	3522	ピット	2	O3		0.513	0.325	0.458	楕円形	不整形U字形	黒褐色砂質シルト	SK3007 を切る
P3274	3290	ピット	2	P2		0.859	0.774	0.254	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3275	3287	ピット	2	P3		0.553	0.542	0.075	円形	不整形皿形	褐灰色砂質シルト	
P3276	3285	ピット	2	P3		0.316	0.275	0.153	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3277	3282	ピット	2	P3		0.561	0.498	0.091	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3278	3419	ピット	2	P3		0.541	0.312	0.027	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3279	3420	ピット	2	P3		0.389	0.297	0.076	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3280	3196	ピット	2	M4		0.830	(0.532)	0.283	楕円形	有段U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3281	3143	ピット	2	M4		0.623	0.576	0.101	楕円形	皿形	明黄褐色砂質シルト	
P3282	3132	ピット	2	M4		0.463	0.425	0.369	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3283	3156	ピット	2	N4		0.580	0.480	0.228	楕円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色粘土質シルト	
P3284	3155	ピット	2	N4		0.764	0.539	0.772	楕円形	U字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3285	3157	ピット	2	N4		0.256	0.250	0.110	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3286	3158	ピット	2	N4		0.465	0.329	0.233	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3287	3159	ピット	2	N4		0.309	0.256	0.092	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3288	3160	ピット	2	N4		0.414	0.395	0.206	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3289	3163	ピット	2	N4		0.408	0.364	0.372	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3290	3166	ピット	2	N4		0.444	0.426	0.734	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3291	3167	ピット	2	N4		0.625	0.469	0.179	不整形楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3292	3352	ピット	2	N4		(0.399)	0.268	0.113	不整形楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3293	3403	ピット	2	N4		0.351	0.350	0.615	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3294	3137	ピット	2	N4		0.597	0.432	0.111	楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3295	3140	ピット	2	N4		0.737	0.718	0.713	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3296	3177	ピット	2	N4		0.464	0.412	0.242	円形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3297	3240	ピット	2	N4		0.357	0.316	0.659	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3298 を切る
P3298	3185	ピット	2	N4		0.758	0.512	0.576	楕円形	不整形U字形	黒褐色砂質シルト	P3297 に切られる
P3299	3464	ピット	2	N4		0.607	0.423	0.371	楕円形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3300	3200	ピット	2	O4・5		0.779	0.660	0.179	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3301	3087	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3007	P4	0.858	0.691	0.318	不整形楕円形	有段U字形	黒褐色シルト	旧 3627 を吸収
P3301 吸収	3627	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3007	P4	-	-	-	円形	有段U字形	黒褐色シルト	P3301 (旧 3087) に吸収
P3302	3008	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3007	P4	0.558	0.494	0.350	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3303	3351	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3007	P4	0.618	0.404	0.223	楕円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3304	3279	掘立柱建物跡柱穴	2	SB3007	P4	0.463	0.429	0.253	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	P3310 に切られる
P3305	3283	ピット	2	P3		0.526	0.503	0.299	円形	有段U字形	褐灰色砂質シルト	

表 14 3区 遺構一覧表 5

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
P3306	3274	ピット	2		P4	0.403	0.325	0.080	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3307	3275	ピット	2		P4	0.311	0.266	0.116	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3308	3276	ピット	2		P4	0.380	0.348	0.140	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3309	3278	ピット	2		P4	0.333	0.307	0.098	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3310	3280	ピット	2		P4	0.658	0.565	0.297	楕円形	有段U字形	褐灰色砂質シルト	P3304 を切る
P3311	3009	ピット	2		P4	0.394	0.362	0.097	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3312	3235	ピット	2		N5	0.519	0.453	0.496	楕円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	
P3313	3192	ピット	2		M5・N5	0.627	0.527	0.184	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礫を含む (礎石ではない?)
P3314	3191	ピット	2		M5・N5	0.532	0.466	0.363	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3315	3131	ピット	2		M5・N5	0.623	0.551	0.304	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3316	3130	ピット	2		N5	(0.536)	0.364	0.203	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3317 に切られる
P3317	3129	ピット	2		N5	0.536	0.483	0.403	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3316 を切る、SK3016 を切る
P3318	3082	ピット	2		N5	0.573	0.472	0.411	楕円形	不整U字形	黒褐色砂質シルト	
P3319	3189	ピット	2		N5	0.475	0.454	0.437	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3320	3190	ピット	2		N5	0.629	0.607	0.605	円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	
P3321	3549	ピット	2		N5	0.477	(0.349)	0.342	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	東側を暗渠排水に切られる
P3322	3545	ピット	2		N5	0.463	0.433	0.408	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3323	3546	ピット	2		N5	0.593	0.509	0.219	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	P3324 を切る
P3324	3547	ピット	2		N5	0.555	(0.520)	0.040	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	P3323 に切られる
P3325	3544	ピット	2		N5	0.415	0.409	0.270	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3326 を切る
P3326	3198	ピット	2		N5	0.401	0.328	0.153	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	P3325 に切られる
P3327	3550	ピット	2		N5	0.519	0.503	0.279	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3328	3232	ピット	2		O5・6	0.532	0.461	0.384	円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	
P3329	3227	ピット	2		O5	0.263	(0.191)	0.105	円形	不整皿形	黒褐色砂質シルト	耕作溝に切られる
P3330	3224	ピット	2		O5	0.413	0.391	0.207	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3331	3405	ピット	2		O5	0.555	0.484	0.330	円形	有段U字形	褐灰色砂質シルト	
P3332	3325	ピット	2		P4・5	0.591	0.591	0.106	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3333	3326	ピット	2		P5	0.347	0.325	0.197	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3334	3315	ピット	2		P5	0.327	0.288	0.158	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3335	3316	ピット	2		P5	0.452	0.348	0.410	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3336	3317	ピット	2		P5	0.340	0.303	0.214	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3337	3319	ピット	2		P5	0.310	0.287	0.268	円形	U字形	上層：褐灰色砂 下層：黒褐色粘土質シルト	
P3338	3320	ピット	2		P5	0.368	0.351	0.495	円形	U字形	褐灰色砂	
P3339	3321	ピット	2		P5	0.263	0.239	0.149	円形	U字形	褐灰色砂	
P3340	3322	ピット	2		P5	0.351	0.338	0.309	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3341	3202	ピット	2		N6	0.533	0.435	0.600	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3342	3203	ピット	2		N6	0.434	0.388	0.145	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3343	3204	ピット	2		N6	0.271	0.230	0.102	楕円形	皿形	黒褐色粘土質シルト	
P3344	3294	ピット	2		N6	0.347	0.259	0.122	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	P3345 を切る
P3345	3205	ピット	2		N6	0.415	0.303	0.115	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	P3344 に切られる
P3346	3206	ピット	2		N6	0.666	0.477	0.218	楕円形	有段U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3347	3210	ピット	2		N6	0.457	0.452	0.279	円形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3348	3212	ピット	2		N6	0.339	0.245	0.125	円形	皿形	暗褐色砂質シルト	
P3349	3233	ピット	2		N6	0.330	0.324	0.380	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3350	3208	ピット	2		N6	0.391	0.381	0.034	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3351	3209	ピット	2		N6	0.308	0.295	0.157	円形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3352	3214	ピット	2		N6	0.540	0.341	0.270	不整楕円形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3353	3111	ピット	2		N6	0.385	0.377	0.348	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3354	3112	ピット	2		N6	0.697	0.518	0.584	楕円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	
P3355	3217	ピット	2		N6・O6	0.558	0.519	0.578	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3356	3234	ピット	2		N6	0.383	0.262	0.067	円形	皿形	灰黄褐色砂	
P3357	3218	ピット	2		O6	0.424	0.403	0.343	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3358	3219	ピット	2		O6	0.330	0.320	0.370	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3359	3220	ピット	2		O6	0.431	0.427	0.101	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3360	3222	ピット	2		O6	0.437	0.285	0.072	楕円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3361	3225	ピット	2		O6	0.512	0.419	0.042	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3362	3221	ピット	2		O6	0.441	0.380	0.110	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3363	3241	ピット	2		O6	0.551	0.467	0.394	円形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3364	3466	ピット	2		N7	0.391	0.382	0.129	円形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3365	3447	ピット	2		O7	0.410	(0.373)	0.103	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3366	3975	ピット	2		O7・8	0.558	0.465	0.092	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3367	3976	ピット	2		O7・8	0.382	(0.318)	0.381	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3368	3270	ピット	2		O7・8	0.379	0.337	0.231	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	SI3009 を切る
P3369	3673	ピット	2		O7	0.455	0.444	0.217	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3370	3260	ピット	2		P7	0.325	0.288	0.302	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3371	3261	ピット	2		P7	0.691	0.671	0.653	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3372	3948	ピット	2		O8	0.814	0.676	0.159	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3373	3467	ピット	2		O8	0.374	0.344	0.296	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3374	3949	ピット	2		O8	0.648	0.514	0.404	円形	不整U字形	暗褐色砂質シルト	P3375 に切られる
P3375	3268	ピット	2		O8	0.498	0.432	0.304	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	P3374 を切る
P3376	3349	ピット	2		O8	0.635	0.531	0.058	不整円形	有段U字形	褐灰色砂質シルト	
P3377	3950	ピット	2		O8	0.722	0.657	0.351	不整円形	有段U字形	褐灰色砂質シルト	
P3378	3267	ピット	2		O8	0.419	0.379	0.387	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3379	3469	ピット	2		O8	0.464	0.432	0.098	円形	皿形	暗褐色砂質シルト	
P3380	3259	ピット	2		P8	0.784	0.758	0.094	不整円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3381	3252	ピット	2		P8	0.523	0.519	0.313	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3382	3251	ピット	2		P8	0.677	0.611	0.078	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3383	3707	ピット	2		P8	0.385	0.374	0.184	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3384	3709	ピット	2		P8	0.378	0.361	0.182	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3385	3884	ピット	2		P8	0.274	0.271	0.512	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3386	3437	ピット	2		P8	0.365	0.203	0.090	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3387	3250	ピット	2		P8	0.253	0.293	0.094	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3388	3256	ピット	2		P8	0.430	0.374	0.172	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	

表 15 3区 遺構一覧表 6

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸(m)	短軸(m)	確認面からの深さ(m)	平面形	断面形	埋土(主体土)	備考
P3389	3255	ピット	2		P8	0.447	0.399	0.103	円形	盤形	褐灰色砂質シルト	
P3390	3253	ピット	2		P8	0.637	0.584	0.233	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3391	3254	ピット	2		P8	0.654	0.564	0.127	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3392	3247	ピット	2		P8	0.370	0.348	0.175	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3393	3243	ピット	2		P8	0.406	0.328	0.142	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3394	3242	ピット	2		Q8	0.787	0.518	0.164	楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3395	3249	ピット	2		Q8	0.412	0.260	0.264	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3396	3127	ピット	2		N9	0.517	0.494	0.204	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3397	3126	ピット	2		N9	0.405	0.357	0.179	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3398	3124	ピット	2		N9	0.328	0.297	0.149	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3399	3470	ピット	2		O9	0.504	0.431	0.485	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	礎石あり
P3400	3442	ピット	2	SK3039内	O9	0.284	0.267	0.432	円形	有段U字形	褐灰色砂質シルト	
P3401	3440	ピット	2	SK3039内	P9	0.444	0.369	0.498	円形	不整U字形	褐灰色砂質シルト	
P3402	3422	ピット	2		P9	0.943	0.595	0.049	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3403	3300	ピット	2		O9	0.496	0.285	0.056	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	Tr1に切られる
P3404	3301	ピット	2		O9・10	(0.653)	(0.177)	0.339	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	Tr1に切られる、P3405を切る
P3405	3446	ピット	2		O10	(0.291)	(0.105)	0.325	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	Tr1に切られる、P3404に切られる
P3406	3348	ピット	2		O10	0.456	0.455	0.063	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3407	3476	ピット	2		O10	0.491	0.480	0.401	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3408	3477	ピット	2		O10	0.375	0.312	0.254	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3409	3337	ピット	2		O10・P10	0.715	0.324	0.095	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3410	3473	ピット	2		P9・10	0.400	0.341	0.250	円形	有段V字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3411	3472	ピット	2		P10	0.697	0.667	0.468	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	P3412・P3413を切る
P3412	3504	ピット	2		P10	0.511	(0.429)	0.353	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	P3411に切られる
P3413	3502	ピット	2		P10	(0.820)	0.774	0.257	楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	P3411に切られる
P3414	3340	ピット	2		P10	0.273	0.232	0.218	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3415	3499	ピット	2		P10	0.339	0.304	0.426	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3416	3341	ピット	2		P10	0.387	0.361	0.125	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3417	3339	ピット	2		P10	0.384	0.369	0.254	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3418	3120	ピット	2		N11	0.354	0.329	0.097	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3419	3118	ピット	2		N11	0.681	0.502	0.159	不整楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3420	3119	ピット	2		N11・O11	0.735	0.523	0.111	不整楕円形	不整皿形	褐灰色砂質シルト	
P3421	3238	ピット	2		O11	0.494	0.437	0.165	不整楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3422	3330	ピット	2		O11	(0.772)	(0.216)	0.078	楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	耕作溝に切られる
P3423	3328	ピット	2		O11	0.574	(0.402)	0.054	不整形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	耕作溝に切られる
P3424	3329	ピット	2		O11	0.669	0.481	0.077	楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3425	4081	ピット	2		O11・12	0.563	0.449	0.223	不整楕円形	不整皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3426	3333	ピット	2		P11	0.448	0.405	0.118	円形	皿形	褐灰色粘土質シルト	耕作溝に切られる
P3427	3286	ピット	2		P11	0.559	0.538	0.275	円形	有段U字形	褐灰色砂質シルト	
P3428	3293	ピット	2		P11	0.265	0.203	0.122	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	セクション図・写真なし
P3429	3281	ピット	2		P11	0.482	0.441	0.099	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3430	3418	ピット	2		Q11	0.685	0.592	0.378	不整円形	有段U字形	褐灰色粘土質シルト	
P3431	3006	ピット	2		Q11	0.429	0.373	0.144	円形	皿形	褐灰色粘土質シルト	
P3432	3007	ピット	2		P12	0.447	0.354	0.145	不整円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3433	3040	ピット	2		O13	0.208	0.203	0.126	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3434	3492	ピット	2		P13	0.671	0.628	0.093	不整円形	皿形	黒褐色粘土質シルト	
P3435	3042	ピット	2		P13	0.464	0.414	0.150	不整円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3436	3043	ピット	2		P13	0.373	0.352	0.132	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3437	3045	ピット	2		P13	0.325	0.304	0.208	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3438	3500	ピット	2	SK3053	P13	0.832	0.796	0.332	円形	不整皿形	にぶい黄褐色粘土質シルト	
P3439	3044	ピット	2		P15	0.509	0.492	0.223	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3440	3656	掘立柱建物跡柱穴	3	SB3008	O4・5	0.389	0.377	0.393	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3441	3658	掘立柱建物跡柱穴	3	SB3008	O5	0.470	0.383	0.372	不整円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3442	3819	掘立柱建物跡柱穴	3	SB3008	O4・P4	0.611	0.603	0.424	円形	有段U字形	黒褐色シルト	
P3443	3818	掘立柱建物跡柱穴	3	SB3008	P5	0.629	0.560	0.541	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3444	3981	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N3	0.501	0.487	0.531	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり、旧 4035 を吸収
P3444兼取	4035	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N3	-	-	-	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3444(旧 3981)に吸収
P3445	3980	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N3	0.442	(0.290)	0.081	円形	皿形	暗褐色砂質シルト	SI3002に切られる
P3446	3872	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N3	0.729	0.486	0.191	楕円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	SD3019(SI3014 周溝)を切る
P3447	3452	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N3	0.487	0.443	0.625	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	SK3005 底面に検出
P3448	3983	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N3	0.655	0.510	0.409	楕円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	礎石あり
P3449	3937	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N3	0.556	0.461	0.066	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3450	3866	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N3	0.475	0.439	0.378	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3451	3865	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N2	0.548	0.510	0.102	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	P3452を切る
P3452	3864	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N2	0.546	(0.419)	0.569	楕円形	U字形	黒色砂質シルト	P3451に切られる
P3452兼取	4038	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N2	-	-	-	円形	U字形	黒色砂質シルト	P3452(旧 3864)に吸収、掘り残し
P3453	3863	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N2	0.471	0.382	0.103	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3454	3862	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N2	0.481	0.458	0.047	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3455	3861	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N2	(0.467)	0.452	0.608	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3456	3867	竪穴住居跡ピット	3	SI3014	N3	0.969	0.553	0.420	楕円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	SD3019(SI3014 周溝)を切る
P3457	3462	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.748	0.738	0.386	円形	V字形	灰黄褐色砂質シルト	SK3075に切られる
P3458	4005	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.585	0.579	0.483	円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	P3457と接する、礎あり
P3459	3195	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.883	0.716	0.503	不整円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3460	4021	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.308	0.286	0.056	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3461	4024	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.292	0.269	0.056	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3462	4020	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.354	0.315	0.236	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	SK3077 底に検出
P3463	4003	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.433	0.415	0.099	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3464	3187	竪穴住居跡柱穴	3	SI3015	N5	0.890	0.738	0.654	楕円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	主柱穴
P3465	4023	竪穴住居跡柱穴	3	SI3015	N5	0.509	0.488	0.087	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	小型掘出土、SD3020を切る
P3466	3186	竪穴住居跡柱穴	3	SI3015	N5	0.836	0.744	0.701	楕円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	主柱穴
P3467	4002	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.382	0.307	0.101	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	P3468を切る
P3468	4018	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.664	0.443	0.571	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	P3467に切られる、P3469を切る
P3469	4019	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.375	(0.297)	-	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3468に切られる
P3470	3180	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.442	0.403	0.617	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	

表 16 3区 遺構一覧表 7

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
P3471	3445	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	(0.381)	0.310	0.221	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	P3472 を切る
P3472	3184	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.548	0.448	0.555	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	P3471 に切られる
P3473	3183	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.463	(0.318)	0.583	楕円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	P3474 に切られる
P3474	3182	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.608	(0.307)	0.056	不整楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	P3473・P3475 を切る
P3475	3181	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.315	0.241	0.380	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3474 に切られる
P3476	3179	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.659	0.532	0.695	楕円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3477	3178	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N4	0.475	(0.403)	0.657	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	暗渠排水に切られる
P3478	3138	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.851	0.512	0.536	楕円形	有段U字形	暗褐色砂質シルト	
P3479	4007	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.569	0.482	0.503	楕円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	P3480 に切られる
P3480	3080	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.922	0.604	0.527	楕円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	P3479 を切る
P3481	4004	竪穴住居跡ピット	3	SI3015	N5	0.661	0.440	0.502	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3482	3463	竪穴住居跡内ピット	3	SI3013	O4	(0.589)	(0.544)	0.472	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	暗渠排水に切られる
P3483	3717	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.290	(0.238)	0.168	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	Tr1 に切られる
P3484	3822	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	(0.558)	(0.269)	0.246	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	暗渠排水に切られる、周溝 SD3022 を切る
P3485	3824	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.775	0.568	0.428	楕円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	SD3022 を切る、P3488 を切る
P3486	4044	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.443	0.441	0.572	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	黒色土層を掘り下げた面で検出、P3485 を切る
P3487	4067	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.306	(0.241)	0.574	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	黒色土層を掘り下げた面で検出
P3488	4066	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	1.099	0.549	0.727	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	黒色土層を掘り下げた面で検出、P3485・P3486・P3487 に切られる
P3489	3833	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.379	0.342	0.513	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり、P3490 の柱痕に相当、P3429・P3491 を切る (P3489 は単独のピットであるべき)
P3490	3833	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	(0.544)	0.532	-	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3489 の掘方に相当、SD3022 に切られる、P3491 に切られる
P3491	3843	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.887	0.561	0.457	楕円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	P3489 に切られる、P3490 を切る、SD3022 を切る
P3492	3645	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	(0.664)	0.616	0.510	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり、P3490・P3493 に切られる、SD3026 を切る
P3493	3646	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.476	0.475	0.548	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	P3492・P3494 を切る、SD3026 を切る
P3494	3832	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.368	(0.289)	0.182	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	P3493・SD3926 に切られる、SD3027 を切る
P3495	3831	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.396	0.395	0.268	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3496	3729	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.835	0.600	0.635	不整円形	有段U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3497	3825	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.405	0.400	0.440	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3498	3830	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.613	0.602	0.513	円形	有段V字形	黒褐色砂質シルト	P3499 を切る
P3499	4043	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.502	0.474	0.394	不整円形	U字形	褐灰色砂質シルト	酸化マンガン・酸化鉄層を掘り下げて検出、P3498 に切られる
P3500	3829	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.556	(0.284)	0.120	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	酸化マンガン・酸化鉄沈着層を掘り下げた面で検出
P3501	4042	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.556	0.528	0.228	楕円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	P3500 に切られる、P3499 と接する
P3502	4039	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.392	0.377	0.581	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	黒色土層を掘り下げた面で検出
P3503	3642	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.431	0.410	0.596	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	礎石あり
P3504	3845	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.532	0.507	0.435	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	P3505 を切る
P3505	3845	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.576	(0.515)	0.470	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	礎石あり、P3504 に切られる
P3506	3640	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.541	0.473	0.519	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3507	3639	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.474	0.439	0.563	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	P3508 を切る
P3508	3639	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.532	0.491	0.490	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	礎石あり、P3507 に切られる
P3509	3915	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.610	0.523	0.610	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3510	3715	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.886	0.549	0.486	楕円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3511	4040	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	(0.437)	0.420	0.568	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	酸化マンガン・酸化鉄沈着層を掘り下げて検出、SD3023 に切られる
P3512	3716	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.433	0.426	0.405	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3513	4046	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.444	0.408	0.489	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	酸化マンガン・酸化鉄沈着層を掘り下げて検出
P3514	3835	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.736	0.480	0.266	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	SD3025 を切る
P3515	4041	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.555	0.446	0.361	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	酸化マンガン・酸化鉄沈着層を掘り下げて検出
P3516	3662	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	1.093	0.749	0.218	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3517	3916	竪穴住居跡ピット	3	SI3013	O4	0.605	0.603	0.434	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	P3516 の底面に検出
P3518	3898	ピット	3	O4		0.575	0.422	0.160	楕円形	皿形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3519	3900	ピット	3	O4		0.469	0.345	0.139	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3520	3873	ピット	3	O4		0.658	0.592	0.025	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3521	3871	ピット	3	N3		0.517	0.505	0.381	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3522	4049	ピット	3	N3		0.494	(0.248)	0.168	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	暗渠排水に切られる
P3523	3870	ピット	3	N3		0.401	0.335	0.448	円形	U字形	上層：にぶい黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3524	3914	ピット	3	N3		0.468	0.451	0.332	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3525	3869	ピット	3	N3		0.337	0.303	0.217	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3526	3991	ピット	3	N2		0.427	0.387	0.449	円形	U字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3527	3990	ピット	3	N2		0.523	0.415	0.397	楕円形	有段U字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3528	3913	ピット	3	N2・3		0.440	0.285	0.051	楕円形	V字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3529	3912	ピット	3	N2・3		0.472	(0.328)	0.462	楕円形	U字形	上層：にぶい黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色粘土質シルト	
P3530	3909	ピット	3	N2		0.504	0.443	0.388	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3531	3904	ピット	3	N2・3		0.428	0.390	0.291	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3532	3903	ピット	3	N2・3		0.423	0.314	0.021	楕円形	不整皿形	褐灰色砂質シルト	
P3533	3993	ピット	3	O3		(0.439)	(0.129)	0.238	楕円形	有段U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3534	3994	ピット	3	O3		0.396	0.313	0.432	楕円形	U字形	暗褐色砂質シルト	
P3535	3995	ピット	3	O3		0.346	0.328	0.065	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3536	3746	ピット	3	O3		0.416	0.391	0.499	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：にぶい黄褐色砂質シルト	
P3537	3988	ピット	3	O2		0.432	(0.339)	0.345	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	Tr1 に切られる

表 17 3区 遺構一覧表 8

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
P3538	3855	ビット	3		O2	0.597	0.497	0.450	楕円形	逆台形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3539	3841	ビット	3		O2	0.674	0.596	0.140	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3540	3918	ビット	3		O2	0.534	0.466	0.206	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3541	3919	ビット	3		O3	0.583	0.473	0.214	円形	不整皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3542	3562	ビット	3		O2・P2	0.744	0.650	0.195	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3543	3743	ビット	3		P2	0.377	0.293	0.394	楕円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3544	3565	ビット	3		P2	0.924	0.412	0.218	楕円形	盤形	にぶい黄褐色粘土質シルト	
P3545	3742	ビット	3		P2	0.492	0.324	0.248	楕円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	杭列 P3545-P3546-P3547-P3548
P3546	3839	ビット	3		P2	0.418	0.224	0.289	楕円形	有段U字形	褐灰色粘土質シルト	杭列 P3545-P3546-P3547-P3548
P3547	3840	ビット	3		P2	0.389	0.325	0.309	円形	不整U字形	灰黄褐色粘土質シルト	杭列 P3545-P3546-P3547-P3548
P3548	3744	ビット	3		P2	0.296	0.268	0.306	円形	U字形	灰黄褐色粘土質シルト	杭列 P3545-P3546-P3547-P3548
P3549	3594	ビット	3		O2	0.730	0.672	0.112	円形	皿形	灰黄褐色粘土質シルト	
P3550	3593	ビット	3		O2	0.331	0.326	0.187	円形	V字形	灰黄褐色粘土質シルト	杭列 P3550-P3551-P3552
P3551	3595	ビット	3		O2	0.304	0.263	0.069	円形	皿形	灰黄褐色粘土質シルト	杭列 P3550-P3551-P3552
P3552	3844	ビット	3		Q2	0.309	0.291	0.302	円形	不整U字形	灰黄褐色粘土質シルト	杭列 P3550-P3551-P3552
P3553	3987	ビット	3		N2・O3	0.463	0.428	0.429	円形	U字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3554	3911	ビット	3		O3	0.393	0.305	0.140	楕円形	V字形	にぶい黄褐色砂	P3555を切る
P3555	3910	ビット	3		O3	0.305	0.296	0.178	円形	皿形	上層：にぶい黄褐色砂 下層：黒褐色砂質シルト	P3554を切る
P3556	3908	ビット	3		P2	0.396	0.317	0.291	円形	V字形	にぶい黄褐色砂	
P3557	3906	ビット	3		O3	0.345	0.312	0.179	円形	逆台形	褐灰色砂質シルト	P3558に切られる
P3558	3907	ビット	3		O3	0.396	0.371	0.550	円形	逆台形	灰黄褐色砂質シルト	P3557を切る
P3559	3905	ビット	3		P2	0.392	0.350	0.271	円形	U字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	杭列 P3556-P3557-P3558-P3559
P3560	3857	ビット	3		P2	(0.675)	(0.438)	0.200	楕円形	皿形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色砂質シルト	
P3561	3722	ビット	3		O3	0.468	0.462	0.417	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3562	3723	ビット	3		O3	0.353	0.322	0.221	円形	不整U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	礎石あり
P3563	3856	ビット	3		O3	0.714	0.354	0.087	楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3564	3724	ビット	3		O3	0.529	0.478	0.394	円形	有段U字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3565	3555	ビット	3		O3	0.453	0.410	0.246	円形	盤形	上層：にぶい黄褐色砂 下層：黒褐色砂質シルト	
P3566	3836	ビット	3		O3	0.329	0.325	0.327	円形	U字形	上層：にぶい黄褐色砂 下層：黒褐色砂質シルト	
P3567	3837	ビット	3		O3	0.377	(0.234)	0.162	円形	U字形	にぶい黄褐色砂	
P3568	3963	ビット	3		O3	0.508	0.475	0.379	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色砂質シルト	
P3569	3962	ビット	3		O3	0.515	0.513	0.462	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色砂質シルト	
P3570	3964	ビット	3		P2	0.588	0.527	0.549	円形	U字形	褐灰色砂	
P3571	3747	ビット	3		O3	0.342	0.292	0.121	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3572	3566	ビット	3		O3	0.262	0.255	0.053	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3573	3567	ビット	3		O3	0.359	0.356	0.264	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3574	3568	ビット	3		O3	0.726	0.626	0.111	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	P3576を切る
P3575	3569	ビット	3		O3	0.434	0.335	0.456	楕円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	P3576を切る
P3576	3570	ビット	3		O3	0.407	0.362	0.261	円形	V字形	褐灰色砂質シルト	P3574・P3575に切られる
P3577	3858	ビット	3		O3	0.342	0.287	0.355	円形	V字形	灰黄褐色砂質シルト	SK3065を切る
P3578	3977	ビット	3		O2・3	0.440	0.410	0.498	円形	U字形	上層：にぶい黄褐色砂 下層：黒褐色砂質シルト	柱列 P3578-P3579-P3580-P3581-P3582-P3583-P3584-P3585
P3579	3554	ビット	3		O3	0.869	0.695	0.351	不整楕円形	不整形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：灰黄褐色砂質シルト	柱列 P3578-P3579-P3580-P3581-P3582-P3583-P3584-P3585
P3580	3556	ビット	3		O3	0.446	0.434	0.282	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	柱列 P3578-P3579-P3580-P3581-P3582-P3583-P3584-P3585
P3581	3573	ビット	3		O3	0.374	0.362	0.320	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	柱列 P3578-P3579-P3580-P3581-P3582-P3583-P3584-P3585
P3582	3577	ビット	3		O3	0.388	0.381	0.426	円形	U字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：黒褐色粘土質シルト	柱列 P3578-P3579-P3580-P3581-P3582-P3583-P3584-P3585
P3583	3581	ビット	3		O3	0.555	0.437	0.331	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	柱列 P3578-P3579-P3580-P3581-P3582-P3583-P3584-P3585
P3584	3583	ビット	3		O3	0.583	0.437	0.118	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	柱列 P3578-P3579-P3580-P3581-P3582-P3583-P3584-P3585
P3585	3749	ビット	3		O3	0.559	0.403	0.264	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3586	3748	ビット	3		O3・4	0.638	0.488	0.243	楕円形	皿形	上層：にぶい黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色粘土質シルト	P3585に切られる
P3587	3557	ビット	3		O3	0.573	0.416	0.270	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3588を切る
P3588	3558	ビット	3		O3	0.542	0.471	0.398	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3587に切られる
P3589	3961	ビット	3		O3	0.377	0.368	0.381	円形	U字形	柱痕：にぶい黄褐色砂質シルト 礎石下：暗オリーブ褐砂質シルト	礎石あり
P3590	3960	ビット	3		O3	0.496	0.476	0.348	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色砂質シルト	
P3591	3726	ビット	3		O3	0.545	(0.397)	0.369	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	P3592に切られる
P3592	3572	ビット	3		O3	0.515	0.471	0.561	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色砂質シルト	P3591を切る
P3593	3574	ビット	3		O3	0.517	0.471	0.384	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
P3594	3578	ビット	3		O3	0.741	0.557	0.492	楕円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色砂質シルト	
P3595	3575	ビット	3		O3	0.524	0.471	0.363	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色砂質シルト	
P3596	3580	ビット	3		O3	0.434	0.415	0.529	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3597	3587	ビット	3		O3	0.318	0.311	0.179	円形	U字形	明黄褐色砂質シルト	
P3598	3745	ビット	3		O3	0.440	0.325	0.186	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3599	3584	ビット	3		O3	0.614	0.574	0.452	円形	U字形	上層：にぶい黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色粘土質シルト	P3600に切られる
P3600	3585	ビット	3		O3	0.583	0.486	0.059	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	P3599を切る、P3601に切られる

表 18 3区 遺構一覧表 9

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸(m)	短軸(m)	確認面からの深さ(m)	平面形	断面形	埋土(主体土)	備考
P3601	3586	ビット	3		O3	0.527	0.509	0.108	円形	皿形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	P3600を切る
P3602	3750	ビット	3		O3・P3	0.296	0.255	0.037	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3603	3842	ビット	3		P3	0.518	0.494	0.188	円形	有段U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 褐灰色粘土質シルト	
P3604	3634	ビット	3		P3・4	0.642	0.568	0.124	円形	不整形皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3605	3589	ビット	3		P3	0.442	0.397	0.108	円形	皿形	灰黄褐色粘土質シルト	
P3606	3590	ビット	3		P3	0.534	0.482	0.086	円形	皿形	灰黄褐色粘土質シルト	
P3607	3728	ビット	3		P3	0.377	0.248	0.141	楕円形	U字形	灰黄褐色粘土質シルト	
P3608	3971	ビット	3		P3	0.274	0.239	0.131	円形	U字形	灰黄褐色粘土質シルト	
P3609	3610	ビット	3		P3	0.441	0.284	0.177	楕円形	U字形	上層: 灰黄褐色粘土質シルト 下層: 黒色粘土質シルト	
P3610	3609	ビット	3		P3	0.464	0.387	0.181	楕円形	U字形	上層: 灰黄褐色粘土質シルト 下層: 黒色粘土質シルト	
P3611	3608	ビット	3		P3	0.467	0.337	0.143	楕円形	盤形	灰黄褐色粘土質シルト	
P3612	3591	ビット	3		P3	0.377	0.325	0.136	円形	V字形	灰黄褐色粘土質シルト	杭列 P3612-P3613-P3614-P3615
P3613	3597	ビット	3		P3	0.389	0.336	0.322	楕円形	V字形	上層: 灰黄褐色粘土質シルト 下層: にぶい黄褐色粘土質シルト	杭列 P3612-P3613-P3614-P3615
P3614	3598	ビット	3		P3	0.343	0.328	0.037	円形	皿形	灰黄褐色粘土質シルト	杭列 P3612-P3613-P3614-P3615
P3615	3599	ビット	3		P3	0.302	0.292	0.043	円形	皿形	灰黄褐色粘土質シルト	杭列 P3612-P3613-P3614-P3615
P3616	3600	ビット	3		P3	0.287	0.253	0.268	円形	V字形	灰黄褐色粘土質シルト	杭列 P3616-P3617-P3618
P3617	3601	ビット	3		P3	0.241	0.234	0.273	円形	U字形	灰黄褐色粘土質シルト	杭列 P3616-P3617-P3618
P3618	3603	ビット	3		P3	0.281	0.230	0.337	円形	逆台形	灰黄褐色粘土質シルト	杭列 P3616-P3617-P3618
P3619	3592	ビット	3		P3	0.216	0.199	0.060	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3620	3596	ビット	3		P3	0.058	0.498	0.068	楕円形	皿形	灰黄褐色粘土質シルト	
P3621	3602	ビット	3		P3	0.247	0.230	0.264	円形	U字形	灰黄褐色粘土質シルト	
P3622	3604	ビット	3		P3	0.377	0.306	0.535	楕円形	U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3623	3605	ビット	3		P3	0.199	0.190	0.031	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3624	4030	ビット	3		M4	0.363	0.348	0.273	円形	U字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	
P3625	4048	ビット	3		M4	0.417	0.345	0.112	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3626	4029	ビット	3		M4	0.502	0.466	0.485	円形	有段U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	
P3627	4031	ビット	3		N4	0.374	0.306	0.371	不整形円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3628	4036	ビット	3		N4	0.903	0.505	0.455	楕円形	不整形皿形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 褐灰色砂質シルト	P3628(4037)を吸収
P3628	4037	ビット	3		N4	-	-	-	楕円形	不整形皿形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 褐灰色砂質シルト	P3628(4036)に吸収
P3629	4052	ビット	3		N4	0.660	0.546	0.686	楕円形	W字形	黒褐色砂質シルト	
P3630	4011	ビット	3		N4・5	0.397	0.346	0.554	円形	U字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	
P3631	4047	ビット	3		N4	0.430	(0.199)	0.092	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	南側を暗渠排水に切られる
P3632	4017	ビット	3		N4	0.568	0.555	0.303	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3633	3929	ビット	3		N4	0.459	0.365	0.190	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3634	4015	ビット	3		N4	0.713	0.569	0.163	楕円形	W字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3635	4014	ビット	3		N4・5	0.478	0.402	0.570	円形	U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 褐灰色砂質シルト	
P3636	3718	ビット	3		O4	0.358	0.353	0.376	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3637	3953	ビット	3		O4	0.261	0.230	0.075	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3638	3654	ビット	3		O4	0.355	0.337	0.156	円形	不整形皿形	褐灰色砂質シルト	
P3639	3751	ビット	3		O4・P4	0.423	0.311	0.136	楕円形	有段U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3640	3752	ビット	3		O4	0.373	0.300	0.126	楕円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3641	3636	ビット	3		P4	0.495	0.470	0.182	円形	不整形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 褐灰色砂質シルト	
P3642	3754	ビット	3		P4	0.433	0.394	0.165	円形	皿形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3643	3755	ビット	3		P4	0.835	0.499	0.138	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3644	3628	ビット	3		P4	0.407	0.354	0.257	不整形楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3645	3625	ビット	3		P4	0.745	0.461	0.199	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3646	3611	ビット	3		P3	0.312	0.312	0.180	円形	U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	杭列 P3646-P3647-P3648-P3649-P3650
P3647	3629	ビット	3		P4	0.286	0.281	0.217	円形	V字形	灰黄褐色砂質シルト	杭列 P3646-P3647-P3648-P3649-P3650
P3648	3626	ビット	3		P4	0.289	0.279	0.264	円形	V字形	黒褐色粘土質シルト	杭列 P3646-P3647-P3648-P3649-P3650
P3649	3846	ビット	3		P4	0.427	0.374	0.479	楕円形	有段U字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	杭列 P3646-P3647-P3648-P3649-P3650
P3650	3624	ビット	3		P4	0.361	0.351	0.200	円形	U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	杭列 P3646-P3647-P3648-P3649-P3650
P3651	3847	ビット	3		P4	0.435	0.371	0.541	円形	U字形	褐灰色粘土質シルト	
P3652	3621	ビット	3		P4	0.626	0.509	0.083	楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3653	3753	ビット	3		P4	0.312	0.307	0.246	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3654	3620	ビット	3		P4	0.303	0.292	0.076	円形	皿形	褐灰色砂	
P3655	3630	ビット	3		P4	0.528	0.375	0.160	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3656	3757	ビット	3		P4	0.471	0.388	0.086	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3657	3631	ビット	3		P4	0.346	0.317	0.146	円形	有段U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3658	3760	ビット	3		P4	0.462	0.386	0.223	楕円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3659	3820	ビット	3		P4	0.537	0.418	0.104	楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3660	3632	ビット	3		P4	0.493	(0.394)	0.245	円形	盤形	上層: にぶい黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	用水路跡に切られる
P3661	3633	ビット	3		P4	0.428	0.380	0.416	円形	U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	用水路跡に切られる
P3662	3616	ビット	3		P4・Q4	0.416	0.369	0.498	円形	U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	柱根遺存、樹種同定
P3663	3828	ビット	3		Q4	0.264	0.225	0.057	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3664	3617	ビット	3		Q4	0.571	0.523	0.158	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3665	3999	ビット	3		M5	0.546	0.444	0.592	円形	有段U字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	

表 19 3区 遺構一覧表 10

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
P3666	4009	ビット	3		N5	0.313	0.283	0.116	円形	皿形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	
P3667	4025	ビット	3		P4	0.477	0.473	0.354	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3668	3543	ビット	3		O5	0.689	0.435	0.339	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	P3668(3370) を吸収
P3668	3370	ビット	3		O5			0.000	楕円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	P3668(3543) に吸収
P3669	3876	ビット	3		O5	0.522	0.488	0.121	楕円形	皿形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 暗褐色粘土質シルト	
P3670	3879	ビット	3		O5	0.441	0.435	0.306	円形	皿形	褐色砂質シルト	
P3671	3875	ビット	3		O5	0.620	0.565	0.386	円形	有段U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	南側を Tr1 に切られる
P3672	3877	ビット	3		O5	0.555	0.482	0.305	円形	不整U字形	上層: にぶい褐色砂質シルト 下層: 褐灰色砂質シルト	SI3006 周溝に切られる
P3673	3878	ビット	3		O5	0.283	0.259	0.098	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	SI3006 周溝に切られる
P3674	3826	ビット	3		O5	0.530	0.513	0.048	円形	V字形	褐灰色砂質シルト	
P3675	3811	ビット	3		O5	0.499	0.401	0.190	楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	北側を暗渠排水を切られる
P3676	3807	ビット	3		O5	0.450	0.440	0.495	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3677	3651	ビット	3		O5	0.661	0.342	0.107	楕円形	不整皿形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3678	3652	ビット	3		O5	0.618	0.562	0.405	円形	有段U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 褐灰色砂質シルト	
P3679	3812	ビット	3		O5	0.346	0.334	0.095	円形	不整皿形	褐灰色砂質シルト	
P3680	3713	ビット	3		O5	0.517	0.488	0.364	円形	U字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 灰黄褐色砂質シルト	
P3681	3813	ビット	3		O5	0.549	0.547	0.569	円形	U字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	Tr1 拡張 - 1 で深さを確認、旧 4061 を吸収
P3681	4061	ビット	3		O5			0.000	円形			P3681(旧 3813) に吸収
P3682	3653	ビット	3		O5	0.495	0.487	0.427	円形	U字形	上層: にぶい黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3683	3838	ビット	3		O5	0.417	0.315	0.090	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3684	3806	ビット	3		O5	0.446	0.436	0.174	円形	V字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3685	3805	ビット	3		O5	0.558	0.552	0.503	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	直径 34cm 大の大型礫を含む
P3686	3809	ビット	3		O5・6	0.681	0.647	0.378	円形	U字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	
P3687	3808	ビット	3		O5	0.558	0.471	0.370	楕円形	U字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3688	3720	ビット	3		O5・6	0.534	0.456	0.265	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3689	3804	ビット	3		O5・6	0.470	0.428	0.137	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3690	3853	ビット	3		O5	0.493	0.478	0.213	円形	皿形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3691	3657	ビット	3		O5	0.376	0.352	0.215	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3692	3815	ビット	3		O5	0.399	0.342	0.107	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	P3695 に切られる
P3693	3814	ビット	3		O5	0.422	0.338	0.189	楕円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3694	3803	ビット	3		O5	0.464	0.406	0.212	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3695	3659	ビット	3		O5	0.401	0.399	0.141	円形	皿形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	P3692 を切る
P3696	3660	ビット	3		O5	0.374	0.351	0.266	円形	U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	
P3697	3816	ビット	3		O5	0.407	0.379	0.097	円形	皿形	上層: にぶい黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3698	3801	ビット	3		O5	0.470	0.377	0.410	楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	西側を暗渠排水に切られる
P3699	3802	ビット	3		O5	0.585	0.582	0.129	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3700	3800	ビット	3		O5・P5	0.559	0.496	0.123	楕円形	皿形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	SK3079 に切られる
P3701	3817	ビット	3		O5・6	0.540	0.492	0.082	円形	不整皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3702	3794	ビット	3		P5	0.485	0.415	0.479	楕円形	U字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	西側を暗渠排水に切られる
P3703	3767	ビット	3		O5・5	0.437	(0.202)	0.047	楕円形	不整皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	西側を暗渠排水に切られる
P3704	3765	ビット	3		P5	(0.647)	(0.405)	0.052	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	西側を暗渠排水に切られる、P3705 に切られる
P3705	3766	ビット	3		P5	0.503	0.448	0.220	楕円形	不整皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	P3704 を切る
P3706	3787	ビット	3		P5	0.536	0.531	0.377	円形	U字形	上層: 褐灰色砂質シルト 下層: 灰黄褐色砂質シルト	
P3707	3789	ビット	3		P5	0.345	0.289	0.220	楕円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3708	3780	ビット	3		P5	0.784	0.675	0.269	楕円形	有段U字形	褐灰色砂質シルト	
P3709	3769	ビット	3		P5	0.362	0.356	0.267	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3710	3777	ビット	3		P5	0.307	0.295	0.152	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3711	3770	ビット	3		P5	0.595	0.582	0.077	円形	不整皿形	褐灰色粘土質シルト	
P3712	3778	ビット	3		P5	0.387	0.363	0.220	円形	U字形	褐灰色粘土質シルト	植物痕を切る
P3713	3854	ビット	3		Q5	0.368	0.350	0.415	円形	有段U字形	上層: 灰黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	礎石あり
P3714	3771	ビット	3		Q5	0.432	0.404	0.271	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3715	3985	ビット	3		Q5	0.305	0.272	0.102	円形	U字形	上層: 灰黄褐色砂 下層: 黒褐色粘土質シルト	P3716 と接する
P3716	3986	ビット	3		Q5	0.302	0.284	0.309	円形	U字形	上層: にぶい黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色砂質シルト	P3715 と接する
P3717	3773	ビット	3		Q5	0.351	0.324	0.220	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3718	3776	ビット	3		Q5	0.559	0.455	0.058	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3719	3774	ビット	3		Q5	0.372	(0.196)	0.237	円形	U字形	上層: にぶい黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	南側を Tr6 に切られる
P3720	4064	ビット	3		O6	0.527	0.444	0.450	円形	有段U字形	上層: にぶい黄褐色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3721	4065	ビット	3		O6	0.420	0.375	0.233	円形	U字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3722	3810	ビット	3		O6	0.366	0.305	0.222	円形	V字形	黒褐色砂質シルト	
P3723	3786	ビット	3		P6	0.616	0.616	0.394	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3724	3663	ビット	3		P6	0.581	0.525	0.077	円形	不整皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	
P3725	3785	ビット	3		P6	0.610	0.573	0.301	円形	U字形	上層: 暗褐色砂質シルト 下層: 黒褐色粘土質シルト	
P3726	3784	ビット	3		P6	0.693	0.616	0.123	円形	盤形	褐灰色砂質シルト	
P3727	3783	ビット	3		P6	0.326	0.331	0.176	円形	有段U字形	灰黄褐色砂質シルト	P3728 を切る
P3728	3782	ビット	3		P6	0.648	0.579	0.120	楕円形	不整皿形	褐灰色砂質シルト	P3727 に切られる

表 20 3区 遺構一覧表 11

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
P3729	3952	ビット	3		P6	0.414	(0.277)	0.212	円形	皿形	にぶい黄褐色砂質シルト	東側を暗渠排水に切られる
P3730	3848	ビット	3		P6	0.795	0.775	0.407	不整楕円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	東側を暗渠排水に切られる
P3731	3849	ビット	3		P6	0.332	0.288	0.116	円形	U字形	にぶい黄褐色砂	植物痕を切る、ビットのみ遺構扱い
P3732	3852	ビット	3		P6	0.250	0.210	0.259	円形	V字形	にぶい黄褐色砂	
P3733	3850	ビット	3		P6	0.754	0.599	0.190	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3734	3851	ビット	3		P6	0.406	0.363	0.273	円形	U字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：黒褐色粘土質シルト	
P3735	3706	ビット	3		O7・P7	0.692	0.389	0.184	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3736	3669	ビット	3		P6	0.443	0.425	0.128	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3737	3670	ビット	3		P6	0.482	0.452	0.195	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3738	3704	ビット	3		O7・P7	0.537	0.514	0.311	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色粘土質シルト	
P3739	3923	ビット	3		P7	0.270	0.267	0.118	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3740	3671	ビット	3		P7	0.363	0.362	0.062	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色粘土質シルト	
P3741	3701	ビット	3		P7	0.604	0.564	0.558	円形	有段U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3742	3859	ビット	3		P7・8	0.386	0.371	0.166	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色砂質シルト	
P3743	3928	ビット	3		P7	0.338	0.314	0.161	円形	U字形	灰黄褐色粘土質シルト	
P3744	3700	ビット	3		P7	0.550	0.412	0.070	楕円形	皿形	灰黄褐色粘土質シルト	
P3745	3917	ビット	3		P7	0.251	0.250	0.100	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3746	3666	ビット	3		P7	0.470	0.441	0.241	円形	V字形	褐灰色砂質シルト	
P3747	3880	ビット	3		P7	0.299	0.298	0.200	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3748	3881	ビット	3		P7	0.298	0.296	0.203	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3749	3664	ビット	3		Q7	0.474	0.385	0.443	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	礎石あり
P3750	3665	ビット	3		Q7	0.460	0.403	0.139	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3751	3680	ビット	3		Q7	0.451	0.391	0.256	円形	皿形	黒褐色粘土質シルト	
P3752	3708	ビット	3		P8	0.378	0.364	0.278	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3753	3705	ビット	3		P8	0.610	0.452	0.056	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3754	3885	ビット	3		P8	0.488	0.427	0.110	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3755	3703	ビット	3		P8	0.489	0.482	0.298	円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色粘土質シルト	
P3756	3887	ビット	3		P8	0.401	0.384	0.069	円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3757	3886	ビット	3		P8	0.706	0.242	0.041	楕円形	皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3758	3542	ビット	3		P8	0.366	0.337	0.072	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3759	3925	ビット	3		P8	0.445	0.412	0.229	円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3760	3889	ビット	3		P8	0.281	0.281	0.171	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3761	3891	ビット	3		P8	0.315	0.309	0.086	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3762	3892	ビット	3		P8	0.715	0.450	0.045	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3763	3711	ビット	3		P8	0.698	0.482	0.116	楕円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3764	3893	ビット	3		P8	0.644	0.472	0.084	不整楕円形	不整皿形	黒褐色砂質シルト	
P3765	3733	ビット	3		P8	0.738	0.672	0.069	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3766	3895	ビット	3		P8	0.678	0.550	0.073	不整楕円形	不整皿形	灰黄褐色砂質シルト	
P3767	3874	ビット	3		P8	0.630	0.565	0.094	楕円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3768	3691	ビット	3		P8	0.533	0.390	0.068	楕円形	不整皿形	黒褐色砂質シルト	
P3769	3695	ビット	3		P8	0.785	0.567	0.083	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3770	3690	ビット	3		P8	0.454	0.380	0.070	円形	不整皿形	黒褐色砂質シルト	
P3771	3692	ビット	3		P8	0.374	0.347	0.041	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3772	3688	ビット	3		P8	0.509	0.495	0.127	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3773	3687	ビット	3		P8・Q8	0.454	0.449	0.105	円形	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3774	3686	ビット	3		P8・Q8	0.654	0.418	0.262	不整楕円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3775	3685	ビット	3		Q8	0.571	0.545	0.423	円形	有段U字形	褐灰色砂質シルト	
P3776	3938	ビット	3		Q8	0.444	0.358	0.064	楕円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3777	3684	ビット	3		Q8	0.311	0.293	0.200	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	
P3778	3683	ビット	3		Q8	0.306	0.277	0.272	円形	U字形	黒褐色粘土質シルト	
P3779	3682	ビット	3		Q8	0.266	0.249	0.415	円形	U字形	黒褐色砂質シルト	
P3780	3681	ビット	3		Q8	0.339	0.258	0.295	楕円形	有段U字形	黒褐色砂質シルト	
P3781	3896	ビット	3		P8・9	0.445	0.313	0.259	楕円形	U字形	灰黄褐色砂質シルト	
P3782	3712	ビット	3		P8・9	0.679	0.635	0.046	円形	皿形	黒褐色砂質シルト	
P3783	3734	ビット	3		Q8	0.397	0.394	0.329	円形	有段U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色砂質シルト	
P3784	4054	ビット	4		O2	0.783	0.412	0.107	楕円形	浅いU字形	黒褐色粘土質シルト	Tr5 拡張で検出
P3785	4055	ビット	4		P2	0.551	0.450	0.217	円形	浅いU字形	黒褐色粘土質シルト	Tr5 拡張で検出
P3786	4056	ビット	4		P2	0.314	0.393	0.138	円形	浅いU字形	黒褐色粘土質シルト	Tr5 拡張で検出
P3787	4058	ビット	4		O5	0.379	0.357	0.128	円形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	Tr1 拡張-1で検出、第3面からの掘り込み
P3788	4059	ビット	4		O5	0.384	0.368	0.357	楕円形	V字形	黒褐色砂質シルト	Tr1 拡張-1で検出、第3面からの掘り込み、杭穴か
P3789	4060	ビット	4		O5	0.416	0.399	0.096	円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	Tr1 拡張-1で検出
P3790	4028	ビット	4		P11	0.720	(0.268)	0.033	楕円形?	皿形	褐灰色砂質シルト	
P3791	4027	ビット	4		P11	0.330	0.321	0.143	円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	
P3792	4063	ビット	4		M5	0.850	0.420	0.203	楕円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	Tr7で検出
P3793	4068	ビット	3		P4	0.252	0.238	0.093	円形	浅いU字形	黒褐色粘土質シルト	Tr6 拡張
P3794	4062	ビット	4		Q20	0.453	0.453	0.053	円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	Tr8で検出
SD3001	3305	竪穴住居跡壁溝	2	SI3002	M3 N2・3	4.912	0.485	0.103	溝状	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	
SD3002	3540	竪穴住居跡小溝	2	SI3002	M3・N3	2.830	0.564	0.092	溝状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3003	3984	竪穴住居跡小溝	2	SI3002	M3・N3	2.105	0.552	0.085	溝状	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	
SD3004	3524	竪穴住居跡壁溝	2	SI3009	O2・3	3.321	0.763	0.126	隅丸長方形に閉じた溝	一部段状	黒褐色砂質シルト	SI3009(旧 3524) から独立
SD3005	3408	竪穴住居跡壁溝	2	SI3001	P3	3.442	0.335	0.105	溝状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3006	3355	竪穴住居跡壁溝	2	SI3005	N4・O4	5.944	0.460	0.150	溝状、孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3007	3377	竪穴住居跡壁溝	2	SI3006	N5 O4・5	7.902	0.380	0.061	溝状、孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3008	3997	竪穴住居跡壁溝	2	SI3011	O6	7.491	0.830	0.072	溝状、環状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3009	3939	竪穴住居跡周壁	2	SI3010	O7・8	5.130	0.591	0.085	溝状、孤状	浅いU字形	暗褐色砂	
SD3010	3402	竪穴住居跡壁溝	2	SI3007	O8・9	7.280	0.405	0.070	溝状、孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	

表 21 3区 遺構一覧表 12

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
SD3011	3400	竪穴住居跡小溝	2	SI3007	O8	3.890	0.340	0.065	溝状、孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3012	3399	竪穴住居跡小溝	2	SI3007	O8	1.770	0.352	0.069	溝状、孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3013	3390	竪穴住居跡小溝	2	SI3007	O8	0.740	0.134	0.104	溝状、孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3014	3406	竪穴住居跡小溝	2	SI3007	O9	4.060	0.350	0.080	溝状、孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	旧 3406 から独立
SD3015	3406	竪穴住居跡小溝	2	SI3007	O8・9	3.102	0.372	0.104	溝状、孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3016	3402	竪穴住居跡小溝	2	SI3007	O8・9 P8・9	3.762	0.344	0.053	溝状、孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	旧 3402 から独立
SD3017	3404	竪穴住居跡壁溝	2	SI3007	P8・9	2.168	0.278	0.087	溝状、孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3018	3533	竪穴住居跡壁溝	2	SI3007	O8・9 P8・9	6.010	0.142	0.070	環状	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	
SD3019	3309	竪穴住居跡壁溝	3	SI3014	N2・3	5.259	0.310	0.110	楕円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	SI3003 に切られる
SD3020	4001	竪穴住居跡壁溝	3	SI3015	N4・5	7.073	0.492	0.071	環状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3021	3649	竪穴住居跡壁溝	3	SI3013	O4・P4	8.419	0.470	0.051	孤状	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	SD3021(旧 3650) を吸収
SD3021	3650	竪穴住居跡小溝	3	SI3013	O4・P4	-	-	-	孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	SD3021(旧 3649) に吸収
SD3022	3648	竪穴住居跡小溝	3	SI3013	O4	4.622	0.340	0.057	孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3023	3648	竪穴住居跡小溝	3	SI3013	O4	1.192	0.278	0.075	孤状	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	
SD3024	3947	竪穴住居跡小溝	3	SI3013	O4	5.122	0.350	0.037	孤状	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	P3507 に切られる
SD3025	3978	竪穴住居跡小溝	3	SI3013	O4・P4	3.778	0.580	0.128	孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SD3026	3647	竪穴住居跡小溝	3	SI3013	O4	4.306	0.310	0.059	孤状	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	P3492・P3493 に切られる、SD3027 を切る
SD3027	3979	竪穴住居跡小溝	3	SI3013	O4	3.318	1.170	0.185	孤状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SI3001	3001	竪穴住居跡	2		P3	3.442	2.665	0.024	隅丸長方形	盤形	黒褐色砂質シルト	黄色砂層を切って構築
SI3002	3054	竪穴住居跡	2		M2・3 N2・3	5.096	(1.767)	0.100	(円形)	盤形	黒褐色砂質シルト	周溝を有する、東側は調査区外に延びる
SI3003	3055	竪穴住居跡	2		N3	6.007	5.689	0.216	円形	盤形	黒褐色砂質シルト	周溝未検出
SI3004	3010	竪穴住居跡	2		N3・4 O3・4	4.758	4.261	0.206	円形	盤形	黒褐色砂質シルト	SI3005 を切る
SI3005	3011	竪穴住居跡	2		N4・O4	7.491	7.147	0.371	円形	有段盤形	黒褐色砂質シルト	SI3004 に切られる
SI3006	3012	竪穴住居跡	2		N5 O4・5	7.902	7.437	0.132	円形	盤形	黒褐色砂質シルト	SI3015 を切る
SI3007	3013	竪穴住居跡	2		O8・9 P8・9	7.917	6.106	0.074	楕円形	盤形	黒褐色砂質シルト	
SI3008	3014	竪穴住居跡	2		P12・13 Q12・13	6.205	6.155	0.192	不整形円形	盤形	黒褐色砂質シルト	周溝未検出、洪水砂による破壊を受ける
SI3009	3524	竪穴住居跡	2		O2・3	3.321	2.639	0.192	隅丸長方形	盤形	黒褐色砂質シルト	小型、幅の不均質な周溝を有する
SI3010	3954	竪穴住居跡	2		O7・8	6.349	5.846	0.118	楕円形	盤形	黒褐色砂質シルト	
SI3011	3996	竪穴住居跡	2		O6	4.539	4.179	0.130	円形	盤形	黒褐色砂質シルト	
SI3012	3930	竪穴住居跡	2		P6	4.260	3.850	0.088	(円形)	盤形	黒褐色砂質シルト	
SI3013	3638	竪穴住居跡	3		O4・P4	8.419	8.283	0.166	不整形円形	盤形	黒褐色砂質シルト	SI3005 に切られる、黒褐色の酸化マンガン沈着層が上面を覆う、周溝を有する、複数回の拡張あり
SI3014	3860	竪穴住居跡	3		N2・3	5.259	4.880	0.072	不整形円形	盤形	黒褐色砂質シルト	
SI3015	4000	竪穴住居跡	3		N4・5	7.073	6.917	0.054	円形	盤形	黒褐色砂質シルト	SI3006 に切られる
SK3001	3030	土坑	1		O12	1.794	1.739	0.171	円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	礫集中
SK3002	3027	土坑	1		N13	1.465	1.207	0.231	不整形円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	礫集中
SK3003	3004	土坑	2		O2	0.751	0.665	0.091	楕円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	弥生土器集中、土器棺墓か
SK3004	3291	土坑	2		P2	1.275	0.794	0.141	楕円形	浅いU字形	灰黄褐色砂質シルト	
SK3005	3306	竪穴住居跡中央土坑	2	SI3003	N3	2.278	1.693	0.267	円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SK3006	3060	土坑	2		N3	2.646	0.465	0.047	円形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	
SK3007	3056	土坑	2		N3・O3	9.318	0.873	0.281	溝状	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SK3008	3058	土坑	2		O3・4	6.475	0.669	0.322	溝状	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	
SK3009	3005	土坑	2		P2・3	5.681	0.673	0.101	溝状	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	
SK3010	3827	土坑	2		P3・Q3	2.316	0.841	0.340	細長い楕円形	浅いU字形	黒褐色粘土質シルト	
SK3011	3378	土坑	2		M4	1.160	0.742	0.086	楕円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SK3012	3152	土坑	2		N4	1.565	1.284	0.204	不整形円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SK3013	3136	土坑	2		N4・5	3.461	1.214	0.304	隅丸方形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	遺物集中、SI3015 を切る
SK3014	3284	土坑	2		P3・4	1.161	0.824	0.270	不整形楕円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	
SK3015	3273	土坑	2		P4	1.289	0.928	0.228	楕円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	
SK3016	3128	土坑	2		N5	1.178	1.001	0.333	不整形円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SK3017	3141	土坑	2		N5・6	1.655	1.447	0.167	不整形円形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	
SK3018	3090	竪穴住居跡中央土坑	2	SI3006	N5・O5	1.326	1.243	0.493	円形	浅いU字形	灰黄褐色砂質シルト	
SK3019	3215	土坑	2		O5	1.087	0.875	0.273	楕円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	SI3006 を切る
SK3020	3061	土坑	2		O5・P5	2.965	2.903	0.201	不整形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	土器集中
SK3021	3323	土坑	2		P5	1.176	0.778	0.094	楕円形	浅いU字形	灰黄褐色砂質シルト	
SK3022	3207	土坑	2		N6	0.930	0.908	0.213	円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SK3023	3992	竪穴住居跡中央土坑	2	SI3011	O6	0.600	0.425	0.226	楕円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SK3024	3443	土坑	2		O6	2.338	0.746	0.186	不整形楕円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	遺物あり
SK3025	3454	土坑	2		O6	0.894	(0.530)	0.158	不整形楕円形	浅いU字形	灰黄褐色砂質シルト	遺物あり
SK3026	3065	竪穴住居跡土坑	2	SI3012	P6	1.222	1.035	0.139	不整形四角形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	SK3064 を切る、直上に攪乱を受ける
SK3027	3064	竪穴住居跡土坑	2	SI3012	P6	1.250	0.755	0.073	不整形四角形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	銅銅片出土、SK3065 に切られる、直上に攪乱を受ける
SK3028	3069	竪穴住居跡土坑	2	SI3012	P6	1.094	0.672	0.116	不整形四角形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	
SK3029	3066	竪穴住居跡土坑	2	SI3012	P6	1.367	0.774	0.043	不整形四角形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	SK3029 と P3198 に分離
SK3030	3343	土坑	2		Q7	1.944	0.938	0.169	不整形楕円形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	
SK3031	3973	土坑	2		N8・O8	(1.201)	0.735	0.071	楕円形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	P3372 に切られる
SK3032	3266	竪穴住居跡中央土坑	2	SI3010	O8	0.897	0.896	0.152	円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SK3033	3927	土坑	2		O8	(1.167)	0.840	0.211	不整形楕円形	浅いU字形	灰黄褐色砂質シルト	攪乱に上面・北側を切られる
SK3034	3303	土坑	2		P8	3.134	2.567	0.137	不整形	浅いU字形	灰黄褐色砂質シルト	
SK3035	3171	竪穴住居跡中央土坑	2	SI3007	O8・9	1.001	0.805	0.374	楕円形	浅いU字形	暗褐色シルト	
SK3036	3527	竪穴住居跡中央土坑	2	SI3007	O8	1.203	0.574	0.296	楕円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	
SK3037	3122	土坑	2		N9・10	4.228	1.275	0.256	溝状	浅いU字形	灰黄褐色砂質シルト	北側は調査区外に延びる
SK3038	3471	土坑	2		O9	1.393	0.652	0.085	不整形楕円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SK3039	3302	土坑	2		O9・P9	3.452	3.001	0.290	不整形四角形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	SI3007 を切る
SK3040	3494	土坑	2		O9	1.794	0.464	0.505	溝状	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	耕作跡の下層に検出
SK3041	3495	土坑	2		O9	(2.247)	0.977	0.298	溝状	浅いU字形	灰黄褐色砂質シルト	耕作跡の下層に検出、P3068 を切る
SK3042	3345	土坑	2		O10・11 P10・11	2.465	1.555	0.181	不整形楕円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	
SK3043	3421	土坑	2		P10	0.997	0.734	0.125	不整形楕円形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	

表 22 3区 遺構一覧表 13

遺構番号	現場通し番号	遺構性格	面	所属遺構	Grid	長軸 (m)	短軸 (m)	確認面からの深さ (m)	平面形	断面形	埋土 (主体土)	備考
SK3044	3117	土坑	2		N11	1.040	0.912	0.094	不整形円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	
SK3045	3017	土坑	2		O11	2.954	(1.687)	0.168	長方形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	暗渠排水に切られる
SK3046	3070	土坑	2		O11	1.015	0.664	0.030	楕円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	SX3003を切る、土坑墓の可能性あり
SK3047	3016	土坑	2		P11	3.743	2.671	0.140	不整形三角形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	弥生中期高杯出土
SK3048	3535	土坑	2		P11	1.830	1.708	0.319	不整形円形	浅いU字形	灰黄褐色砂質シルト	
SK3049	3019	土坑	2		P11	2.729	2.632	0.273	隅丸長方形	浅いU字形	灰黄褐色砂質シルト	
SK3050	3015	土坑	2		P12	1.061	(0.056)	0.305	不整形楕円形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	土器集中、Tr1に北半分を切られる
SK3051	3488	竪穴住居跡中央土坑	2	SI3008	Q12	1.409	0.891	0.368	楕円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SK3052	3538	竪穴住居跡中央土坑	2	SI3008	Q12・13	1.098	0.629	0.208	楕円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	
SK3053	3020	土坑	2		P12・13	3.182	3.106	0.182	不整形長方形	浅いU字形	灰黄褐色砂質シルト	SI3008に接する
SK3054	3503	土坑	2		Q13	(2.948)	(2.153)	0.121	不整形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	SI3008を切る
SK3055	3051	土坑	2		Q13	2.874	1.390	0.165	瓢箪形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	土器集中、中世以降か
SK3056	3052	土坑	2		Q18	3.067	1.426	0.141	不整形楕円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	土器集中
SK3057	3563	土坑	3		P2	1.111	0.735	0.181	不整形楕円形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	植物痕の可能性
SK3058	3899	土坑	3		M3	1.155	0.744	0.165	楕円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	
SK3059	3901	土坑	3		M3	1.735	0.228	0.039	溝状	浅いU字形	にぶい黄褐色砂質シルト	
SK3060	3312	竪穴住居跡中央土坑	3	SI3014	N3	0.795	0.680	0.108	楕円形	浅いU字形	褐灰色砂質シルト	SK3061を切る
SK3061	3982	竪穴住居跡中央土坑	3	SI3014	N3	0.704	0.683	0.114	楕円形	浅いU字形	黒褐色砂質シルト	SK3060に切られる
SK3062	3902	土坑	3		N3	1.388	(0.809)	0.088	隅丸長方形	皿形	暗褐色砂質シルト	SK3056に切られる
SK3063	3868	土坑	3		N3	1.335	0.838	0.083	楕円形	盤形	黒褐色砂質シルト	SK3062に接する
SK3064	3725	土坑	3		O3	0.885	(0.837)	0.100	楕円形	皿形	暗褐色砂質シルト	P3564に切られる
SK3065	3576	土坑	3		O3	1.473	0.963	0.181	隅丸長方形	浅いU字形	上層：にぶい黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色砂質シルト	
SK3066	4010	土坑	3		M4・N4	(1.834)	0.278	0.022	溝状	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	
SK3067	3821	土坑	3		O4	1.069	(0.344)	0.126	楕円形	皿形	暗褐色砂質シルト	北側を Tr1 に切られる
SK3068	3834	竪穴住居跡中央土坑	3	SI3013	O4	(1.244)	1.205	0.123	不整形楕円形	有段U字形	暗褐色砂質シルト	旧 3834 が旧 3965 の一部を吸収して SK3068 となる、SK3068 が SK3069 を切る
SK3068	3965	竪穴住居跡中央土坑	3	SI3013	O4			0.000	不整形楕円形	有段U字形	暗褐色砂質シルト	SK3068 と SK3069 の 2 基に分割、SK3068 が SK3069 を切る
SK3069	3965	竪穴住居跡中央土坑	3	SI3013	O3	1.229	(0.891)	0.376	楕円形	U字形	黄褐色砂質シルト	SK3068 と SK3069 の 2 基に分割、SK3069 は SK3068 に切られる
SK3070	3897	竪穴住居跡土坑	3	SI3013	O4	2.195	(1.215)	0.371	楕円形	不整形皿形	灰黄褐色砂質シルト	周溝群を切る
SK3071	3641	竪穴住居跡土坑	3	SI3013	O4・P4	(2.267)	1.041	0.054	不整形	皿形	黒褐色砂質シルト	P3504・P3505を切る、周溝範囲にのみ広がる
SK3072	3635	土坑	3		O4・P4	1.040	0.884	0.125	楕円形	盤形	黒褐色砂質シルト	
SK3073	3618	土坑	3		P4	(0.873)	0.750	0.296	楕円形	浅いU字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：にぶい黄褐色砂質シルト	
SK3074	4013	土坑	3		M5	(1.302)	0.447	0.087	楕円形	皿形	暗褐色砂質シルト	北側は調査区外に延びる
SK3075	3139	竪穴住居跡土坑	3	SI3015	N5	1.410	0.980	0.105	楕円形	浅いU字形	暗褐色砂質シルト	P3457に切られる、SD3027を切る
SK3076	3089	竪穴住居跡中央土坑	3	SI3015	N5	(0.786)	0.782	0.332	不整形楕円形	U字形	暗褐色砂質シルト	北側を暗渠排水に切られる
SK3077	3188	竪穴住居跡土坑	3	SI3015	N5	(1.461)	0.988	0.149	不整形楕円形	皿形	暗褐色砂質シルト	SD3027を切る
SK3078	3719	土坑	3		O5	1.108	0.845	0.263	楕円形	不整形皿形	黒褐色砂質シルト	
SK3079	3661	土坑	3		O5・P5	2.217	0.712	0.161	細長い楕円形	皿形	暗褐色砂質シルト	
SK3080	3972	土坑	3		P4・5	0.982	0.900	0.299	不整形楕円形	皿形	暗褐色砂質シルト	植物痕の可能性
SK3081	3761	土坑	3		P4・5	0.923	0.885	0.238	円形	U字形	褐灰色砂質シルト	暗渠排水に切られる
SK3082	3699	土坑	3		P7	(0.892)	0.718	0.123	不整形楕円形	U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	植物痕の可能性
SK3083	3698	土坑	3		P8	0.911	0.754	0.445	不整形楕円形	不整形U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	植物痕の可能性
SK3084	3696	土坑	3		P8	0.861	0.835	0.497	円形	有段U字形	上層：灰黄褐色砂質シルト 下層：褐灰色砂質シルト	植物痕の可能性
SK3085	4053	土坑	3		O10・11	0.871	0.555	0.245	楕円形	浅いU字形	上層：褐灰色砂質シルト 下層：黒褐色砂質シルト	
SK3086	3998	土坑	3		P12	(1.645)	0.898	0.350	細長い楕円形	U字形	褐灰色砂質シルト	Tr3に切られる、黒色土層を掘り下げた面で検出、土器片微量
SK3087	4079	土坑	4		P14	1.160	1.143	0.100	円形	皿形	暗褐色砂質シルト	Tr1 拡張 - 4 で検出、礫集中遺構、時代不明、第 2 面以前のものの可能性が高い
SX3001	3021	木棺墓	2		N10	1.866	0.928	0.181	隅丸長方形	盤形	木棺部：黒褐色シルト 掘方：暗褐色砂質シルト	
SX3002	3022	木棺墓	2		N11	2.287	1.085	0.125	隅丸長方形	盤形	木棺部：黒褐色シルト 掘方：暗褐色砂質シルト	
SX3003	3023	木棺墓	2		O11	2.415	1.410	0.139	隅丸長方形	盤形	木棺部：黒褐色シルト 掘方：暗褐色砂質シルト	SK3049に切られる、水晶玉出土
SX3004	3512	木棺墓	2		N10・O10	2.605	1.326	0.074	隅丸長方形	盤形	木棺部：黒褐色シルト 掘方：暗褐色砂質シルト	
落ち込み 3001	番号なし	自然地形の落ち込み	4		O5	(5.217)	(2.621)	-	台形状	浅いU字形	黒色シルト、明黄灰色砂	Tr1 拡張 -1 で検出、礫と砂を比較的多く含む、酸化鉄沈着、弥生時代以前の川縁
落ち込み 3002	番号なし	自然地形の落ち込み	4		P11	4.358	2.248	-	不整形楕円形	浅いU字形	黒色シルト、明黄灰色砂	Tr1 拡張 -3 で検出、やや大型の礫を多く含む、弥生時代以前の再堆積層
落ち込み 3003	番号なし	自然地形の落ち込み	4		P13・14	(8.909)	(1.398)	0.139	不整形	傾斜面	黒色シルト、明黄灰色砂	Tr1 拡張 -4 で検出、弥生時代以前の自然地形の落ち込み
倒木痕 3001	番号なし	倒木痕	4		O7・P7	3.745	2.130	-	不整形楕円形	U字形	黒色土・黄褐色砂	Tr1 拡張 -2 で検出
倒木痕 3002	番号なし	倒木痕	4		P12・Q12	2.901	2.829	-	不整形楕円形	U字形	黒色土・黄褐色砂	Tr1 拡張 -3 で検出
倒木痕 3003	3053	倒木痕	4		P17・18 Q17・18	4.690	1.961	-	不整形	U字形	黒色土・黄褐色砂	Tr 2 拡張で倒木痕と確認

第2章 奈免羅・西の前遺跡出土遺物の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

今回の分析調査では、奈免羅・西の前遺跡Ⅱ-3区で検出された構築時期不明のP 3662柱根の樹種同定および年代測定を実施した。また、同じく3区SI3012内SK3027から出土した銅釧について蛍光X線分析を実施した。

第1節 P3662柱根の年代と樹種

第1項 調査目的

3区で検出されたP3662柱根は、層位的には弥生時代中期の遺構検出面に相当するが、供出する遺物がなく、年代等を特定することができなかった。そこで、柱根について放射性炭素年代測定を実施し年代に関する情報を得ることにした。また、樹種同定をおこない、当該期の木材利用に関する情報を得ることも合わせて実施した。

第2項 試料と方法

調査対象である柱根は、芯持丸木の木取りで、試料は柱根上部の残存する外側の年輪部分より採取した。

1. 放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後HClにより炭酸塩等酸可溶成分の除去、NaOHにより腐植酸等アルカリ可溶成分の除去、HClによりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分の除去をおこなう(酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1gの酸化銅(Ⅱ)と銀箔(硫化物を除去するため)を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃(30分)850℃(2時間)で加熱する。液体窒素と液体窒素+エタノールの温度差を利用し、真空ラインにてCO₂を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製したCO₂と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを650℃で10時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径1mmの孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV小型タンデム加速器をベースとした14C-AMS専用装置(NEC Pelletron 9SDH-2)を使用する。AMS測定時に、標準試料である米国国立標準局(NIST)から提供されるシュウ酸(HOX-Ⅱ)とバックグラウンド試料の測定もおこなう。また、測定中同時に¹³C/¹²Cの測定もおこなうため、この値を用いてδ¹³Cを算出する。

放射性炭素の半減期はLIBBYの半減期5568年を使用する。また、測定年代は1950年を基点とした年代(BP)であり、誤差は標準偏差(One Sigma;68%)に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ

Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表している。試料が木材であることから、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 σ 、 2σ 双方の値を計算する。 σ は統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、 2σ は真の値が 95% の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、 σ 、 2σ の範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

2. 樹種同定

剃刀の刃を用いて木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の 3 断面の徒手切片を作製し、ガム・クロラール (抱水クロラール, アラビアゴム粉末, グリセリン, 蒸留水の混合液) で封入し、プレパラートを作製する。生物顕微鏡で木材組織の種類や配列を観察し、その特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982) や Wheeler 他 (1998) を参考にする。また、日本産木材の組織配列については、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定結果

放射性炭素年代測定および暦年較正結果を表 23 に示す。P3662 柱根の補正年代は、 $2,060 \pm 30\text{BP}$ を示す。また、測定誤差を σ として計算させた暦年較正結果は、 $\text{calBC}2,204\text{-}2,040$ の範囲を示す。

表 23 放射性炭素年代測定および暦年較正結果

地区	遺物名 樹種	測定年代 (BP)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	補正年代 (BP)	暦年較正年代 (cal)								Code No.					
					誤差	cal BC/AD				cal BP				相対比				
3 区	3616 柱根 クリ	$2,040 \pm 30$	-23.26 ± 0.55	2060 ± 30 ($2,064 \pm 29$)	σ	cal	BC	154	-	cal	BC	137	cal	BP	2,103	-	2,086	0.143
						cal	BC	113	-	cal	BC	42	cal	BP	2,062	-	1,991	0.857
					2σ	cal	BC	169	-	cal	BC	17	cal	BP	2,118	-	1,966	0.952
						cal	BC	15	-	cal	AD	0	cal	BP	1,964	-	1,950	0.048

- 測定年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。
- BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。
- BP 年代に付記した誤差は、測定誤差 σ (測定値の 68% が入る範囲) を年代値に換算した値。
- 暦年較正計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02 (Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を使用している。
- 暦年較正計算に補正年代の括弧内の丸める前の値を使用している。
- 暦年較正結果は 1 桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように 1 桁目を丸めていない。
- 暦年較正の誤差 σ は、統計的に真の値が入る確率 68%、 2σ が 95% である
- 暦年較正相対比は、 σ 、 2σ のそれぞれを 1 とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

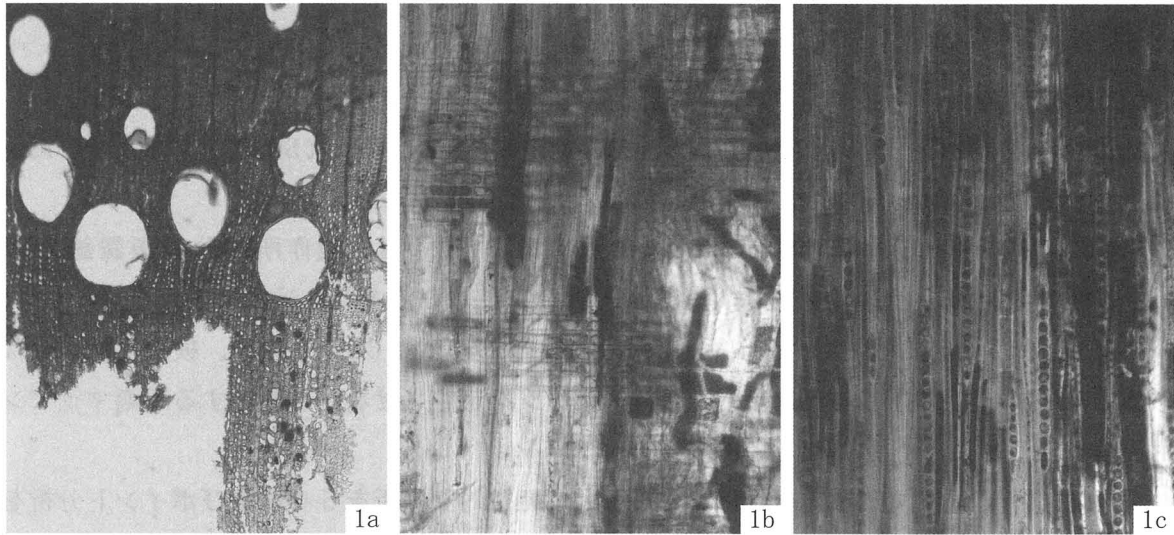
(2) 樹種同定結果

柱根の樹種は、落葉広葉樹のクリに同定された。以下に解剖学的特徴等を記す。

・クリ (*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.) ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3～4列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

図97 木材



1. クリ (3区 P3662柱根)

a: 木口, b: 柁目, c: 板目

300 μ m: a
200 μ m: b, c

4. 考察

3区より出土したP3662柱根の樹種は落葉広葉樹のクリであった。また、年代値は、補正年代値で 2060 ± 30 BP、暦年較正結果では2 σ で最も相対比が高い値でcal BC 169-17を示した。

今回の年代値は、春成・今村編(2004)・西本編(2006・2007)の暦年較正結果と考古学編年との対応を参照すると、弥生時代中期～後期前半の時期に相当することが推定される。調査区内で検出されている竪穴住居跡が弥生時代中期後葉に相当することとも同調的な結果といえる。また、県内では、日本海沿岸部の沖積地に位置する青谷上寺地遺跡において、弥生時代中期から古墳時代にかけての年代測定結果が多数蓄積されてきている(鳥取県埋蔵文化財センター, 2009)。これらの年代値には、今回の年代値と類似する値が確認されることから、今後、考古編年に基づく地域間での比較検討が課題である。

一方、柱根の樹種であるクリは、二次林などに普通に見られる落葉高木であり、木材は重硬で強度・耐朽性が高い材質を有する。したがって、柱材としては適材といえる。本地域では、建築材の樹種同定結果が少ないものの、日本海沿岸部では、秋里遺跡(鳥取市)の弥生時代後期～古墳時代初頭の柱材にスギを主体としてヒノキが混じる組成が確認されている(財団法人鳥取県教育文化財団, 1990)。また、先述の青谷上寺地遺跡では弥生時代中期～古墳時代初頭にかけての建築部材にスギが多用されていることが確認されている。このように沿岸部に位置する遺跡では針葉樹材が多用されている傾向があり、今回の結果とは異なる。地域間での木材利用のあり方の違いについては、今後、さらに情報の蓄積が必要である。

第2節 銅釧の蛍光X線分析

第1項 調査目的

今回分析対象とする銅釧は、弥生時代中期後葉に比定される竪穴住居跡内の土坑から出土しており、北部九州など当時の先進地域と何らかの関連を考えられる勢力が因幡南東部に存在し、この地が交易の拠点となっていた可能性を示唆する遺物である。そこで、今回は非破壊で蛍光X線分析をおこない、その材質に関する情報を得ることとする。

第2項 試料と方法

分析対象資料は、奈免羅・西の前遺跡Ⅱ-3区竪穴住居跡SI3012内の土坑SK3027より出土した銅釧で、供出した弥生土器から弥生時代中期後葉のものと考えられている。

分析装置はエネルギー分散型蛍光X線分析装置である(株)堀場製作所製分析顕微鏡XGT-5000TypeⅡを使用した。装置の仕様は、X線管が最大50kV、1.00mAのロジウム(Rh)ターゲット、X線ビーム径が100 μ mまたは10 μ m、検出器は高純度Si検出器(Xerophy)で、検出可能元素はナトリウム(Na)～ウラン(U)である。また、試料ステージを走査させながら測定する元素マッピング分析も可能である。

分析に先立って予め元素マッピング分析をおこない、特徴的な箇所を5ヶ所選びポイント分析をおこなった。測定条件は、50kV、0.10～0.20mA(自動設定)、ビーム径100 μ m、測定時間3000sに設定し、非破壊でおこなった。定量分析は、MBH Analytical社の32X LB14(batch A)を用いて補正したファンダメンタル・パラメーター法(以下FP法)による半定量分析を装置付属ソフトでおこなった。定量値の解釈については大まかな参考値程度にとどめておくべきである。

第3項 結果および考察

図98に5ヶ所(a～e)の分析ポイントを示した元素マッピング図、図99にポイント分析のスペクトル図、表24にポイント分析により得られたFP法による半定量分析結果を示す。ケイ素、鉄等土砂に多く含まれる元素を除くと、銅(Cu)、スズ(Sn)、鉛(Pb)が主に検出され、他にニッケル(Ni)、ヒ素(As)、銀(Ag)、アンチモン(Sb)、ビスマス(Bi)が検出された。

分析の結果、銅、スズ、鉛を中心とした組成であることが判明した。また、ニッケル、ヒ素、銀、アンチモン、ビスマスといった元素については、微量であることから鉱石から分離しきれなかった不純物と考えられる。半定量分析であること、かつ非破壊分析で鏝の上からの測定であることから、分析結果より厳密な組成比については検討すべきではないが、全体的にスズの割合が高い傾向が見られた。これは古代青銅器の非破壊での蛍光X線分析では見られる傾向であり、埋蔵環境中に銅が溶け出す脱銅化現象によるものであることが村上ら(2003)によって指摘されている。以上より、定性的にはCu-Sn-Pbの銅合金、すなわち青銅の一種に分類するのが妥当と考えられる。

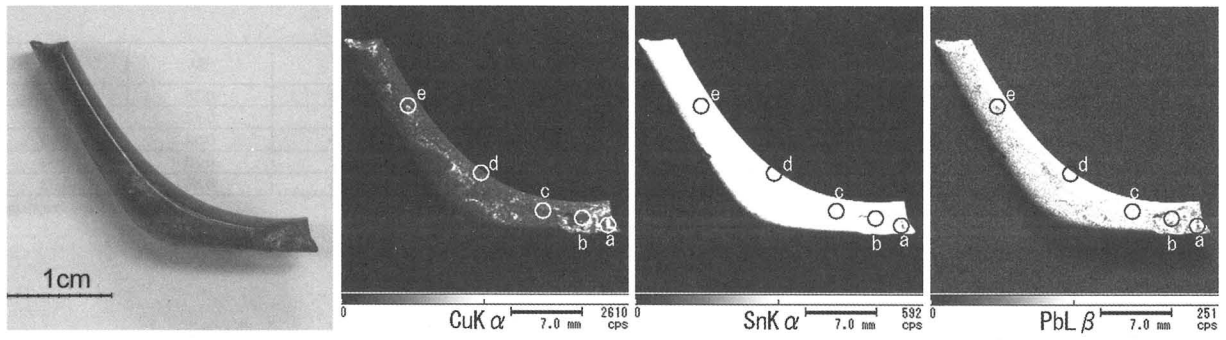


図98 有鉛銅鉛の元素マッピング図

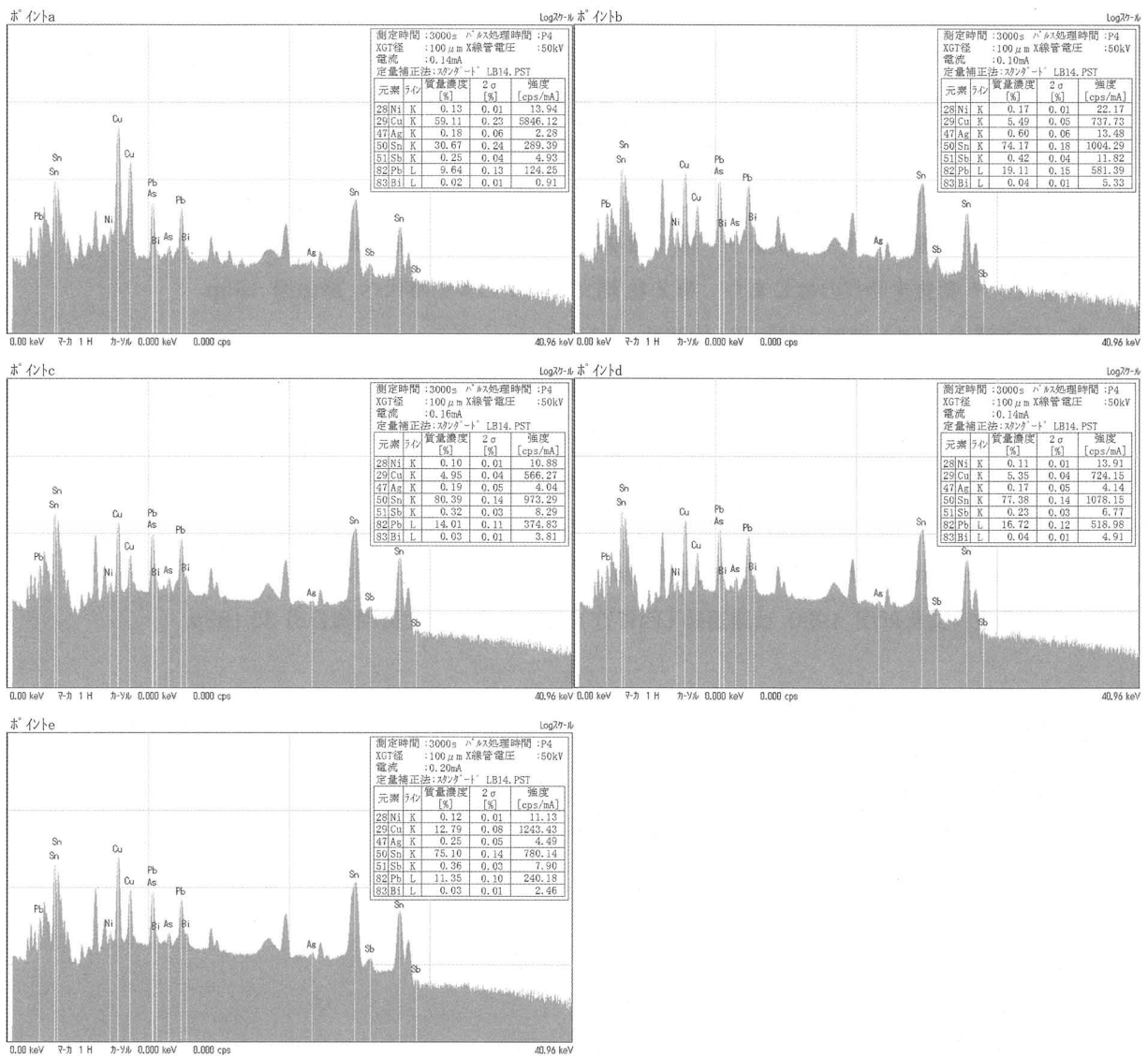


図99 ポイント分析スペクトル図

表 24 半定量分析結果 (mass%)

分析 ポイント	Cu	Sn	Pb	Ni	As	Ag	Sb	Bi
a	59.11	30.67	9.64	0.13	*	0.18	0.25	0.02
b	5.49	74.17	19.11	0.17	*	0.60	0.42	0.04
c	4.95	80.39	14.01	0.10	*	0.19	0.32	0.03
d	5.35	77.38	16.72	0.11	*	0.17	0.23	0.04
e	12.79	75.10	11.35	0.12	*	0.25	0.36	0.03

*: 定量できず (ピークのみ検出)

<引用文献>

- 春成秀爾・今村峯雄編 2004 弥生時代の新年代. 学生社, 253p.
- 林 昭三 1991 日本産木材 顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.
- 伊東隆夫 1995 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料 31 京都大学木質科学研究所, 81-181.
- 伊東隆夫 1996 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料 32 京都大学木質科学研究所, 66-176.
- 伊東隆夫 1997 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料 33 京都大学木質科学研究所, 83-201.
- 伊東隆夫 1998 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料 34 京都大学木質科学研究所, 30-166.
- 伊東隆夫 1999 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料 35 京都大学木質科学研究所, 47-216.
- 村上隆・山崎一雄 2003 椿井大塚山古墳出土三角縁神獣鏡の金属学的キャラクターゼーション. 文化財保存修復学会第 25 回大会発表要旨集, 22-23.
- 西本豊弘 編 2006 新弥生時代のはじまり 第 1 巻 弥生時代の新年代. 雄山閣, 143p.
- 西本豊弘 編 2007 新弥生時代のはじまり 第 2 巻 縄文時代から弥生時代へ. 雄山閣, 185p.
- 島地 謙・伊東隆夫 1982 図説木材組織. 地球社, 176p.
- 鳥取県埋蔵文化財センター 2009 青谷上寺地遺跡 10 第 9 次発掘調査報告書. 鳥取県埋蔵文化財センター調査報告 27.
- Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.(編) 1998 広葉樹材の識別 IAWA による光学顕微鏡の特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩 (日本語版監修), 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E.(1989) *IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification*].
- 財団法人鳥取県教育文化財団 1990 秋里遺跡 (西皆竹), 鳥取県教育文化財団報告書 25, 189p.

第3章 総括

第1節 2区大溝について

島田裕弘

2区で検出されたSD2012・SD2013・SD2014の3条の大溝はその規模と遺物量から、2区の調査を象徴する遺構であるといえる。1986年に実施された奈免羅・西の前遺跡第1次調査では同時期とみられる溝状遺構が検出されており、これとの関連性が高いと考える。本節では、当調査における調査所見を再整理し、第1次調査との比較を主とした若干の考察をおこなう。

1. 大溝調査概要

遺構の検出と帰属 第2面調査において、調査区東部で検出された3本の大溝は、検出基盤層に酷似する埋土のために検出が困難と判断し、2-7層（北部では2-8層）除去後の第2面遺構として調査を実施した。しかし、断面観察から層位上の帰属はその他の第2面遺構と同じ2-6層除去面となることが確認された。2-7層は調査区南部に向かって厚く堆積しており、それに伴い検出面は南に下がることになるが、プランが確認できない以上は面を下げざるを得なかった。最も低い南端部では溝上層部を40%ほど削った段階でようやく検出するに至った。

新旧関係と時期 切り合い関係と出土遺物の時期観から推定される大溝の機能時期は以下の通りである。

SD2012: 弥生時代後期中葉以前?～弥生時代後期後葉（弥生時代終末期前半）

SD2014: 弥生時代後期後葉～弥生時代終末期後半（古墳時代前期前葉）

SD2013: 弥生時代終末期後半～古墳時代前期前葉（古墳時代前期中葉）

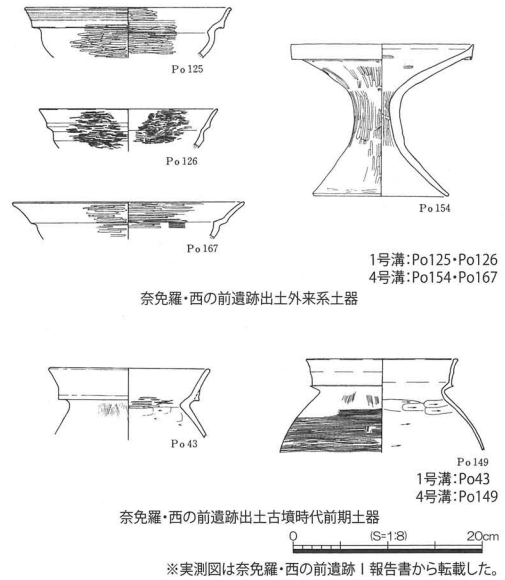
遺物時期からはSD2012とSD2014が併存しても問題なさそうだが、遺物は時期幅を持つため確定的ではない。同じ大溝同士であるSD2013とSD2014が切り合い関係を持つことから、各溝は微妙に時期を違えて一本ずつ存在していたと考えたい。ただし、同位置・同方向にわざわざ新しい溝を掘り直す目的は不明である。

溝の機能 大溝の掘削には大変な労力が必要である。固く締った砂礫層・湧水のある粘土層等の土質に関わらず深く掘り込む目的は溝底面の平坦化にあるといえ、その目的は水を流すために他ならないと考える。これはSD2014に機能層が確認されたことで実証された。計測値からは北東方向へ下がる傾斜が想定され、流れの先約100mには八東川がある。当時の八東川本流が現在の位置と大きく変わらないと仮定するならば、大溝は八東川に接続する排水路としての機能を持っていたと推定される。SD2013・SD2014では明確な機能層は確認できなかったが、大溝の類似性を考えると同じく水路としての機能を持っていた可能性が高いと考える。加えて、SD2014では流れを維持・管理していた可能性が示されている。単に排水目的だけの溝なら常時水流があるとは考えにくい。全貌が明らかでない以上憶測でしかないが、常時流れがあったとなるとこれらの大溝は水源と八東川とを接続する長大な水路となる可能性があるのではないだろうか。

溝の廃絶について 大溝は全て人為的な埋め立てによって廃絶する。礫質が強い埋め立て土はその位置の基盤層（2-7層・2-8層）と類似することから、供給源はすぐ近くと考えられる。溝開削時の掘削土を利用して溝に沿って築かれていたであろう堤か、あるいは次の溝の掘削土をそのまま埋め立て

大溝比較表	奈免羅・西の前遺跡Ⅱ			奈免羅・西の前遺跡Ⅰ	
	SD2012	SD2014	SD2013	4号溝	1号溝
計測値(m)					
遺構検出長	28.489	32.897	33.623	21.000	18.000
最大幅	1.475	2.895	2.027	2.100	3.600
検出面からの最大深度	0.859	1.448	1.040	0.900	1.600
軸方向(南北)	N-36°-E	N-27°-E	N-34.5°-E	N-60°-E	N-35°-E
北端sec				44.840	45.150
中央sec				44.780	
南端sec				44.860	45.180
セクションa Tr.4・5					
第6層除去面レベル(sec値)	46.379	46.313	46.427		
第2面プランレベル	46.113	46.208	46.131		
溝底レベル(sec値)	45.254	44.760	45.091		
理論上の深度	1.125	1.553	1.336		
調査時検出深度	0.859	1.448	1.040		
理論深度_調査深度	0.266	0.105	0.296		
セクションb Tr.7					
第6層除去面レベル(sec値)	46.224	46.117	46.176		
第2面プランレベル	46.028	46.025	46.025		
溝底レベル(sec値)	45.376	44.732	45.238		
理論上の深度	0.848	1.385	0.938		
調査時検出深度	0.652	1.293	0.787		
理論深度_調査深度	0.196	0.092	0.151		
セクションc Tr.8					
第6層除去面レベル(sec値)	46.170	46.189	46.140		
第2面プランレベル	45.999	45.885	45.773		
溝底レベル(sec値)	45.401	44.828	45.213		
理論上の深度	0.769	1.361	0.927		
調査時検出深度	0.598	1.057	0.560		
理論深度_調査深度	0.171	0.304	0.367		
セクションd Tr.9					
第6層除去面レベル(sec値)	46.217	46.216	46.216		
第2面プランレベル	45.862	45.719	45.795		
溝底レベル(sec値)	45.412	45.013	45.134		
理論上の深度	0.805	1.203	1.082		
調査時検出深度	0.450	0.706	0.661		
理論深度_調査深度	0.355	0.497	0.421		
勾配					
セクションd(南)-セクションa(北)	-0.158	-0.253	-0.043	-0.020	-0.030
勾配(%)	-0.6	-0.8	-0.1	-0.1	-0.2
勾配(cm/m)	-0.555	-0.769	-0.128	-0.095	-0.167

※奈免羅の断面標高値は報告書記載値及び掲載挿図から計測値を使用した

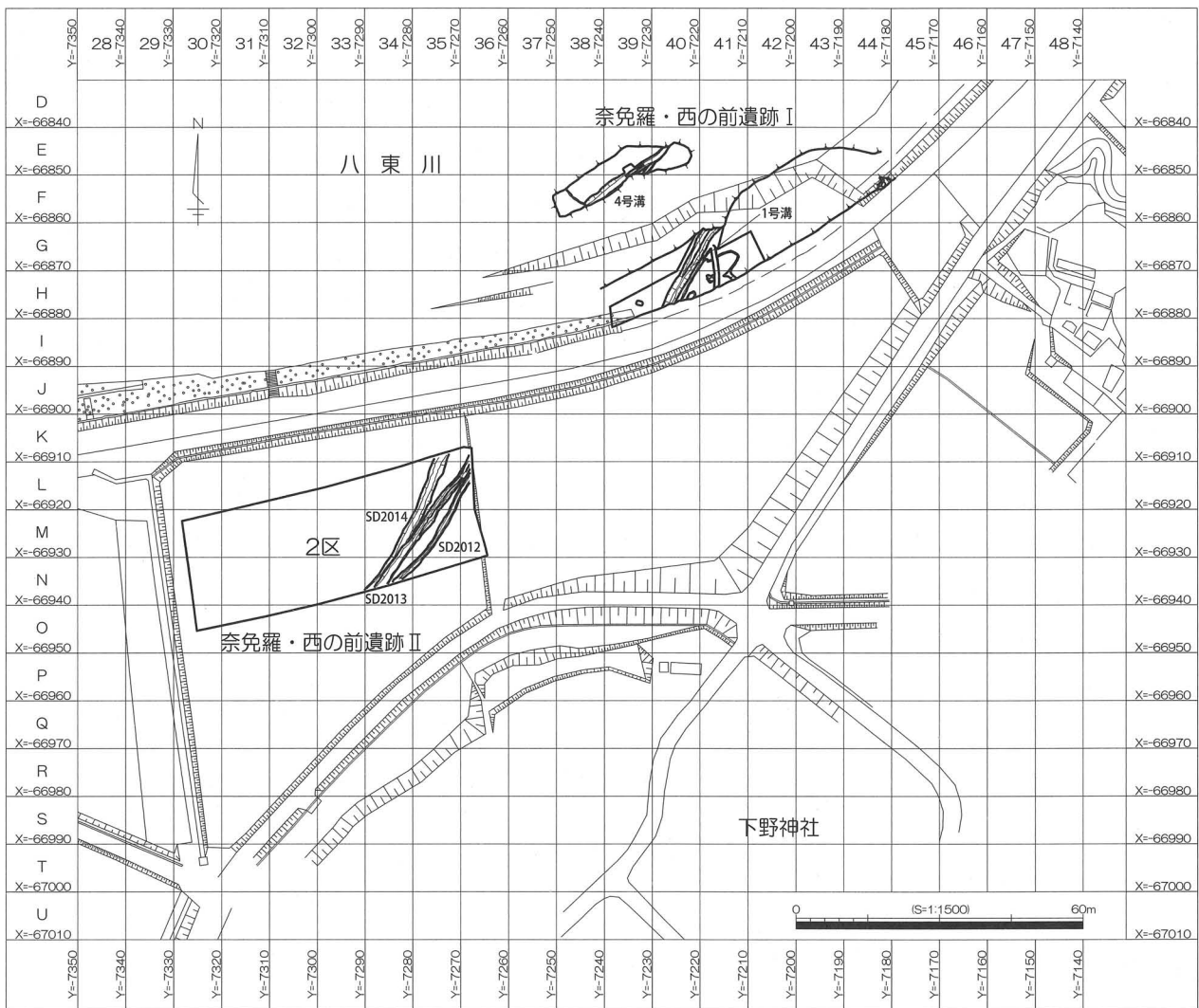


1号溝:Po125・Po126
4号溝:Po154・Po167

奈免羅・西の前遺跡出土古墳時代前期土器

1号溝:Po149
4号溝:Po149

※実測図は奈免羅・西の前遺跡Ⅰ報告書から転載した。



※奈免羅・西の前遺跡Ⅰの遺構平面図は座標による配置ではない為、若干の誤差を有する可能性がある。

図100 大溝比較図

に使用したのかもしれない。溝埋め立て時の特徴として多量の土器が埋め(捨て)られることが挙げられる。残存率の高い土器が集中して出土する状況からは、土器をまとめて廃棄する状況が窺える。器種比率は甕が高く、煤が付着する個体もみられる。そのような生活用具にまじって、SD2014では祭祀用の器とされる羽状文小壺が割れながらも完形に近い状態で複数個体出土している点が注目される。溝廃絶時の埋め立てに伴って、不用品の廃棄行為だけでなく溝に対する祭祀行為がおこなわれたことを示唆するものである。

2. 第1次調査検出の溝状遺構との関連性について

概要 2区の北東約50mの地点で1986年に実施された奈免羅・西の前遺跡の第1次調査(以下奈免羅Ⅰ)において、南西から北東方向に走る5条の溝が検出されている。このうち第1号溝状遺構(以下1号溝)と第4号溝状遺構(以下4号溝)は北東側、八東川方向への流れを持つ溝とされ、「弥生時代後期後半～古墳時代初頭」の土器が大量に出土している。ともに、「弥生時代後期後半の開削で弥生時代末期乃至古墳時代初頭」に廃絶^{註1}するとされており、今回の調査(以下奈免羅Ⅱ)で検出された3条の大溝との共通点が非常に多い。この溝状遺構と大溝の関連性を検討したい。奈免羅Ⅰ報告によると、第2号・第5号溝状遺構も同時期の溝とされているが、2号溝は小規模であること、5号溝は延長が不明なことから比較できないと判断し、ここでは取り扱わないこととする。

a. 遺構法量と位置の比較 図100は奈免羅Ⅱの調査区設定図に遺構図を合成したものである。奈免羅Ⅰの報告書掲載図には座標情報が記載されていないため、当時の工事図面に記載された水路と方位を手がかりに位置合わせをおこなった。主軸方向について、1号溝とSD2013・SD2012がN-35°Eに近い値を示している。ただし、1号溝が直線的に延びるとするならば、その延長位置は奈免羅Ⅱの2区の東側になることになり、どの溝にも対応しえない。4号溝は主軸がその他の溝と大きく異なる。直線状に延びてしまうと、2区の西側に外れてしまう。これに対して奈免羅Ⅱの大溝3本はそのまま北東方向に延びるとなると、奈免羅Ⅰ調査区内に入ってくるであろう。法量値はあくまで検出面基準の数値なので参考程度であるが、溝幅に関しては4号溝とSD2013が約2mと最も近い数値を示す。

b. 埋土と遺物出土状況の比較 溝埋土と土器出土状況に関して比較する。奈免羅Ⅱでは埋土観察と遺物の残存状況から、溝の廃絶はヒトによる埋め立てと結論付けられた。一方、奈免羅Ⅰ掲載図からは、溝底には砂質土ベルトが挟まる黒色土が30cm程度堆積し、そこからは遺物が出土しないこと、土器類が大量に含まれるその上位層は巨礫が含まれていることが読み取れ、さらに上位層については「短期間に堆積したものと考えられる」とされている。以上の状況は、下層部は遺物の含まれない機能層、上層部は廃絶に際して埋め立て行為による人為層と読み替えることができる。したがって、奈免羅Ⅰと奈免羅Ⅱの溝の埋没過程は同じである可能性が高い。

c. 出土遺物の比較 出土土器についての時期比較をおこなう。掲載遺物を概観したところ、1号溝・4号溝ともに弥生時代後期後葉から古墳時代前期前葉の土器が出土している。甕の口縁形態から判断して、4号溝の方がやや新しい様相といえる。外来系土器に関しては、両遺構とも北近畿系高環とみられる椀形の坏部(Po125・126・167)がある。加えて、1号溝出土の器台(Po154)も北近畿系と思われる。遺物の時期幅と北近畿系土器が共出している点は本調査の大溝と全く同じといえる。奈免羅Ⅱでは最も新しいSD2013の廃絶が古墳時代前期前葉から中葉とされており、4号溝と近い時期を示す溝といえる。

d. 溝底の比較 調査所見に基づき、全ての溝が八東川に向かって流れているとの前提のもと、溝底の標高値から連続性の検討をおこなう。奈免羅Ⅰでは標高の定義が記載されていないが、T.P. 値と仮定して検討を進める。1号溝の底面標高値は45.180mとなっており、既に奈免羅Ⅱのどの溝よりも高い。よって接続することはありえない。4号溝では44.860mである。SD2012・SD2013の2本に接続の可能性がある。

3. 結論 - まとめにかえて -

奈免羅Ⅰ・奈免羅Ⅱの溝データを比較検討した結果、以下の事象が判明した。

- a. 溝の主軸方向からは接続の可能性が見出せない。繋がるとすればどこかで曲がる必要がある。例えばSD2012・SD2014は東側に緩やかに湾曲しており、溝は必ずしも直線に延びるとは限らないことを示す。そして、もう一つ注目される点は、主軸値がN-35°-E辺りに集中している点である。溝の終端部は確認されていないため推測に過ぎないが、検出状況のまま北東方向に直線的に延びるとすれば、八東川の流れに逆らって鋭角に接続することになる。通常であれば想定が難しい状況であるが、溝底の標高値は全て北東、すなわち八東川に向かって下がる傾斜を示している点から、流向は間違いないものとする。
- b. 全ての溝は埋め立てられて廃絶する。埋め立て土には大量の礫と共に残存率の高い土器が含まれる。SD2014と1号溝では下層に遺物を含まない機能層が確認される。溝機能時には、少なくとも捨て場としての機能は想定できない。
- c. 出土遺物時期の検討では、1号溝とSD2014が弥生時代終末期を中心とする要素が強く、4号溝とSD2013が共に古墳時代前期前葉の要素が強い。
- d. 溝の連続性を検討する上で、川への排水を想定する以上、溝底の標高値の比較が最重要点である。接続する可能性があるのは4号溝とSD2012もしくはSD2013である。

以上のことから総合的に判断すると、繋がる可能性のある溝は、奈免羅Ⅰの4号溝と奈免羅ⅡのSD2013となる。ただし、この場合はどこかの時点でSD2013が東へ曲がる必要がある。溝の機能に関しては、その勾配が示すように八東川に接続する水路の可能性が高いだろう。機能層から遺物が出土しない点はやはり溝の運用管理に関わるものとする。

この検討を通して、もう一つ重要なことがみえてくる。それは標高値が大きく異なる1号溝の存在である。積み上げたデータが確かなら、奈免羅Ⅱの大溝とは遺物の時期と主軸値を同じくしながら繋がらねないと結論付けられる。これの意味するところは、大規模な溝が一定間隔を空けて複数条並走している可能性である。このような溝を新たに掘り直しながらも継続的に維持する意義については、農業における灌漑目的、あるいは防衛的意味役割を担う環濠など、いくつかの可能性を挙げることができる。しかし、現段階では当該期の集落・生産域のいずれも発見されていないため、これ以上の具体的な根拠を伴った検討は不可能である。しかし、途方もない労力を費やして掘削される大溝が、この地の集団にとって重要な意味を持っていたことは間違いのないところである。弥生時代後期中葉から古墳時代前期中葉にかけて、そのような大規模工事を実行できる集団が確かにこの地に根付いていたことを示せたのは大きな成果といえよう。

註1 山榊雅美 1986『奈免羅・西の前遺跡』船岡町教育委員会

第2節 奈免羅・西の前遺跡出土弥生土器群の様相

島田裕弘

1. 抽出遺物からみた遺跡概要

本調査において整理用コンテナ 148 箱分の遺物が出土した。整理後の遺物量内訳は、抽出遺物 57 箱（土器 54 箱・石器 2 箱・その他 1 箱）・未抽出 101 箱（土器 89 箱・石器類 10 箱・その他 2 箱）である。本書掲載の抽出遺物 249 点のうち、土器は 190 点である。本節では土器を中心にその時代観と傾向を概観する。

遺物数からみた調査概要は以下のようになる。

1 区 掲載遺物は 5 点。種別内訳は土器 1 点、石器 4 点である。時期がわかる遺物は古墳時代前期と推定される土器 1 点のみである。1 区では出土遺物自体が極めて少なく掲載遺物を除き図化可能な個体が皆無で、抽出遺物の少なさはこれに比例している。

2 区 掲載遺物は 163 点。種別内訳は土器 152 点・土製品 2 点・石器 5 点・石製品 4 点である。時期は弥生時代後期前葉から古墳時代終末期までの幅がみられ、その中でも弥生時代後期後葉から古墳時代前期前葉に中心がある。2 区では土器類の多さが特筆され、その要因は大量の土器が出土した 3 条の大溝によるところが大きい。大溝遺物は残存率の高い個体が多く、本調査を代表する資料群となっている。その他の遺構では溝と同時期とされる建物が 2 棟検出されたが、周辺のピット類の分布は限定的である。調査所見からは調査区北東側に遺構が広がる可能性が指摘されており、近隣に集落が展開する可能性が示されている。遺物量の多さから考えてもその可能性は十分にあるといえる。

3 区 掲載遺物は 81 点。種別内訳は土器 37 点・石器 39 点・石製品 4 点・青銅器 1 点である。時期は弥生時代中期中葉から後葉にかけてである。3 区では 15 棟もの竪穴住居跡が検出され、当該期の集落が広範囲に展開していることが確認された。後世の攪乱により遺構面の残りが悪かったため、遺跡規模に反して遺物量は少ない。また、住居の密集度や拡張のための建替えなどの遺構所見に反し、土器から想定される集落の存続期間はかなり限定的である。遺物の傾向として、土器類と共に石器類の多さが特筆される。詳細については次節にて解説するが、石斧・叩石・台石・石包丁・砥石等、生活に密着した石器類が多数確認されている。

2. 抽出遺物概要

土器の時期は調査区によって明確に分かれる。このため、3 区出土の一群（弥生時代中期中葉～後葉）と 2 区出土の一群（弥生時代後期～古墳時代前期）に分けて概観する。1 区については時期的に 2 区と重複するため割愛する。

(1) 3 区の弥生土器群 器種内訳は壺 13 点・甕 19 点・器台 1 点・高坏 4 点である。時期は弥生時代中期中葉から後葉にかけてである。時期幅が限定的なため顕著な器形変化はみられない。遺物時期の判定は、主に口縁端部の断面形、「垂下傾向から T 字形への変化」に注目しておこない、補足的要素として内面ケズリの達する高さ、装飾の多寡等も参考にした。

表 25 掲載遺物内訳表

遺物種別内訳				
	1区	2区	3区	計
土器	1	152	37	190
土製品		2		2
石器	4	5	39	48
石製品		4	4	8
青銅器			1	1
計	5	163	81	249

※水晶製算盤玉 42 個 (198-1 ~ -42) は 1 点扱い

土器器種内訳				
	1区	2区	3区	計
壺		32	13	45
甕	1	53	19	73
器台		22	1	23
高坏		22	4	26
蓋		10		10
低脚坏		2		2
鉢		3		3
甕形土器		2		2
コップ形土器		1		1
その他		5		5
計	1	152	37	190

a. 器面調整と装飾 壺・甕では主な調整は、外面はハケ調整もしくはミガキ、内面はケズリ及びハケ調整である。装飾は、弥生時代中期の大きな特徴である凹線文・擬凹線文を基本としている。これに加えて、縦方向のキザミや、各種浮文を貼り付ける個体がある。甕では頸のくびれ部に指頭圧痕が明瞭な貼付突帯をめぐらせる個体がある。このほかに、特徴的な装飾として、貝殻腹縁を使用した文様がある。サルボウ貝などの貝殻の放射肋を利用し、器壁に対して斜めに当てて押し引くことにより幅の広い櫛描き状の文様を陰刻する。文様は原体の当て方と押し引きの度合いによって変化する。押し付けただけの刺突文から波状文を思わせるうねりを持たせるものまで様々なパターンがみられる。これらの文様は、主に肩部～体部上半に帯状に配される。これに関連する特殊な例として、甕(201)にみられる、器面調整と刺突施文を同時におこなう手法がある。体部外面には縦方向のハケ調整(原体は貝殻腹縁の可能性もあるが判別不能)と体部最大径よりやや下に右上がりの刺突文が施される。この刺突文とハケの単位は対応しており、ハケ1単位の開始時あるいは終了時に原体を強く押し付けることによって貝殻腹縁による刺突文風の文様が陰刻される。文様とハケの接続方向から、一連の調整であることは明らかで、縦方向の調整に伴う施文であることがわかる。通常の貝殻腹縁による押し引き文は器に対して外周をめぐらせるように配するため、器面調整とは次の工程で別原体により横方向に押し引かれる。本例とは作業工程的に大きく異なる。この調整時施文法が確認できたのはこの1例のみのため評価はできないが、完成形態が同じであっても調整・施文の過程が大きく異なる場合があることが判明した。

b. 特記遺物 3区における特徴的な遺物として次のものが挙げられる。複数状の突帯や棒状浮文を組み合わせた過剰な装飾が施される無頸壺(179)、脚台に配された線刻絵画とも鋸歯文ともつかない三角文様が特徴的な器台(212)、共に弥生時代中期中葉の要素の強い個体である。水差形土器(211)や、肩部に波状文と貝殻腹縁による刺突文を組み合わせた文様を2段にわたってめぐらせる壺(202)などはやや新しい様相を示すが、それでも弥生時代中期後半段階に収まる。

(2) 2区の土器群 器種内訳は壺32点・甕53点・器台22点・高坏2点・蓋10点・低脚坏2点・鉢3点・甑形土器2点・コップ形土器1点である。時期は弥生時代後期前半から古墳時代前期中葉にかけてである。このほかに新しい土器では須恵器(古墳時代後期～終末期)が5点あるが、大きく時期がずれるため、本節では取り扱わない。弥生時代から古墳時代にかけての大きな変化に合わせるかのように土器形態に変化が現れる。また、外来系土器が複数確認される点が特筆される。帰属時期の判定は、主に^{註1}甕と器台の形態の変遷に注目しておこなった。3区出土の弥生時代中期の土器と比較すると、明らかな小型化が認められる。

a. 器種別概要

壺 バリエーションが多く、形態について連続的な変遷をみることができない。古い一群では甕と壺の判別が困難な個体も多い。また他器種にみられない要素として、口縁部ないし肩部への限定的な施文がある。竹管文3個(113)・貝殻腹縁による羽状文1単位(117・120)などがそれにあたり、正面一方向からしか見えないように施文されるのが特徴で、117のように口縁内面・外面に施文される場合でもこの法則は当てはまる。これらは全て大溝(SD2014)からの出土個体である。文様というよりは何か記号的な意味があるのかもしれない。貝殻原体の文様については3区と同様、肩部への施文例が多い。大きく上下に振れながら帯状に連続する文様が多く、波状志向が強いように思われる。そのほかでは121・122・123のような、過剰な装飾が施される小壺類が特徴的である。

弥生時代終末期から古墳時代前期にかけての新しい要素を示す個体として、直口壺や肩部に突帯を持つ壺がある。その中でも口縁端部に外傾する平坦面を明瞭に持つ 95 はさらに新しい様相を示すとみられ、時期は古墳時代前期中葉まで下る可能性がある。

甕 最も個体数の多い器種である。時期による形態変化は次の点に現れる。口縁部では屈曲部から端部にかけての立ち上がりの発達・角度変化・施文の消長・下端部の張り出しの発達・口縁端部平坦面の出現など。体部以下では球胴化・底部の退化(尖底～丸底化)。その他では器壁の薄手化、胎土の精良化など。これらの要素から推定される甕の時期幅は弥生時代後期前半から古墳時代前期前葉までで、数量比からは弥生時代後期後半から終末期前半が中心となることがわかる。少数ながら、壺同様に貝殻原体による押し引き文が施文される個体がある。

器台 確認された器台は全て鼓形器台である。時期が下るにつれ、筒部が短く、口縁・脚台端部は拡張・発達し、径が大きくなる。平行線文やスタンプ文で装飾される個体もみられる。時期幅は弥生時代後期後葉から終末期後半までである。42・158 にみられる筒部の詰まり具合と端部の開きなどはかなり新しい要素といえる。古墳時代前期前葉まで下るかもしれない。

高坏 掲載個体数は器台と同数あるが、一定の傾向を捉えるのは難しく、時期は判定しにくい。坏部の形態は、屈曲部に稜を持つものと椀形のものに大別される。北近畿系・吉備系とみられる外来系土器があるのが大きな特徴である。時期は弥生時代後期中葉から終末期までと推測される。

蓋 口径は 10cm 内外、天井部につまみを備え、基本的に内外面ともミガキを施す丁寧な作りである。蓋単体での時期決定は困難である。

その他 当該期のその他の器種としては低脚坏・鉢・甌形土器・コップ形土器がある。鉢(162)は形状・製作技法共に他個体との共通性がなく特異な個体である。半球状の椀形の体部はこの個体の他に見当たらない、台部の作りもまた特徴的である。小さな底部の周縁に高台状に粘土紐を貼り足して台部を作る。裏側からには貼り付け痕が明瞭に残る。台は脚状ではなく平底を維持しており、低脚坏のような坏系統とは明らかに違う系譜のように思われる。内外面にミガキを施すことから、仕上げを意識しているものと思われるが、ややいびつな器形や口縁端部のまとめかたなどからは、全体的な作りは粗雑な感じを受ける。

b. 特記遺物 2 区の特記遺物として羽状文小壺とスタンプ文土器・外来系土器が挙げられる。

羽状文小壺 SD2014 から出土した 121・122・123 がそれにあたる。精緻な作りの小壺をベースとして、口縁部には平行沈線文を、体部には貝殻腹縁刺突による羽状文を複数段めぐらせる。外面全面に装飾が及ぶ特異な外観を持つ。この小壺は『青谷上寺地遺跡 3』では「加飾された小型の土器」として紹介されており、直接の系譜で結ぶのは難しいとしながらも、施文や法量などの共通性から機能面において台付装飾壺との関連性が指摘されている。時期は台付装飾壺より後出、「松井編年Ⅷ・Ⅸ期～古墳時代前期」とされる。

スタンプ文土器 掲載遺物では器台(45・46・152)、壺(123)、高坏(15)の 5 個体にスタンプ文が確認できる。文様詳細は、45・46・152 が同心円文系(45・152: 二重圏同心円文、46・152: 三重圏同心円文)、123 が半截竹管文である。15 に見られるスタンプ文は非常に特殊である。高坏口縁部に上下 2 段に種類の違うスタンプ文をめぐらせる。上段は左右非対称の S 字状文。下段は一見鋸歯文のように見えるが、実に手の込んだ文様である。三角形の枠の中に正方形の列点を山形に配し、その内側に 2 重の三角を配する。この三角文は類例がなく、奈免羅・西の前遺跡のオリジナルスタンプ文

である。このような複雑な文様をスタンプで表現するのは簡単ではないはずである。果たしてどのような意味が込められているのであろうか。

外来系土器 北近畿系と吉備系に大別される。

北近畿系 高坏 (82・108・148) に北近畿系の様相がみられる。浅い椀形の坏部が特徴で、口縁付近は緩く屈曲し有段口縁状となる。82 は胎土観察からオリジナルに忠実に再現された模倣品の可能性が示されている。一方、SD2014 から出土した 148 はほぼ完形に復元された。胎土が特徴的な個体で、在来系土器の褐色系胎土とは異なり、乳白色の胎土を持つ。器形とあわせて考えると、丹後からの搬入品である可能性が高い。このほかに、北近畿・北陸からの搬入品の可能性のあるものとして、壺 (93・96)、コップ型土器 (160) が挙げられる。93・96 はその特徴から台付装飾壺から派生した壺と考えられる。台付装飾壺は山陰での出土例が多い器種で、当遺跡の近隣では青谷上寺地遺跡で多数出土している。それらを当遺跡出土品と比較すると、プロポーションまたは過剰な施文などに共通性がみられるが、施文詳細や突帯形態など台付装飾壺を決定づける部分には差異がみられ、直接的な関連を見出すのは難しい。台付装飾壺は地方への伝播の過程で各要素が大きく変化するとされており、当遺跡出土品はむしろ地方の模倣品に近いといえる。したがって、地方での変容品が逆にこちらに持ち込まれた可能性が挙げられる。

吉備系 高坏 (53・141・142・143) に吉備系の様相がみられる。坏部の屈曲部のシャープな稜から外反しつつ立ち上がる口縁と、口縁外面に施文されるヘラ描き斜格子文とを特徴とする。弥生時代後期中葉から後葉に属する遺物と考えられる。搬入品かどうかの判断はできない。

3. まとめ 本書掲載土器を再度整理することで、今回出土した 2 区と 3 区の土器群はそれぞれに重要な意味を持つ資料群であることがわかった。

3 区では、個体数は少ないものの集落 (住居) に伴った土器であるという点が重要である。その時期が弥生時代中期中葉から後葉にかけての短期間に限定されること、他の混入品がほとんどみられないことから、集落に対する一括性が強い資料群といえる。

2 区では大溝から出土した大量の土器がやはり鍵である。その中心は弥生時代後期後葉から古墳時代前期前葉、弥生時代から古墳時代への過渡期の土器群である。溝からの出土である以上、ある程度の時期幅を想定しなければならないが、同様の溝が 3 条存在し、遺物から時期差を判定することができた点が重要といえる。

奈免羅・西の前遺跡の土器は山陰の土器の典型的な部分を持ちつつも北近畿系・吉備系などの外来系土器の共伴が目立つ。北近畿・吉備とも地理的には隣接しているが、丹後からの搬入品となるとやや距離が遠い。そのような遠方との交流を持っていたことを示すことができたのは大きな成果である。そして、北近畿との関わりについては、搬入品だけでなくオリジナルに忠実な模倣品と思しき個体が確認されたことにより、工人を含めた人の移動を視野に入れて考える必要があると考える必要がある。

調査地周辺の同時期の集落遺跡では、丸山遺跡・万代寺遺跡がある。共に弥生時代中期から古墳時代前期の土器が多数出土している。奈免羅・西の前遺跡の南西約 1km に位置する丸山遺跡出土土器とは、肩部への貝殻腹縁を利用した施文やスタンプ文土器のほか、吉備系高坏と思しき個体の出土など、共通点の多さが注目される。さらに、高坏に注目するなら、丸山遺跡の出土個体数は非常に多いように思える。一方、奈免羅・西の前遺跡の 2 区において、高坏は器台と同数の 22 個体抽出されて

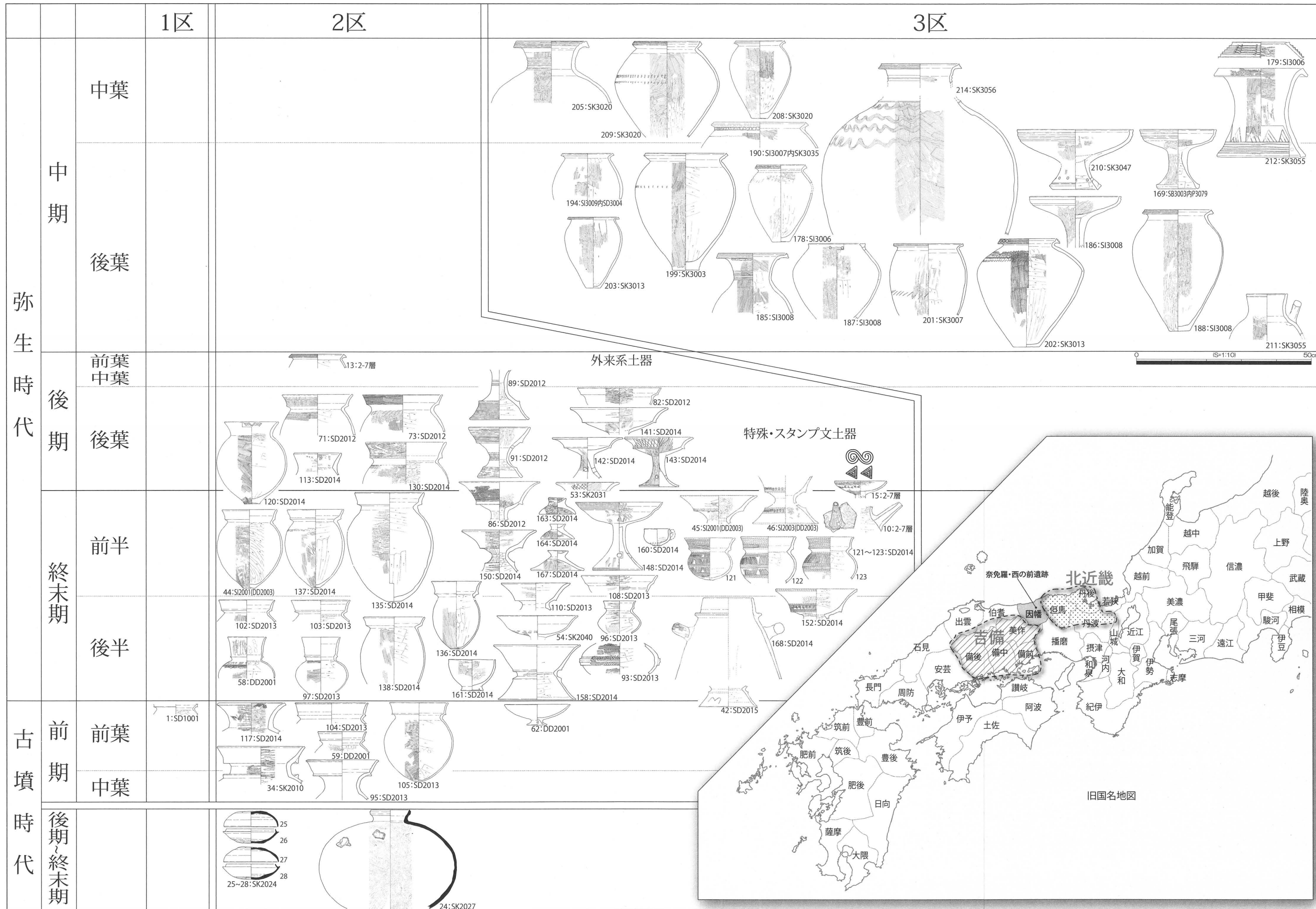


図101 時代別主要土器一覽図

おり、こちらもまた器種構成の主たる一角を占めている。元来、山陰は高坏の比率が低い地域とされているが、この数量を考えた場合決して少ないとはいえないだろう。外来系土器における高坏の比率が高いことも考えると、その理由は不明ながらも、高坏がこの周辺を特徴づける一つの要素となりそうである。地理的に考えてもやはり吉備の影響を外すことはできないだろう。

2区・3区の土器観察を通して、弥生時代中期段階にはみられなかった北近畿・吉備系の土器が、弥生時代後期から古墳時代前期には頻出するようになることがわかった。精度の高い模倣品の存在は、これが単なる交易の結果としてだけでなく、この時期に人の移動が活発化したことを物語っている。交易の活発化にせよ、人の移動の活発化にせよ、このような活動の背景には、国境付近の集落、クニの存在感の高まり、発言力の高まりを想定できるのではないだろうか。

本節は2010年2月10日におこなわれた奈免羅・西の前遺跡遺物検討会の内容に基づき、補足データを加えて取りまとめたものである。土器の所見については財団法人鳥取県教育文化財団 松井潔氏の教示によるところが特に大きく、山陰系土器のほか、外来系土器や台付装飾壺についても丁寧に解説していただいた。記して感謝いたします。

註1 河合章行他 2009「第5章 総括 第1節 弥生時代後期～古墳時代前期初頭の甕について」『青谷上寺地遺跡 10 - 第9次発掘調査報告書 -』鳥取県埋蔵文化財センター調査報告 27 鳥取県埋蔵文化財センター

参考文献

松下利秀 1981『丸山遺跡発掘調査報告書』船岡町教育委員会

山形顕應 1983『万代寺遺跡発掘調査報告書』郡家町教育委員会

山榎雅美 1986『奈免羅・西の前遺跡』船岡町教育委員会

谷口恭子・前田均 1991『岩吉遺跡Ⅲ』鳥取市文化財報告書 30 鳥取市教育委員会・鳥取市遺跡調査団

清水真一 1992「因幡・伯耆」『弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編』木耳社

松本哲他 2000『妻木晩田遺跡発掘調査報告Ⅰ』大山町埋蔵文化財調査報告書第17集 大山スイス村埋蔵文化財発掘調査団・鳥取県教育委員会

湯村功 2001「第4章 出土遺物 第1節 土器」『青谷上寺地遺跡 3. 鳥取県教育文化財団調査報告書 72』(財)鳥取県教育文化財団

松井潔 2008『「台付装飾壺」が語る弥生時代の日本海沿岸地域の交流』むきぼんだ新涼考古学講座Ⅰ資料

第3節 奈免羅・西の前遺跡出土石器の様相

結城 香

1. 出土石器の概要

本調査においては人為的な加工痕を有する 279 点の石器・石製品が出土した。調査区毎にみると 1 区 13 点、2 区 20 点、3 区 246 点で、このうち実測図を掲載したものは 56 個体 97 点である。主要な石器類については肉眼による石材鑑定を行った。鑑定結果については出土石器一覧表に示す。(表 26・27・28)

本節では石材と石器の関係について検討を行う。主対象は出土数の多い 3 区出土の石器・石製品である。3 区では弥生時代中期後葉の集落を確認しており、石器類は概ね集落と同時期に属するとみられる。また、特殊な石器類では、黒曜石剥片、水晶製小玉、碧玉製管玉がある。これらについては後述する。

2. 石材について

出土石器一覧表に示した石材(岩石)は多種で、石器も多彩である。石材と石器の関係を示すため、最初に主要な岩石の形成過程と特徴を簡単に整理しておく。

各岩石(石材)の特徴

a. 火成岩 マグマが冷え固まった岩石である。冷え固まる速度と構成鉱物により分類される。地表面で急速に冷やされた火山岩と地中深くでゆっくり冷やされた深成岩に分けられる。

・安山岩 地表に出たマグマが急速に冷やされてできた火山岩である。含まれる鉱物により更に細分される。

b. 堆積岩 堆積岩の多くは流水によって運ばれてきた^{さいせつぶつ}碎屑物(風化や浸食により細かくされた岩石の粒子)が堆積し固結した岩石である。堆積物や成因によって生物岩や蒸発岩等に細分される。

・泥岩(新第三紀) 粒径 1/256mm以下の泥(粘土)碎屑物が固結した岩石である。硬質であるが脆く、割れ面は薄く貝殻のようになる。石器に使用した場合、打撃加工によって鋭い刃部を製作することに適している。

頁岩とは泥石より剥離性が高く、堆積時の葉理が剥離面となるものを指す。地質上、頁岩は泥岩の一つとすることができるので、出土石器一覧表(表 26～28)では、泥岩に対応する石材として、頁岩という表記を使用している。

(新第三紀は地質時代区分である。概ね 2400 万年前から 170 万年前。)

・泥岩(古紀) 上記と同様であるが形成時期が異なる。新第三紀より前。

・砂岩(新第三紀) 砂(粒径 2～1/16mmの碎屑物)が固結した岩石。泥岩よりも目が粗く軟らかい。

・砂岩(古紀) 上記と同様であるが岩石が形成された時期が異なる。新第三紀より前。

c. 変成岩 岩石が高い温度や圧力による変成作用を受け、鉱物成分や鉱物構造が変化して別の岩石となったもの。

・粘板岩 泥岩が弱い変成を受けたもの。再結晶作用のため、薄板状に剥離しやすい特性を持つ。

・緑色岩 火山岩が弱い変成を受けた岩石である。片理ははっきりしない。

・千枚岩 粘板岩より変成の進んでいる岩石である。薄く葉片状に剥がれやすい特性をもつ。

平行な配列を持つ岩石片理の発達によりペラペラと剥がれるので板状に加工しやすい。

- ・緑色片岩 緑色で平行に薄く剥がれやすい岩石である。千枚岩より変成が進んでいる。
- ・^{きんせいせき}堇青石ホルンフェルス 堇青石が含まれるホルンフェルスである。ホルンフェルスとは砂岩や泥岩などがマグマからの熱変成作用を受け、硬く緻密になった岩石である。

3. 地質図からみた石材分布

次に調査地周辺の石材分布について考える。図 102 に八東川流域の地質図を示す。地質図によると八東川の左岸(南側)と右岸(北側)では断層を挟んで岩石の質が異なることがわかる。右岸側には、黒色泥岩・輝石角閃石安山岩・剪断泥質岩・砂岩・緑色片岩等の岩石層が広がる。左岸側には三郡変成岩に属する、泥質千枚岩・緑色千枚岩の岩石層が広がる。八東川はこの断層上を東から西にかけて流れている川である。

八東川の右岸、調査地付近には剪断泥質岩・緑色片岩の一部が変成作用を受けたホルンフェルス層、同じく調査地東側の若桜町付近には黒色泥岩の強粘土化を示す一帯があり、良質な石材が採取できる環境にある。

石器の材料となる岩石は八東川流域に存在しており、これらの石材が調査地付近で比較的容易に入手できる環境であったことがわかる。

4. 石器と石材の関係について

石器、石製品のうち主要な器種について、石材と器種の間関係を石器内訳表に示した(図 102)。各石器は使用痕・加工痕を観察し下記のように区分した。個体数が多いものや、石材との関係が示せる石器について整理する。

石槍 3点出土した。頁岩製2点、堇青石ホルンフェルス製1点である。敲打により成形され刃部をなす石器。先端が三角形に尖る両刃の石器を本調査では石槍とした。刃部を製作するのに適した頁岩と硬質な堇青石ホルンフェルスを用いられている。

石包丁 20点出土した。千枚岩・粘板岩製が6点で最多で、以下緑色岩製5点、緑色片岩製2点、頁岩製1点である。

薄い板状に加工した石材を、半月形や長方形に成形し、長軸方向の側縁に研磨によって刃部を作る。穿孔があり、紐を通して使用されていたとされる。出土品は5cmから最大で17cmをはかる。穿孔がなく、作りも粗い状態の未製品も出土している。板状の石器である石包丁の製作には、千枚岩、粘板岩の薄く剥離する特徴が活かされている。

石斧 27点出土した。うち頁岩製23点が最多で、以下安山岩製・粘板岩製・緑色片岩製・堇青石ホルンフェルス製が各1点である。打撃・研磨により成形する。刃部は片刃と両刃がある。木製の柄を付けて用いたとされ、土の掘削や樹木の伐採等に使用された。

当遺跡出土例では、ほぼ長方形に整形した個体が多いのが特徴である。長軸方向の側面には、直線を意識したと思われる丁寧な調整を施す例もある。短軸方向の側面には、敲打・研磨による刃部を作る。刃部を製作するのに適した頁岩製が多数を占める。

台石 12点出土した。うち安山岩製7点が最多で、以下閃緑岩製2点、黒雲母花崗岩製・砂岩製・

表 26 出土石器類一覧表 1

種別	鑑定岩石名 :新=新第三紀 :古=古期	岩石 種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	調査区	出土位置 グリッド / 層位 / 遺構	取上 番号	石材詳細	遺物 番号	グラフ分類用岩石名	
												:新=新第三紀	:古=古期
石楯	頁岩:新	堆積岩	12.6	3.9	1.5	69.1	3区	P3 / 第1面上(黄褐色砂) /	0676	(新第三紀)	235	頁岩:新	
石楯	頁岩:新	堆積岩	11.4	3.15	1.1	50.2	3区	P3 / 黄灰色砂層 /	3327	(新第三紀)	234	頁岩:新	
石楯	葉青石ホルンフェルス:新	変成岩	6.7 ~	3.25	1.1	23.8	3区	// SI3007	2255	(新第三紀)	192	葉青石ホルンフェルス	
石包丁(未製品)	頁岩:新	堆積岩	3.25	2.28	0.26	2.7	3区	// P3114	2664			頁岩:新	
石包丁	粘板岩	変成岩	5.6 ~	5.1 ~	0.8	30.6	3区	N4 / 暗褐色砂層 /	0537			粘板岩	
石包丁	粘板岩	変成岩	6.5 ~	6.5 ~	1.1	44.1	3区	Q14 / 攪乱 /	1082			粘板岩	
石包丁	粘板岩	変成岩	5.75 ~	3.9	0.75	24.8	3区	Q8 // 耕 3001	2090			粘板岩	
石包丁	粘板岩	変成岩	7.3 ~	5.1 ~	0.6	25.5	3区	// P3114	2573			粘板岩	
石包丁(未製品)	粘板岩	変成岩	5.78	3.78	0.75	22	3区	// P3114	2664			粘板岩	
石包丁(未製品)	粘板岩	変成岩	9.1 ~	5.65	0.75	62.3	3区	// P3492	3351			粘板岩	
石包丁	緑色千枚岩	変成岩	10.2 ~	4.85	0.9	72	3区	// 暗褐色砂層 /	0296			千枚岩	
石包丁(未製品)	緑色千枚岩	変成岩	16.4	9.55	1.7	362	3区	P3 / 第1面上 /	0677			千枚岩	
石包丁(未製品)	緑色千枚岩	変成岩	10.73	5.02	1.04	72.9	3区	P3 / 第1面上 /	0679			千枚岩	
石包丁(未製品)	緑色千枚岩	変成岩	17.85	6.6	1.85	205	3区	Q9 / 暗褐色砂層 /	0908			千枚岩	
石包丁	泥質千枚岩	変成岩	5.1	5.25	0.85	28.1	3区	// SK3055	2741			千枚岩	
石包丁	緑色千枚岩	変成岩	9.28	3.62	0.74	36.1	3区	O7 / 暗褐色砂層 /	3340			千枚岩	
石包丁	緑色岩	変成岩	5.4 ~	5.15 ~	0.7	28.4	3区	Q2 / 第1面上(黄褐色砂) /	0673			緑色岩	
石包丁	緑色岩	変成岩	3.85 ~	2.95	0.6	11.8	3区	N4 / 表土剥ぎ /	0683			緑色岩	
石包丁(未製品)	緑色岩(ドレライト)	変成岩	8.1	4.3	0.7	42.9	3区	N5 / 暗褐色砂層 /	0767	(ドレライト)	230	緑色岩	
石包丁	緑色岩	変成岩	5.35 ~	5.15	0.6	37.4	3区	// SI3005	2170			緑色岩	
石包丁	緑色岩	変成岩	10.2 ~	4.55	0.65	47.1	3区	// SI3008	2325			緑色岩	
石包丁(未製品)	緑色片岩	変成岩	11.28	6.08	1.2	115.1	2区	N30 // SK2007	0764			緑色片岩	
石包丁(未製品)	緑色片岩	変成岩	9.81	4.51	0.68	45.4	3区	// SI3009・SD3004	3068			緑色片岩	
石斧	角閃石安山岩	火成岩	9.31	7.89	4.53	468	3区	// P3444	3384			安山岩	
石斧(未製品)	頁岩:新	堆積岩	11.16	7.8	3	431	2区	M35 // SD2012	0427	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧(未製品)	頁岩:新	堆積岩	14	5.52	3.05	331	3区	N5 / 暗褐色砂層 /	0768	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	砂質頁岩	堆積岩	5.82	3.62	2.27	75.8	3区	// Tr.1(東から10m)	0075	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	9.59	7.24	1.6	97.1	3区	// 暗褐色砂土 /	0093	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	10.26	6.36	2.69	149.3	1区	C52 / 褐色土層(岩盤直上) /	0113	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	7.34	4.77	2.09	77.8	3区	P10 / 黒土 /	0177	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	15.65	7.7	2.9	494	1区	B51 / 4層 黒褐色土 /	0355	(新第三紀)	5	頁岩:新	
石斧	砂質頁岩:新	堆積岩	11.4	6.9	2.4	211	2区	M31 / 第8層 /	0433	(新第三紀)	23	頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	8.35	4.4	0.69	38.6	3区	P3 / 第1面上 /	0674	(新第三紀)	237	頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	13.65	6.35	1.85	264	3区	P6 / 攪乱 /	0910	(新第三紀)	248	頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	11.1	6.55	1.3	110.4	2区	M34 / 第7層 /	1064	(新第三紀)	18	頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	10.43	4.92	1.6	133.2	3区	P12・P13 / 遺物集中区 /	1173	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	6.02	5.27	2.35	92.9	3区	N5 // SI3006	1266	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	10.45	7.22	3.04	411	3区	N5 // SI3006	1271	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	16.1	6.43	2.56	479	3区	// SI3002	2062	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	7.69	5.98	2.01	123.9	3区	P10 // 耕 3002	2206	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	18	6.5	2.15	268	3区	// SI3007	2247	(新第三紀)	193	頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	6.92	4.57	0.63	28.8	3区	// SI3006	2275	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	18.3	6.65	3.2	739	3区	P13 / 中世耕作土 /	2342	(新第三紀)	249	頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	6.83	5.76	3.10	217	3区	// SK3018	2581	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	7.75	3.68	0.79	40.3	3区	// 暗褐色砂層 /	2608	(新第三紀)		頁岩:新	
不明	頁岩:新	堆積岩	2.13	1.72	0.27	1.5	3区	// SK3055	2730	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩:新	堆積岩	11.43	5.6	2.26	209	3区	// SK3055	2730	(新第三紀)		頁岩:新	
石斧	頁岩	堆積岩	4.85	3	0.7	18.6	3区	// SI3011	2073			頁岩	
石斧	粘板岩	変成岩	6.7	3.8	0.9	27.4	3区	// P3467	3393			粘板岩	
石斧(未製品)	葉青石ホルンフェルス:新	変成岩	8.73	2.71	1.25	47.2	3区	O11 / 攪乱 /	0684	(新第三紀)		葉青石ホルンフェルス	
石斧	緑色片岩	変成岩	8.66	3.71	1.93	133	3区	// SI3005	2157			緑色片岩	
台石	輝石安山岩:新	火成岩	20.5	16.9	6.26	3400	3区	N5 // SI3006	1023	(新第三紀)		安山岩	
台石	輝石安山岩:新	火成岩	27.3	21.4	6.44	5.8	2区	M・N31 // DD2001	1185	(新第三紀)		安山岩	
台石	多孔質輝石安山岩	火成岩	16	15.6	4.96	1821	2区	N33 / 第7層 /	1574			安山岩	
台石	多孔質輝石安山岩	火成岩	19.3	15.2	6.99	2706	3区	P8 / 暗褐色砂層 /	2270			安山岩	
台石	輝石安山岩	火成岩	38.9	23.1	8	17600	3区	// SI3007	2815			安山岩	
台石	輝石安山岩	火成岩	20.9	18.4	4.6	3023	3区	// SI3009・SD3004	3066			安山岩	
台石	石英含有輝石安山岩	火成岩	37.2	27.2	12.5	12800	3区	// SI3014	3195			安山岩	
台石	微閃緑岩	火成岩	20.2	19.5	8.34	4114	3区	// SI3001	2814			閃緑岩	
台石	角閃石花崗閃緑岩	火成岩	2.76	1.7	0.35	10000	3区	// SI3007	3445			閃緑岩	
台石	黒雲母花崗岩	火成岩	22.5	13	9.86	4400	3区	// SI3014	3194			黒雲母花崗岩	
台石	砂質頁岩:古	堆積岩	20.3	14.7	4.49	2833	3区	P14 / 攪乱 /	3464	(古期)		頁岩:古	
台石	砂岩:古	堆積岩	29.2	19.1	8.35	7600	3区	N5 // SI3006	1268	(古期)		砂岩	
叩石	輝石角閃石安山岩	火成岩	11.7	11.88	4.18	975	3区	N5 // SI3006	1020			安山岩	
叩石	花崗閃緑斑岩	火成岩	15.14	8.46	5.83	1142	3区	// SI3009・SD3004	3065			閃緑岩	
叩石	頁岩:新	堆積岩	17.15	9.15	5.7	1260	3区	// SI3005	3392	(新第三紀)	174	頁岩:新	
叩石	頁岩:新	堆積岩	13.99	7.51	4.13	657	3区	O11 // SB3004	3446	(新第三紀)		頁岩:新	
叩石	砂岩:古	堆積岩	10.34	6.01	4.04	390	3区	// SI3002	2063	(古期)		砂岩	
叩石	砂岩:古	堆積岩	14.5	7.16	5.74	831	3区	// 暗褐色砂層 /	3487	(古期)		砂岩	
叩石	葉青石ホルンフェルス:新	変成岩	21.1	7.3	7.4	1677	3区	O8 / 暗褐色砂層 /	2268	(新第三紀)	233	葉青石ホルンフェルス	
砥石	石英含有輝石安山岩	火成岩	18.3	9.68	8.68	2016	3区	// SI3007	2265			安山岩	
砥石	流紋岩	火成岩	6.1	1.77	0.73	12.4	3区	// 表土 /	0403			流紋岩	
砥石	流紋岩	火成岩	14.7	6.4	4.6	720	3区	// SI3005	2174			流紋岩	
砥石	火成岩(デザイン)	火成岩	15.02	8.76	2.55	630	3区	// SI3007	2257	(デザイン)		角閃石(デザイン)	
砥石	頁岩:新	堆積岩	10.2	6.18	2.37	232	3区	//	2066	(新第三紀)		頁岩:新	
砥石	頁岩:新	堆積岩	7.31	3.2	1.13	25.8	3区	Q8 // 耕 3001	2090	(新第三紀)		頁岩:新	
砥石	頁岩:新	堆積岩	7.71	6.11	3.58	124.1	3区	M4 // P3060	2116	(新第三紀)		頁岩:新	
砥石	頁岩:新	堆積岩	8.84	5.13	2.35	104.4	3区	// SI3005	2233	(新第三紀)		頁岩:新	
砥石	頁岩:新	堆積岩	13.97	3.86	3.54	375	3区	// SI3006	2236	(新第三紀)		頁岩:新	
砥石	頁岩:新	堆積岩	11.44	4.97	2.73	246	3区	// SI3007	2248	(新第三紀)		頁岩:新	
砥石	頁岩:新	堆積岩	6.98	2.25	1.99	67.1	3区	// 暗褐色砂層 /	2272	(新第三紀)		頁岩:新	
砥石	頁岩:新	堆積岩	12.45	5.71	4.39	435	3区	P8 / 黄灰色砂層 /	2902	(新第三紀)		頁岩:新	
砥石	頁岩:新	堆積岩	8.44	6.6	3.46	163.6	3区	// SI3014	3193	(新第三紀)		頁岩:新	
砥石	頁岩:古	堆積岩	10.15	5.93	2.36	231	3区	// SI3003	2064	(古期)		頁岩:古	
砥石	砂岩:新	堆積岩	12.85	11.65	5.65	1401	2区	N30 // SK2006	0574	(新第三紀)	32	砂岩	
砥石	砂岩:新	堆積岩	12.69	6.48	3.48	484	2区	N33 / 第7層以下 /	0758	(新第三紀)		砂岩	
砥石	砂岩:新	堆積岩	13.7	7.5	3	426	2区	L34 // DD2003	1600	(新第三紀)	49	砂岩	
砥石	砂岩:新	堆積岩	14.14	12.61	4.32	988	3区	N5 // SI3006	1928	(新第三紀)		砂岩	
砥石	砂岩:古	堆積岩	8.68	4.28	4.36	354	3区	// SI3004	2167	(古期)		砂岩	
砥石	砂岩:古	堆積岩	12.2	7.48	4.79	1217	3区	// 暗褐色砂層 /	2273	(古期)		砂岩	
砥石	砂岩:古	堆積岩	8.55	5.55	5.32	304	3区	// 暗褐色砂層 /	2548				

表 27 出土石器類一覧表 2

種別	鑑定岩石名 :新=新第三紀 :古=古紀	岩石種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	調査区	出土位置 グリッド/層位/遺構	取上 番号	遺物 番号	グラフ分類用岩石名
											:新=新第三紀 :古=古紀
砥石	シルト岩	堆積岩	13.63	7.21	5.78	218	3区	//SI3014	3196		シルト岩
砥石	シルト岩	堆積岩	7.1	4.84	2.25	66.5	3区	//SI3003	3198		シルト岩
砥石	粘板岩	変成岩	6.86	3.24	0.68	16.6	2区	M35//SD2012	0703		粘板岩
砥石	蘆青石ホルンフェルス:新	変成岩	7.07	5.66	3.76	3.6	3区	//SI3004	2162		蘆青石ホルンフェルス
砥石	緑色岩	変成岩	12.28	5.28	1.93	250	3区	//SI3009・SD3004	3069		緑色岩
石核	真岩:新	堆積岩	9.76	8.17	1.81	137.2	2区	M31/第6層/	0279		真岩:新
石核	真岩:新	堆積岩	6.38	4.6	10.2	37.4	3区	O5/暗褐色砂層/	0833		真岩:新
石核	真岩:新	堆積岩	6.9	6.09	1.99	60.1	3区	O8/暗褐色砂層/	0855		真岩:新
石核	真岩:新	堆積岩	5.82	3.63	0.93	21.8	3区	N4//SI3006	0970		真岩:新
石核	砂質真岩:新	堆積岩	11.07	7.23	2.66	227	3区	N5//SI3006	1239		真岩:新
石核	真岩:新	堆積岩	11.13	8.36	3.65	287	3区	//	2123		真岩:新
石核	真岩:新	堆積岩	7.69	4.01	1.62	66.1	3区	Q6//耕3001	2129		真岩:新
石核	真岩:新	堆積岩	6.9	5.51	0.64	28.1	3区	//SI3008	2328		真岩:新
石核	真岩:古	堆積岩	3.61	3.1	0.77	8.6	3区	O5/暗褐色砂層/	0852		真岩:古
剥片	真岩:新	堆積岩	2.71	2.44	0.46	3.3	1区	//黒色土/	0001		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	8.42	7.04	1.74	104.2	3区	//表土剥ぎ/	0327		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	5.34	3.49	0.72	13.5	3区	//	0450		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	6.85	4.65	0.72	24.7	3区	O4/攪乱/	0533		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	12.09	6.89	1.92	119	3区	N5/暗褐色砂層/	0744		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	4.46	3.8	0.47	6.9	3区	O11/黒色土層/	0747		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	7.46	5.97	1.34	60.5	3区	N5/暗褐色砂層/	0771		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	10.1	5.12	1.17	55.7	3区	O8/灰褐色砂層/	0774		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	8.37	5.73	0.45	24.2	3区	P8/暗褐色砂層/	0776		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	6.54	5.3	0.57	17.4	3区	P9/暗褐色砂層/	0938		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	6.3	4.46	0.98	26.1	3区	N5//SI3006	1019		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	5.07	4.49	0.7	19.8	3区	N5/暗褐色(土坑上)/	1036		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	4.23	3.3	0.35	4.7	3区	P10/暗褐色砂層/	1072		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	7.62	5.38	0.95	37.5	3区	Q14/耕作土/	1134		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	5.59	3.09	0.92	20.3	3区	N5//SI3006	1265		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	7.14	4.93	0.69	20.3	3区	N5//SI3006	1267		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	3.18	2.77	0.38	3.9	3区	P12//SK3050	1919		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	3.64	2.58	0.46	6.1	3区	//P3159	2035		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	7.22	3.1	1.12	25.8	3区	//SI3011	2073		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	5.97	3.66	0.57	16	3区	//	2123		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	6.57	5.95	0.54	2.9	3区	//SI3008	2324		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	4.66	3.23	0.39	3.8	3区	//SI3008	2324		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	4.06	2.88	3	3	3区	//SI3008	2324		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	2.46	2.22	0.14	0.7	3区	//SI3008	2324		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	4.11	2.34	0.66	5.1	3区	//SI3008	2329		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	5.4	1.11	0.52	26.5	3区	//SI3004	2401		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	2.75	1.78	0.34	1.6	3区	//SI3005	2445		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	7.25	7.18	0.76	52	3区	//SD3007	2681		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	5.21	3.1	0.38	9.5	3区	//表採/	2684		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	4.57	3.56	0.47	6.7	3区	//P3447	2697		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	4.31	3.39	0.4	5.6	3区	//P3263	2761		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	6.85	5.63	1.34	5.4	3区	//P3763	3344		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	4.42	3.89	0.66	12	3区	//SK3018	3387		真岩:新
剥片	真岩:新	堆積岩	2.77	2.21	0.5	1.9	3区	//P3003	3432		真岩:新
剥片	砂質真岩:古	堆積岩	4.25	3.53	0.55	9.9	3区	P3/第1面上/	0680		真岩:古
砥石	砂岩	堆積岩	25.7	21.8	4.4	70.1	3区	N3/暗褐色砂層/	1414		砂岩
剥片	粘板岩	変成岩	2.82	1.5	0.34	1.8	3区	O11//SK3039	2179		粘板岩
剥片	蘆青石ホルンフェルス:新	変成岩	4.79	3.81	0.52	11	3区	//SI3006	2289		蘆青石ホルンフェルス
剥片	蘆青石ホルンフェルス:新	変成岩	7.74	4.13	0.75	24.6	3区	//整理欠番	3335		蘆青石ホルンフェルス
石鏃	真岩:新	堆積岩	4.35	1.4	0.6	3.7	3区	O4/攪乱/	0533	243	真岩:新
石鏃	真岩:新	堆積岩	2.65	1.85	0.45	2.1	3区	P6/攪乱/	0666	244	真岩:新
石鏃	真岩:新	堆積岩	2.35	1.05	0.35	0.8	3区	//SK3018	3538	181	真岩:新
削器(未製品)	真岩:新	堆積岩	6.17	4.4	1.03	35.9	2区	N33/第6層/	0274		真岩:新
削器	真岩:新	堆積岩	5.22	4.48	0.67	17	1区	B52/第4面2層(黒褐色土)/	0358		真岩:新
削器	真岩:新	堆積岩	4.99	3.87	0.62	13.8	3区	P9/攪乱/	0777		真岩:新
削器	真岩:新	堆積岩	4.23	2.44	0.51	7.5	3区	N5//SI3006	1240		真岩:新
削器	真岩:新	堆積岩	5.3	3.86	0.68	15.6	3区	P16/攪乱/	1667		真岩:新
削器	真岩:新	堆積岩	10.24	4.85	0.62	39.1	3区	//SI3002	2060		真岩:新
削器	真岩:新	堆積岩	10.16	5.68	1.25	101.6	3区	P12/暗褐色砂層/	2340		真岩:新
削器	真岩:新	堆積岩	6.76	4.69	1.09	37.8	3区	P13/暗褐色砂層/	2344		真岩:新
削器	真岩:新	堆積岩	53.2	3.88	1	22	3区	//P3104	2649		真岩:新
削器	砂質真岩:新	堆積岩	14.32	8.33	1.82	283	3区	//SK3011	2690		真岩:新
削器	真岩:新	堆積岩	6.96	5.35	1.81	71.5	3区	//P3467	3394		真岩:新
削器	真岩:新	堆積岩	6.85	5.63	1.34	63.9	3区	//	3444		真岩:新
削器	真岩:新	堆積岩	6.3	4.38	1.09	39.3	3区	//第1面上/	3539		真岩:新
削器	砂質真岩:古	堆積岩	5.1	4.99	0.98	28.4	3区	//SK3019	2095		真岩:古
削器	真岩:古	堆積岩	6.76	4.74	0.99	49	3区	N5/暗褐色(土坑上)/	1034		真岩:古
削器	蘆青石ホルンフェルス:新	変成岩	7.18	4.77	1.05	35.1	3区	P3/第1面上/	0678		蘆青石ホルンフェルス
削器	真岩:新	堆積岩	4.31	2.38	0.59	5.9	3区	N5/暗褐色砂層/	0771		泥岩:新
石剣	真岩:新	堆積岩	14.45	4.68	1	107	3区	P6/攪乱/	0909	228	真岩:新
石剣	緑色千枚岩	変成岩	9.25	4.35	0.5	29.3	3区	Q8/暗褐色砂層/	2271	226	千枚岩
石鏃	緑色片岩	変成岩	18.95	8.4	1.65	399.9	3区	P3/第1面上/	0675	238	緑色片岩
石鏃	輝石安山岩	火成岩	6	5.2	4.3	170.5	3区	P8/暗褐色砂層/	1068	247	安山岩
石鏃	橄欖石含有輝石安山岩	火成岩	6.9	2.9	2.5	45.5	3区	//SI3003	2065	171	安山岩
未製品	真岩:新	堆積岩	5.6	6	1.25	58	1区	C51//	0272	4	真岩:新
未製品	真岩:新	堆積岩	11.2	9.5	2.3	347	3区	N5//SI3006	1025	182	真岩:新
未製品	真岩	堆積岩	19.7	10.7	4.7	1,184	3区	//SK3013	2790	204	真岩
未製品	緑色岩	変成岩	5.4	2.15	0.4	7.7	2区	M33/第7層/	0926	17	緑色岩
剥片(黒曜石)	黒曜石	火成岩	2.4	1.3	0.4	1.1	1区	B51//土石流跡1	0255	2	
剥片(黒曜石)	黒曜石	火成岩	1.1	0.8	0.4	0.2	1区	C51/耕作土/	3537	3	
管玉	碧玉	火成岩	2.95	1.1	1.1	6.6	2区	M34/第5層/	0179	21	
管玉	碧玉	火成岩	2.45	0.85	0.8	2.6	2区	L35/第5層/	0297	22	
管玉	碧玉	火成岩	0.9	0.45	0.4	0.2	2区	N31/第6~7層/	0649	7	
管玉	変質安山岩(碧玉)	火成岩	1.45	0.4	0.2	0.1	3区	P12/攪乱/	1071	241	
管玉	流紋岩質凝灰岩(緑色凝灰岩)	堆積岩	2.3	0.35	0.35	0.2	3区	O4//SI3005	1927	176	
算盤玉	石英(水晶)	火成岩	0.49	0.4		0.1	3区	//SX3003	3540	198-1	
算盤玉	石英(水晶)	火成岩	0.64	0.4		0.1	3区	//SX3003	3540	198-2	
算盤玉	石英(水晶)	火成岩	0.57	0.4		0.1	3区	//SX3003	3540	198-3	
算盤玉	石英(水晶)	火成岩	0.5	0.4		0.1	3区	//SX3003	3540	198-4	
算盤玉	石英(水晶)	火成岩	0.56	0.39		0.1	3区	//SX3003	3540	198-5	
算盤玉	石英(水晶)	火成岩	0.49	0.4		0.1	3区	//SX3003	3540	198-6	
算盤玉	石英(水晶)	火成岩	0.54	0.4		0.1	3区	//SX3003	3540	198-7	
算盤玉	石英(水晶)	火成岩	0.5	0.36		0.1	3区	//SX3003	3540	198-8	

表 28 出土石器類一覽表 3

種 別	鑑定岩石名		岩石種類	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	調査区	出土位置 グリッド/層位/遺構	取上 番号	遺物 番号	グラフ分類用岩石名 :新=新第三期 :古=古期
	:新=新第三期 :古=古期											
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.62	0.4		0.1	3区	//SX3003	3540	198-9	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.46	0.39		0.1	3区	//SX3003	3540	198-10	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.47	0.46		0.1	3区	//SX3003	3540	198-11	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.43	0.42		0.1	3区	//SX3003	3540	198-12	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.48	0.34		0.1	3区	//SX3003	3540	198-13	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.48	0.39		0.1	3区	//SX3003	3540	198-14	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.55	0.41		0.1	3区	//SX3003	3540	198-15	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.48	0.35		0.1	3区	//SX3003	3540	198-16	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.53	0.42		0.1	3区	//SX3003	3540	198-17	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.47	0.38		0.4	3区	//SX3003	3540	198-18	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.42	0.34		0.1	3区	//SX3003	3540	198-19	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.57	0.41		0.1	3区	//SX3003	3540	198-20	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.31	0.35		0.1	3区	//SX3003	3540	198-21	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.56	0.46		0.1	3区	//SX3003	3540	198-22	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.31	0.33		0.1	3区	//SX3003	3540	198-23	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.58	0.42		0.1	3区	//SX3003	3540	198-24	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.34	0.35		0.1	3区	//SX3003	3540	198-25	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.39	0.38		0.1	3区	//SX3003	3540	198-26	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.55	0.4		0.1	3区	//SX3003	3540	198-27	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.55	0.4		0.1	3区	//SX3003	3540	198-28	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.57	0.35		0.1	3区	//SX3003	3540	198-29	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.47	0.41		0.1	3区	//SX3003	3540	198-30	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.49	0.35		0.1	3区	//SX3003	3540	198-31	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.59	0.36		0.1	3区	//SX3003	3540	198-32	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.52	0.42		0.1	3区	//SX3003	3540	198-33	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.49	0.42		0.1	3区	//SX3003	3540	198-34	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.5	0.4		0.1	3区	//SX3003	3540	198-35	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.56	0.4		0.1	3区	//SX3003	3540	198-36	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.54	0.43		0.1	3区	//SX3003	3540	198-37	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.53	0.42		0.1	3区	//SX3003	3540	198-38	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.6	0.4		0.2	3区	//SX3003	3540	198-39	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.52	0.35		0.1	3区	//SX3003	3540	198-40	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.54	0.42		0.1	3区	//SX3003	3540	198-41	
算盤玉	石英(水晶)		火成岩	0.52	0.37		0.1	3区	//SX3003	3540	198-42	
不明	輝石安山岩		火成岩	33	12.5	8.69	5200	3区	//SI3008	2345		安山岩
不明	輝石安山岩		火成岩	17	7.48	4.79	926	3区	O6/暗褐色砂層/	2589		安山岩
不明	輝石安山岩		火成岩	9.96	6.94	1.85	230	3区	//SI3009・SD3004	3064		安山岩
不明	輝石安山岩:新		火成岩	25	10.2	7.36	1.6	3区	//SI3014	3192		安山岩
不明	輝石安山岩:新		火成岩	8.4	7.08	5.03	432	3区	//SI3007	2241		安山岩
不明	輝石安山岩:新		火成岩	12.16	8.59	2.5	419	3区	//SI3008	2305		安山岩
不明	ドレライト		火成岩	8.68	4.03	0.68	26.8	3区	//SI3007	2262		ドレライト
不明	脈石英		火成岩	8.25	5.73	3.77	190.3	3区	//P3219	2493		脈石英
不明	頁岩:新		堆積岩	7.53	3.42	0.52	9.2	3区	//SI3004	2401		頁岩:新
不明	頁岩:新		堆積岩	15.5	6.7	4	478	2区	N30/第7層/	0298	19	頁岩:新
不明	頁岩:新		堆積岩	8.9	6.22	1.87	113.5	3区	O3/攪乱(溝、江戸?)/	0531		頁岩:新
不明	頁岩:新		堆積岩	10.1	5.12	1.17	55.7	3区	O9/灰褐色砂層/	0775		頁岩:新
不明	頁岩:新		堆積岩	2.18	5.26	1.02	29	3区	//SI3007	2259		頁岩:新
不明	頁岩:古		堆積岩	8.25	3.69	1.82	72.3	3区	Q4/黄灰色砂層/	3326		頁岩:古
不明	頁岩		堆積岩	22.3	17.1	2.92	139.2	1区	B51//土石流跡1	0256		頁岩
不明	頁岩		堆積岩	3.9~	2.0~	0.45	3.9	3区	P6/攪乱/	0665	242	頁岩
不明	砂岩:新		堆積岩	17.5	9.44	6.5	1413	3区	//SI3004	2168		砂岩
不明	砂岩:新		堆積岩	12.38	8.34	5.04	546	3区	P8//SI3005	2232		砂岩
不明	砂岩:古		堆積岩	8.32	1.9	1.64	47.7	3区	//SK3018	2542		砂岩
不明	砂岩:新		堆積岩	10.23	4.03	0.72	33.8	3区	P6//P3106	2639		砂岩
不明	砂岩:新		堆積岩	4.29	3.08	0.72	1106	3区	//SK3020	2799		砂岩
不明	砂岩:古		堆積岩	13.7	8.66	5.01	1003	3区	//P3742	3200		砂岩
不明	シルト岩		堆積岩	10.03	7.1	2.37	190.2	3区	//SI3014	3197		シルト岩
不明	粘板岩		變成岩	9.85	3.15	0.75	28.7	3区	P2/第1面上(黄褐色砂)/	0672	236	粘板岩
不明	粘板岩		變成岩	3.89	2.82	0.57	9	3区	O16/黒色土上面/	0720		粘板岩
不明	粘板岩		變成岩	7.6	3.78	0.83	34.4	2区	/排土/	0765		粘板岩
不明	粘板岩		變成岩	6	5.01	1.15	43.1	3区	P8/攪乱/	0845		粘板岩
不明	粘板岩		變成岩	6.49	3.2	0.63	18.7	3区	Q14/攪乱/	1082		粘板岩
不明	粘板岩		變成岩	7.01	3.52	1.13	35.9	3区	Q14/耕作土/	1134		粘板岩
不明	粘板岩		變成岩	9.01	2.86	1.16	42.8	3区	N5//SI3006	1929		粘板岩
不明	粘板岩		變成岩	5.23	4.42	0.61	21.6	3区	Q8//耕3001	2090		粘板岩
不明	緑色千枚岩		變成岩	6.23	3.64	0.61	22.7	3区	P2/第1面上/	0671		千枚岩
不明	緑色千枚岩		變成岩	9.23	4.1	2.12	153.7	3区	N5//SI3006	1027		千枚岩
不明	緑色千枚岩		變成岩	6.44	3.07	0.59	18.7	3区	Q14/攪乱/	1082		千枚岩
不明	緑色千枚岩		變成岩	5.34	2.09	0.66	8.6	3区	//SI3005	2160		千枚岩
不明	緑色千枚岩		變成岩	14.41	8.18	2.9	460	3区	//SI3007	2262		千枚岩
不明	董青石ホルンフェルス		變成岩	7.99	4.93	0.77	28.5	2区	N32/第7層/	0928		董青石ホルンフェルス
不明	董青石ホルンフェルス:新		變成岩	24.8	15.1	5.55	331	3区	//SI3004	2162		董青石ホルンフェルス
不明	緑色岩		變成岩	6.48	4.7	1.3	60.7	3区	//SI3006	2282		緑色岩
不明	不明		不明	2.5	2.4	1.9	6	1区	B53//SD1001	0115		不明
不明	不明		不明	3.25	2.53	0.4	5	1区	B53//SD1001	0115		不明
不明	不明		不明	7	5.85	1.44	49	1区	B51//土石流跡1	0184		不明
不明	不明		不明	7.56	6.61	2.39	99	1区	B51//土石流跡1	0184		不明
不明	不明		不明	3.68	1.94	1.05	10	1区	B53//SD1001	0234		不明
不明	不明		不明	4.79	4.57	0.77	18	2区	N34/第6層/	0380		不明
不明	不明		不明	6.68	5.24	0.96	35	3区	P16/攪乱/	1178		不明
不明	不明		不明	7.47	6.12	2.26	139	3区	//P3421	2000		不明
不明	不明		不明	7.28	4.67	3.94	171	3区	//SI3002	2083		不明
不明	不明		不明	5.38	4.09	7.4	25	3区	//SI3005	2158		不明
不明	不明		不明	3.63	1.86	0.2	2	3区	//P3110	2508		不明
不明	不明		不明	4.87	3.32	1.31	19	3区	//P3204	2569		不明
不明	不明		不明	4.53	2.68	0.42	5	3区	//P3449	3317		不明

頁岩製各 1 点である。

上面に平坦面を有する直径 20cm 以上のやや大型の石器。平坦面に凹みを有するものもある。本調査では竪穴住居跡の床面で出土したものを台石とした。

叩石 7 点出土した。頁岩製・砂岩製が各 2 点、以下安山岩製・閃緑岩製・堇青石ホルンフェルス製が各 1 点である。

手に握って使用し、物を潰したり叩いたりする道具。衝撃を受ける部分には打痕が残されている事が多い。

砥石 32 点出土した。うち砂岩製 13 点が最多で、以下頁岩製が 10 点、流紋岩製・シルト岩製が各 2 点、安山岩製・角閃石製・粘板岩製・緑色岩製・堇青石ホルンフェルス製が各 1 点である。研磨に使用された石器。大型の砥石の研面は凹んだ平坦面となる。

3 区 SI3014 から 4 面の砥面を持つ砂岩製の大型砥石 (223) が出土している。主要な砥面に挟まれた平面部には、部分的に筋状の研痕が認められる。刃部調整痕と思われる。

石核 9 点出土した。全て頁岩製である。

剥片を剥がし取った後に残った原材。

剥片 38 点出土した。頁岩製 35 点が最多で、堇青石ホルンフェルス製が 2 点、粘板岩製 1 点である。

主に打製石器の製作過程で生じる小片を指す。当遺跡出土の剥片は 0.9 ~ 104g までと大きさに幅がみられる。大きな剥片は石器の素材となるもの。小さな剥片は刃部への調整剥離で生じたものと考えられる。

石鏃 3 点出土した。全て頁岩製である。

石製の鏃 (やじり)。狩猟用の小型石器。石材を長方形もしくは柳葉形に成形し、微細な調整剥離によって縁部に刃部を作る。

削器 17 点出土した。頁岩製 16 点、堇青石ホルンフェルス製が 1 点である。

調整剥離によって縁辺の一部に刃部を成形する。石斧や石鏃のように明確な分類はできないが、刃部の調整が認められる石器を本調査では削器とした。

第 102 図に示した岩石内訳表グラフからは、調査地周辺地質図と対応する石材を使用して多様な石器が製作されていること、石材は特殊なもの (碧玉、黒曜石) を除いてはすべて当該地付近で入手できることがわかる。石材として使用される石種は堆積岩である泥岩 (頁岩) と砂岩が多く、火成岩である安山岩、変成岩である粘板岩も多い。厳密に石材が石種と対応するわけではないが、石器の器種毎にほぼ決まった石材が選ばれている。石鏃・石斧・叩石・削器等の硬度が必要な石器については泥岩 (頁岩) が用いられ、石包丁のような薄い板状の形状を特徴とする石器については緑色千枚岩、緑色岩が用いられる傾向が認められる。

3 区竪穴式住居跡 (SI3006) の中央土坑 (SK3018) から出土した石鏃 (181) は、同遺構埋土を水洗いして得られた頁岩製剥片と接合でき、住居内で石器の加工を行っていたことが確認された。調査では、このほかに石包丁・石斧の未製品が多数出土している。石包丁の未製品の抽出遺物は 3 点ある。敲打痕・研磨痕はみられるものの調整が粗く、円孔は未穿孔もしくは穿孔途中である。この未製品や加工のばらつきの多さも集落内での日常的な加工を裏付けているのではないかと考えられる。

掲載された地質図に示されていない石材を使用した石器・石製品は以下のものがある。

黒曜石製剥片　　ほとんど鉱物を含まないガラス質の火成岩。割ると非常に鋭い貝殻状の剥離面を示す。肉眼鑑定では産地は特定できない。調査地の近辺では島根県の隠岐島で黒曜石を産出する。1区の中世以降耕作土からの出土のため、帰属時期は不明である。剥片は2点、1.1gと0.2gの微細破片である。

碧玉製管玉　　4点出土した。碧玉は微細な石英の結晶が集合した鉱物で、不純物である酸化・水酸化鉄等を含むことによって不透明となり色調が変わる。肉眼鑑定では碧玉の産地は特定できない。調査地の近辺では島根県の出雲花仙山で碧玉を産出する。管玉の穿孔方法が鉄針による個体もあることから古墳時代以降のものである可能性が高い。碧玉製の管玉は長さ0.9から2.95cm。孔径は0.1から0.3cmまでを測る。

緑色凝灰岩製管玉　　1点出土した。竪穴式住居跡(SI3005)からの出土である。緑色凝灰岩は火山灰が地上や水中に堆積し、固結した岩石で、石材としては比較的柔らかく加工しやすい。穿孔具は石針で、両面穿孔と推測される。長さ2.3cm、径0.35cm、孔径は2mmである。

水晶製小玉　　水晶とは鉱物である石英の中で特に無色透明のものを指す。3区木棺墓(SX3003)主体部埋土の水洗によって、水晶製小玉が42点検出された。形状は2種に分類できる。胴部の張り出した稜線のある算盤玉形が40点と稜線のない丸型が2点である。共伴する土器がないことから遺構時期は不明であるが小玉の穿孔具が鉄針とみられることから弥生時代後期以降の可能性が高い。したがって集落出土の石器類とは異なる時期と考えられる。算盤玉形は長さ0.31から0.6cm、幅0.33から0.46cmをはかる。丸型の水晶は長さ0.31と0.34cm、幅は0.33と0.35cmをはかる。いずれも小型である。

5. まとめ

奈免羅・西の前遺跡は、八東川流域に分布する多様な石材を入手できる環境にあることがわかった。石材と石器の関係の検討を通じて、弥生時代中期後葉の頃には、目的・用途に応じた石材を選択して、集落内で石器の製作を行っていたことが判明した。八頭町のこれまでの発掘調査において、弥生時代の集落とその出土石器の関係が、石材の産地と石器の加工地を含めて、このような形で示された例は初めてではないだろうか。粗雑な概観をまとめたただけのものではあるが、今後、他遺跡の出土例と比較しつつ本稿の所見の妥当性を検証していきたい。

参考文献

- 田中英司 2004『石器実測法情報を書く技術』雄山閣
岡俊彦 2002『ポケット版 学研の図鑑⑦鉱物・岩石』学習研究社
益富壽之助 1955『原色岩石図版』保育社

第4節 奈免羅・西の前遺跡出土の銅釧

井汲 隆夫

1. SI3012 内 SK3027 の銅釧片の出土状況

奈免羅・西の前遺跡Ⅱ-3区第2面 SI3012 内から青銅製の銅釧片が出土した。この資料は材質と形状から有鉤銅釧の可能性が高いとわかり、山陰地方（鳥取・島根両県）では初の出土、全国的にみても30遺跡目、80例目となる貴重な発見となった。

出土地点は、3区第2面 P2 グリッドの竪穴住居跡 SI3012 内の SK3027 である。SK3027 は、平面形は不整四角形の浅い土坑で、規模は、長軸 125.0cm、短軸 75.5cm、遺構確認面からの深さは 7.3cm である。SK3027 から口縁端部に凹線文を有する甕の口縁部片が出土しており、弥生時代中期後葉とみてよい。SK3027 に切られる SK2026 がこの SI3012 の中央土坑に相当し、遺構内には弥生土器の甕片がつぶれた状態で遺存していた。この甕片は内面にハケ調整痕があり、体部の形状からも弥生時代中期後葉頃の特徴を具えていた。

SI3012 竪穴住居跡は、竪穴の掘方も壁溝も残されていない状態であるが、周囲の弥生時代の竪穴住居跡例をみるかぎり、平面形は円形と思われる。北側に位置する SI3011 が、柱穴 4 基、中央土坑 1 基の組み合わせで円形を呈しており、規模的にも SI3012 と近い。SI3011 と SI3012 は 4 基の柱穴と 1 基の中央土坑を有する点で共通性がある。また、この 4 基の柱穴のうち 1 基に礎石を備えていること、しかも、その礎石を有する柱穴の脇にもう一つ礎石を備えたピットを有する、という特徴を共有する。SI3011 は南西側の柱穴の南、SI3012 は北東側の柱穴の北に、それぞれピットをもつ。この特徴は SI3003 の南側柱穴でも類似のパターンが見られるため、当該集落の竪穴住居にしばしば作られる共通の構造物の跡であろう。この“礎石柱穴の脇に礎石ピットを有する竪穴住居跡”が、この集落の特性を明らかにする糸口になればと期待するが、今のところ有意な解釈には至っていない。

出土した銅釧片は、遺存状態 1 割未満の細片であり、残存長 2.75cm、幅 0.80cm、厚さ 0.55cm、重量 5.3g である。有鉤銅釧に 4 箇所ある屈曲部分のうちの 1 箇所とみられる。環部下面（上面の可能性もある）には平坦面が作られ、有鉤銅釧が上下 2 箇所に平坦面を加工するものが多いという特徴に合致する。

2. 奈免羅・西の前遺跡出土銅釧の特徴

表 29 に、これまで報告された 30 遺跡の有鉤銅釧の出土例を記し（このうち 10 の田能遺跡出土例は有鉤ではない）、図 103 にその位置を示す。

過去の例を見る限り、有鉤銅釧は竪穴住居跡や墳丘墓、古墳からの出土が多い。出土遺跡の時期は、弥生時代中期以降古墳時代後期までの期間に及ぶ。当遺跡出土の銅釧が鳥取県内では初の出土であることは先に述べたが、木製品等の膨大な遺物の出土量で注目される鳥取県東部の青谷上寺地遺跡では有鉤銅釧は出土していない。青谷上寺地遺跡には、竪穴住居跡や墳墓の遺構がなく、個人の着用品と思われる有鉤銅釧が出土しにくい条件であったことが影響しているとも思えるが、千代川水系の他の集落跡でもこれまで出土しておらず、多数の竪穴住居跡や四隅突出型墳丘墓が検出された県西部の妻木晩田遺跡等でも、やはり有鉤銅釧の報告例はない。ならば、奈免羅・西の前遺跡Ⅱの居住者ははたして何者であったか、という疑問が生じる。

この疑問を少しでも解明するため、今回出土した銅釧について、熊本大学文学部教授の木下尚子教

授に実見していただき、貴重な所見をいただいた。

木下教授からは、「銅質はよく、全面的めらかで、使い込まれた状況を残す」という指摘のほか、形状的にも有鉤銅釧の特徴を具えており、兵庫県尼崎市の田能遺跡出土例(表 29No.10)、佐賀県桜馬場出土例(表 29No.4)のB群との類似がみられることが示された。また、本遺跡と同様に竪穴住居跡から出土した当該地と最も近い出土地点である岡山県津山市荒神峪遺跡出土例(表 29No.7)と比較し、形状が異なることを指摘されている。

総括的には、

- 「① 貝輪を模倣したものであることは明らかである。有鉤銅釧である可能性は高いが、田能例のような(鉤を有さない銅釧…筆者追記)形状であった可能性もある。
- ② 西日本の初期の有鉤銅釧に共通した特徴をもつ。
- ③ こうした初期の貝輪系銅釧が鳥取県の内陸部で発見されたことは、この地が九州や瀬戸内側と何らかの関係をもっていたことを示唆する。」

という所見を得た。

確かに、青銅の質も良く、蛍光 X 線分析(本報告書第 2 章)の成果にあるように、含有物中にわずかに銀を含み、古墳時代以前の古い時代のものとみて間違いない。

木下教授は、有鉤銅釧の変遷について、『南島貝文化の研究 貝の道の考古学』(木下 1996)で総括し、形状・材質等の特徴から、以下のⅠ～Ⅴまでの 5 段階に区分できることを指摘した。

- 「Ⅰ 鉤概念出現以前: 南海産貝輪に鉤概念の影響が及ぶ前の段階。貝輪模造銅釧が作られる。銅質は非常に良い。
- Ⅱ 有鉤銅釧の誕生: 南海産貝輪に鉤デザインがはいり、立岩型貝輪を下敷きにした有鉤銅釧が誕生する。銅釧は立岩型貝輪の特徴をとらえ、これにもとづいた形状の鉤をもつ。銅質は一般に良い。
- Ⅲ 変容 1: 銅釧は立岩型貝輪の形状からはなれ、貝輪にはみられない形状をとったり、一部を極端に強調したりする。いっぽうⅡ段階の銅釧の退化したのも登場する。銅質の低下がみられる。
- Ⅳ 変容 2: 銅釧は貝輪の形状から完全に離れる。環部のデフォルメや鉤の扁平化が進む。
- Ⅴ 変容 3: 鉤が銅釧から独立し、極端に強調される。」(木下 1996)から抜粋

有鉤銅釧の誕生と変容の流れを、(木下 1996)から一部改変して、図 104 の「貝輪系銅釧の変容」に示す。この段階区分に当遺跡出土例をあてはめるのは、肝心の鉤の部分がないため困難であるが、少なくとも銅質と作りでみる限り、Ⅱ段階かそれ以前の段階に収まる可能性が高く、時期的にみても、弥生時代中期後葉とする土器の年代と矛盾しない。

3. 有鉤銅釧の出現と消滅

有鉤銅釧は出土例が非常に少ないため、その意義を見出す作業は難航していたが、木下教授は前掲書において、この有鉤銅釧を、貝輪・銅釧・石釧を含む弥生時代から古墳時代まで継続する貝輪系釧(腕輪・腕飾)総体の中に置くことで、「鉤の呪力」への崇敬があったことを指摘するに至った。以下では、教授の論考中から有鉤銅釧に関連する貝輪系釧の系譜の概要を述べる。

表 29 全国出土有鉤銅釧一覽表

No.	所在地		遺跡名	遺構種類	個数	状態	特徴	木下分類	共存遺物等の年代	文献
1	長崎県	対馬市	佐護白岳	積石墓(石棺)	2	完存		Ⅱ	弥生後期か	水野清一・樋口隆康・岡崎敬 1953『対馬 玄海における絶島、対馬の考古学的調査』東方考古学叢刊乙種第6冊 東亜考古学会
2-1	長崎県	杵岐市	原の辻(大川地区)	甕棺?	3	破片		Ⅱ	弥生中期中頃～後期前半	安楽勉・藤田和裕 1978『原の辻遺跡』長崎県文化財調査報告書第37集 長崎県教育委員会
2-2	長崎県	杵岐市	原の辻(原地区)		1	鉤片		Ⅱ		福田一志・中尾篤志 2005『原の辻遺跡 総集編Ⅰ』原の辻遺跡調査事務所調査報告書第30集 長崎県教育委員会
3	佐賀県	唐津市	桜馬場	甕棺	26	完存		Ⅲ	弥生後期前半	杉原荘介・原口正三 1961『佐賀県桜馬場遺跡』『日本農耕文化の生成』東京堂、唐津湾周辺遺跡調査委員会編 1982『末盧国・佐賀県唐津市一東松浦郡の考古学的調査研究』六興出版
4	佐賀県	武雄市	茂手	掘立柱建物跡	1	完存	上下に平坦面	Ⅱ	弥生後期後半か	八坂誠他 1986『茂手遺跡』六角川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(下巻) 武雄市文化財調査報告書第15集 武雄市教育委員会
5	鳥取県	八頭町	奈免羅・西の前遺跡Ⅱ	竪穴住居跡	1	破片	平坦面あり	Ⅱ?	弥生中期末葉	本書
6	広島県	東広島市	浄福寺2号	竪穴住居跡	1	8割残存	環部菱形	Ⅱ	弥生後期	山田繁樹他 1993『東広島ニュータウン遺跡群Ⅱ』広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第97集 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター
7	岡山県	津山市	荒神峪	竪穴住居跡	1	破片		Ⅱ	弥生後期	小郷利幸・白石純 1999『荒神峪遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告書第64集 津山市教育委員会
8	岡山県	岡山市	加茂政所	土壌	1	鉤片	環部五角形	Ⅲ	弥生後期後半	松本和男他 1999『加茂政所遺跡・高松原古遺跡・立田遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 138 岡山県教育委員会
9	高知県	南国市	田村遺跡群 B3区	竪穴住居跡	1	鉤片				前田光雄 2004『田村遺跡群Ⅱ』高知県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第85集 高知県教育委員会・(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター
10	兵庫県	尼崎市	田能	木棺墓	1	完存		I(鉤なし)	弥生中～後期後半	田能遺跡発掘調査委員会 1986『田能遺跡概報』
11	大阪府	大阪市	長原(NC03-6次)	竪穴住居跡	1	鉤片		Ⅱ		大庭重信他 2005『大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告ⅡⅡ』財団法人大阪市文化財協会
12	大阪府	東大阪市	巨摩庵寺	沼状遺構	1	破片		Ⅱ	弥生中期末以降	玉井功他 1981『巨摩・瓜生堂』大阪府教育委員会・財団法人大阪府文化財センター
13	大阪府	東大阪市	粟池	溝	1	ほぼ完	環部三角	Ⅲ	弥生～古墳	財団法人大阪府文化財センター 1981『考古展 河内平野を掘る』
14	奈良県	奈良市	富雄丸山古墳	円墳(粘土槨)	1	完存	環部菱形	V鉤2	古墳時代	八賀晋 1982『富雄丸山古墳・西宮山古墳出土遺物』京都国立博物館
15	京都府	与謝野市	大風呂南1号墳	台状墓(木棺直葬)	13					白敷真也他 2000『大風呂南墳墓群』岩滝町文化財調査報告書第15集 岩滝町教育委員会
16	福井県	鯖江市	西山公園	埋葬施設?	9	完存		Ⅲ	不明	斎藤優 1966『西山公園出土の銅釧』『福井県鯖江市王山・長泉寺山古墳群』福井県教育委員会
17	石川県	金沢市	南新保C	方墳周溝	1	破片				伊藤雅文他 2002『金沢市南新保C遺跡』石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
18	愛知県	名古屋市	三王山	環濠	2		異形	Ⅲ異形	弥生後期	水野裕之他 1999『埋蔵文化財調査報告書30 三王山遺跡(第1～5次)』名古屋市文化財調査報告 40
19	静岡県	静岡市	小黒	包含層	1	鉤片	環部帯状	Ⅳ	弥生終末～古墳前期	天石夏実 2002『静岡平野出土の銅釧・鉄釧・鉄環』『ふちゅーる』No.10 平成12年度静岡市文化財年報 静岡市教育委員会
20	静岡県	静岡市	駿府城内	竪穴住居跡	1	破片		Ⅱ	弥生中期末後半	岡村渉 2002『特別史跡登呂遺跡発掘調査概要報告書Ⅲ』静岡市埋蔵文化財調査報告 60 静岡市教育委員会
21	静岡県	静岡市	曲金北第6次	水田(排水溝内)	1	鉤片		Ⅳ		鈴木悦之 2000『曲金北遺跡』『ふちゅーる』No.8 平成10年度静岡市文化財年報 静岡市教育委員会
22	静岡県	静岡市	登呂第21次	包含層	1	破片	環部帯状	Ⅳ		岡村渉 2002『特別史跡登呂遺跡発掘調査概要報告書Ⅲ』静岡市埋蔵文化財調査報告 60 静岡市教育委員会
23	静岡県	沼津市	御幸町第2次	竪穴住居跡	1	鉤片		Ⅳ	弥生後期後半	瀬川裕市郎他 1980『御幸町遺跡第2次調査概報』沼津市文化財調査報告第21集 沼津市教育委員会
24	静岡県	清水町	矢崎	包含層・竪穴住居跡	1		環部帯状	Ⅳ	弥生中～後期	江藤千鶴樹 1937『駿河矢崎の弥生式遺跡調査略報一其の東日本弥生式文化の様相に与える重要性に就て』『考古学』第8巻第6号 東京考古学会
25	静岡県	下田市	了仙寺洞穴	洞穴	1	鉤片	環部帯状	V小型	古墳時代後期(6C?)	宮本達希 1984『伊豆半島南部における洞穴遺跡と古墳』『静岡県考古学研究』16 静岡県考古学会
26	神奈川県	逗子市	池子 No.1-A 地点	方形周溝墓?	1	鉤片		Ⅳ	古墳時代前期	山本暉久・谷口肇 1999『池子遺跡群X No.1-A 地点』かながわ考古学財団調査報告 46 財団法人かながわ考古学財団
27	神奈川県	逗子市	持田U区	竪穴住居跡	1	破片		Ⅳ		赤星直忠他 1975『持田遺跡発掘調査報告(本文編)』逗子市文化財調査報告書第6集 逗子市教育委員会
28	神奈川県	秦野市	根丸島	竪穴住居跡	1	鉤片	環部帯状	Ⅳ	弥生中期末～後期	伊東秀吉他 1976『根丸島遺跡第一次・第二次発掘調査概報』根丸遺跡調査団
29	神奈川県	鎌倉市	手広八反目	竪穴住居跡	1	鉤片		Ⅳ	弥生後期前半	永井正憲他 1984『手広八反目遺跡発掘調査報告書』手広遺跡発掘調査団
30	千葉県	市原市	北旭台	竪穴住居跡	1	完存	環部丸み、上下に平坦面	Ⅳ	古墳時代前期	木野和紀 1990『市原市北旭台遺跡』財団法人市原市文化財センター調査報告書第39集 財団法人市原市文化財センター
31	埼玉県	朝霞市	宮台・宮原第7地点	土壌	1	破片		Ⅳ		瀧瀬芳之 2006『有鉤銅釧について』『朝霞市 宮台・宮原遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第318集 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

類型

A	福岡県	福岡市	香椎松原		1		環部菱形	Ⅳ		森貞次郎 1963『福岡県香椎出土の銅釧鎧笠と銅釧の系譜』『考古学集刊』
B	福岡県	古賀市	浜山B地点	竪穴住居跡	1	破片		Ⅲ	弥生中期中頃～後半	福岡県教育委員会 1982『浜山遺跡B地点』
C	福岡県	筑前町	宮ノ上	竪穴住居跡	1				弥生時代後期	谷澤仁 1989『福岡県宮ノ上遺跡』『日本考古学協会年報 40 1987年度』

※埼玉県・財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団、2006、『宮台・宮原遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第318集を元に木下尚子、1996、『南島貝文化の研究・貝の考古学』等を参考に作成



図103 有鉤銅釧出土位置図

有鉤銅釧の起源が西南諸島近海で産するゴホウラ製の貝輪にあることは、静岡県矢崎遺跡出土の有鉤銅釧に対して、小林行雄(1995『日本考古学概説』東京創元社)・江藤千萬樹(1973「駿河矢崎の弥生式遺跡調査略報」『考古学』)が指摘したことで周知化された。縄文時代から弥生時代にかけて貝輪は日本全国で出土するが、ゴホウラガイ製の貝輪は加工が精密で、貝輪の中で最も仕上げが美しいことで定評があり、特定の身分・地位等にあった者のみが着装したと推測されている。

ゴホウラガイは、奄美諸島、沖縄諸島から熱帯太平洋に分布する巻貝の一種である。学名は *Tricornis latissimus*, Linnaeus といい、腹足綱前鰓亜種中腹足目ソデボラ科(ソデガイ科、スイショウガイ科とも)に分類される。サンゴ礁海底の砂地のうち比較的外洋に近い水深 10m 程度の海底で生息し、殻高 18cm 前後にまで育つ。縄文・弥生時代を通じて食用とされるが、弥生時代では貝殻を砂浜に埋めてしばらく放置し、その後掘り出されて南九州へ運ばれたと考えられている。南九州ではゴホウラガイ等の南島産の貝類の粗加工がおこなわれ、その後、各地に運ばれたとみられる。

北部九州の貝輪はこれまでの遺跡出土例から以下のように「Ⅰ類 円環状貝輪」と「Ⅱ類 非円環状貝輪」の2類に分け、さらに貝の種別で細分化されている。

ゴホウラ貝輪は、表 30 の、大友型(佐賀県東松浦郡呼子町 大友遺跡)、諸岡型(福岡県福岡市博多区 諸岡遺跡)、立岩型(福岡県飯塚市立岩 立岩堀田遺跡)、土井ヶ浜型(山口県豊浦郡豊浦町 土井ヶ浜遺跡)、金隈型(福岡県福岡市博多区 金隈遺跡)の5型式が代表的である< ()内は指標遺跡>。

このうち、立岩型のゴホウラ貝輪が青銅器に「材質転換」したものが有鉤銅釧である。青銅製に転換し定着したのは、ゴホウラ貝輪のうちでは立岩型のみである。青銅製の有鉤銅釧の鑄型が出土したのは福岡県内の3箇所であり、弥生時代中期～後期段階での有鉤銅釧の製作地は北部九州の福岡産であった可能性が高い。ただし、弥生時代終末期から古墳時代以降に中部・東海地方に多い帯状の有鉤銅釧は別系統であり、製作地も中部・東海地方にあったとみられる。

立岩型から派生したものの一つである竹並型は、青銅製ではなく碧玉製（もしくは緑色凝灰岩製）に転換され「鍬形石」となり、これは古墳時代前期に近畿を中心に出現し古墳時代終了と同時に消滅する。諸岡型は、巻貝を輪切りにした面に見られるうずまきの形状を維持したまま弥生時代を通して着用品として残る。古墳時代前期の頃に、貝から玉に「材質転換」するのはゴホウラ貝輪だけでなく、オオツタノハガイ製の貝輪、カサガイ製の貝輪、イモガイ製の貝輪で同時期に起きる。オオツタノハガイ、カサガイ製のものが車輪石に、イモガイ製のものが石釧に「材質転換」し、いずれも碧玉製あるいは緑色凝灰岩製となる。この系譜を表 31 に示す。






















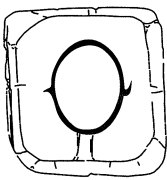







ゴホウラ貝輪は、もともと貝輪であった頃から他の貝種に比べて非常に作りが丁寧で、その神聖性がうかがえるものであった。事実、佐賀県唐津市桜馬場遺跡（表 29No.5）のように、首長級の墳墓の成人男子の右腕に多数はめられたよう状態で見つかった例がある。ゴホウラ貝輪が「材質転換」した先が弥生・古墳時代では特別神聖視されていた青銅と碧玉であるという点は象徴的といえる。

単に材質が変わっただけではなく、その後の有鉤銅釧は特異な変貌を遂げる。立岩型ゴホウラ貝輪には本来突起があるのみで鉤状の曲がりはないが、「材質転換」とともに突起が肥大化し鉤が生じ、その鉤が強調されてくる。木下教授は、これを有鉤銅釧の「変容」と呼び、「鉤の呪力をもつ貝輪」ゆえに生じる現象であると解釈する。例えば、弥生土器や須恵器等ならば時代とともに装飾の変化・退化は生じるものであるが、有鉤銅釧については鉤部分のみが強調され大きくなる。有鉤銅釧Ⅴ段階に比定される奈良県奈良市富雄丸山古墳出土の有鉤銅釧（表 29No.14）は、S 字形鉤状突起を 2 個有するタイプで、現在まででこの 1 点しか存在しないが、「鉤の呪力」を象徴的に示す最終形態といえる。貝輪着習俗自体は、北部九州を中心として広く分布していたといえるが、有鉤銅釧となると決して一般的とはいえない。有鉤銅釧自体が、貝輪の中で特殊なゴホウラ貝輪の立岩型から「材質転換」したものであり、さらに鉤の「変容」をもたらす呪術的性格を帯びていたということになると、本遺跡例の着習者は、やはり“特殊な地位の者”を想定せざるをえない。また、有鉤銅釧の出土例が当該地付近にないという事実が、さらにこの特殊性を際立たせている。

ただし、奈免羅・西の前遺跡の有鉤銅釧は破片の状態出土したものである。墳墓等にみられる「破砕鏡」とは異なるであろうが、意図的に破壊した可能性も考えられる。もしそうなら、この銅釧片は本来有鉤銅釧を着装していた“特殊な地位の者”自身ではなく、その人物の関係者がその「呪力」の

表 30 九州弥生文化の貝輪分類

形態分類	貝輪の種類	(型式名)	使用する貝(科名)	貝の生息域
Ⅰ類 円環状貝輪	二枚貝貝輪		フネガイ、サルボウなど〔フネガイ科〕	九州
			タマキガイ、ベンケイガイなど〔タマキガイ科〕	九州
	笠貝貝輪		マツバガイ〔ツタノハガイ科〕	九州
			オオツタノハ〔ツタノハガイ科〕	南島
			アンボンクロザメなど〔イモガイ科〕	南島
Ⅱ類 非円環状貝輪	イモガイ貝輪	(タテ型)	アンボンクロザメなど〔イモガイ科〕	南島
	ゴホウラ貝輪	(大友型)	ゴホウラ〔ソデガイ科〕	南島
	ゴホウラ貝輪	(土井ヶ浜型)	ゴホウラ〔ソデガイ科〕	南島
		(金隅型)	同上	南島
		(諸岡型)	同上	南島
		(立岩型)	同上	南島
		(その他の形状)	同上	南島

段階	九州	山陰	瀬戸内	北陸	近畿	中部・東海・南関東
I 鉤概念出現以前	 吉野ヶ里SJO100K  隅・西小田13地点K-23  道場山K48貝輪  千々貫銅鉏				 田能  夢野貝輪	
II 有鉤銅鉏の誕生	 上り立2号石椁  茂手  白岳  白岳  原ノ辻	 奈免羅・西の前II			 巨摩廃寺  駿府城内	
III 変容1	 桜馬場B群  桜馬場A群  宮ノ上		 加茂政所	 西山公園	 要池  三王山	
IV 変容2	 香椎		 浄福寺2号		 北旭台  池子  矢崎  小黒	
V 変容3	(白又キ図は貝輪、黒又リは銅鉏)				 雷雄丸山	 了仙寺洞穴

出典：(木下尚子,1996) から抜粋、一部改変

図104 貝輪系銅鉏の変容

一端を受け継いで保持していたとみることもできる。

有鉤銅鉏のIV段階の「変容2」では、環部が2mm程度の扁平な帯状に加工された「帯状有鉤銅鉏」が登場する。この環部が帯状となる銅鉏は中部・東海地方に偏る傾向があり、系統的には北部九州のものとは異なる。おそらく有鉤銅鉏から派生して中部・東海地域で独自に作られ始めたものであろう。その「帯状有鉤銅鉏」を除くならば、他の有鉤銅鉏の分布は、本遺跡出土例を合わせてみれば北部九州・山陰・北陸という日本海沿岸と、吉備・播磨・近畿という瀬戸内沿岸の分布を中心としており、「海

上の道」の形がおぼろげながらみえてくる。

奈免羅・西の前遺跡出土の有鉤銅釧は、これらの貝輪の系譜の中では比較的早く、段階的にはⅡ段階かその前後の銅釧誕生前後の頃とみられる。また、形状と材質から、北部九州あるいは近畿、瀬戸内側との関連性が深いという。

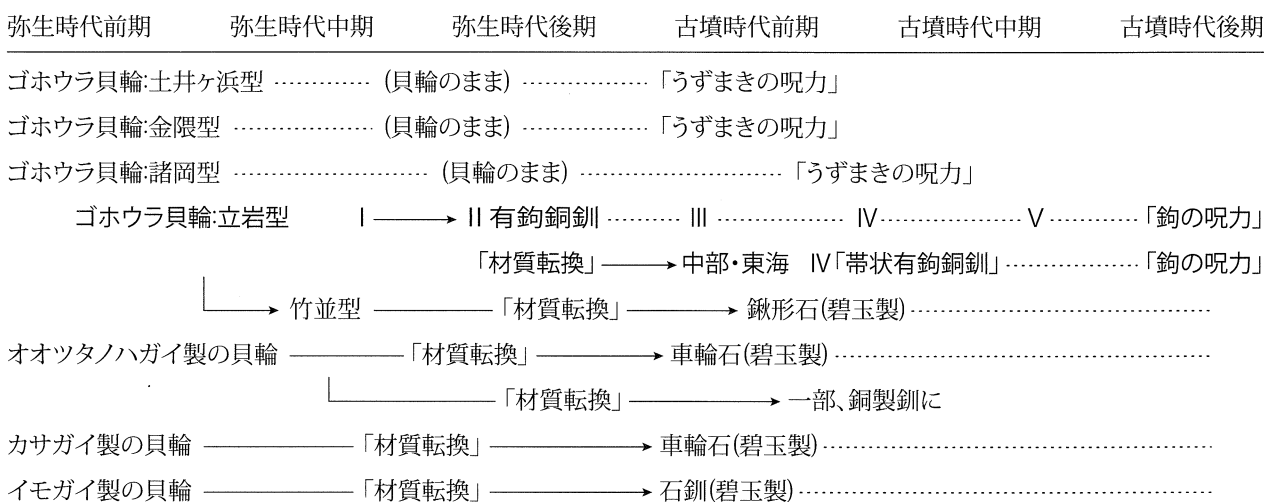
弥生時代中期の奈免羅・西の前遺跡の集落が、周防、長門、出雲、伯耆の諸国を飛び越えて北部九州と結ばれているというのは意表をつかれる感があるが、弥生時代中期の段階では北部九州と因幡の千代川河口の港湾都市をつなぐ“海上の道”があったことは青谷上寺地遺跡の出土遺物をみても間違いないところである。その道が千代川をさかのぼって八東川まで通じていたとするなら、この八東川と千代川の合流点に近い当該地には、重要な交易の拠点があってもおかしくはない。「船岡」という町名は江戸時代の船着場があったところについた名であり、この地名は道路網の整備されていない弥生時代を考える際には軽視できない重要性を持つ。北部九州と因幡を結ぶ“海上の道”と、瀬戸内・近畿方向を結ぶ“陸上の道”が、八頭町で“交差”していたのであろうか。

4. 多様な文化の“交差点”としての奈免羅・西の前遺跡の弥生集落

奈免羅・西の前遺跡Ⅱ-3区の集落跡と同時期の遺跡として、周辺に丸山遺跡と万代寺遺跡がある。丸山遺跡では弥生時代中期から後期にかけての竪穴住居跡が2棟検出された。上層は古墳時代以降の破壊によって失われ、床面と柱穴の一部のみが残っている。住居外からの出土遺物には土器のほか、石斧、石包丁、分銅形土製品等がみついている。この丸山遺跡と奈免羅・西の前遺跡とは、距離的に2km強の位置にあり、八東川南岸に広がるひとつながりの集落となる可能性がある。

日本全国での分銅形土製品の出土例は2009年までの報告例で900点以上ある。その半数近くを岡山県が占め、鳥取県と愛媛県がそれに次ぐ。時期的には弥生時代中期後葉から後期前葉の土器と共伴することが多い。鳥取県内からは約130点が出土し、このうち青谷上寺地遺跡からは56点が出土している。この分銅形土製品は祭祀具の一種といわれるが用途等は不明である。少なくとも弥生時代の吉備を中心に分布することは確実で、吉備と交流の深かった地で出土することが多い。丸山遺跡出土の分銅形土製品が吉備方面から直接もたらされたか青谷上寺地遺跡由来のものかは不明だが、位置的にみても両地域を含む分銅形土製品の分布圏にあることは間違いない。また、岡山県加茂政所遺跡^{かもまどころ}では同じ弥生時代中期の集落跡から分銅形土製品と有鉤銅釧の両方が出土しており、有鉤銅釧Ⅱ段階

表31 「材質転換」する貝輪の系譜



と分銅形土製品とは時代的に同時とみることができる。

一方、八東川を隔てて対岸の丘陵地に広がる万代寺遺跡では、直径約 12m の大型の竪穴住居跡と直径 2m 前後の竪穴住居跡の 2 棟が検出された。大型の竪穴住居跡は全体の約 4 割が調査され、幅約 30cm の壁溝を持ち、その溝に沿いながら柱穴が 1m 間隔で環状に並ぶ。一周すれば柱穴は全部で 16 基程度が並ぶことになる。また、その内側にもう 1 回り柱穴が配され、これも 1m 間隔で推定 10 基程度が円形に並ぶ。出土した弥生土器の甕・壺・高坏等は中期から後期のものと思われ、時代的には近いが、奈免羅・西の前遺跡で検出された竪穴住居跡には類似するものがない。奈免羅・西の前遺跡の弥生中期集落と万代寺遺跡の弥生中期集落とは同じ千代川水系でも“異なる集団”に属するのではないかと思われる。

また、丸山遺跡と 1km と離れていない^{わらいわ}破岩集落には、「破岩銅鐸」の記録がある。これは、鳥取県で最古の、銅鐸についての文献記録とされ、鳥取県立博物館所蔵の『因幡志』に絵入りで記されており、「八頭郡破岩村ノ山中ヨリ掘出シタル銅器」、「惣高二尺三寸許」の大きさと、胴部を 6 つの区画に分けた袈裟襷文から、突線紐式袈裟襷文銅鐸の可能性がある。これは、時代的には弥生時代後期頃に比定されるタイプであり、今回調査された奈免羅・西の前遺跡Ⅱ-3 区の弥生中期後葉の集落とは若干時期差があるかもしれない。

青谷上寺地遺跡と同じく千代川水系の弥生時代中期土器群の出土、北部九州と瀬戸内とのつながりを思わせる銅釧、山陰地方の中でも際立つ“特殊な地位の者”、銅釧出土の住居跡にみられる“礎石柱穴の脇に礎石ピットを有する竪穴住居跡”、丸山遺跡から出土した分銅形土製品、「破岩銅鐸」の記録、同時期で近い距離にありながら住居形態に相違のある“異なる集団”万代寺遺跡等…。これらの資料から想定できるのは、“海上の道”と“陸上の道”を結ぶ“交差点”にあって、文化的多様性を内包したまま発展をとげる川のほとりの“クニ”の姿である。大きな“クニ”同士が関わりあう時、交流の場になるにせよ争い合う場になるにせよ、その当事者は国境に近い小さな“クニ”自身である。激動の時代にあっては“辺境”こそが“最前線”であり、ある意味“中心”であったとみるべきかもしれない。当時八東川南岸に広がっていた“クニ”の名は残っていないが、因幡・伯耆を含めた周辺地域の中で大きな存在感を示していたと思われる。

最後に、度重なる八東川の氾濫と洪水に遭いながら何度も開墾され直した耕作土の底でそれでも^{のこ}遺ってくれた小さな銅釧片に対し、調査スタッフを代表して感謝と敬意を示したい。

参考文献

木下尚子 1996 『南島貝文化の研究 貝の道の考古学』 法政大学出版局

埼玉県・財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2006 『宮台・宮原遺跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第 318 集

角南聡一郎 1993 「祭祀土製品小考 - 亀井遺跡出土の分銅形土製品・新例 -」 『大阪文化財研究』 第 5 号 財団法人大阪文化財センター

船岡町教育委員会 1981 『丸山遺跡発掘調査報告書』

郡家町教育委員会 1983 『万代寺遺跡発掘調査報告書』

鳥取県埋蔵文化財センター 2009 『青谷上寺地遺跡 10 第 9 次発掘調査報告書』 鳥取県埋蔵文化財センター 調査報告 27



第1面全景・道路状遺構(北から)



Tr.1 南壁セクション(北から)



第2面 石垣・耕作土(北西から)



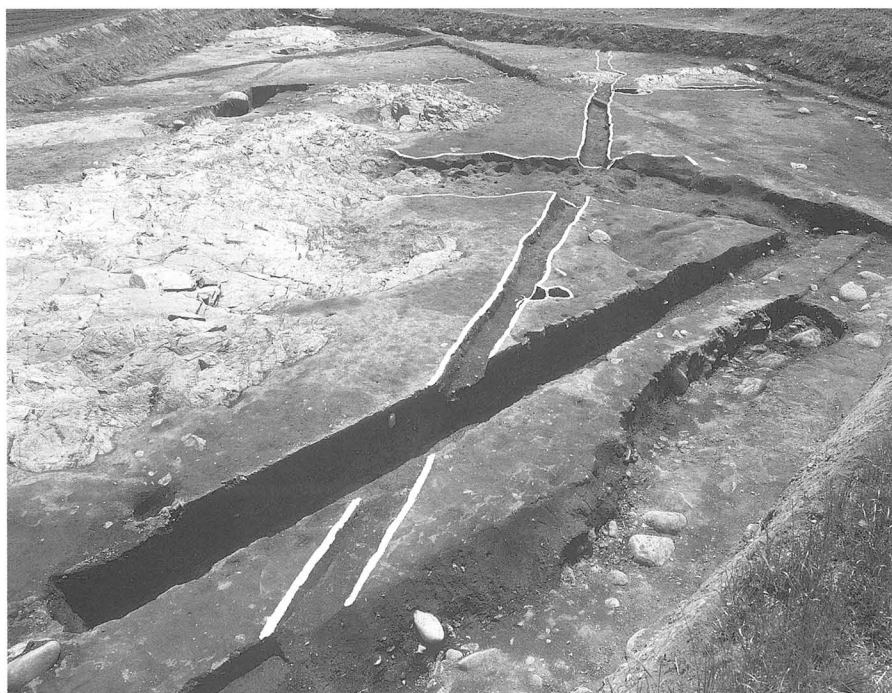
第3面完掘全景(西から)



第3面完掘全景(南から)



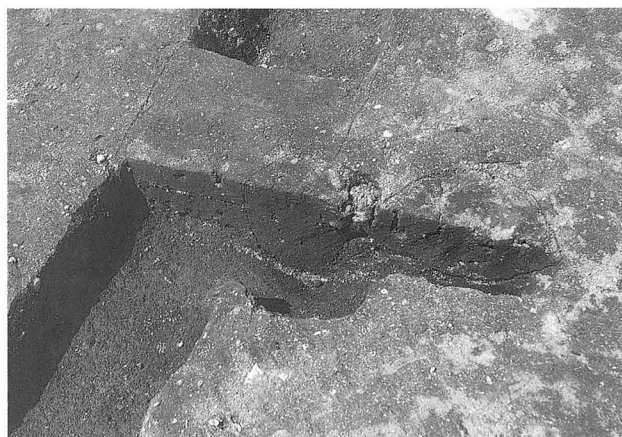
SD1001完掘(西から)



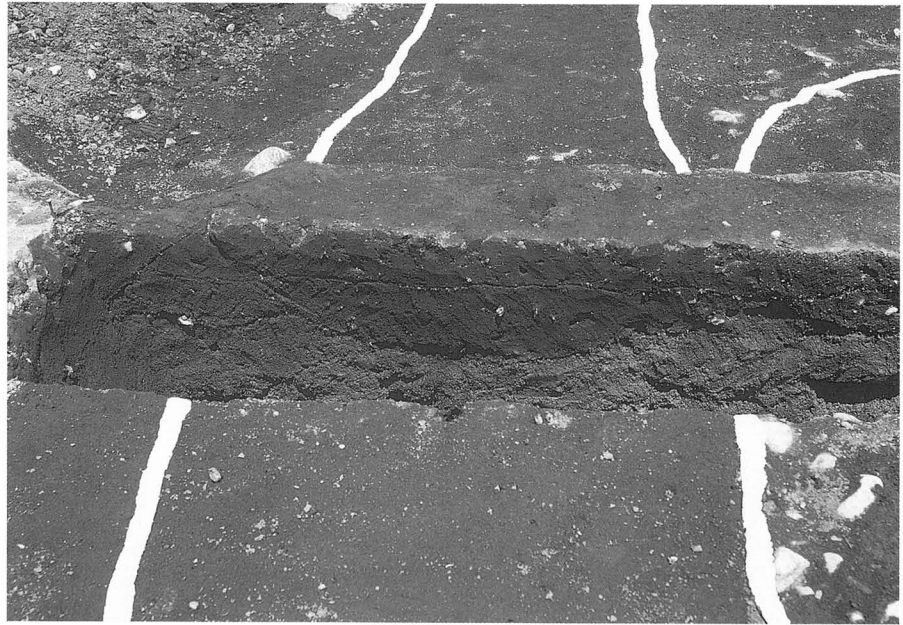
SD1002完掘(北東から)



SD1001セクション(西から)



SD1002・P1001・P1002セクション(北から)



SD1005セクション(南西から)

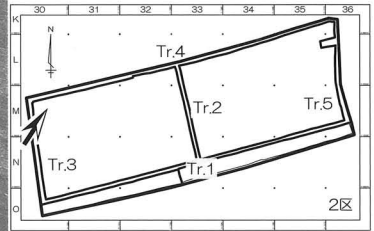


SD1005完掘(西から)

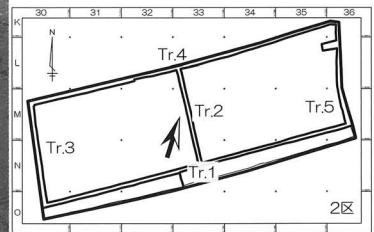


第4面 土坑群完掘(南西から)

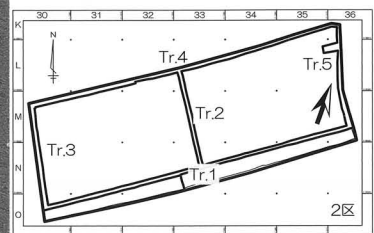
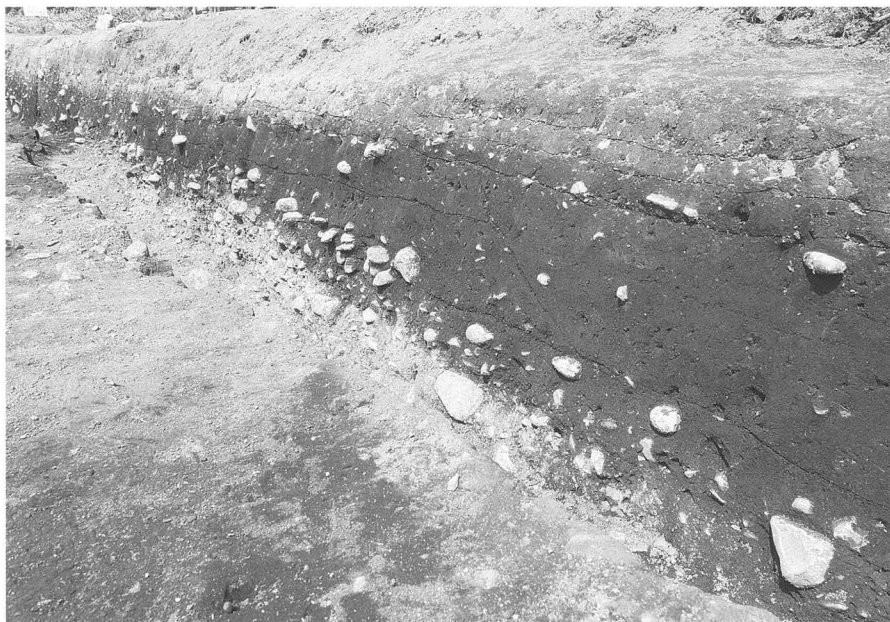
写真図版4 2区 基本層序



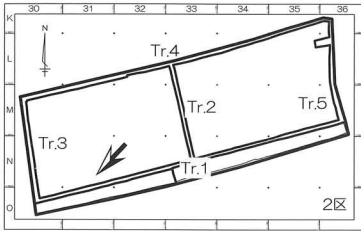
Tr.4(西半部)セクション
(南西から)



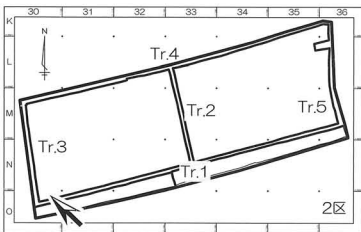
Tr.2(南半部)セクション
(南東から)



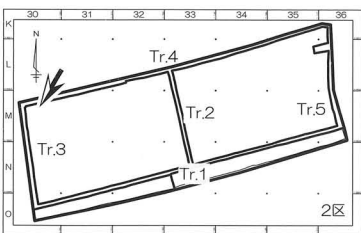
Tr.5(南半部)セクション
(南西から)



Tr.1(西半部)セクション
(北東から)



Tr.3(南半部)セクション
(南東から)



Tr.3(北半部)セクション
(北東から)



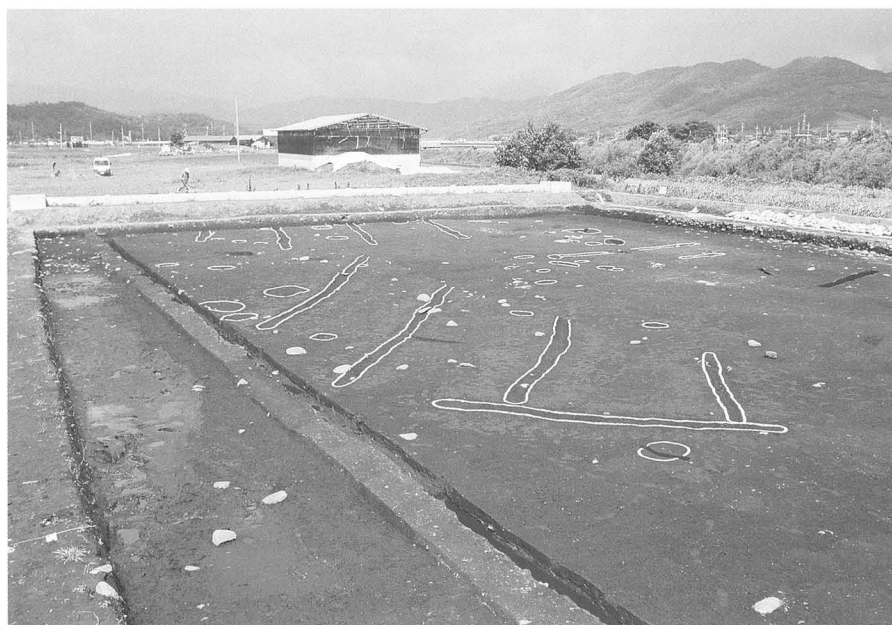
写真図版6 2区 第1面



第1面プラン検出
(東から)



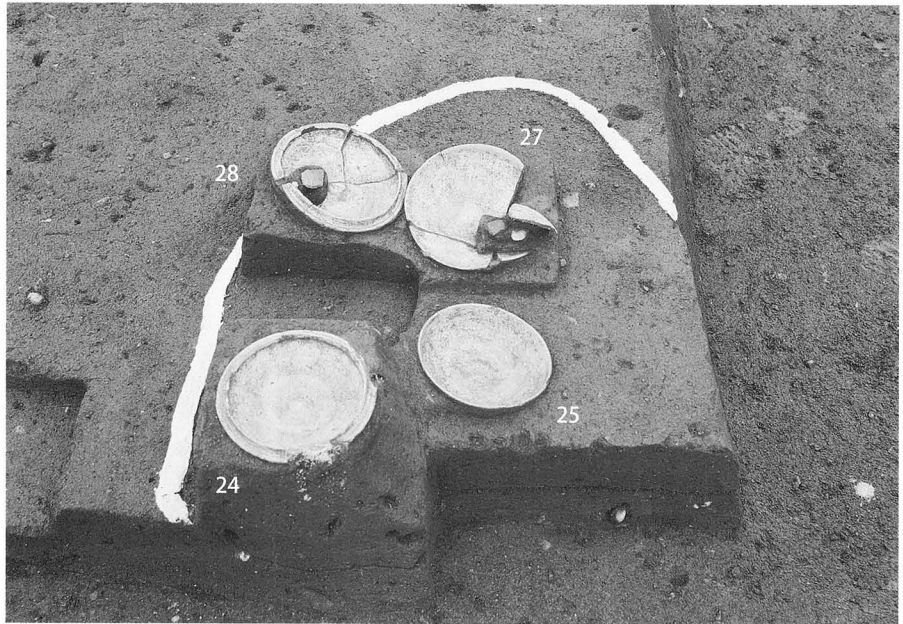
第1面完掘全景
(東から)



第1面 耕作溝群完掘
(南東から)



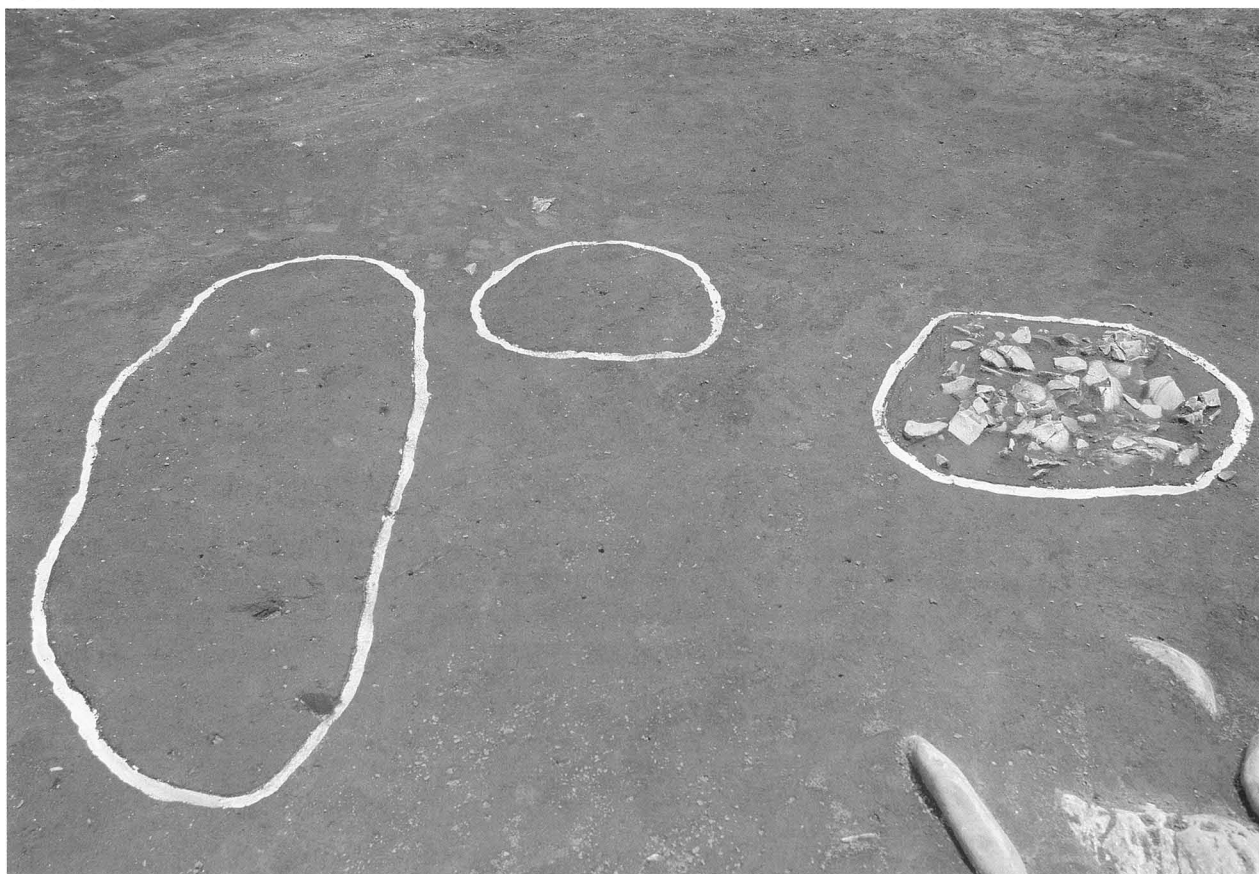
SK2027遺構・遺物検出状況
(北東から)



SK2024遺構・遺物検出状況
(西から)



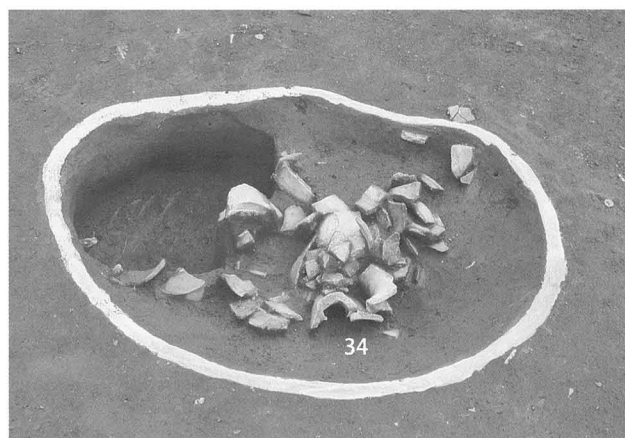
SK2005遺物検出状況
(北から)



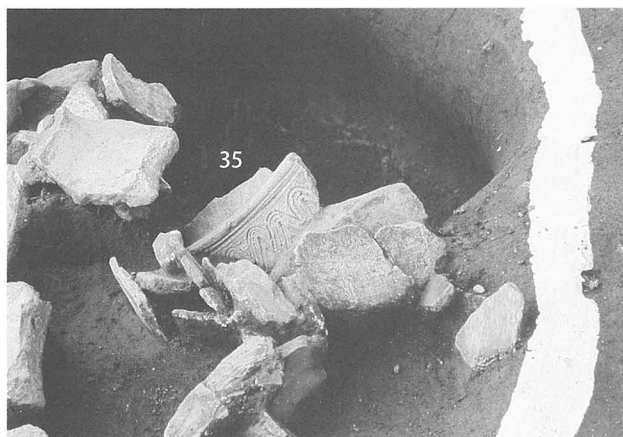
SK2008・SK2009・SK2010プラン検出(北西から)



SK2010遺物検出状況2回目(南東から)



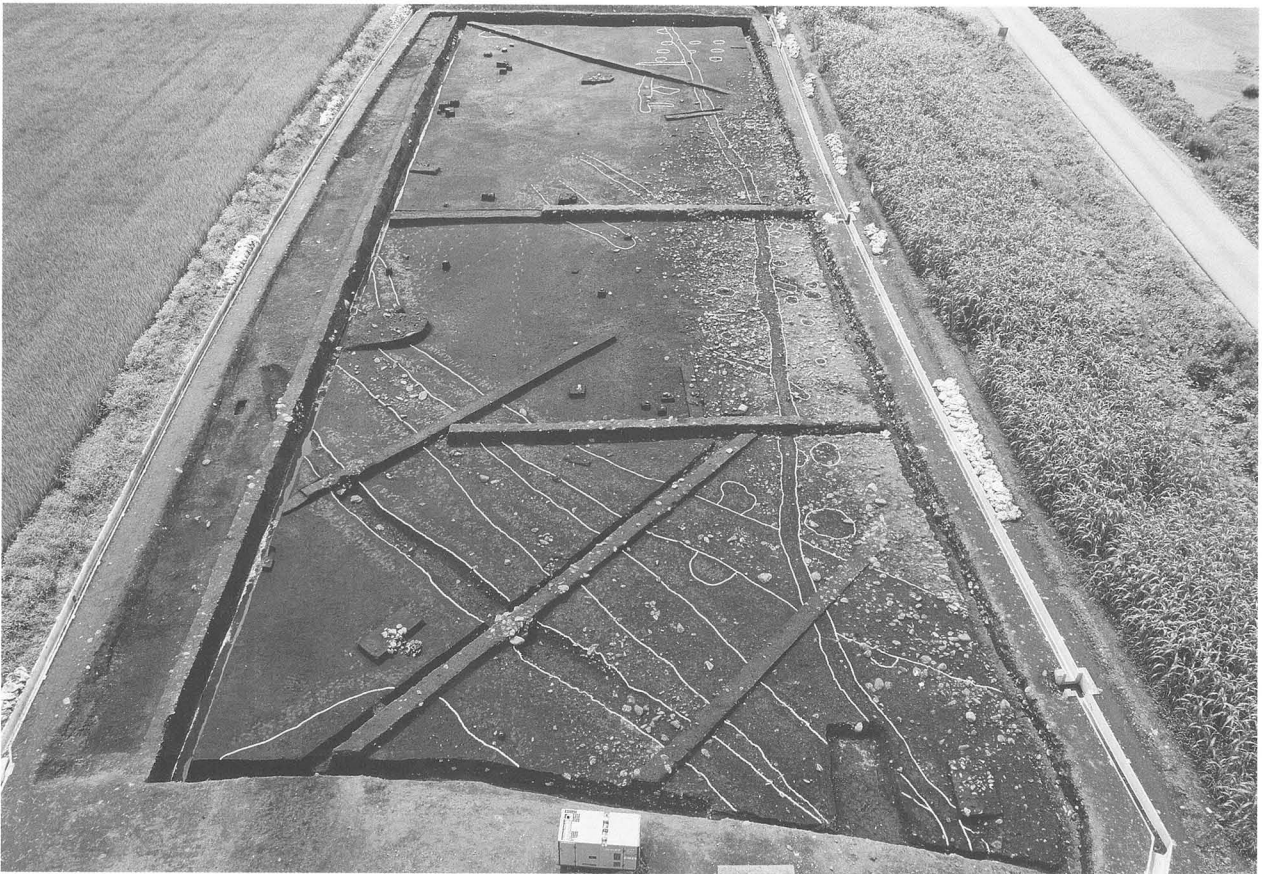
SK2010遺物検出状況3回目(北西から)



SK2010遺物検出状況2回目(南から)



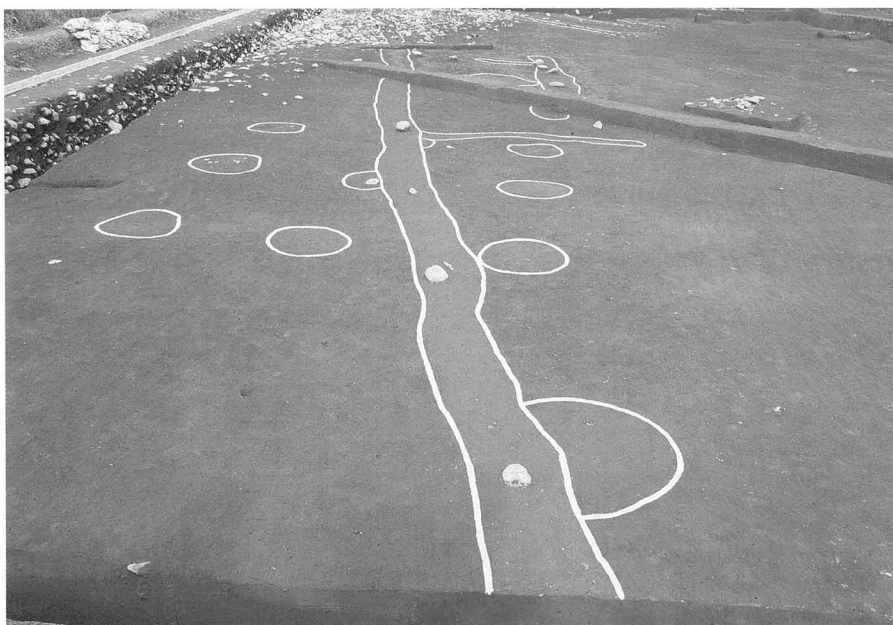
SK2010遺物検出状況4回目(北西から)



第2面プラン検出全景(東から)



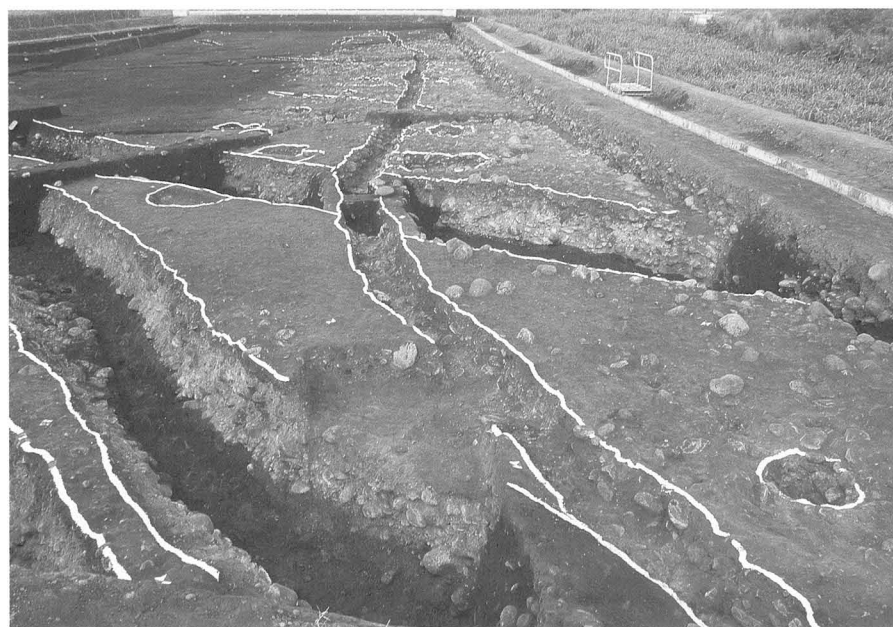
第2面完掘全景(東から)



SD2015プラン検出
(西から)



SD2015完掘
(西から)



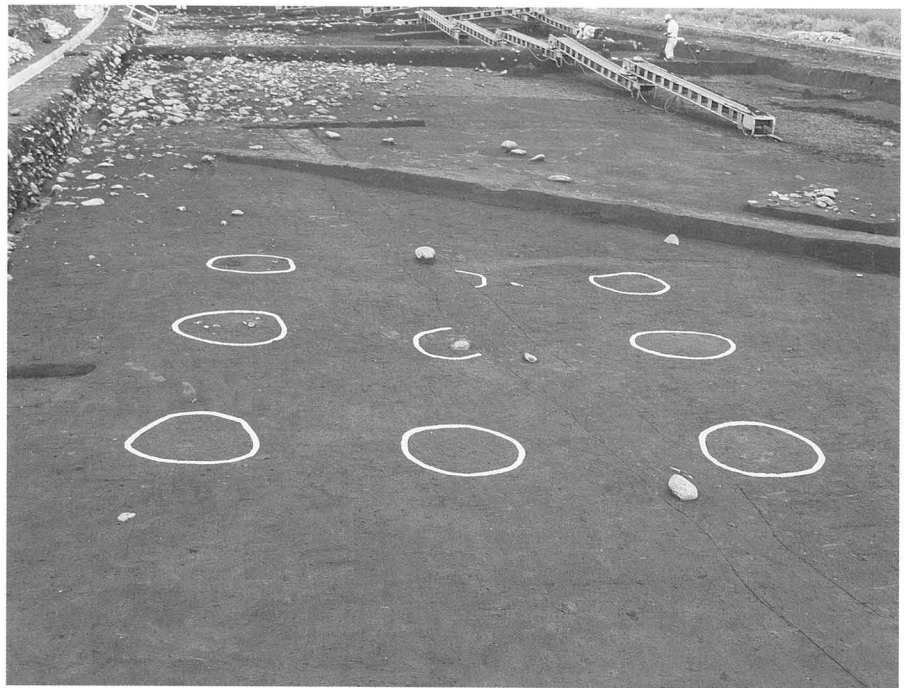
SD2015完掘
(東から)



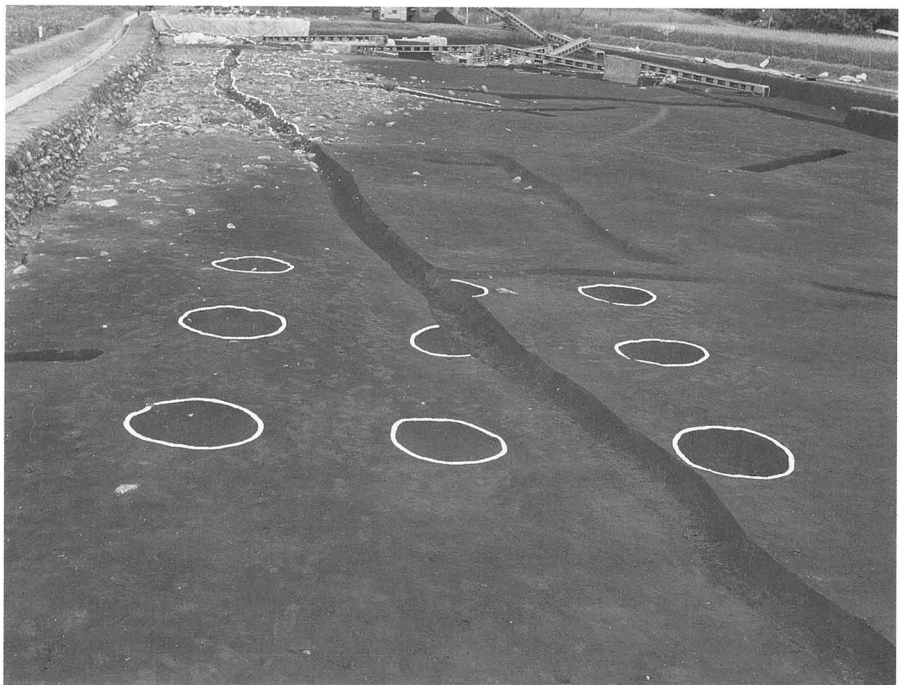
SD2015セクションh(西から)



SD2015セクションc(西から)



SB2001プラン検出
(西から)



SB2001完掘
(西から)



SI2001・土器だまり2003
プラン検出
(東から)



SI2001完掘
(南から)



P2052セクション(南から)



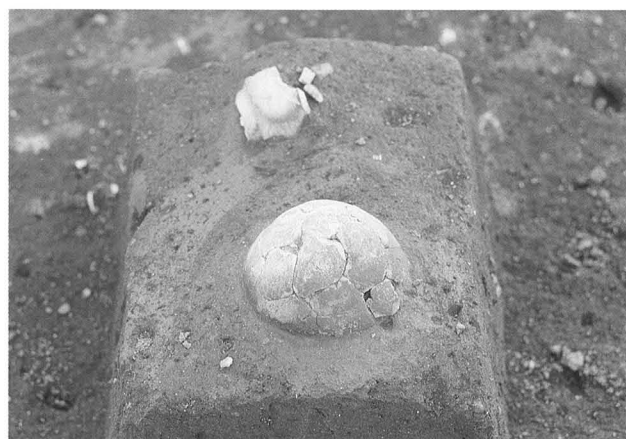
P2054セクション(西から)



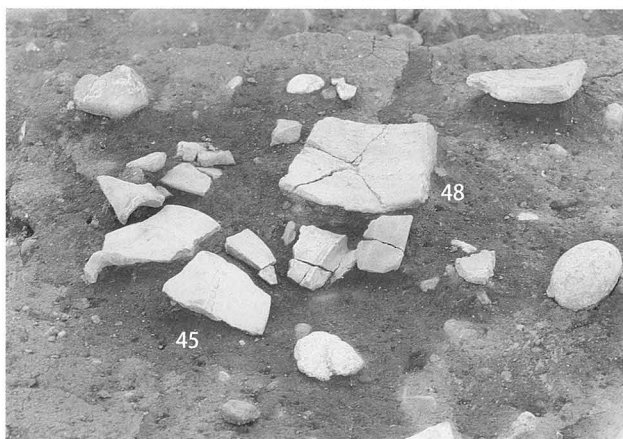
土器だまり2003(SI2001)遺物検出状況(北から)



土器だまり2003(SI2001)遺物検出状況(44)(北西から)



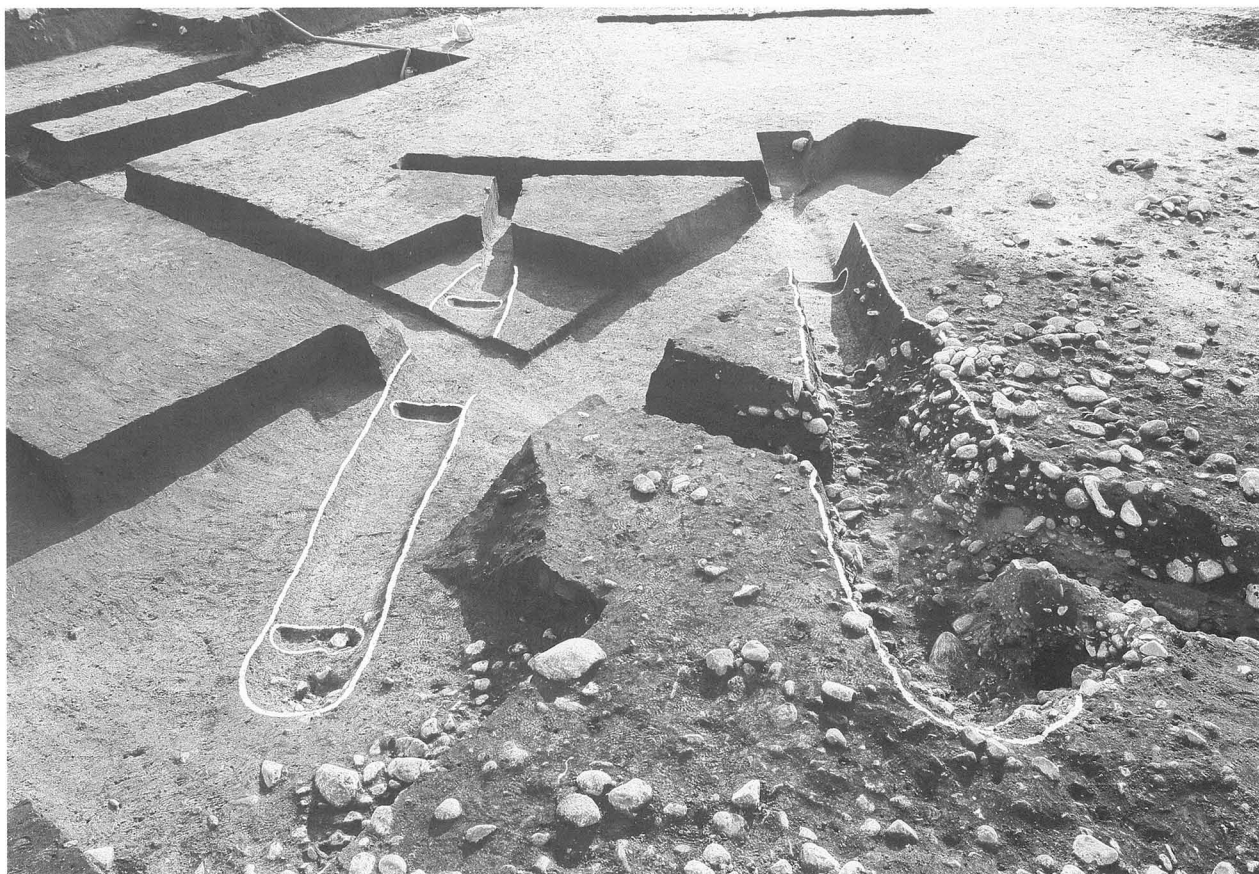
土器だまり2003(SI2001)遺物検出状況(43)(東から)



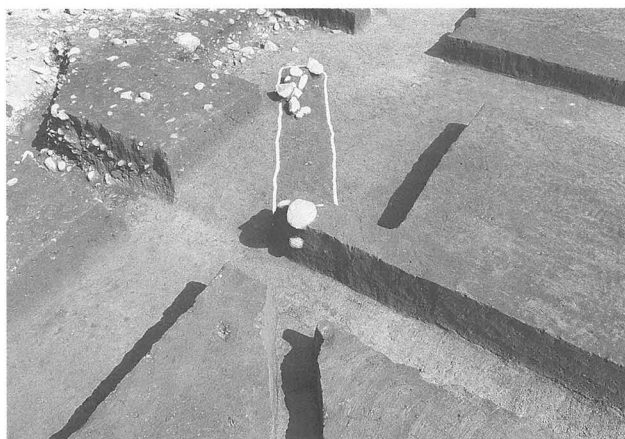
土器だまり2003(SI2001)遺物検出状況(45・48)(東から)



土器だまり2003(SI2001)遺物検出状況(46・47)(東から)



SK2031・SK2041完掘(北東から)



SK2041プラン検出(南西から)



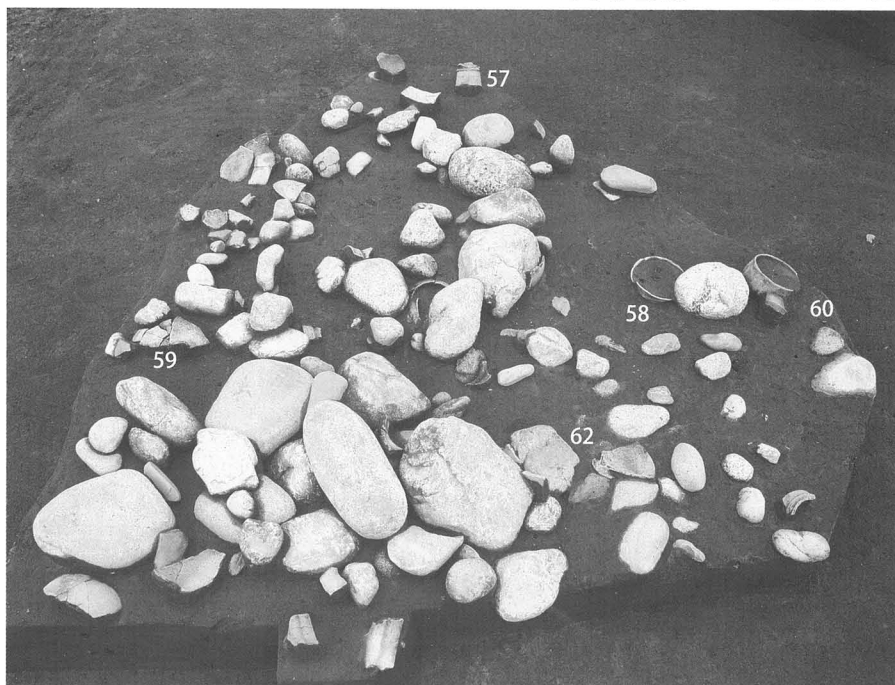
SK2031セクションb(西から)



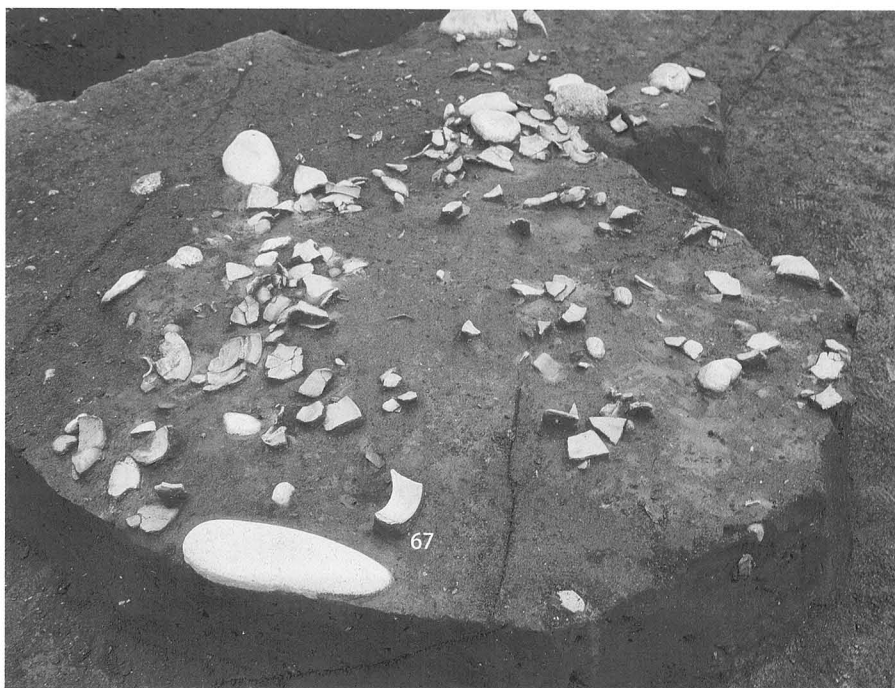
SK2041セクションc及び底面プラン検出(南西から)



SK2041セクションb(西から)



土器だまり2001遺物検出状況
(東から)



土器だまり2002遺物検出状況
(北東から)

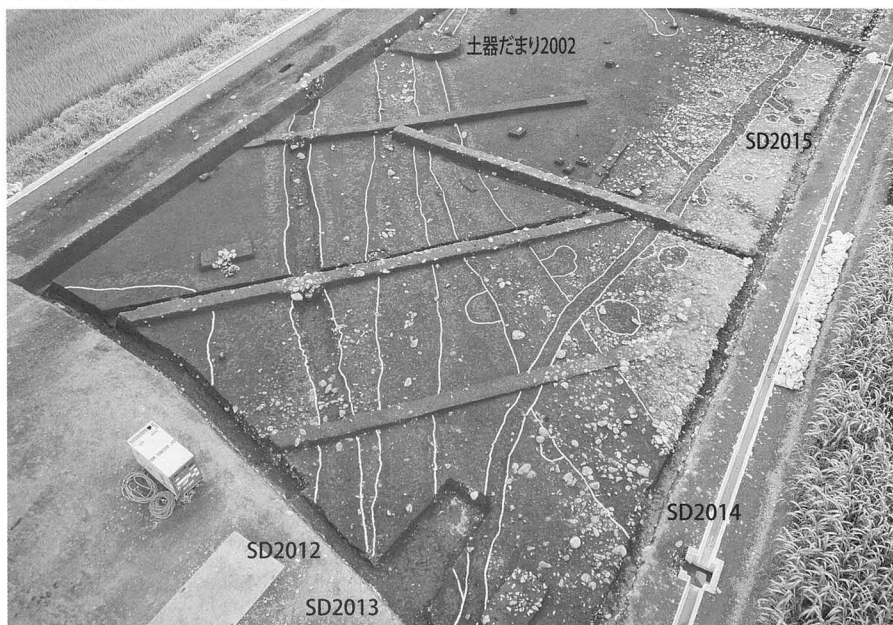


SK2040セクションb(南西から)

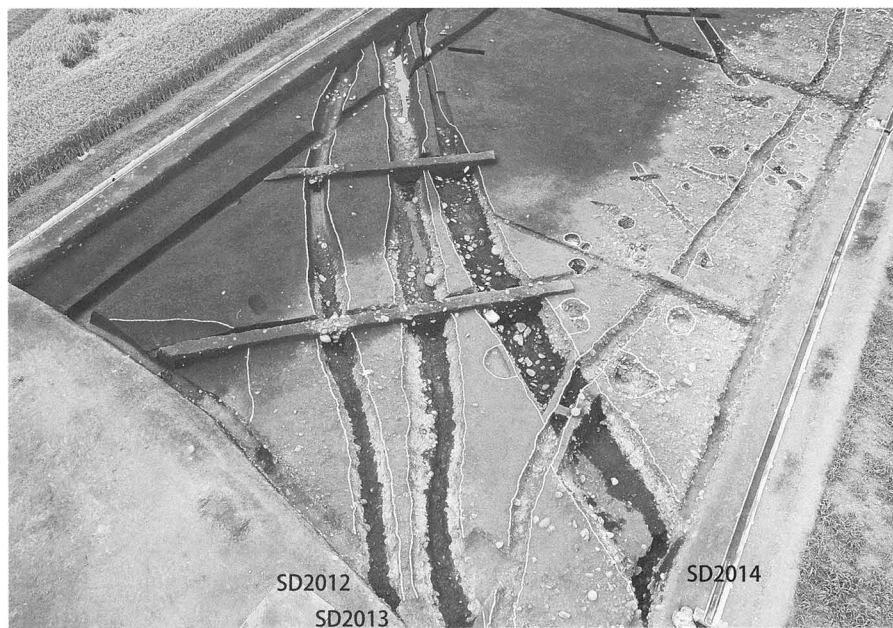


SK2040遺物検出状況(54)(南から)

写真図版16 2区 第2面



SD2012・SD2013・SD2014
プラン検出
(北東から)



SD2012・SD2013完掘
(SD2014は掘削途中)
(北東から)



SD2012・SD2013完掘
(SD2014は掘削途中)
(南西から)



SD2012壁面と基盤層
(北東から)



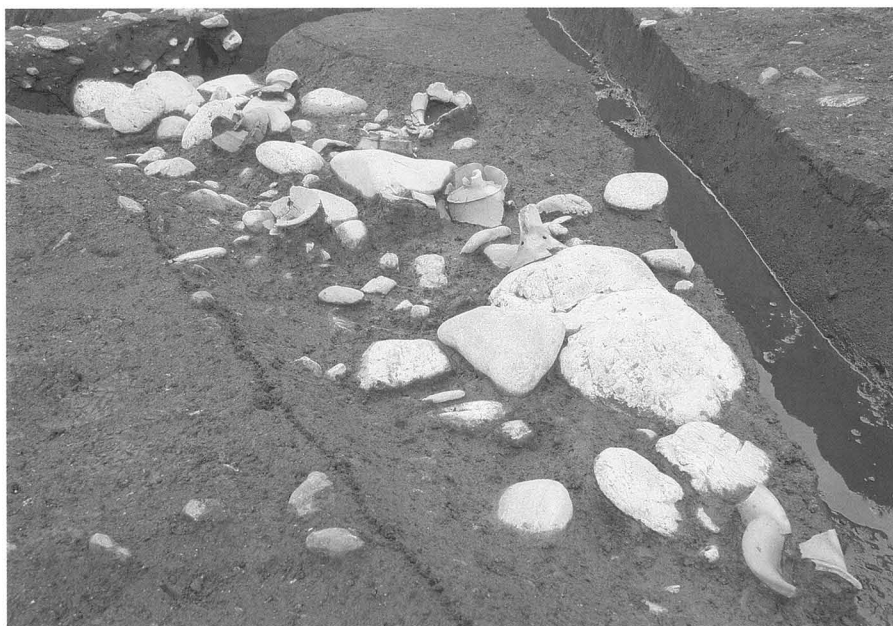
SD2012(右)・SD2013(左)
セクションa(Tr.5上)
(南西から)



SD2012セクションc
(南西から)



SD2012遺物検出状況
(73・74・75・83・84・85・86・90・91)
(南西から)



SD2012遺物検出状況
(73・74・75・83・84・85・86・90・91)
(西から)



SD2012遺物検出状況(87)
(南から)



SD2013壁面と基盤層
(北東から)



SD2013セクションc
(南西から)



SD2013遺物検出状況(97)(南から)



SD2013遺物検出状況(102)(南から)



SD2014完掘
(北東から)



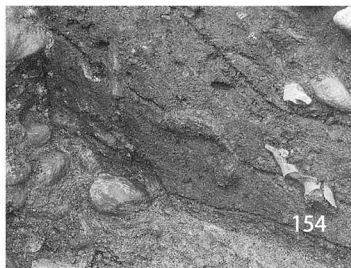
SD2014壁面と基盤層
(北東から)



SD2014完掘
(南西から)



SD2014セクションa
(南から)



遺物検出状況(154)(南から)



SD2014セクションb
(南西から)



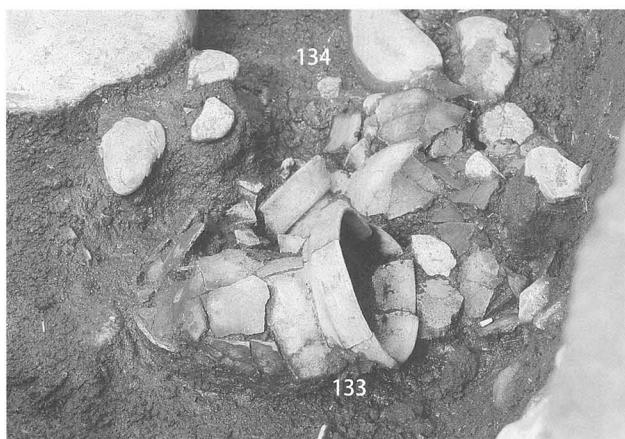
SD2012(左)・SD2013・SD2014(右)
セクションd
(北東から)



SD2014遺物検出状況
(南西から)



SD2014遺物検出状況
(115・127・138)
(北から)



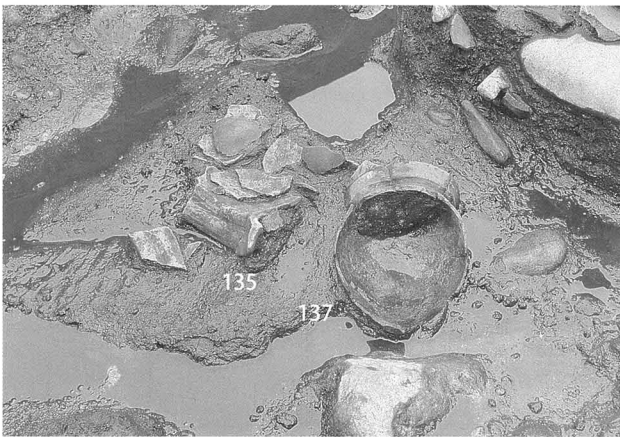
SD2014遺物検出状況(133・134)(南から)



SD2014遺物検出状況(127)(北から)



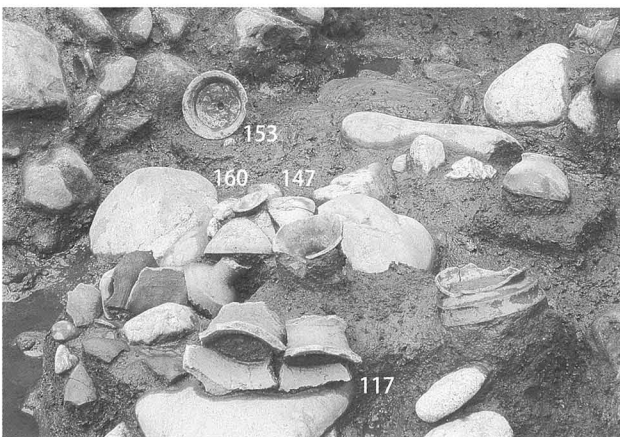
SD2014遺物検出状況(南から)



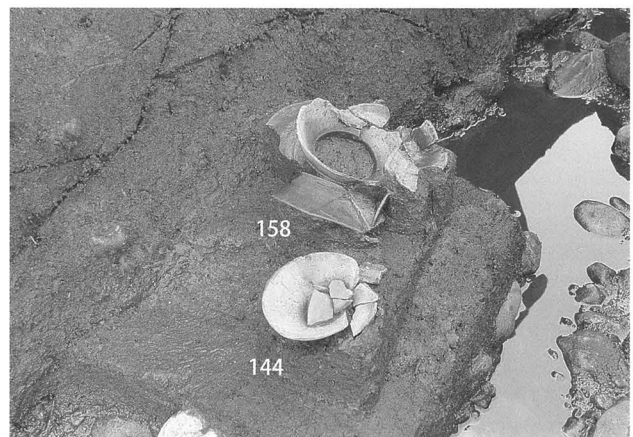
SD2014遺物検出状況(135・137)(南西から)



SD2014遺物検出状況(141)(西から)



SD2014遺物検出状況(117・147・153・160)(南から)



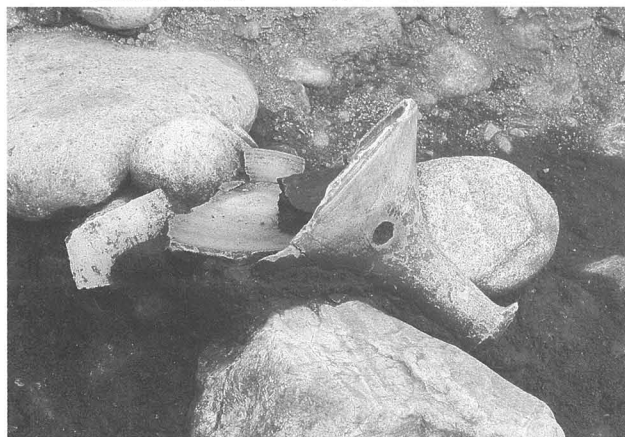
SD2014遺物検出状況(144・158)(北から)



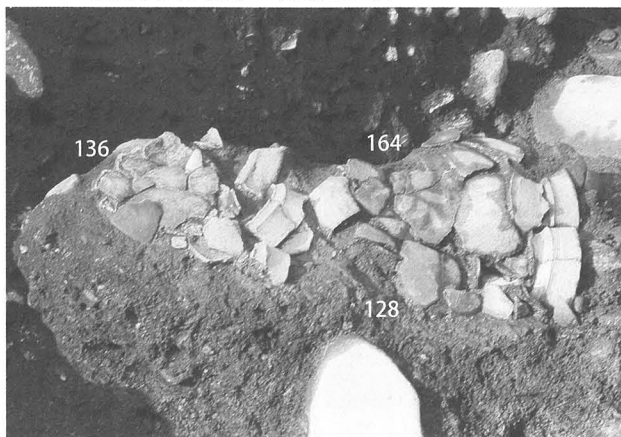
SD2014遺物検出状況(121・122)(西から)



SD2014遺物検出状況(157)(南西から)



SD2014遺物検出状況(148)(北から)



SD2014遺物検出状況(128・136・164)(南西から)



SD2014遺物検出状況(150)(西から)



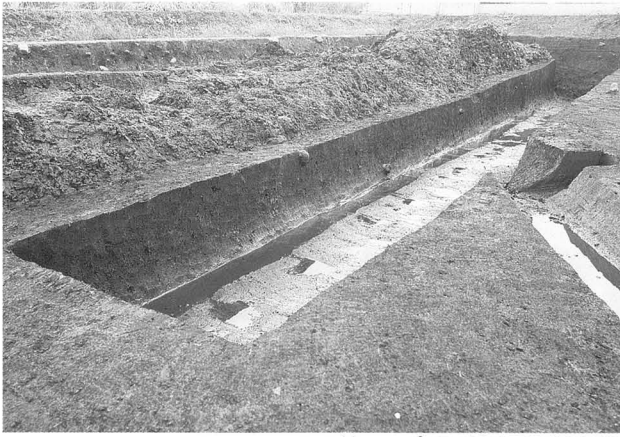
SD2014遺物検出状況(167)(北東から)



SD2014遺物検出状況(139・155)(北西から)



SD2014遺物検出状況(116)(東から)



Tr.10 第3面プラン検出(北東から)



Tr.13・Tr.14 第3面プラン検出(北から)



Tr.10 南壁断面(北から)



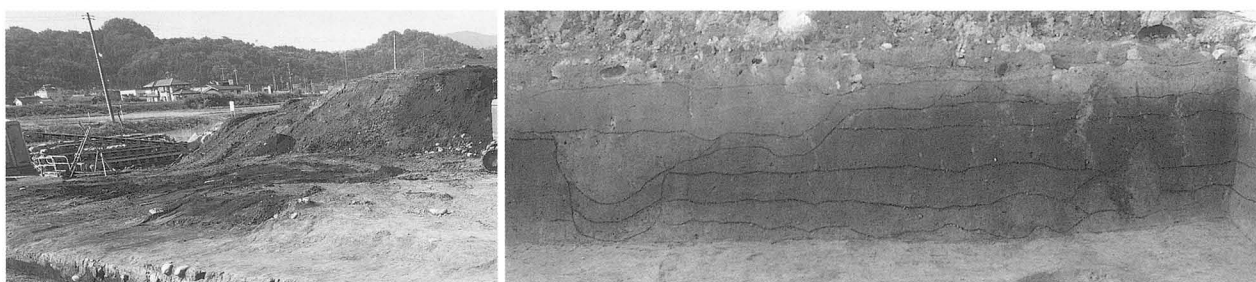
Tr.14 東壁断面(北から)



Tr.15 第3面完掘(南東から)



Tr.1セクション(北東から)



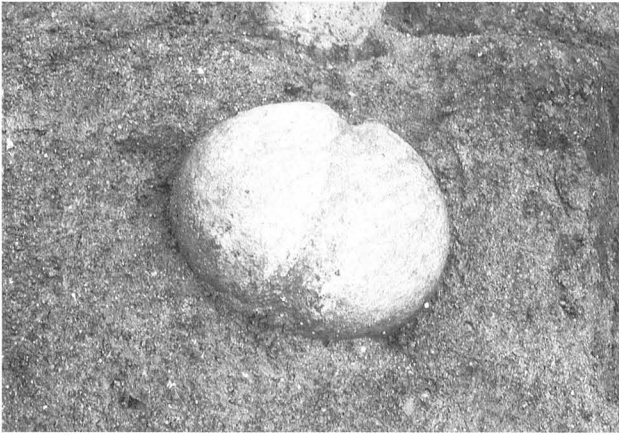
Tr.5セクション北端部詳細(東から)



Tr.5セクション(北東から)



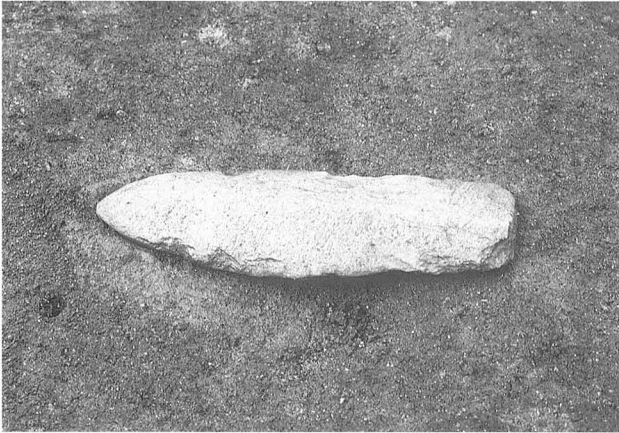
第1面 暗褐色砂層プラン検出
(西から)



P8グリッド 耕作土(暗褐色砂) 遺物検出状況(247)(西から)



N5グリッド 暗褐色砂層 遺物検出状況(230)(西から)



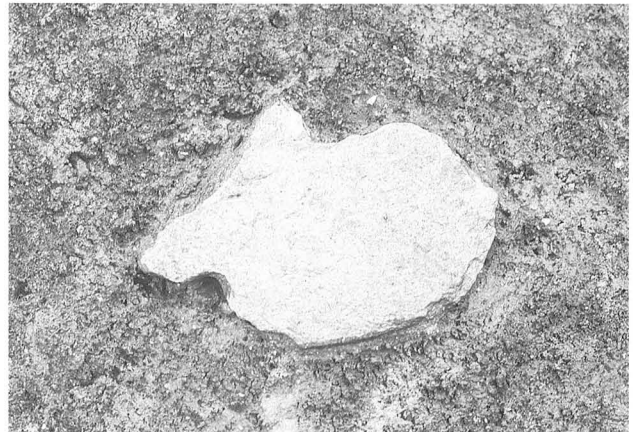
P3グリッド 暗褐色砂層 遺物検出状況(227)(南から)



P6グリッド 暗褐色砂層 遺物検出状況(228)(西から)



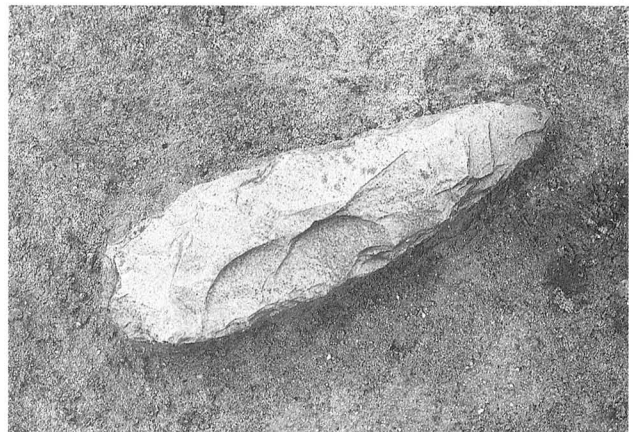
P2グリッド 黄灰色砂層 遺物検出状況(236)(南から)



Q2グリッド 黄灰色砂層 遺物検出状況(239)(南から)



P3グリッド 黄灰色砂層 遺物検出状況(238)(南から)



P3グリッド 黄灰色砂層 遺物検出状況(235)(北から)



第1面 耕3001完掘(北から)



第1面 耕3002完掘(北西から)



第1面 耕3003完掘(北西から)



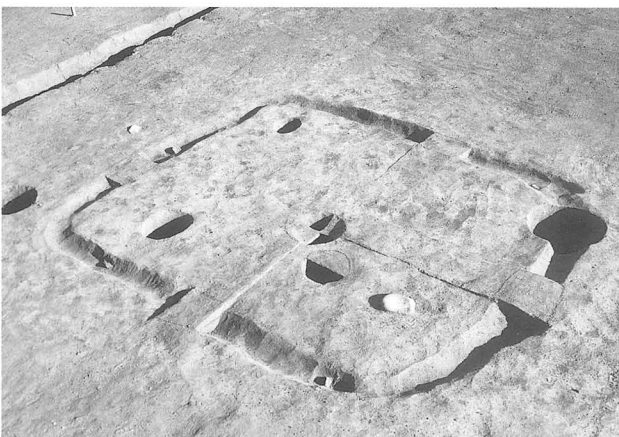
第2面 北西部(SI3006周辺)プラン検出(北から)



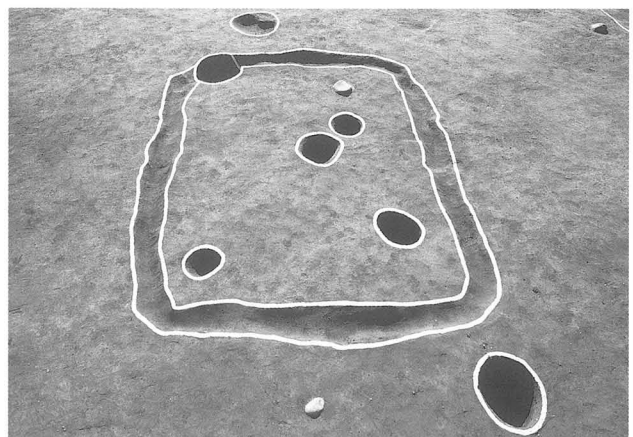
第2面東側完掘(東から)



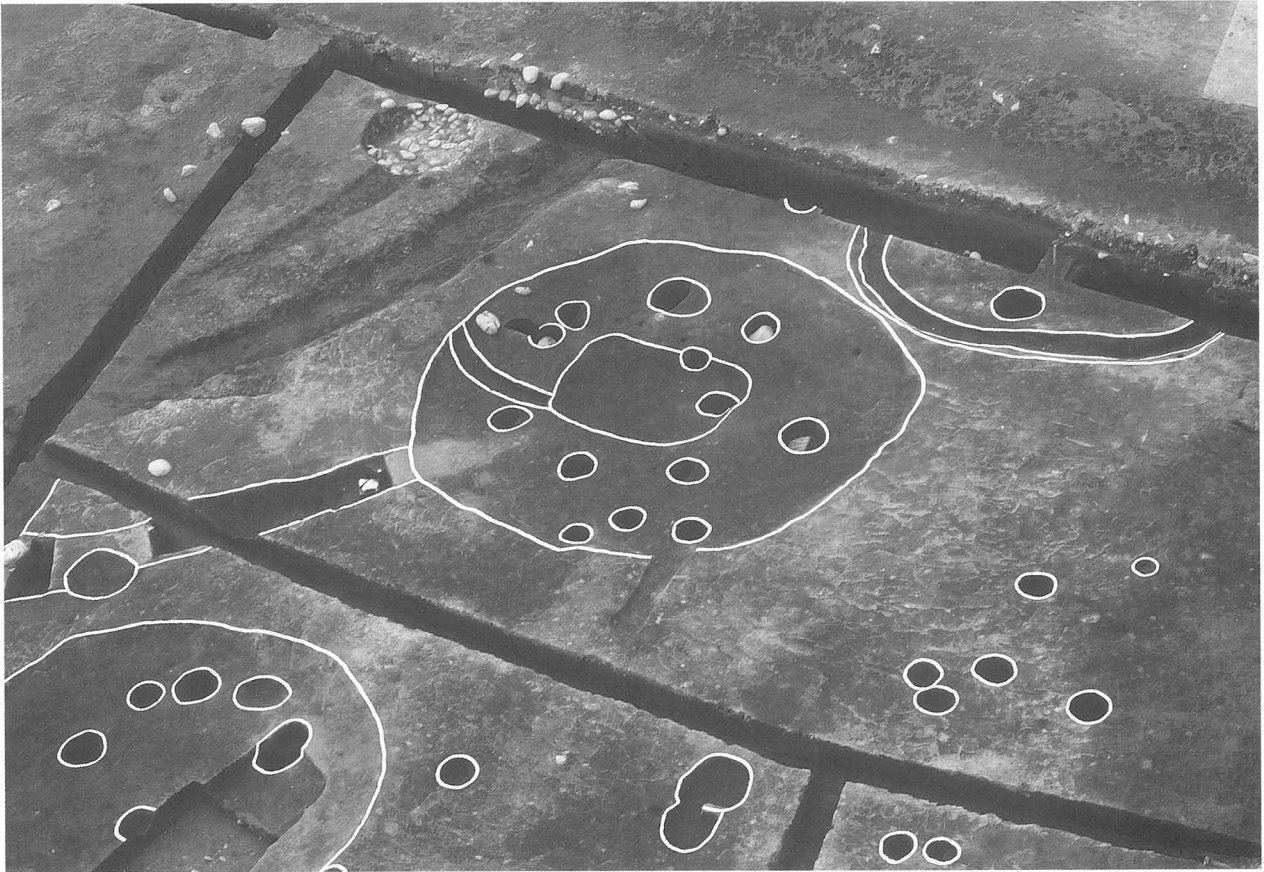
第2面西側完掘(北東から)



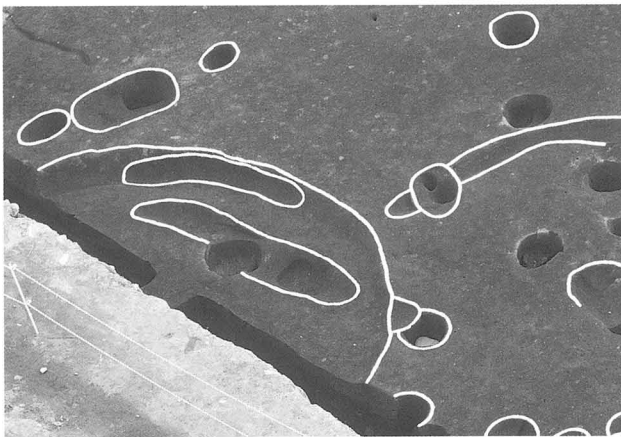
SI3001セクション(南東から)



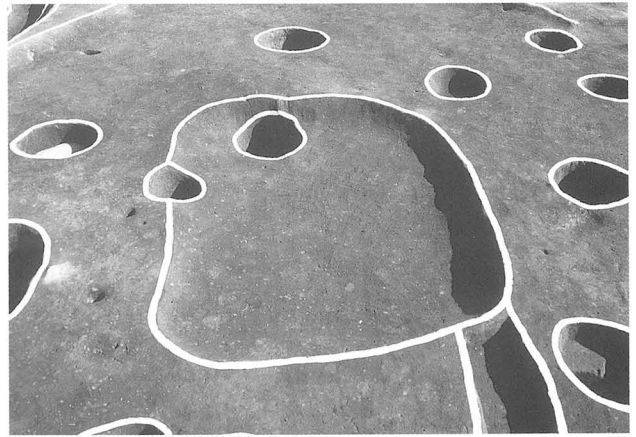
SI3001完掘(西から)



SI3003完掘・SI3002貼床面検出(北東から)



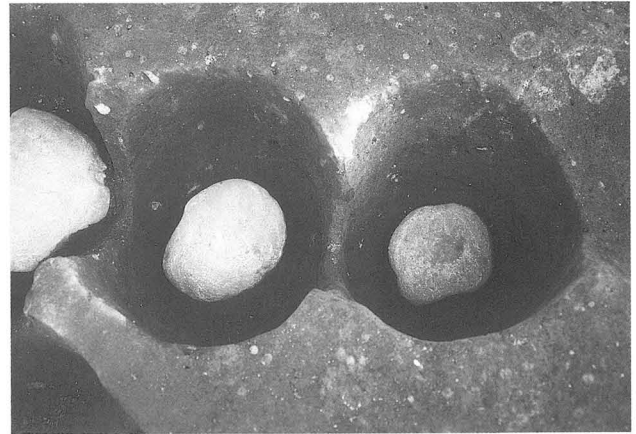
SI3002完掘(南西から)



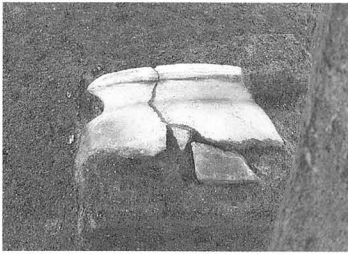
SI3003内SK3005完掘(南から)



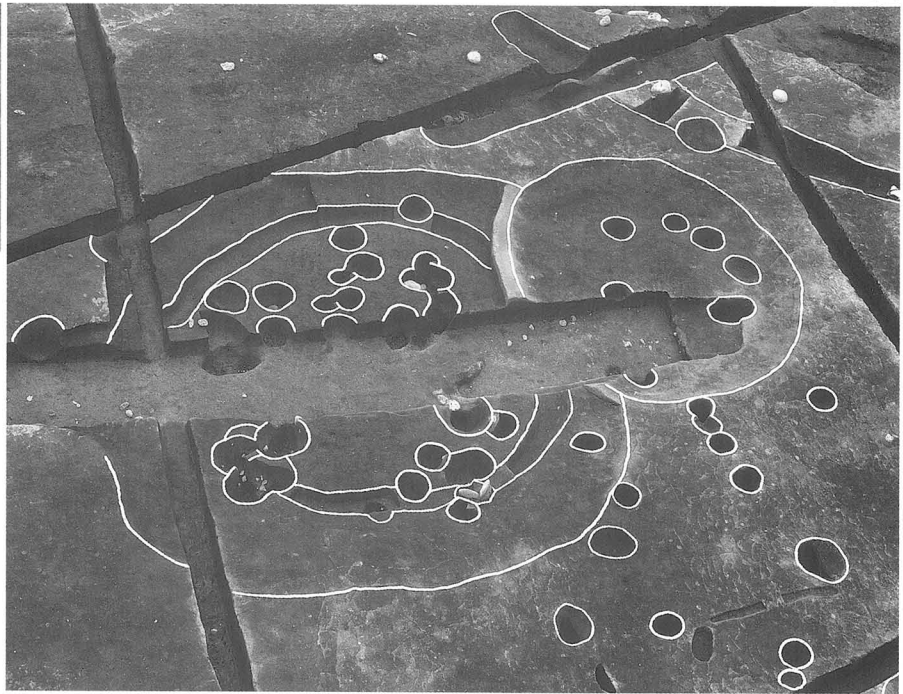
P3098・P3099上段礎石検出状況(西から)



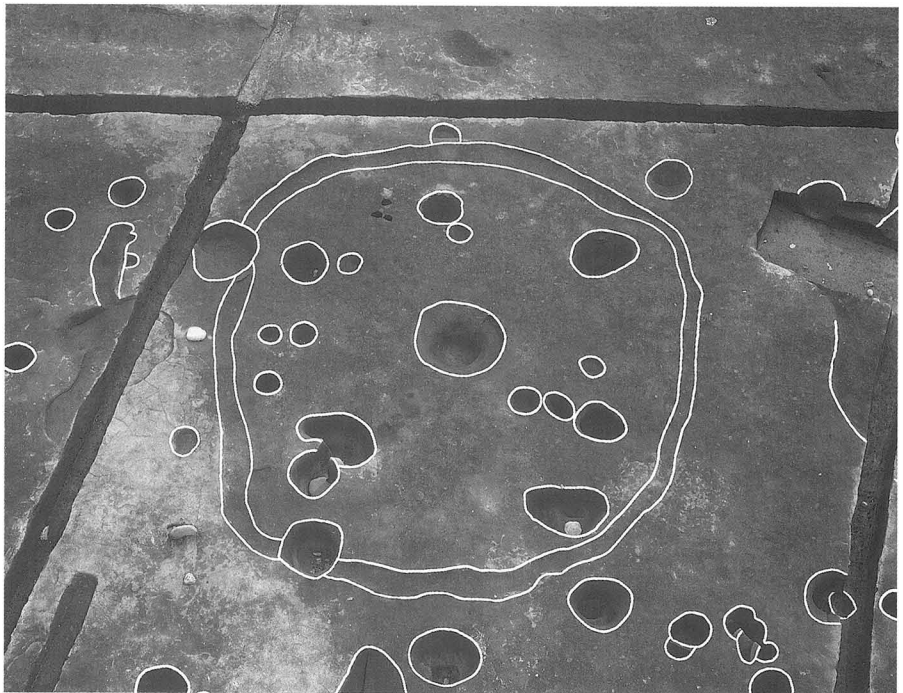
P3098・P3099下段礎石検出状況(西から)



SI3005内SD3006遺物検出状況
(東から)



SI3004(右)・SI3005(左)完掘
(北から)



SI3006完掘(北から)



SI3004焼成粘土塊検出状況(南から)



SI3006遺物検出状況(南から)



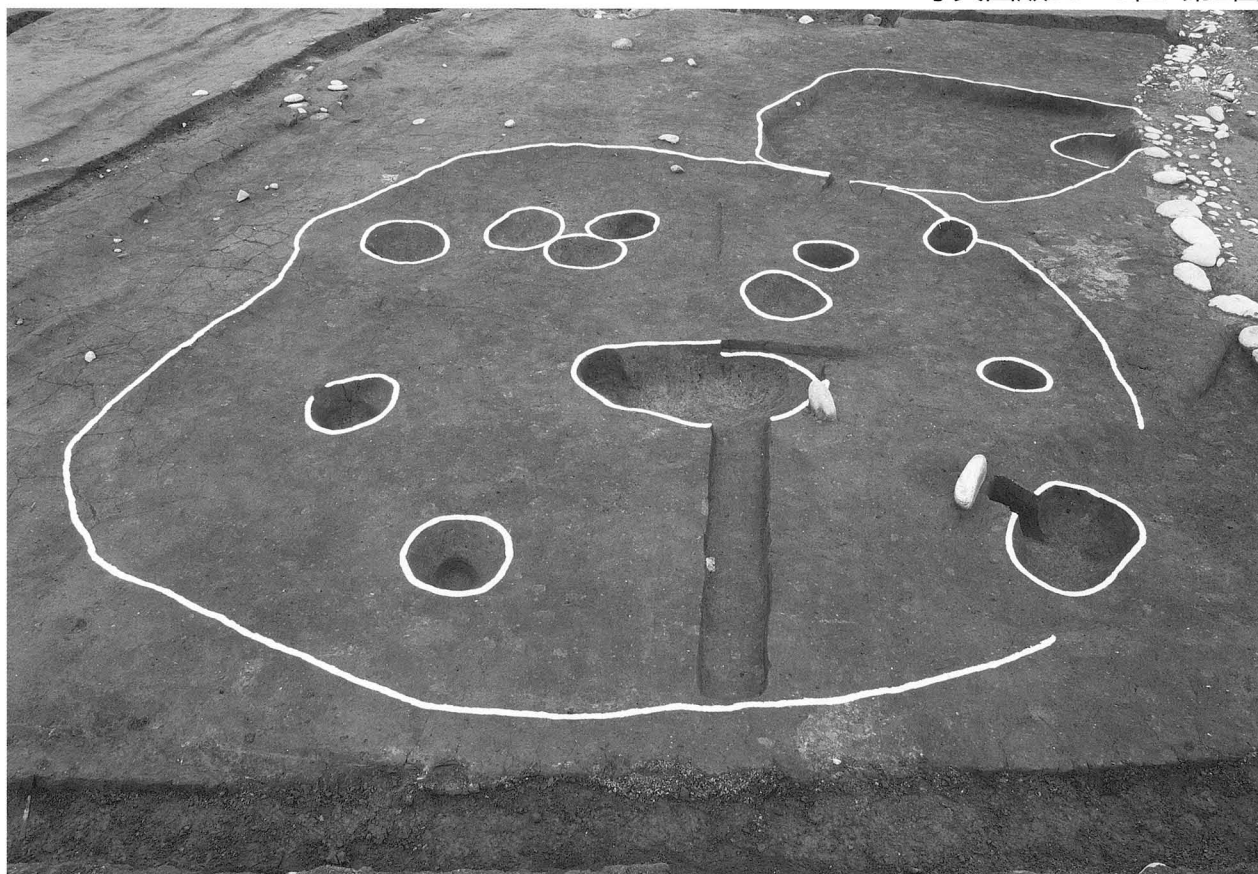
SI3007貼床面完掘(北西から)



SI3007内SK3035遺物検出状況(190)
(北東から)



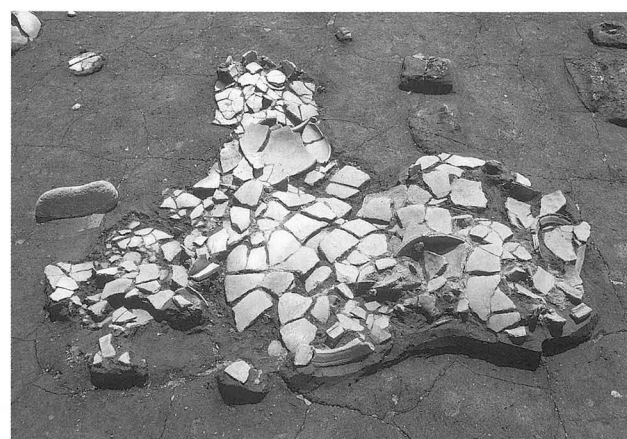
SI3007下面完掘(南から)



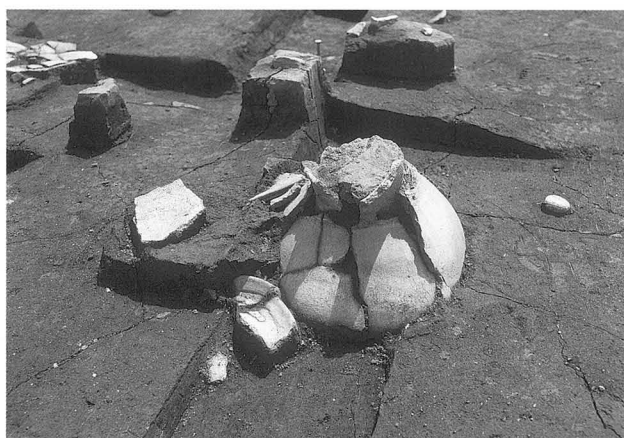
SI3008完掘(南から)



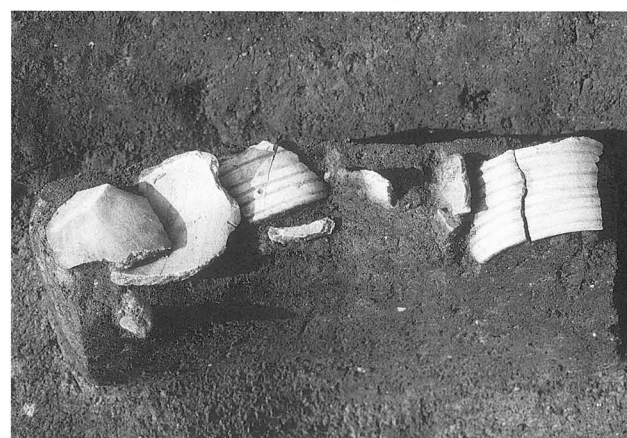
SI3008遺物検出状況(189)(南西から)



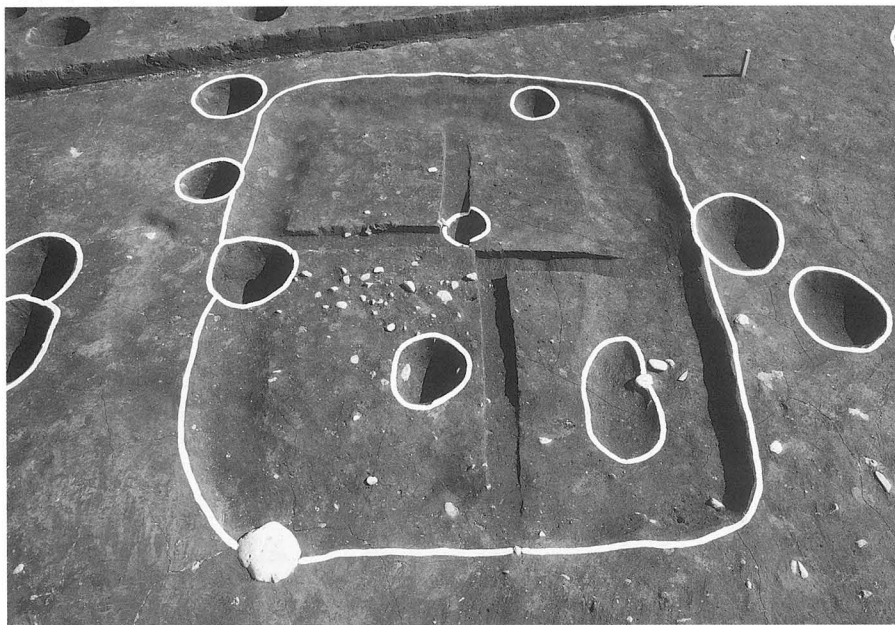
SI3008遺物検出状況(186・187・188)(北から)



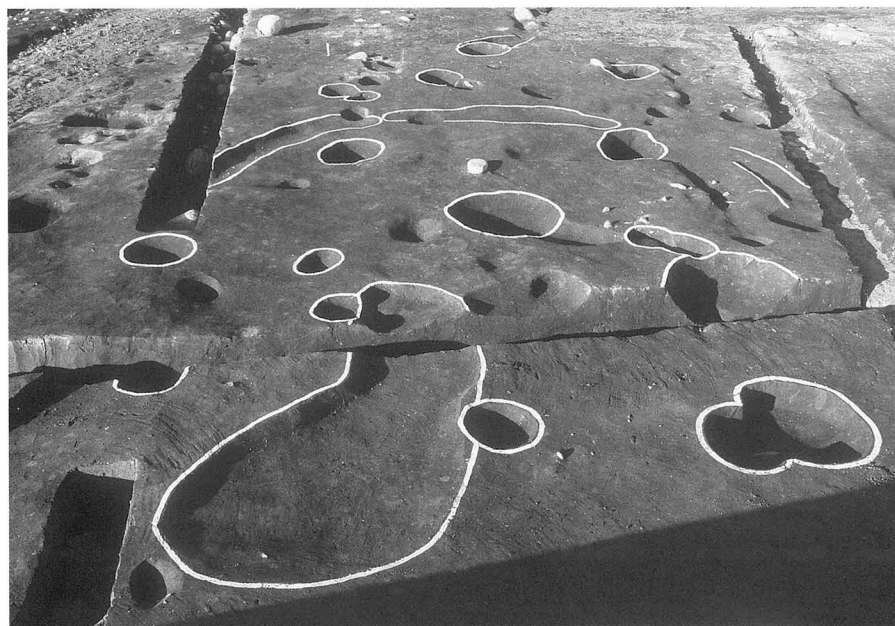
SI3008遺物検出状況(185)(北から)



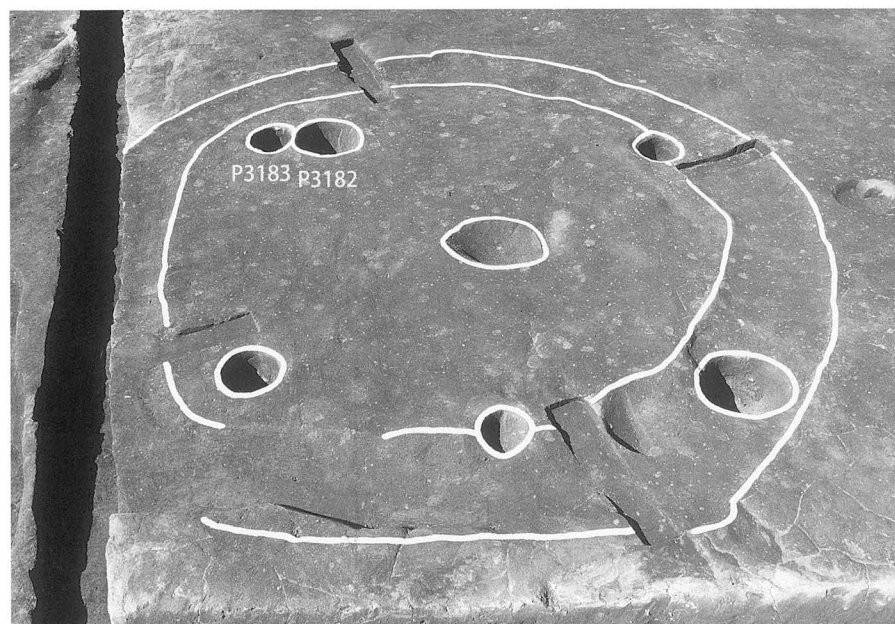
SI3008内SK3051遺物検出状況(183)(南から)



SI3009完掘(北西から)



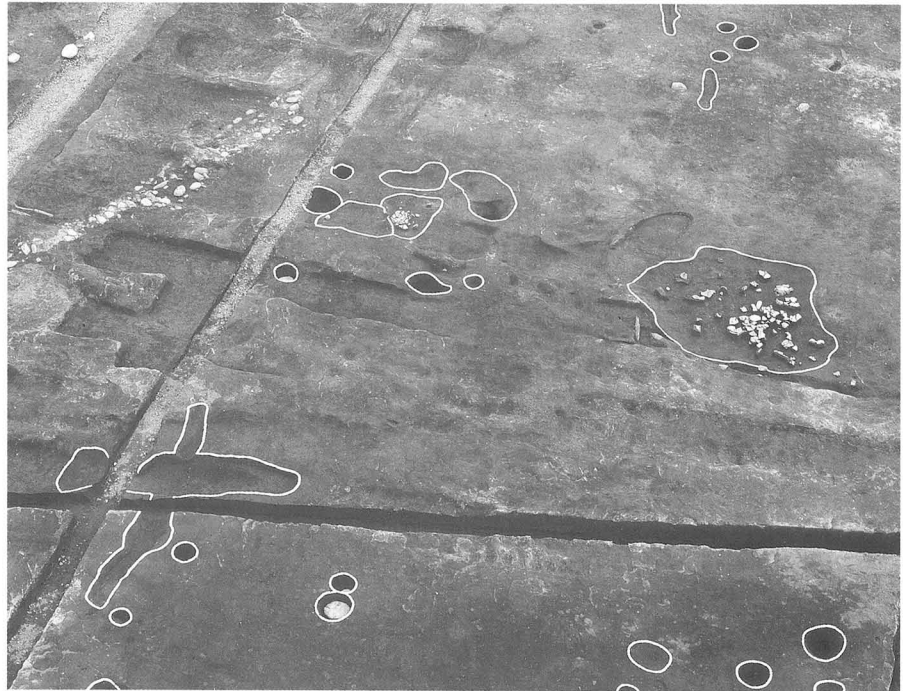
SI3010完掘(南から)



SI3011完掘(東から)



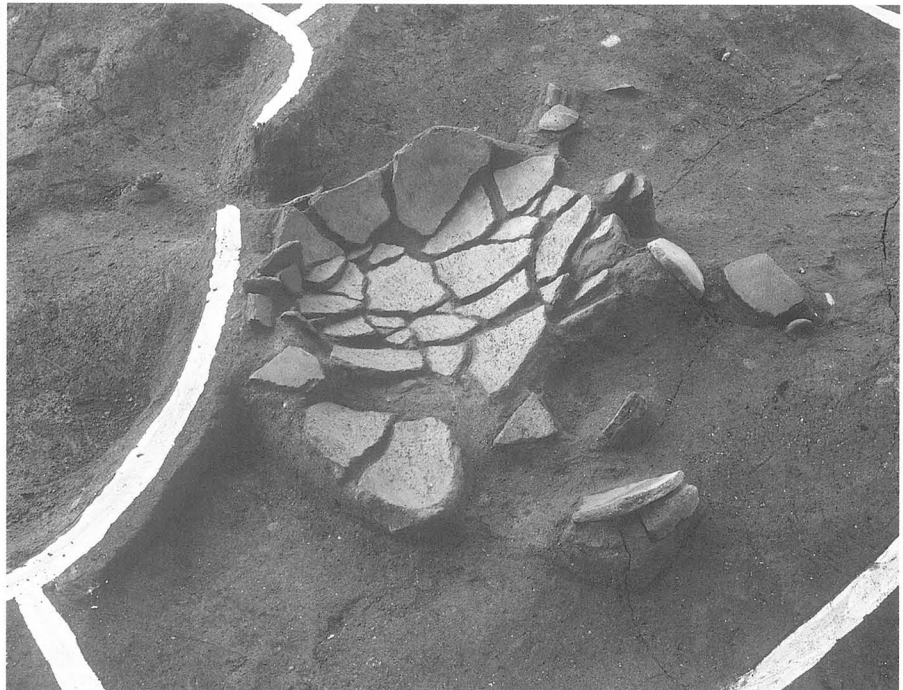
SI3011内
P3182・P3183セクション(南から)



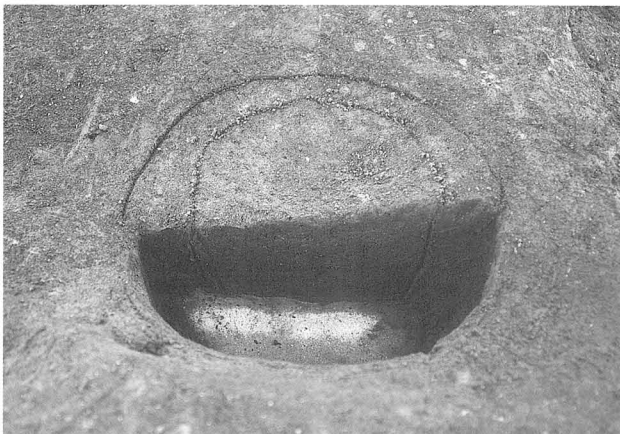
SI3012遺物検出状況
(北から)



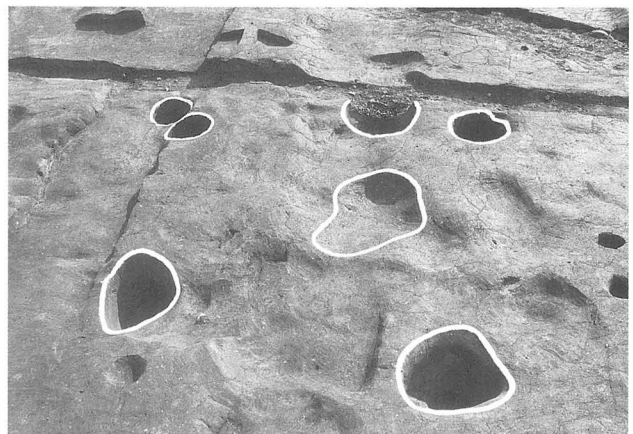
SI3012内SK3027
銅釦検出状況(197)
(東から)



SI3012内
SK3026遺物検出状況(196)
(北から)

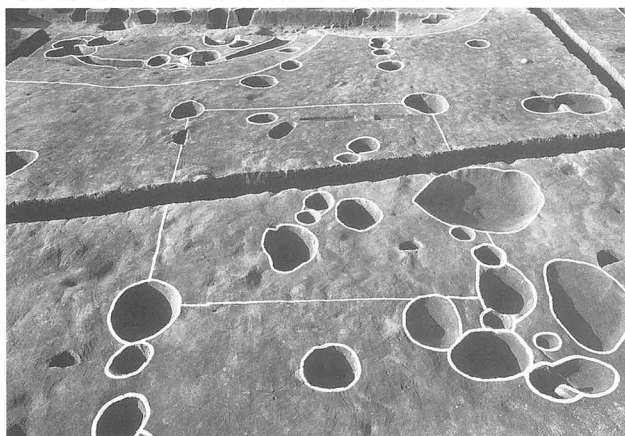


SI3012内P3195セクション及び礎石検出状況(南から)

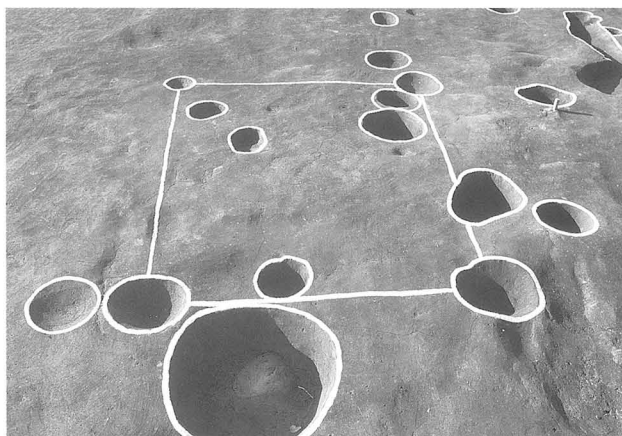


SI3012完掘(西から)

写真図版36 3区 第2面・第3面



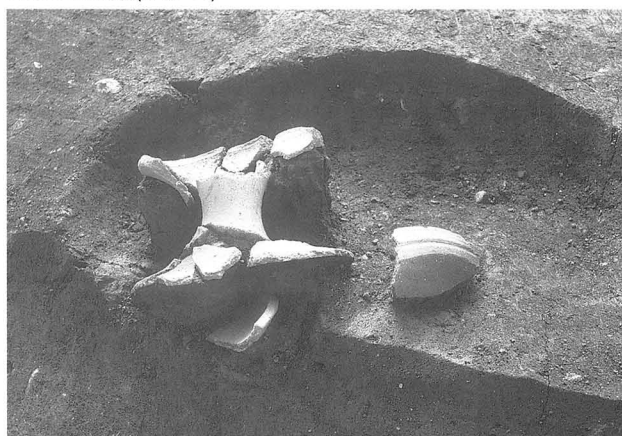
SB3001完掘(北から)



SB3002完掘(北から)



SB3003完掘(東から)



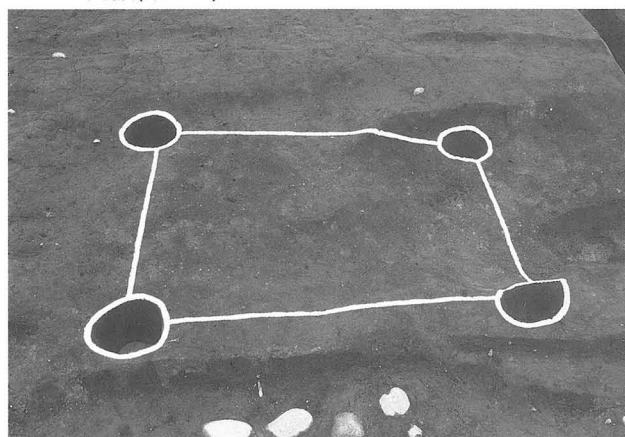
SB3003内P3079遺物検出状況(169)(東から)



SB3004完掘(東から)



SB3005完掘(西から)



SB3006完掘(西から)



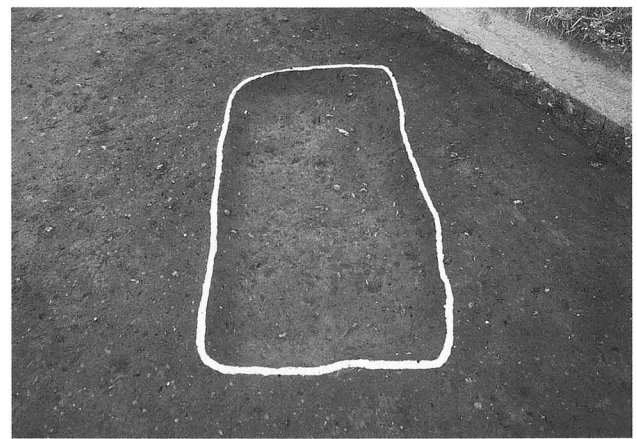
第3面南西側SB3007付近完掘(北西から)



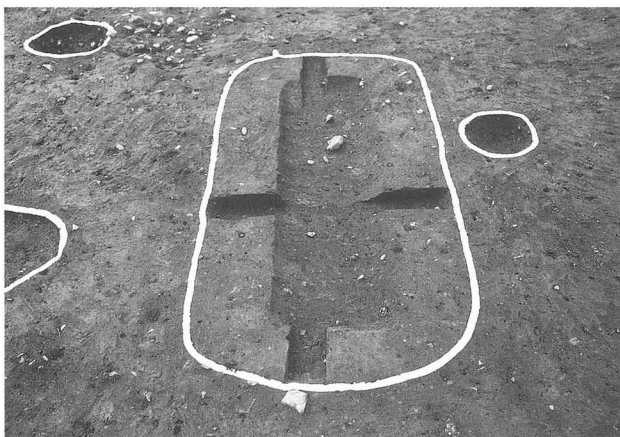
SX3001～SX3003木棺墓群(北東から)



SX3001木棺部完掘(北西から)



SX3001掘方完掘(南東から)

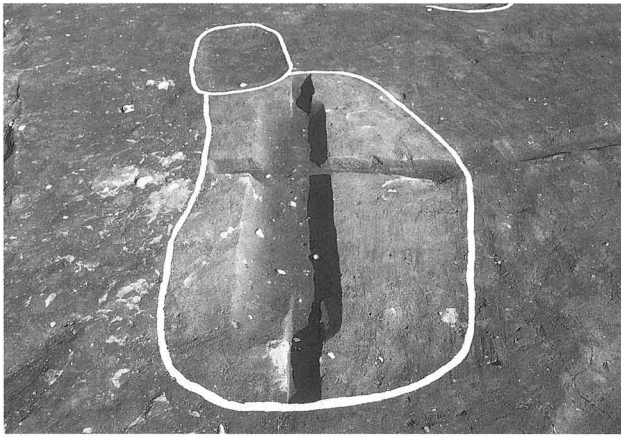


SX3002木棺部完掘(東から)

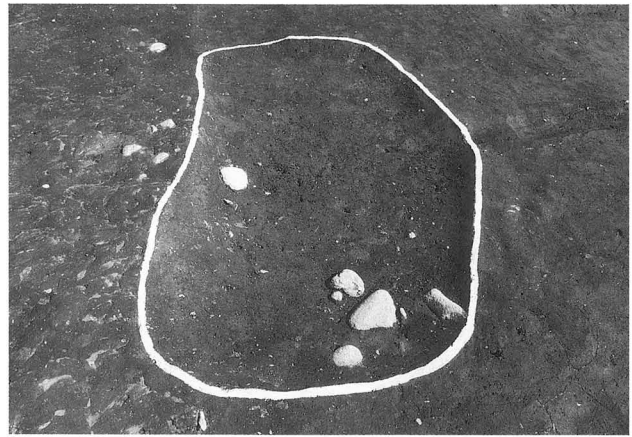


SX3002掘方完掘(西から)

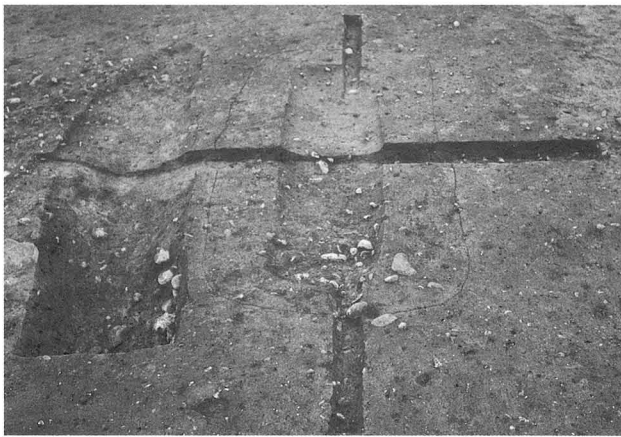
写真図版38 3区 第2面



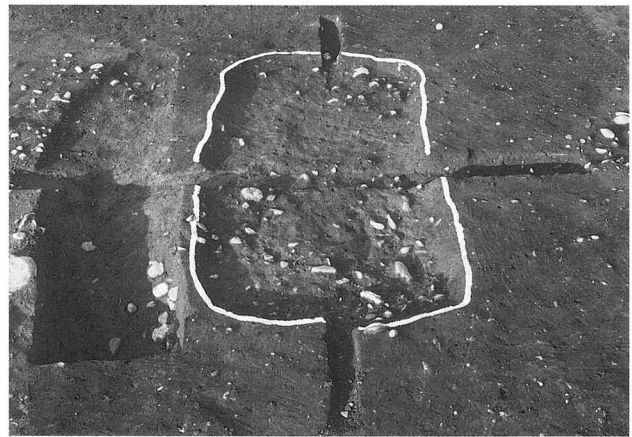
SX3003木棺部完掘(西から)



SX3003掘方完掘(西から)



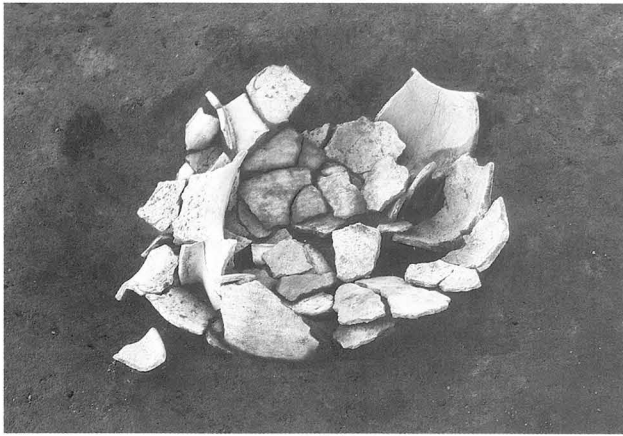
SX3004木棺部完掘況(南西から)



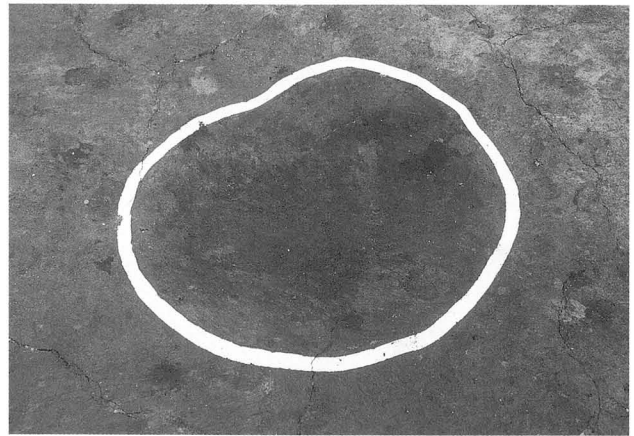
SX3004掘方完掘(南西から)



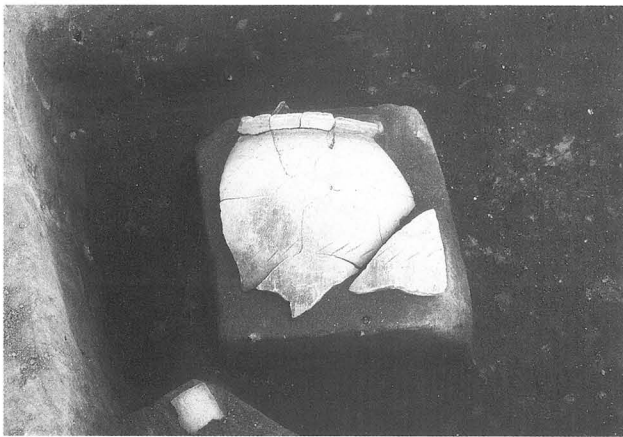
SX3001~SX3004木棺墓群完掘(北西から)



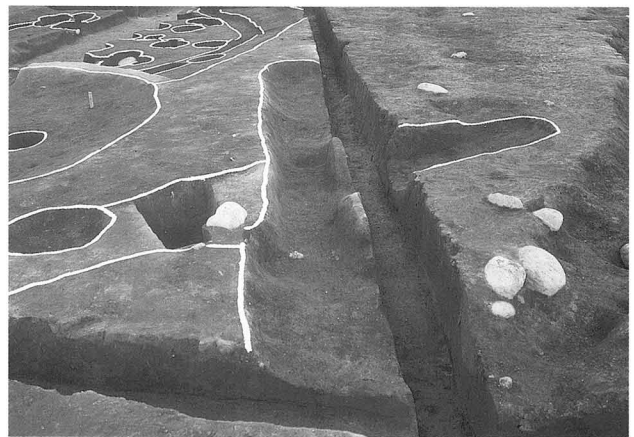
SK3003遺物検出状況(199・200)(東から)



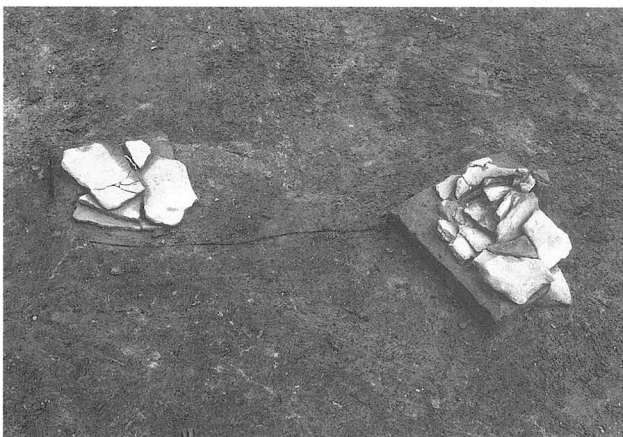
SK3003完掘(東から)



SK3007遺物検出状況(201)(西から)



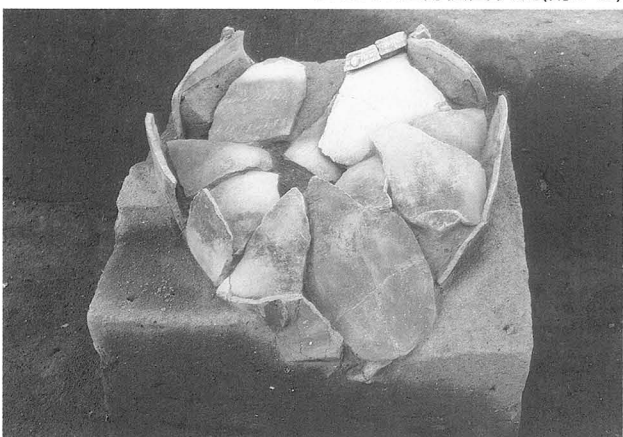
SK3008完掘(西から)



SK3010遺物検出状況(南から)



SK3013遺物検出状況(202・203・204)(南東から)

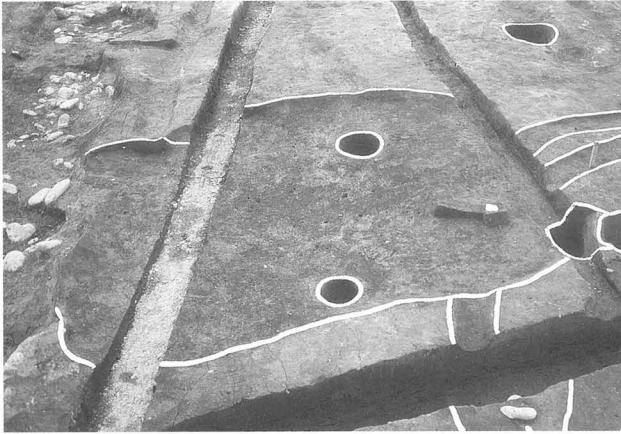


SK3013遺物検出状況(202)(南西から)

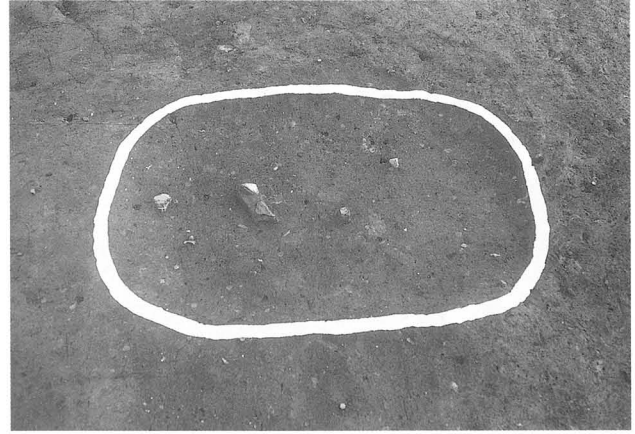


SK3020遺物検出状況(205~209)(北西から)

プラン検出
(西から)



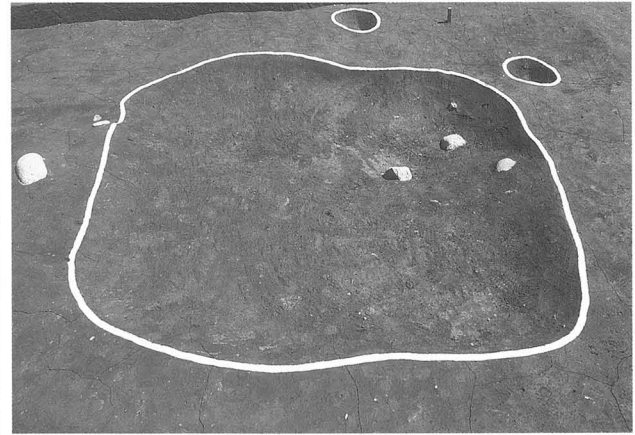
SK3039完掘(北から)



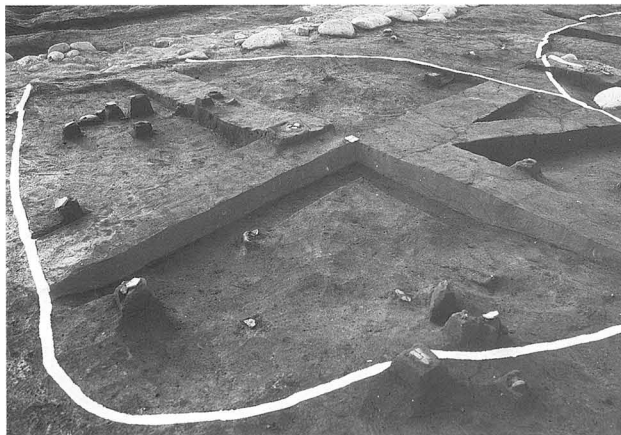
SK3046完掘(南西から)



SK3047遺物検出状況(210)(南から)



SK3049完掘(西から)



SK3053セクション(北西から)



SK3055遺物検出状況(211・212)(南から)



SK3056遺物検出状況(214・215・216)(北東から)



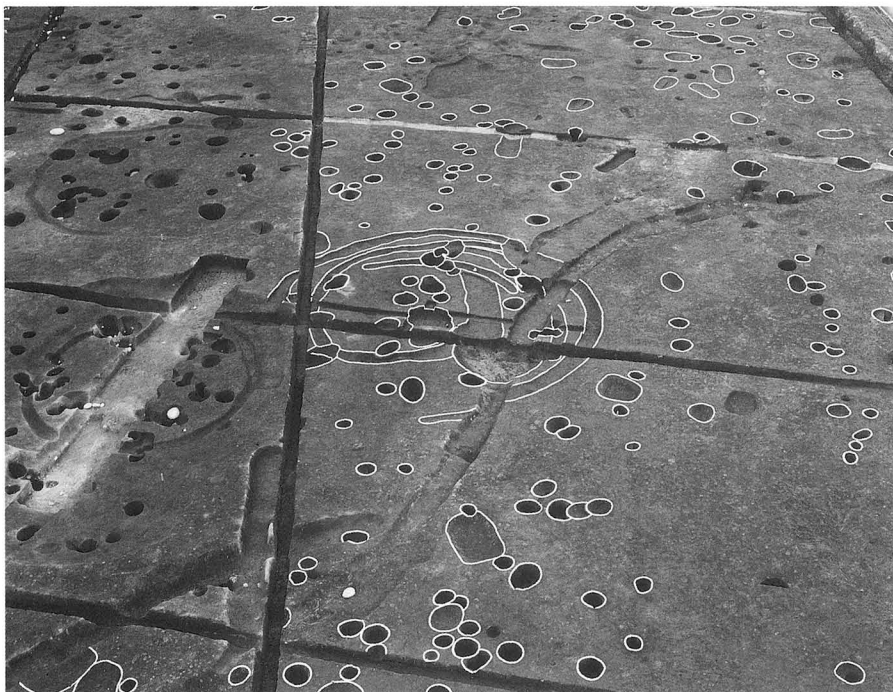
第3面 P3662柱根検出状況(南から)



第3面南西側完掘(西から)



第3面西側完掘(北東から)



SI3013・SB3008完掘(西から)



SI3013完掘(南から)



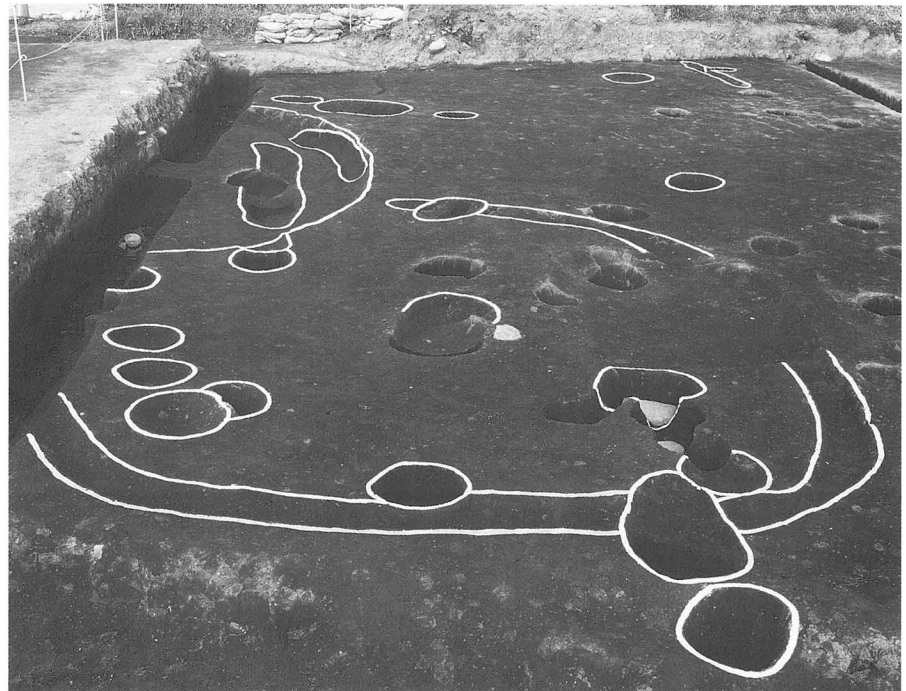
SI3013プラン検出(南東から)



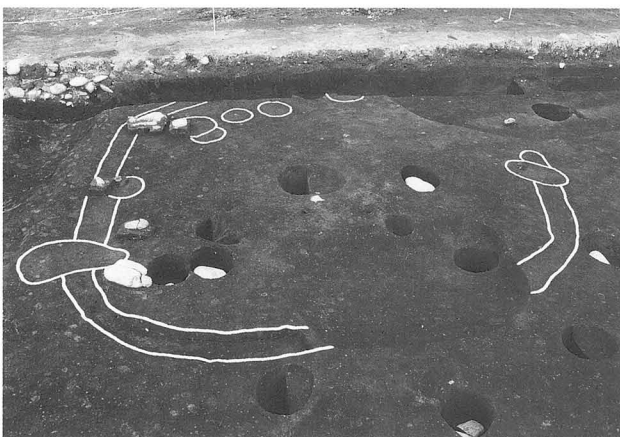
SI3013壁溝・小溝セクション(南から)



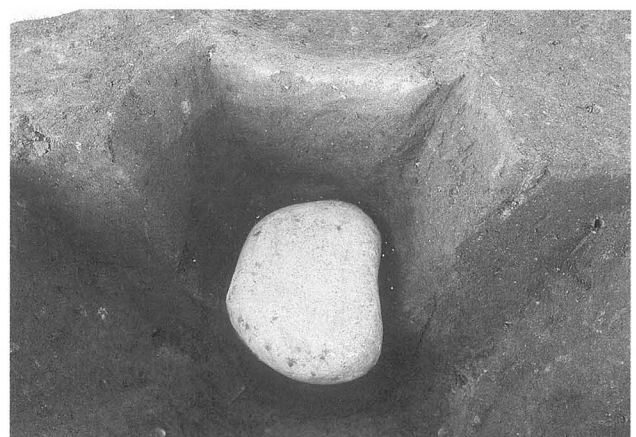
SI3013・SI3014・
(SI3002・SI3009:第2面)完掘
(南西から)



SI3014完掘
(南から)



SI3014貼床面遺物検出状況(東から)



SI3014内P3444セクション及び礎石検出状況(南から)



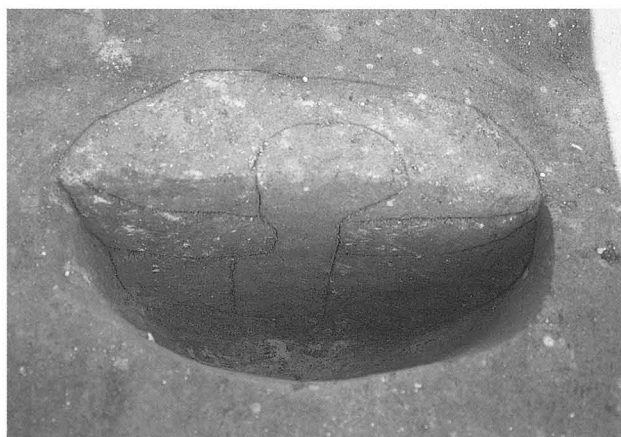
SI3015完掘(南から)



SI3015完掘(西から)



SI3015内P3465遺物検出状況(224)(南から)



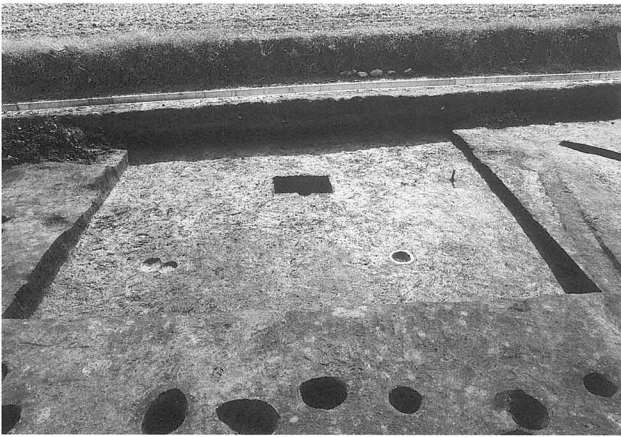
SI3015内P3481(中央土坑脇ビット)セクション(南から)



Tr.1拡張2 第4面完掘(西から)



Tr.3拡張 第4面完掘(南から)



Tr.6拡張 第4面完掘(北から)



Tr.8 第4面完掘(西から)

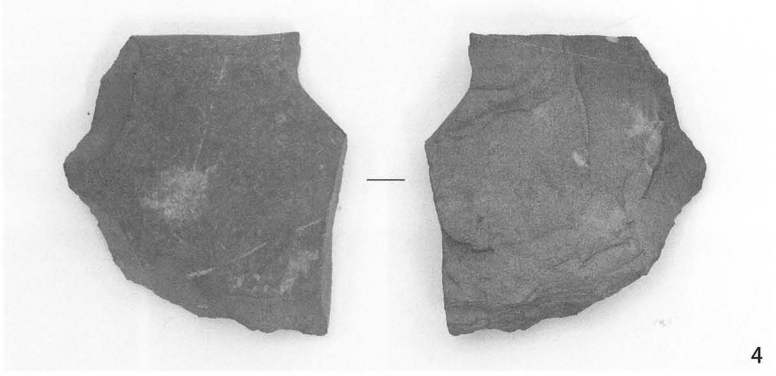


第4面トレンチ調査終了及び第2・3面遺構全景(西から)

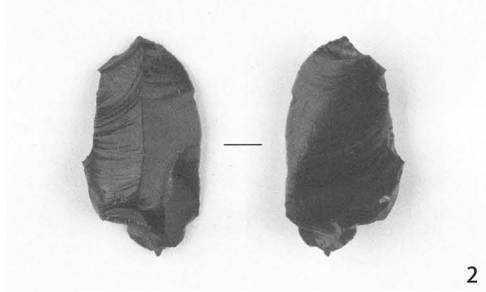
写真図版46 1区・2区 出土遺物



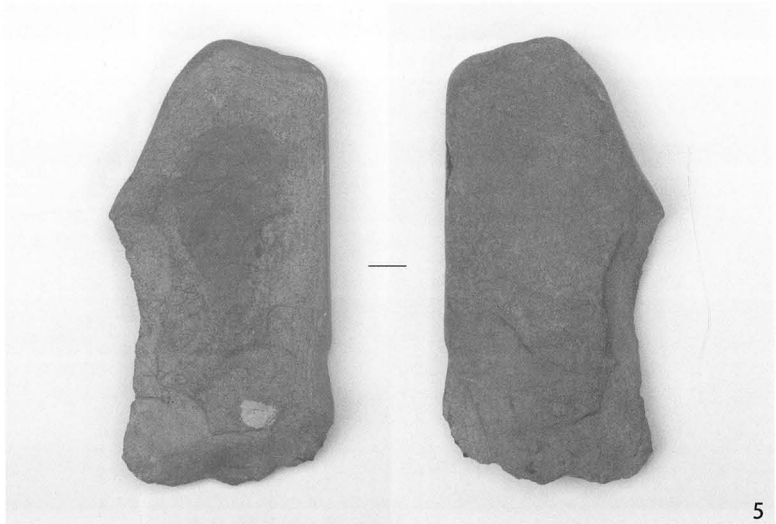
1



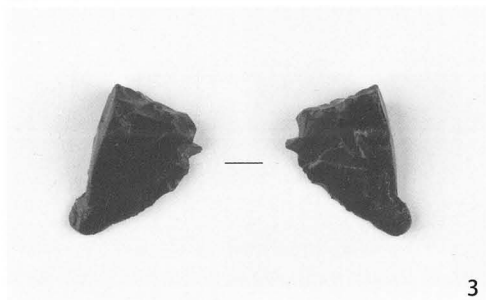
4



2



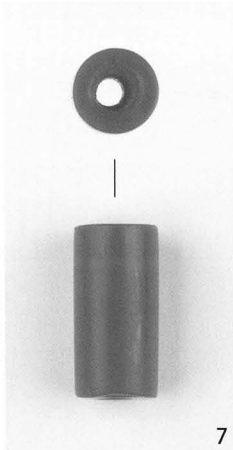
5



3



6



7



8

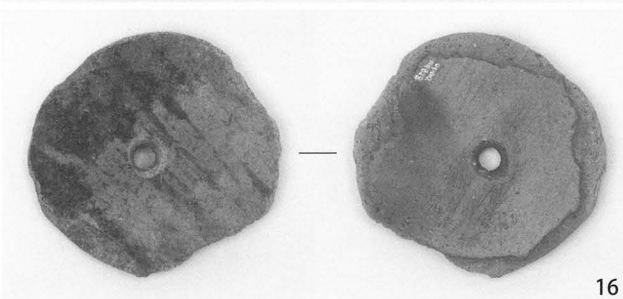
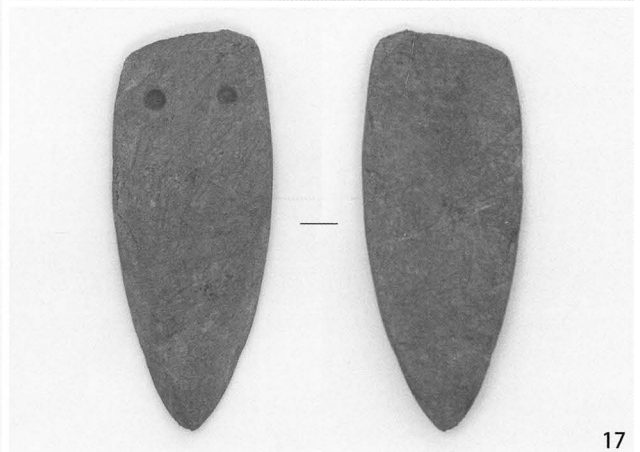


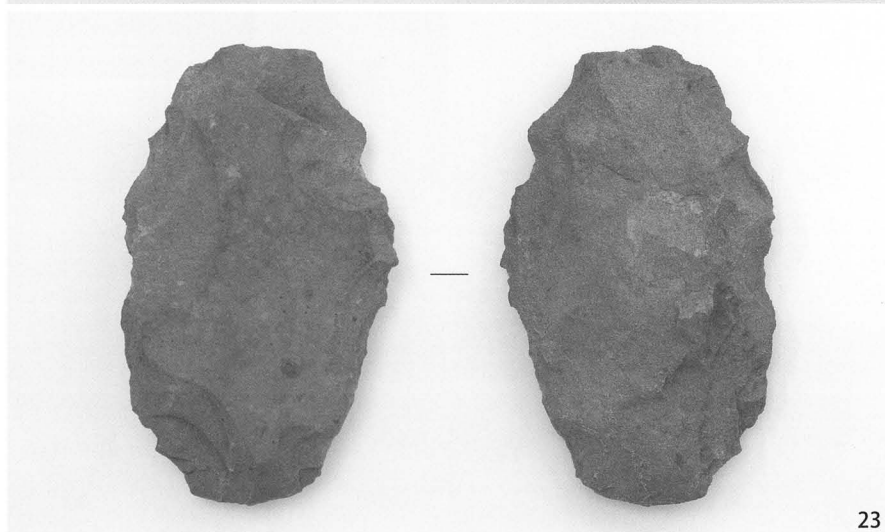
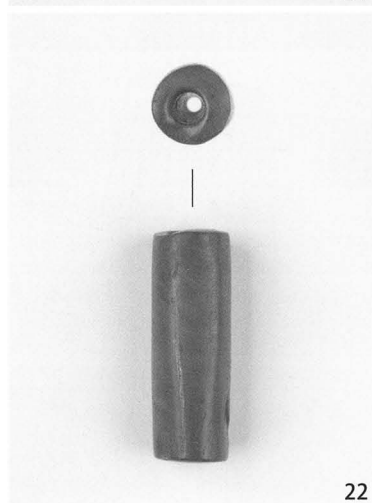
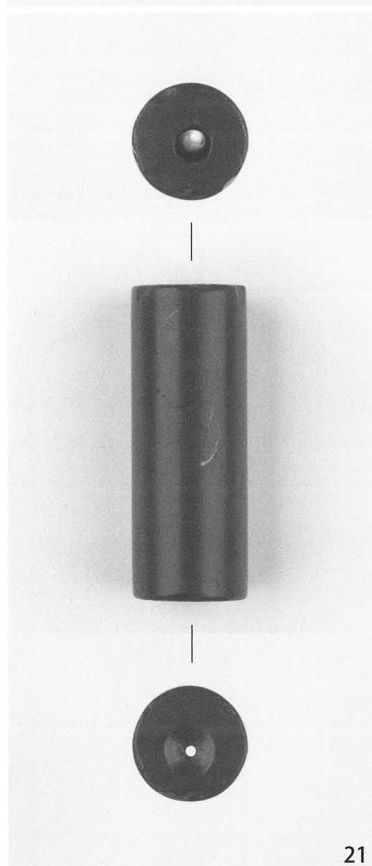
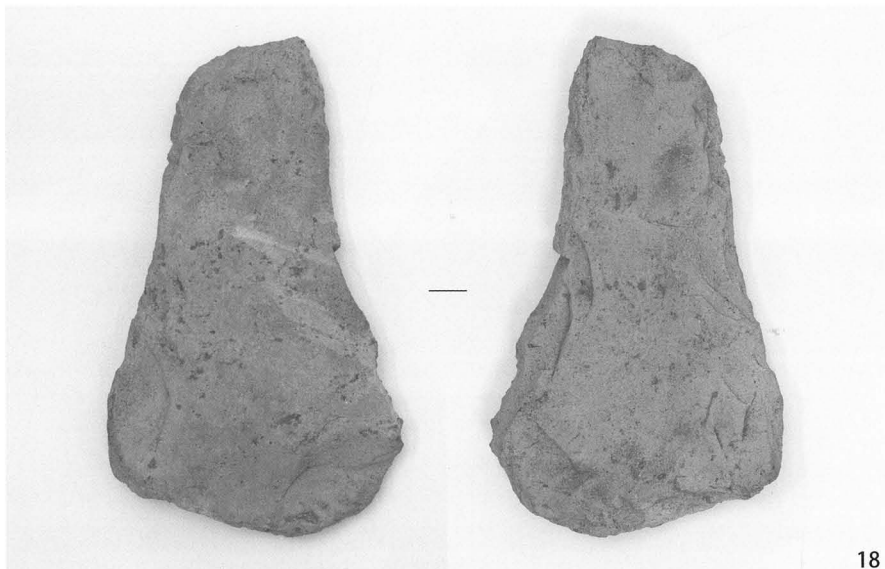
9

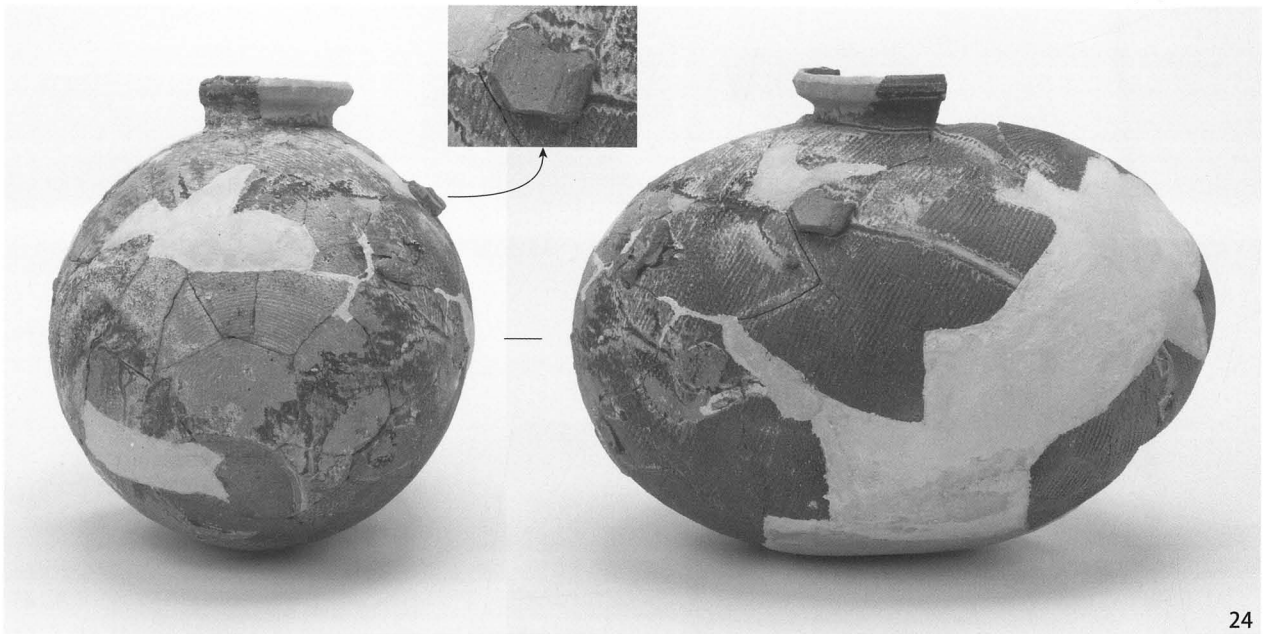


10

1:1区 SD1001、2~5:1区 抽出遺構外
6・7:2区 第6層、8~10:2区 第7層







24



25



27



26



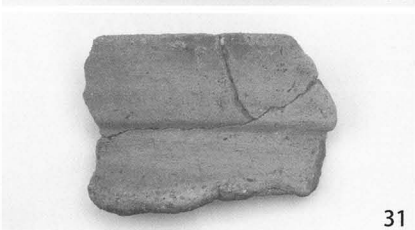
28



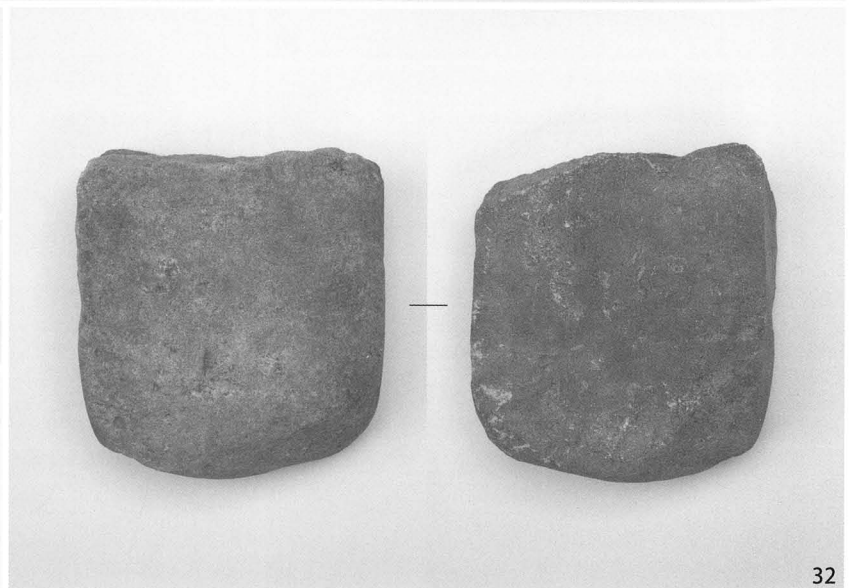
29



30

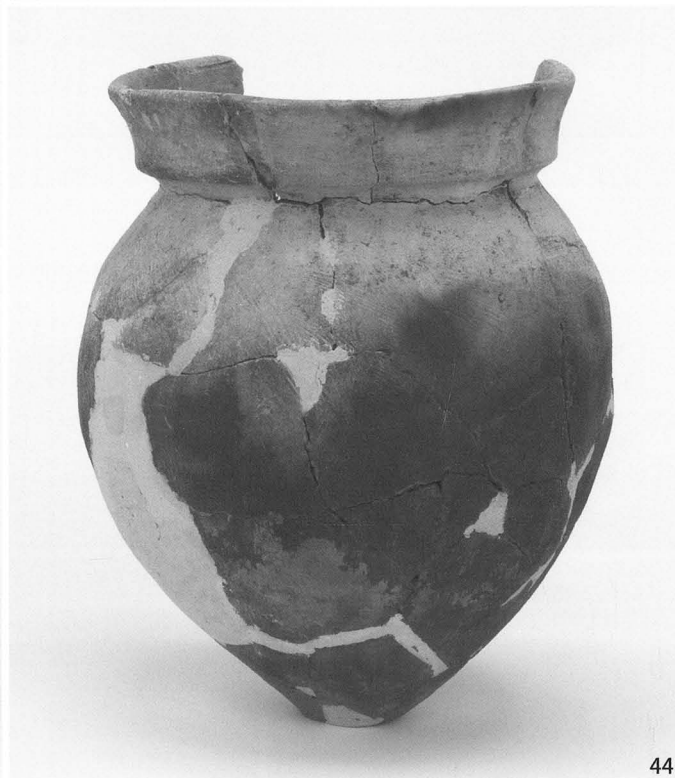
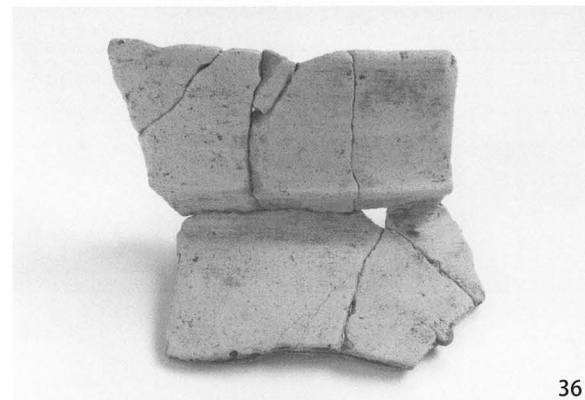
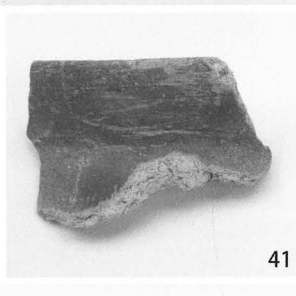


31

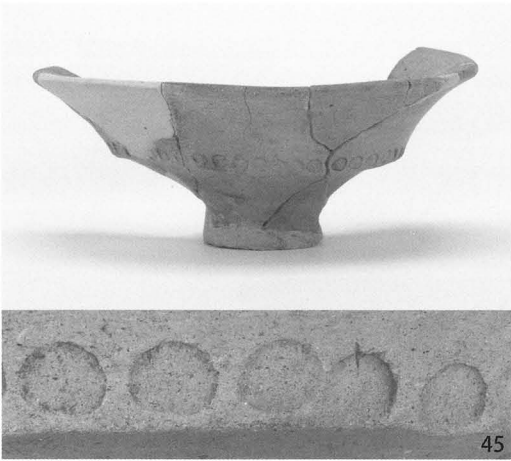


32

写真図版50 2区 出土遺物



33~36:2区 SK2010、37~42:2区 SD2015
43・44:2区 SI2001内土器だまり2003



45



48



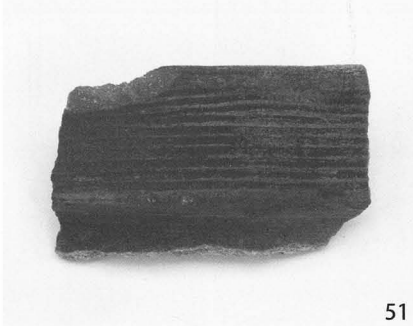
46



49



47



51



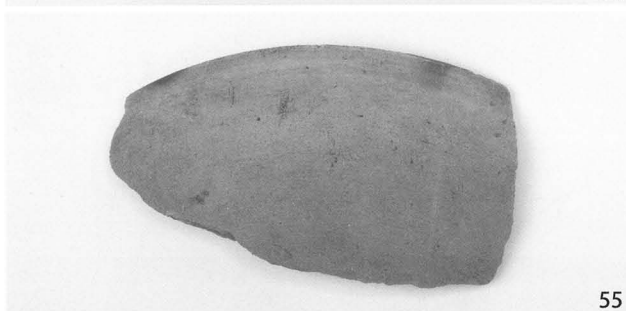
50

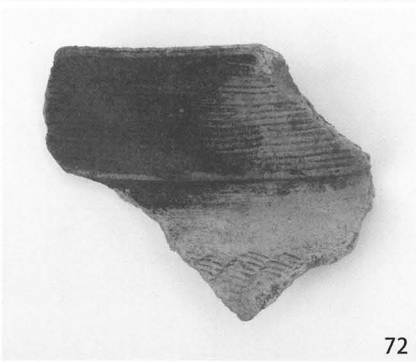
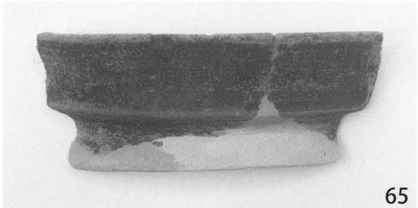
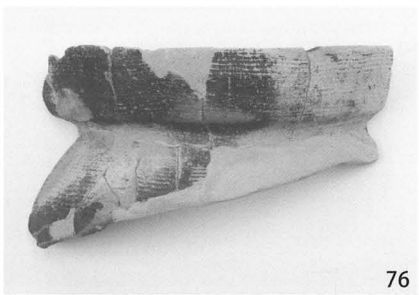


53

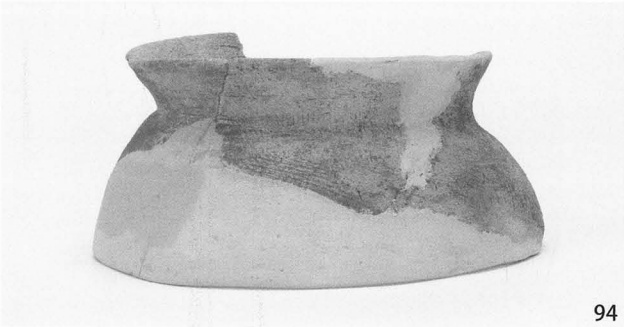


52



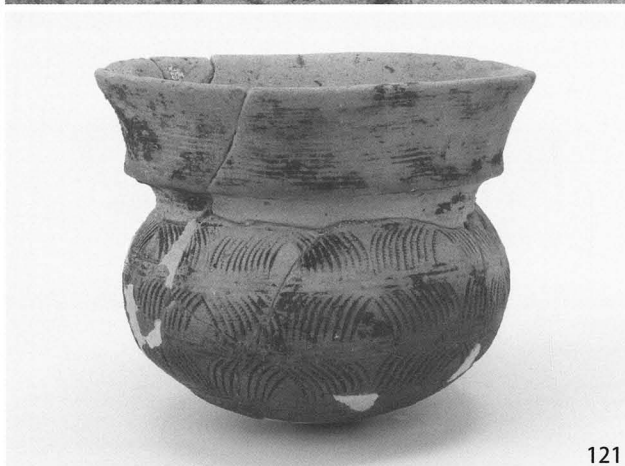
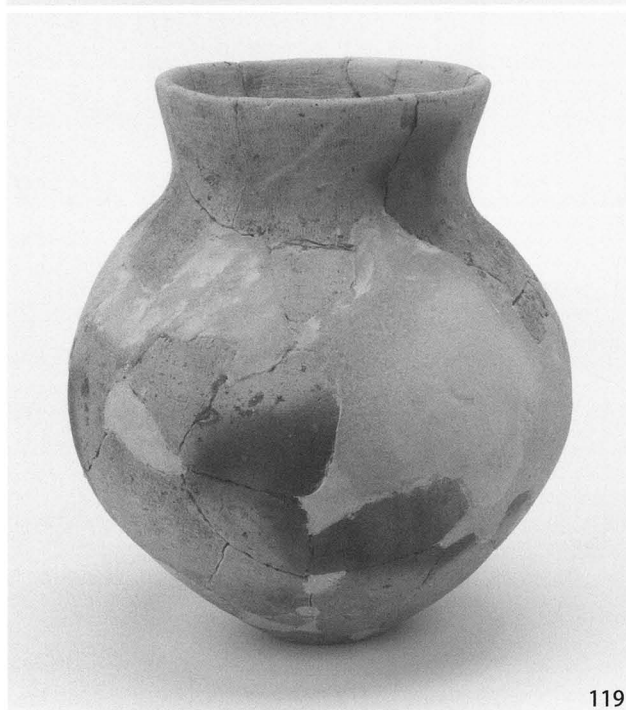
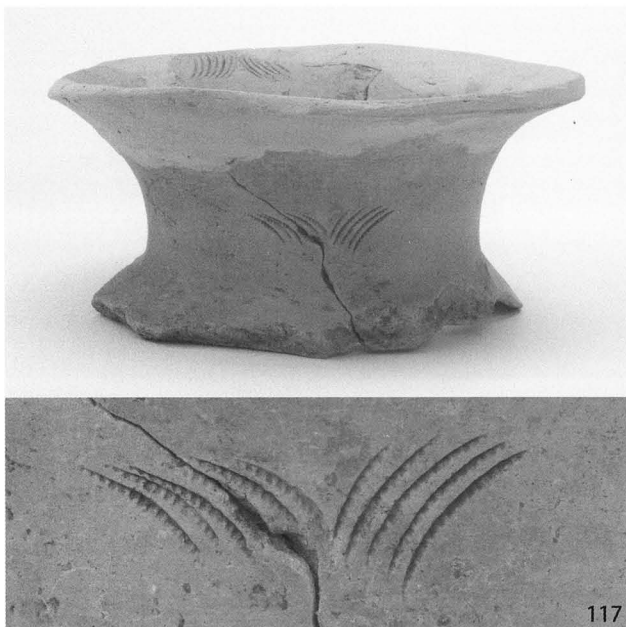


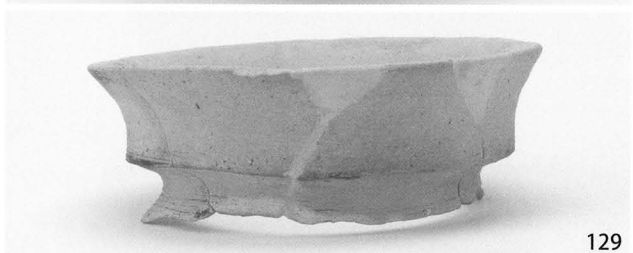
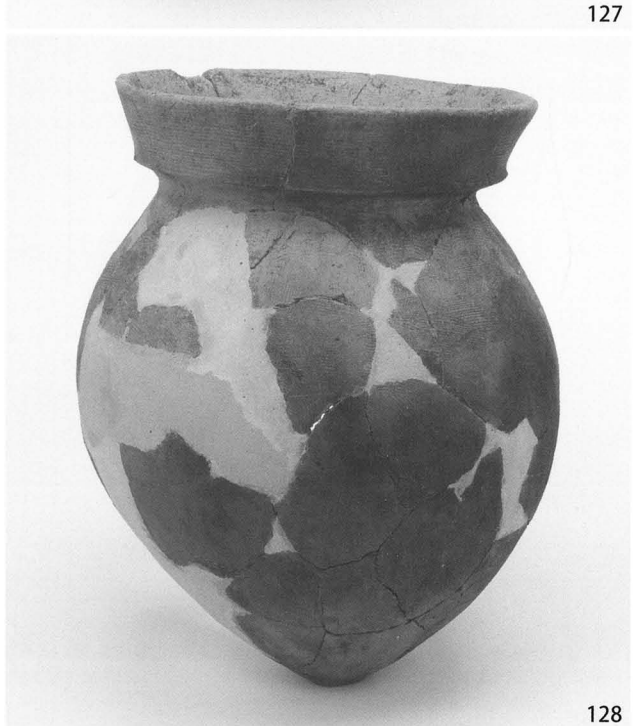






















163



165



164



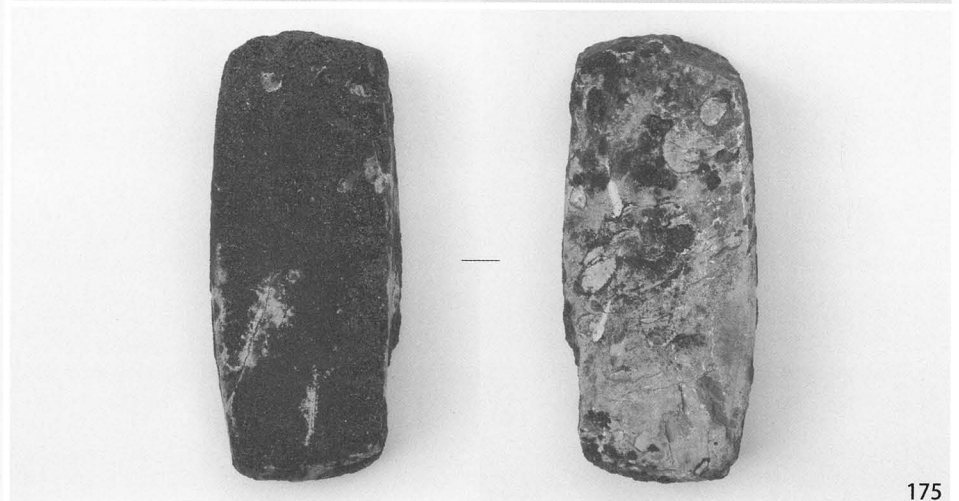
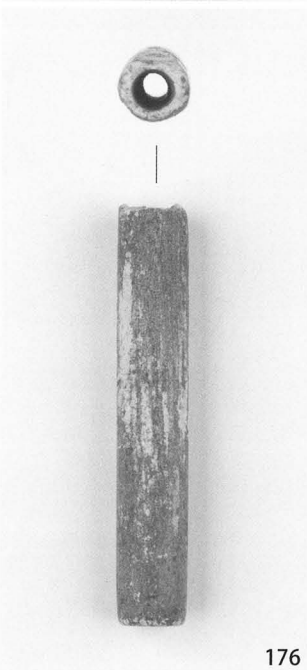
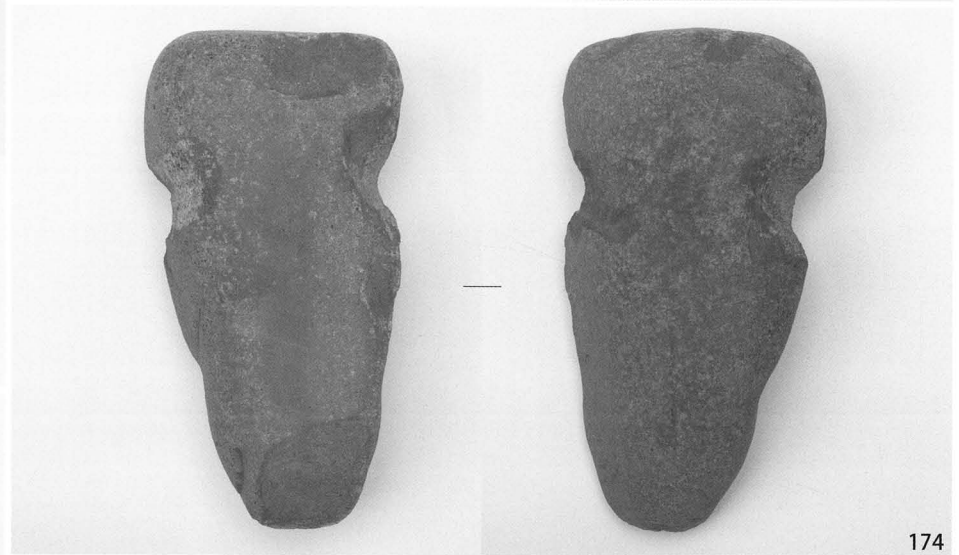
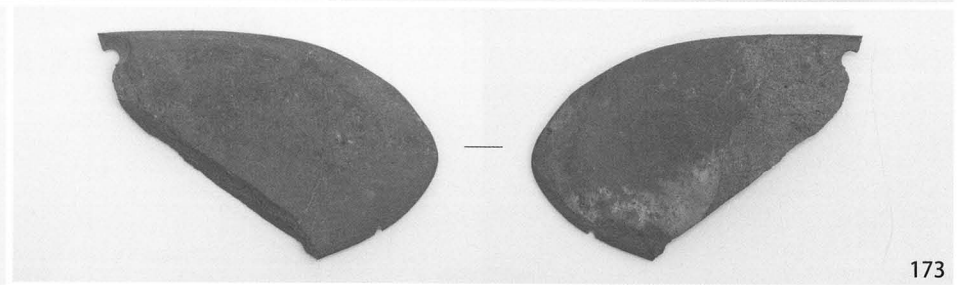
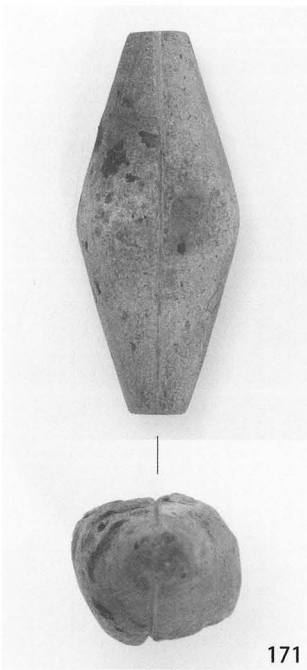
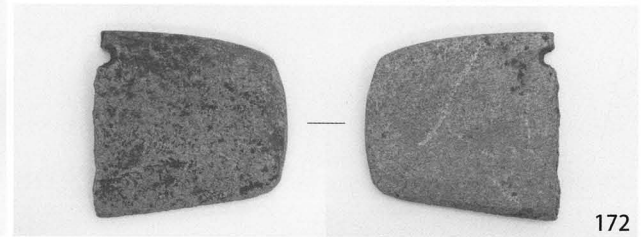
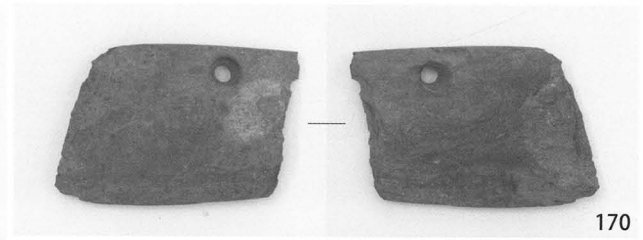
166

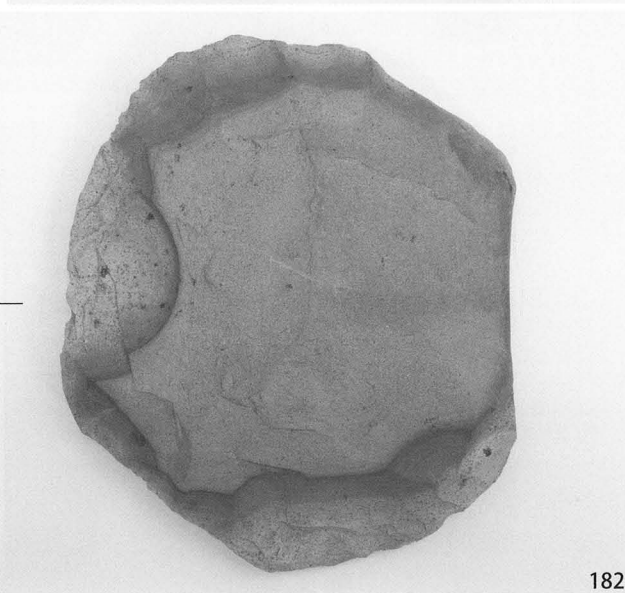
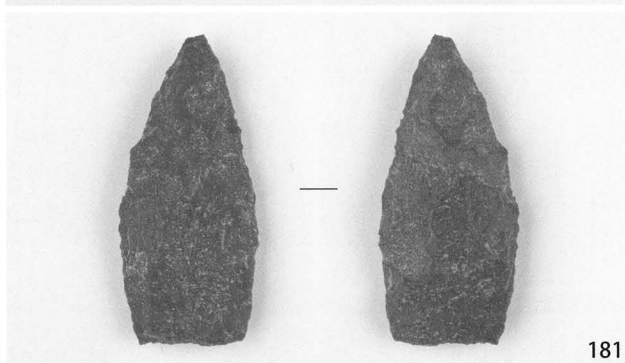
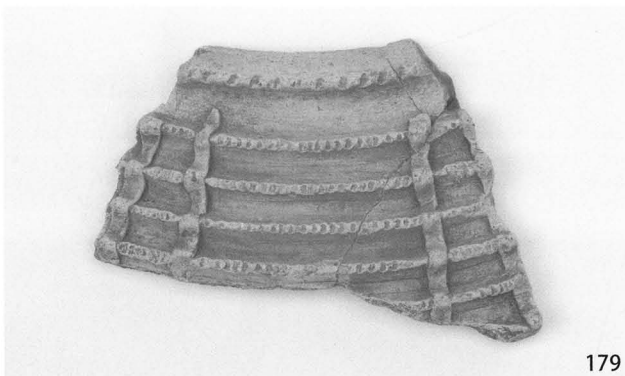


167

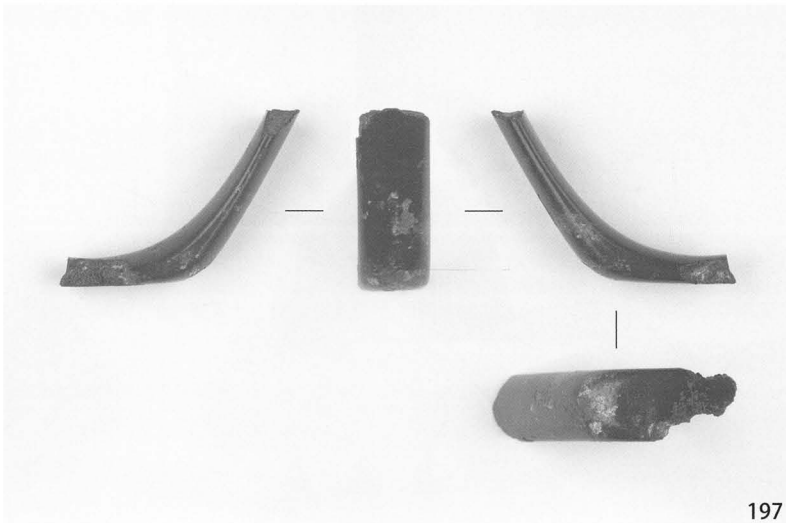
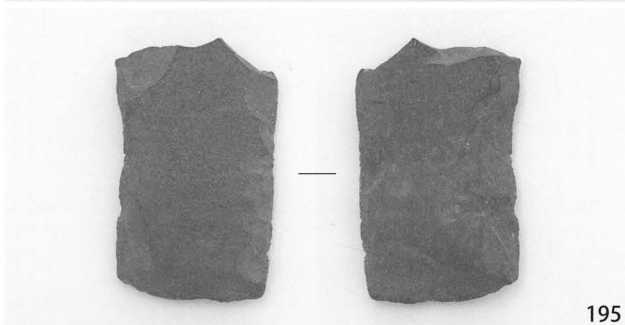
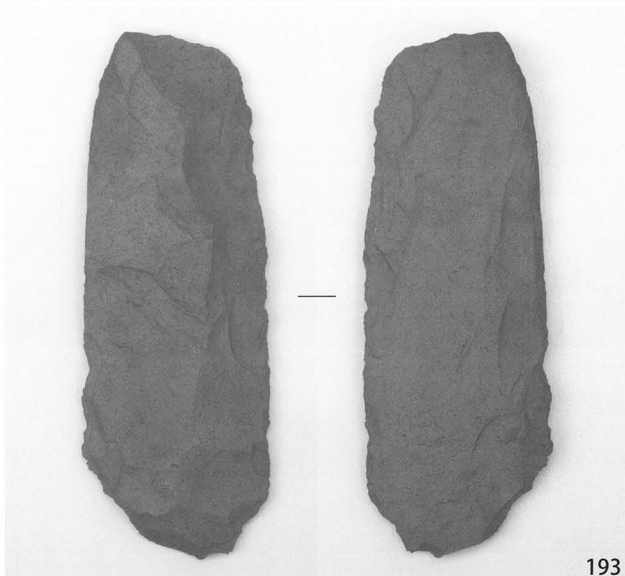
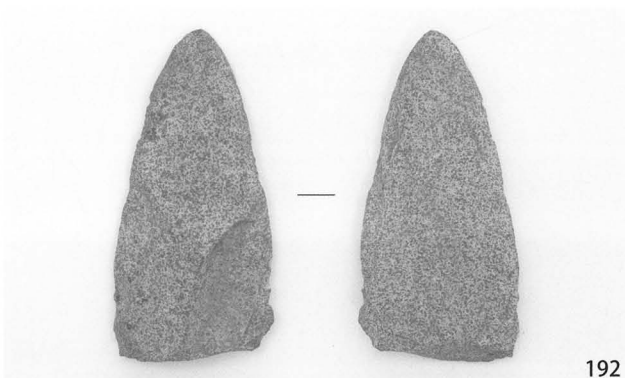


168

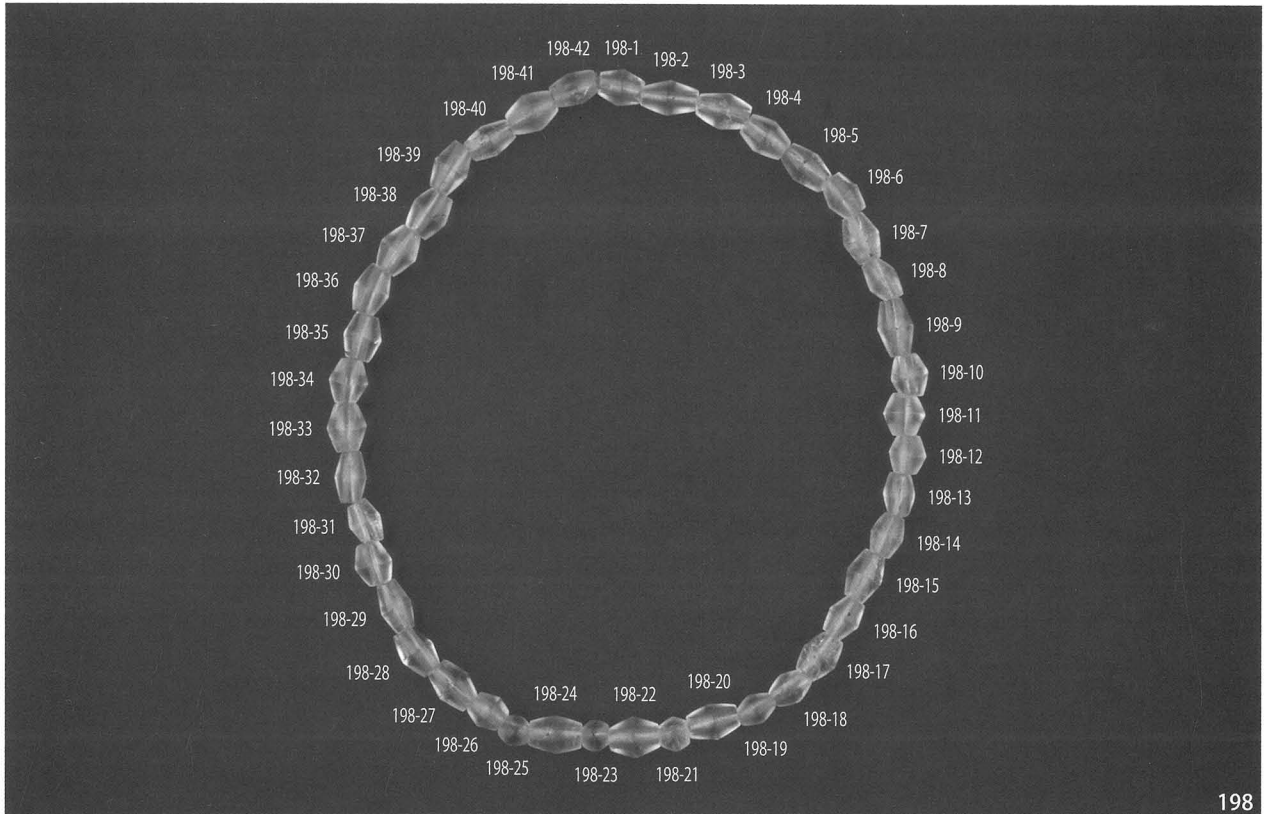




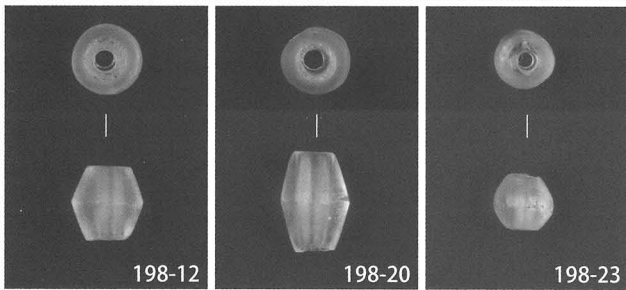




191~193:3区 SI3007、194:3区 SI3009、195:3区 SI3011
196:3区 SI3012内SK3026、197:3区 SI3012内SK3027



198



198-12

198-20

198-23



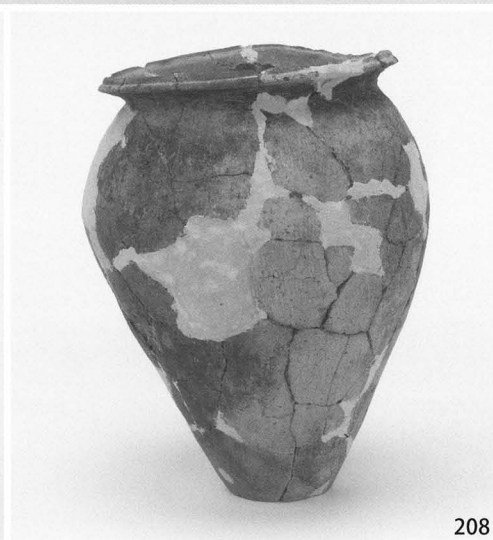
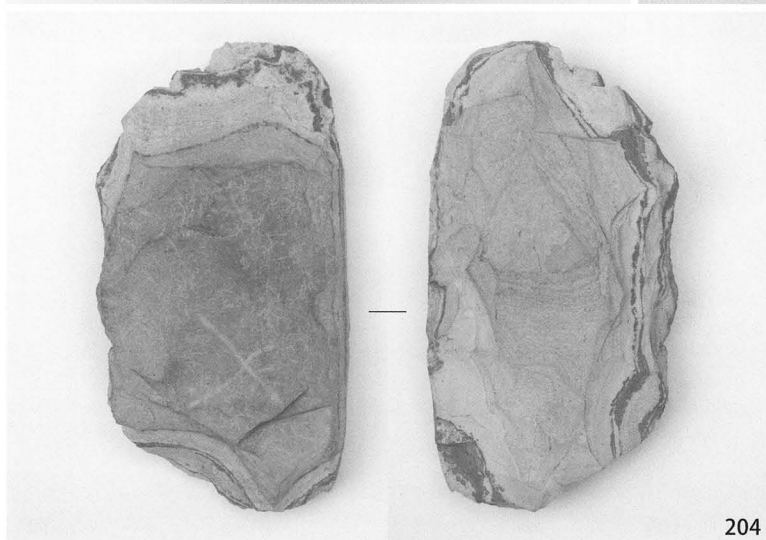
200

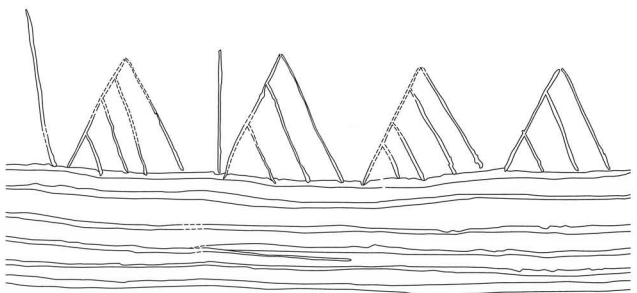
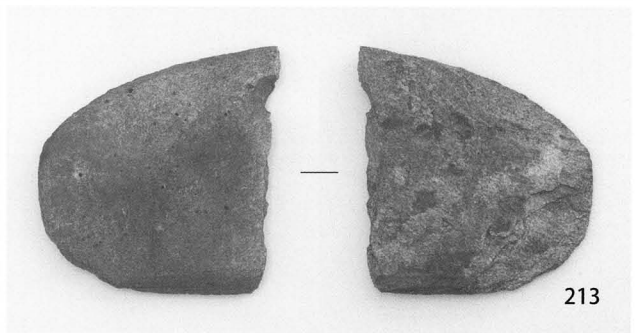
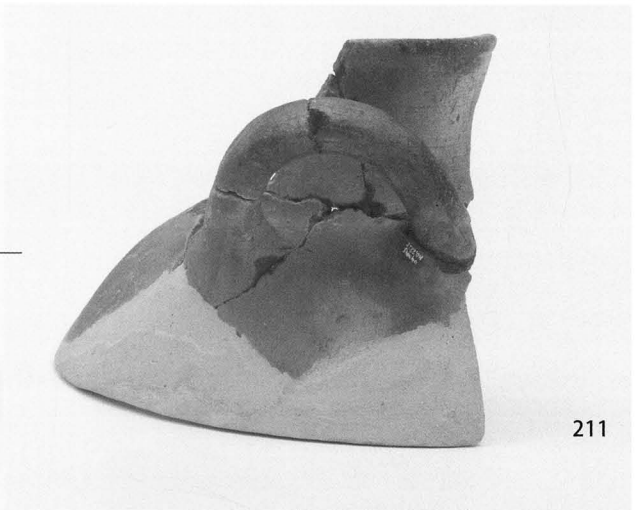


199



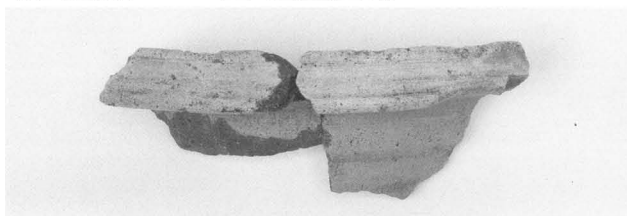
201





212文様展開図

209:3区 SK3020、210:3区 SK3047、211~213:3区 SK3055



214



216



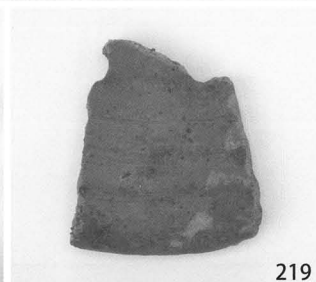
217



215



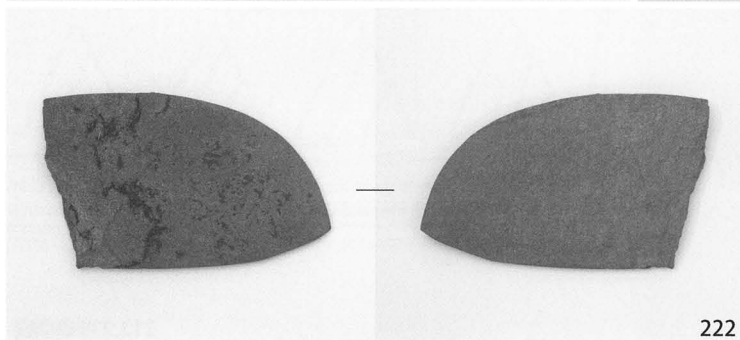
218



219



220



222



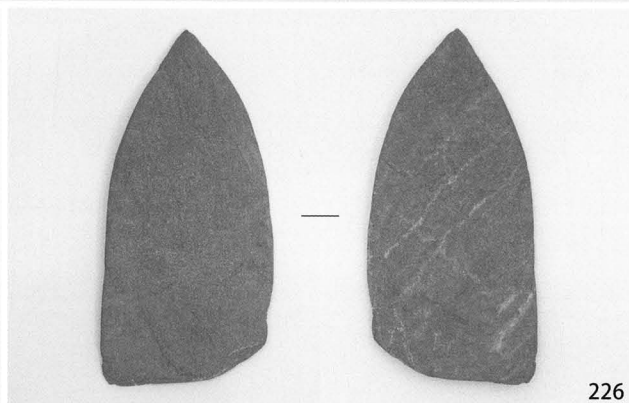
221



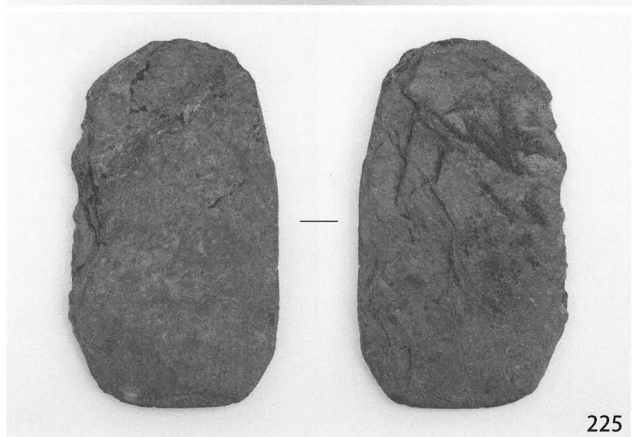
223



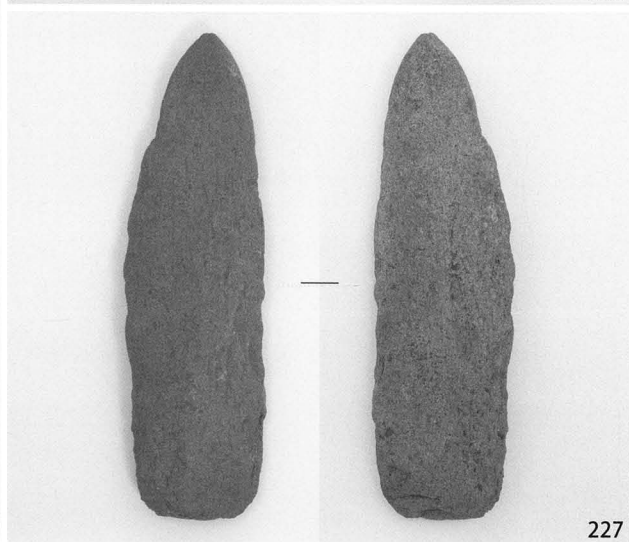
224



226

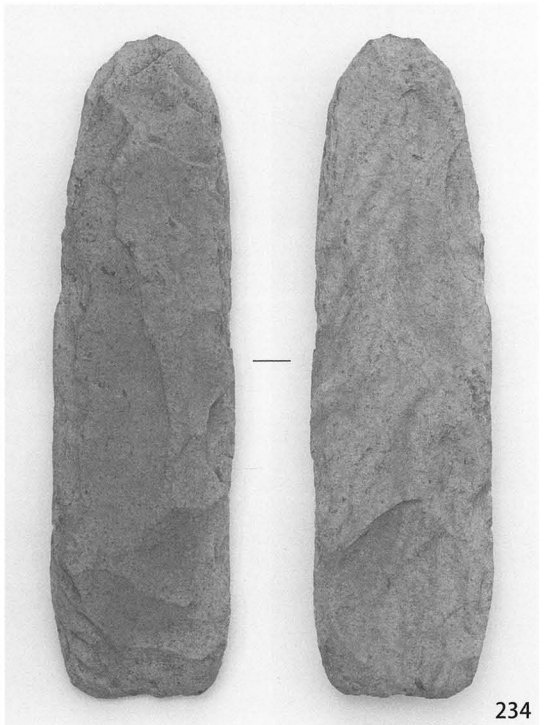
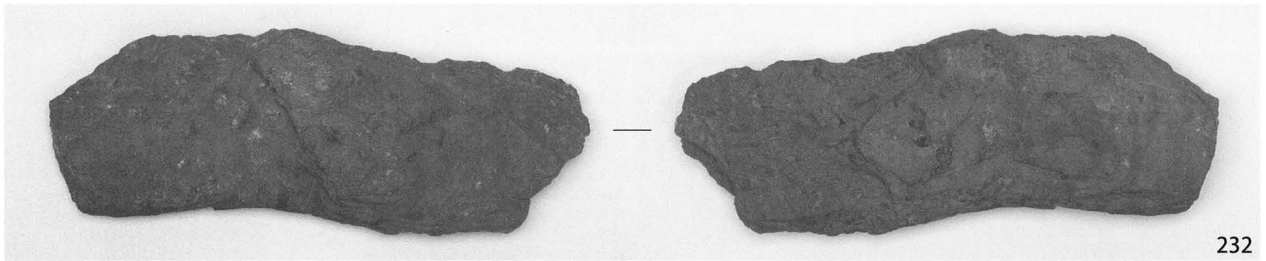
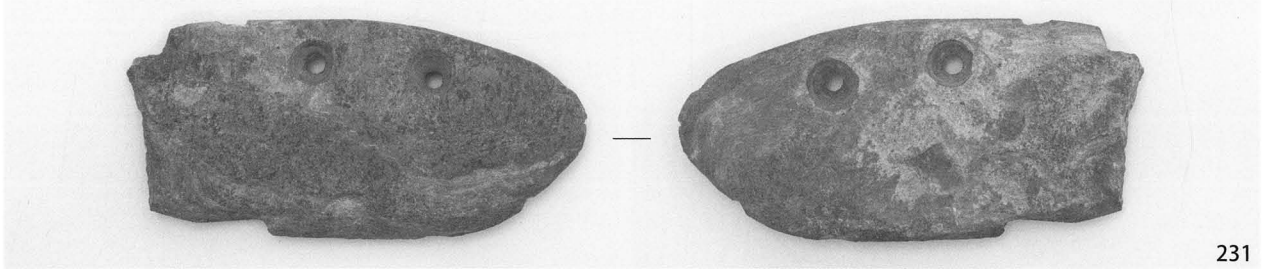
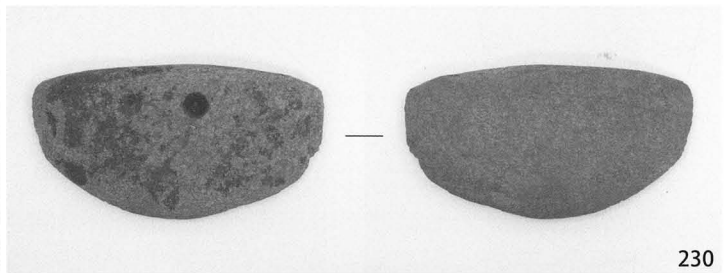
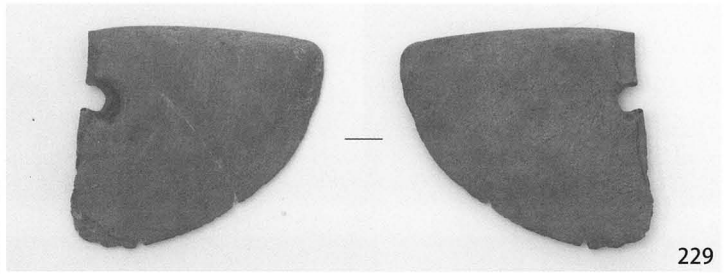
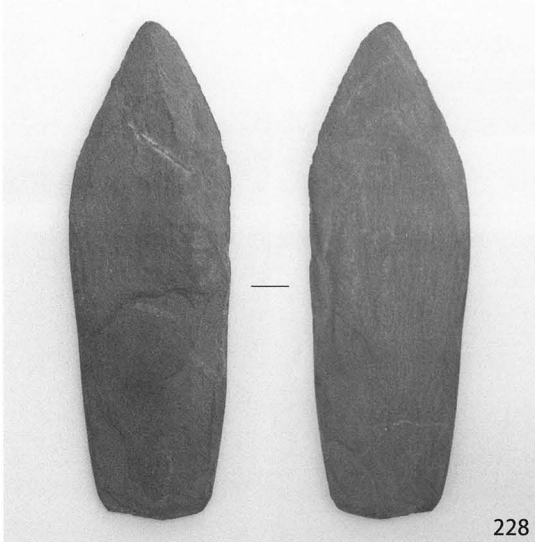


225

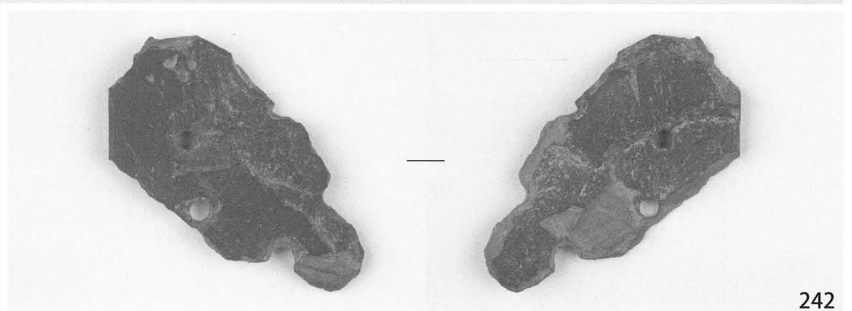
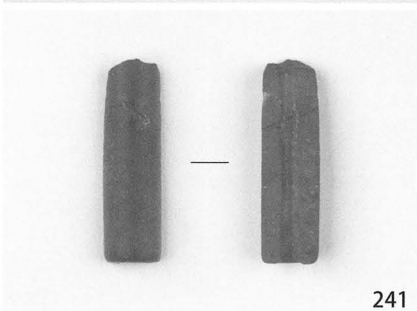
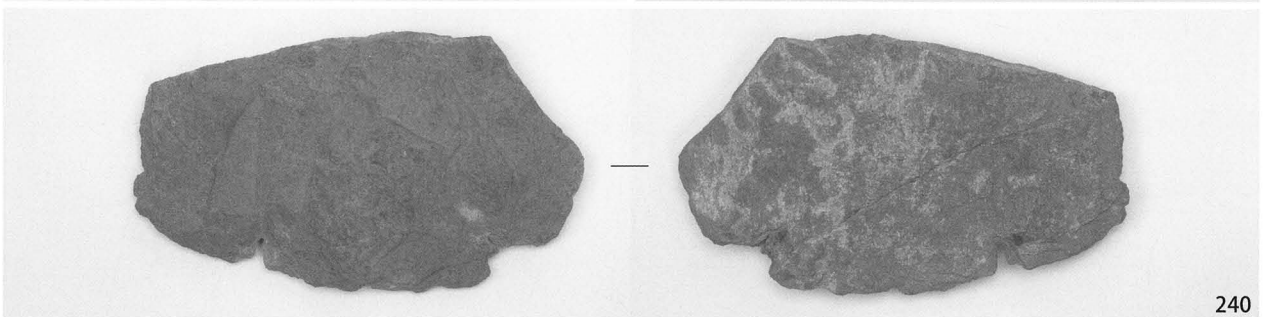
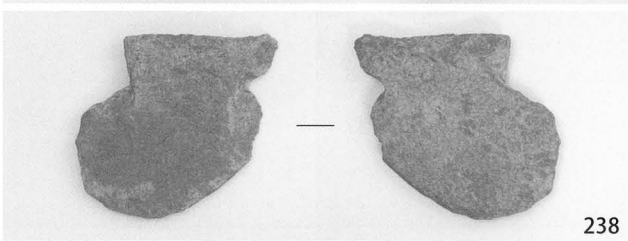
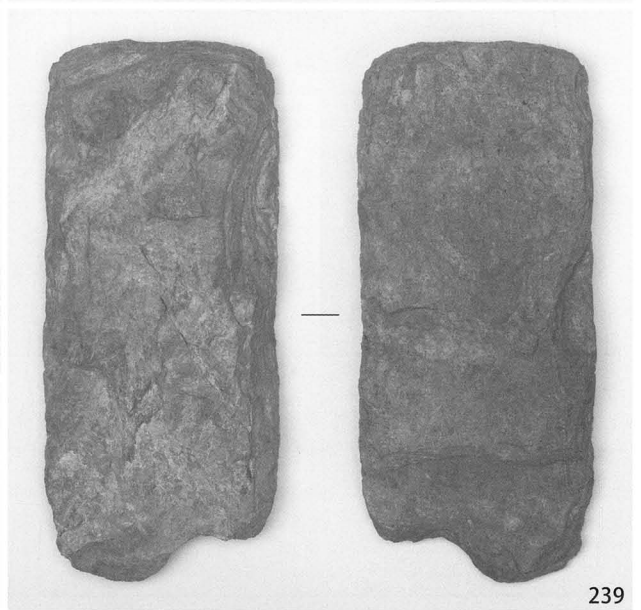
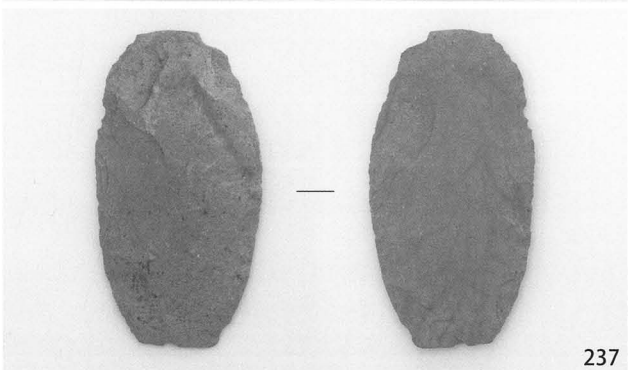
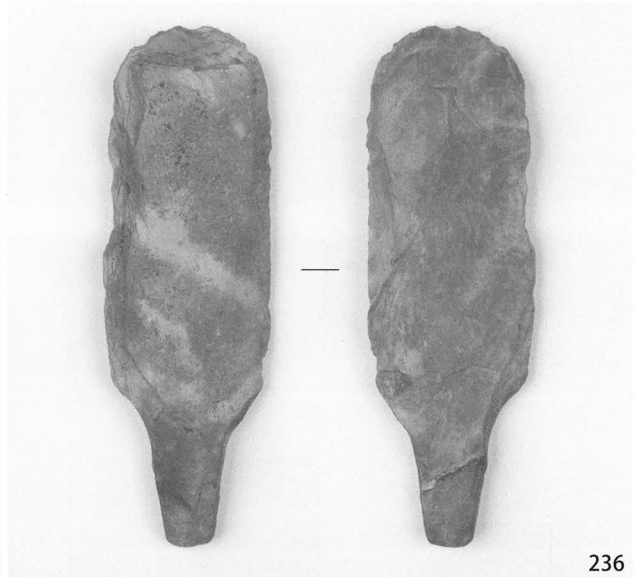
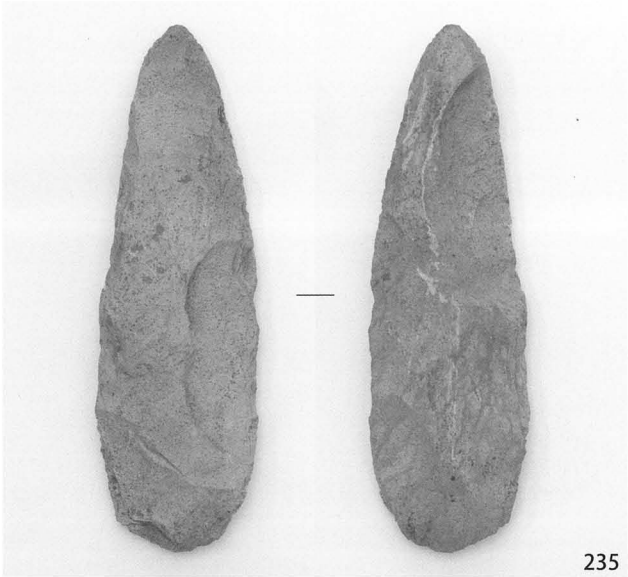


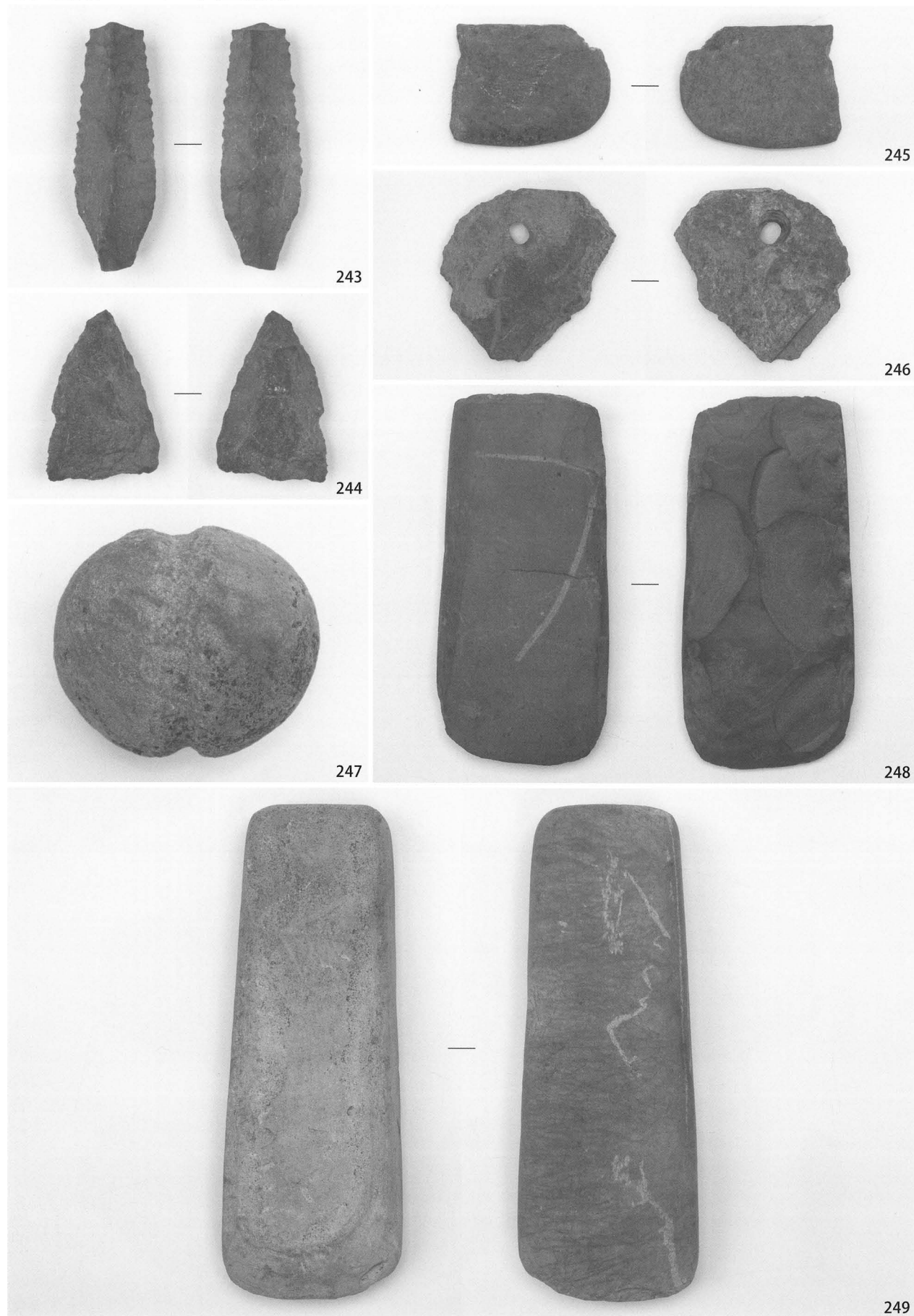
227

写真图版74 3区 出土遺物



228~232:3区 暗褐色砂層、234:3区 黄灰色砂層





243~246・248:3区 攪乱、247・249:3区 旧耕作土

報告書抄録

ふりがな	とっとりけんやずぐんやずちよう なめら・にしのまえいせき に							
書名	鳥取県八頭郡八頭町 奈免羅・西の前遺跡 II							
副書名	県道河原インター線道路改良工事に伴う発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	八頭町文化財調査報告書							
シリーズ番号	5							
編著者名	野田大和 井汲隆夫 島田裕弘 荒川和哉 浅井達也 結城香 平井利尚 パリノ・サーヴェイ株式会社							
編集機関	株式会社 島田組 鳥取営業所							
所在地	〒680-0421 鳥取県八頭郡八頭町下門尾 195-1-C101 TEL(0858)72-6131							
発行年月日	西暦 2010 年 (平成 22 年) 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
なめら・にしのまえ 奈免羅・西の前 いせきに 遺跡 II	とっとりけん 鳥取県 やずぐん 八頭郡 やずちよう 八頭町 しもの 下濃・ ふなおか 船岡 ちない 地内	31329		1 区 35° 23'52" 2 区 35° 23'48" 3 区 35° 23'47"	1 区 134° 15'18" 2 区 134° 15'11" 3 区 134° 15'02"	平成 21 年 (2009 年) 5 月 25 日～同年 10 月 30 日	1 区 425.162㎡ 2 区 1445.381㎡ 3 区 4861.375㎡ 合計 6731.918㎡	県道河原イ ンター線道 路改良工事 に伴う発掘 調査報告書
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
奈免羅・西の前 遺跡 II 1 区 2 区 3 区	耕作地 溝 耕作地 集落跡 大溝群 耕作地 集落跡 墓域	弥生・古墳 ～中世 弥生時代後 期～古墳時 代後期 弥生時代中 期中葉～後 葉・平安	溝・土坑・ピット 耕作土・石垣 大溝3基・溝 1 基 竪穴住居跡1棟 掘立柱建物跡1棟 ・布掘建物跡?1棟・ 土坑・ピット・耕作 跡 掘立柱建物跡8棟 竪穴住居跡15棟 (松菊里型住居1棟) 木棺墓4基・土坑・ ピット・耕作溝群	黒曜石剥片 弥生時代中期 壺・甕・高坏・ 器台・水指し・蓋 弥生時代石器 石鏃・石槍・石 包丁・石鍬・石斧・石錘・砥石・ 石皿・叩き石 弥生時代中期後葉 銅釧 弥生時代後期～古墳時代前期 壺・甕・高坏・器台・蓋・低脚坏・ 甕形土器・スタンプ文土器 古墳時代後期 須恵器蓋坏・ 横瓶		・八頭町最大の弥生時代 中期の集落跡 ・全国 30 例目の銅釧 (有鉤銅釧) 出土 ・木棺墓から 42 点の水 晶製小玉出土 ・弥生時代終末期の大型 溝群とそれに伴う多数 の土器群の出土 ・八東川付近産出の石材 で多彩な石器を製作し たことを確認。		

八頭町文化財調査報告書 5

鳥取県八頭郡八頭町

奈免羅・西の前遺跡Ⅱ

— 県道河原インター線道路改良工事に伴う発掘調査報告書 —

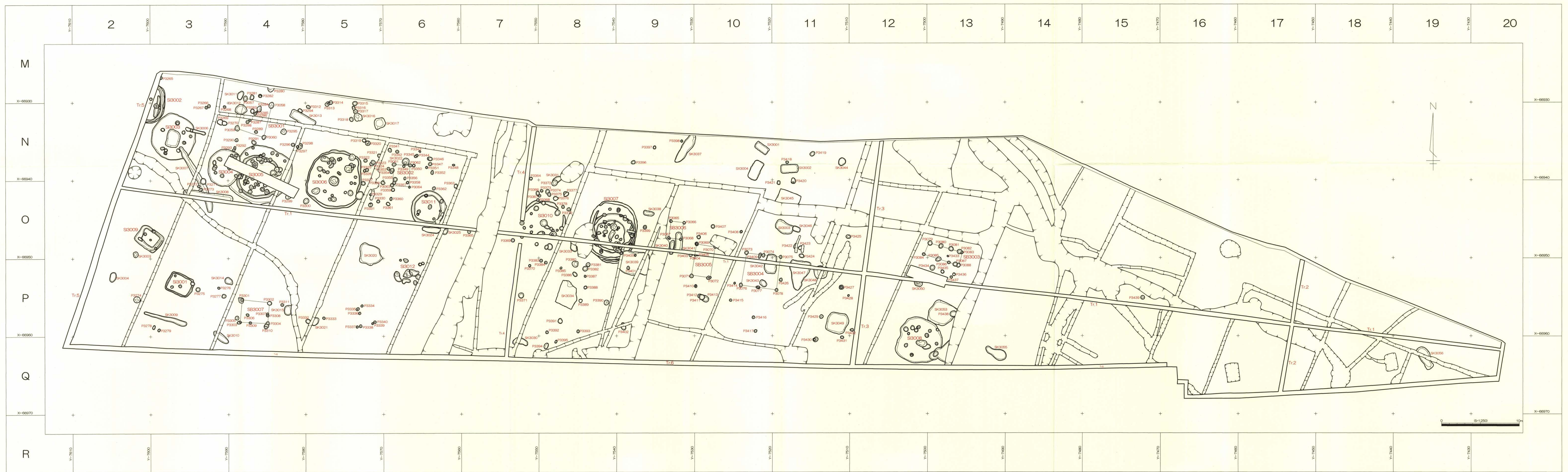
平成 22 年 3 月 印刷・発行

発行 八頭町教育委員会
株式会社島田組

印刷 勝美印刷株式会社



3区 第1面

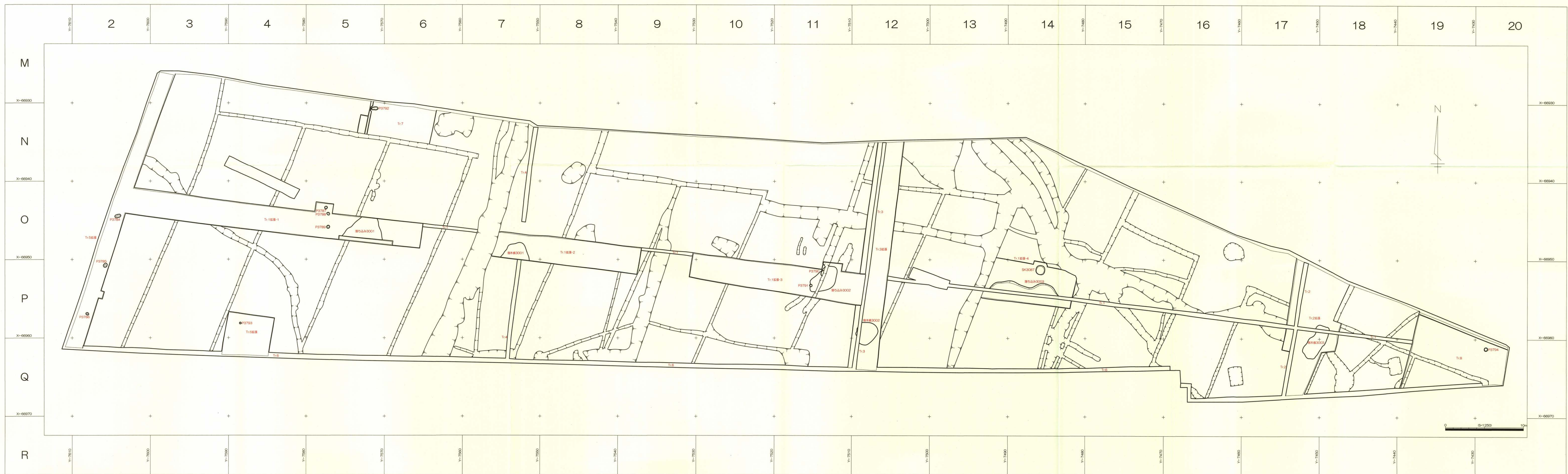


3区 第2面

付図1 奈免羅・西の前遺跡II 3区 第1面・第2面遺構配置図



3区 第3面



3区 第4面

付図2 奈面羅・西の前遺跡II 3区 第3面・第4面遺構配置図